

和歌山県
子供の生活実態調査
結果報告書

平成 31 年 3 月

和歌山県

目次

I	実態調査の概要と分析の視点	
1.	実態調査の概要	2
2.	経済状況に基づく世帯区分について	10
II	子供調査の結果	
1.	回答者の性別について	22
2.	子供の所持品について	23
3.	家族や友人について	29
4.	普段の生活について	35
5.	日常生活習慣について	65
6.	学校生活について	78
7.	普段考えていることについて	90
III	保護者調査の結果	
1.	家族の状況について	112
2.	子供の状況について	121
3.	保健・医療について	125
4.	子供との関わりについて	135
5.	暮らしの状況について	155
6.	保護者の仕事と学歴について	170
7.	子育て等の支援について	180
8.	困っていることや悩みごとについて	198
IV	支援機関調査の結果	
1.	回答者について	202
2.	「子供の貧困」に対する考えについて	206
3.	支援の経験について	209
4.	県の事業について	216
5.	県の事業等への意見（自由記述）	217
V	分析・考察	
1.	追加的な分析のための指標の作成について	228
2.	家庭の状況別に見た子供の状況について	233
3.	地域別の状況について	250
4.	ひとり親世帯の状況について	262

VI 子供の貧困対策有識者による寄稿	
「和歌山県子供の生活実態調査」の結果を概観して	268
VII まとめ	
1. 子供の教育環境	274
2. 子供の社会性	281
3. 子供の生活習慣	286
4. 保護者の状況	290
5. 今後の取組	293
VIII 参考資料	
小学5年生調査票	296
中学2年生調査票	302
保護者調査票（小学5年生・中学2年生共通）	308
支援機関調査票	316

「子供」「子ども」「こども」の表記：報告書では県計画に合わせ以下により表記することとします。

1. 一般的に使用する場合、原則「子供」と表記。
2. 「子ども・子育て支援法」や「認定こども園」など、法律等の規定で平仮名が使用されている場合、規定に基づき表記。

I 実態調査の概要と分析の視点

1. 実態調査の概要

(1) 実態調査の目的

子供の貧困対策を総合的に推進することを目的に、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」(平成25年法律第64号)が、平成26年1月17日に施行されました。この法律の中で子供の貧困対策は、「子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのない社会を実現することを旨として講ずることにより、推進されなければならない」とされています。

国の動向や子供を取り巻く状況などを踏まえ、本県においても、法の趣旨に鑑み、貧困の状況にある子供が健やかに育成される環境の整備と教育の機会均等を図るため「和歌山県子供の貧困対策推進計画」(以下「県計画」という。)を平成29年3月に策定しました。県計画では、「子供の貧困対策に関する大綱」(平成26年8月29日閣議決定。以下「大綱」という。)で「支援の緊急度が高い」とされた生活保護世帯の子供、ひとり親世帯の子供、児童養護施設に入所している子供等を中心に、本県の統計データを用いて子供の貧困に係る現状を把握し、関連する施策を貧困対策事業として整理しました。

県計画での現状と課題を踏まえたうえで、子供の生活実態や学習環境、支援制度の利用状況やニーズを把握するとともに、県計画に基づき取り組む各施策や支援制度の検証を行い、和歌山県の子供の貧困対策をより効果的に推進していくことを目的として、平成30年度に和歌山県子供の生活実態調査(以下「実態調査」という。)を実施しました。

(2) 調査対象の設定

実態調査は、子供と保護者に加え、子供の支援に関わる機関の従事者に対しても調査を実施しました。子供と保護者に対する調査を集計した結果を、支援者調査における分析により裏付けることで、必要とされる子供の支援施策を正確に導き出すためです。

実態調査の調査対象者は、和歌山県内の公立小学校(義務教育学校含む)、特別支援学校、私立小学校(各種学校含む)に在籍する小学5年生の全員と、同中学校2年生の全員、及びその保護者です。なお、県外から通学している児童・生徒は対象外としました。

調査対象学年の設定については、小学5年生は、子供が質問の趣旨を理解し回答できる高学年の中間年齢であり、中学2年生は、入学から少し間があり、保護者、子供とも比較的落ち着いた環境にある中間年齢であり、両者とも受験を控えていないため、選定しました。また、他の都道府県において先行実施した調査で、一般的に小学5年生と中学2年生が対象とされており、他県との比較を可能とするために同じ対象者としました。

また、県内個別市町村における傾向を把握するためには県全体の無作為抽出ではデータが不足するため、全数調査としました。

支援機関調査については、実態調査の対象となった児童・生徒が在籍する学校に加え、県内の幼稚園・保育所・認定こども園、市町村の子供の貧困対策担当部局、放課後児童クラブ、児童館・隣保館、社会福祉協議会、子育て地域包括支援センター等の子育て支援機関、児童養護施設等、主任児童委員、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、子供食堂や子供支援に関

わるNPO等について、県が把握する全数を対象に調査を行いました。実態調査の対象となった学校については、小学5年生と中学2年生の担任教諭及び養護教諭を対象とし、それ以外の機関・団体については「貧困状態に置かれた子供とその保護者の支援」の担当者1名を対象としています。

調査票の配付数は以下のとおりです。

■実態調査対象者数

	公立小中学校	特別支援学校	私立学校	義務教育学校	合計
小学5年生	7,481	73	75	76	7,705
中学2年生	7,139	118	525	65	7,847
合計	14,620	191	600	141	15,552

■支援機関調査対象者数

	配付数
実態調査対象校(小学5年生) ^{※1}	594
実態調査対象校(中学2年生) ^{※1}	394
特別支援学校	36
幼稚園・保育所・認定こども園	252
市町村・県振興局の子供の貧困対策担当部局 ^{※2}	152
市町村教育委員会	30
放課後児童クラブ	179
児童館・隣保館	108
社会福祉協議会	32
子育て支援機関等(子育て地域包括支援センター等)	89
児童福祉施設等(児童相談所含む)	33
主任児童委員	233
スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー	152
不登校児童生徒支援員	50
子供関連NPO法人等(子供食堂運営団体含む)	57
障害児関連施設	125
更生保護関係団体等	6
合計	2,522

(参考)和歌山県内の子供数・世帯数

和歌山県内の子供の数(人)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
0～17歳人口	218,227	199,028	176,541	158,325	145,637
総人口	1,080,435	1,069,912	1,035,969	1,002,198	963,579

和歌山県内の世帯数(世帯)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
0～17歳の子供のいる世帯数	120,377	111,332	100,801	91,014	84,056
全世帯数	365,384	379,753	383,214	392,842	391,465

出典：2表ともに平成7～27年国勢調査 人口等基本集計(総務省統計局)

※1：子供の生活実態調査対象校については、調査対象とした小学5年生と中学2年生の担任教諭及び養護教諭を対象として配付しています。

※2：市町村・県振興局の子供の貧困対策担当部局については、1部局あたり4通の調査票を配付しています。

(3) 調査票の作成、配付・回収

(3)-1 調査票の作成

調査票の設問数は、小学生票が 41 問、中学生票が 40 問、保護者票が 46 問、支援者票が 16 問です。(報告書の最後に参考資料として掲載しています。)

調査票の作成にあたっては、先行して調査を行った他府県の調査票をベースにした上で、県庁内に設置した関係課室(9 部局 23 課室)による会議での検討や県内市町村への和歌山県子供の生活実態調査説明会での検討を重ねて、基本となる調査票(案)を作成しました。その上で、子供の貧困対策に詳しい外部有識者の意見を踏まえて調査票を確定しました。((3)-3 実態調査実施の体制と調査検討経過参照)

(3)-2 調査票の配付・回収

子供票、保護者票(調査期間:平成 30 年 7 月 5 日から 7 月 30 日)

学校を通じて調査票を配付し、各家庭で子供と保護者がそれぞれ記入の後、郵送で調査票を回収しました。子供と保護者の調査票をペアにして回収し、相互に関連付けた分析ができるようにしています。回収率あるいは有効回答率が、学校回収と比較した場合、郵送回収では下がることが予想されましたが、調査内容がプライバシーに関わる重要なものであり、学校で回収する際の紛失等を考えると郵送による回収により学校の負担が軽減されたと考え、郵送での回収を採用しました。

なお、橋本市と太地町については、学校を通じた回収となっており、これら 2 市町では回収率が他の市町村と比べて高くなっていますが(後述(4)回収結果参照)、実態調査の集計では、回収方法の違いに伴う回収率の差に加重平均等の統計処理を施していません。2 市町から回収した意見数が多いため集計結果にも当然偏りが生じますが、この偏りに関しては、回答数全体のうち 2 市町の回答が占める割合が無視できる程度に微細であるため、単純和による集計を行っています。

学校によって配付後の対応に差が出ないように、調査票の配付後 1 週間ほどの時期に児童・生徒にお礼状を配付してもらうことで未提出世帯の提出を促しました。なお、橋本市、太地町については、学校回収のため、お礼状の配付は行っていません。

また、子供票及び保護者票の双方に「ルビ(ふりがな)」を付すとともに、点字の調査票や英語・中国語・ハングル語に翻訳した調査票を用意することで、できる限り多くの人に回答してもらいやすいよう配慮しました。

支援者票(調査期間:平成 30 年 7 月 12 日から 8 月 3 日)

支援機関対象調査については、関係機関・団体宛てに郵送によって調査票を配付し、郵送による回収を行いました。

(3) -3 実態調査実施の体制と調査検討経過

調査票の作成、配付・回収方法の選定、結果分析、その他実態調査の実施方法については、県庁内に設置した関係課室（9部局23課室）による会議での検討や、県内市町村に対する和歌山県子供の生活実態調査説明会で意見を集約し、外部の有識者（下表参照）による意見も反映させ確定しました。報告書についても、関係課室や有識者の意見を参考にし、作成しました。

なお、外部の有識者に意見を求めるのは、教育、福祉、調査分析の各専門分野の知見により、県及び市町村が実施主体となる施策の検証をすること及び結果の中立性を確保することが目的です。

有識者一覧

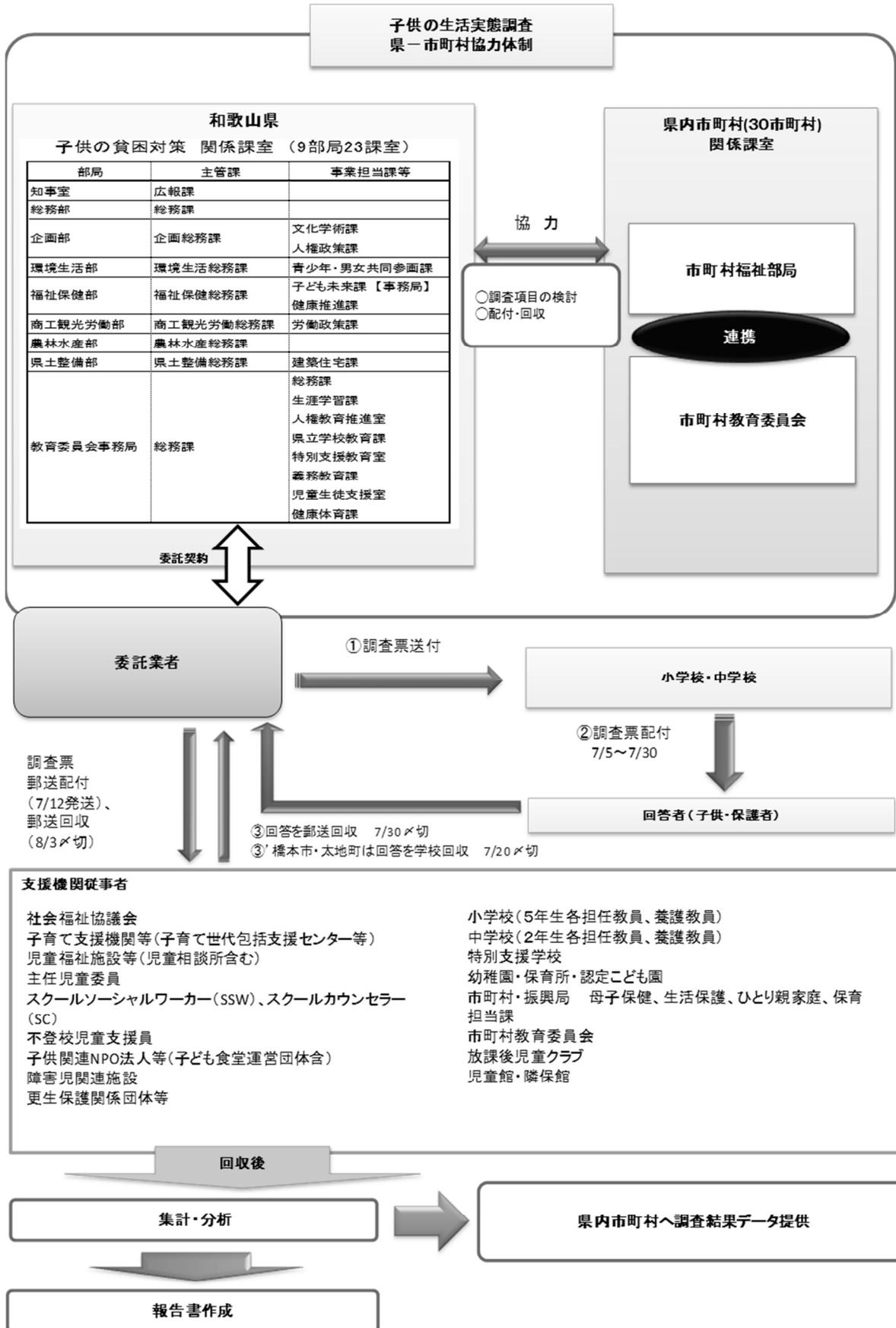
（五十音順 敬称略）

分野	氏名	所属等
教育関係者	亀位 直規	和歌山県連合小学校長会長 和歌山市立今福小学校長
学識経験者	越野 章史	和歌山大学教育学部准教授 和歌山県子供の貧困対策に関する有識者会議有識者
調査分析専門	谷道 正太郎	総務省統計局・独立行政法人統計センター 統計データ利活用センター長
福祉関係者	森下 宣明	和歌山乳児院施設長、全国乳児福祉協議会副会長 厚生労働省社会保障審議会（児童部会）社会的養護専門委員会委員 和歌山県子供の貧困対策に関する有識者会議有識者

※有識者の一人である和歌山大学教育学部・越野章史准教授による寄稿を、実態調査の分析結果に対する意見として、「VI 子供の貧困対策有識者による寄稿」に掲載しています。

本県の分析結果は、県内各市町村の施策検討の素材として県内30市町村に情報提供します。また、以下に、実態調査実施体制の概念図と調査経過を時系列で記載しています。

実態調査実施体制



委託業者

① 調査票送付

小学校・中学校

② 調査票配付
7/5~7/30

回答者(子供・保護者)

③ 回答を郵送回収 7/30×切

③' 橋本市・太地町は回答を学校回収 7/20×切

調査票
郵送配付
(7/12発送)、
郵送回収
(8/3×切)

支援機関従事者

社会福祉協議会
子育て支援機関等(子育て世代包括支援センター等)
児童福祉施設等(児童相談所含む)
主任児童委員
スクールソーシャルワーカー(SSW)、スクールカウンセラー(SC)
不登校児童支援員
子供関連NPO法人等(子ども食堂運営団体含)
障害児関連施設
更生保護関係団体等

小学校(5年生各担任教員、養護教員)
中学校(2年生各担任教員、養護教員)
特別支援学校
幼稚園・保育所・認定こども園
市町村・振興局 母子保健、生活保護、ひとり親家庭、保育担当課
市町村教育委員会
放課後児童クラブ
児童館・隣保館

回収後

集計・分析

報告書作成

→

県内市町村へ調査結果データ提供

実態調査経過

- 平成 29 年 5 月 29 日 H29 庁内会議（第 1 回）
➤実態調査概要、実施スケジュール
- 平成 29 年 11 月 28 日 H29 庁内会議（第 2 回）
➤実態調査の調査票（子ども未来課案）の提示、調査票に対する意見照会
➤平成 29 年 12 月 7 日ㄨ 実態調査の意見集約
- 平成 29 年 12 月 20 日 市町村説明会
➤実態調査の概要説明、実態調査の調査票（庁内 23 課室案）の提示、
調査票に対する意見照会
➤平成 30 年 1 月 19 日ㄨ 実態調査の市町村意見集約
- 平成 30 年 2 月 15 日 第 2 回市町村教育委員会教育長会議 ➤調査概要説明
- 平成 30 年 4 月 25 日 和歌山県私立中学高等学校協会
平成 30 年度第 1 回理事会 ➤調査概要説明
- 平成 30 年 4 月 27 日 平成 30 年度隣保館連絡協議会総会 ➤調査概要説明
- 平成 30 年 4 月 27 日 平成 30 年度市町村民児協事務担当者会議 ➤調査概要説明
- 平成 30 年 5 月 8 日 平成 30 年度第 1 回県立学校教頭会 ➤調査概要説明
- 平成 30 年 5 月 8 日 平成 30 年度第 1 回特別支援学校教頭会 ➤調査概要説明
- 平成 30 年 5 月 1 日～5 月 18 日 実態調査にかかる有識者の意見集約
➤調査票（案）へ有識者の意見を反映
- 平成 30 年 5 月 24 日 平成 30 年度和歌山県児童館連絡協議会総会及び研修会 ➤調査概要説明
- 平成 30 年 5 月 25 日 平成 30 年度第 1 回民生児童委員代議員会 ➤調査概要説明
- 平成 30 年 5 月 28 日 H30 庁内会議（第 1 回）
➤調査票の提示、実態調査後のスケジュール
- 平成 30 年 6 月 18 日 市町村説明会
➤調査票の提示、調査票発送から回収、分析等実態調査のスケジュール
- 平成 30 年 10 月 11 日 H30 庁内会議（第 2 回）
➤実態調査分析結果の中間報告、子供の貧困対策 72 事業の検証について
- 平成 30 年 11 月 12 日 H30 庁内会議（第 3 回）
➤実態調査分析結果の報告、子供の貧困対策 72 事業の検証について
- 平成 30 年 11 月 30 日 調査報告書（案）にかかる有識者の意見集約
- 平成 31 年 3 月 調査報告書の公表

(4) 回収結果

調査票の回収結果は以下のとおりです。子供と保護者で有効回収数が異なるのは、一部子供のみ、あるいは保護者のみの回収があったためです。

■実態調査回収結果

	対象	配付数	有効回収数	有効回収率
小学5年生調査	児童	7,705	3,768	48.9%
	保護者		3,772	49.0%
中学2年生調査	生徒	7,847	3,215	41.0%
	保護者		3,224	41.1%
合計	児童生徒	15,552	6,983	44.9%
	保護者		6,996	45.0%

■支援機関調査回収結果

	配付数	有効回収数	有効回収率
支援機関調査	2,522	1,782	70.7%

■実態調査市町村別回収結果（私立学校の配付数は所在地市町村の配付数として算定）

市町村名	小学5年生					中学2年生				
	配付数	児童		保護者		配付数	生徒		保護者	
		有効回収数	有効回収率(%)	有効回収数	有効回収率(%)		有効回収数	有効回収率(%)	有効回収数	有効回収率(%)
和歌山市	3,035	1,281	42.2	1,268	41.8	3,189	1,026	32.2	1,023	32.1
海南市	362	191	52.8	191	52.8	354	210	59.3	210	59.3
橋本市	470	463	98.5	463	98.5	484	389	80.4	388	80.2
有田市	193	114	59.1	114	59.1	225	109	48.4	109	48.4
御坊市	186	85	45.7	85	45.7	207	101	48.8	101	48.8
田辺市	596	282	47.3	280	47.0	637	253	39.7	253	39.7
新宮市	223	108	48.4	108	48.4	253	69	27.3	66	26.1
紀の川市	511	239	46.8	239	46.8	450	156	34.7	156	34.7
岩出市	504	197	39.1	196	38.9	502	145	28.9	145	28.9
紀美野町	43	20	46.5	20	46.5	35	17	48.6	17	48.6
かつらぎ町	122	61	50.0	61	50.0	105	65	61.9	65	61.9
九度山町	26	14	53.8	14	53.8	22	15	68.2	15	68.2
高野町	11	3	27.3	3	27.3	14	6	42.9	6	42.9
湯浅町	90	35	38.9	35	38.9	95	41	43.2	41	43.2
広川町	75	33	44.0	33	44.0	65	28	43.1	28	43.1
有田川町	218	107	49.1	107	49.1	235	94	40.0	94	40.0
美浜町	51	19	37.3	19	37.3	62	24	38.7	24	38.7
日高町	95	47	49.5	47	49.5	76	24	31.6	24	31.6
由良町	54	29	53.7	29	53.7	35	25	71.4	25	71.4
印南町	68	38	55.9	38	55.9	67	51	76.1	51	76.1
みなべ町	103	61	59.2	59	57.3	116	50	43.1	48	41.4
日高川町	69	38	55.1	38	55.1	114	60	52.6	60	52.6
白浜町	170	72	42.4	71	41.8	133	63	47.4	63	47.4
上富田町	160	71	44.4	70	43.8	143	62	43.4	62	43.4
すさみ町	25	13	52.0	13	52.0	22	18	81.8	18	81.8
那智勝浦町	94	48	51.1	48	51.1	98	39	39.8	39	39.8
太地町	16	16	100.0	16	100.0	21	20	95.2	20	95.2
古座川町	14	9	64.3	9	64.3	23	7	30.4	7	30.4
北山村	3	1	33.3	1	33.3	0	0	-	0	-
串本町	118	62	52.5	62	52.5	65	31	47.7	31	47.7
県外	-	6	-	5	-	-	16	-	16	-
無回答	-	5	-	30	-	-	1	-	19	-
計	7,705	3,768	48.9	3,772	49.0	7,847	3,215	41.0	3,224	41.1

※橋本市、太地町は学校で調査票を回収

(5) 報告書の記述について

報告書の記述において、「差がある」とは、概ね 10%ポイント以上の差がある場合に用いており、それ以下の差であっても意味がある差であると考えられる場合には、「やや差がある」といった表現を用いています。ここでいう「意味がある差」とは、基本的に統計的に有意であることを意味しますが、一部では統計的に有意とは言えない差であっても、他の質問の回答状況や、実態調査の目的に照らして、無視できない結果が示されていると判断した場合には、同様の表現を用いている場合があります。

※参考：統計的有意の考え方について

子供調査問3-Cの小学5年生の結果を例にとると、得られた調査結果には世帯区分によってある程度の偏りが見られます（下図参照）。ここで、実際には世帯区分による偏りが無いにもかかわらず、偶然このような偏りが結果として出てくる可能性がどの程度あるかに基づいて、統計的な判定を行うのが「統計的有意」という考え方です。

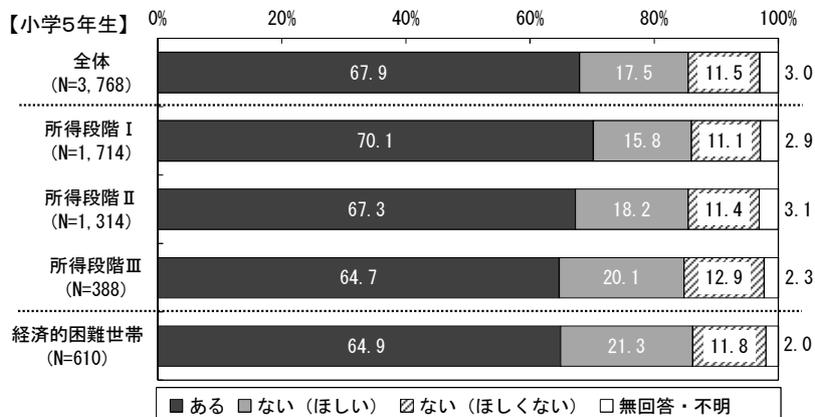
この例では、仮に偏りが無いと仮定すると、全体の分布と各世帯区分の分布が等しくなるため、無回答・不明を除いた予想される回答分布は、「期待値」の数値（イタリック）になると考えられます（下表参照）。ここで、カイ二乗検定という手法で、調査結果（実測値）と期待値を比較し、偏りが無いと仮定した場合に実測値のような結果が得られる確率を計算すると、4.2%となります。これは一般に用いられる有意水準の5%を下回っており、偶然このような結果になる確率が十分低いと考えられるため、この偏りは偶然ではない、つまり統計的に有意である、と判定されます。

■問3 あなたには、次のものの中に自分が使うことができるものはありますか。

【(自宅)インターネットにつながるパソコンやタブレット】

(件)

世帯区分		合計	ある	ない(ほしい)	ない(ほしくない)	無回答・不明
全体		3,768	2,560	661	435	112
実測値	所得段階Ⅰ	1,714	1,202	271	191	50
	所得段階Ⅱ	1,314	884	239	150	41
	所得段階Ⅲ	388	251	78	50	9
	経済的困難世帯	610	396	130	72	12
期待値	所得段階Ⅰ	1,664	<i>1,165</i>	<i>301</i>	<i>198</i>	-
	所得段階Ⅱ	1,273	<i>891</i>	<i>230</i>	<i>151</i>	-
	所得段階Ⅲ	379	<i>265</i>	<i>69</i>	<i>45</i>	-
	経済的困難世帯	598	<i>419</i>	<i>108</i>	<i>71</i>	-



2. 経済状況に基づく世帯区分について

実態調査の主な目的は、家庭の経済状況が子供や家族の生活にどのような影響を及ぼしているかを示し、効果的な支援を行う上での課題を明らかにすることです。そこで、報告書の全体を通じ、回答者を世帯の経済状況に基づいて次のように区分し、それぞれの回答結果を示すことで、世帯の経済状況別に見た回答状況を把握することを基本とします。

(1) 所得に基づく分類

(1) - 1 子供の貧困率とは

内閣府の大綱では子供の貧困を示す指標の1つとして、国民生活基礎調査における「相対的貧困率」を採用しています。貧困を定義づける際、あるいは貧困層が日本に何人いるのかといった統計上の議論をする際、OECD（経済協力開発機構）の基準である「世帯人数を考慮した可処分所得*1（等価可処分所得）が貧困線*2に満たない世帯に属する人の割合」を用いて説明されることが多く、子供の貧困について議論する際も同様です。

※1 可処分所得：収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入。国民生活基礎調査での所得は調査時点の前年1年間（1～12月）を集計。

※2 貧困線：等価可処分所得の中央値（データを小さい順に並べたとき中央に位置する値）の半分の額。

ここで、世帯人数を考慮するため、世帯の可処分所得を世帯人数の平方根で割ります。これを等価可処分所得といいます。1人当たりの可処分所得を求める際、単に世帯人数で割るのではなく、世帯人数の平方根で割るのは、生活に必要なものは世帯で共有できることが多く、世帯人数が多いほど家賃や光熱費などが経済的になることを織り込むためです。

例) 年収 200 万円の単身世帯の等価可処分所得は、 $200 \text{ 万円} / \sqrt{1} = 200 \text{ 万円}$ 。

年収 400 万円の4人世帯の等価可処分所得も $400 \text{ 万円} / \sqrt{4} = 200 \text{ 万円}$ で同じとなります。

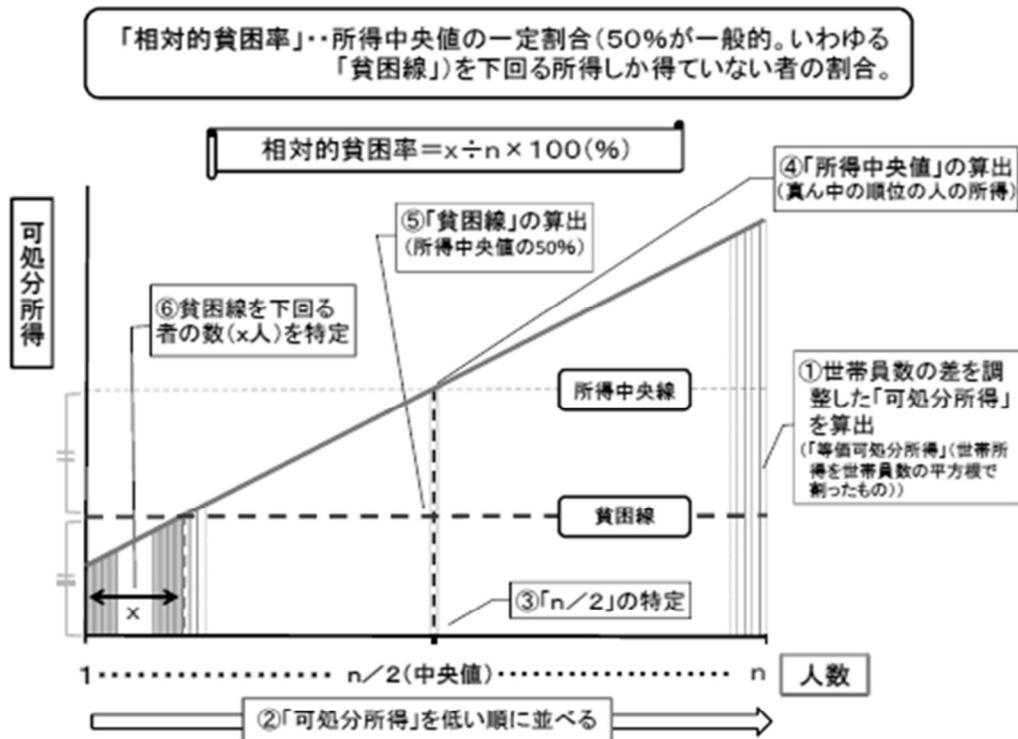
相対的貧困率とは、貧困線を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合をいいます。また、子供の貧困率とは、子供全体に占める等価可処分所得が貧困線に満たない子供の割合をいいます。

		貧困線を下回る所得の世帯人員数	
相対的貧困率 (%)	=	$\frac{\text{貧困線を下回る所得の世帯人員数}}{\text{全ての世帯人員数}}$	× 100
		全ての世帯人員数	
		貧困線を下回る所得の 17 歳以下の世帯人員数	
子供の貧困率 (%)	=	$\frac{\text{貧困線を下回る所得の 17 歳以下の世帯人員数}}{\text{17 歳以下の全ての世帯人員数}}$	× 100
		17 歳以下の全ての世帯人員数	

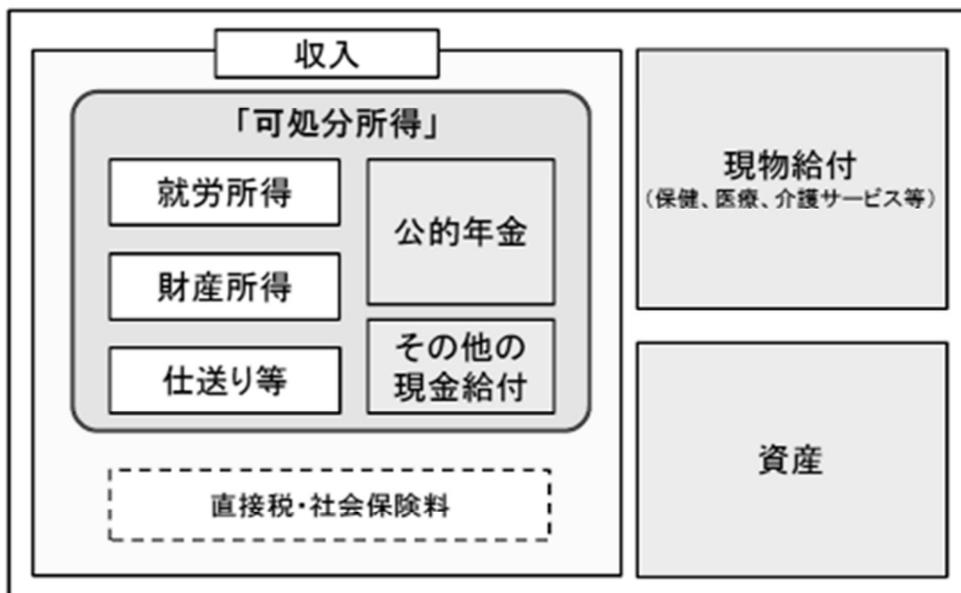
平成 28 年の国民生活基礎調査における貧困線は 122 万円、子供の貧困率は 13.9%（ともに全国値）となっており、日本では貧困線を下回る子供を「貧困状態にある」としています。

しかしながら、例えば、等価可処分所得だけで「貧困」であるとされた世帯においても、賃貸住宅で生活している世帯と、持ち家がある世帯では、前者の方が生活困窮していると考えられます。このような場合、より生活の実態を反映した分析が必要となります。実態調査では、所得段階とは別に分析軸を設定しました（後述「(2) 家庭の経済的困難の状況に注目した分析」）。

参考図：国民生活基礎調査（貧困率） ※厚生労働省ホームページより引用



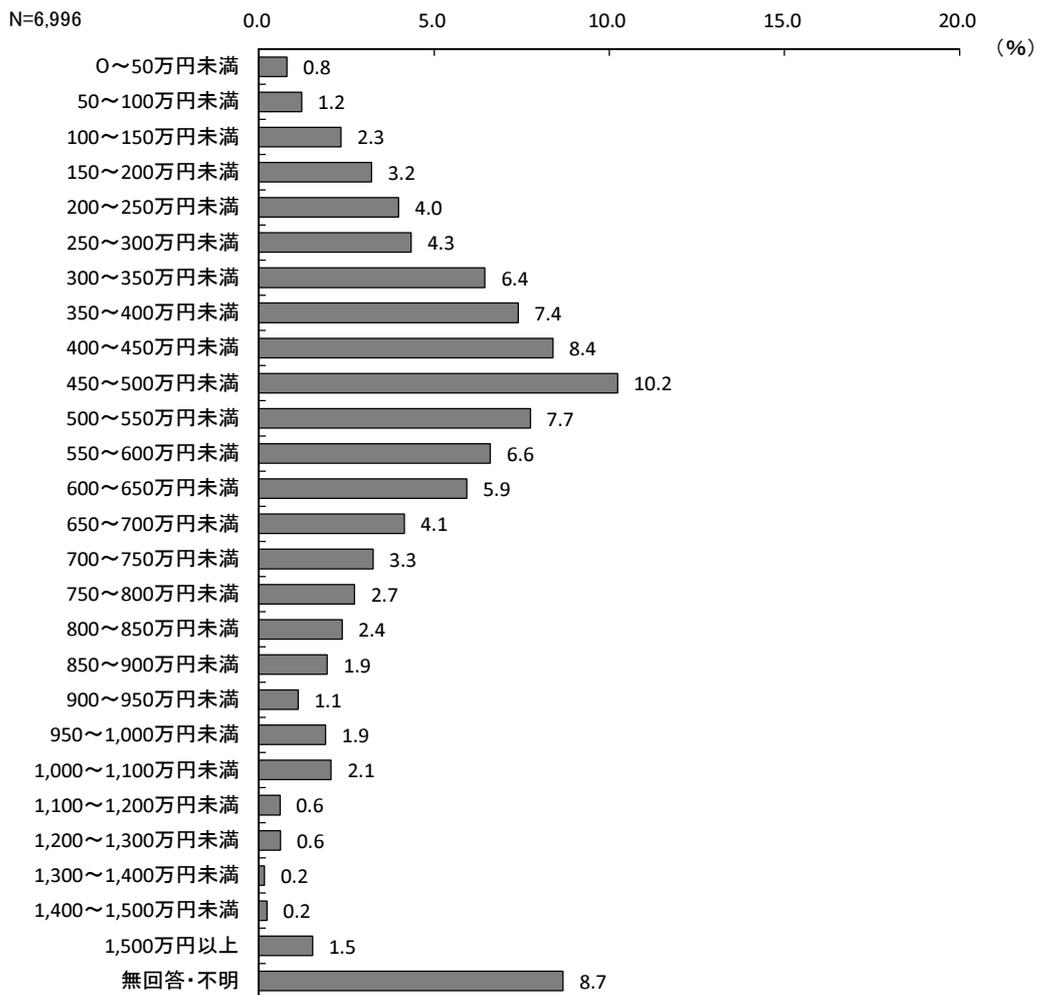
相対的貧困率の算出に当たって用いる「可処分所得」には、以下のものが含まれる。 ※「資産」の多寡については考慮していない。



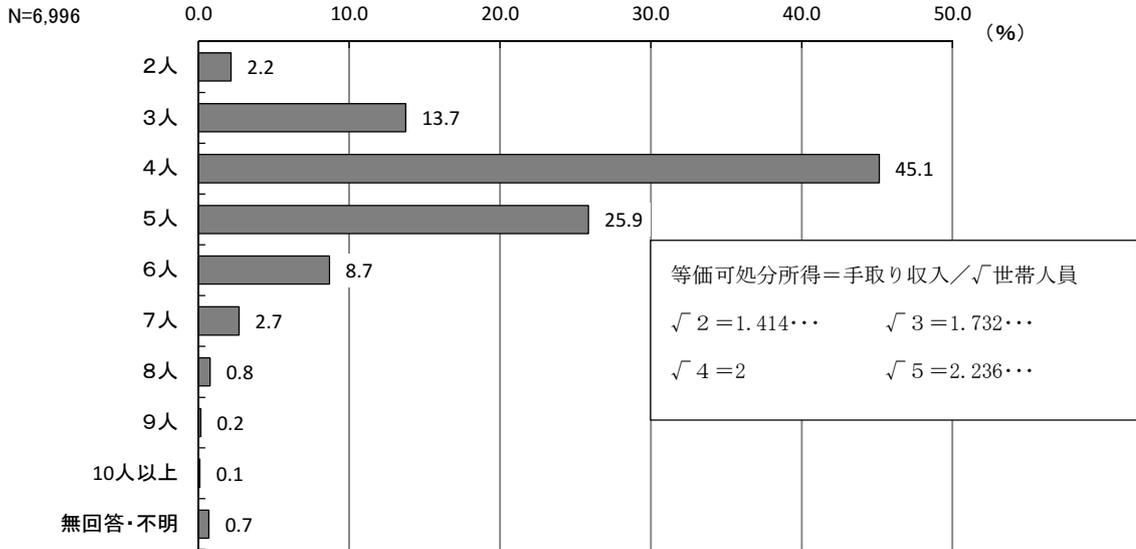
(1) - 2 和歌山県の子供の貧困率について

実態調査では、調査票各設問を分類する基本軸の設定、及び和歌山県の子供の貧困率を算出することを目的として、保護者調査で世帯収入（年間の手取り収入）と世帯人員を質問し、等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で除した値）を算出しました。小学5年生と中学2年生の保護者調査において、世帯収入と世帯人員の分布は以下のようになっています。

■保護者票問 32 前年（2017年）のあなたの世帯の家族全員の収入の合計額（いわゆる手取り収入）は、およそいくらでしたか。

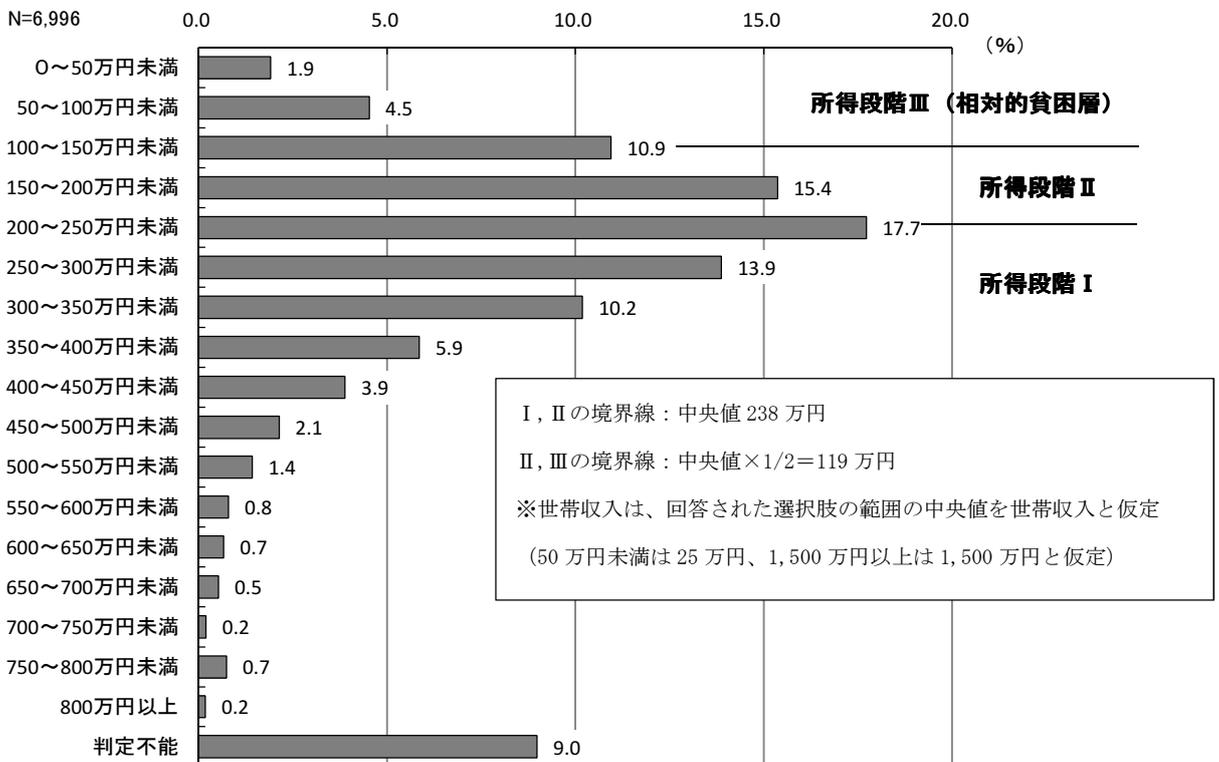


■保護者票問5 あなたの家族は何人家族ですか。単身赴任や入院・入所の方、大学等で下宿
 して仕送りをしている子供など家計と一緒にしている人はすべて含めて教えてください。



世帯収入については、当てはまる範囲を選択肢で尋ねているため、回答された選択肢の範囲の中央値を世帯収入と仮定（50万円未満は25万円、1,500万円以上は1,500万円と仮定）します。世帯収入を、世帯人員の平方根で除した数値が、世帯人員1人当たりの「等価可処分所得」となります。等価可処分所得の分布は以下の通りです。

■等価可処分所得の分布



実態調査結果における子育て世帯の等価可処分所得の中央値を算出し、中央値と、中央値の2分の1を区分線として所得段階を分類すると、以下のようになります。

■所得段階別の分布

	所得の範囲	件数	%	% (除判定不能)
所得段階Ⅰ (中央値以上)	238 万以上	3,264	46.7	51.3
所得段階Ⅱ (中央値の2分の1以上)	119～238 万未満	2,367	33.8	37.2
所得段階Ⅲ (中央値の2分の1未満)	119 万未満	736	10.5	11.6
判定不能	—	629	9.0	—

$$\begin{aligned} & \text{県内の小学5年生と中学2年生の所得段階Ⅲの子供数} \div \text{県内の小学5年生と中学2年生の子供数} \\ & = 736 \div (3,264 + 2,367 + 736) \\ & = 11.6\% \end{aligned}$$

(1) - 3 国民生活基礎調査における子供の貧困率 (全国値) との比較

実態調査は、特定の学年 (小学5年生、中学2年生) の子供を持つ子育て世帯のみを対象としていること、可処分所得の範囲を提示し集計していること等、国民生活基礎調査とは調査対象者、調査方法が異なるため^{※1} 両者を単純に比較することはできません。

参考までに、仮に平成28年の国民生活基礎調査における貧困線122万を採用した場合、相対的貧困世帯は736件、子供の貧困率は11.6%^{※2} (判定不能世帯を除く) となります。

※1 厚生労働省が実施する国民生活基礎調査は、統計法に基づく基幹統計で調査員を対象世帯に派遣して行われます。平成28年の調査では、全国から無作為抽出され約2,000単位区内の全ての世帯 (約3万世帯) 及び世帯員 (約8万人) を調査対象としており、そこから子供がいる世帯の状況を都道府県単位で算出するには正確さに欠けるため、都道府県単位での子供の貧困率は算出されていません。

※2 参考: 平成28年国民生活基礎調査における子供の貧困率は13.9% (全国値)。また県の貧困率は上記の「所得段階Ⅲ」と同じ数値ですが、これは実態調査結果における等価可処分所得の分布において、119万円 (実態調査における中央値の2分の1) から122万円間のサンプルがなかったためです。

(2) 家庭の経済的困難の状況に注目した分析

前述(1)等価可処分所得による所得段階と世帯の生活水準は概ね相関があると予測できますが、世帯内の子供の生活水準は必ずしも世帯の生活水準と一致しません。例えば世帯全体の生活水準が低くても保護者が子供の生活水準を維持しようと努めた場合、世帯の生活水準に比べて子供の生活水準は低くないことが予想できます。このように所得の多寡だけでは生活困窮の度合いを区分できているとは言えません。

また、回答者の負担や回収率への影響を考慮し、50万～100万円といった幅のある数値で、可処分所得を質問をしています(保護者票問32)。このため、国民生活基礎調査から算出された等価可処分所得と同じ精度の数値は得られていません。

以上2点の理由から実態調査において、世帯の所得とは違う観点から、より生活状況に密接した分析の基本となる軸を設定することとしました。

所得段階とは別に、①生活必需品の購入困難経験、②料金等の支払い困難経験、③生活必需品の非所有、の3つの観点から、家庭の経済的困難の実情を反映した世帯類型を設定します。

①生活必需品の購入困難経験

経済的な理由で、生活に必要な食料または衣料を購入できなかった経験(保護者票問28・29)が、「よくあった」「ときどきあった」世帯を「生活必需品の購入困難経験あり」とします。

問28 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

1 よくあった	2 ときどきあった	3 まれにあった	4 まったくなかった
---------	-----------	----------	------------

問29 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類を買えないことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

1 よくあった	2 ときどきあった	3 まれにあった	4 まったくなかった
---------	-----------	----------	------------

生活必需品の購入困難の状況は以下のとおりです。

■生活必需品の購入困難経験

	件数	%	%(除判定不能)
購入困難経験あり	309	4.4	4.5
購入困難経験なし	6,601	94.4	95.5
判定不能	86	1.2	—

*判定不能は、当該の質問のいずれかに無回答があり、「なし」と判断できないものです。

②料金等の支払い困難経験

一般的な生活を送る上で支払う必要がある料金等について、以下8項目のいずれか1つ以上を経済的な理由で支払えないことがあった世帯を「料金等の支払い困難経験あり」とします（保護者票問30）。

問30 過去1年の間に、経済的な理由で、以下の料金について、支払えないことがありましたか。どれもあてはまらない場合は、「9 あてはまるものはない」に○をつけてください。（あてはまる番号すべてに○）

1 電気料金	4 電話料金	7 公的年金, 健康保険料
2 ガス料金	5 家賃	8 子供の学校で必要なお金
3 水道料金	6 税金	9 あてはまるものはない

料金等の支払い困難の状況は以下のとおりです。

■料金等の支払い困難経験

	件数	%	% (除判定不能)
支払い困難経験あり	554	7.9	8.1
支払い困難経験なし	6,326	90.4	91.9
判定不能	116	1.7	-

※判定不能は、当該の質問のいずれかに無回答があり、「なし」と判断できないものです。

③生活必需品の非所有

以下1～13までの13項目について、いずれか1つ以上がないと回答したものを「生活必需品の非所有」とします。一般的な生活を送る上で、通常所有しているものについて、経済的な理由で所有していない世帯の状況（保護者票問31）は、以下のとおりです。

なお、パソコンと新聞の定期購読については、必ずしも生活必需品としてみなすことができないと考えられるため、非所有物の対象から除外しています。

問31 次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。どれもあてはまらない場合は、「16 あてはまるものはない」に○をつけてください。（あてはまる番号すべてに○）

1 子供の年齢に合った本	9 電子レンジ
2 子供用のスポーツ用品・おもちゃ	10 電話(固定電話・携帯電話のどちらか)
3 子供が自宅で宿題をすることができる場所	11 世帯専用のおふろ
4 洗濯機	12 世帯人数分のベッドまたは布団
5 炊飯器	13 急な出費のための貯金(5万円以上)
6 掃除機	14 パソコン(タブレット含む)
7 暖房機器(エアコンを含む)	15 新聞の定期購読(インターネット含む)
8 冷房機器(エアコンを含む)	16 あてはまるものはない

■生活必需品の非所有

	件数	%	%(除判定不能)
非所有あり	893	12.8	13.3
非所有なし	5,841	83.5	86.7
判定不能	262	3.7	-

※判定不能は、当該の質問のいずれかに無回答があり、「なし」と判断できないものです。

④経済的困難世帯

上記の3つ（生活必需品の購入困難経験、料金等の支払い困難経験、生活必需品の非所有）のいずれか1つ以上が「あり」に該当する回答を「経済的困難世帯」と定義します。経済的困難世帯の状況は、以下のとおりです。

■経済的困難世帯

	件数	%	% (除判定不能)
経済的困難世帯	1,168	16.7	17.4
非困難世帯	5,548	79.3	82.6
判定不能	280	4.0	-

※判定不能は、いずれかの指標に関連する質問に無回答があり、「非困難世帯」と判断できないものです。

なお、所得段階と経済的困難世帯との関係については、以下のとおりとなっています。最も経済的困難世帯の割合が高いのは所得段階Ⅲですが、所得段階Ⅰ及びⅡに経済的困難世帯が一定数含まれており、所得段階と経済的困難世帯が必ずしも一致していません。

■所得段階別に見た経済的困難世帯の割合

	経済的困難世帯		非困難世帯		経済的困難判定不能	
	件数	%	件数	%	件数	%
所得段階Ⅰ	186	5.7	2,970	91.0	108	3.3
所得段階Ⅱ	531	22.4	1,785	75.4	51	2.2
所得段階Ⅲ	373	50.7	346	47.0	17	2.3
所得段階判定不能	78	12.4	447	71.1	104	16.5
合計	1,168	16.7	5,548	79.3	280	4.0
		17.4		82.6		-

※判定不能は、いずれかの指標に関連する質問に無回答があり、「非困難世帯」と判断できないものです。

$$(参考) 17.4\% = 1,168 / (1,168 + 5,548) \times 100$$

(3) 実態調査の基本的な分析軸

結果報告においては、ここまでに示した等価可処分所得に基づく所得段階による分類に加え、経済的困難世帯を設定し、報告書の全体を通じて、それぞれの調査結果を示します。また、小学5年生と中学2年生では、回答の状況が異なることから、子供調査、保護者調査ともに、学年別に調査結果を示します。

子供調査と保護者調査では回収数が異なる（一部に子供のみ、保護者のみの回収がある）ため、それぞれの世帯区分別の件数と割合を以下に示します。

■基本的な分析軸となる世帯区分別の件数【子供調査】

	所得・経済状況	全体	小学5年生	中学2年生
所得段階Ⅰ	等価可処分所得が全体の中央値以上の世帯	3,248	1,714	1,534
所得段階Ⅱ	等価可処分所得が中央値未満、中央値の2分の1以上の世帯	2,346	1,314	1,032
所得段階Ⅲ	等価可処分所得が中央値の2分の1未満の世帯	730	388	342
経済的困難世帯	生活必需品の購入困難、料金等の支払い困難、生活必需品の非所有のいずれかに該当する世帯	(1,160)	(610)	(550)
全体	世帯区分ができなかった世帯を含む全数	6,983	3,768	3,215

■基本的な分析軸となる世帯区分別の件数【保護者調査】

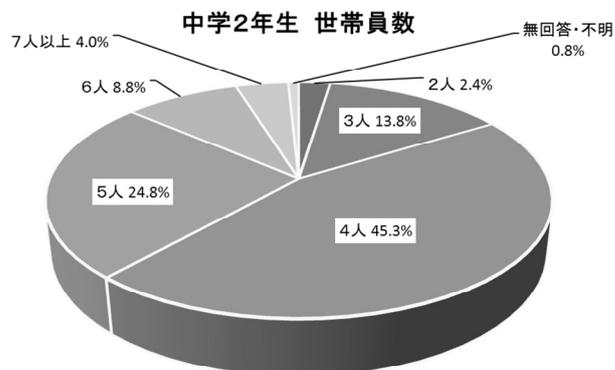
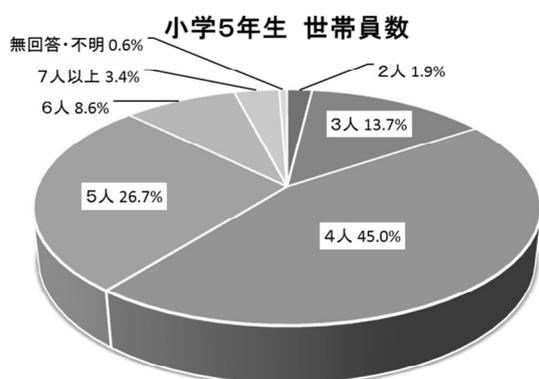
	所得・経済状況	全体	小学5年生	中学2年生
所得段階Ⅰ	等価可処分所得が全体の中央値以上の世帯	3,264	1,724	1,540
所得段階Ⅱ	等価可処分所得が中央値未満、中央値の2分の1以上の世帯	2,367	1,326	1,041
所得段階Ⅲ	等価可処分所得が中央値の2分の1未満の世帯	736	392	344
経済的困難世帯	生活必需品の購入困難、料金等の支払い困難、生活必需品の非所有のいずれかに該当する世帯	(1,168)	(616)	(552)
全体	世帯区分ができなかった世帯を含む全数	6,996	3,772	3,224

※所得段階Ⅰ～Ⅲのいずれかと経済的困難世帯の両方にカウントされている世帯があることや、全体の件数には無回答があるために世帯区分ができなかった世帯を含んでいるため、各世帯区分の合計は全体の件数と一致しません（以下同様）。

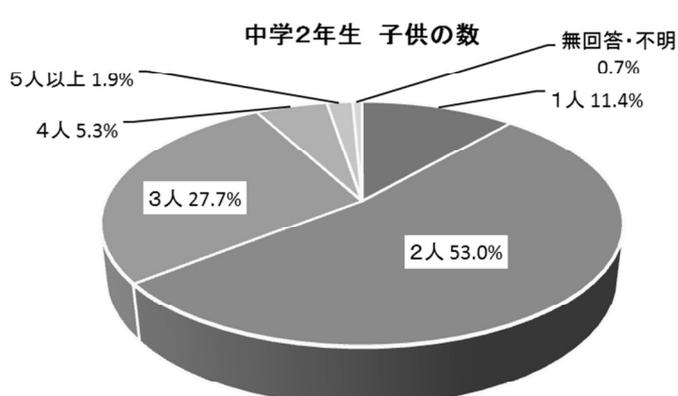
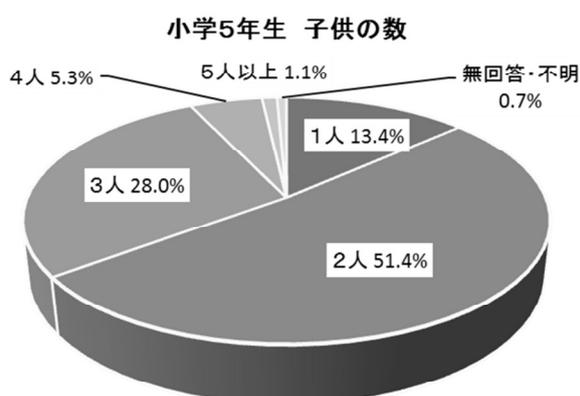
(4) 回答者の属性

調査回答者の生活状況の基本となる家族構成、子供の数については、以下のとおりです。

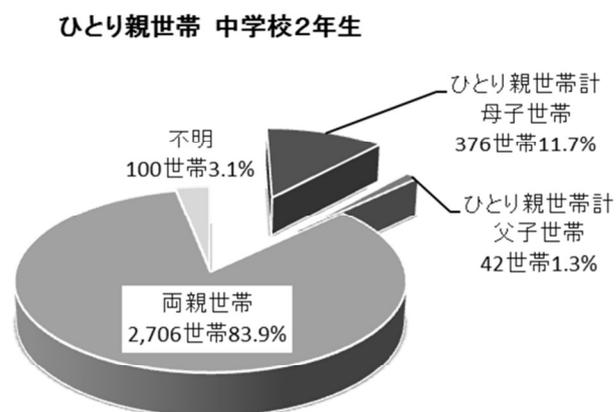
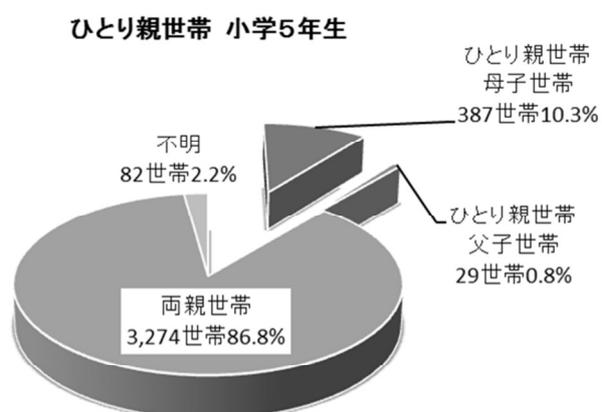
■世帯員の数（家族構成）（保護者票問5）



■世帯員のうち子供の数（保護者票問6）



■ひとり親世帯の割合（保護者票問4, 7）



II 子供調査の結果

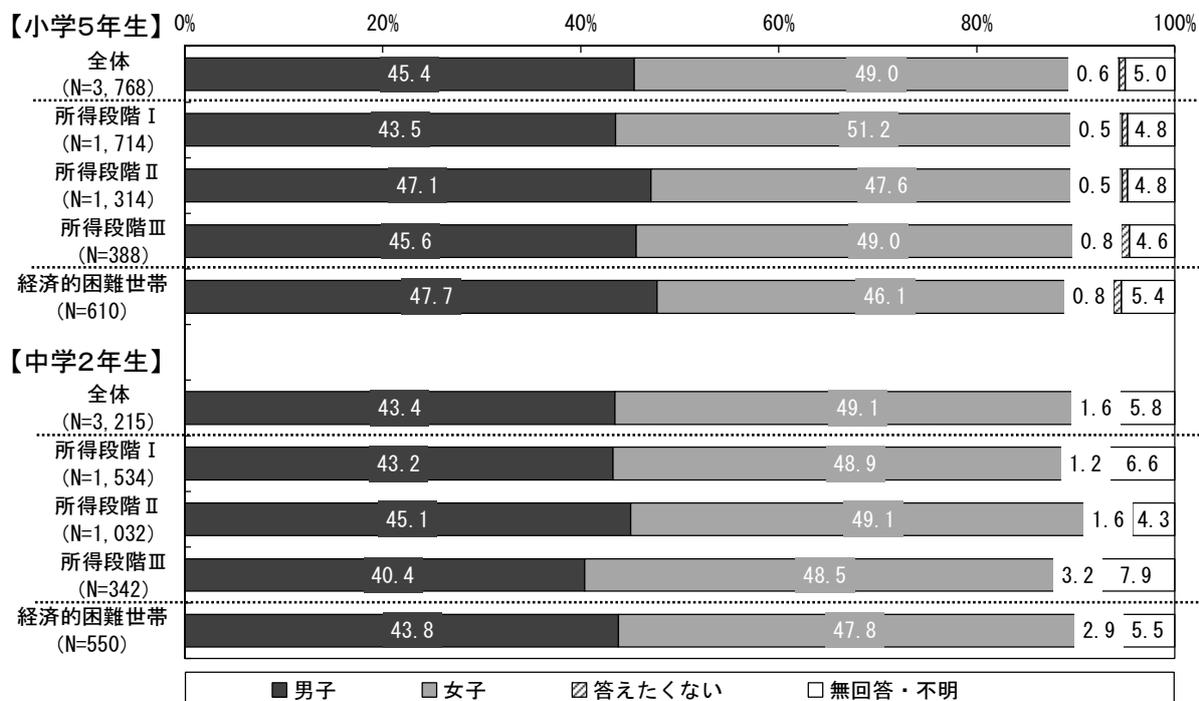
(II～IV調査結果の見方)

- ◆グラフ中の集計値はすべて%表示です。四捨五入により小数点以下第1位までの表示としており、見かけの合計値が100%にならない場合があります。
- ◆標本数（回答者数）はグラフ左側に「N=」と表示しています。それ以外の数値は回答比率の百分率（%）です。表示が煩雑になるため、グラフ中の単位表示は省略しています。

1. 回答者の性別について

回答者の性別については、いずれの学年もやや女子が多くなっています。

問1 あなたの性別を教えてください。

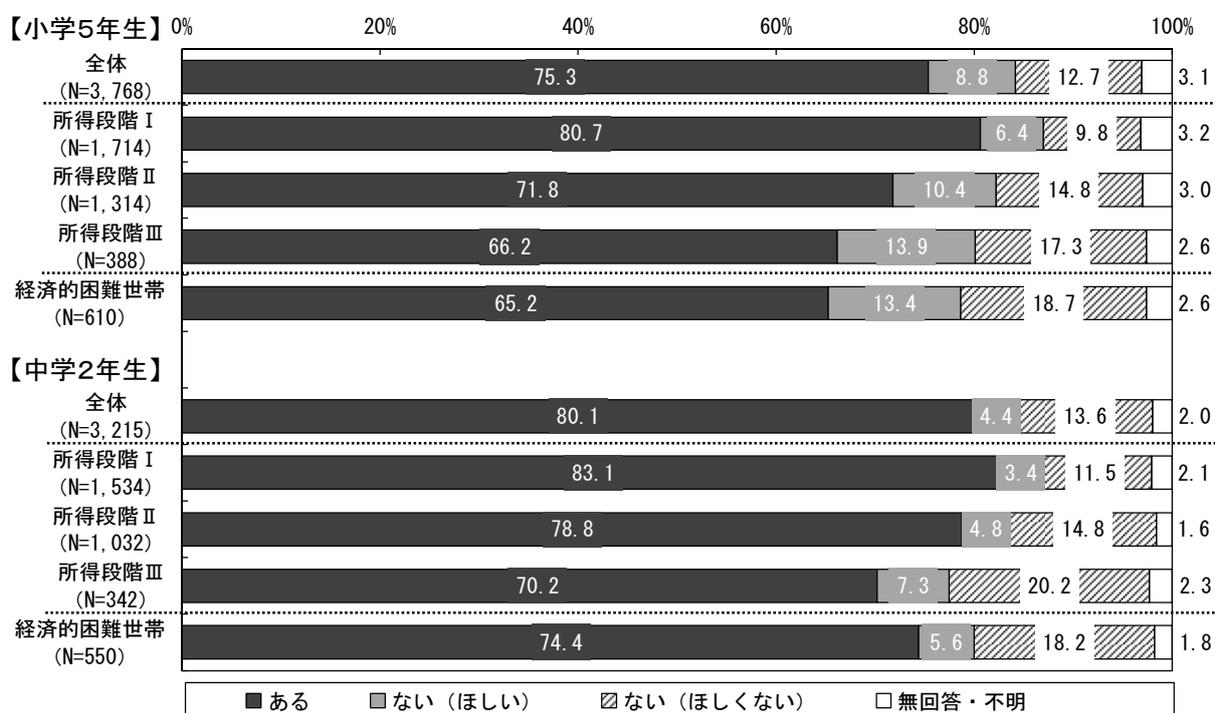


2. 子供の所持品について

「自分だけの本」については、いずれの学年も所得段階による差があり、所得段階が低いほど「ある」が少なく、「ない（ほしい）」「ない（ほしくない）」が多くなっています。小学5年生は経済的困難世帯の所持率も低くなっています。

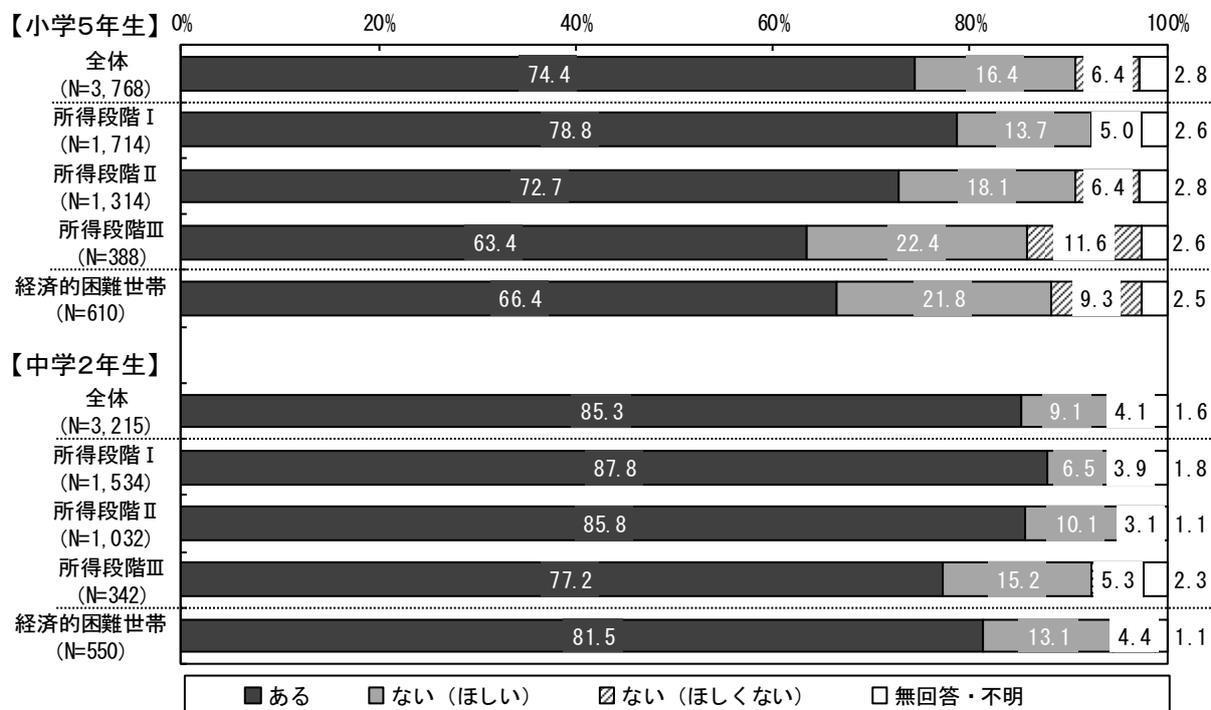
問3 あなたには、次のものの中に自分が使うことができるものはありますか。ある場合は「1 ある」に○をつけてください。ない場合は、それがほしいものであれば「2 ほしい」、いらなと思うものであれば「3 ほしくない」に○をつけてください。

A 自分だけの本（学校の教科書、雑誌やマンガはのぞく）



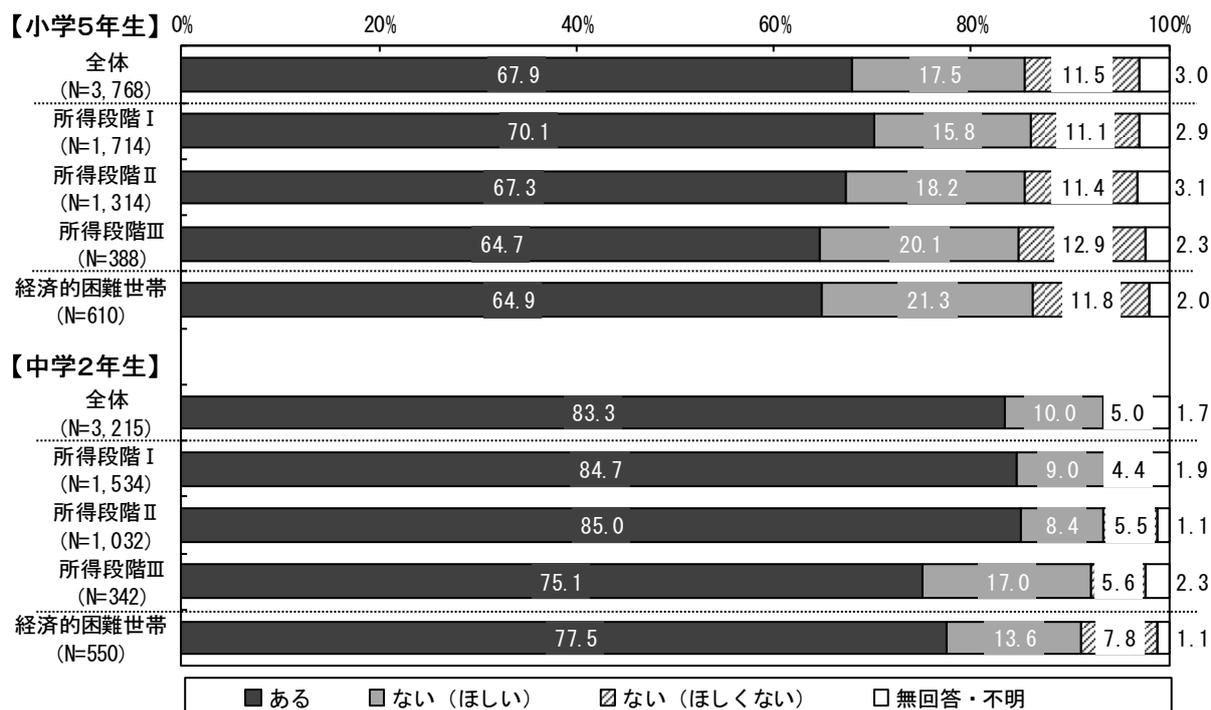
「子供部屋」については、小学5年生では所得段階による差が大きくなっています。中学2年生では差がやや小さくなりますが、所得段階Ⅲ、経済的困難世帯では所持率が低くなっています。

B 子供部屋（兄弟姉妹といっしょに使っている場合もふくむ）



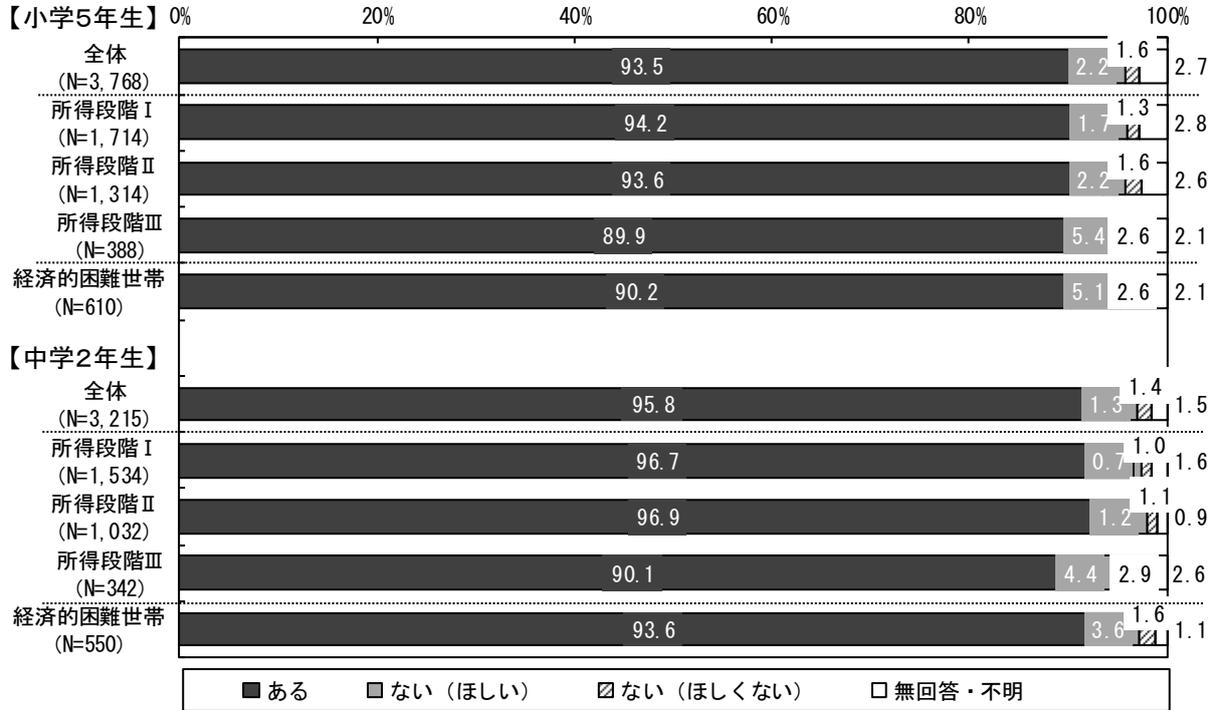
「インターネットにつながるパソコンやタブレット」については、小学5年生では所得段階でやや差が見られ、中学2年生では所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で所持率が低くなっています。

C (自宅で) インターネットにつながるパソコンやタブレット



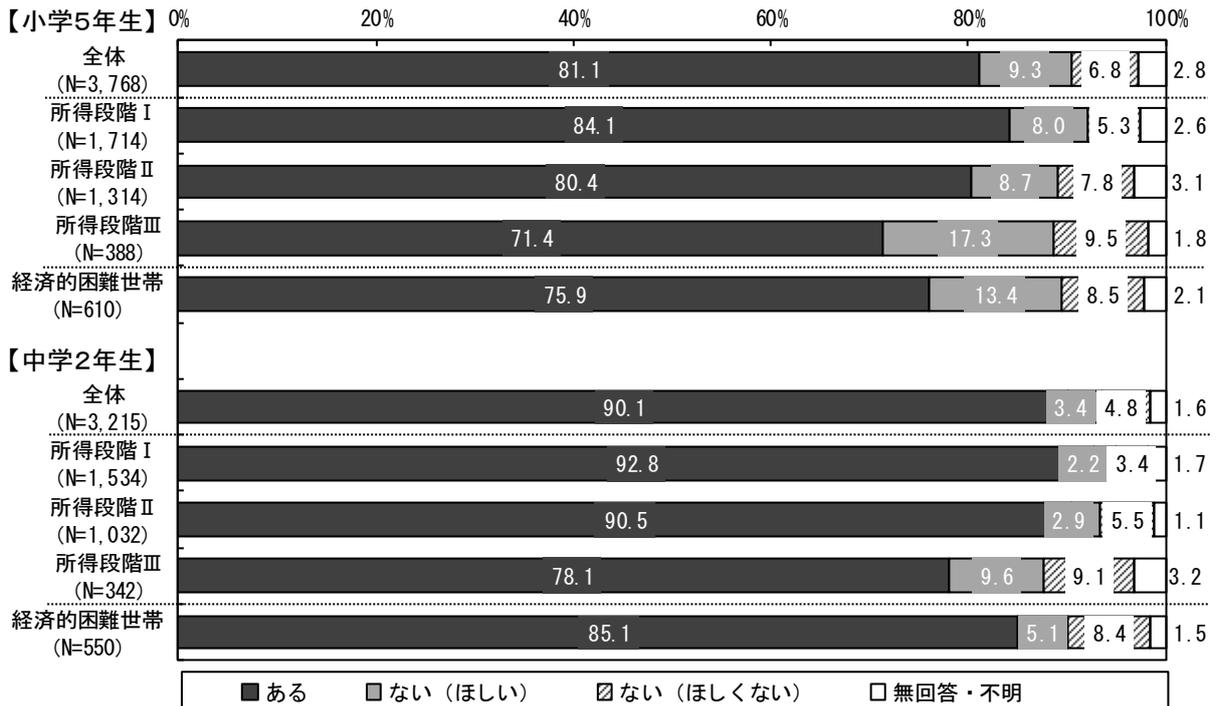
「自宅で宿題をすることができる場所」については、所得段階による差は大きくありませんが、いずれの学年も所得段階Ⅲで、やや「ない」が多くなっています。

D 自宅で宿題をすることができる場所



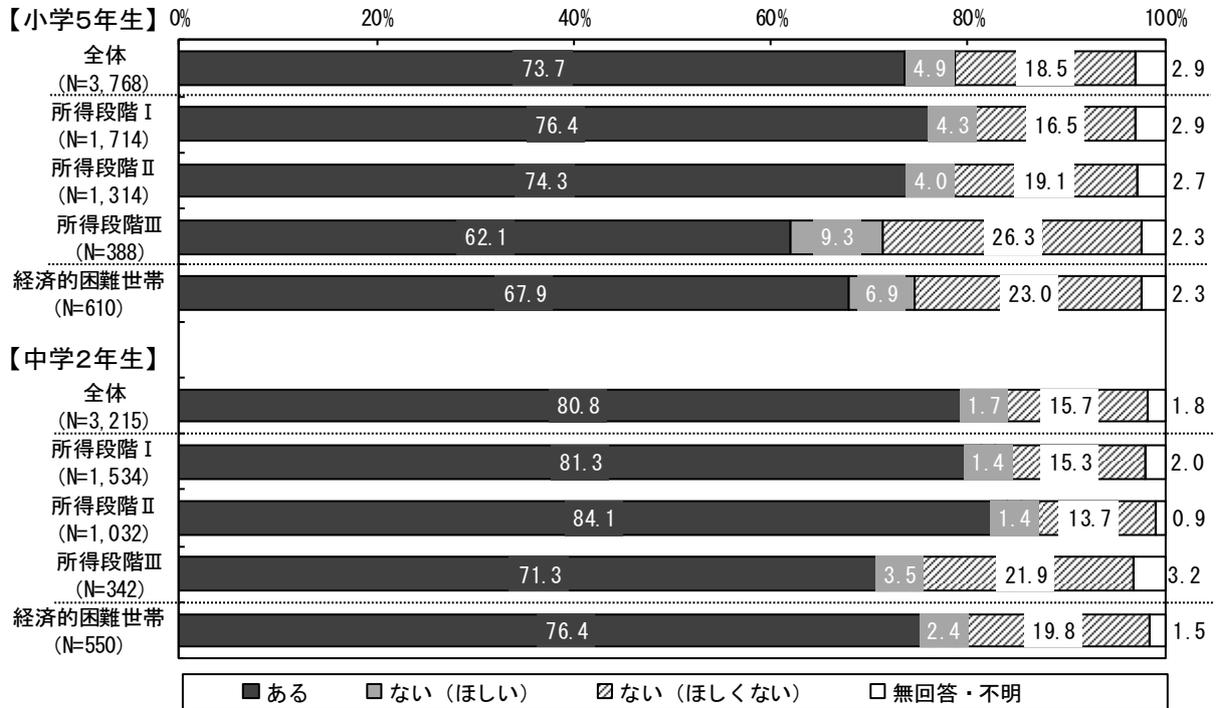
「自分専用の勉強机」については、いずれの学年も所得段階Ⅲ、経済的困難世帯の所持率が低くなっています。

E 自分専用の勉強机



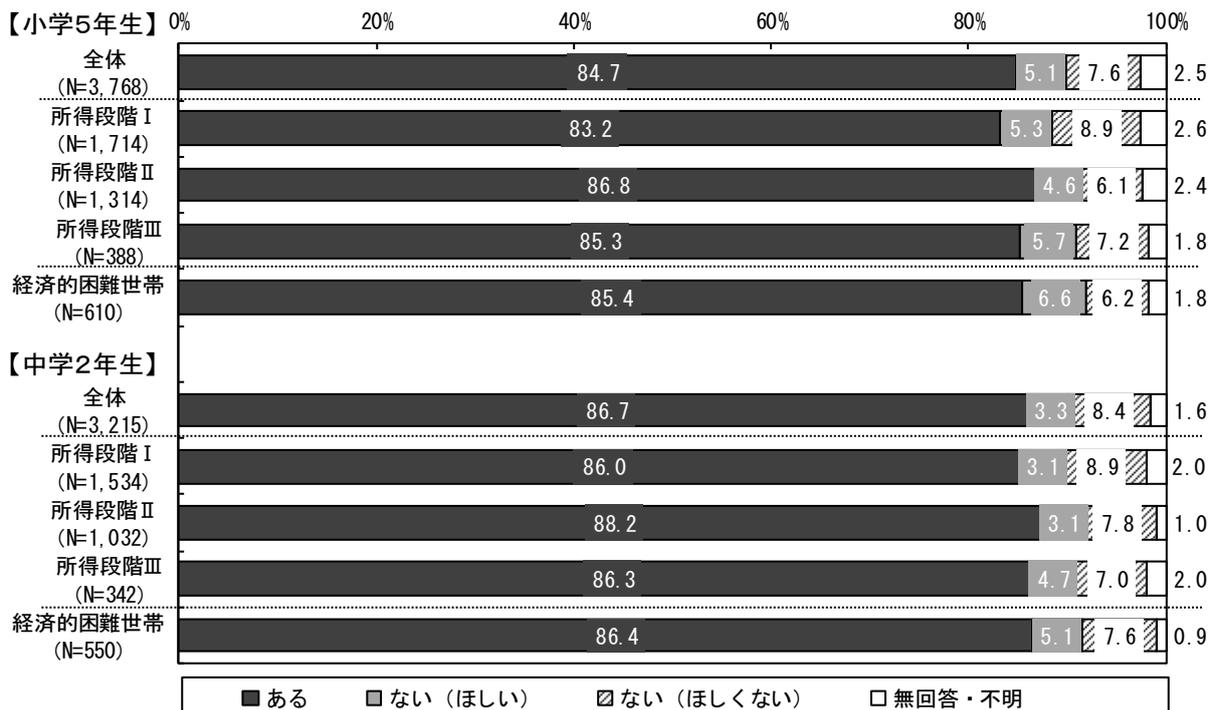
「スポーツ用品」については、所得段階Ⅰ、所得段階Ⅱの差はほとんどありませんが、所得段階Ⅲと経済的困難世帯については所持率が低くなっています。

F スポーツ用品（野球のグローブやサッカーボールなど）



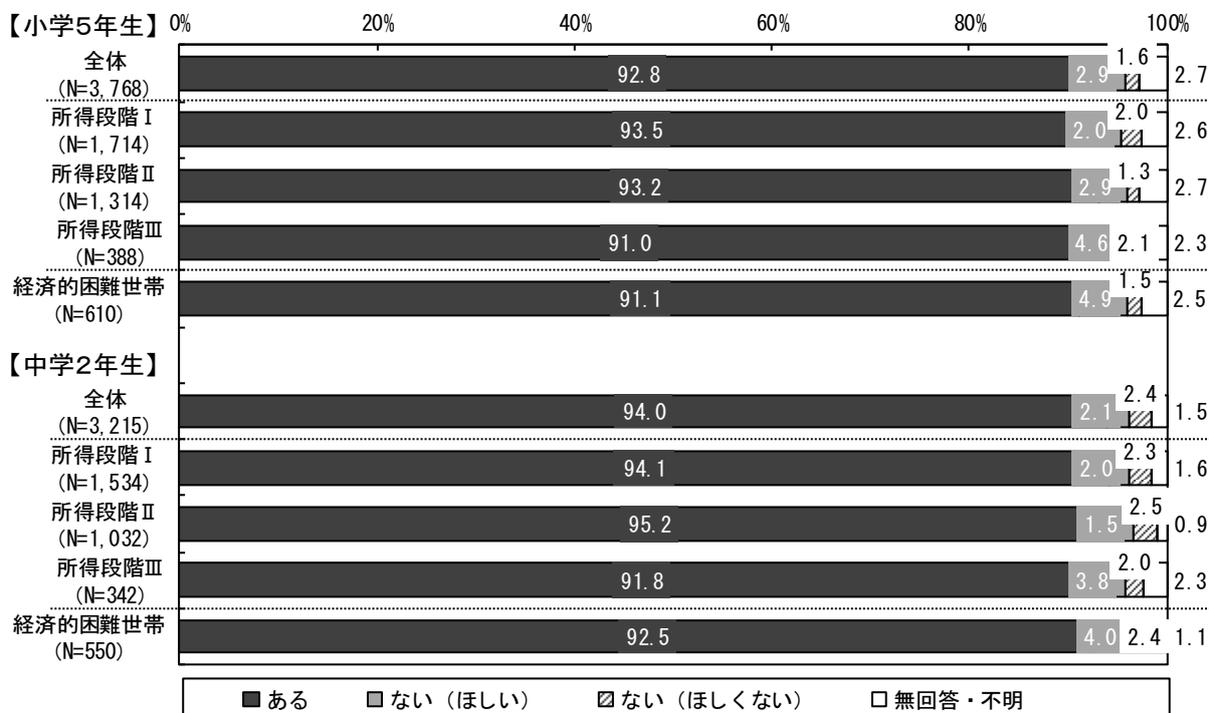
「ゲーム機」については、所得段階による差が見られません。わずかな差ですが、いずれの学年も所得段階Ⅰの所持率が最も低くなっています。

G ゲーム機



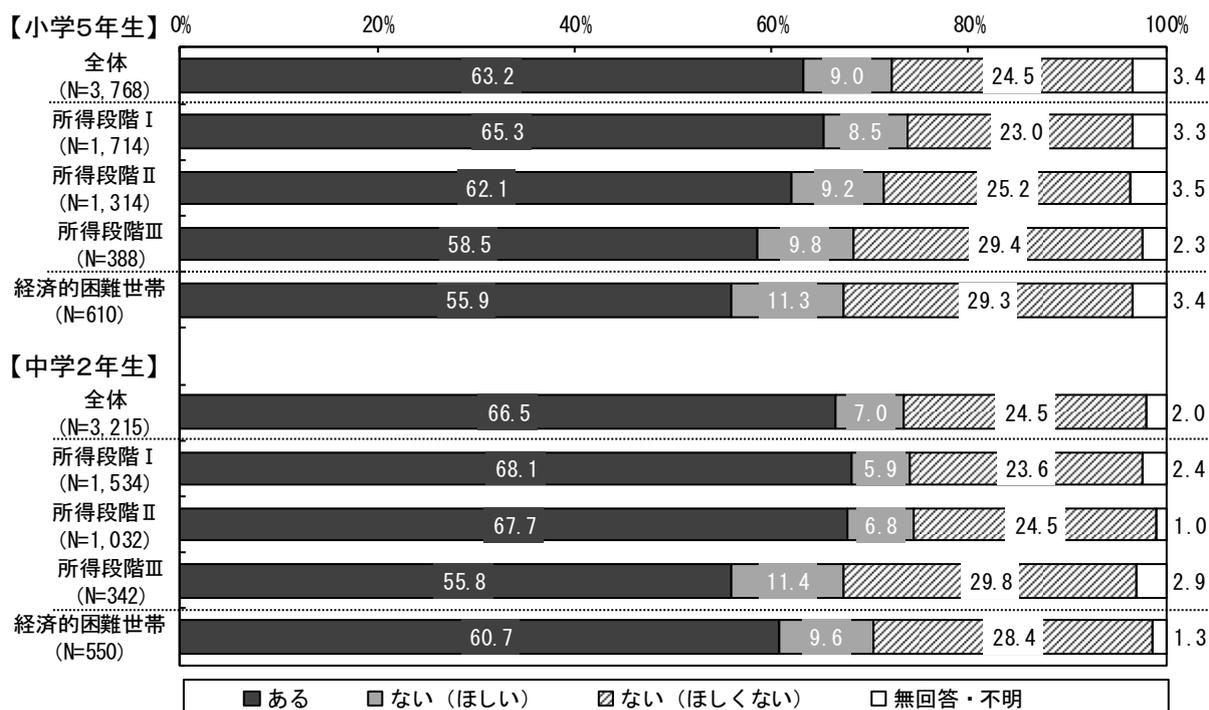
「自転車」については、いずれの世帯区分も所持率が9割を超えており、所得段階による差はほとんどありませんが、所得段階Ⅲの所持率がやや低くなっています。

H 自転車



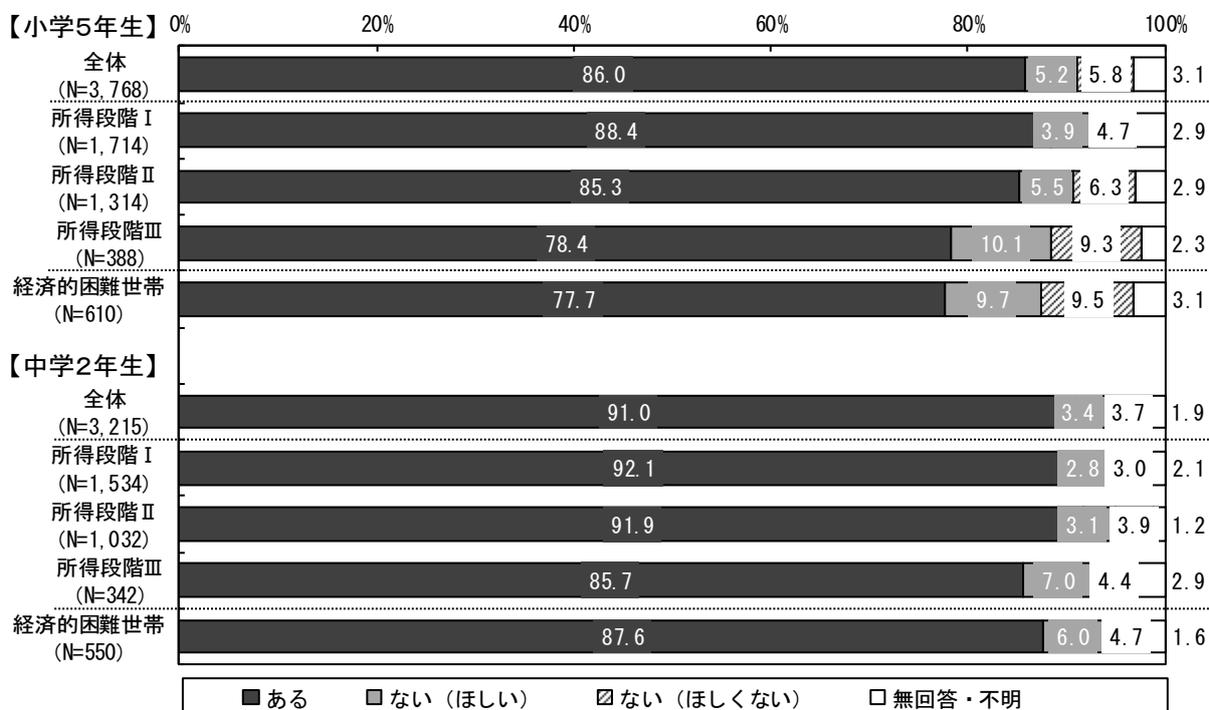
「友だちと同じような服」については、小学5年生ではやや所得段階による差があり、中学2年生では、所得段階Ⅰ、所得段階Ⅱと所得段階Ⅲとの差が大きくなっています。

I 友だちと同じような服



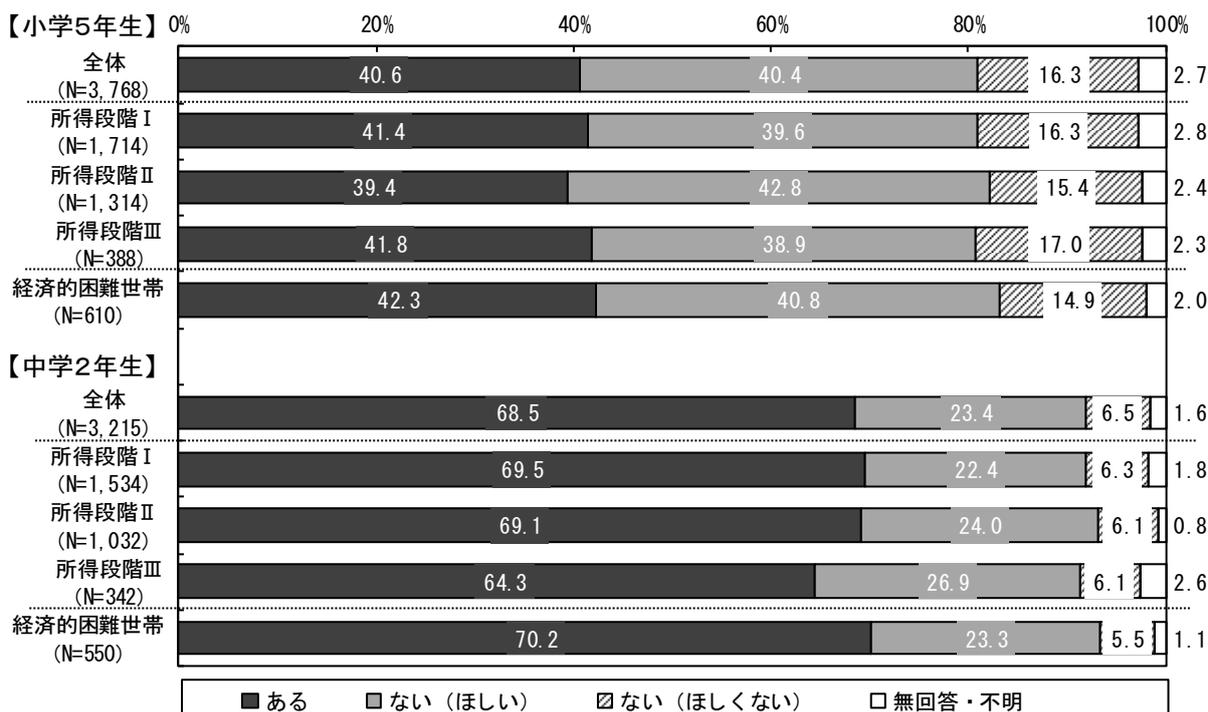
「2足以上のサイズのあった靴」については、いずれの学年も所得段階Ⅲと経済的困難世帯の所持率がやや低くなっています。

J 2足以上のサイズのあった靴



「携帯電話、スマートフォン」については、小学5年生では所得段階による差がなく、中学2年生では所得段階Ⅲの所持率がやや低くなっています。いずれの学年もわずかな差ですが、経済的困難世帯の所持率が最も高くなっています。

K 携帯電話、スマートフォン



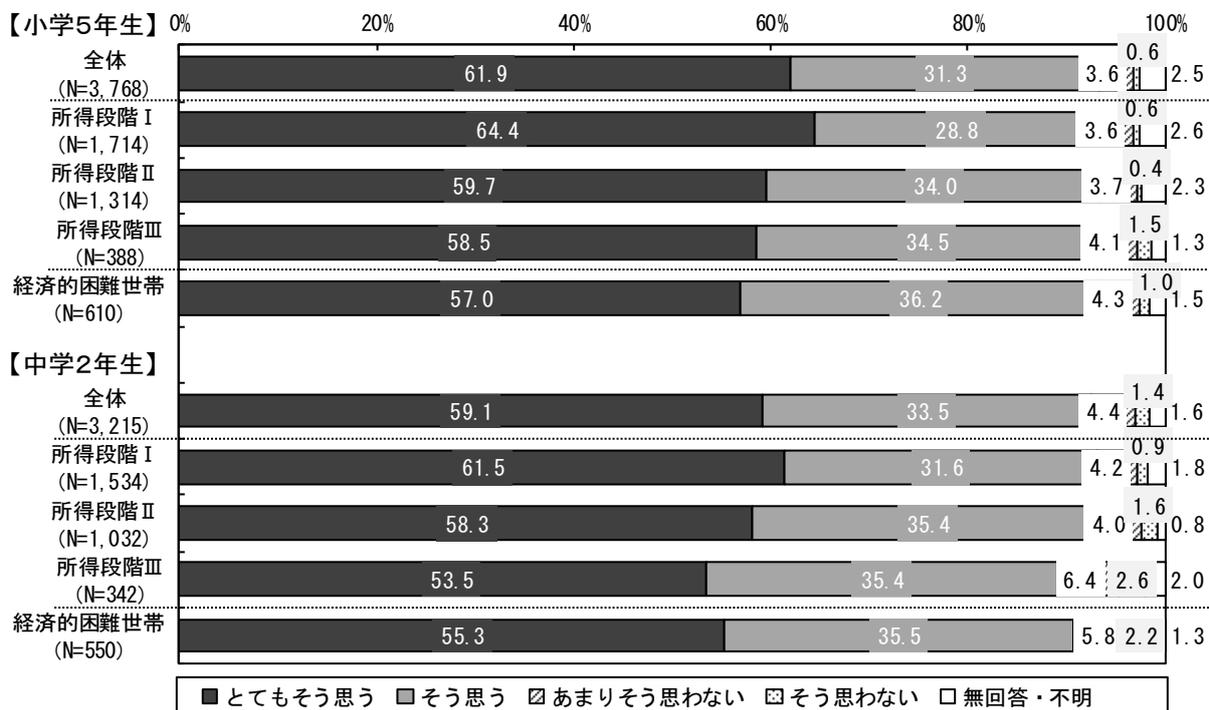
3. 家族や友人について

(1) 家族関係

いずれの学年も、肯定的な回答（「とてもそう思う」または「そう思う」）が9割を超えていますが、所得段階が低いほど「とてもそう思う」がやや少なくなっています。

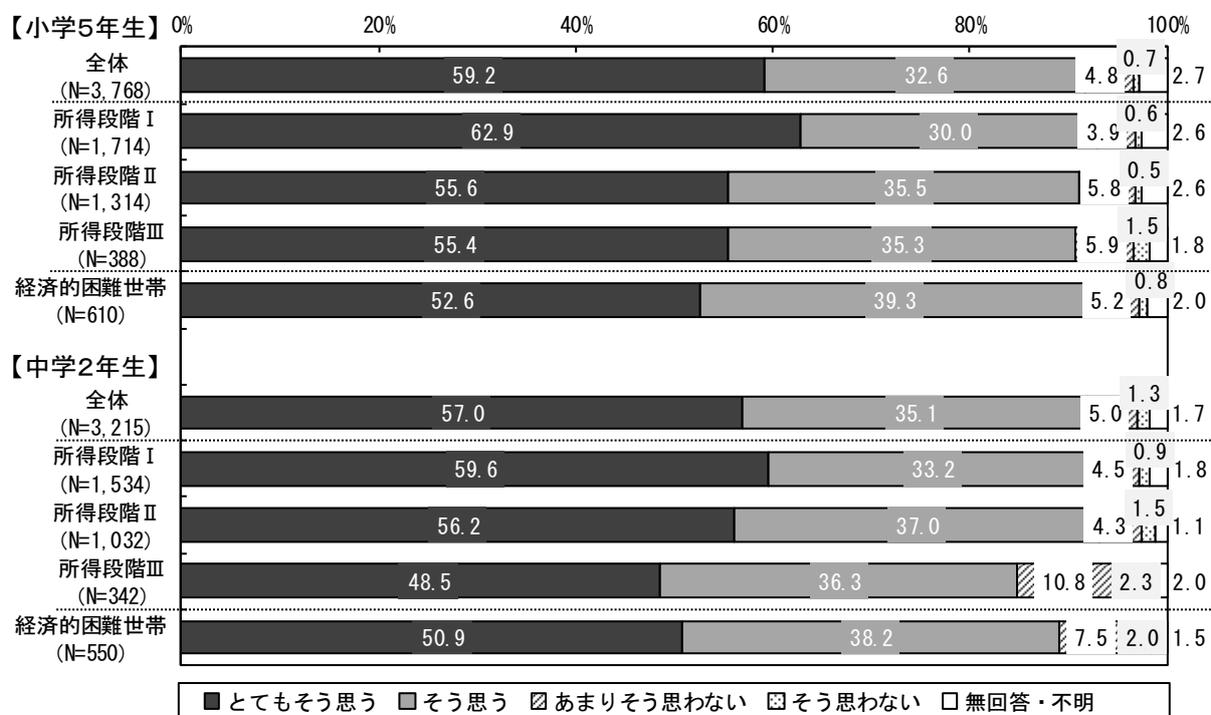
問4 あなたの家族はあなたに対していつもどのようにしていますか。もっとも近いと思うものに○をつけてください。

A いっしょに楽しい時間を過ごしている



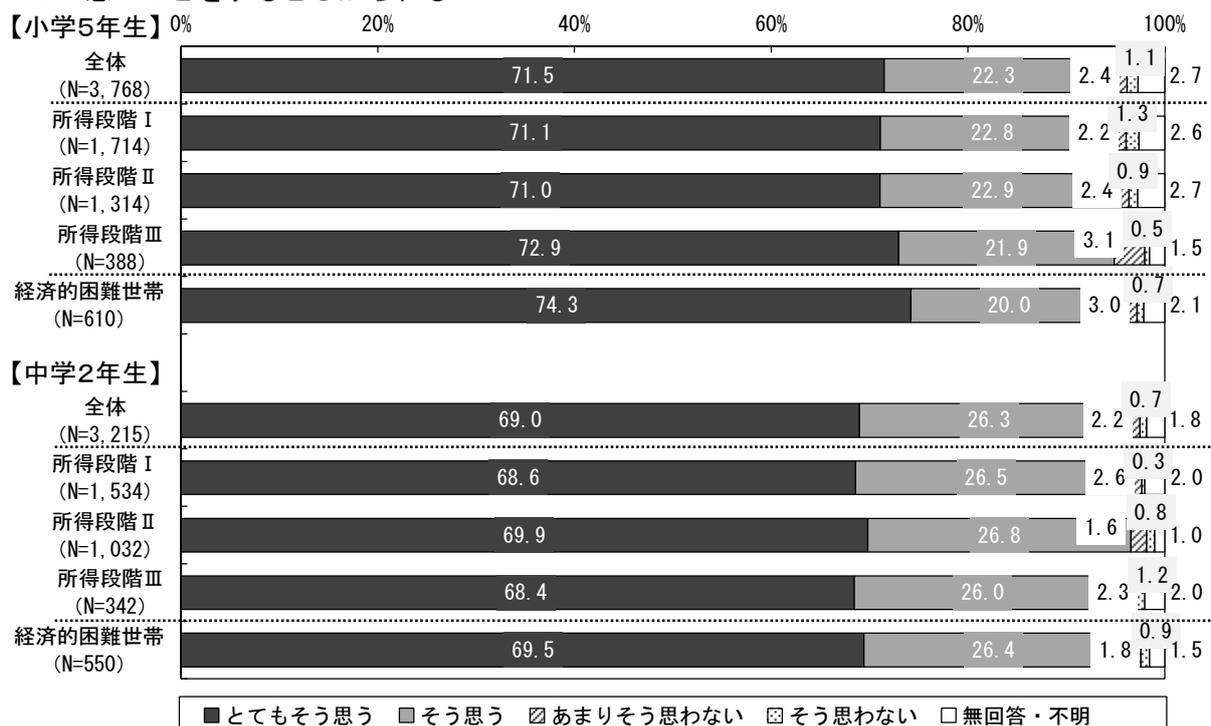
いずれの学年も、所得段階が低いほど「とてもそう思う」が少なくなっています。中学2年生の所得段階Ⅲと経済的困難世帯では、「あまりそう思わない」または「そう思わない」がやや多くなっています。

B 自分が喜ぶことをしてくれる



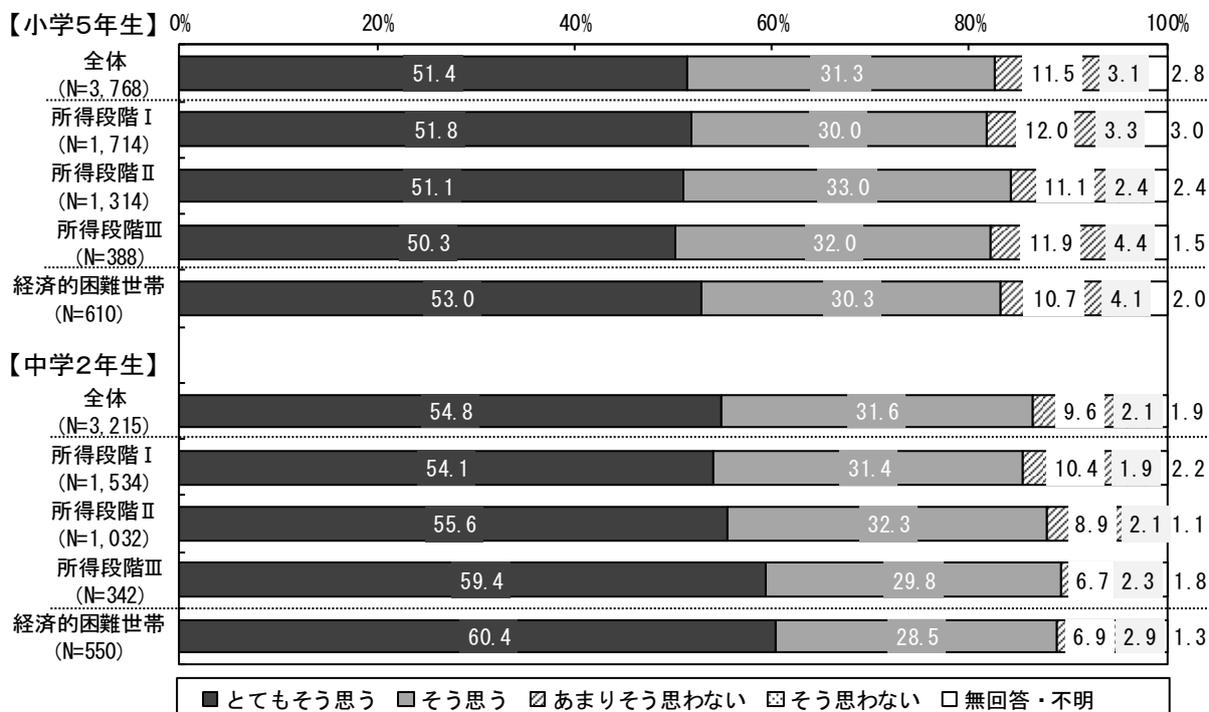
いずれの世帯区分についても、肯定的な回答が9割を超えており、所得段階による差は見られません。

C 悪いことをするとしかられる



小学5年生では、肯定的な回答が約8割で、所得段階による差は見られません。中学2年生では、所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で、「とてもそう思う」がやや多くなっています。

D やらなければいけないことを何度も言われる

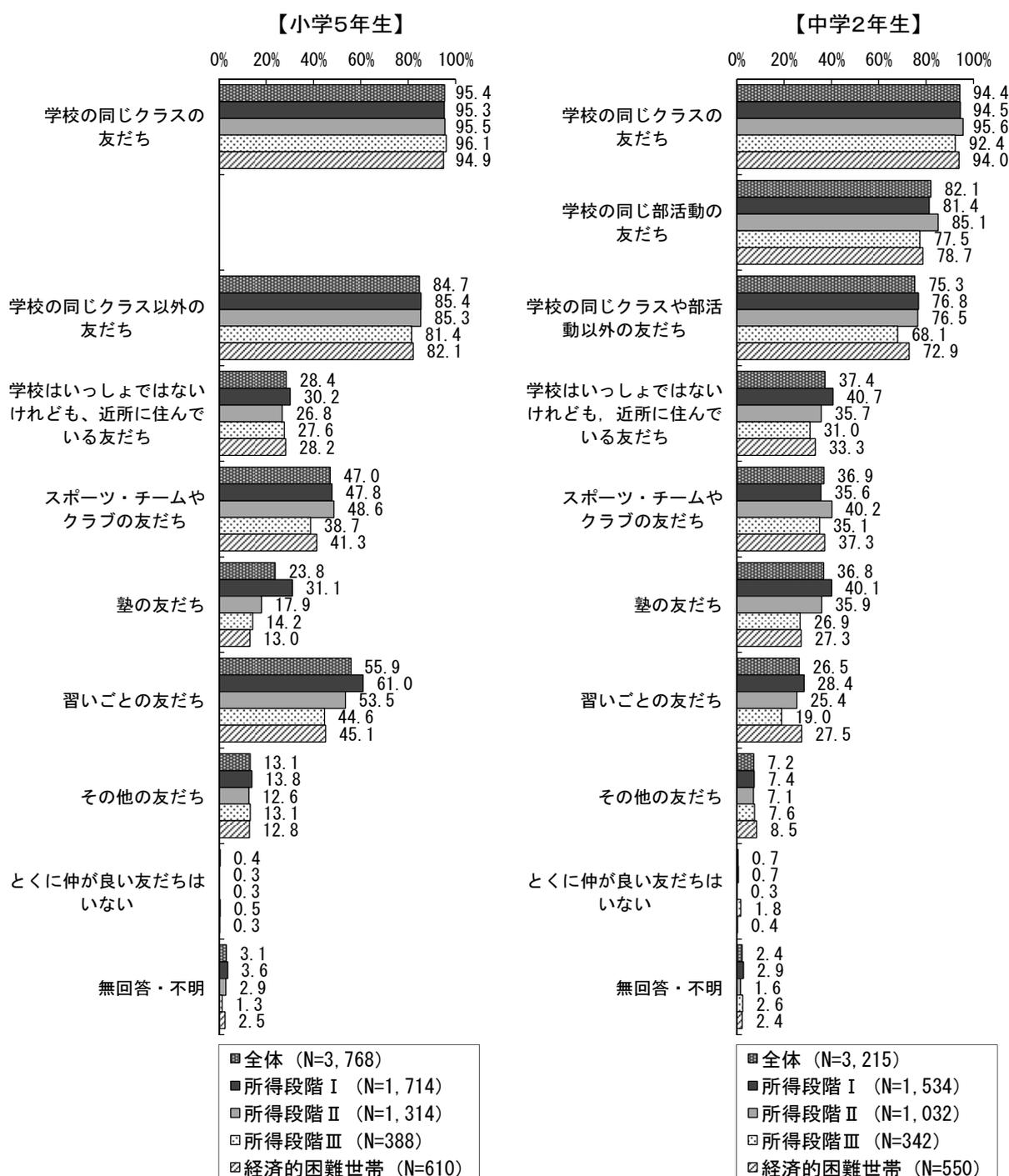


(2) 友人関係

「学校の同じクラスの友だち」にはほとんど差がありませんが、「塾の友だち」「習いごとの友だち」については、所得段階による差が見られます。また、中学2年生では、「学校の同じ部活動の友だち」「学校の同じクラスや部活動以外の友だち」「学校はいっしょではないけれども、近所に住んでいる友だち」についても、所得段階Ⅲで回答がやや少なくなっています。

問5 あなたにはどんな友だちがいますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

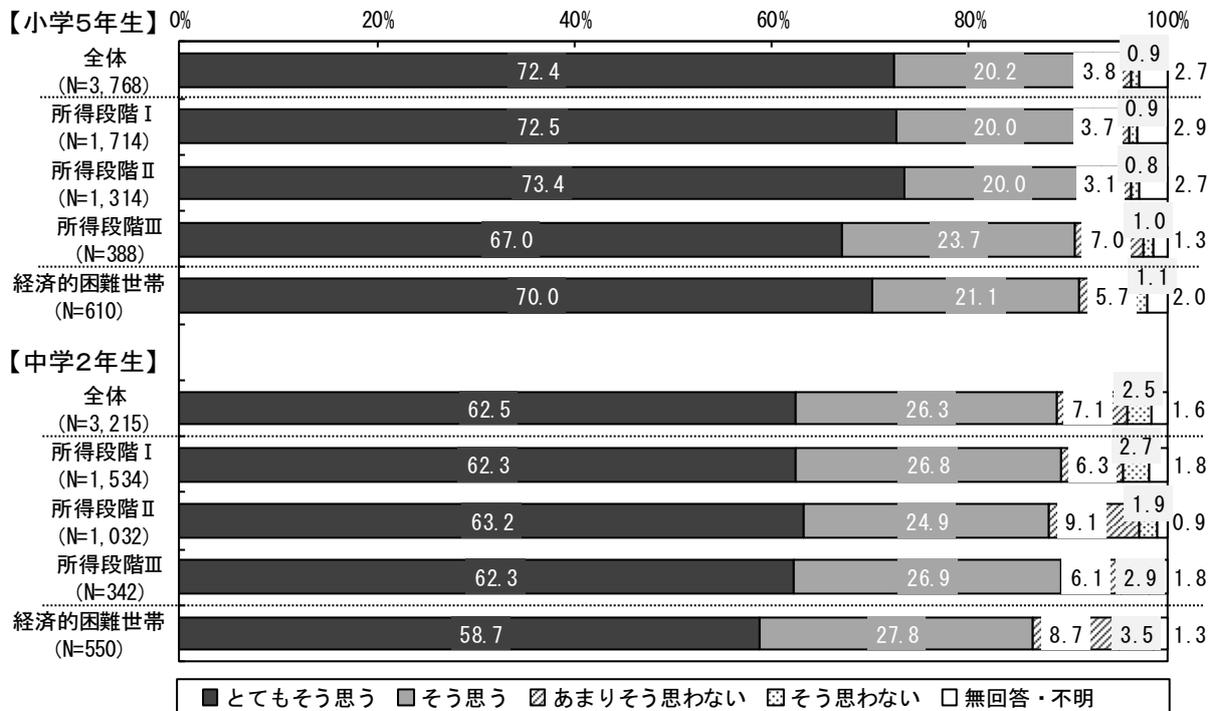
【複数回答】



「友だちと一緒によく遊んでいる」については、小学5年生の所得段階Ⅲ、中学2年生の経済的困難世帯で、「とてもそう思う」がやや少なくなっています。

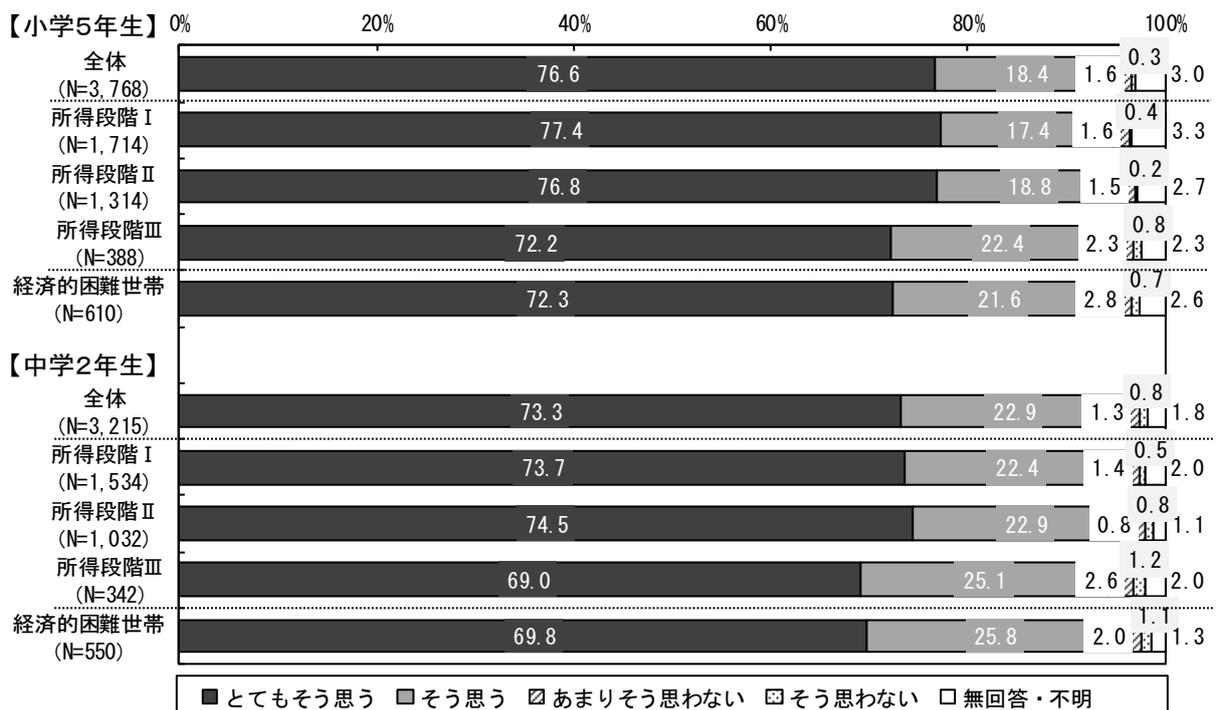
問6 あなたと友だちの関係について、どのように思いますか。もっとも近いものに○をつけてください。

A 友だちと一緒によく遊んでいる



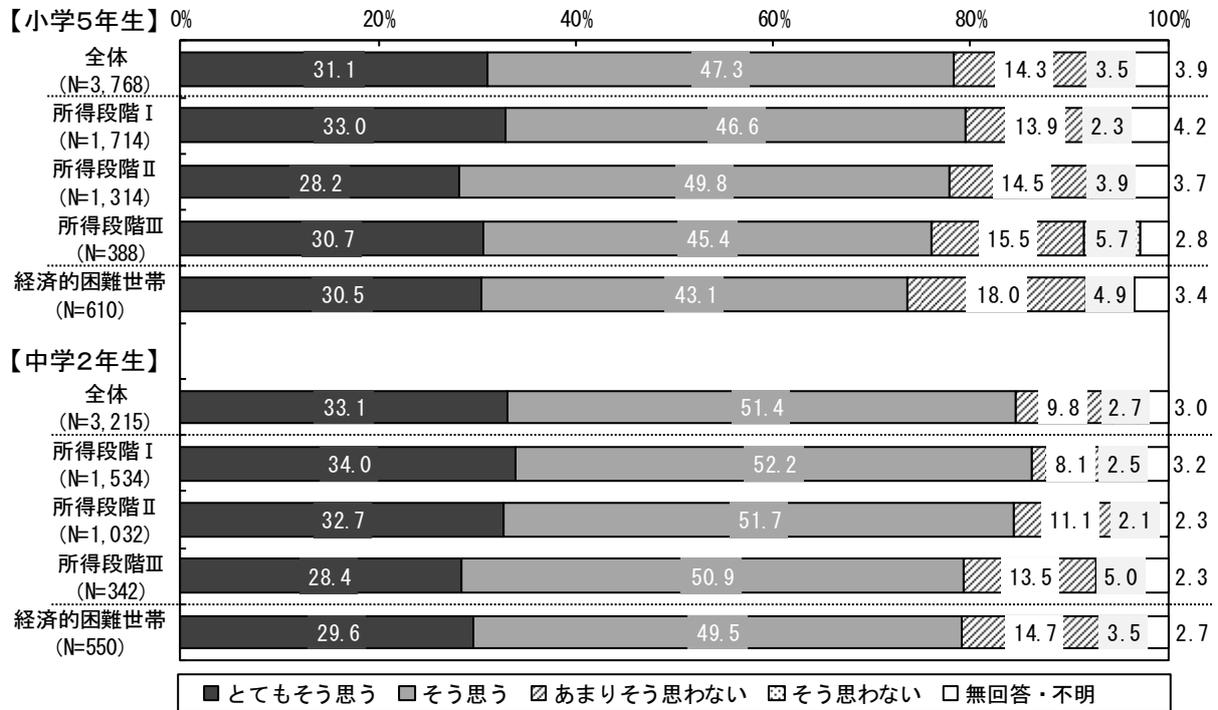
「友だちと仲良くしている」については、いずれの学年も所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で、「とてもそう思う」がやや少なくなっています。

B 友だちと仲良くしている



「友だちに好かれている」については、いずれの学年も所得段階が低いほど、肯定的な回答がやや少なくなっています。経済的困難世帯についても、肯定的な回答がやや少ない傾向です。

C 友だちに好かれている

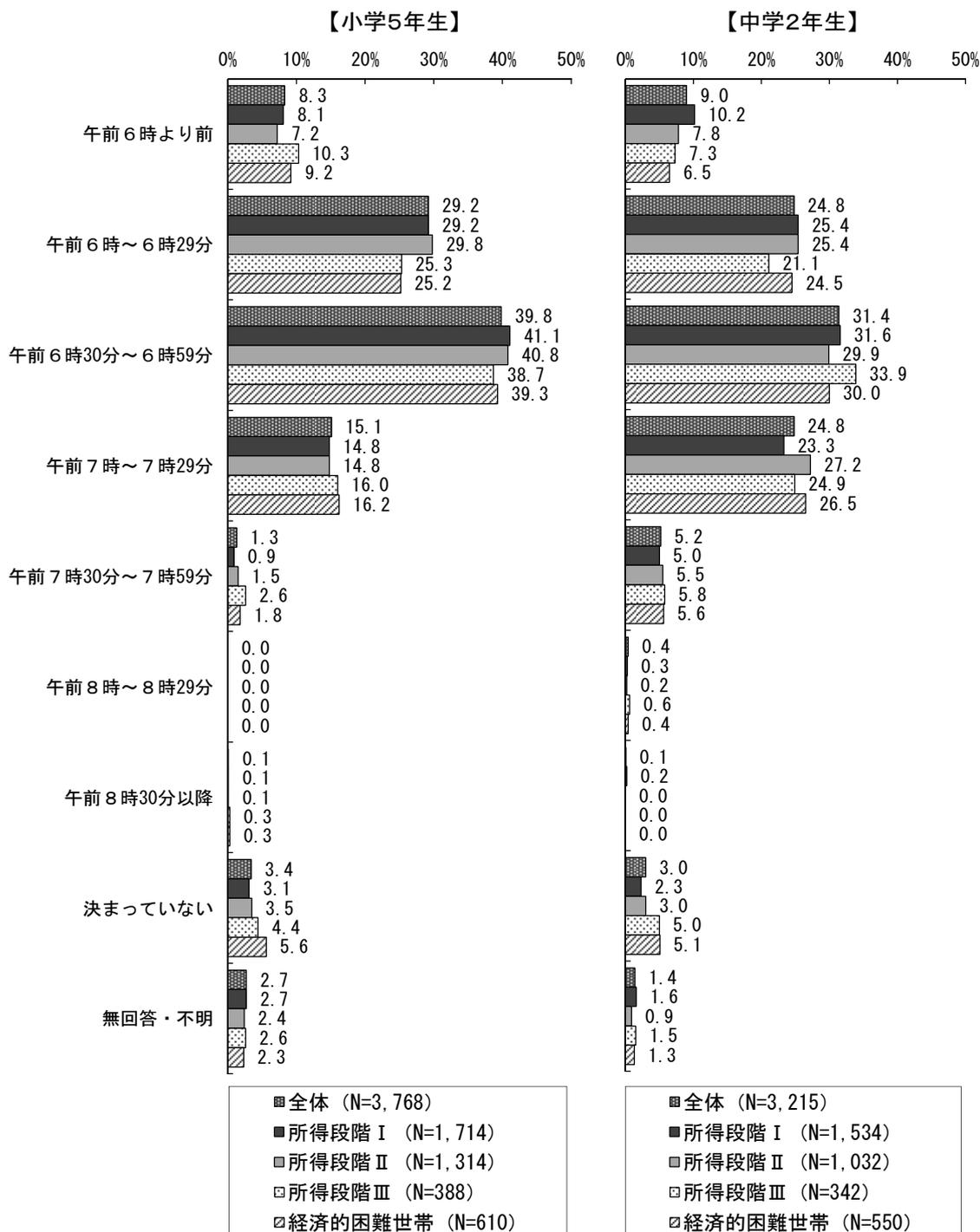


4. 普段の生活について

(1) 起床時刻・就寝時刻

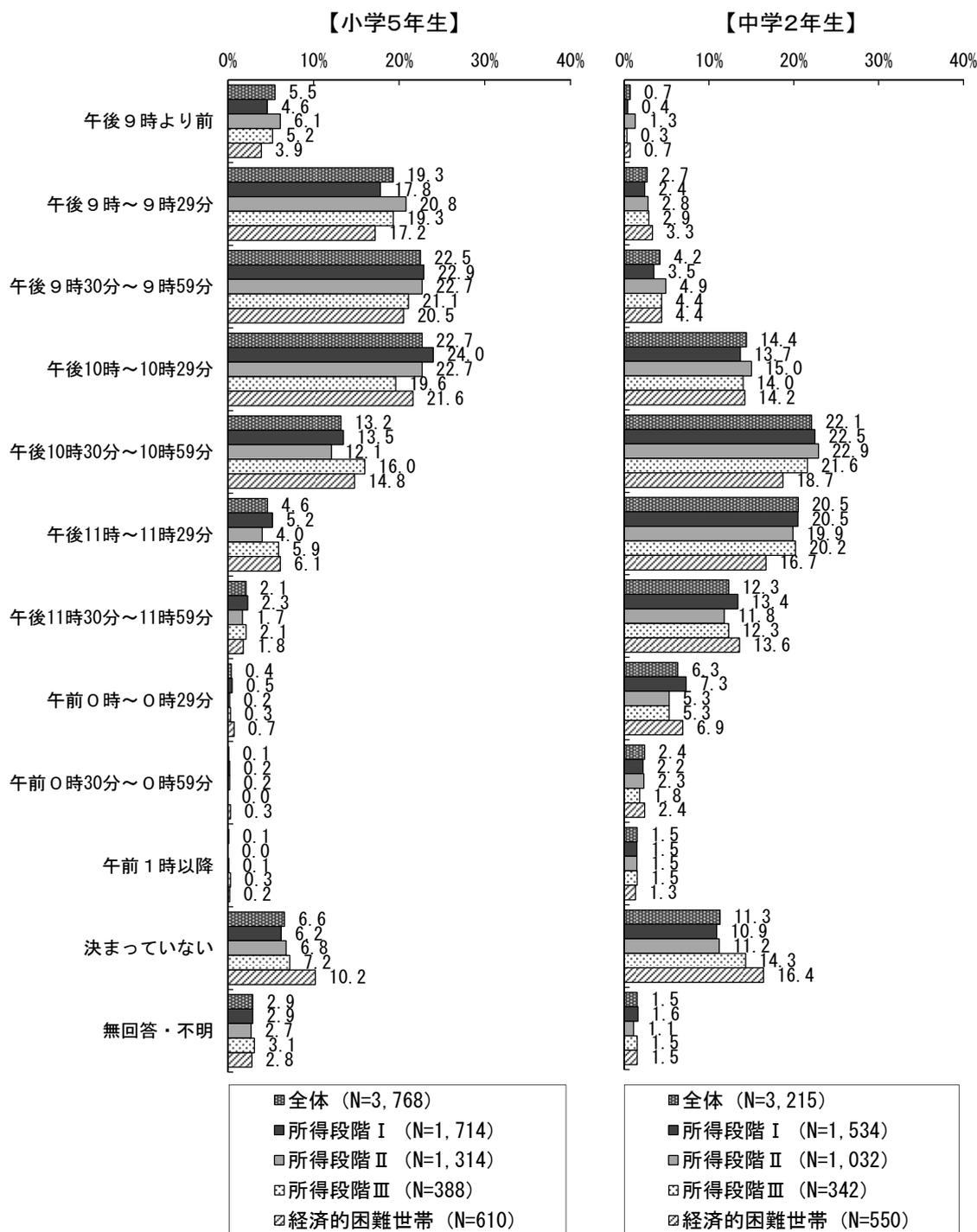
平日の起床時刻については、所得段階による差は大きくありませんが、所得段階が低いほど、早い時刻がやや少なく、「決まっていない」がやや多くなっています。

問7 あなたは、学校がある日はだいたい朝何時ごろに起きますか。



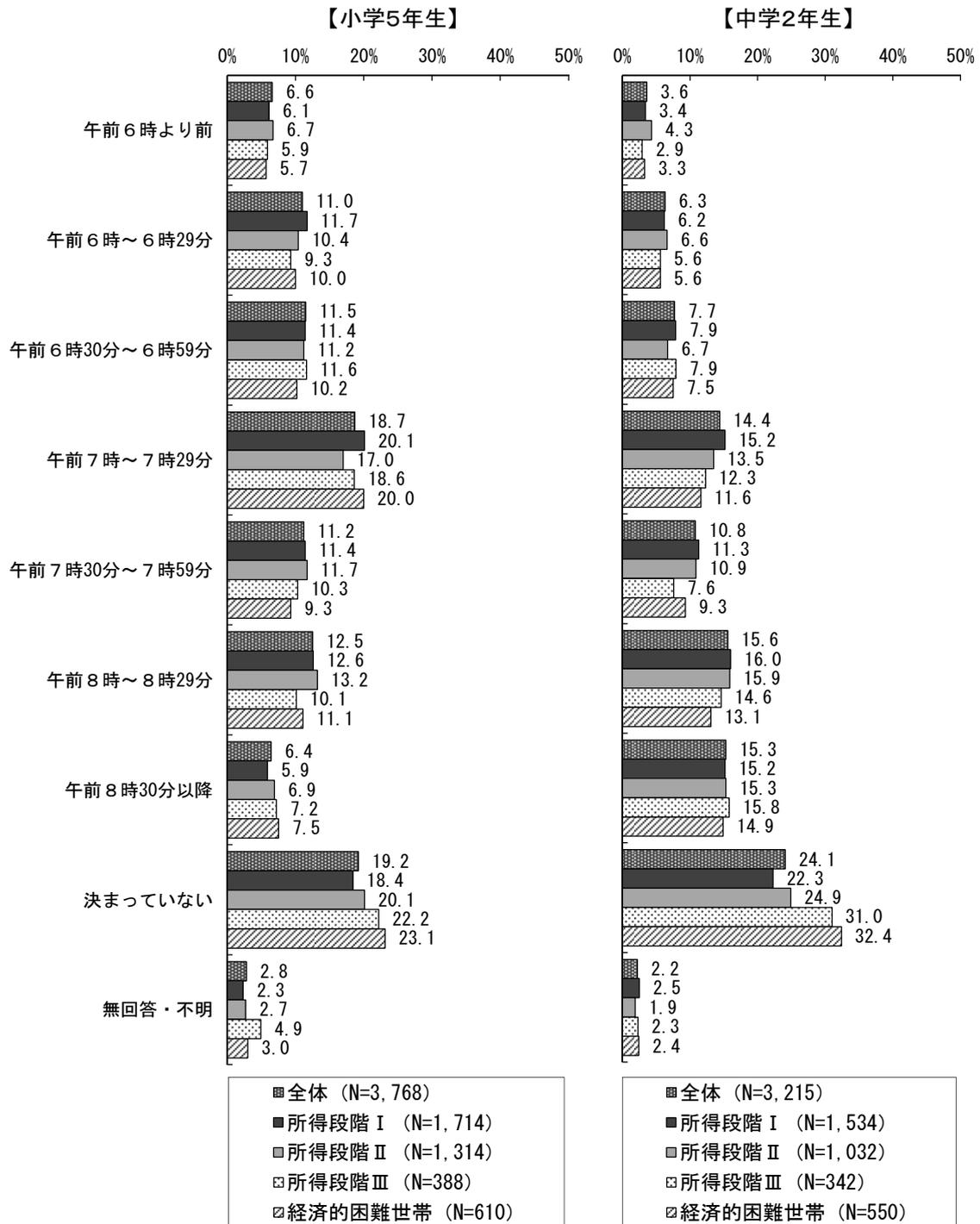
小学5年生では、所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で、就寝時刻がやや遅い傾向があります。中学2年生では、特に経済的困難世帯で、「決まっていない」が多くなっています。小学5年生の所得段階Ⅲ、経済的困難世帯では、所得段階Ⅰ、Ⅱと比べて、就寝時刻がやや遅い傾向があります。

問8 あなたは、次の日に学校がある日は、だいたい何時ごろに寝ますか。



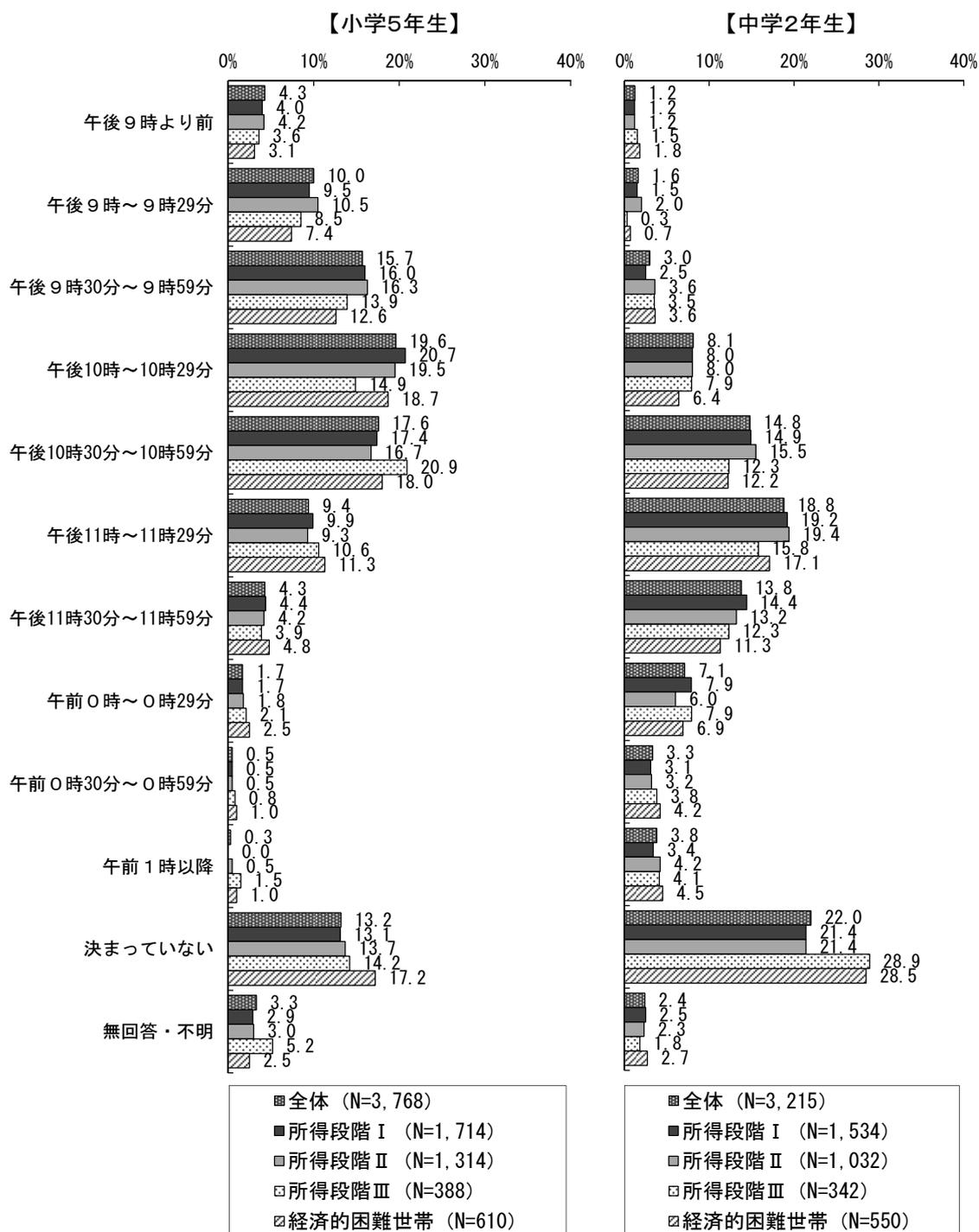
休日の起床時刻については、世帯区分による差は大きくありませんが、所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で「決まっていない」がやや多くなっており、特に中学2年生では差が大きくなっています。

問9 あなたは、休日や夏休みなど学校がない日はだいたい朝何時ごろに起きますか。



小学5年生の経済的困難世帯や、中学2年生の所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で、他の世帯と比べて「決まっていない」がやや多くなっています。小学5年生の所得段階Ⅲ、経済的困難世帯では、所得段階Ⅰ、Ⅱと比べて、就寝時刻がやや遅い傾向があります。

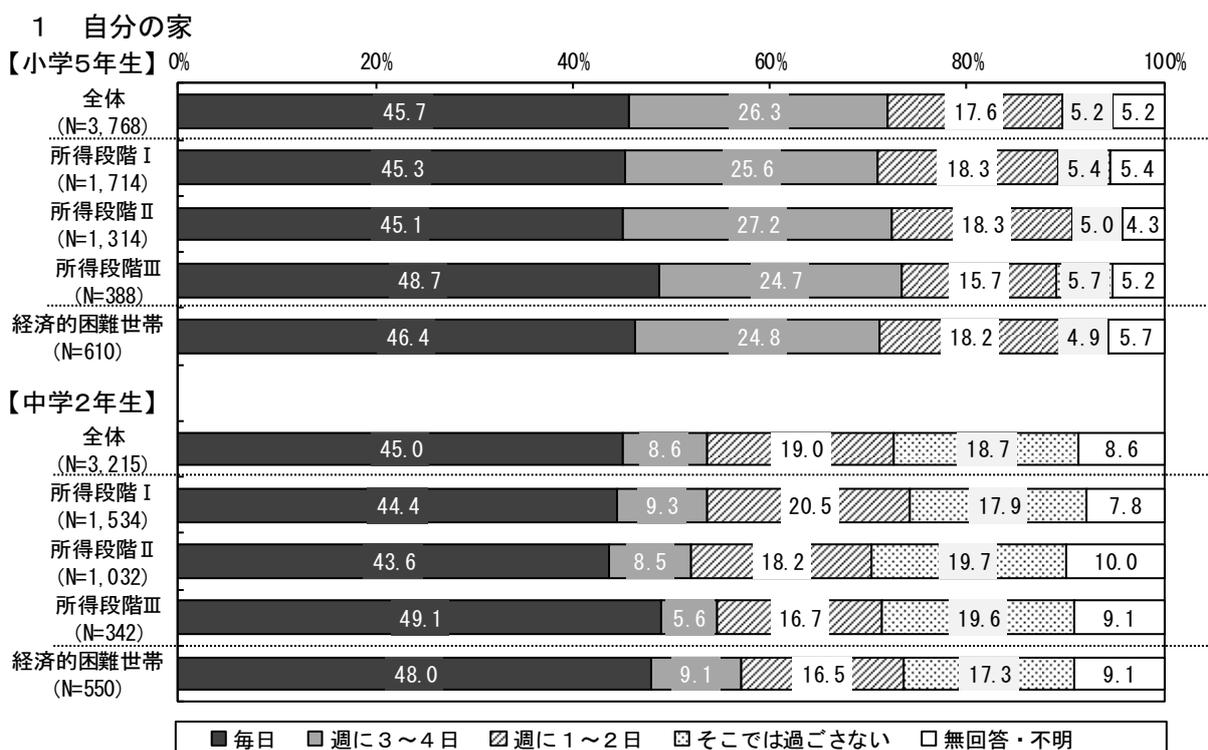
問10 あなたは、休日や夏休みなどで、次の日に学校がない日は、だいたい何時ごろに寝ますか。



(2) 放課後の過ごし方

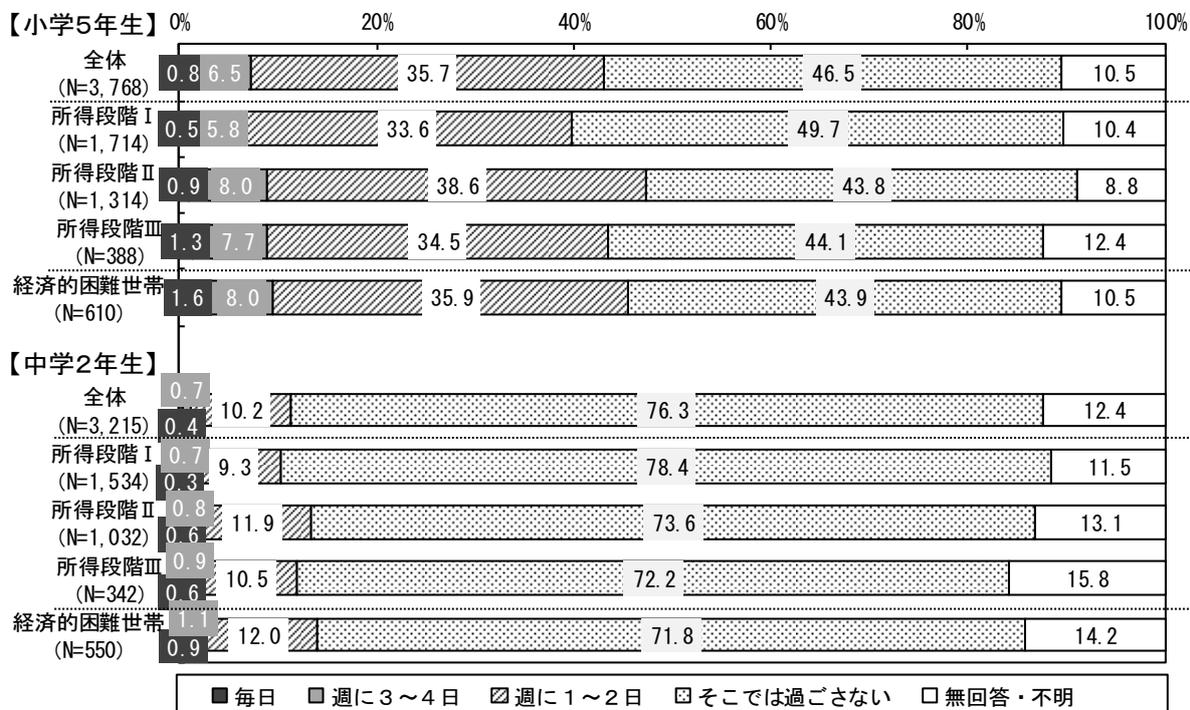
平日の放課後に過ごす場所として、「自分の家」については、いずれの学年も所得段階Ⅲで「毎日」がやや多くなっています。

問11 あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）どこで過ごしますか。
1週間のうち、そこで過ごすおおよその日数に○をつけてください。



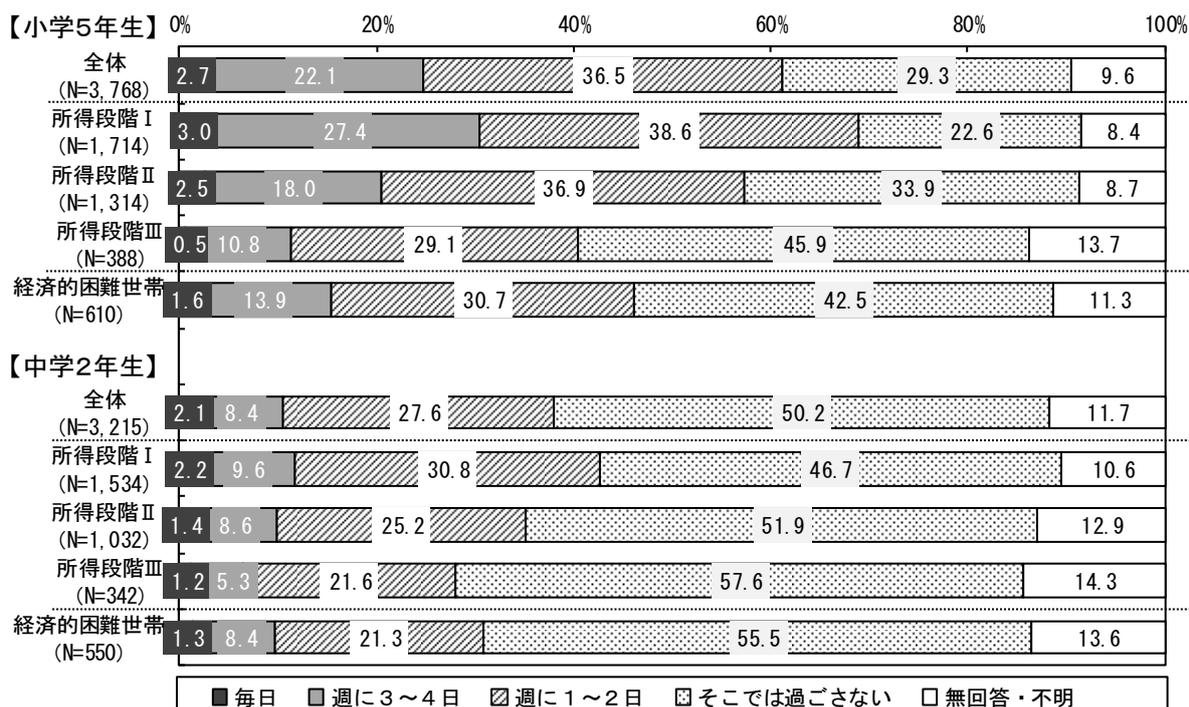
「友だちの家」については、世帯区分による差はあまりありません。いずれの学年も所得段 I で「そこでは過ごさない」がやや多くなっています。

2 友だちの家



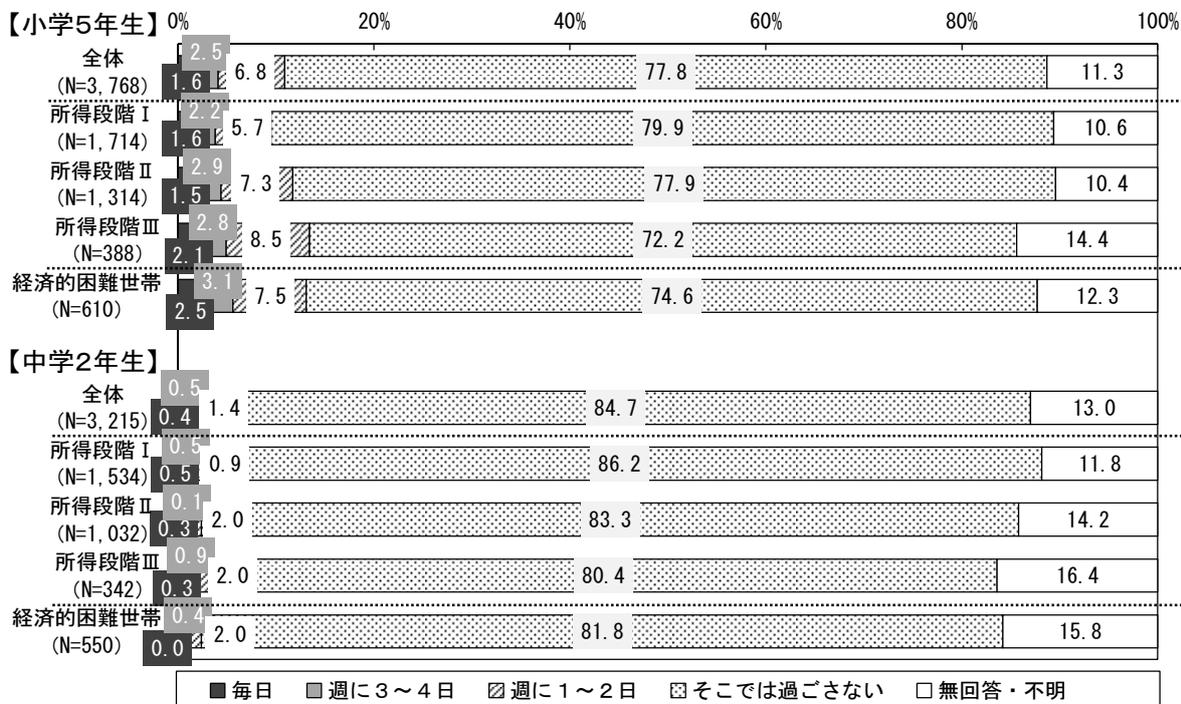
「塾や習いごとをする場所」については、所得段階が低いほど、頻度が低く、「そこでは過ごさない」が多くなっています。特に小学5年生では、差が大きくなっています。

3 塾や習いごとをする場所



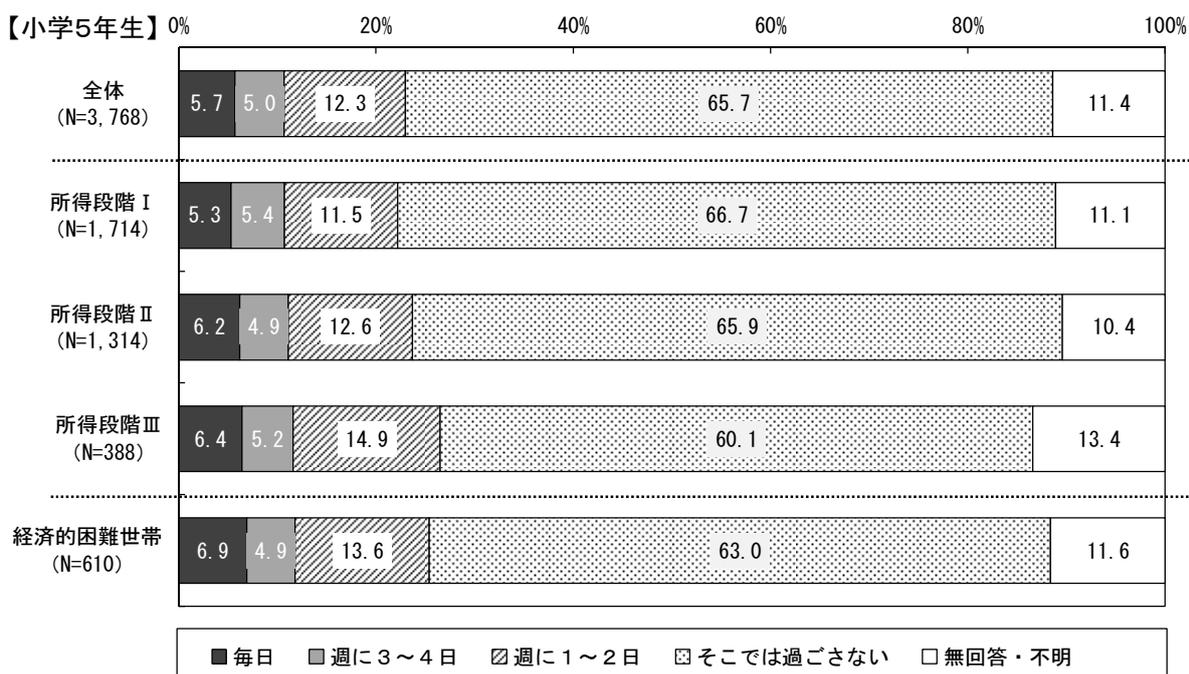
「児童館・公民館・その他の施設」については、小学5年生の所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で、週に1日以上の回答がやや多くなっています。中学2年生については、いずれの世帯区分も過ごしているという回答がほとんどありません。

4 児童館・公民館・その他の施設（放課後児童クラブ、子ども会をふくむ）



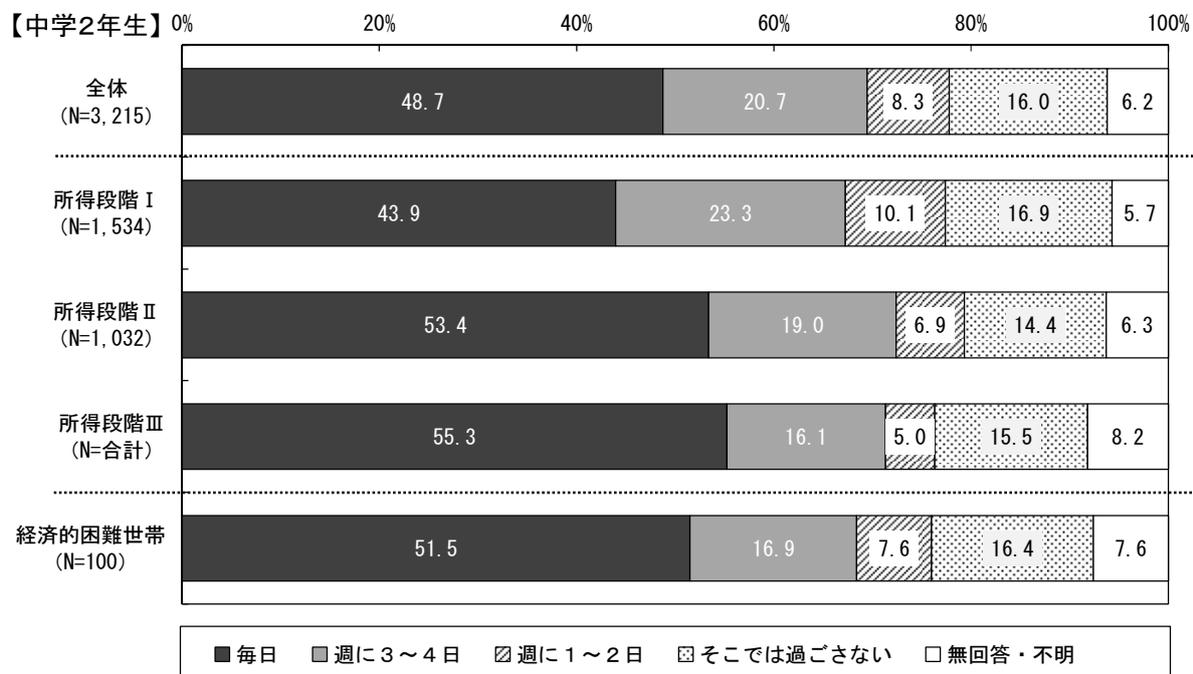
小学5年生の「学校（放課後児童クラブをふくむ）」については、週1日以上の回答が2割台で、世帯区分による差は見られません。

5 (小学5年生のみ) 学校（放課後児童クラブをふくむ）



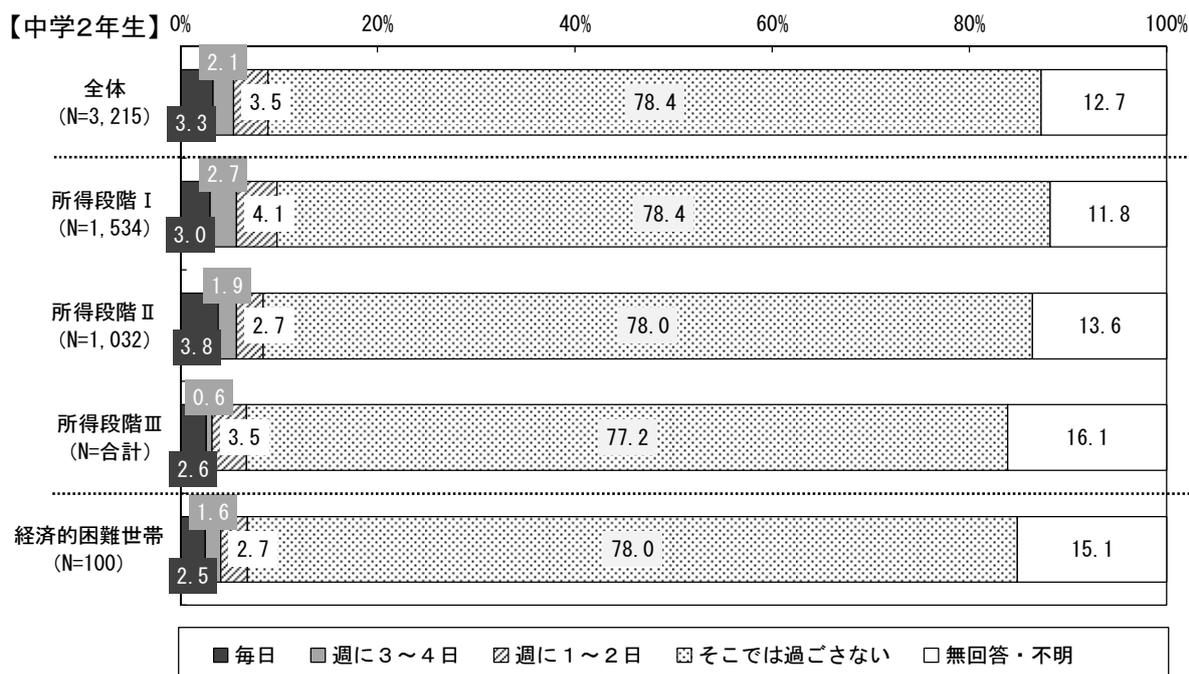
中学2年生の「学校の部活動」については、所得段階Iで「毎日」という回答が少なくなっています。

6 (中学2年生のみ) 学校の部活動



中学2年生の「部活動以外の学校」については、所得段階による差はほとんど見られません。

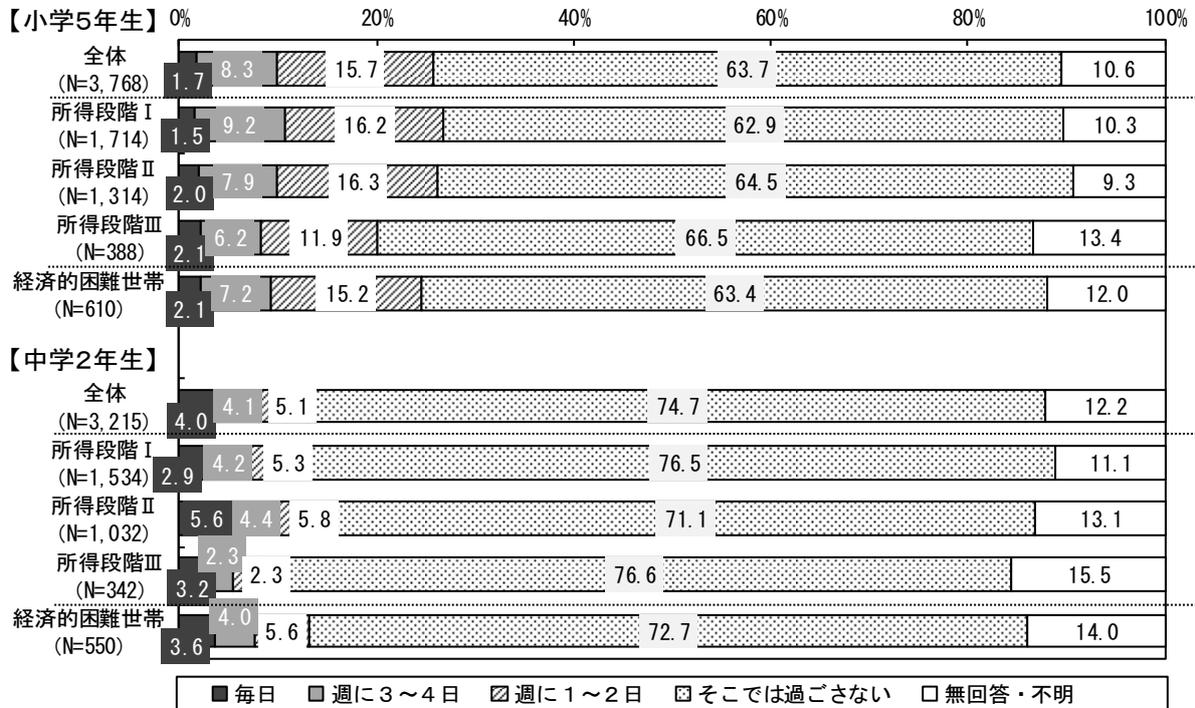
6 (中学2年生のみ) 部活動以外の学校



「スポーツクラブの活動の場」については、いずれの学年も所得段階Ⅲで週1日以上の回答がやや少なくなっています。

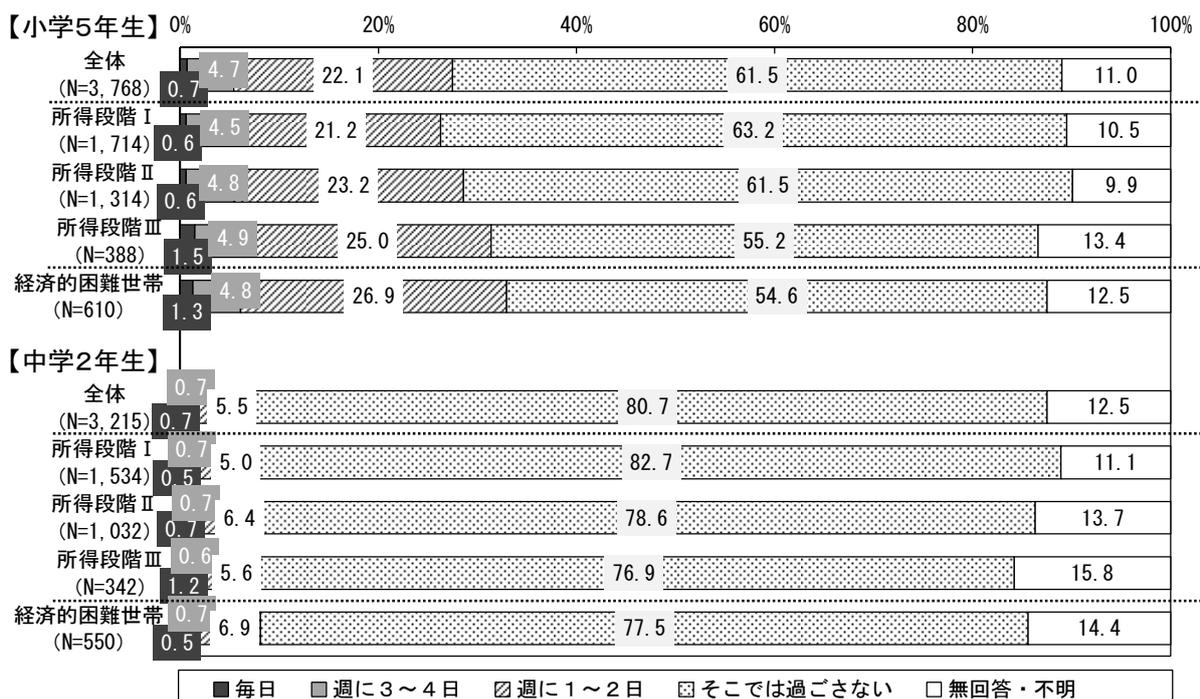
小学生票6, 中学生票7※ スポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）

※以下、小学生票と中学生票で問や選択肢の番号が異なる場合は、単に6, 7と表記



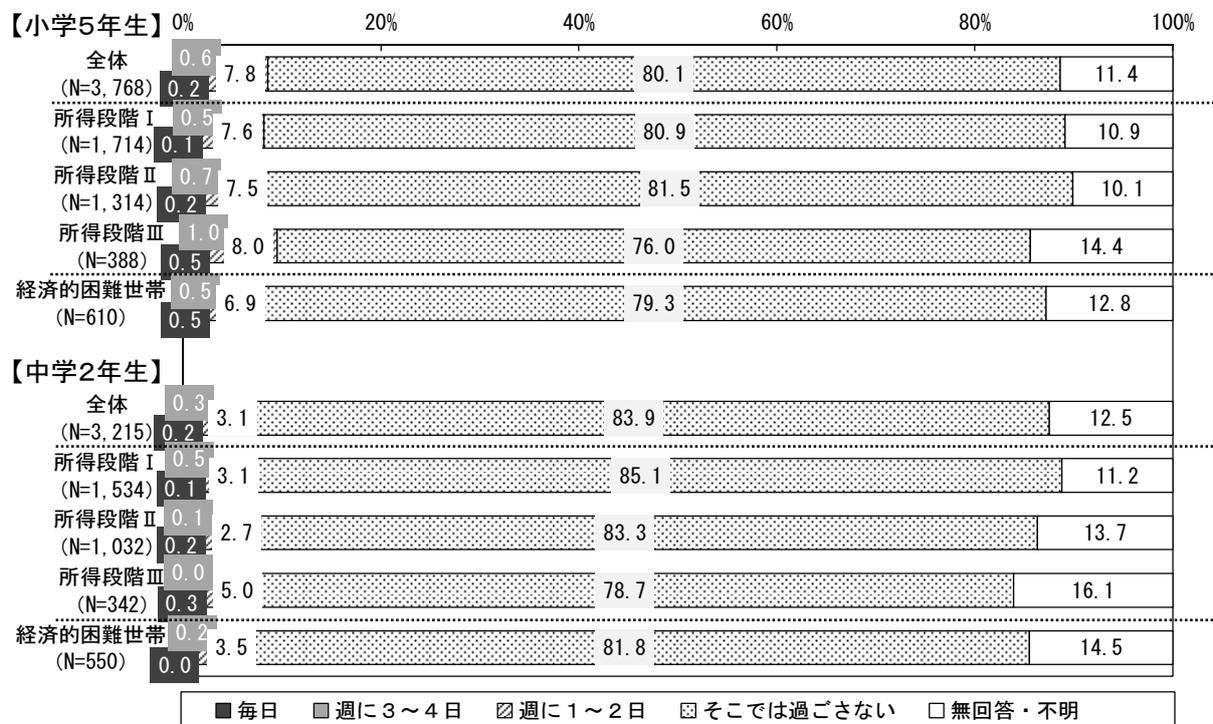
「公園や広場」については、小学5年生では、所得段階が低いほど、週1日以上の回答がやや多い傾向です。中学2年生ではいずれの世帯区分も週1日以上の回答が1割未満と少なく、所得段階による差は見られません。

7, 8 公園や広場



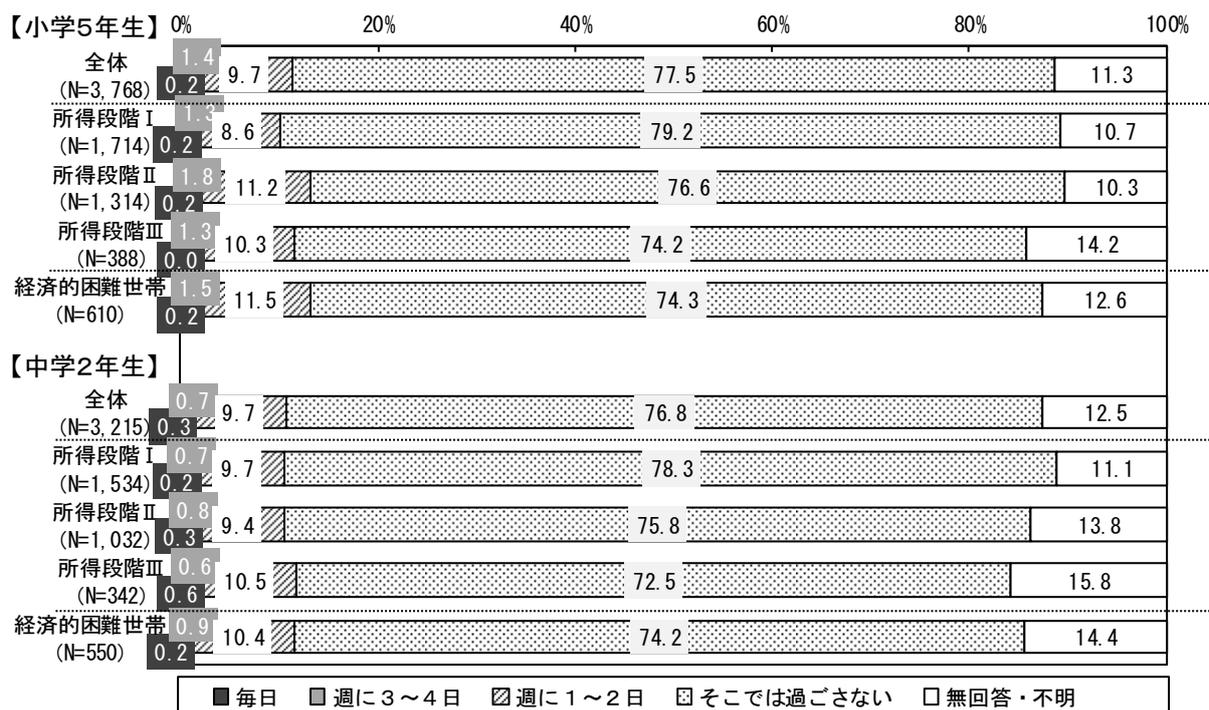
「図書館」については、いずれの学年も週1日以上の回答が1割未満となっており、所得段階による差も見られません。

8, 9 図書館



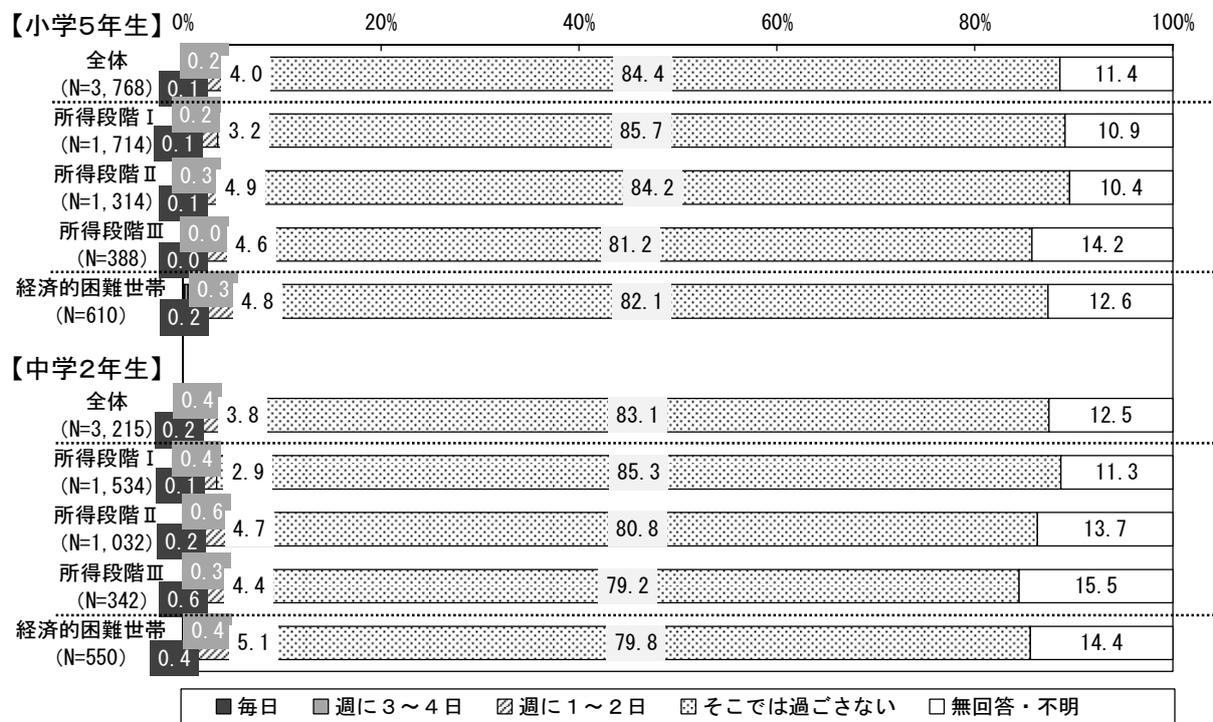
「商店街やショッピングモール」については、いずれの学年も週に1日以上の回答が1割台で、所得段階による差は見られません。

9, 10 商店街やショッピングモール



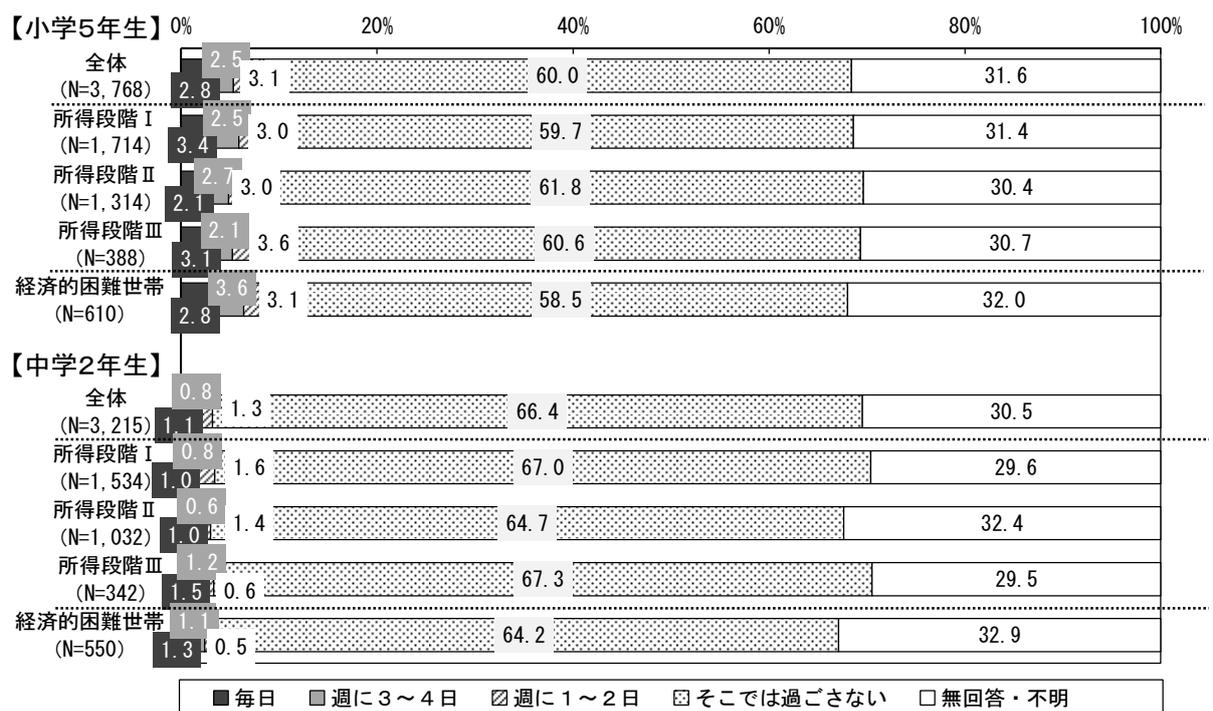
「ゲームセンター」については、いずれの学年も所得段階Ⅰで週に1日以上の回答がやや少なくなっています。

10, 11 ゲームセンター



その他にはデイサービス、飲食店、川や池（釣り）等の回答がありました。

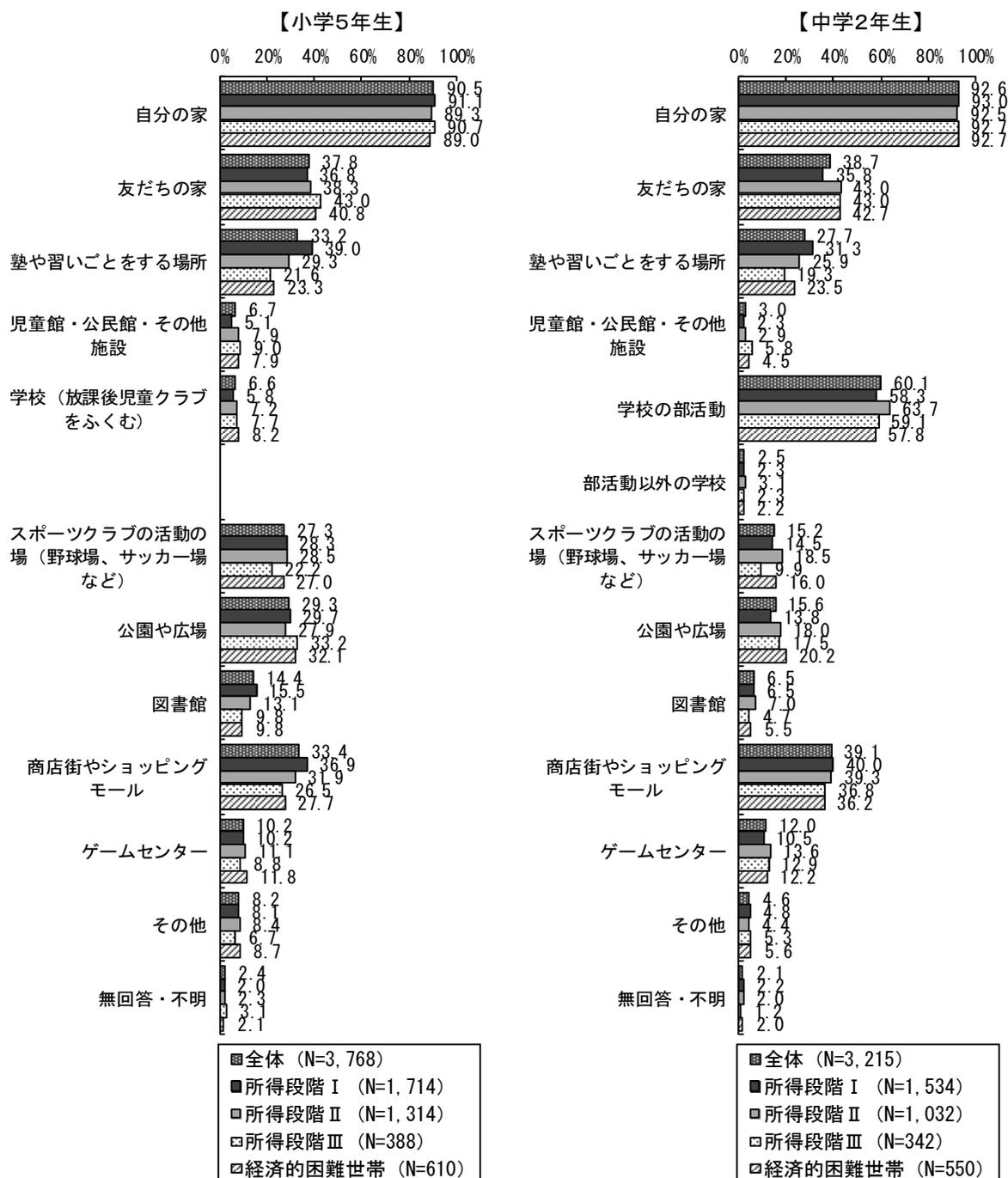
11, 12 その他（具体的に）



(3) 休日の過ごし方

休日の昼間に過ごすところについては、所得段階が低いほど、「塾や習いごとをする場所」が少なく、小学5年生については、「商店街やショッピングモール」も少なくなっています。また、いずれの学年も「スポーツクラブの活動の場」については、所得段階Ⅲで少なくなっています。一方で、小学5年生の「友だちの家」については、所得段階が低いほどやや多くなっています。

問12 あなたは、休日（学校がお休みの日）の昼間（外が明るい時間）は、どこで過ごしますか。月に1回以上過ごすところすべてに○をつけてください。【複数回答】

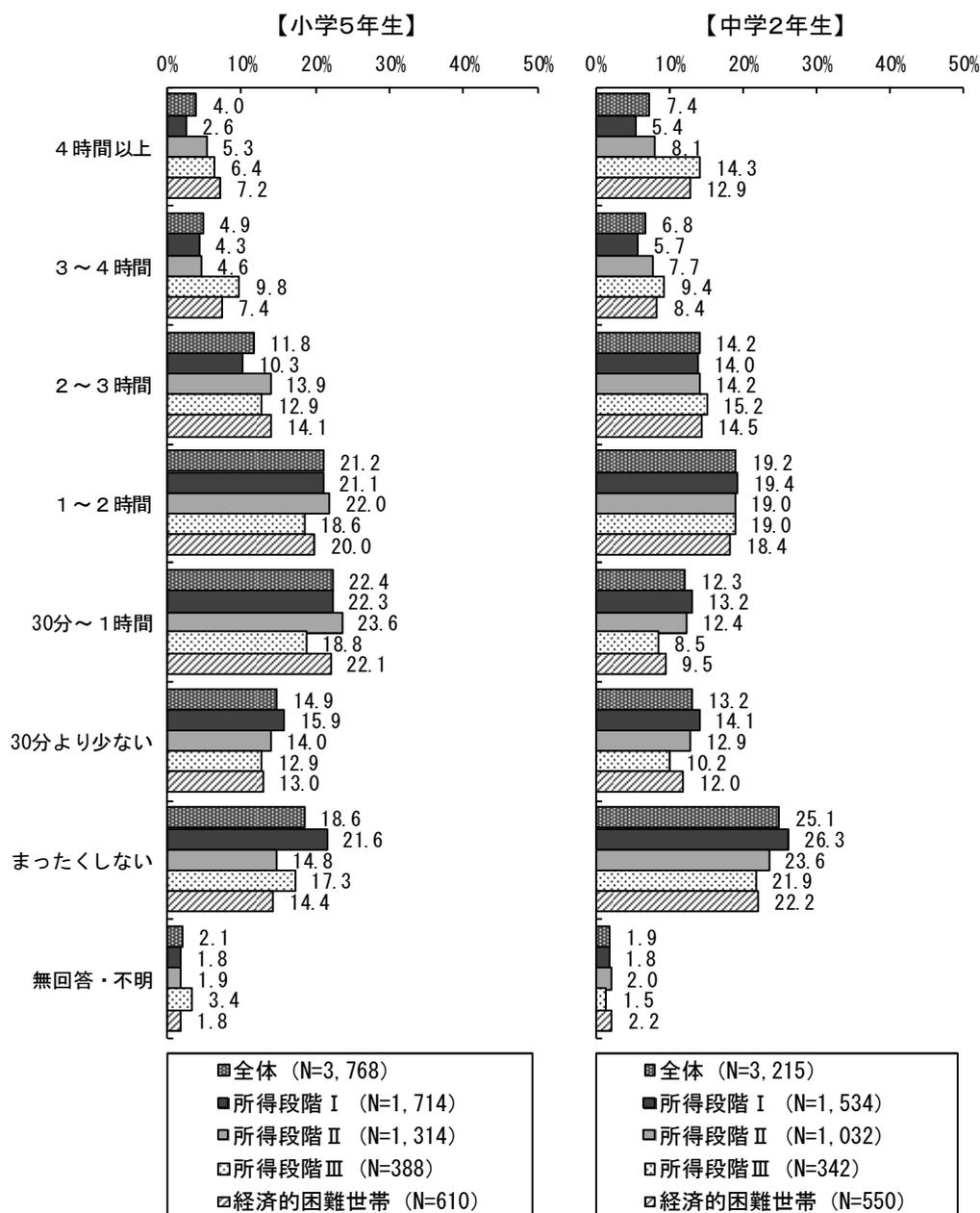


(4) 平日のゲーム・テレビ等のメディアの使用時間

平日のゲームで遊ぶ時間については、いずれの学年についても、所得段階が低いほど3時間以上の回答が多く、1時間以下の回答が少ない傾向があります。

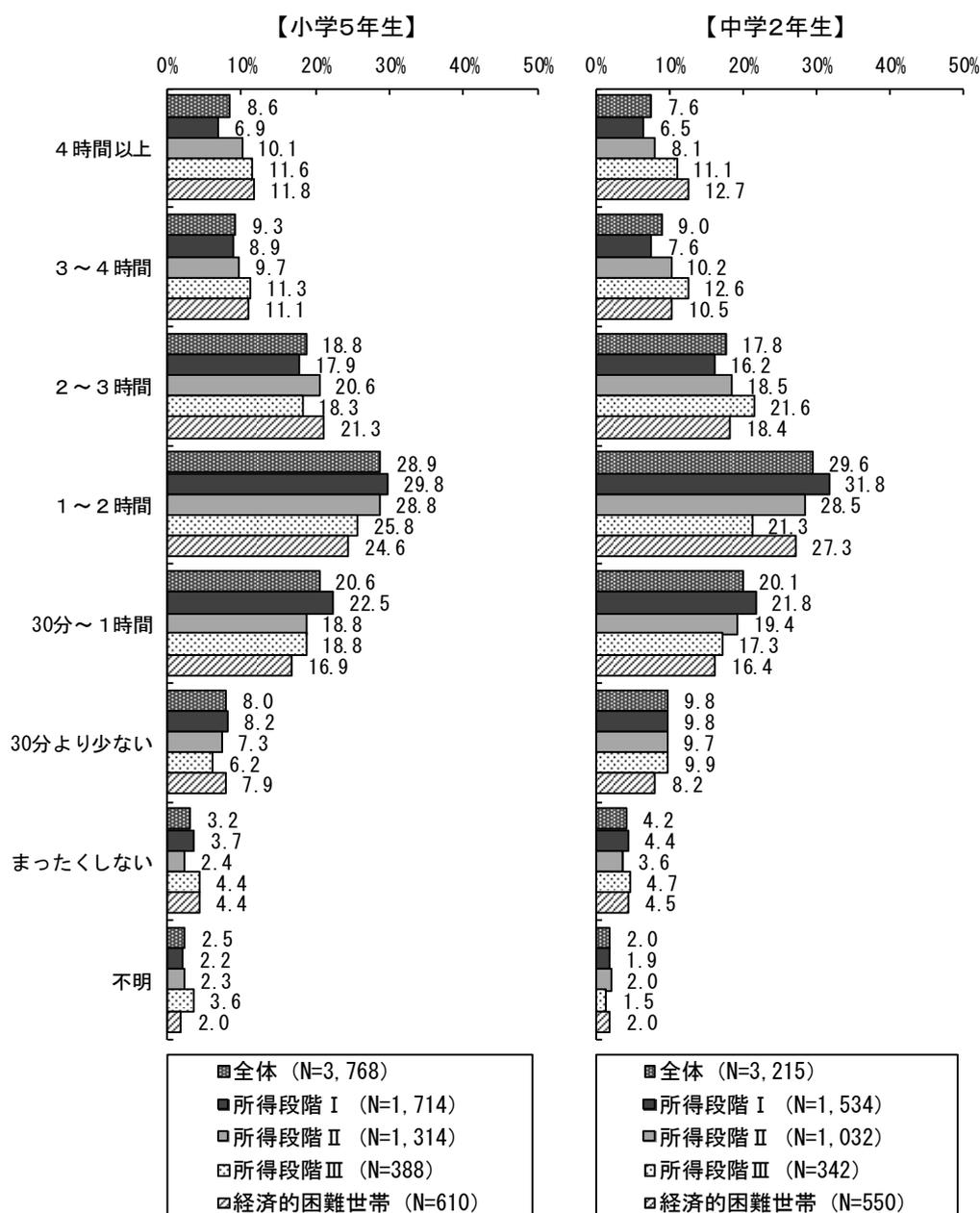
問 13 あなたはふだん（月曜日から金曜日）、次の活動を、1日あたりどれくらいの時間しますか。

A ゲーム機（コンピュータゲーム、携帯式のゲームをふくむ）で遊ぶ



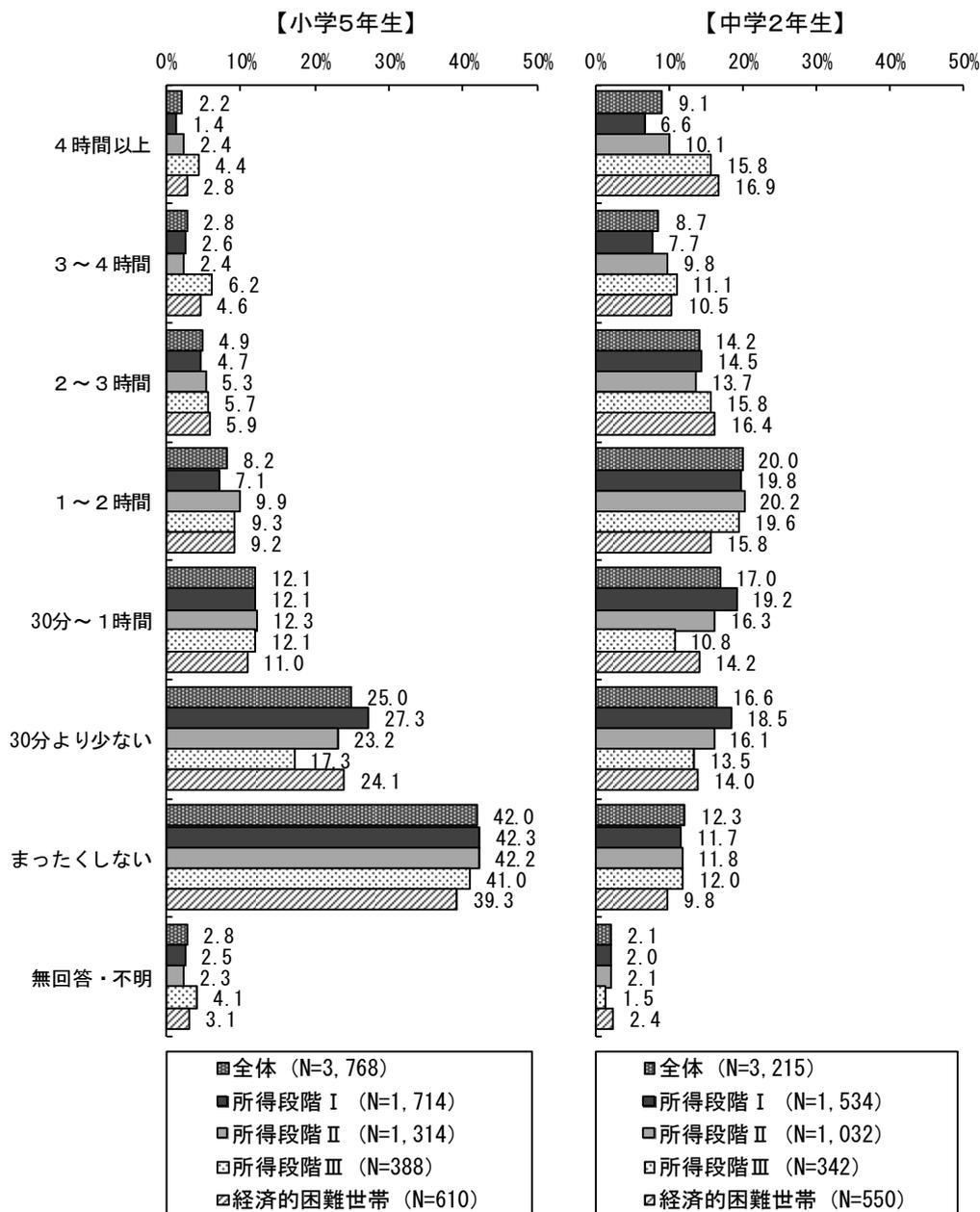
平日のテレビやビデオ等の視聴時間については、いずれの学年についても、所得段階が低いほど2時間以上の回答が多く、それより短い時間の回答が少ない傾向があります。

B テレビやビデオ・DVDを見る（勉強のために見る時間やゲームの時間はのぞきます）



平日の電話やメール、インターネットの使用時間については、小学5年生では、所得段階が低いほど、3時間以上の回答が多く、30分より少ない回答が少ない傾向があります。中学2年生でも、所得段階が低いほど3時間以上の回答が多く、2時間より少ない回答が少なくなっています。

C 電話やメール、インターネットをする（携帯電話やスマートフォン、パソコンなど）

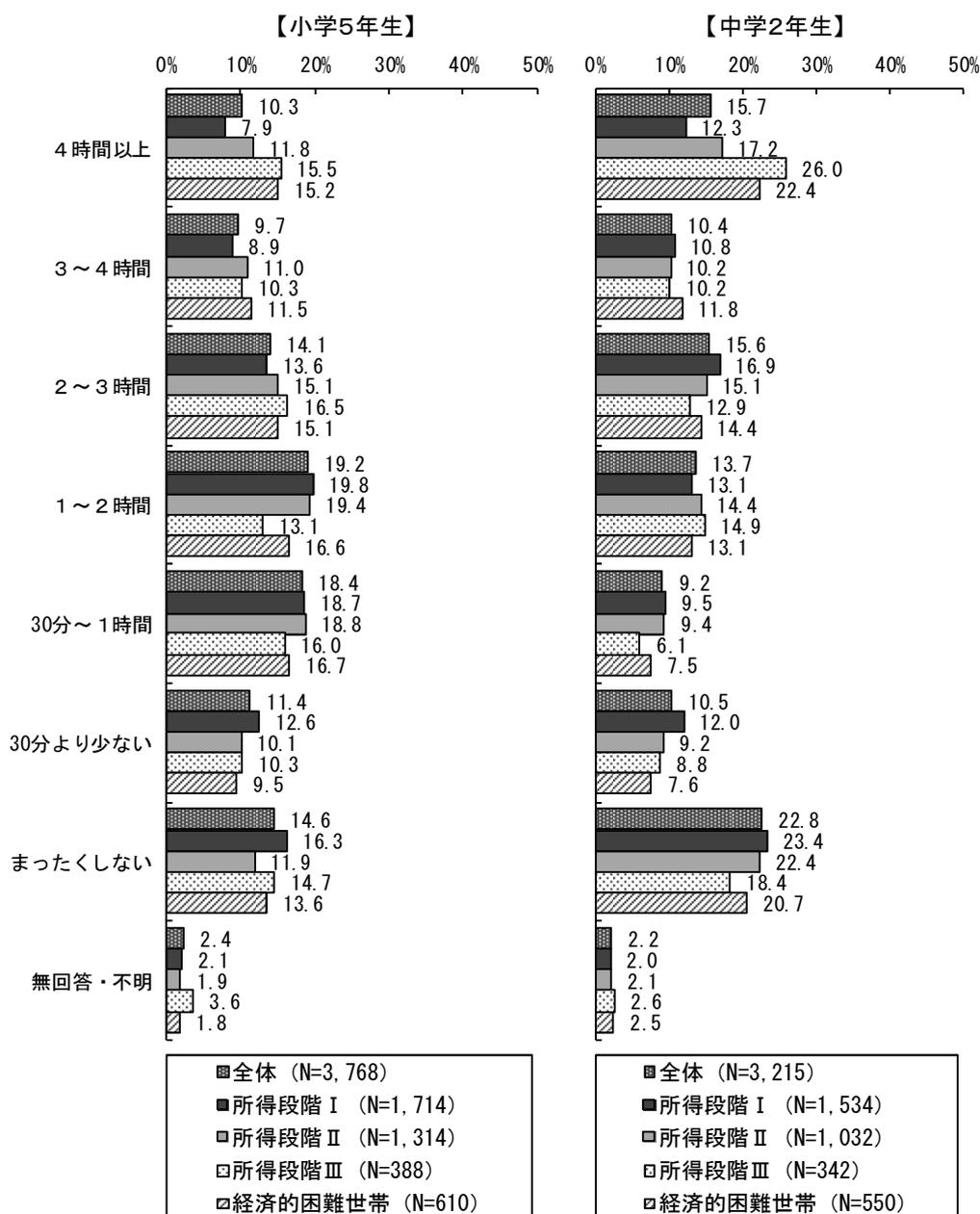


(5) 休日のゲーム・テレビ等のメディアの使用時間

休日のゲームで遊ぶ時間については、いずれの学年も所得段階が低いほど「4時間以上」が多く、「30分より少ない」という回答が少なくなっています。特に中学2年生の「4時間以上」では差が大きくなっています。

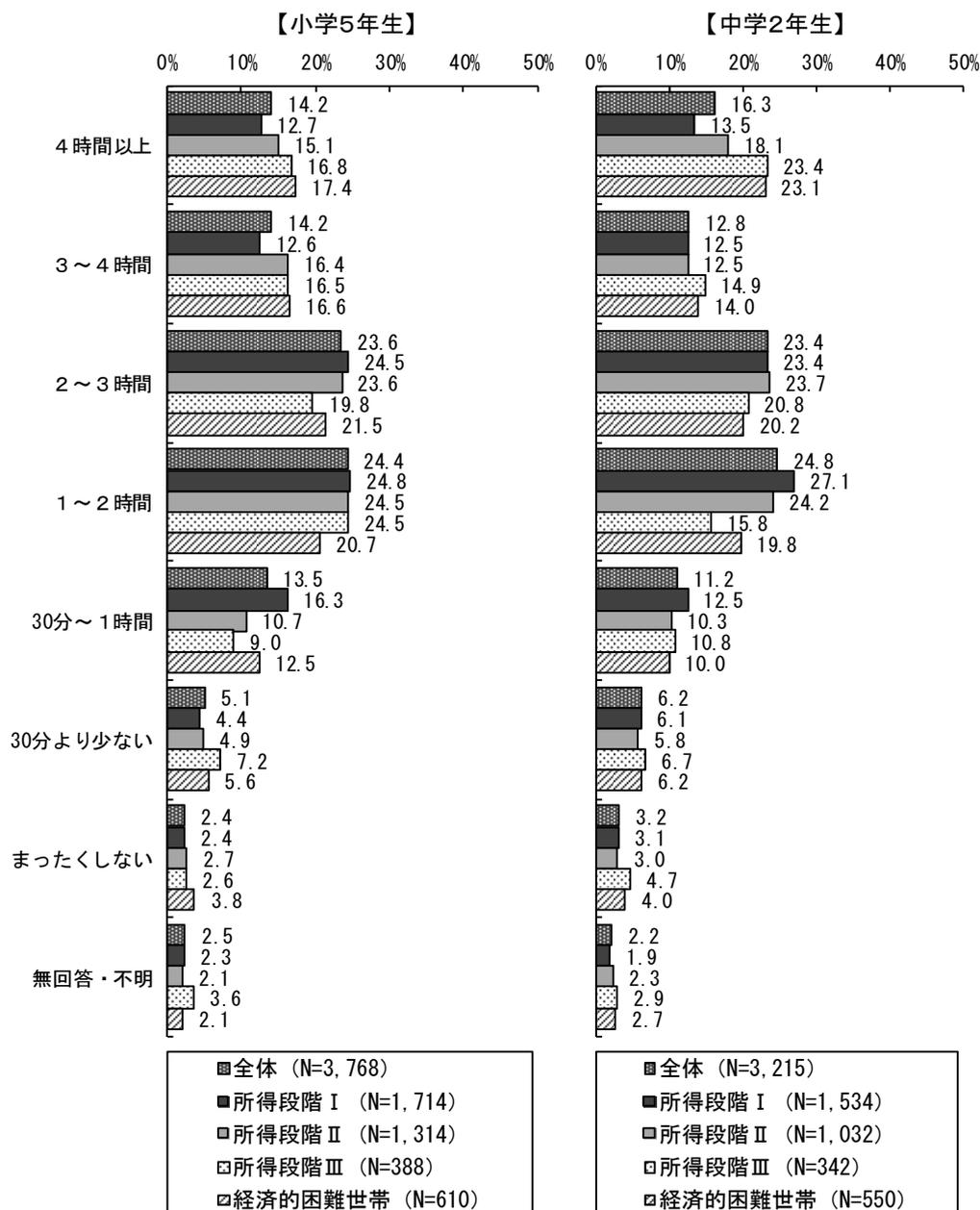
問14 あなたは、休日や夏休みなど学校がない日には、次の活動を、1日あたりどれくらいの時間しますか。

A ゲーム機（コンピュータゲーム、携帯式のゲームをふくむ）で遊ぶ



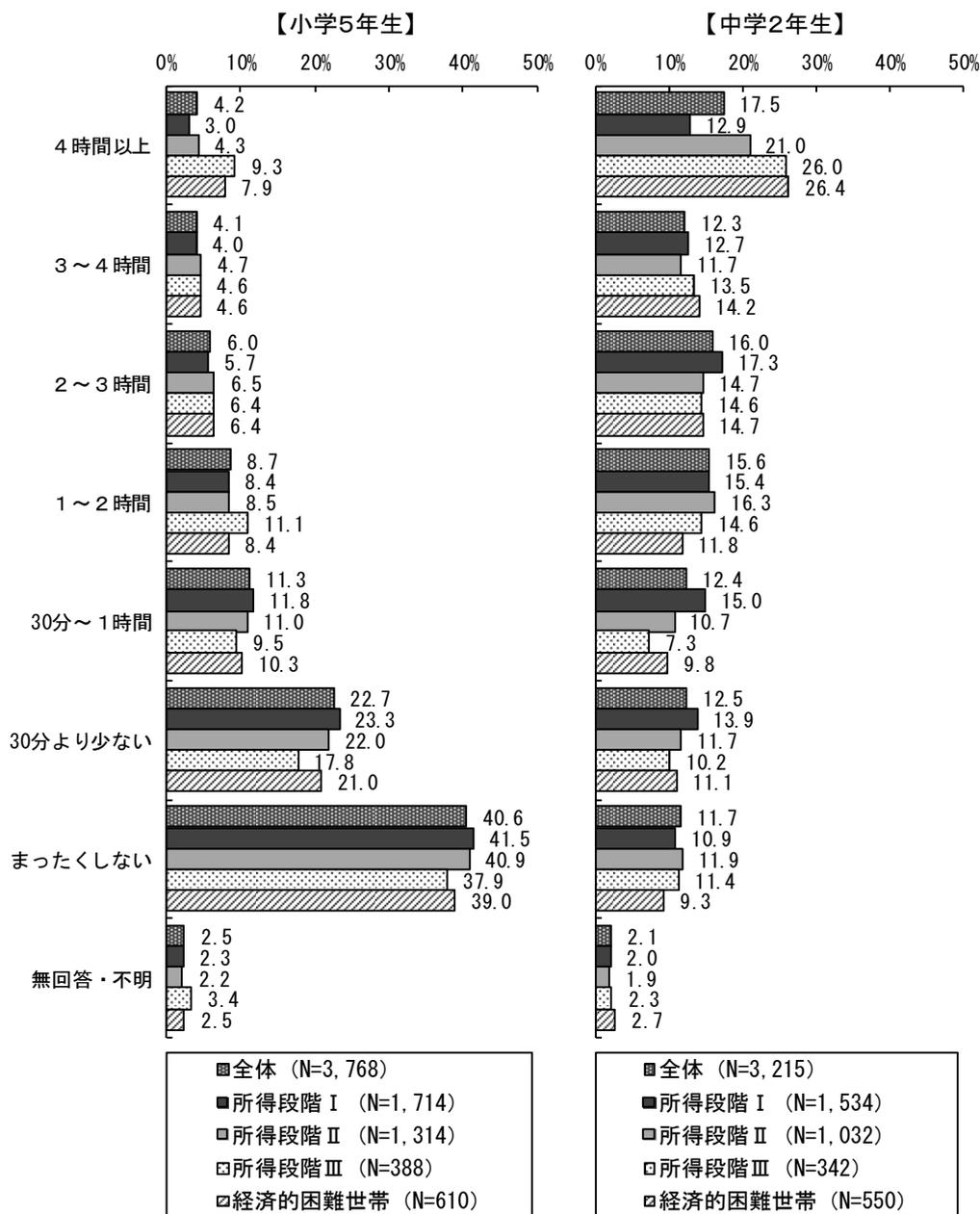
休日のテレビやビデオ等の視聴時間については、中学2年生では、所得段階が低いほど「4時間以上」が多く、「1～2時間」が少なくなっています。

B テレビやビデオ・DVDを見る（勉強のために見る時間やゲームの時間はのぞきます）



休日の電話やメール、インターネットをする時間については、いずれの学年も所得段階が低いほど「4時間以上」が多くなっています。

C 電話やメール、インターネットをする（けいたい電話やスマートフォン、パソコンなど）



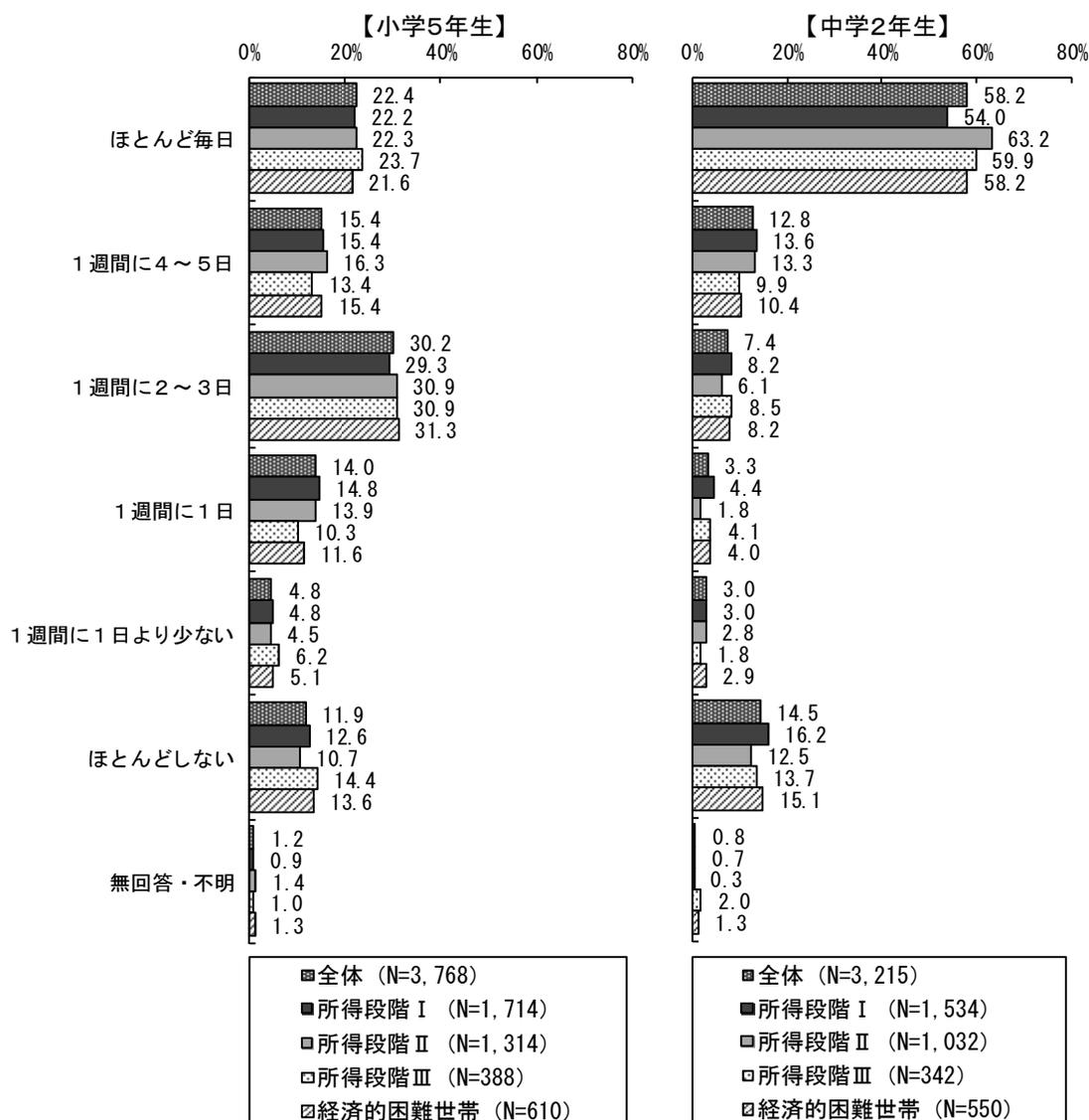
(6) 運動・家事・介護の時間

ふだん 30 分以上身体を動かす遊びや習いごとについては、小学 5 年生では「1 週間に 2～3 日」、中学 2 年生では「ほとんど毎日」が最も多く、所得段階による差は見られません。

問 15 あなたはふだん、次の活動をどれくらいしますか。

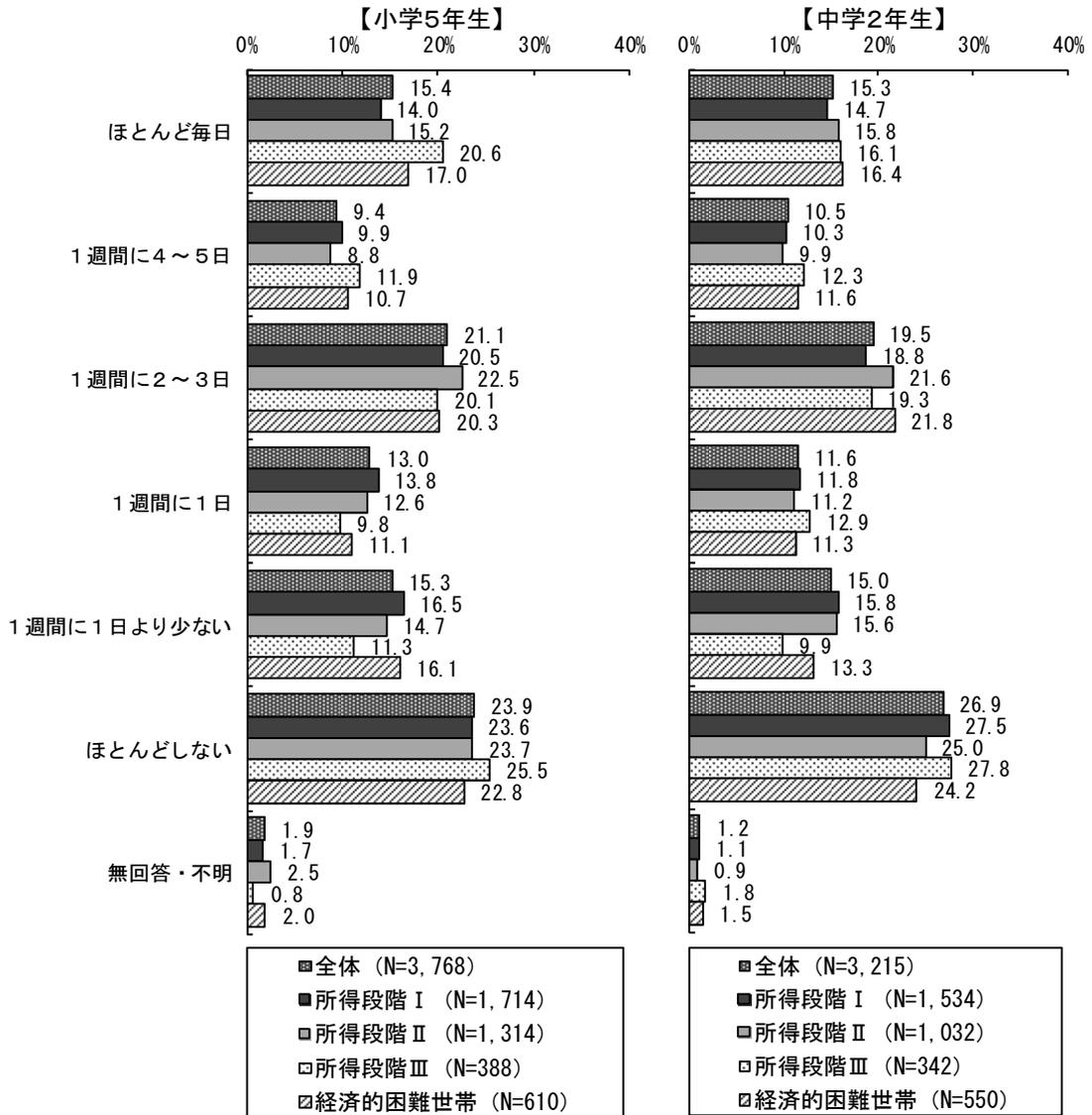
A 30 分以上身体を動かす遊びや習いごと

※例：ボール遊び、自転車、サッカー、野球、空手、剣道、体操、バレエ、水泳など。



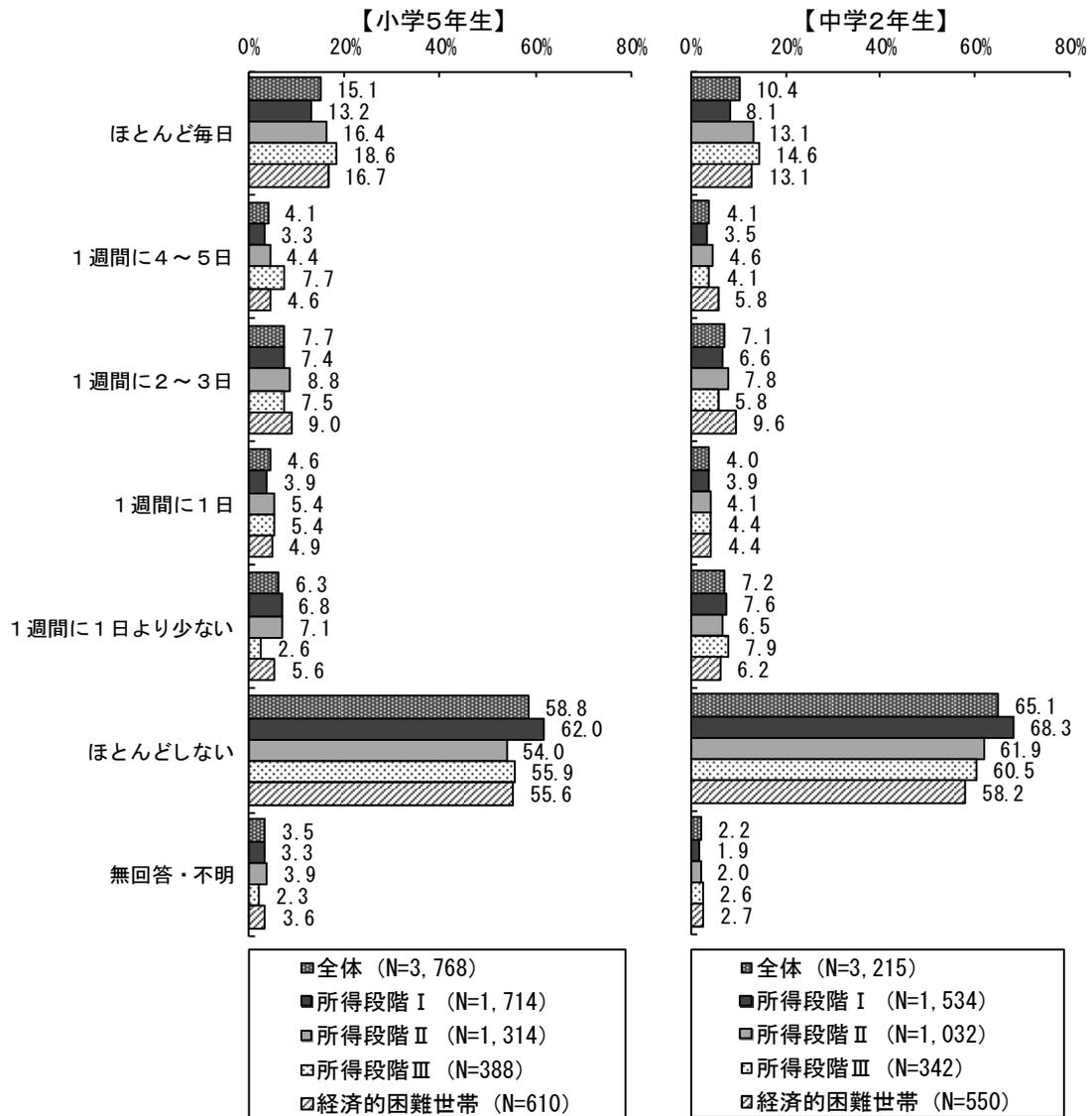
小学5年生では、所得段階が低いほど「ほとんど毎日」がやや多くなっています。

B 家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）



いずれの学年も所得段階が低いほど「ほとんど毎日」がやや多くなっています。また、中学2年生では所得段階が低いほど「ほとんどしない」がやや少なくなっています。

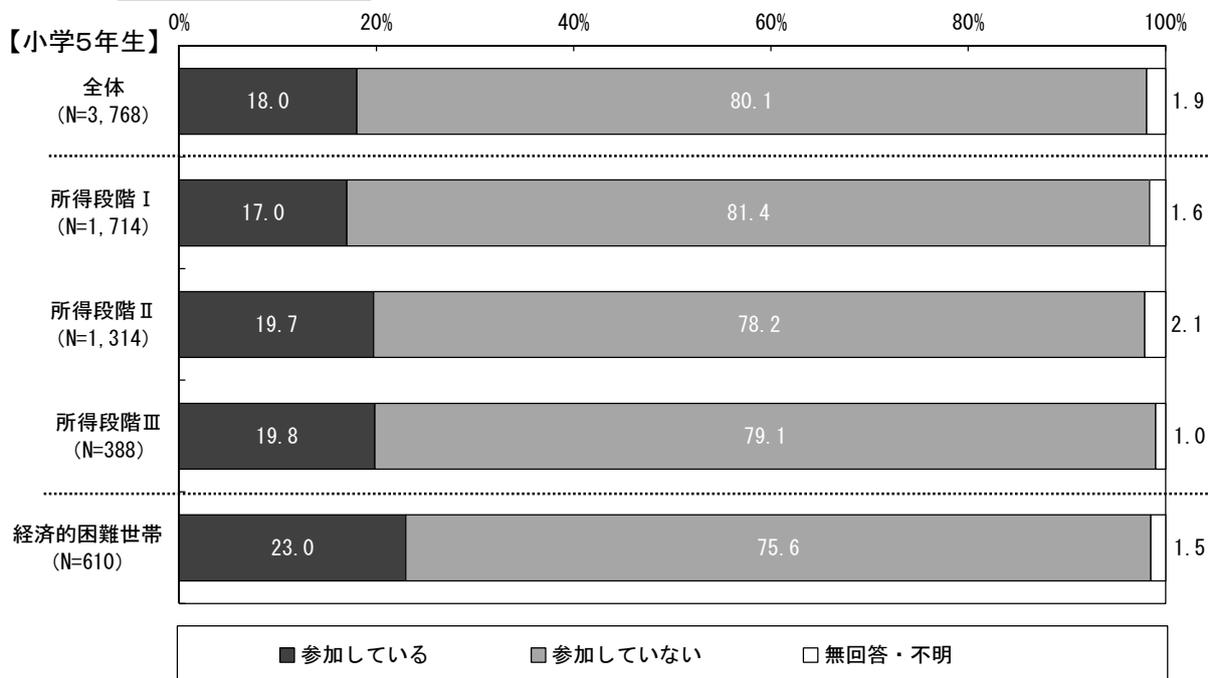
C 兄弟姉妹の世話や家族の介護



(7) 放課後児童クラブ

放課後児童クラブの参加状況については、所得段階Ⅰがやや少なくなっています。

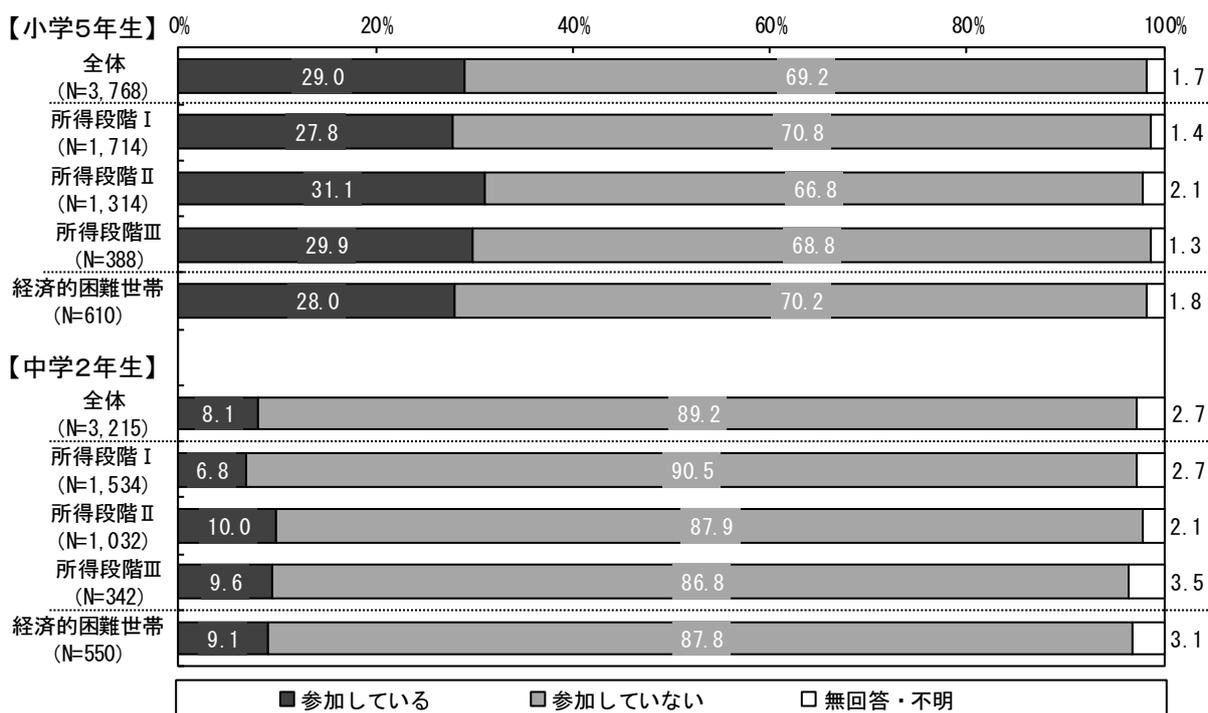
問 16 (小学5年生のみ) あなたは、放課後児童クラブに参加していますか。



(8) 地域の子ども会

地域の子ども会については、小学5年生ではどの世帯区分も3割前後が参加しています。所得段階による差は見られません。

問 17, 16 あなたは、地域の子ども会に参加していますか。



(9) 読書

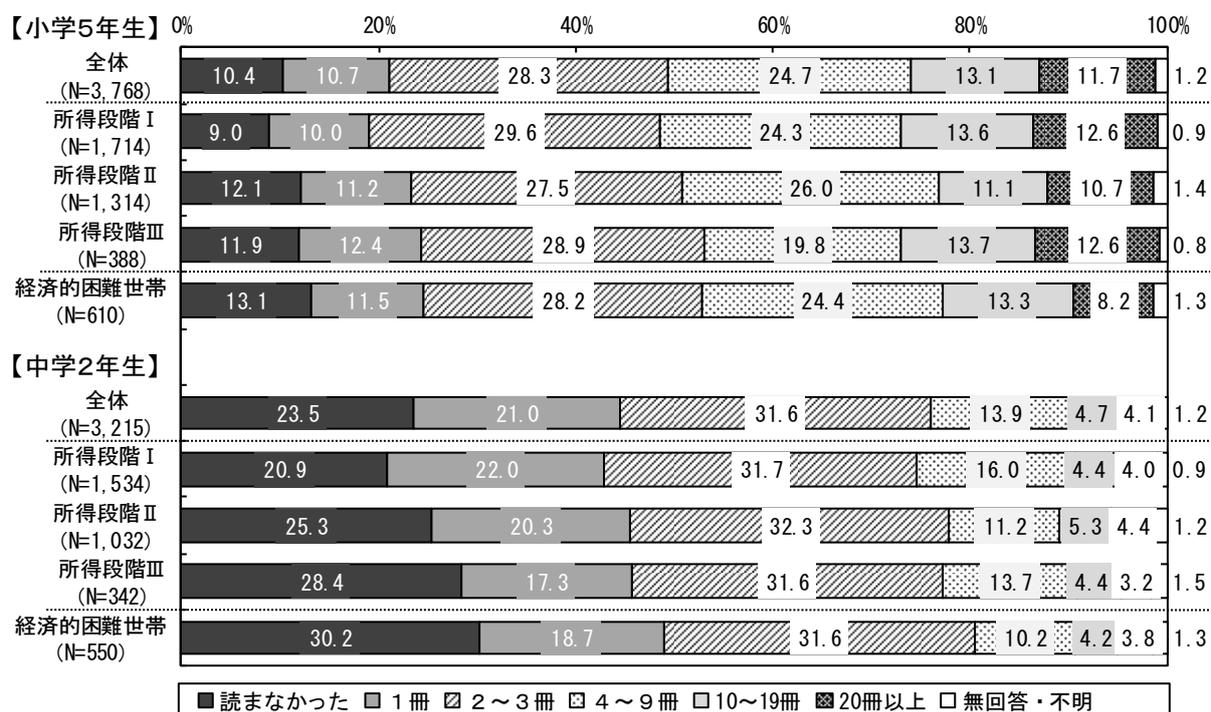
1か月の間に読んだ本の冊数については、小学5年生では明確な差は見られませんが、中学2年生では所得段階が低いほど「読まなかった」がやや多くなっていますが、2～3冊以上については差がありません。

問 18, 17 あなたは、この1か月の間に本を何冊くらい読みましたか。

※自宅以外で読んだ本も数えてください。

※パソコンやタブレット、スマートフォンなどで読める本（電子書籍）も数えてください。

※雑誌やマンガは、内容に関わらず、数にふくめないでください。

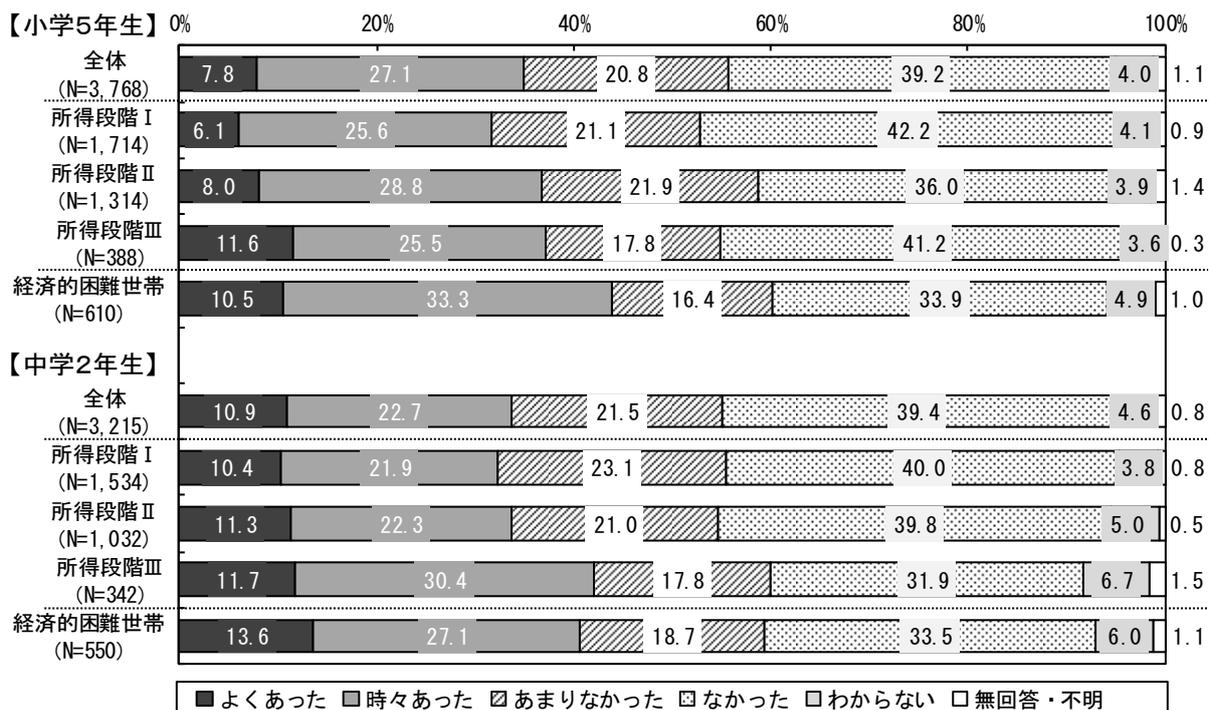


(10) 長期欠席等の状況

学校に行きたくないと考えたことについて、「よくあった」または「時々あった」という回答は、いずれの学年も所得段階Ⅰで最も少なく、小学5年生では経済的困難世帯、中学2年生では所得段階Ⅲで最も多くなっています。

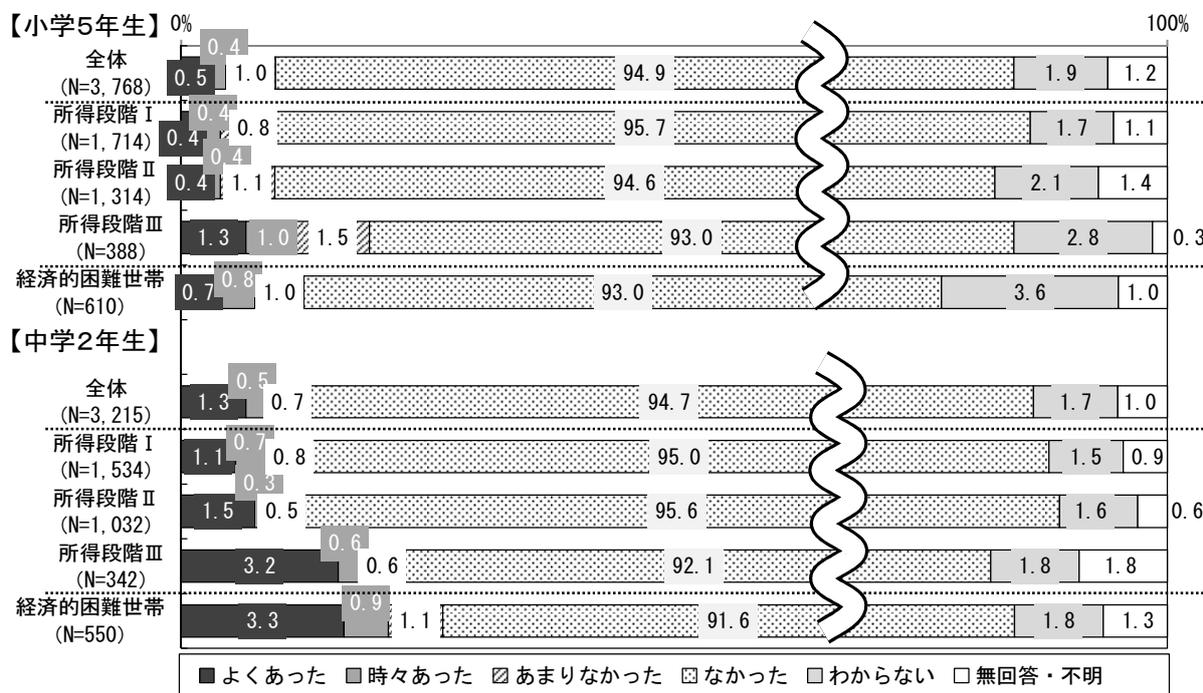
問 19, 18 あなたは、これまでに次のようなことがありましたか。

A 学校に行きたくないと考えた



1か月以上学校を休んだことについては、いずれの学年も所得段階Ⅲで、所得段階Ⅰ、Ⅱと比べて「よくあった」がやや多くなっています。

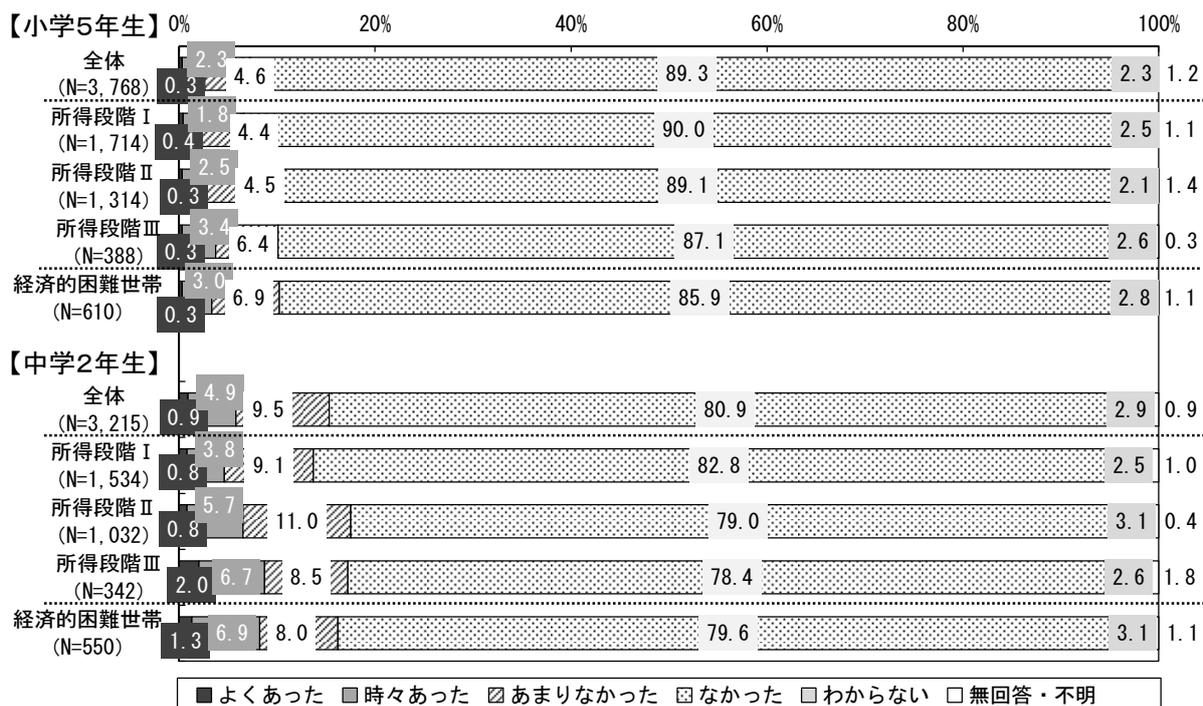
B 1か月以上学校を休んだ（病気やけがのときをのぞく）



※「なかった」の幅を縮小し、グラフの両端を拡大しています。

夜遅くまで子供だけで過ごしたについて、「よくあった」または「時々あった」という回答は、いずれの学年も所得段階が低いほどやや多くなっています。

C 夜遅くまで子供だけで過ごした

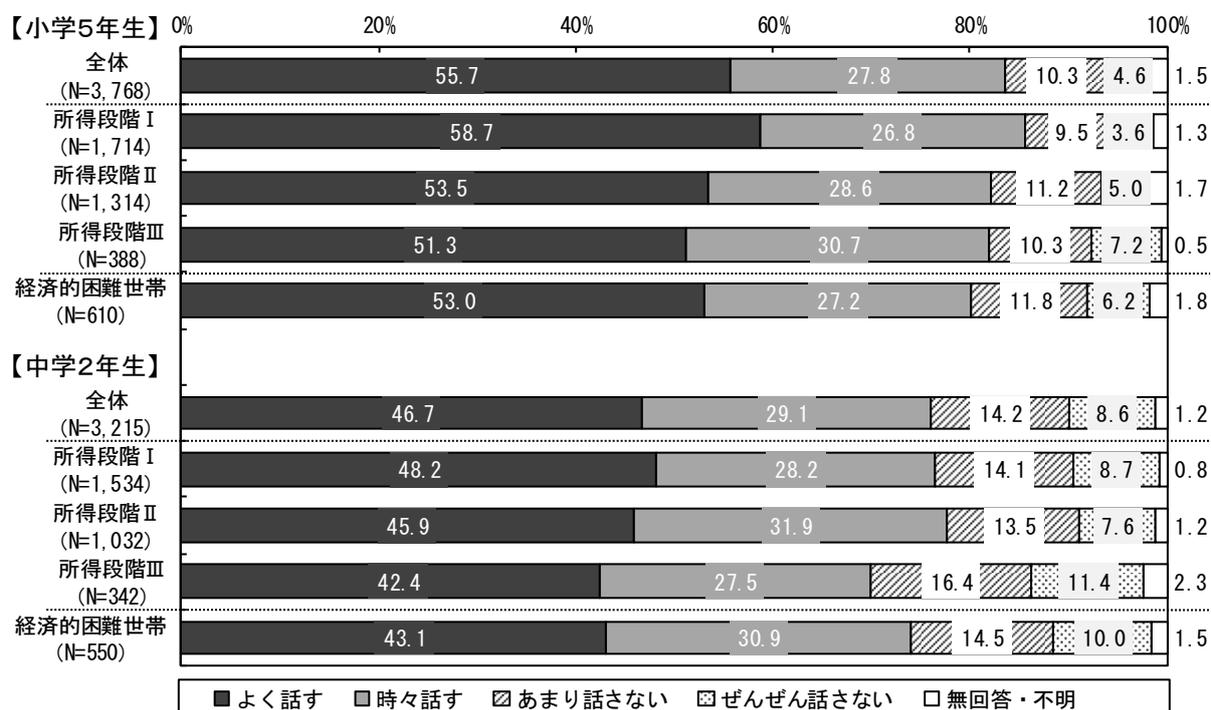


(11) 悩みごとなどを話す相手

困っていることや悩みごと等を話す相手として「家族（お母さん・お父さん）」という回答は、いずれの学年も所得段階が低いほど「よく話す」がやや少なくなっています。また、中学2年生の所得段階Ⅲでは、「あまり話さない」または「ぜんぜん話さない」がやや多くなっています。

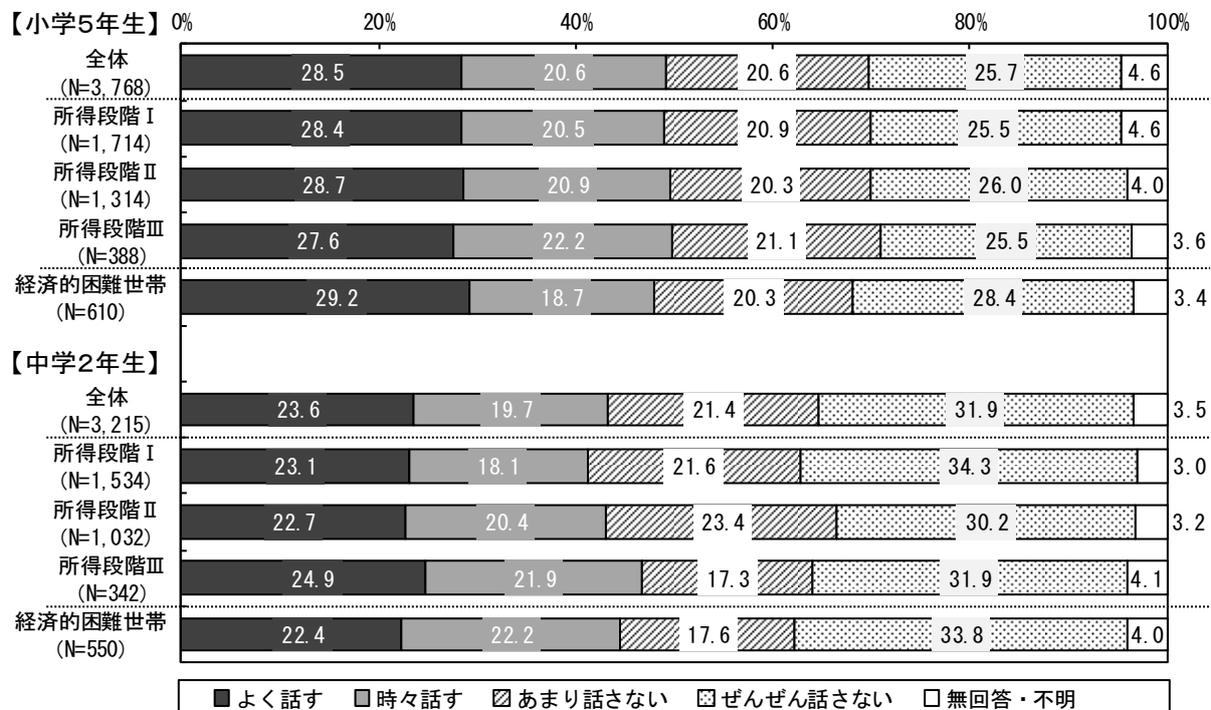
問 20, 19 あなたはふだん、困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、他の人にどれくらい話しますか。「1 よく話す」から「4 ぜんぜん話さない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。電話、メール、LINEなどもふくめて考えてください。

A 家族（お母さん・お父さん）



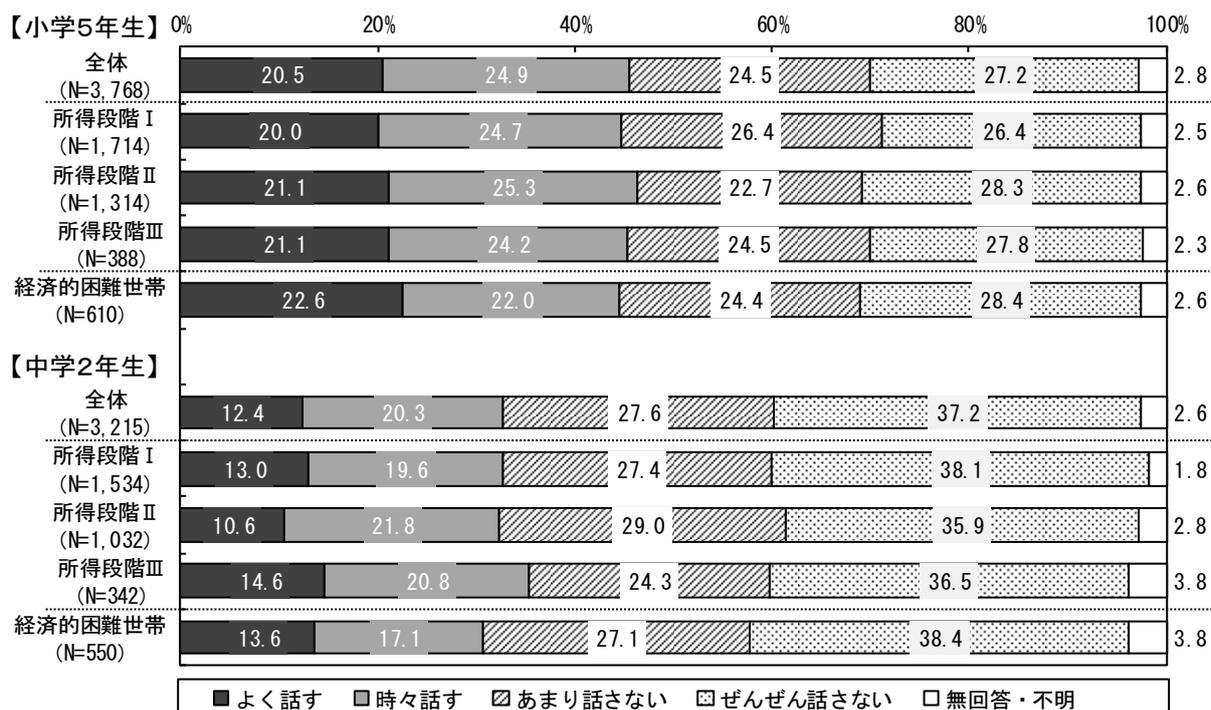
悩みごと等を話す相手として「家族（きょうだい）」については、所得段階による差はあまり見られません。

B 家族（きょうだい）



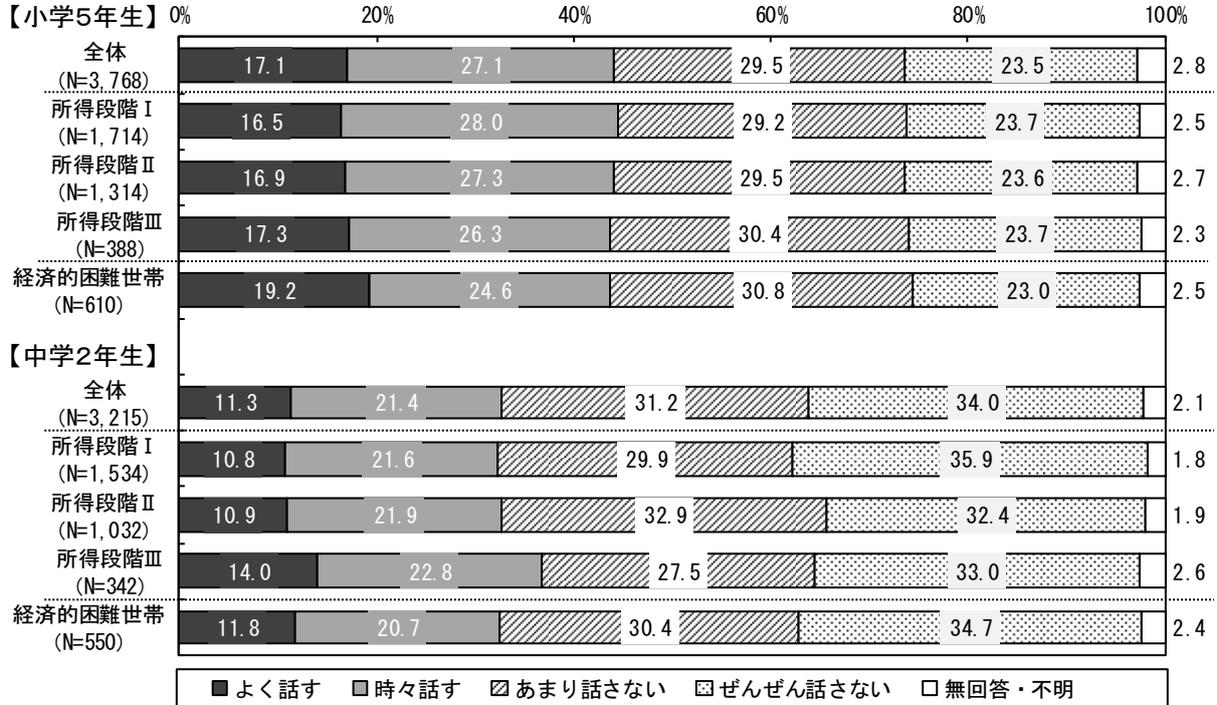
「その他の家族」についても所得段階による差はあまり見られません。

C その他の家族（おじいちゃん・おばあちゃんなど）



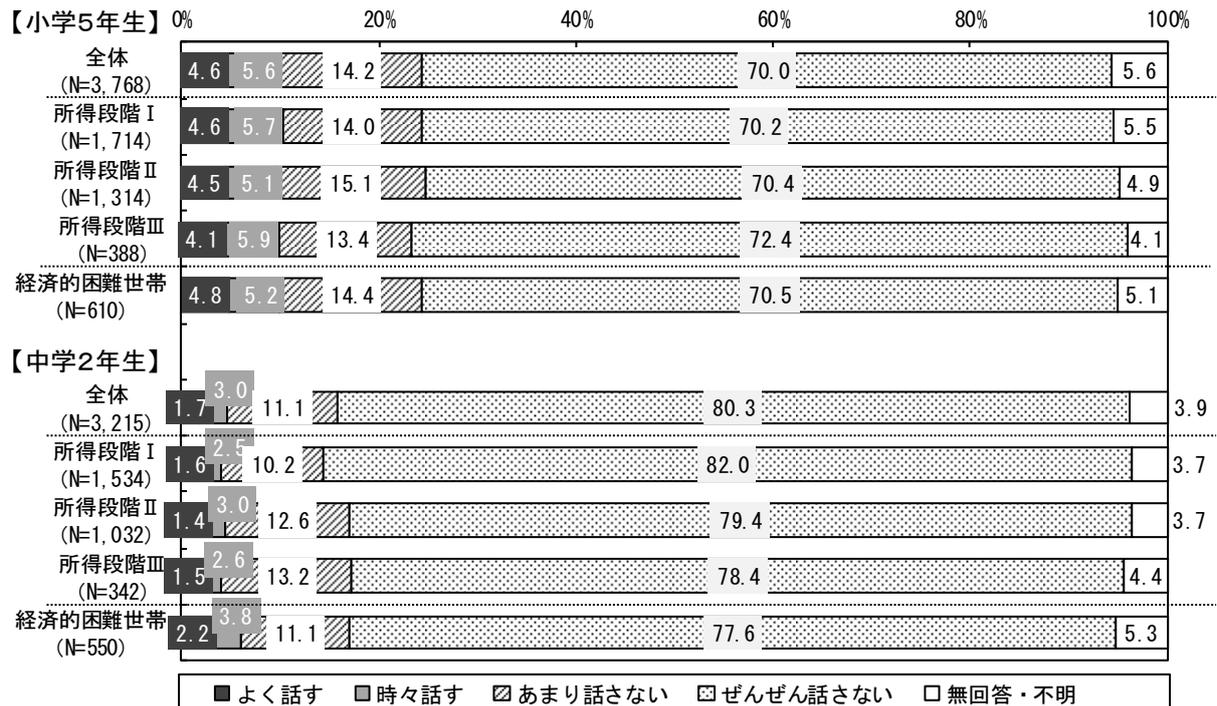
「学校の先生」についても所得段階による差はあまり見られませんが、中学2年生の所得段階Ⅲで「よく話す」がやや多くなっています。

D 学校の先生



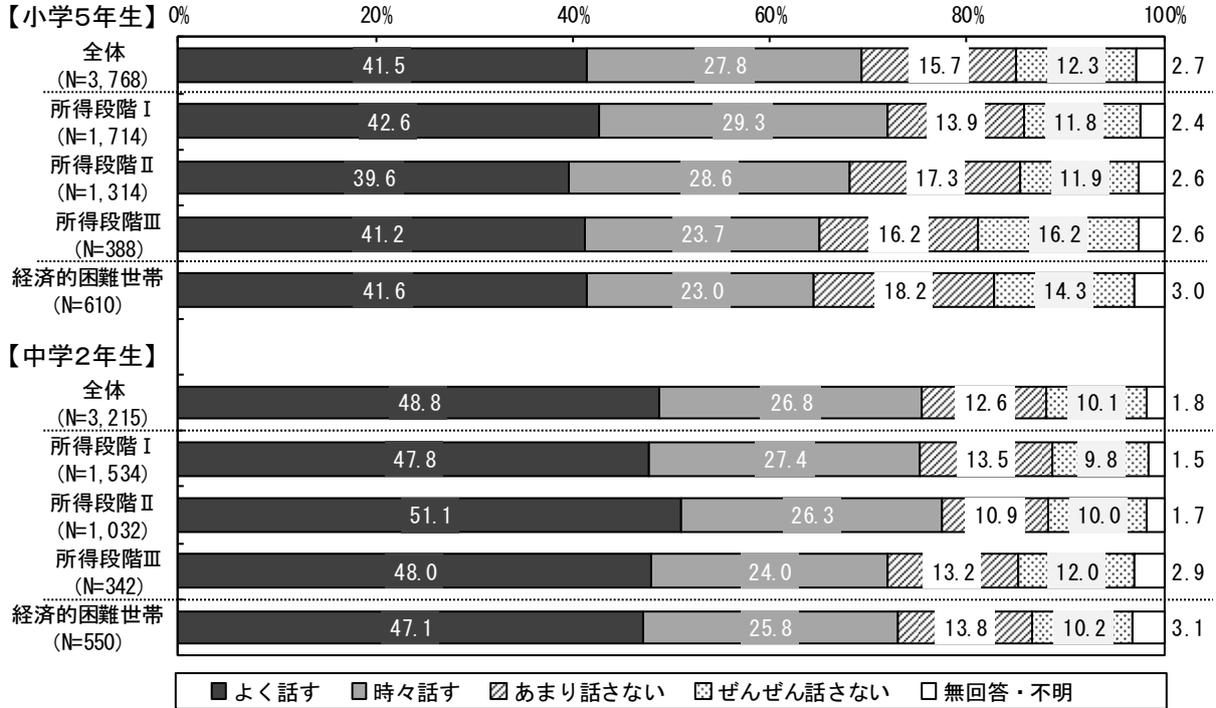
「放課後児童クラブ、子ども会、その他施設の先生」については、所得段階による差はあまり見られません。

E 放課後児童クラブ、子ども会、その他施設の先生



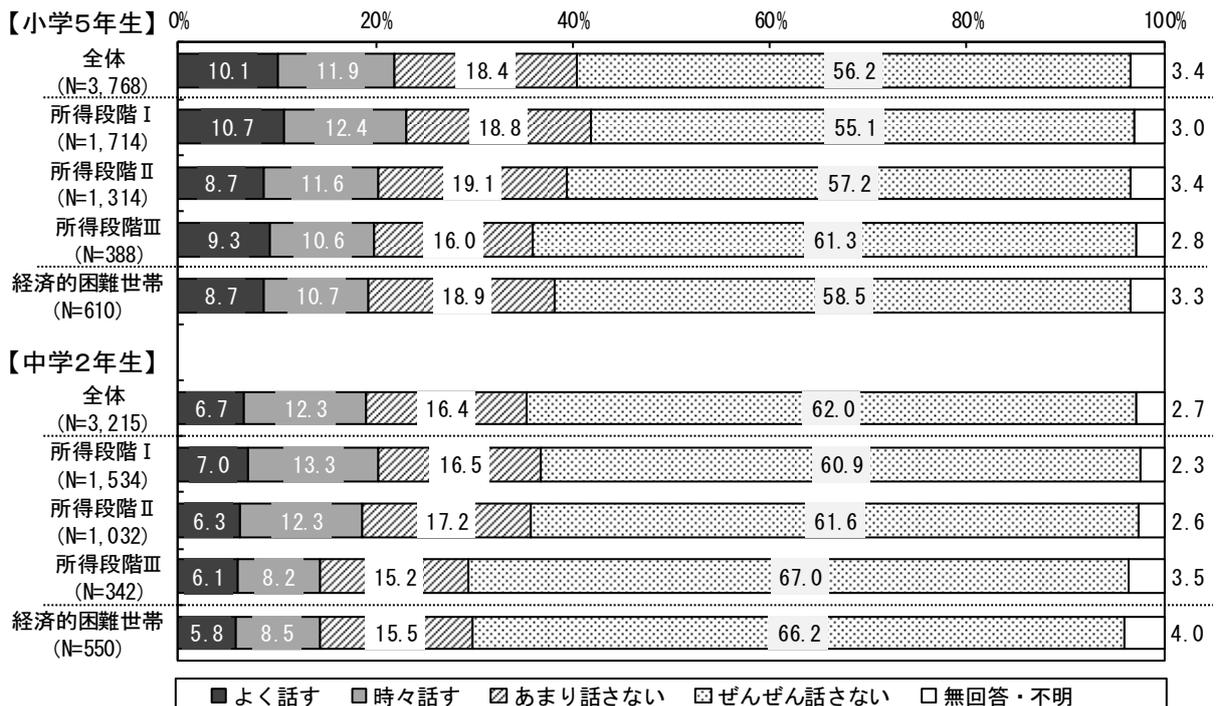
悩みごとなどを話す相手として、「友だち」については、いずれの学年も所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で「あまり話さない」または「ぜんぜん話さない」がやや多くなっています。

F 友だち



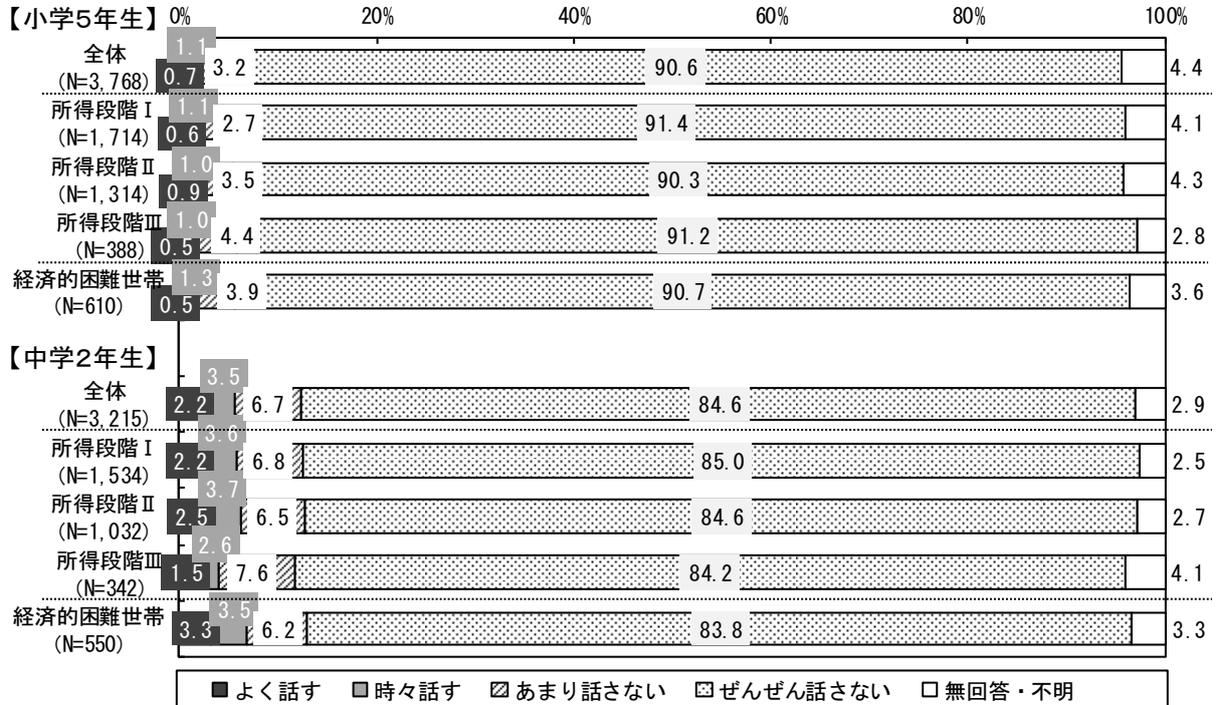
「その他の大人」については、所得段階が低いほど、「ぜんぜん話さない」がやや多くなっています。

G その他の大人（近所の大人や塾・習いごとの先生など）



「インターネットでの知り合い」については、「よく話す」または「時々話す」という回答は小学5年生で2%程度、中学2年生で5~6%で、所得段階による差は見られません。

H インターネットでの知り合い



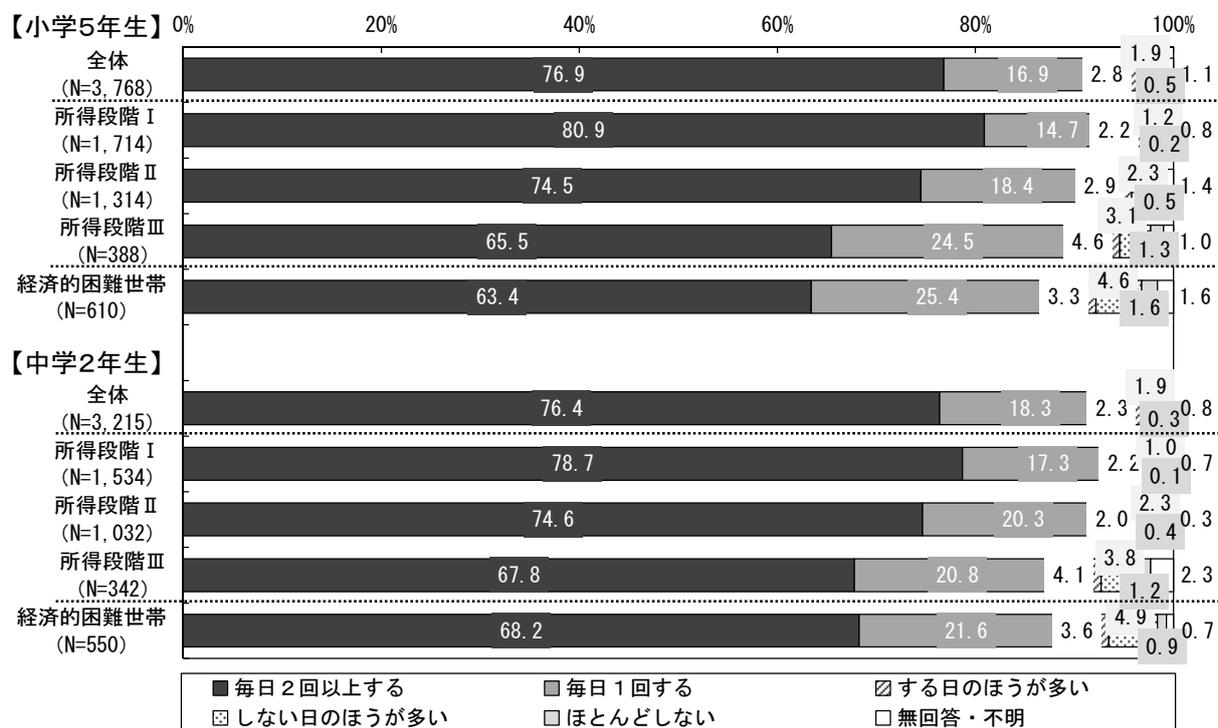
5. 日常生活習慣について

(1) 歯磨き・入浴

歯磨きの回数については、いずれの学年も、所得段階が低いほど「毎日2回以上する」が少なくなっています。所得段階Ⅲ、経済的困難世帯では、「する日のほうが多い」または「しない日のほうが多い」という回答もやや多くなっています。

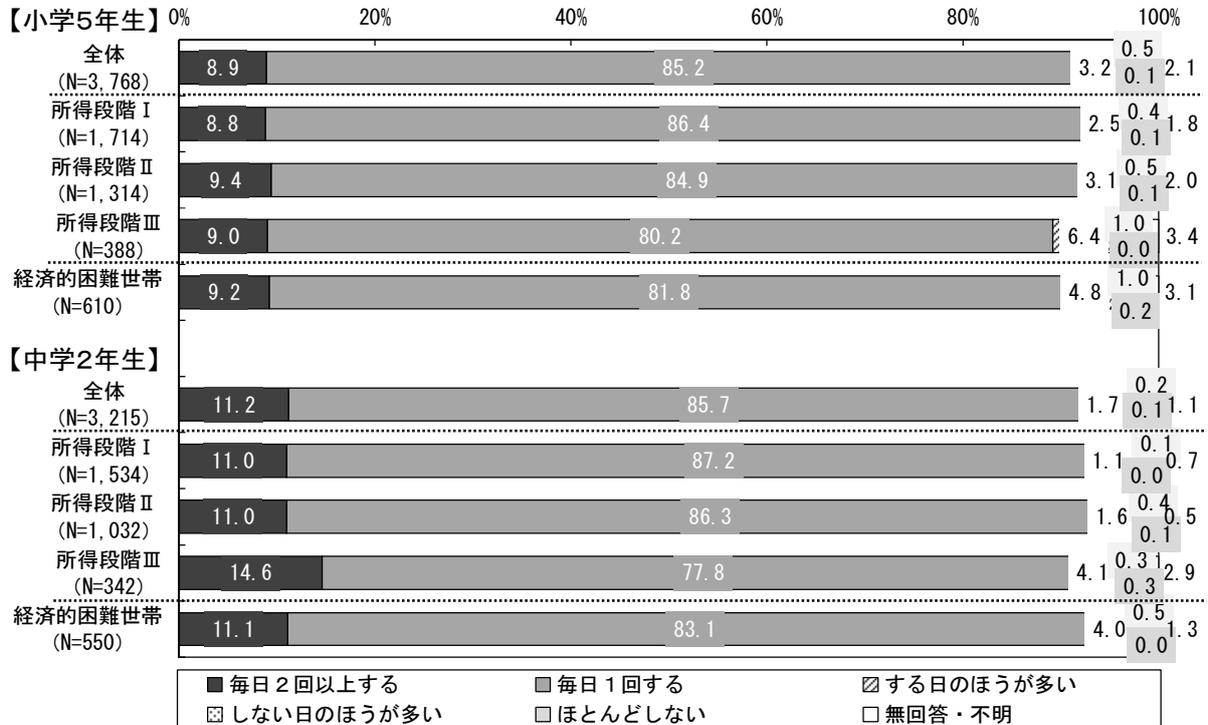
問 21, 20 あなたは、歯磨きや入浴（風呂、シャワー）をしますか。

A 歯磨き



入浴の回数については、いずれの学年も所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で「する日のほうが多い」がやや多くなっています。また、中学2年生の所得段階Ⅲで「毎日2回以上する」がやや多くなっています。

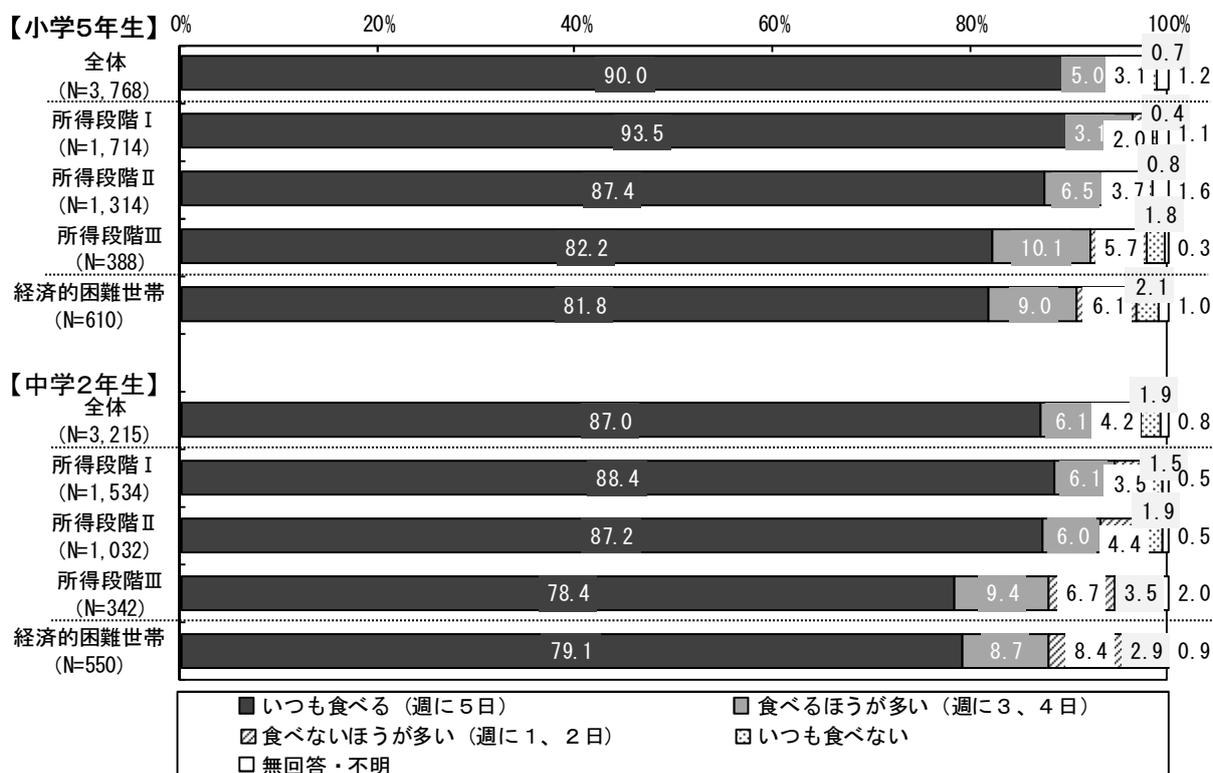
B 入浴



(2) 朝食

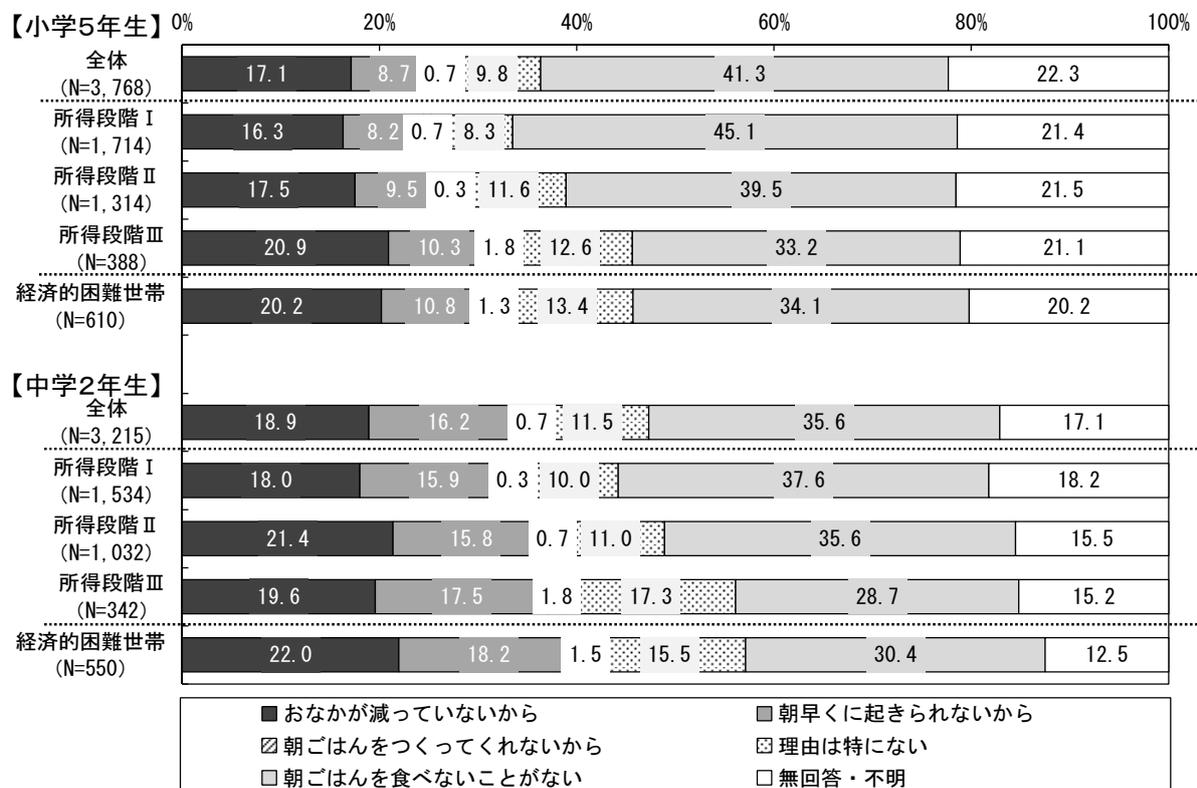
ふだんの朝食については、小学5年生では所得段階が低いほど「いつも食べる」がやや少なく、
 中学2年生でも所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で「いつも食べる」が少なくなっています。

問 22, 21 あなたはふだん、朝ごはんを食べますか。



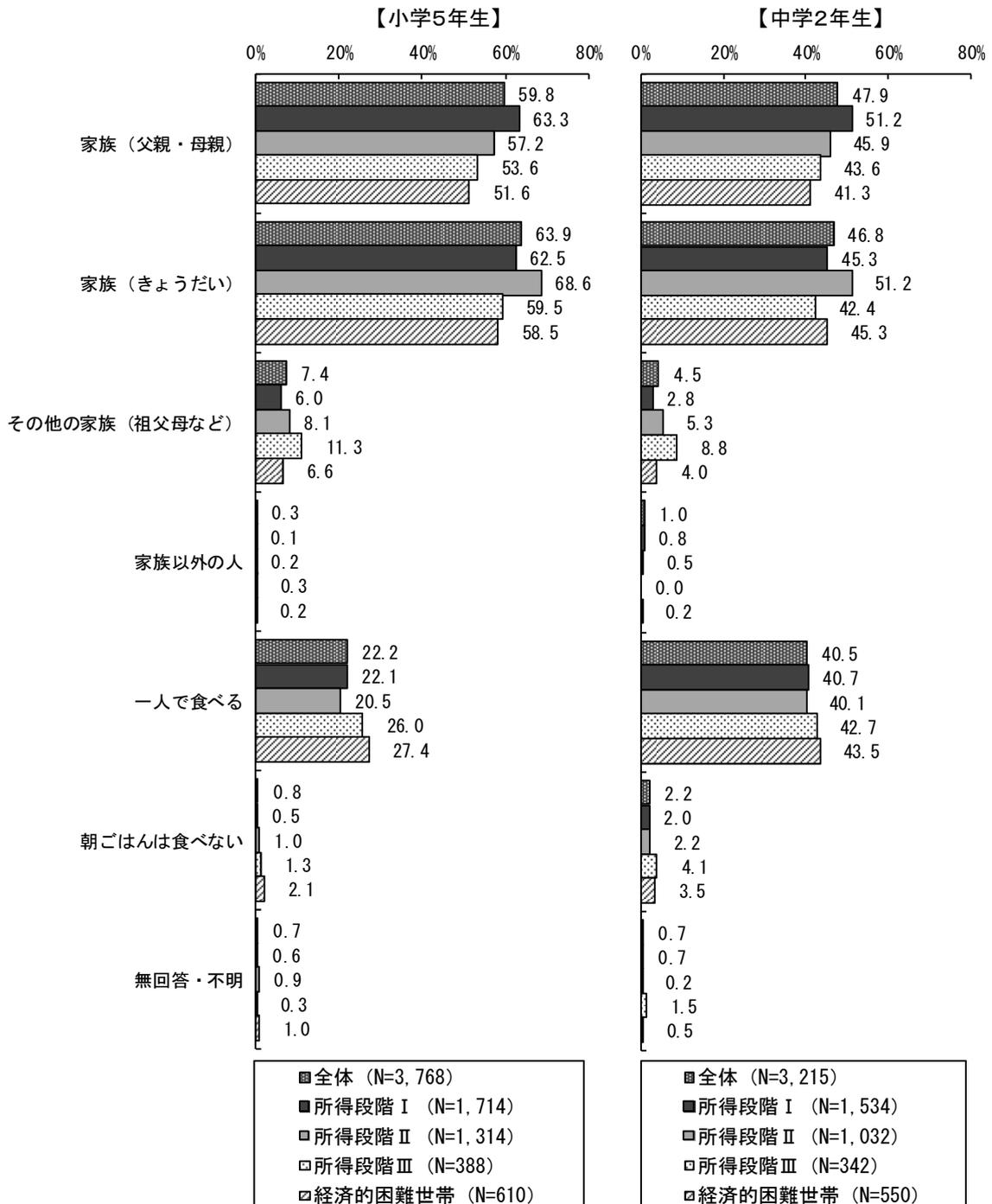
朝食を食べない理由については、いずれの学年も所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で「理由は特にない」がやや多く、小学5年生では「おなかが減っていないから」もやや多くなっています。

問 22-1, 21-1 あなたがふだん、朝ごはんを食べないことがあるとしたら、食べない理由は何ですか。いちばん多くあてはまる理由を1つ教えてください。



朝食を誰と食べるかについては、所得段階が低いほど、「家族（父親・母親）」がやや少なく、「その他の家族」がやや多くなっています。

問 23, 22 あなたはふだん、朝ごはんをだれと食べますか。【複数回答】



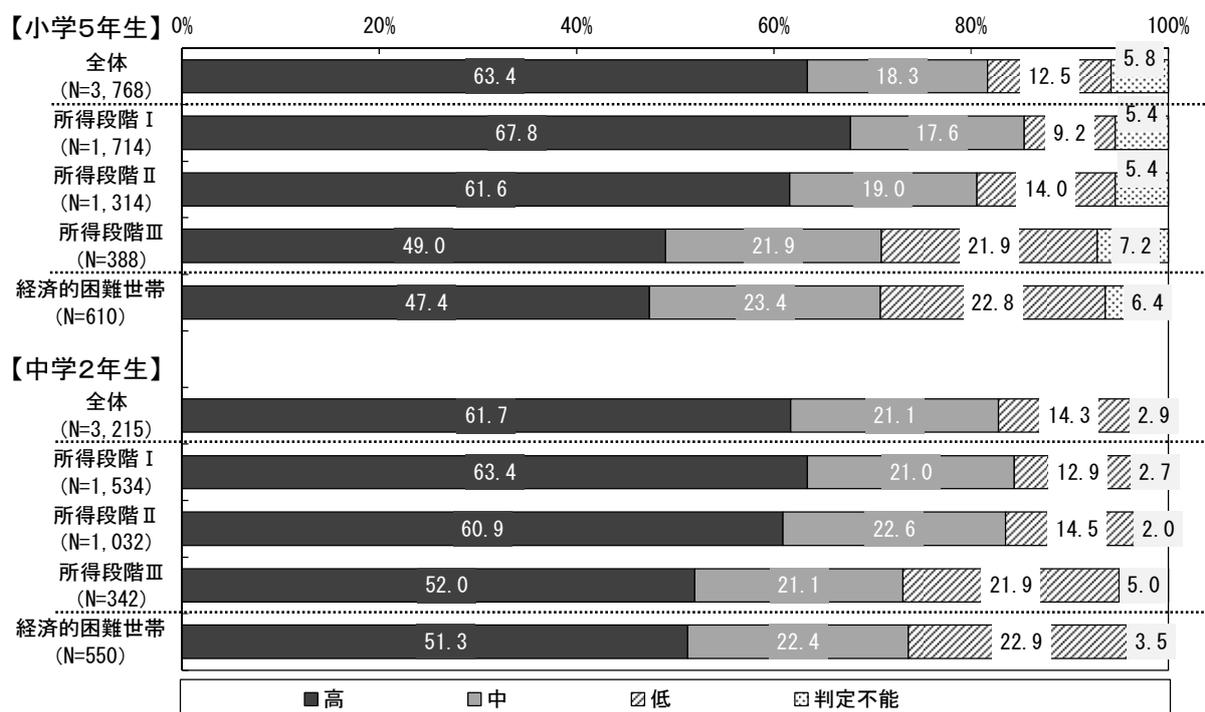
(3) 生活習慣

起床時刻、就寝時刻、歯磨きをする頻度、入浴する頻度、朝食をとる頻度を下表のように指標化し、世帯の経済状況と生活習慣について分析しました。経済的に厳しい世帯の子供ほど、生活習慣が備わっていない結果となっています。

生活習慣得点(「V-1 追加的な分析のための指標の作成について」参照)

算出に用いる質問と回答	得点化の方法
①質問:あなたは、学校がある日はだいたい朝何時ごろに起きますか。	・①と②については、「決まっていない」を0点、それ以外の回答を1点とする。 ・③-A(歯磨き)については、「毎日2回以上する」を2点、「毎日1回する」を1点、「する日のほうが多い」「しない日の方がほうが多い」「ほとんどしない」を0点とする。 ・③-B(入浴)については、「毎日2回以上する」「毎日1回する」を2点、「する日のほうが多い」を1点、「しない日の方がほうが多い」「ほとんどしない」を0点とする。 ・④については、「いつも食べる」を2点、「食べるほうが多い」を1点、「食べないほうが多い」「いつも食べない」を0点とする。 ①～④の点数を合算した合計得点が8点を生活習慣高、7点在中、6点以下を低とします。
②質問:あなたは、次の日に学校がある日は、だいたい何時ごろに寝ますか。	
③質問:あなたは、歯磨きや入浴(風呂、シャワー)をしますか。【A歯磨き、B入浴】	
④質問:あなたはふだん、朝ごはんを食べますか。	

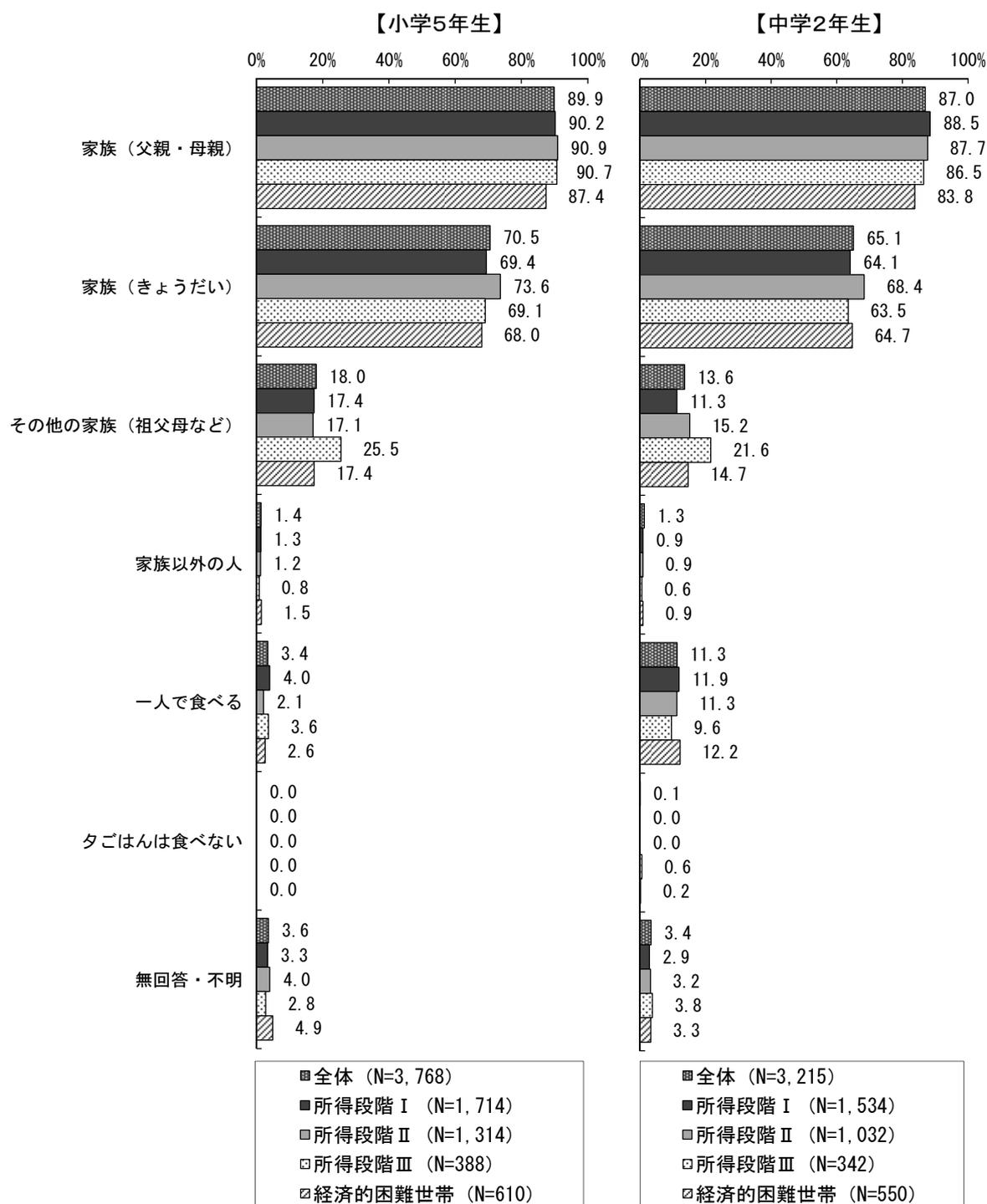
・生活習慣得点別の子供の割合



(4) 夕食

夕食を誰と食べるかについては、いずれの学年も所得段階Ⅲで「その他の家族」がやや多く、経済的困難世帯で「家族（父親・母親）」がやや少なくなっています。

問 24, 23 あなたはふだん、夕ごはんをだれと食べますか。【複数回答】

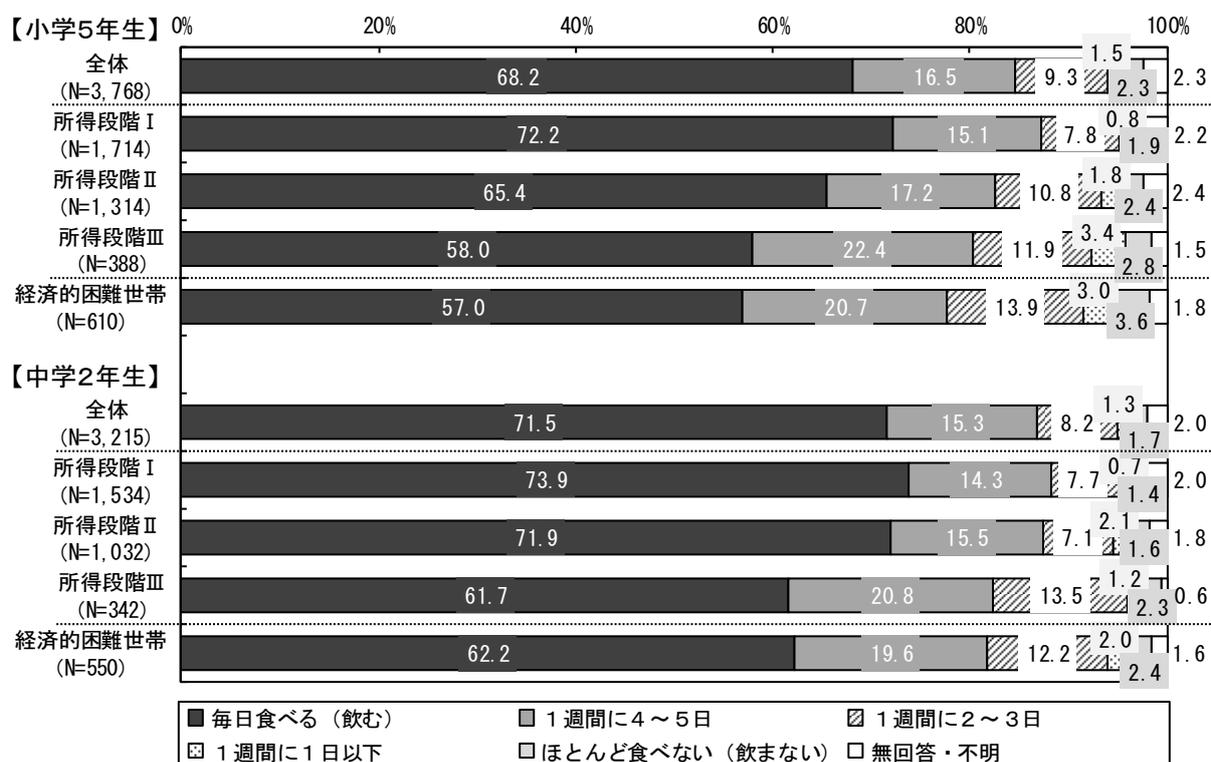


(5) 食事の内容

給食以外で野菜を食べる頻度については、いずれの学年も所得段階が低いほど「毎日食べる」が少なく、全体的に食べる頻度が低い傾向となっています。

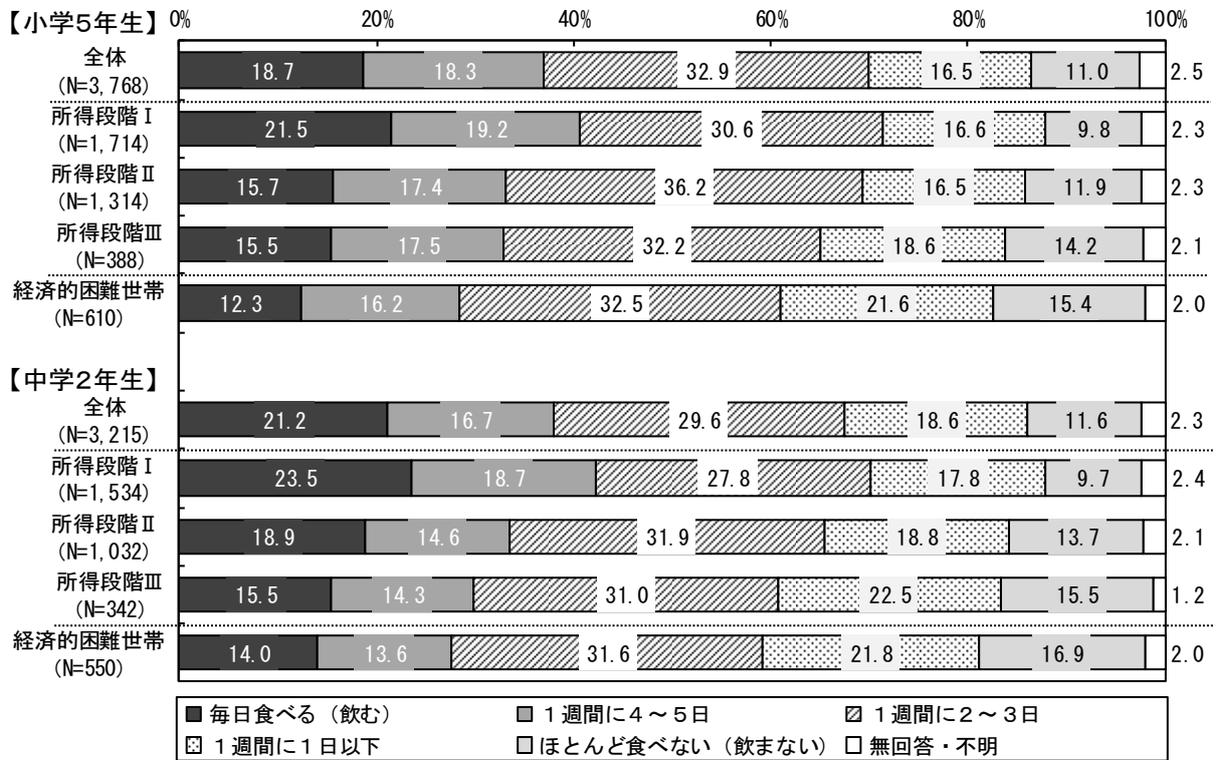
問 25, 24 あなたは、給食をのぞいて次の食物や飲物をふだんどれくらい食べますか。

A 野菜



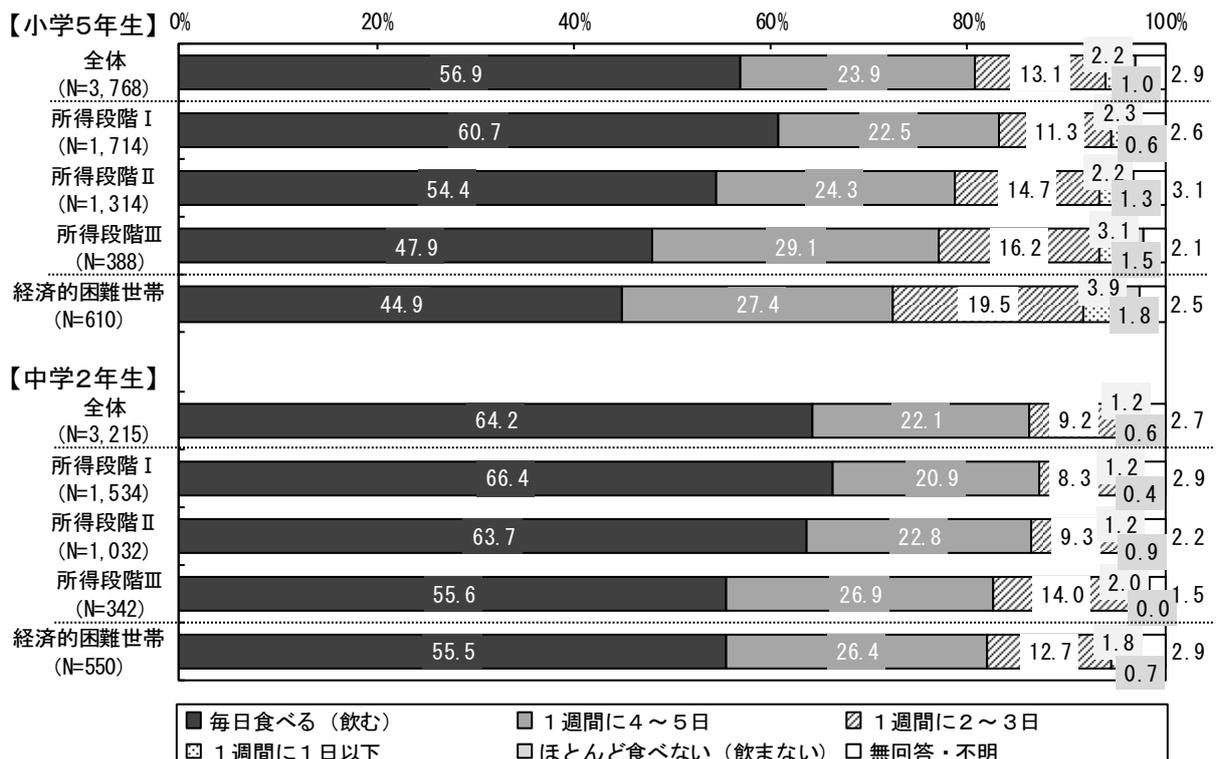
くだものを食べる頻度についても、いずれの学年も所得段階が低いほど頻度が低く、経済的困難世帯では、所得段階Ⅲより頻度が低い傾向です。

B くだもの



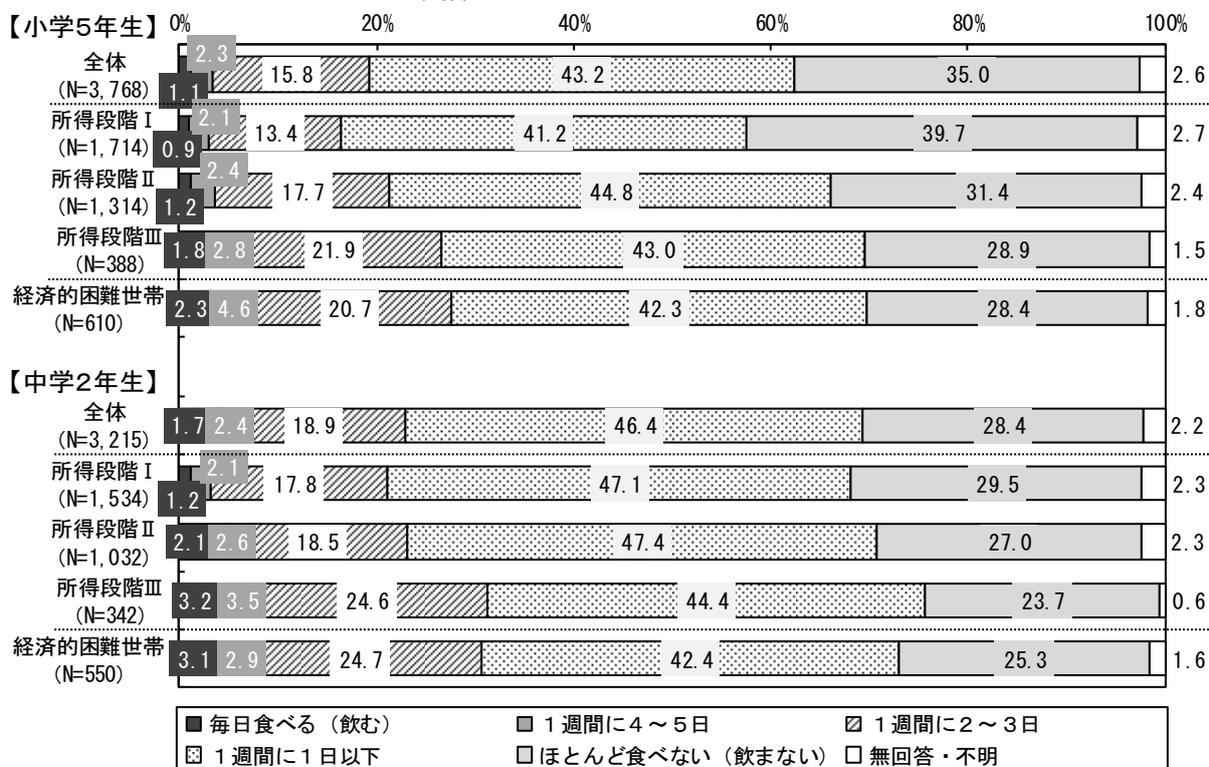
肉や魚を食べる頻度についても、所得段階が低いほど頻度が低い傾向です。

C 肉や魚



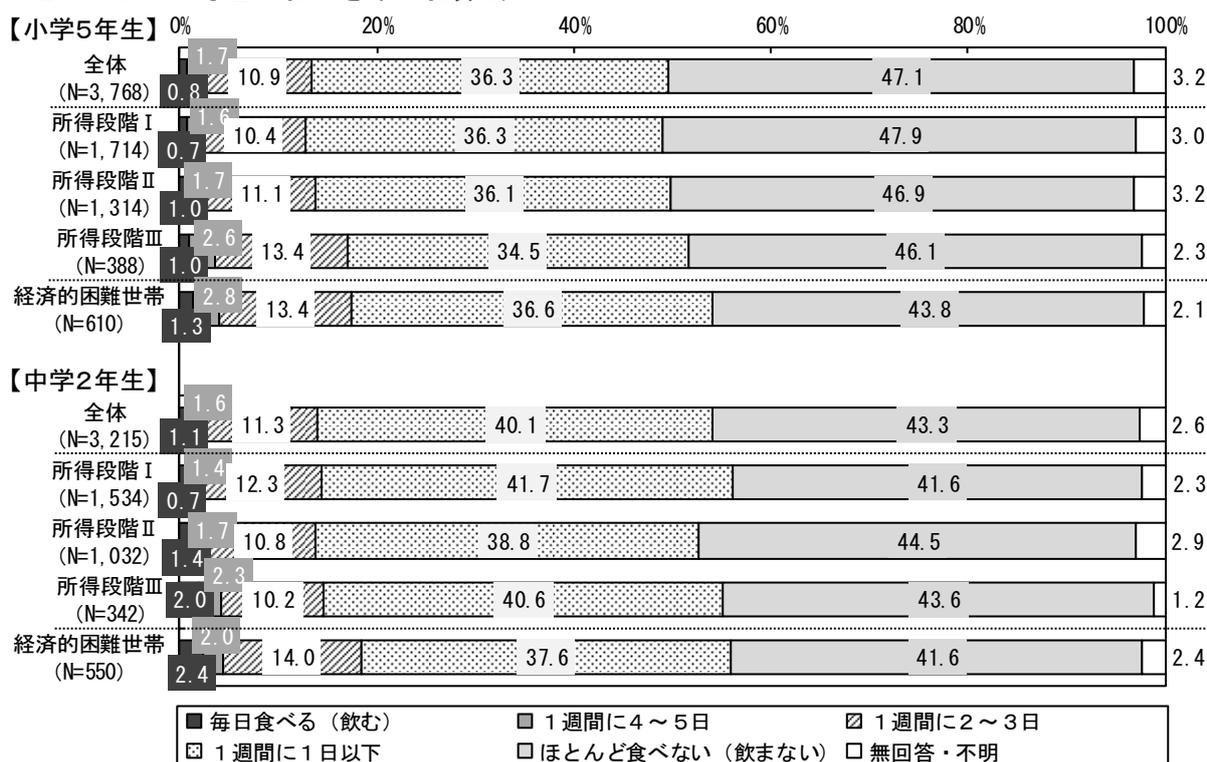
カップめん・インスタント食品を食べる頻度については、所得段階が低いほど頻度がやや高い傾向です。

D カップめん・インスタント食品



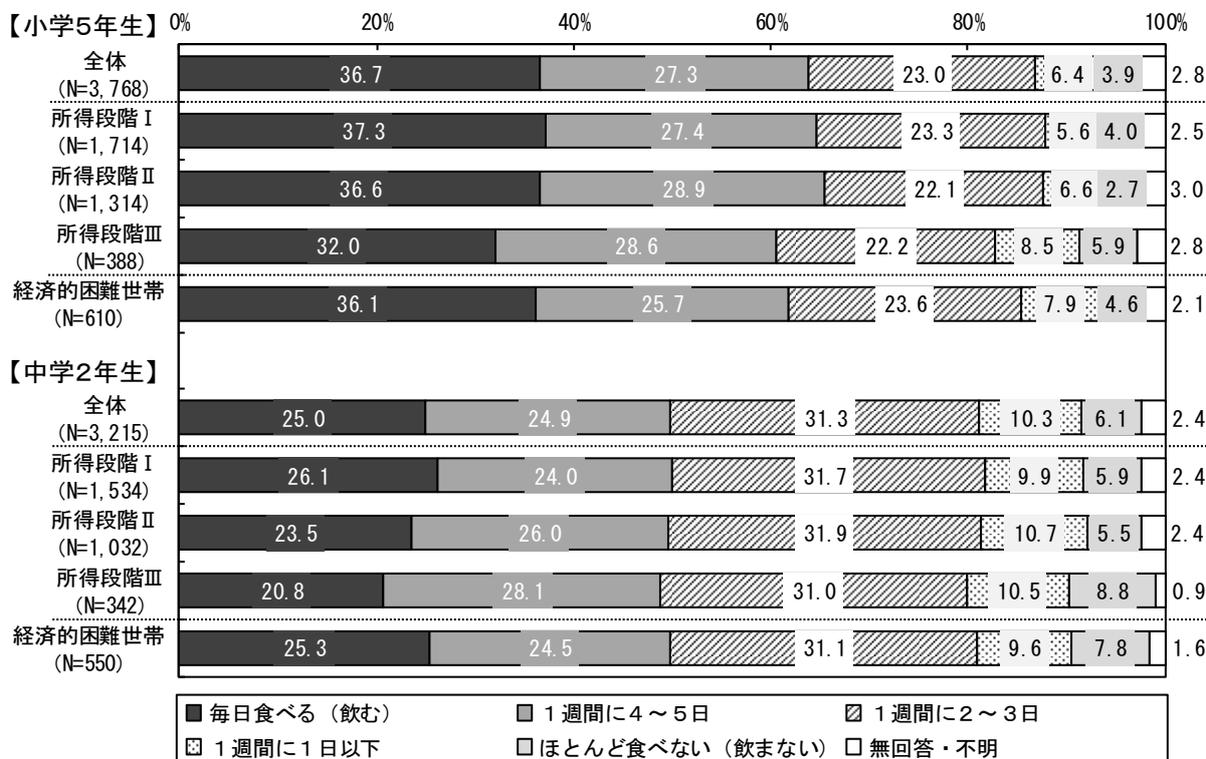
コンビニなどのおにぎり・お弁当を食べる頻度については、小学5年生の所得段階III、経済的困難世帯、中学2年生の経済的困難世帯で、週に2~3日以上回答がやや多くなっています。

E コンビニなどのおにぎり・お弁当



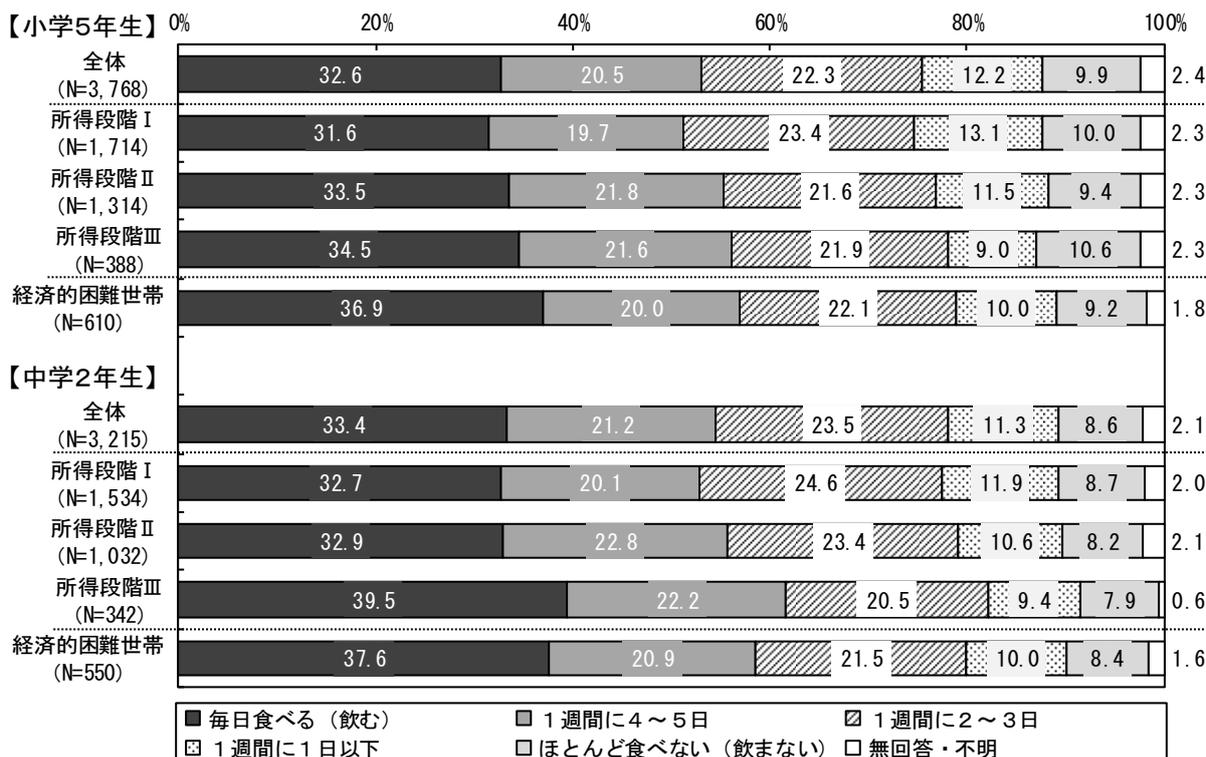
お菓子を食べる頻度については、いずれの学年も所得段階Ⅲでやや頻度が低くなっています。

F お菓子



ジュースなどの清涼飲料水を飲む頻度は、小学5年生の経済的困難世帯、中学2年生の所得段階Ⅲで、やや頻度が高くなっています。

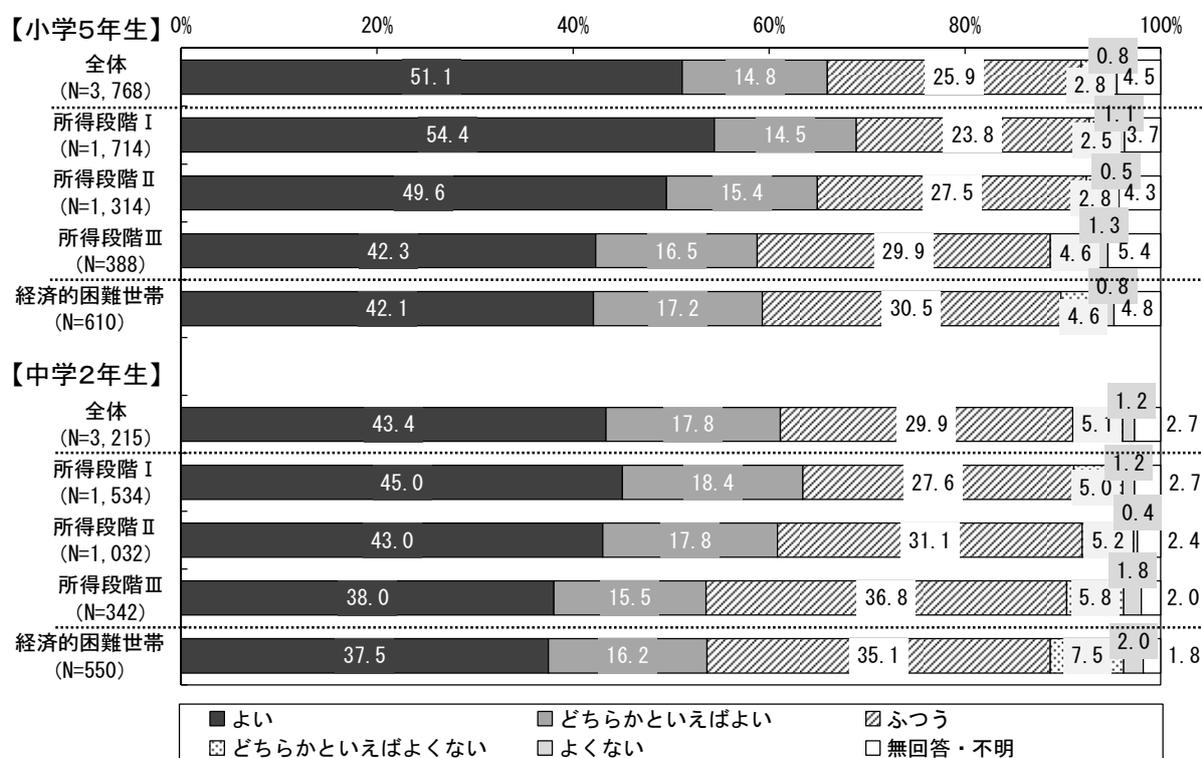
G ジュースなどの清涼飲料水



(6) 健康状態

自分の健康状態については、所得段階が低いほど「よい」が少なくなっています。

問 26, 25 あなたは、自分の健康状態についてどう感じていますか。

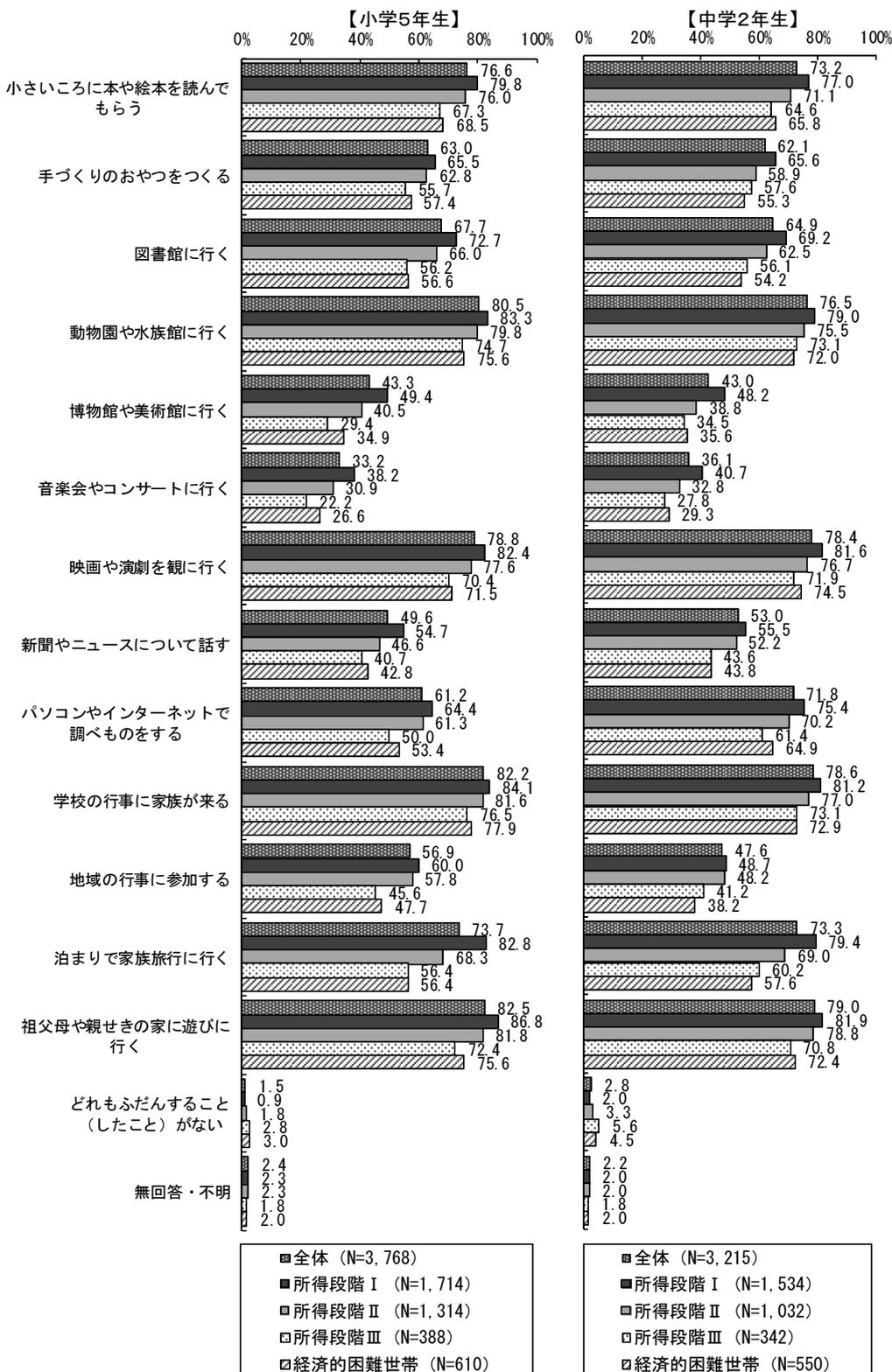


(7) 文化的な活動や体験

家庭における文化的な活動や体験については、いずれの学年もすべての項目で、所得段階が低いほど回答が少なくなっています。

問 27, 26 あなたの家では、下に書いてあるようなことをすること（したこと）がありますか。

【複数回答】



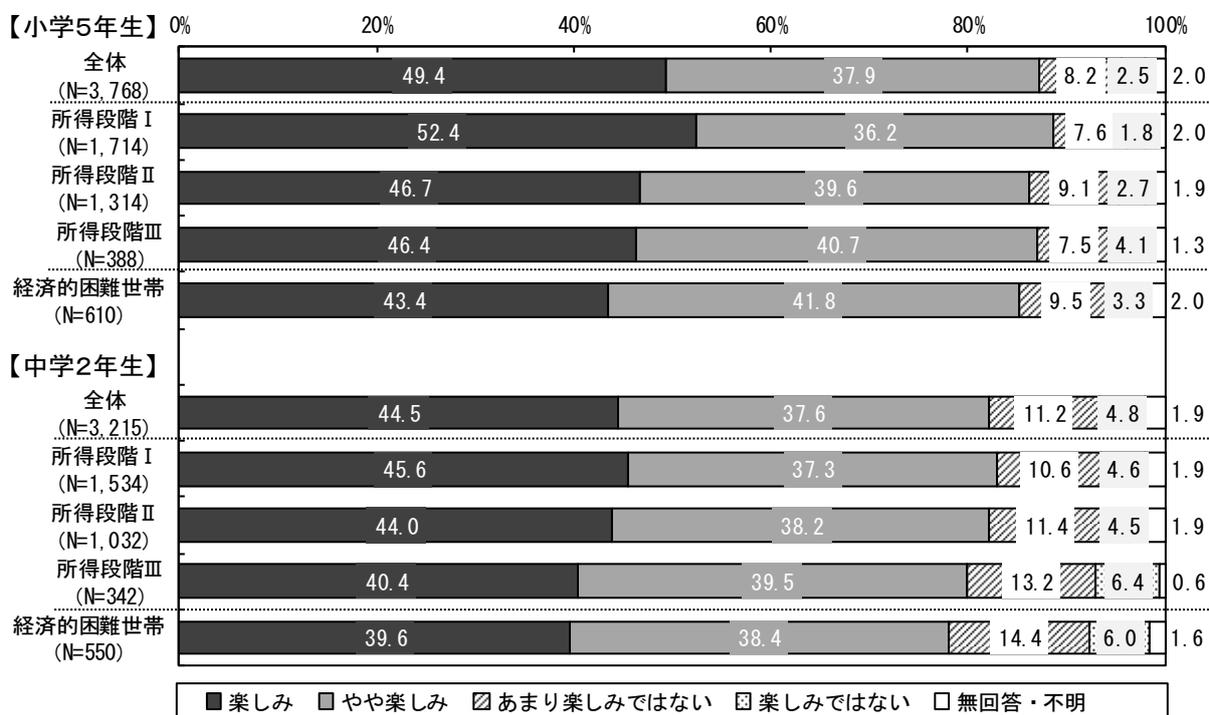
6. 学校生活について

(1) 学校で楽しみなこと

毎日学校に通うことについては、いずれの学年も所得段階が低いほど「楽しみ」という回答が少なく、経済的困難世帯は所得段階Ⅲを下回っています。

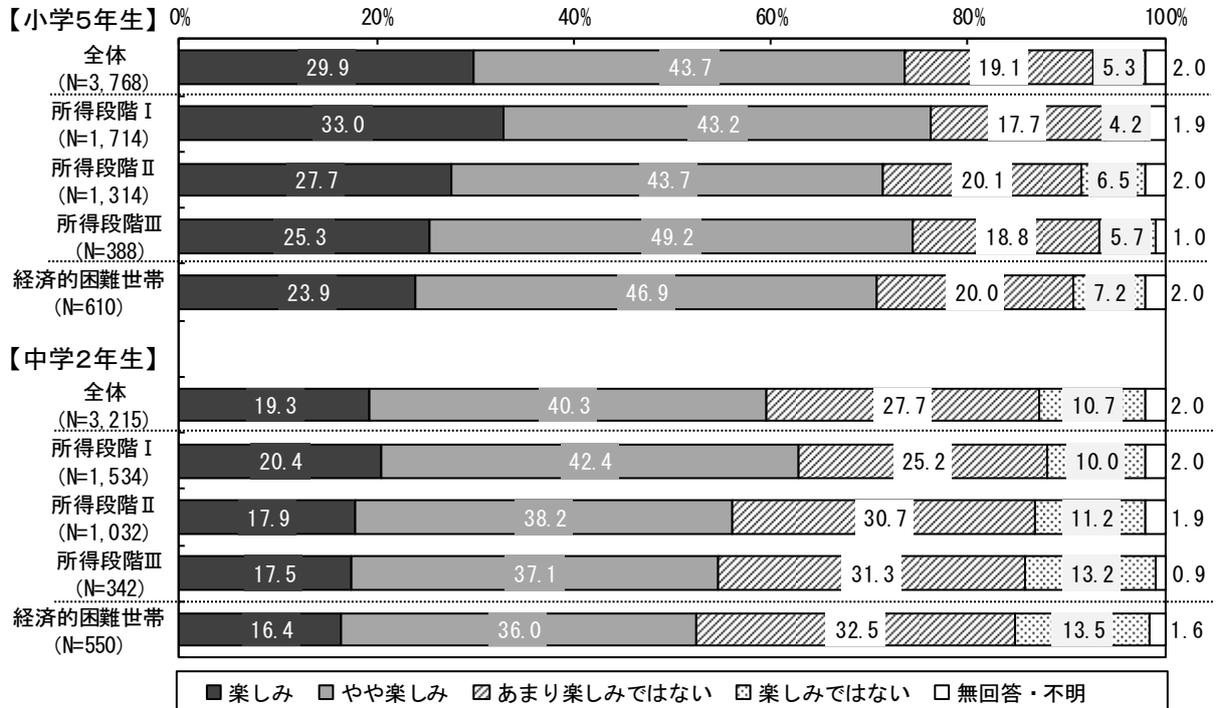
問 28, 27 あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、「1 楽しみ」から「4 楽しみではない」の中からもっとも近いものに○をつけてください。

A 毎日学校に通うこと



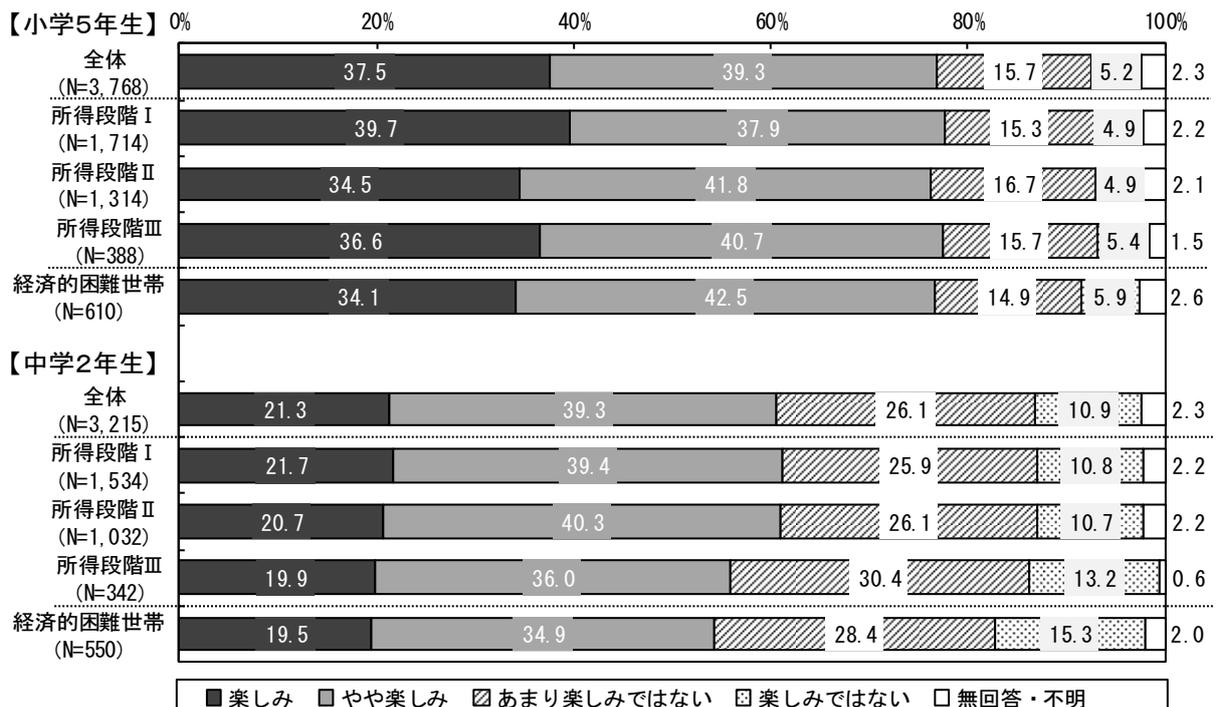
学校の授業については、いずれの学年も所得段階が低いほど「楽しみ」という回答が少なく、経済的困難世帯は所得段階Ⅲを下回っています。

B 学校の授業



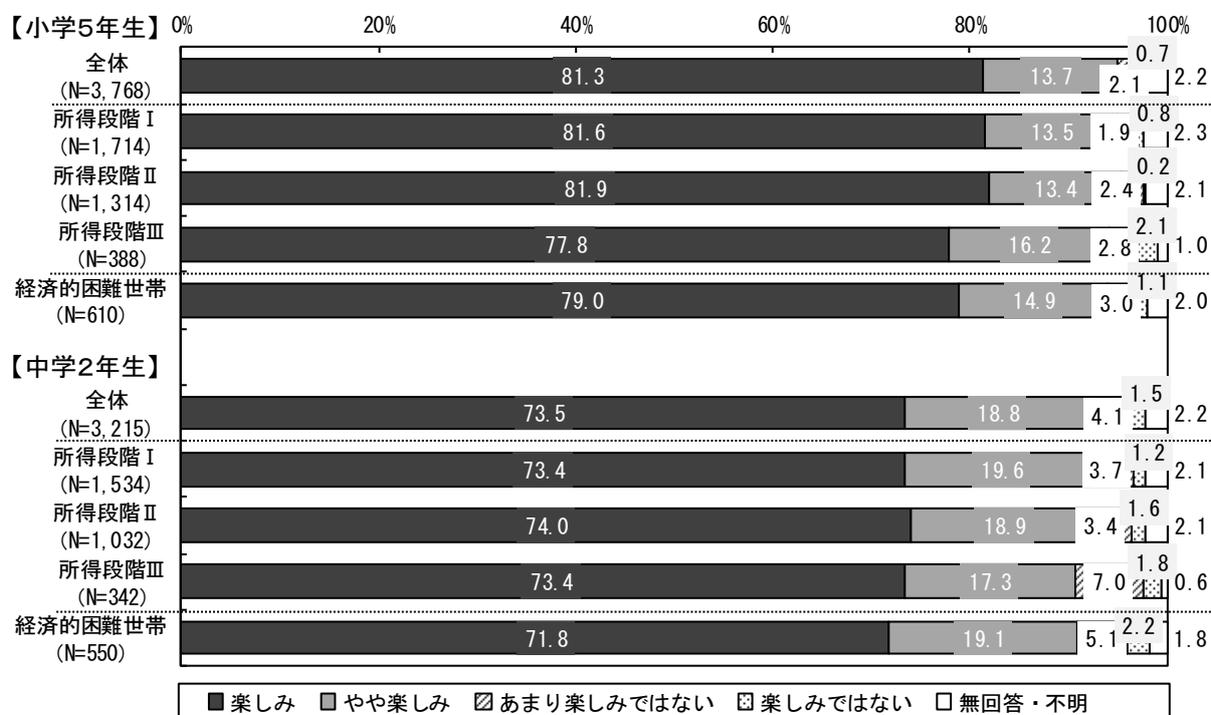
先生に会うことについては小学5年生では大きな差はありませんが、中学2年生の所得段階Ⅲ、経済的困難世帯では、「楽しみ」または「やや楽しみ」という回答がやや少なくなっています。

C 先生に会うこと



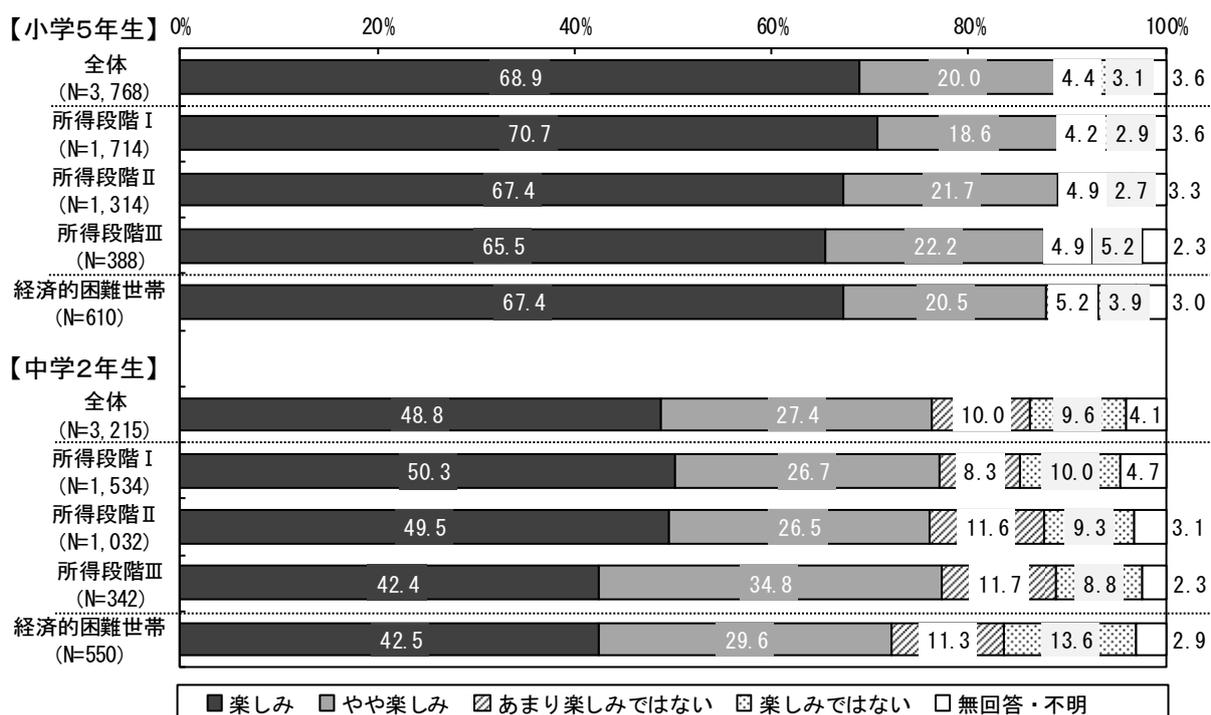
学校の友だちに会うことについては、大きな差はありませんが、小学5年生の所得段階Ⅲで「楽しみ」がやや少なく、中学2年生の所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で、「あまり楽しみではない」「楽しみではない」または「楽しみではない」がやや多くなっています。

D 学校の友だちに会うこと



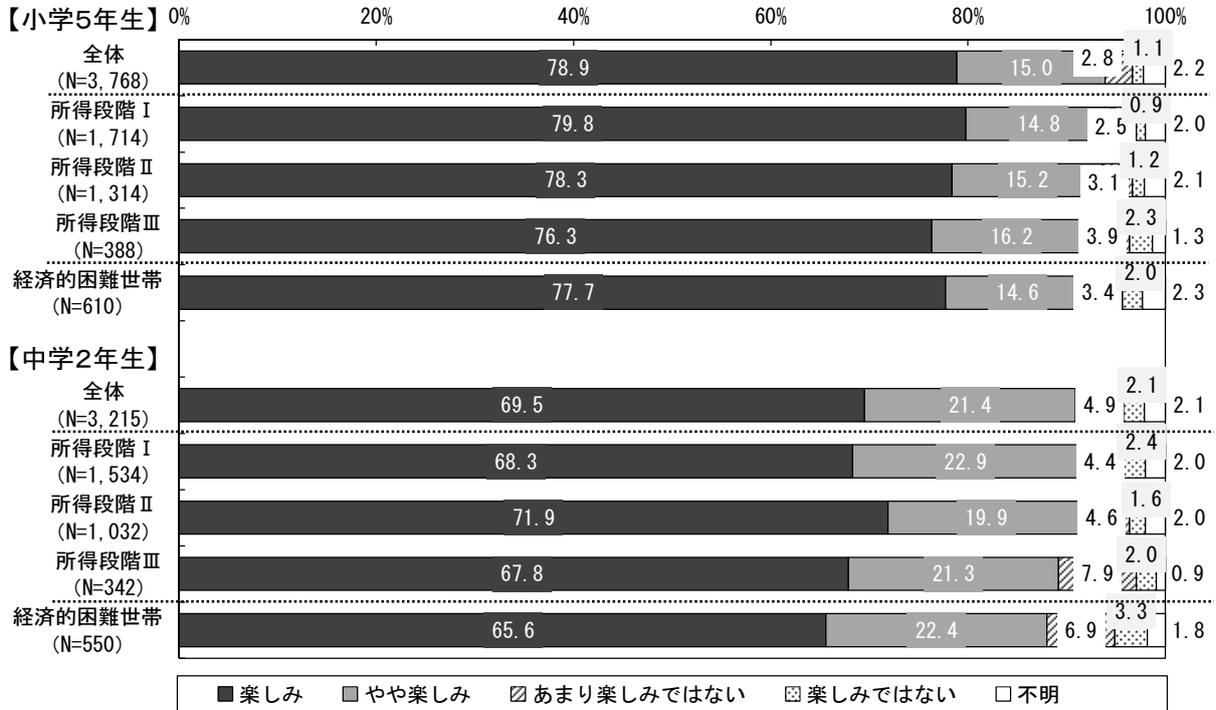
学校のクラブ活動については、中学2年生の所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で、「楽しみ」がやや少なくなっています。

E 学校のクラブ活動



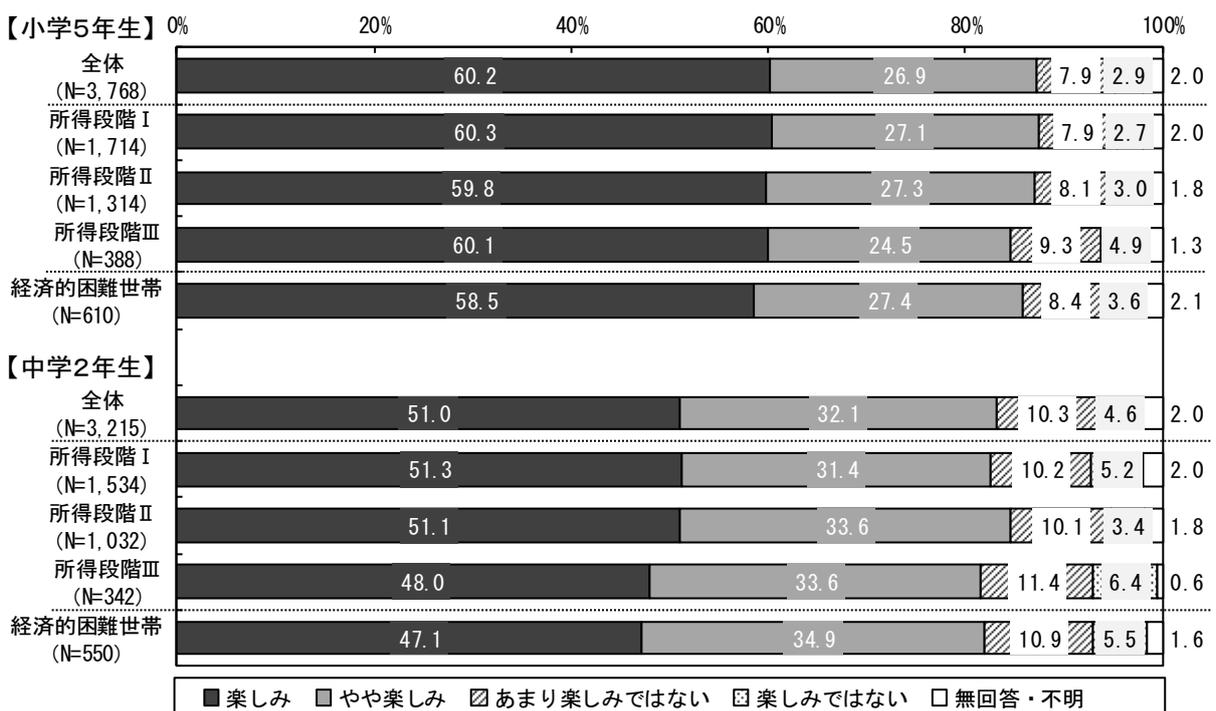
学校の休み時間については、所得段階による差はあまり見られませんが、「あまり楽しみではない」または「楽しみではない」という回答は、いずれの学年も所得段階Ⅲ、経済的困難世帯でやや多くなっています。

F 学校の休み時間



学校の給食（お弁当など）については、小学5年生では所得段階による差は見られませんが、中学2年生では、所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で、「楽しみ」がやや少なくなっています。

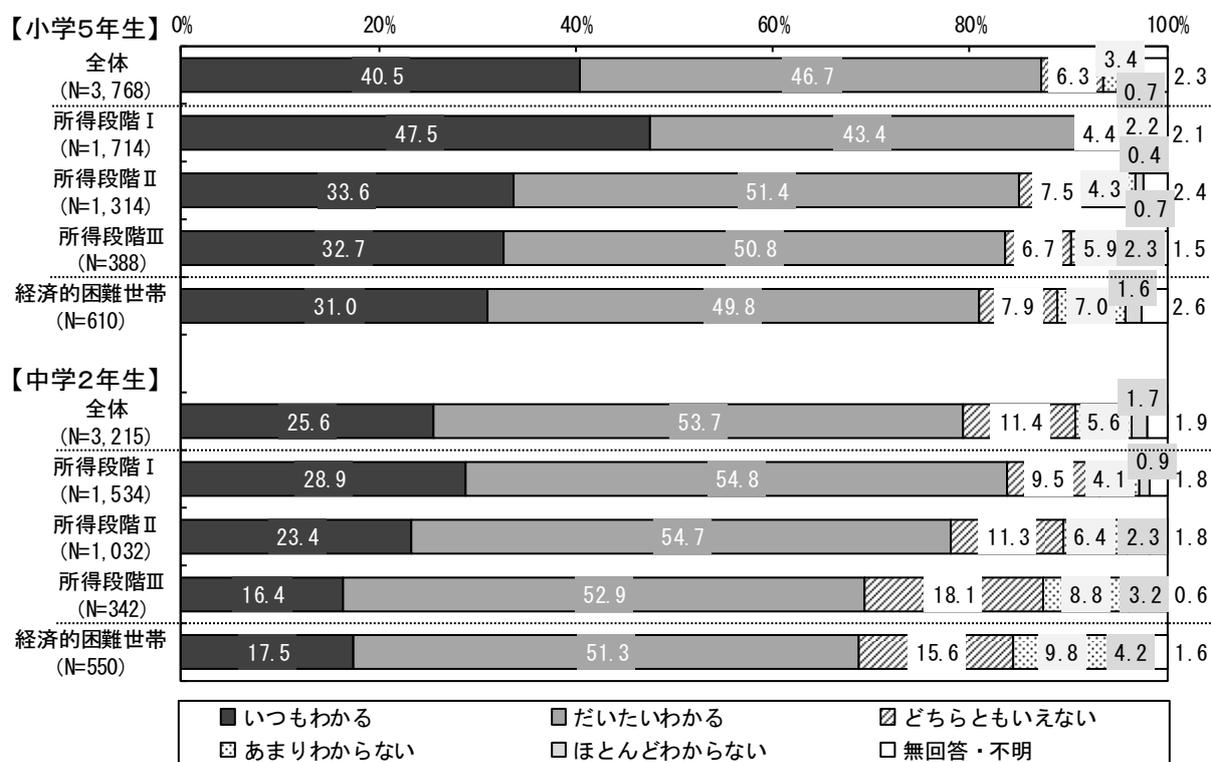
G 学校の給食（お弁当など）



(2) 学校の授業

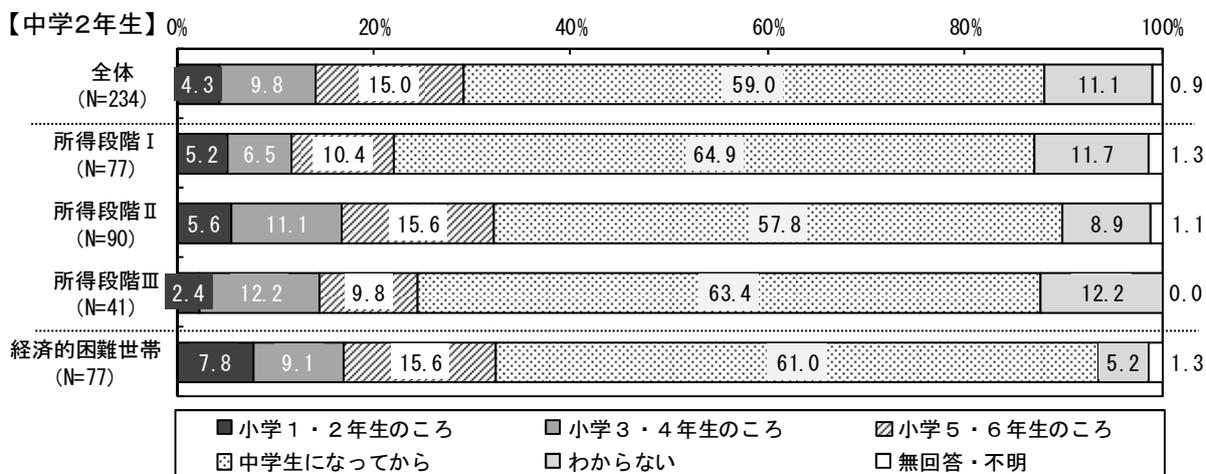
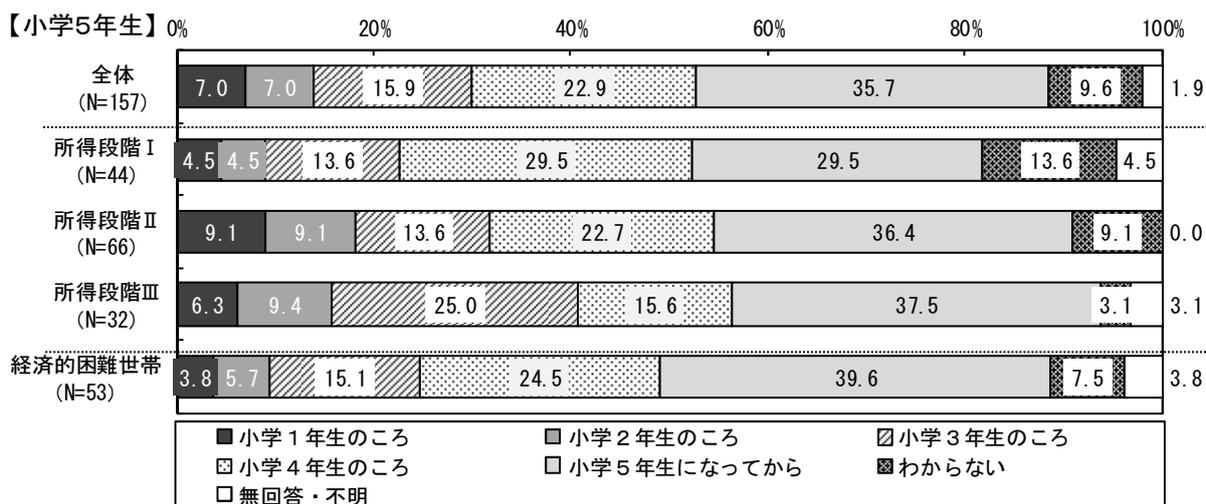
学校の授業がわかるかどうかについての自己評価をみると、いずれの学年も所得段階が低いほど「いつもわかる」と回答した割合が低い傾向があります。

問 29, 28 あなたは、学校の授業がわかりますか。



学校の授業がわからなくなった時期については、小学5年生では、所得段階が低いほど、小学3年生のころまでの回答がやや多くなっており、比較的早い時期から授業についていけなくなっている子供が多いことがうかがえます。中学2年生では、世帯区分に関わらず「中学生になってから」という回答が最も多くなっています。

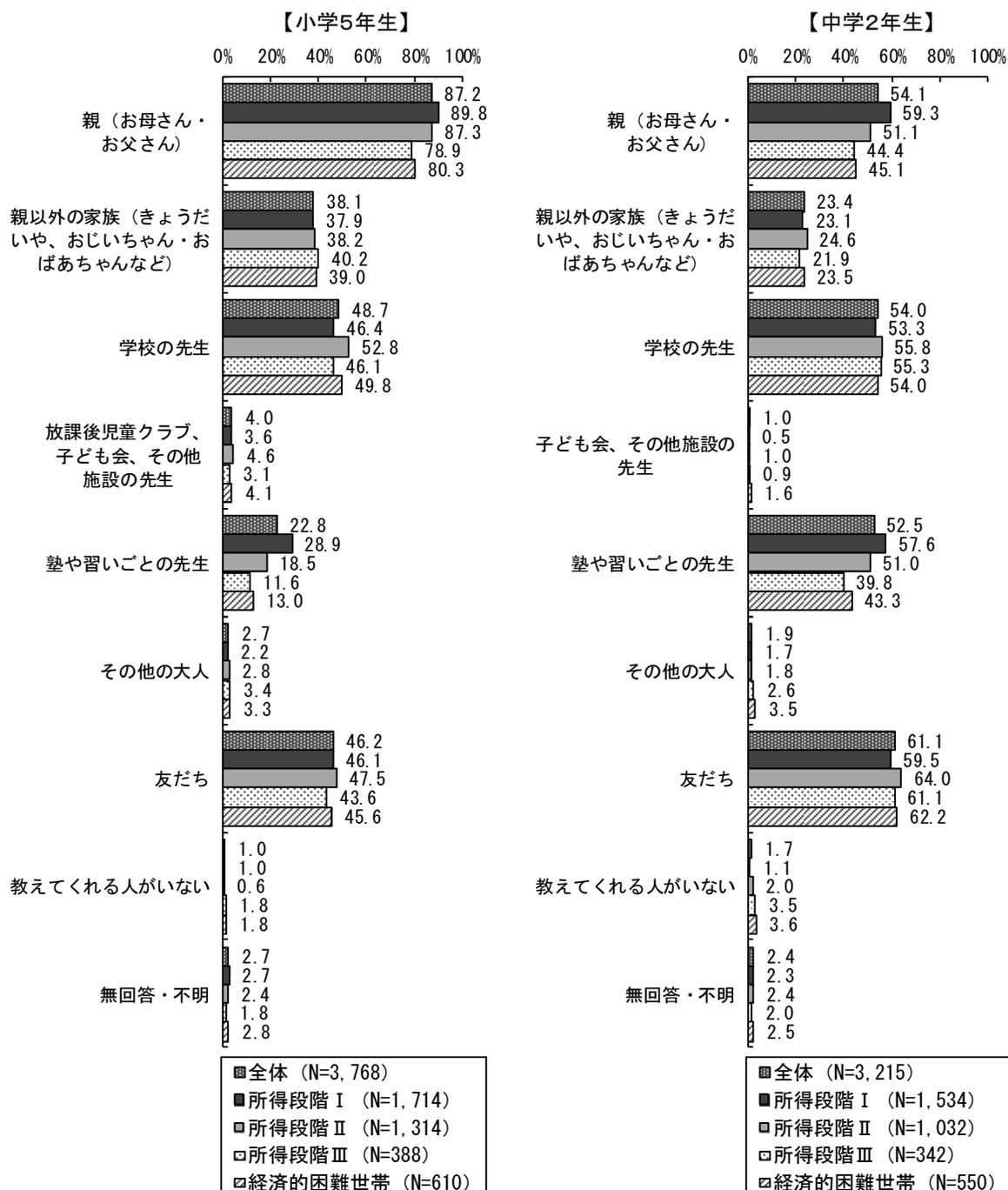
問 29, 28-1 学校の授業が「あまりわからない」または「ほとんどわからない」と答えた人におたずねします。いつごろから、授業がわからなくなりましたか。



(3) 勉強がわからないときに教えてもらう人

勉強がわからないときに教えてもらう人については、いずれの学年も所得段階が低いほど「親」、
「塾や習いごとの先生」という回答が少なくなっています。経済的困難世帯は所得段階Ⅲとほぼ
同様の回答となっています。

問 30 勉強がわからないときは、だれに教えてもらいますか。【複数回答】

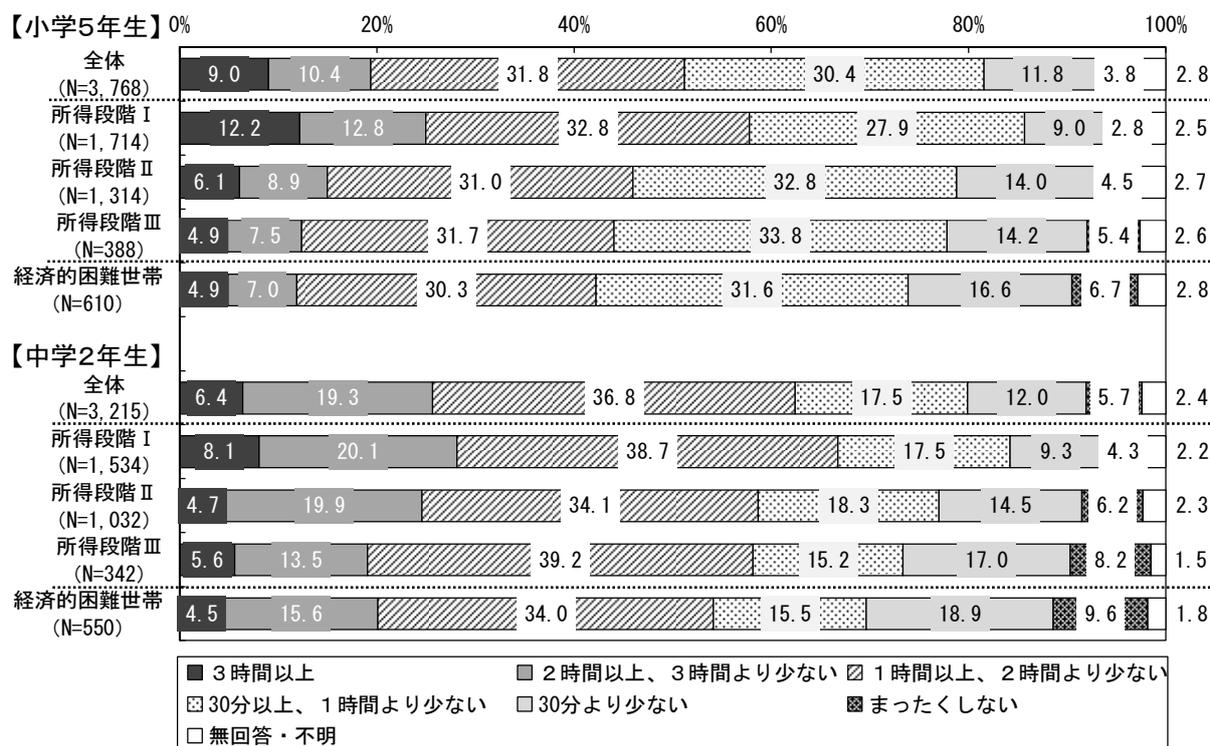


(4) 家庭学習の時間

学校の授業以外の平日の勉強時間については、いずれの学年も所得段階が低いほど勉強時間が少ない傾向が見られます。また、経済的困難世帯については、勉強時間が30分より少ない回答が、所得段階Ⅲより多くなっています。

問 31, 30 あなたはふだん（月曜日から金曜日）、学校の授業以外にどれくらいの時間、勉強をしますか。1日あたりの勉強時間を教えてください。

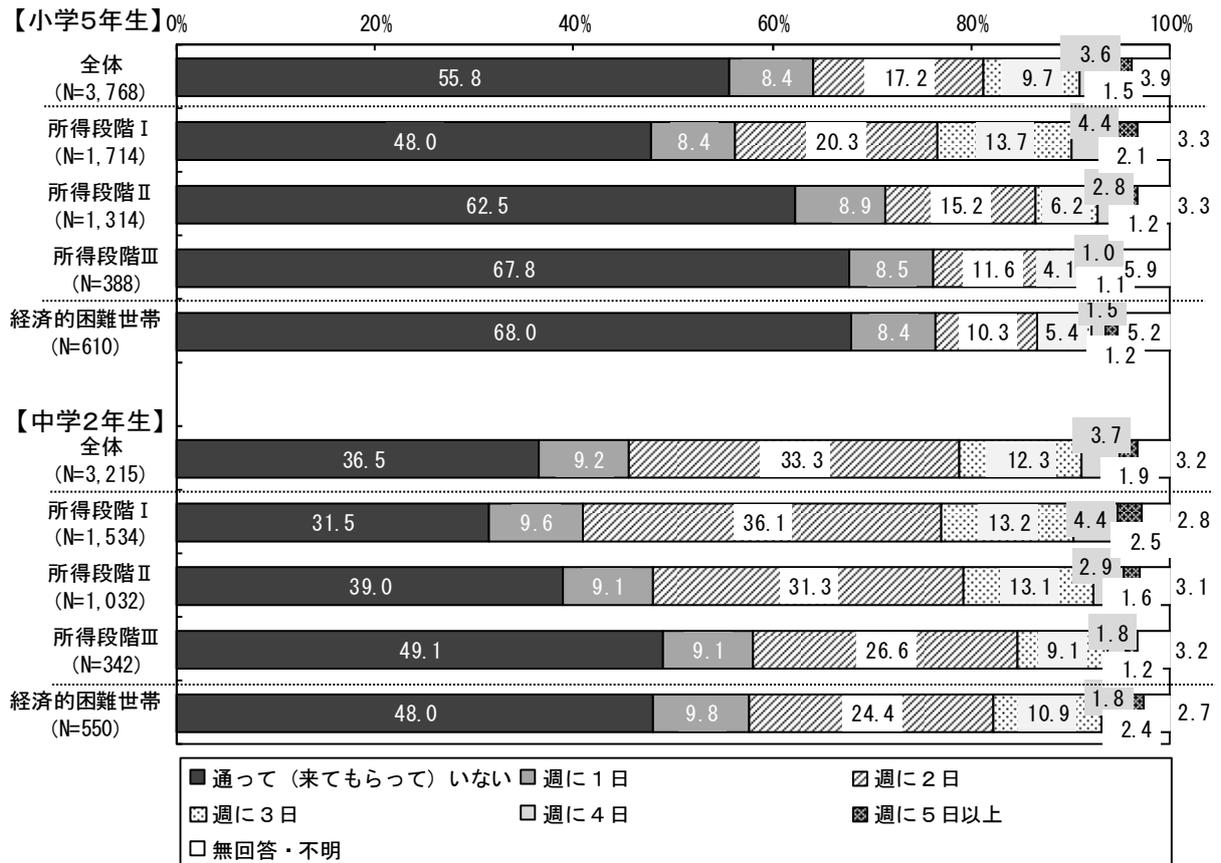
※学習塾などで勉強する時間もふくみます。



(5) 通塾

通塾等については、「通って（来てもらって）いない」という回答は、いずれの学年も、所得段階が低くなるほど多くなっています。また、小学5年生については、通塾をしている中でも所得段階が高いほど週当たりの日数が多くなっています。

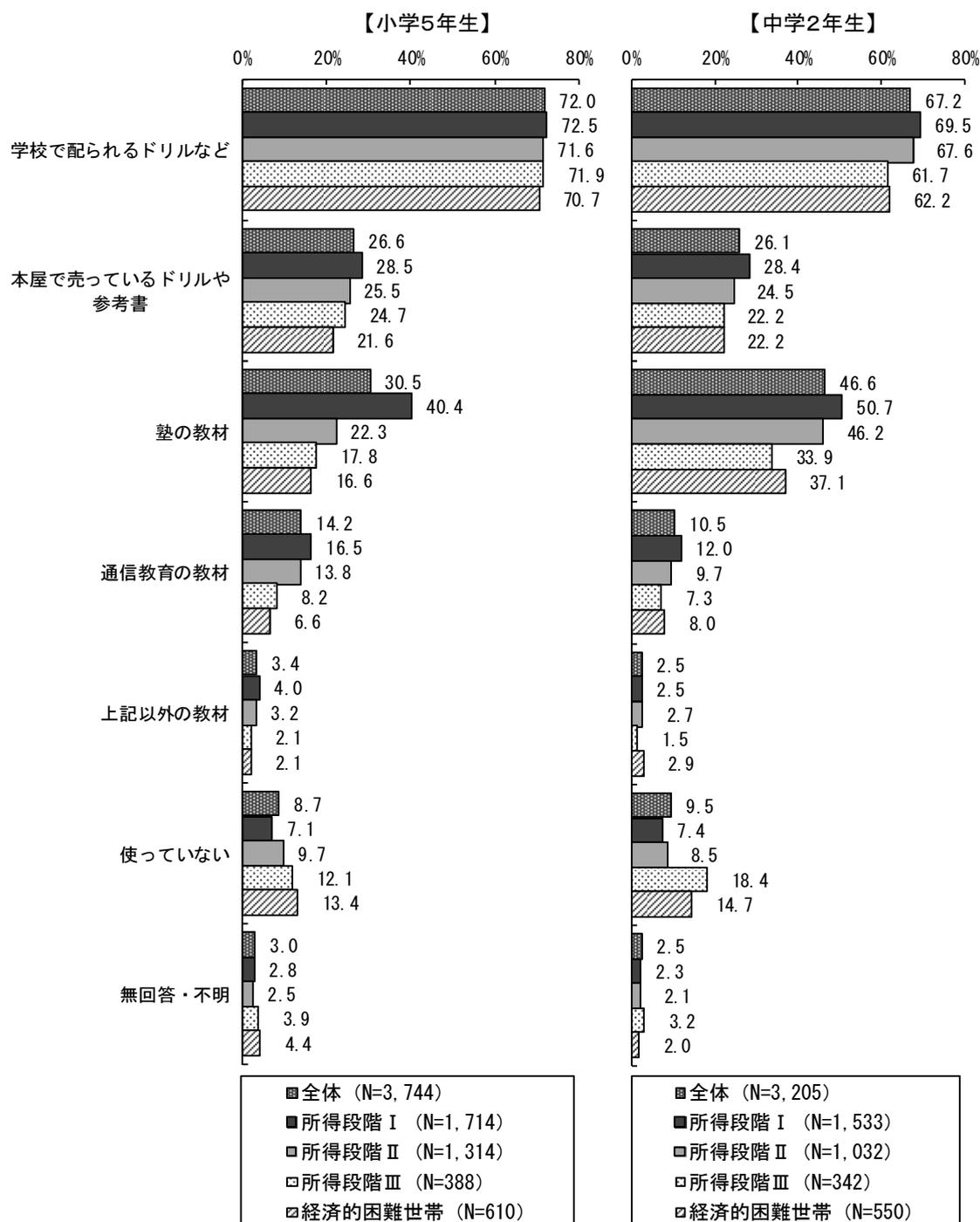
問 32,31 あなたは、学習塾に通ったり、家庭教師に来てもらったりしていますか。通っている（来てもらっている）場合、1週間に何日通って（来てもらって）いますか。



(6) 学習教材

自宅で使う教材については、所得段階が低いほど、「本屋で売っているドリルや参考書」「塾の教材」「通信教育の教材」が少なく、「使っていない」が多くなっています。特に「塾の教材」は差が大きくなっています。中学2年生の所得段階Ⅲ、経済的困難世帯では、「学校で配られるドリルなど」もやや少なくなっています。

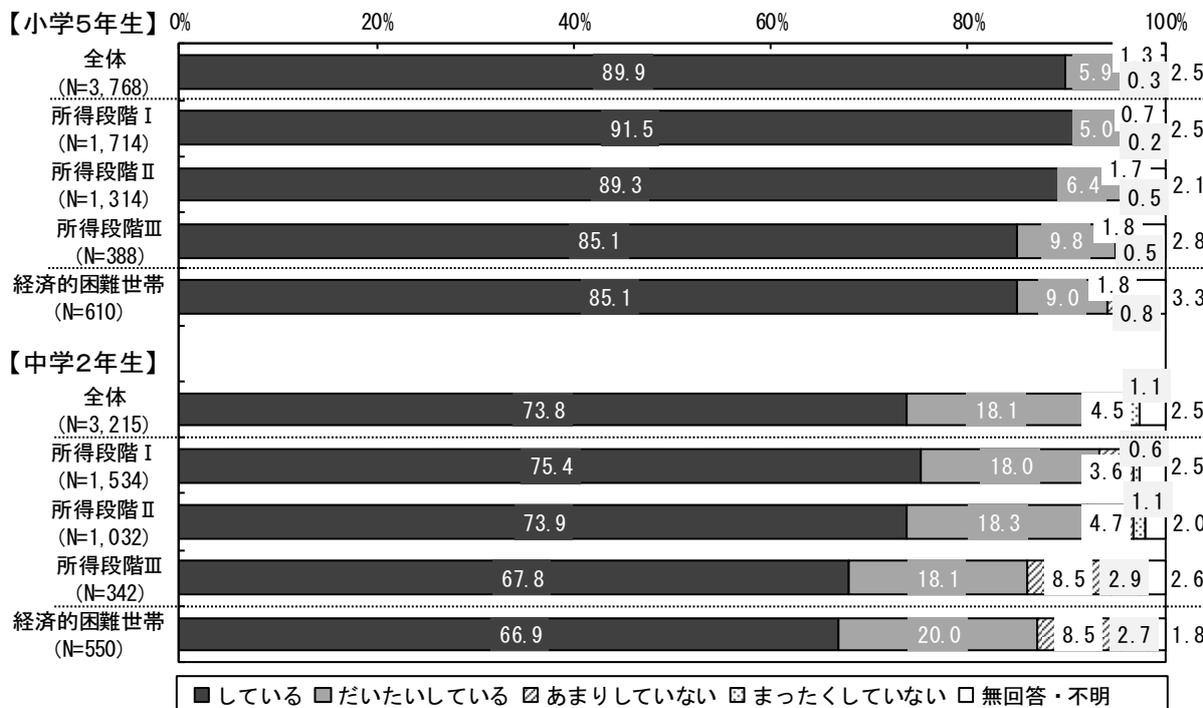
問 33, 32 あなたは、自宅で次の教材を使っていますか。【複数回答】



(7) 宿題

学校の宿題については、いずれの学年も所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で「している」が少なく、
 中学2年生では「あまりしていない」「全くしていない」が多くなっています。

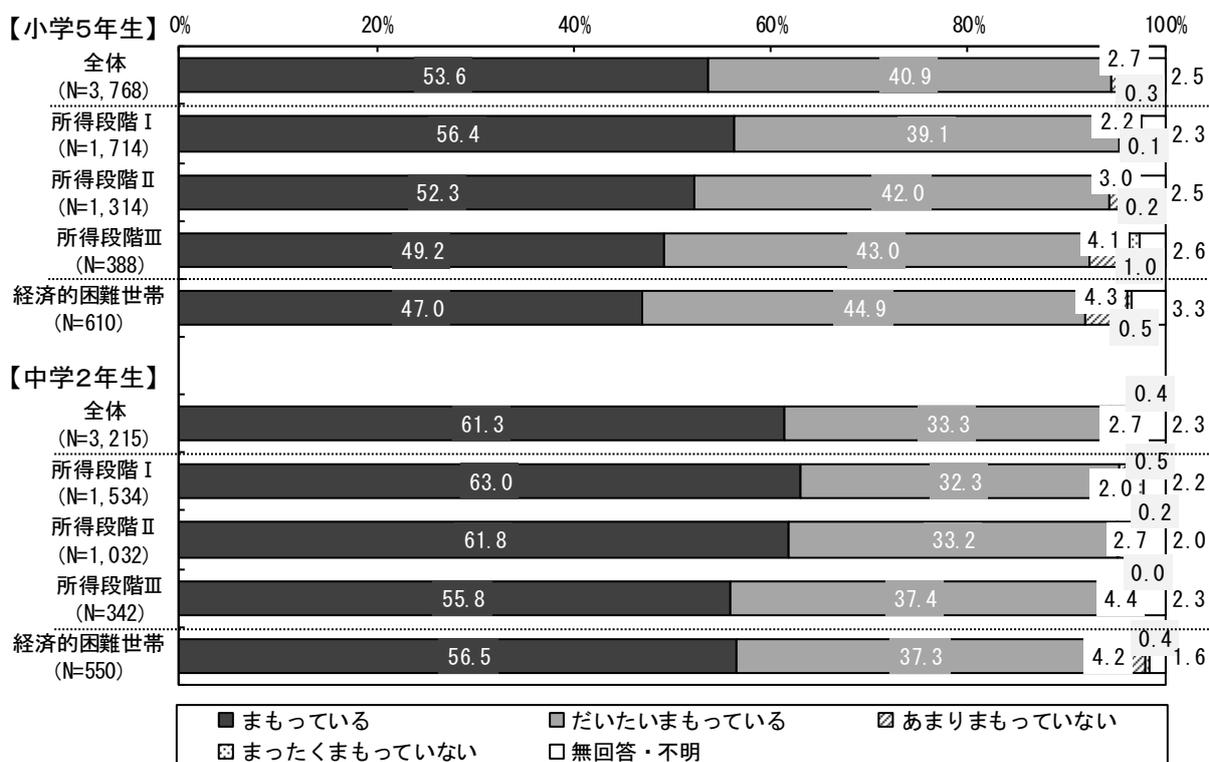
問 34, 33 あなたは、学校の宿題をしていますか。



(8) 学校のきまり

学校のきまりについては、小学5年生では所得段階が低いほど「まもっている」がやや少なく、中学2年生では所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で「まもっている」がやや少なくなっています。

問 35, 34 あなたはふだん、学校のきまりをまもっていますか。



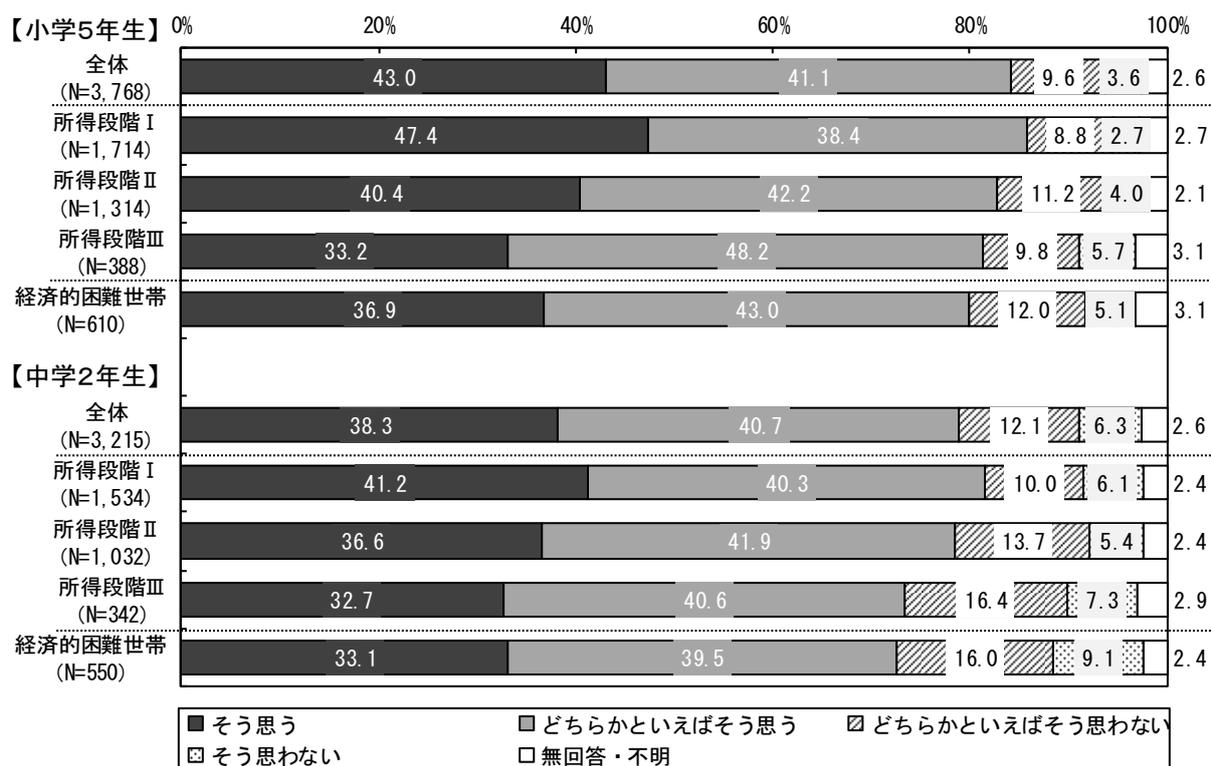
7. 普段考えていることについて

(1) 自分に対する評価

「自分には、良いところがある」については、いずれの学年も所得段階が低いほど「そう思う」が少なくなっています。

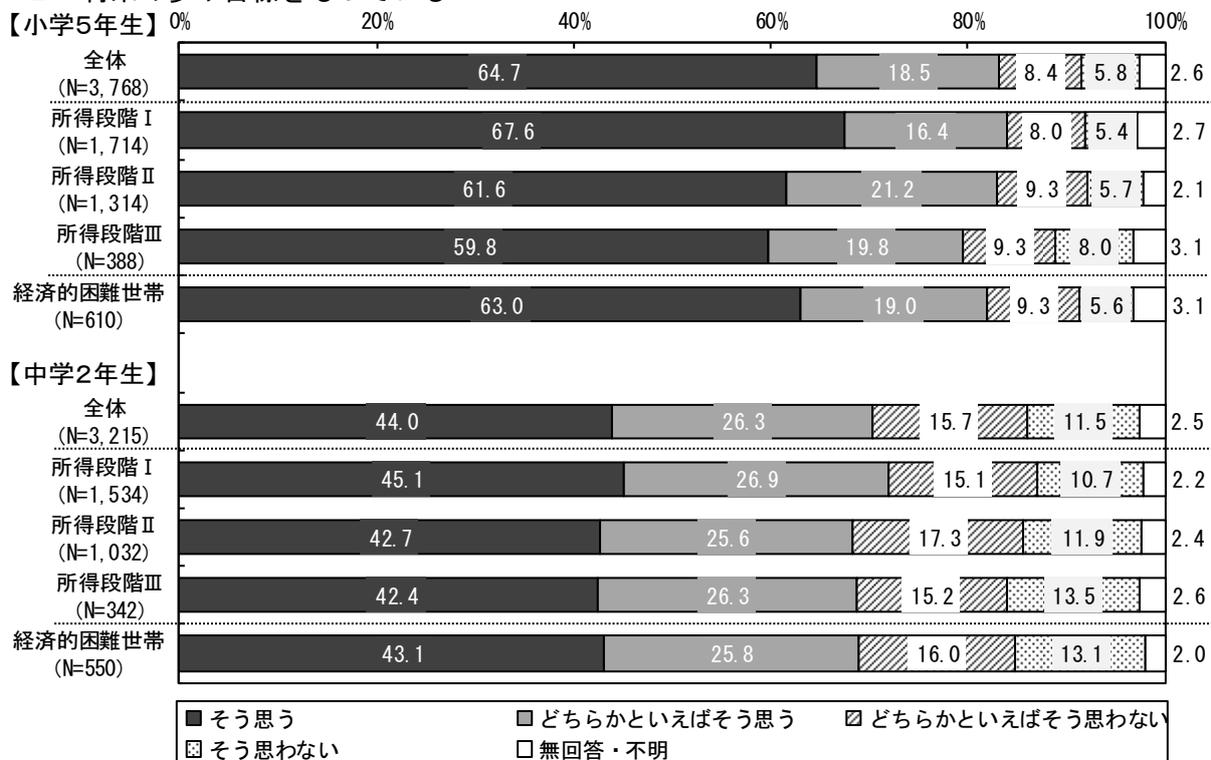
問 36, 35 あなたの思いや気持ちについて、もっとも近いものに○をつけてください。

A 自分には、良いところがある



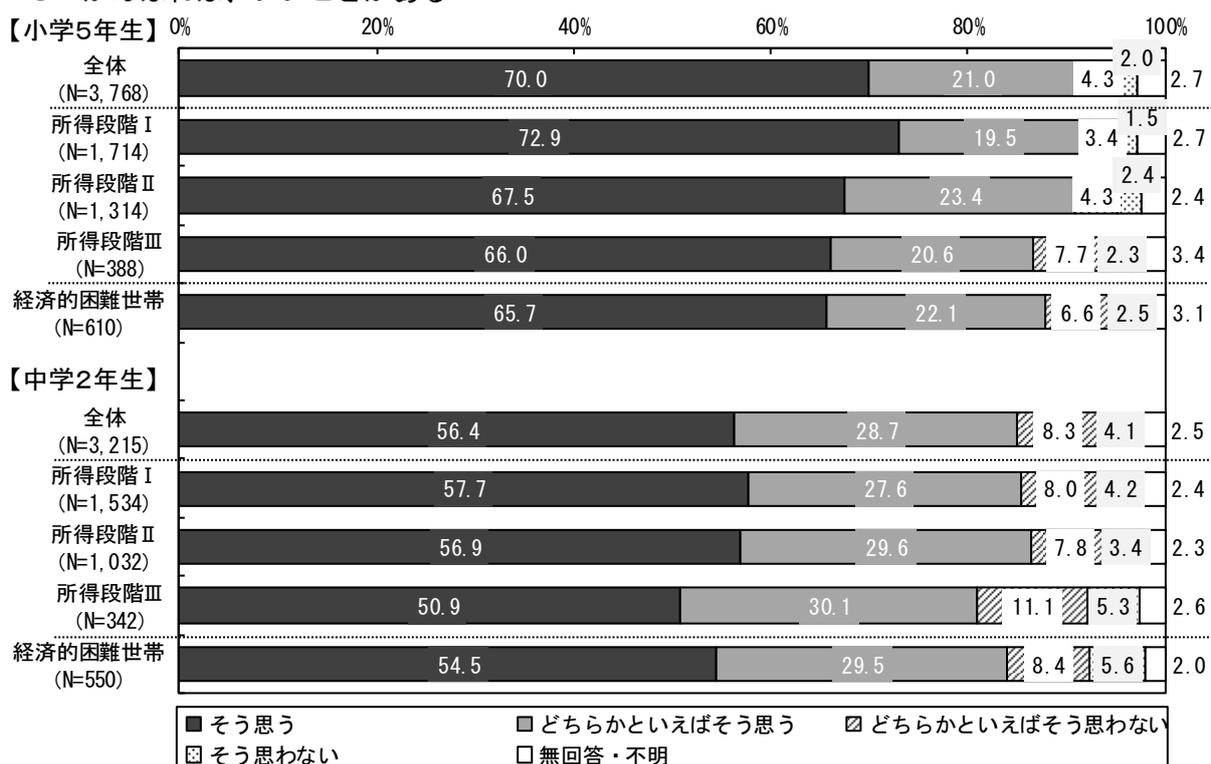
「将来の夢や目標をもっている」については、小学5年生では、所得段階が低いほど「そう思う」がやや少なくなっています。中学2年生については、あまり差はありません。

B 将来の夢や目標をもっている



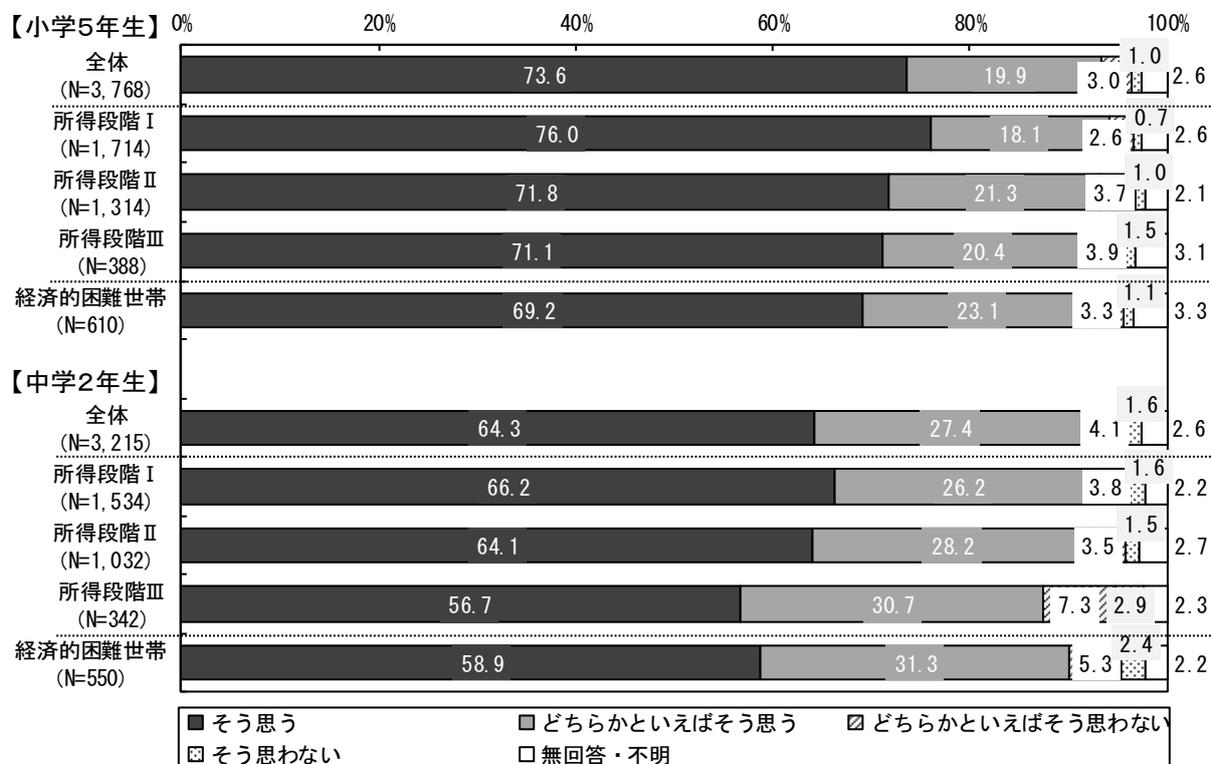
「頑張ればいいことがある」については、いずれの学年も所得段階が低いほど「そう思う」がやや少なくなっています。

C がんばれば、いいことがある



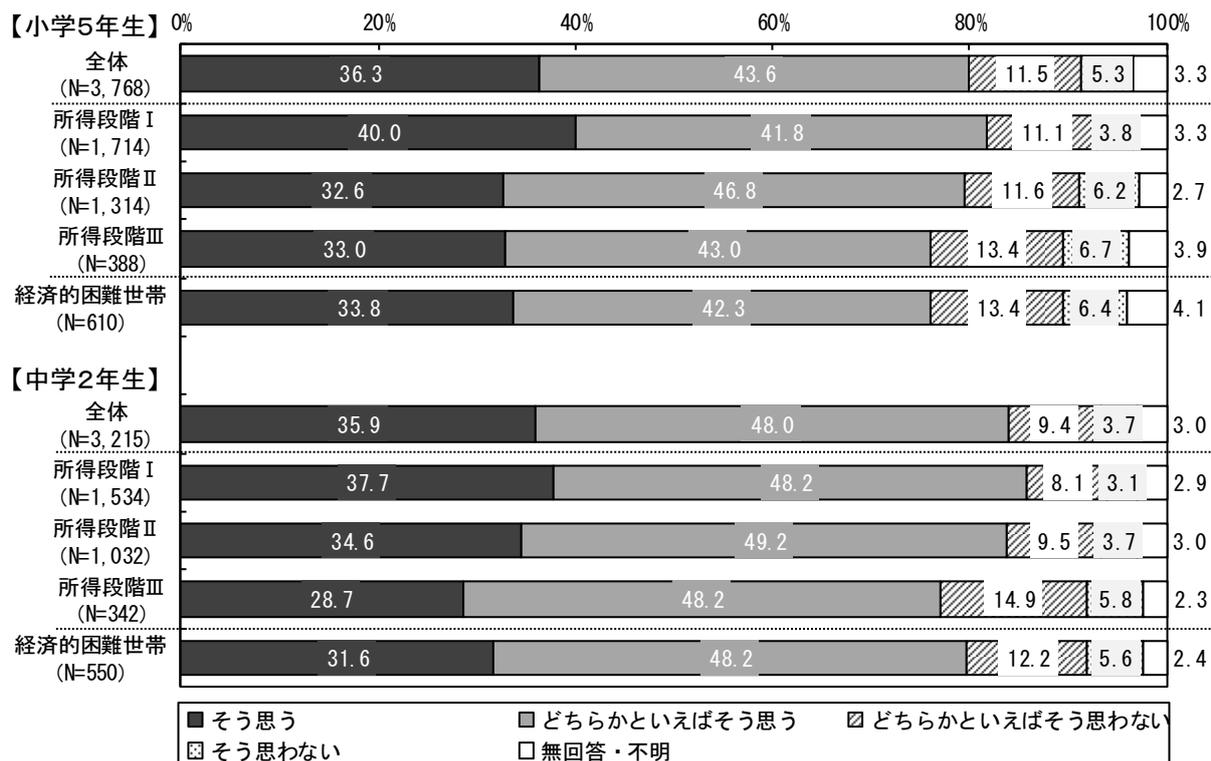
「自分は家族に大事にされている」については、いずれの学年も所得段階が低いほど「そう思う」がやや少なくなっています。

D 自分は家族に大事にされている



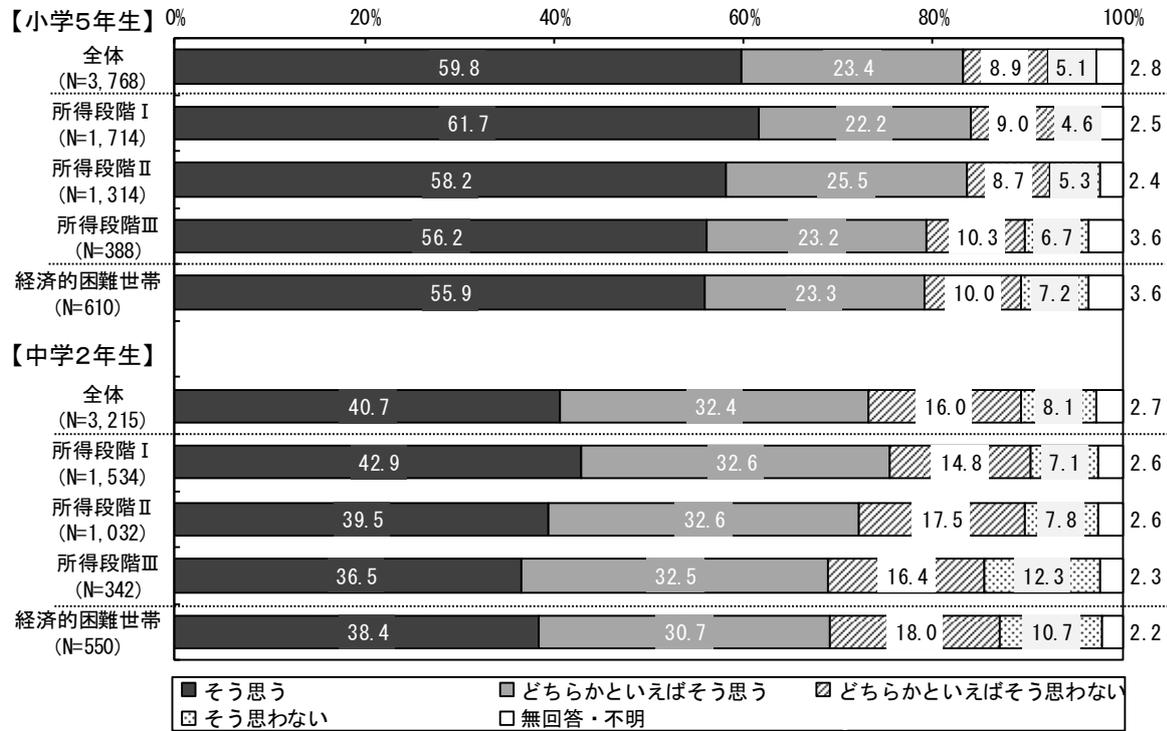
「自分は友だちに好かれている」については、いずれの学年も所得段階が低いほど肯定的な回答（「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」）が、やや少なくなっています。

E 自分は友だちに好かれている



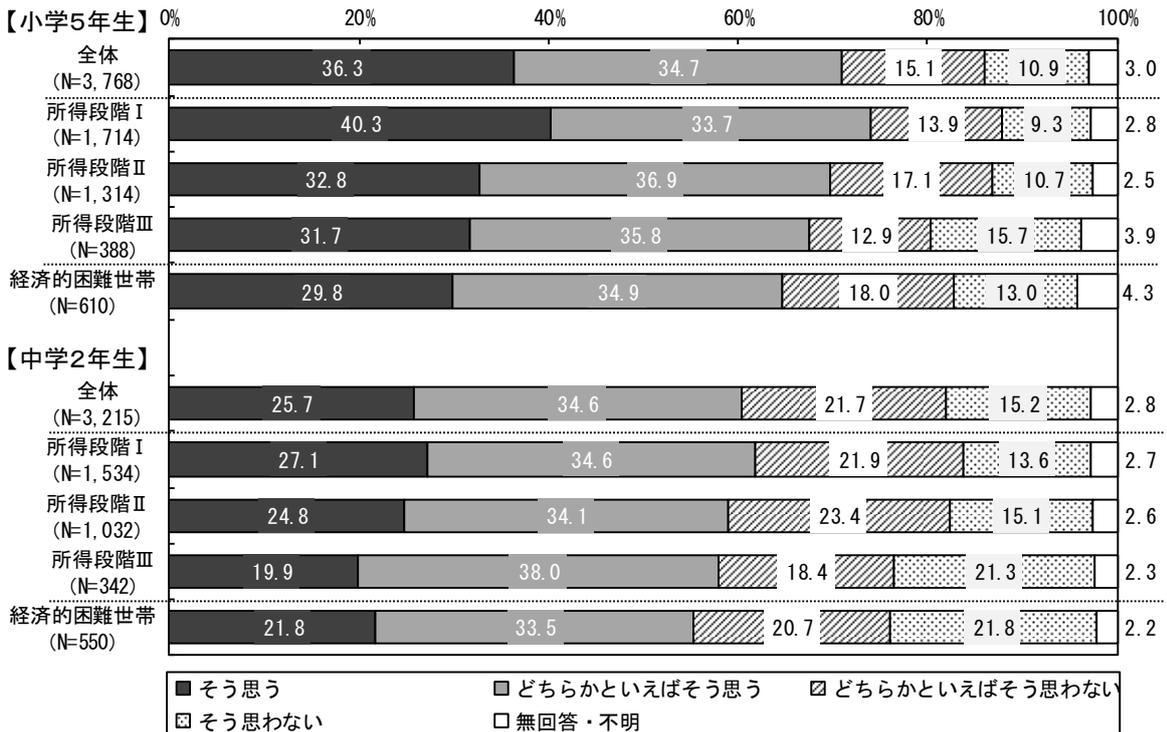
「自分の将来が楽しみだ」については、いずれの学年も、所得段階が低いほど「そう思う」が少なくなっています。

F 自分の将来が楽しみだ



「自分のことが好きだ」については、いずれの学年も所得段階が低いほど「そう思う」が少なくなっています。中学2年生の所得段階III、経済的困難世帯では、「そう思わない」が2割を超えています。

G 自分のことが好きだ

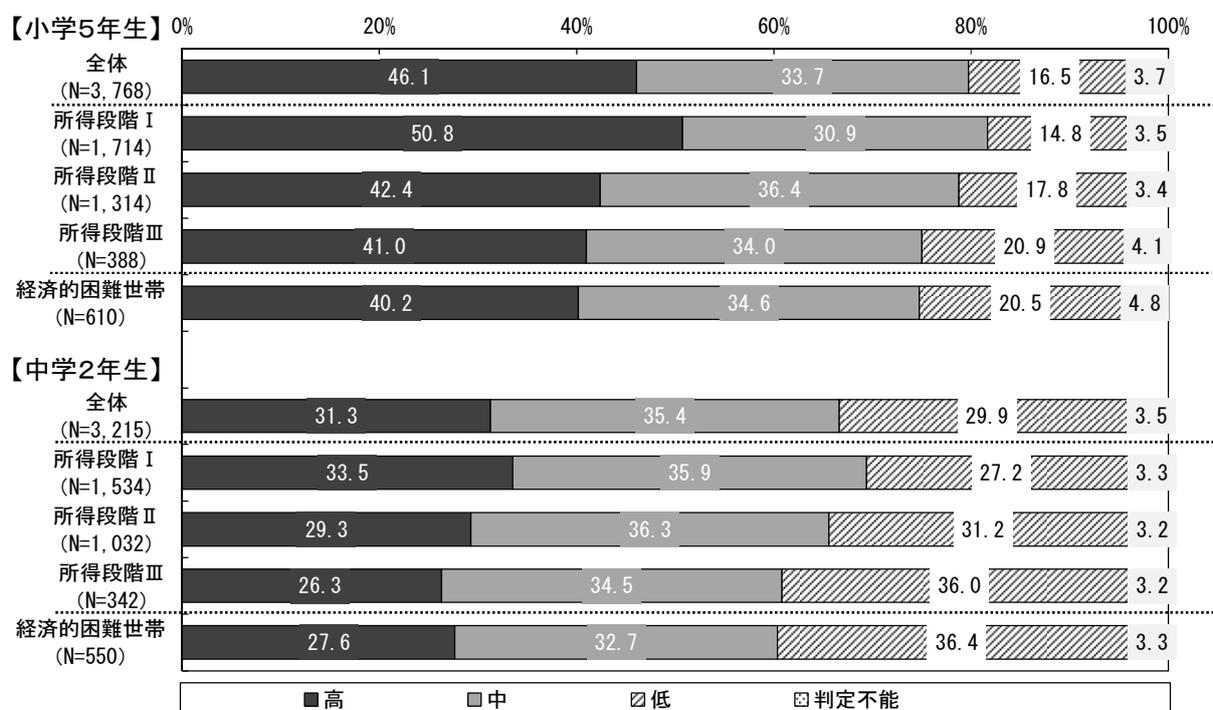


自尊感情を下表のように指標化し、世帯の経済状況と自尊感情について分析しました。経済的に厳しい世帯の子供ほど、自尊感情が低い結果となっています。

自尊感情得点(「V-1 追加的な分析のための指標の作成について」参照)

算出に用いる質問と回答	得点化の方法
質問:【子供調査】あなたの思いや気持ちについて、もっとも近いものに○をつけてください。 ①自分には、良いところがある ②将来の夢や目標をもっている ③がんばれば、いいことがある ④自分は家族に大事にされている ⑤自分の将来が楽しみだ ⑥自分のことが好きだ	①～⑥のそれぞれについて、回答を以下のように点数化します。 そう思う:3点 どちらかといえばそう思う:2点 どちらかといえばそう思わない:1点 そう思わない:0点 ①～⑥の点数を合算した合計得点が16点以上を自尊感情高、12～15点を中、11点以下を低とします。

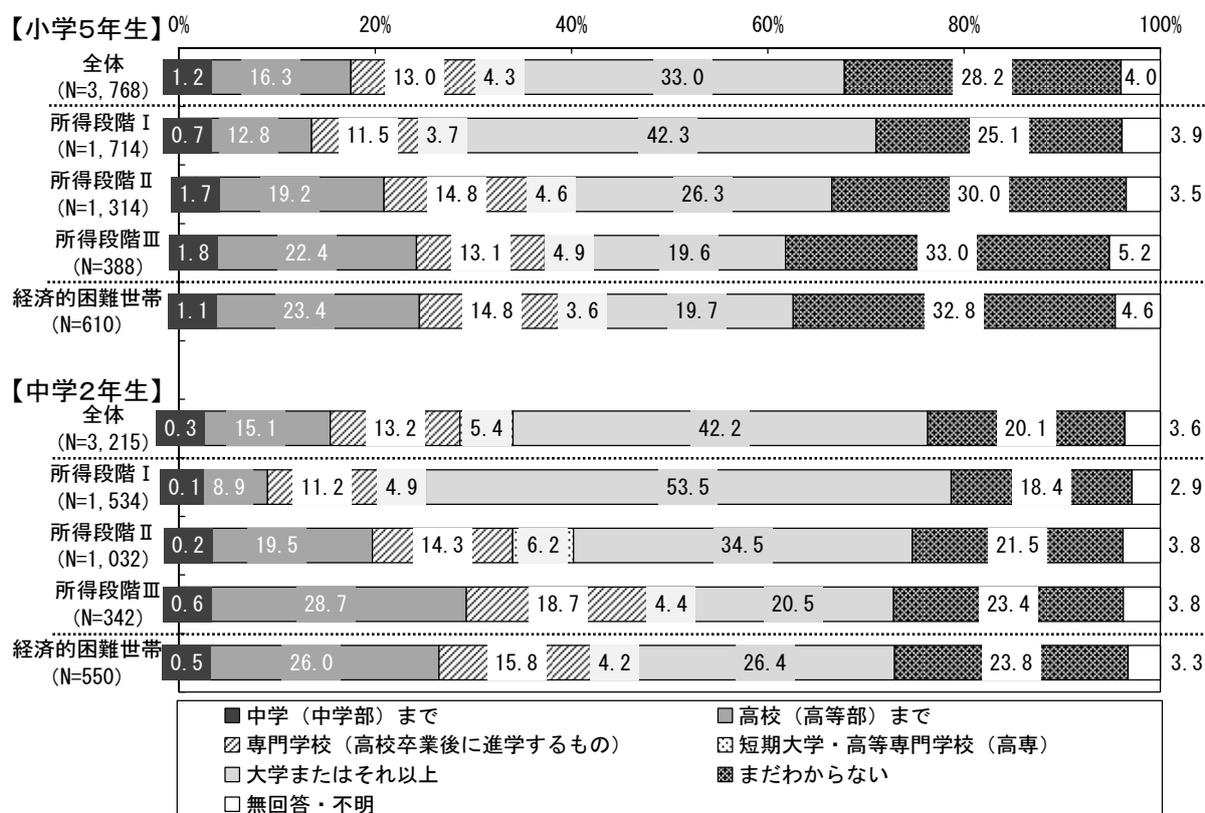
自尊感情の高低別にみた子供の割合



(2) 進学希望

将来の進学希望については、所得段階が低いほど「大学またはそれ以上」が少なく、「高校（高等部）まで」が多くなっています。中学2年生の所得段階Ⅰと所得段階Ⅲを比較すると、「大学またはそれ以上」については、所得段階Ⅲは所得段階Ⅰの半分以下であるのに対し、「高校（高等部）まで」については、所得段階Ⅲは所得段階Ⅰの3倍以上となっており、家庭の経済状況による差が大きくなっています。

問 37,36 あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。あなたの考えにもっとも近いものに○をつけてください。

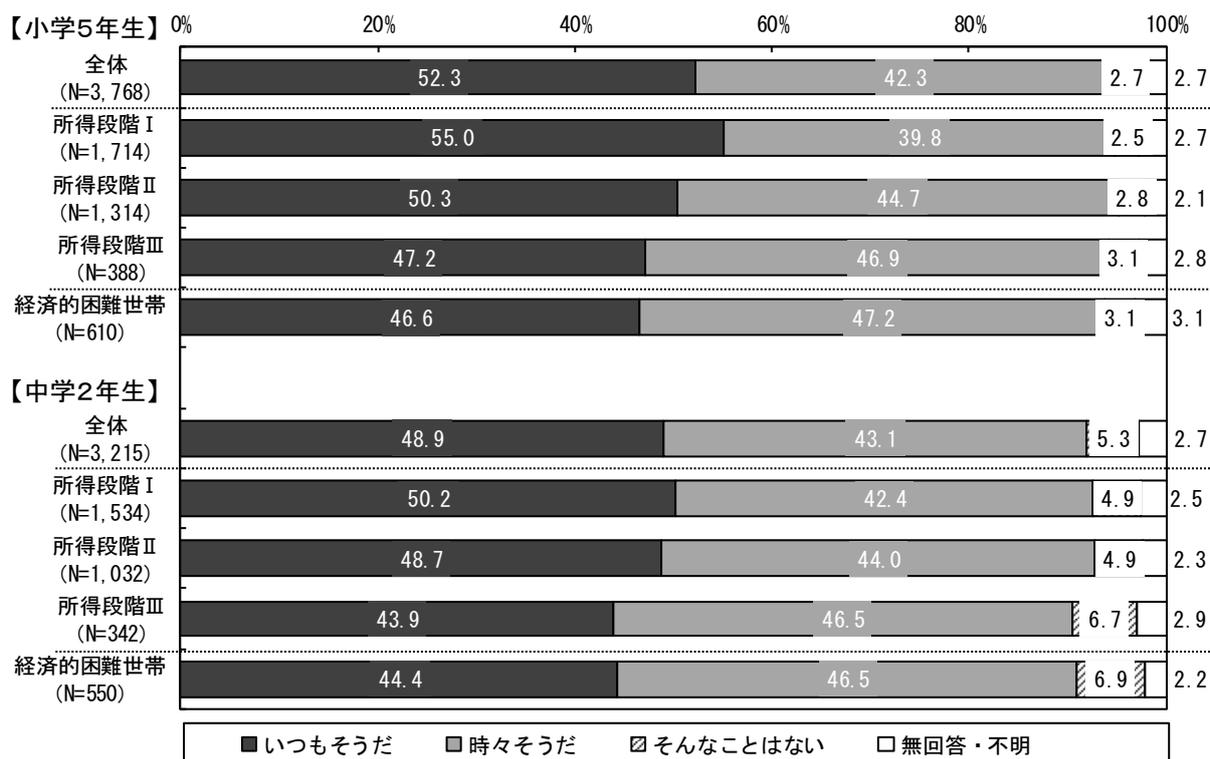


(3) 最近の1週間のこと

最近の1週間について、「楽しみにしていることがたくさんあった」については、所得段階が低いほど「いつもそうだ」がやや少なくなっています。

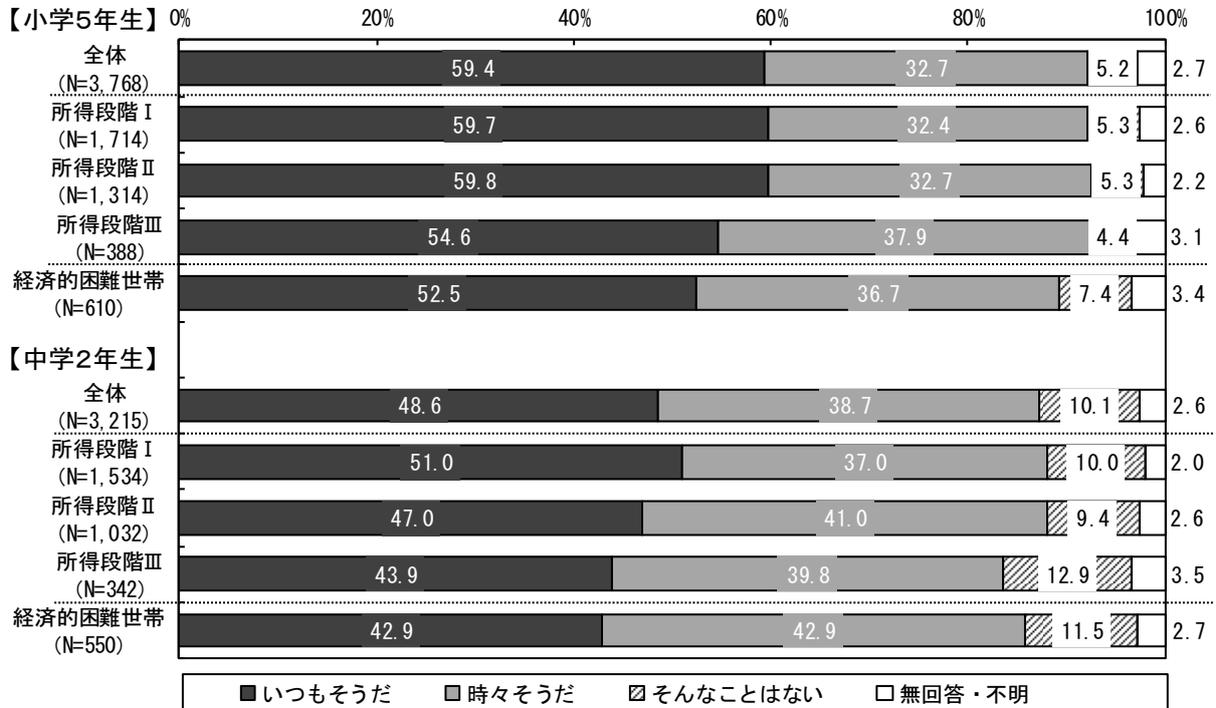
問 38, 37 わたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。この1週間はどんな1週間だったか、あてはまるところに○をつけてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに教えてください。

A 楽しみにしていることがたくさんあった



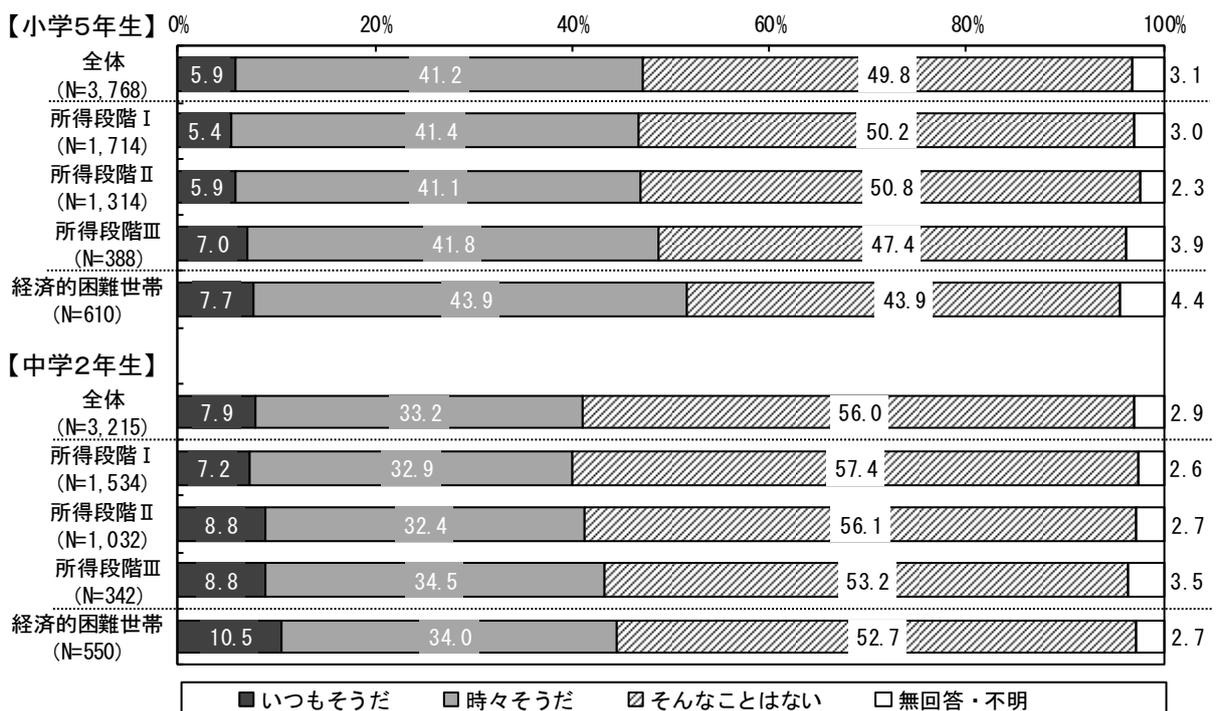
「とても良く眠れた」については、所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で「いつもそうだ」がやや少なくなっています。

B とても良く眠れた



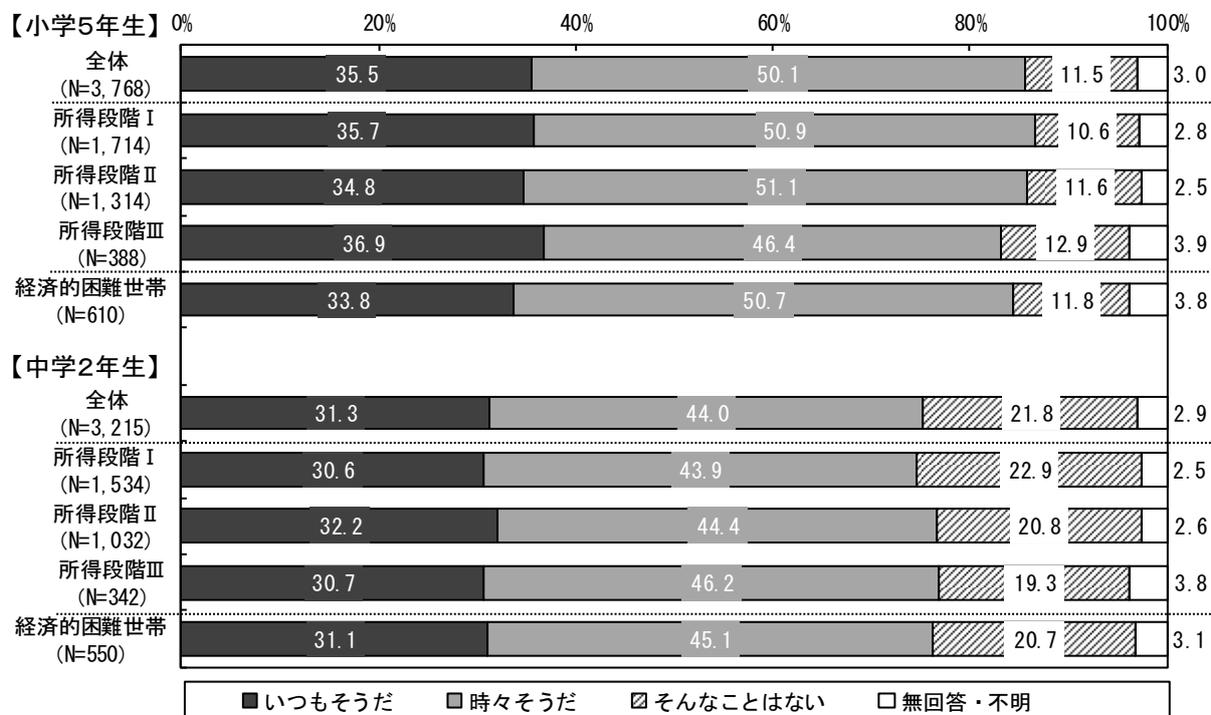
「泣きたいような気がした」については、所得段階が低いほど「いつもそうだ」または「時々そうだ」という回答がやや多くなっています。

C 泣きたいような気がした



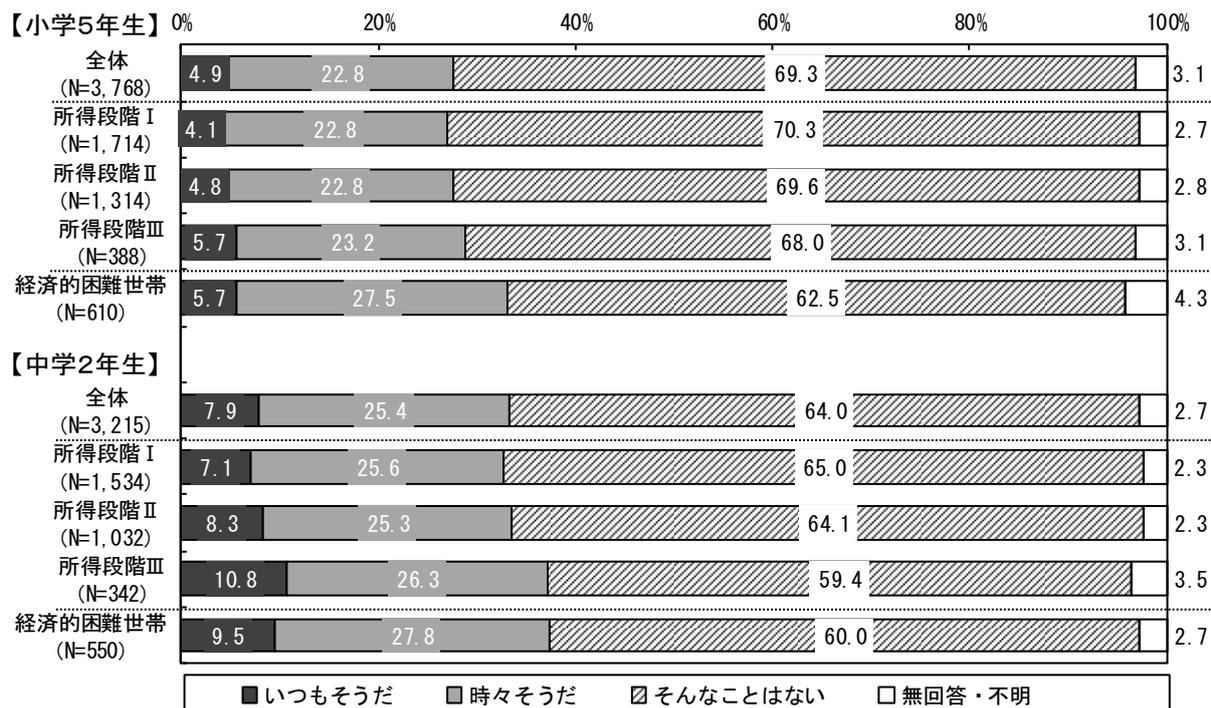
「遊びに出かけた」については、いずれの学年も3割台が「いつもそうだ」、4～5割が「時々そうだ」と回答しており、所得段階による差はありません。

D 遊びに出かけた



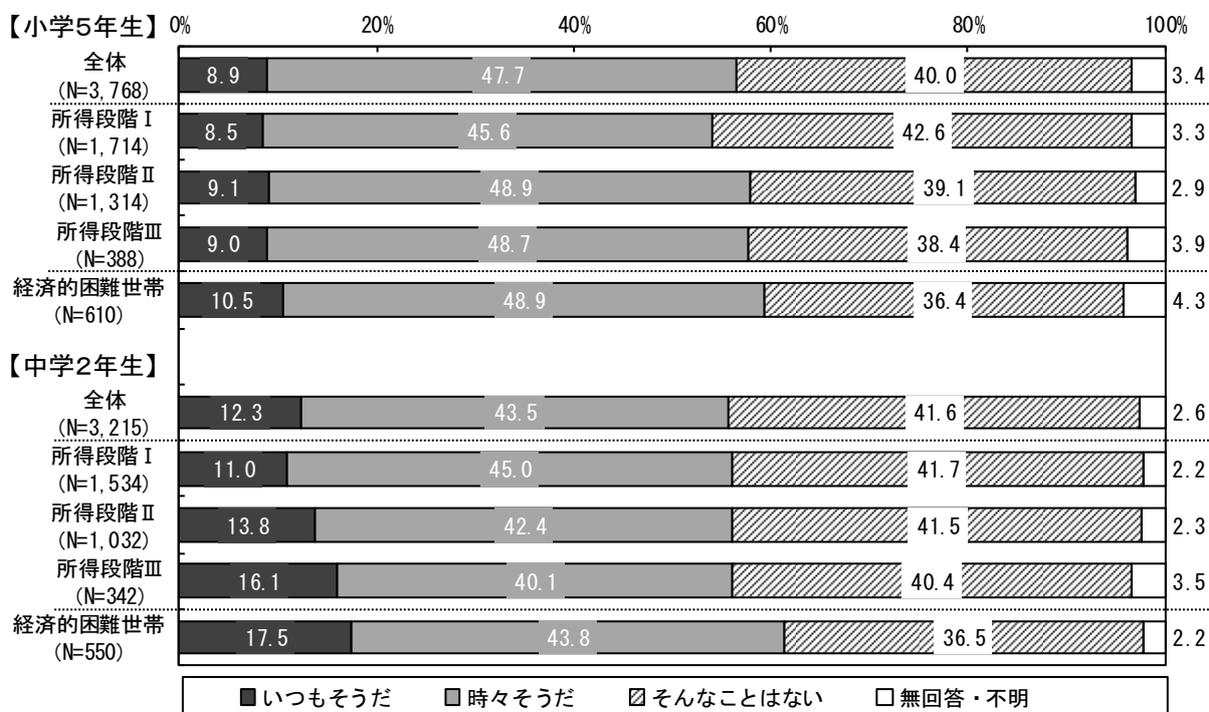
「逃げ出したいような気がした」については、小学5年生の経済的困難世帯と、中学2年生の所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で「いつもそうだ」または「時々そうだ」がやや多くなっています。

E 逃げ出したいような気がした



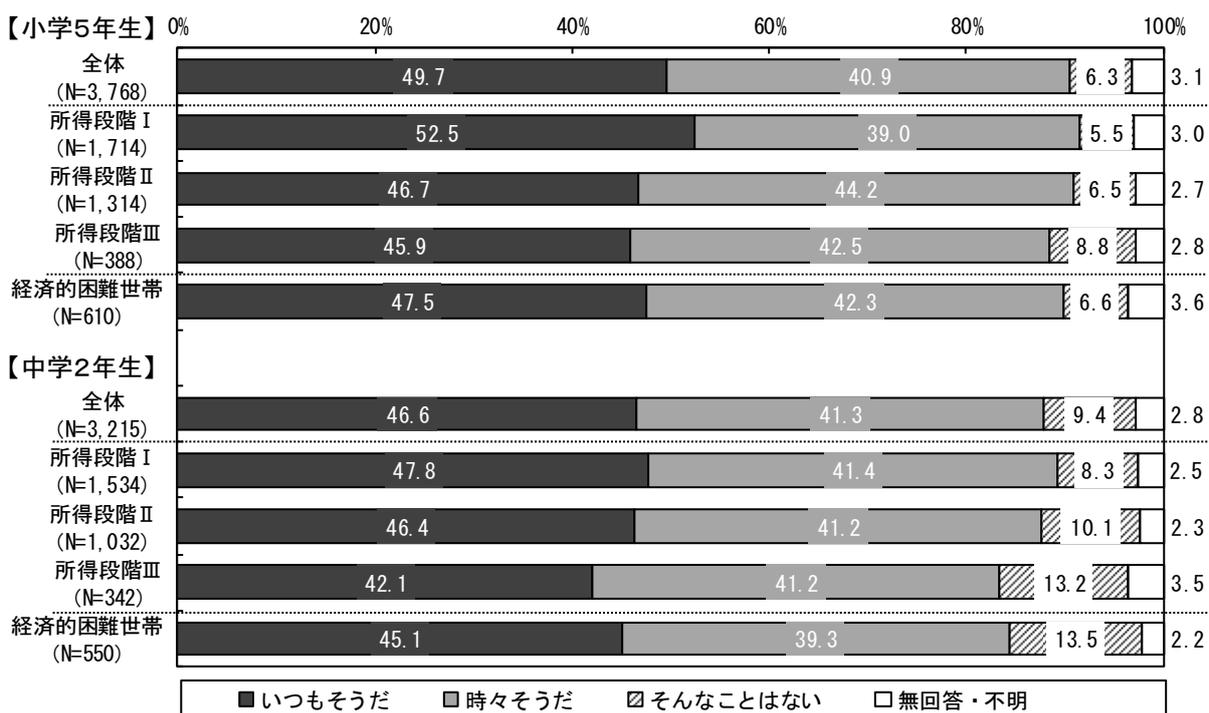
「おなかが痛くなることがあった」については、小学5年生では所得段階による差はありませんが、中学2年生では所得段階が低いほど「いつもそうだ」がやや多くなっており、経済的困難世帯では「いつもそうだ」または「時々そうだ」という回答が最も多くなっています。

F おなかが痛くなることがあった



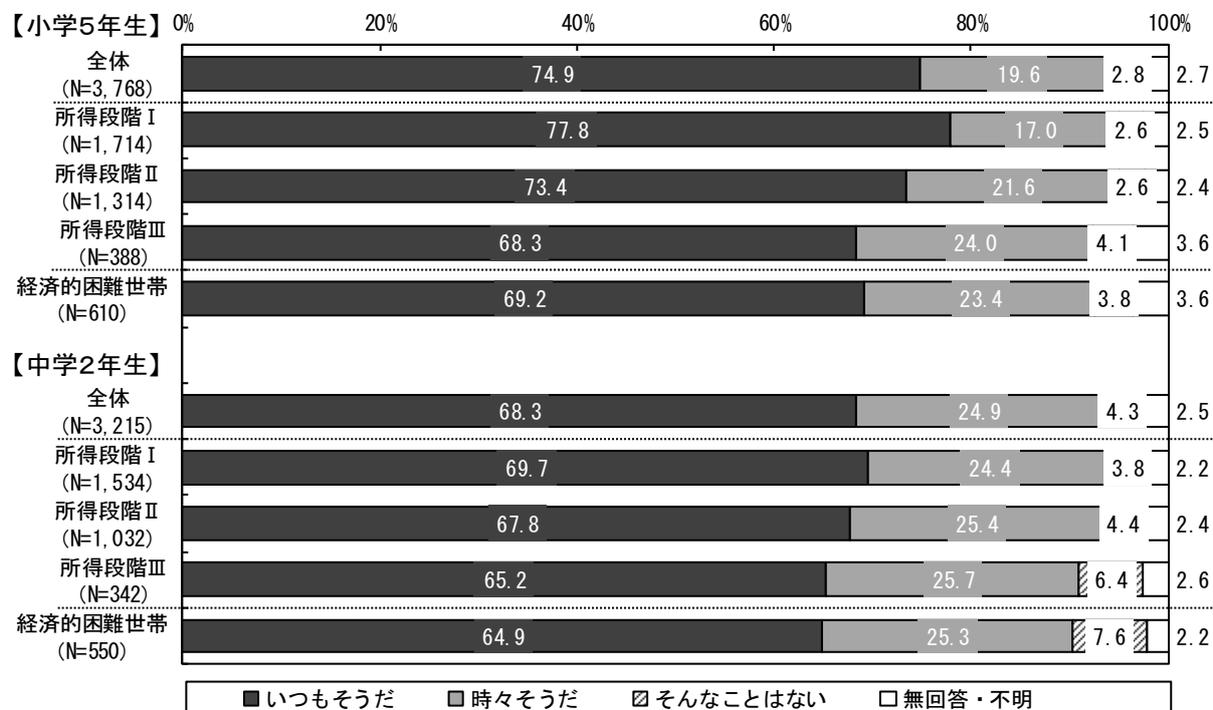
「がんばろうという気持ちになった」については、小学5年生では、所得段階Iで「いつもそうだ」がやや多く、中学2年生では、所得段階IIIで「いつもそうだ」がやや少なくなっています。

G がんばろうという気持ちになった



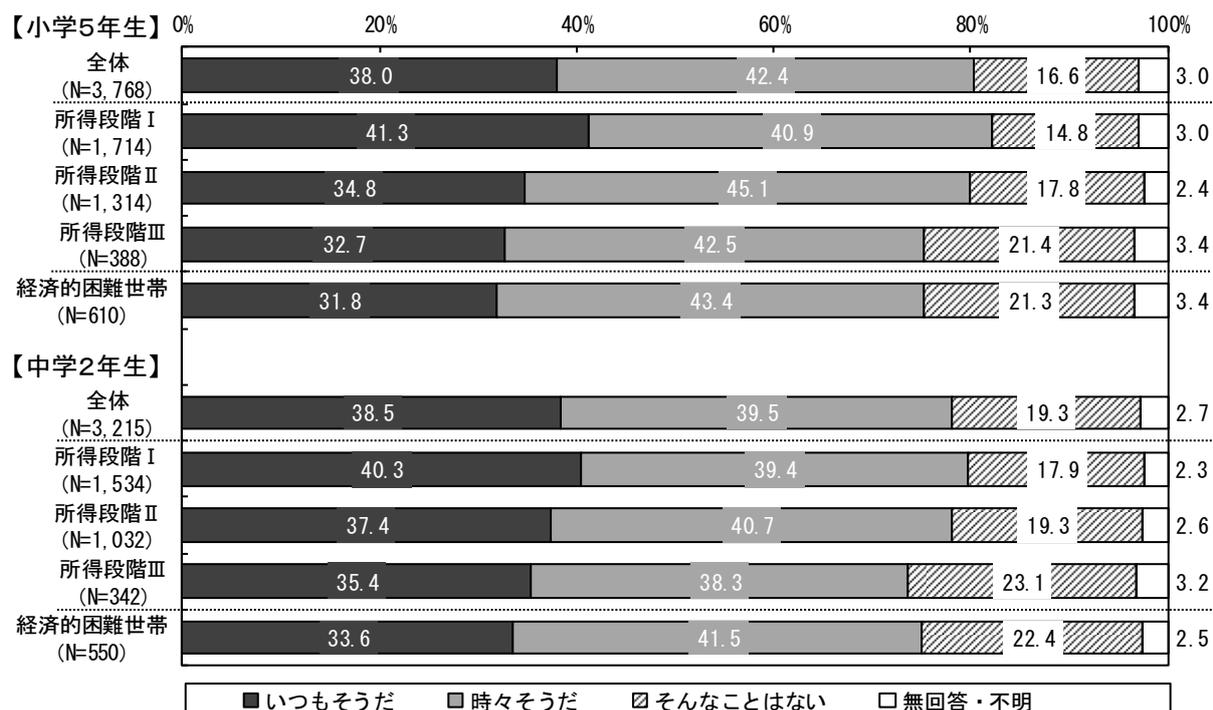
「楽しく食事をとれた」については、小学5年生では所得段階が低いほど「いつもそうだ」が少なくなっています。中学2年生についても、差はわずかですが同様の傾向です。

H 楽しく食事をとれた



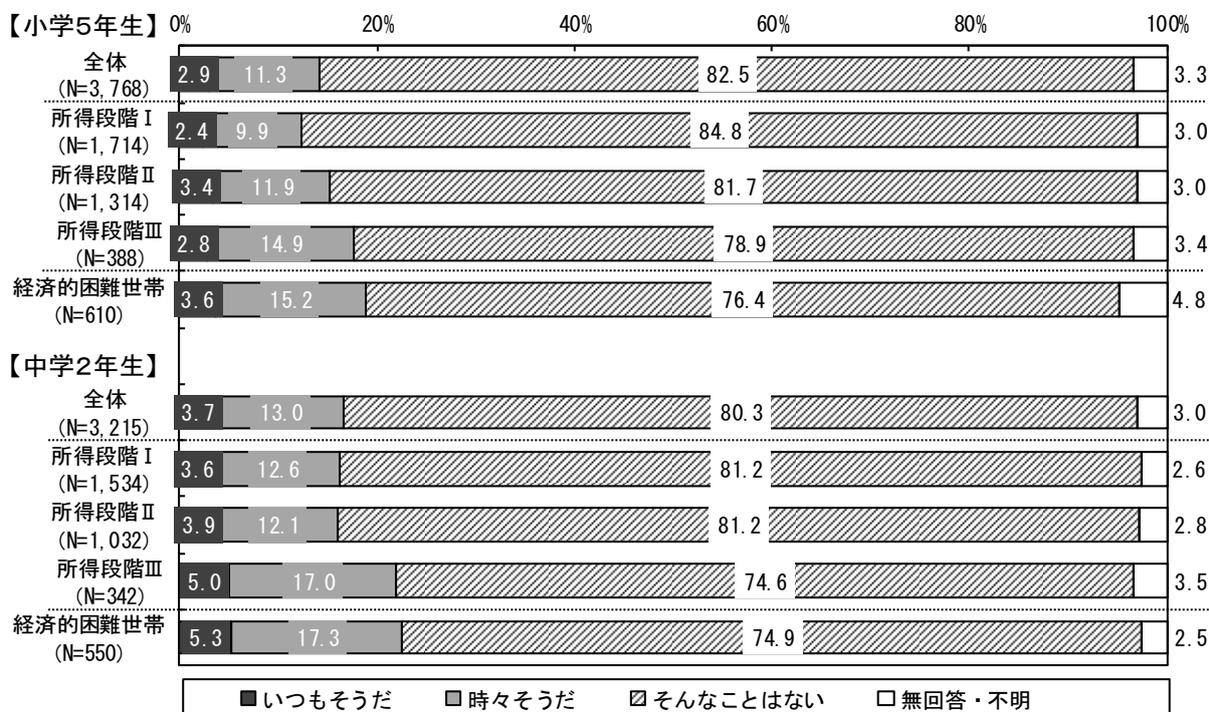
「自分の気持ちを他の人に伝えられた」については、いずれの学年も所得段階が低いほど「いつもそうだ」がやや少なくなっています。

I 自分の気持ちを他の人に伝えられた



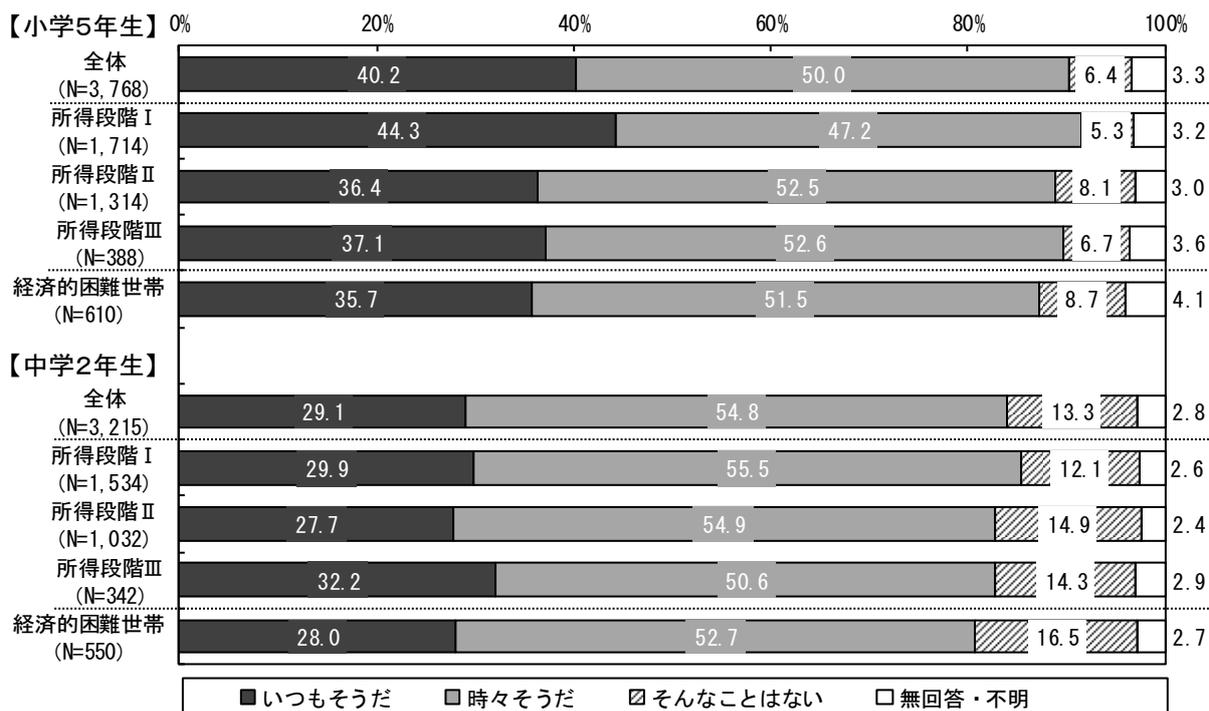
「生きていても仕方がないと思った」については、中学2年生の所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で、「いつもそうだ」または「時々そうだ」という回答がやや多くなっています。

J 生きていても仕方がないと思った



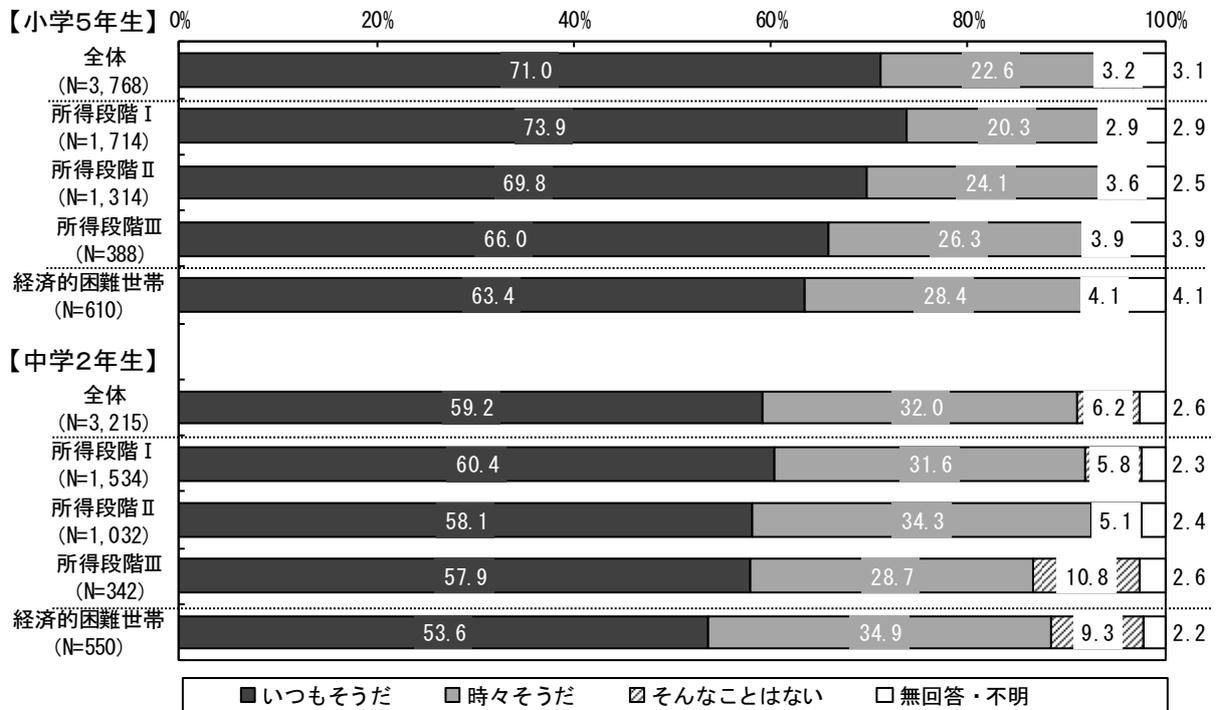
「やろうと思ったことがうまくできた」については、小学5年生の所得段階Ⅰで「いつもそうだ」がやや多くなっています。

K やろうと思ったことがうまくできた



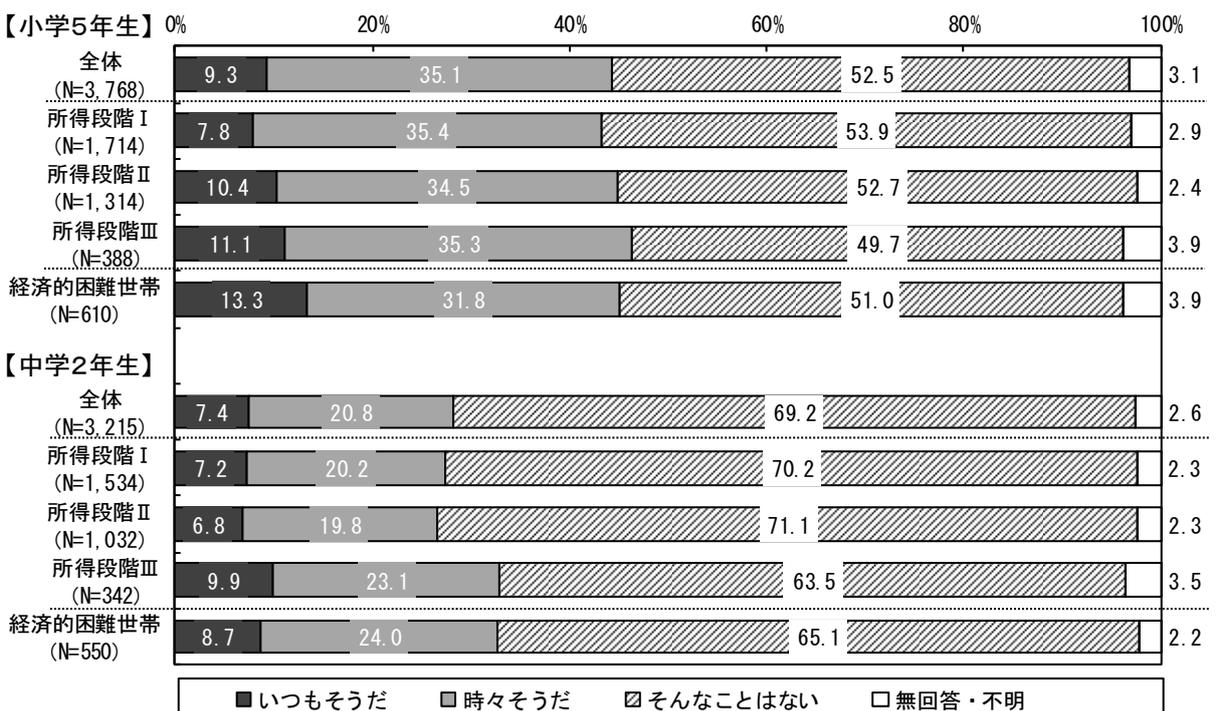
「楽しく家族と話をした」については、小学5年生では所得段階が低いほど「いつもそうだ」がやや少なくなっています。中学2年生の所得段階Ⅲ、経済的困難世帯では、「そんなことはない」がやや多くなっています。

L 楽しく家族と話をした



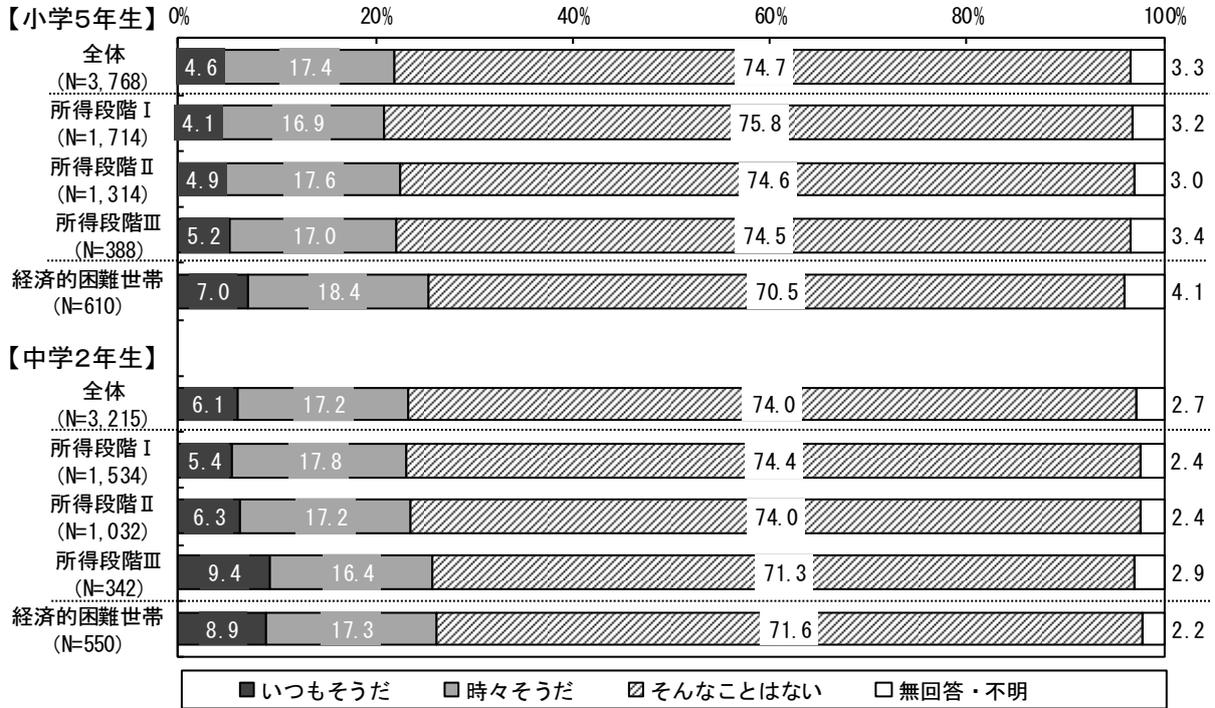
「こわい夢を見た」については、中学2年生の所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で「いつもそうだ」または「時々そうだ」という回答がやや多くなっています。

M こわい夢を見た



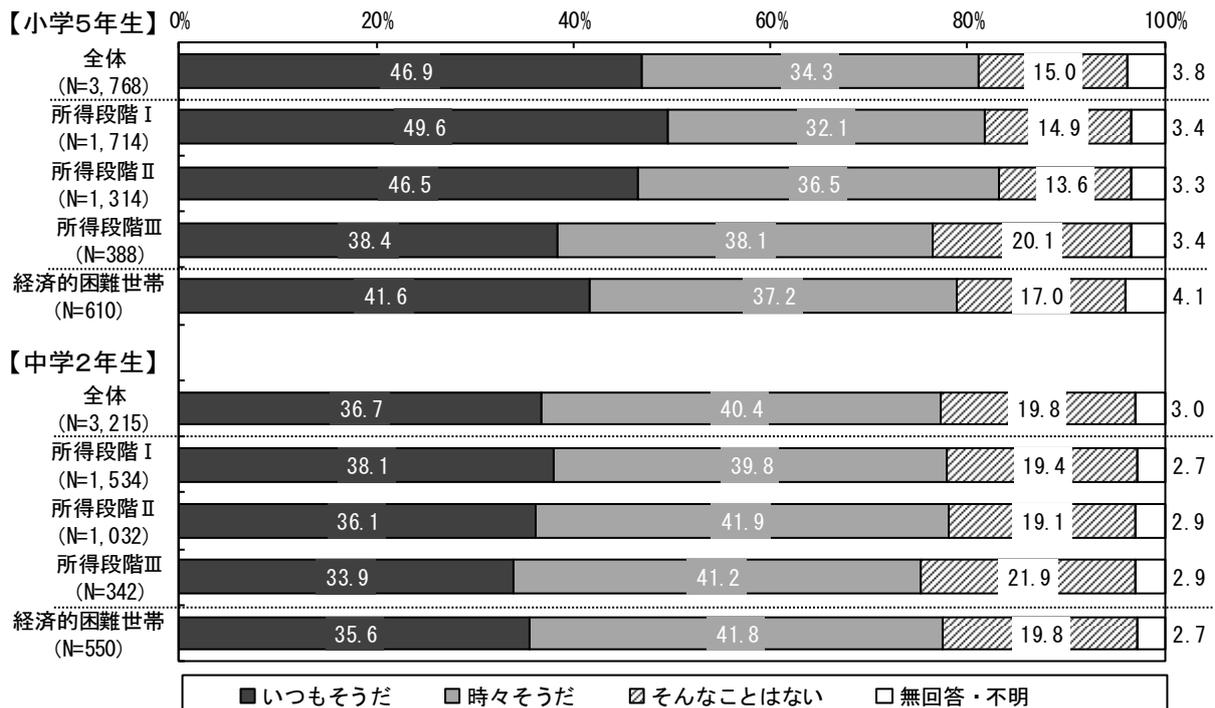
「ひとりぼっちの気がした」については、小学5年生の経済的困難世帯、中学2年生の所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で「いつもそうだ」がやや多くなっています。

N ひとりぼっちの気がした



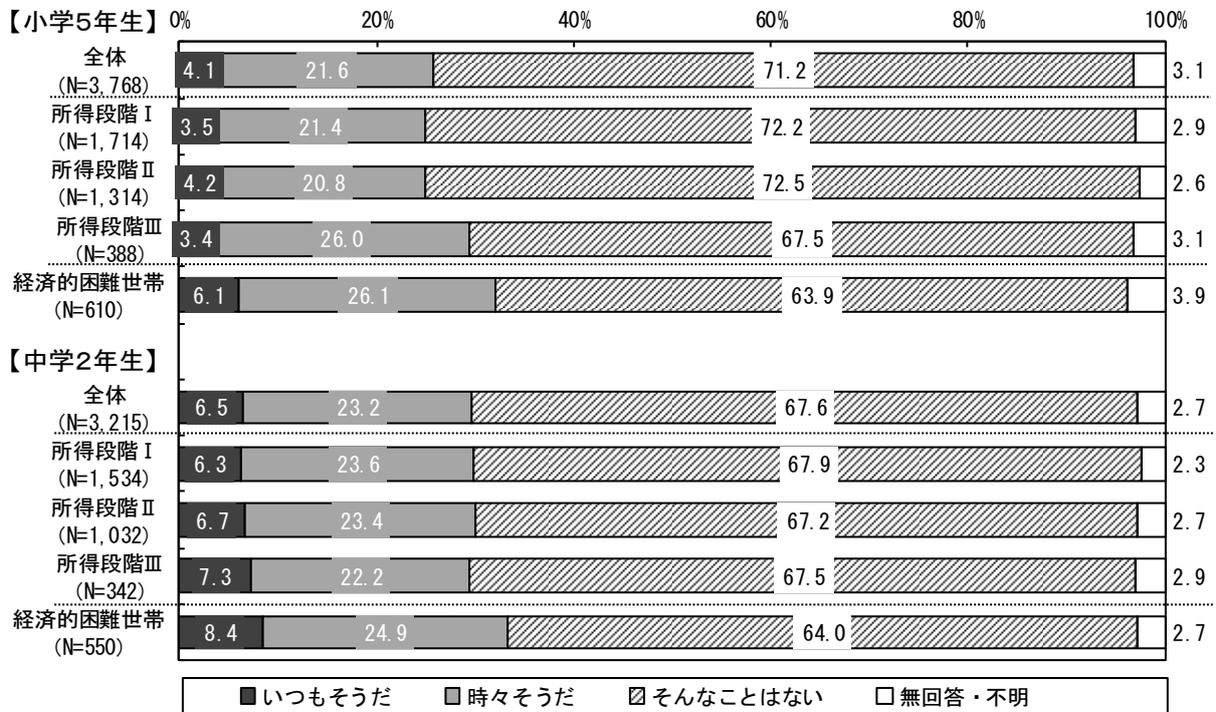
「落ち込んでいてもすぐ元気になれた」については、小学5年生では所得段階が低いほど「いつもそうだ」が少なく、中学2年生でも差はわずかですが、同様の傾向です。

O 落ち込んでいてもすぐに元気になれた



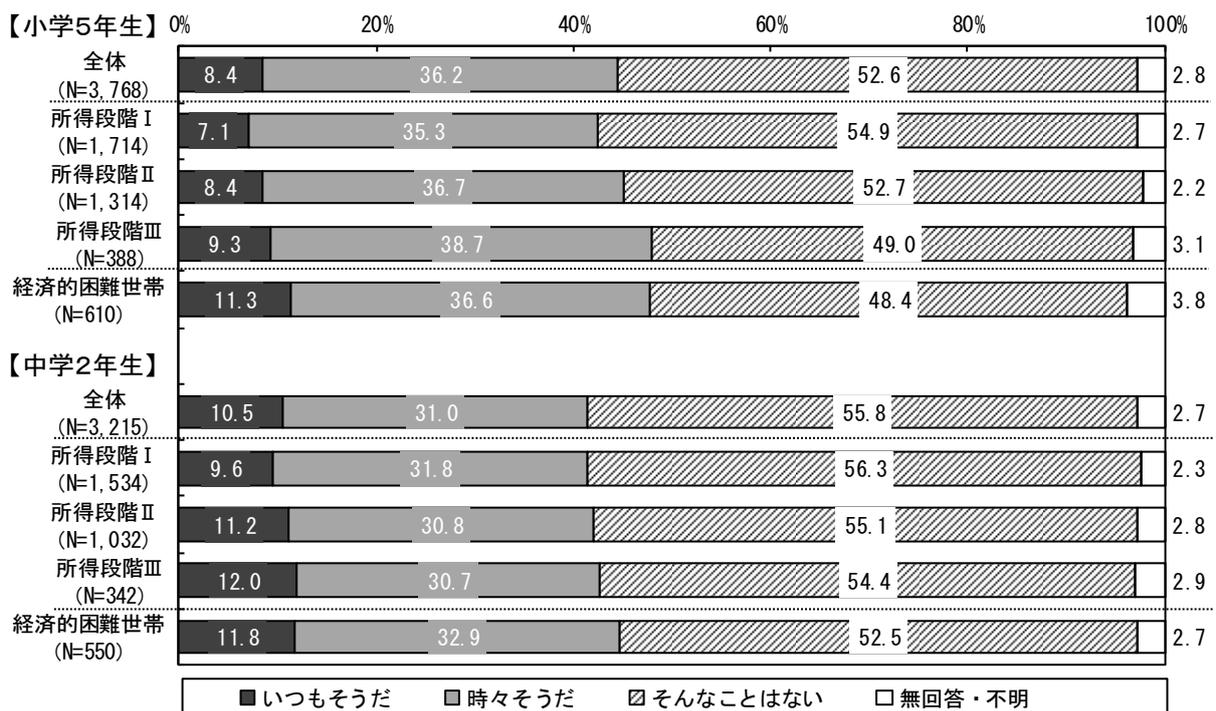
「とてもつらい気がした」については、小学5年生の所得段階Ⅲ、経済的困難世帯、中学2年生の経済的困難世帯で、「いつもそうだ」または「時々そうだ」という回答がやや多くなっています。

P とてもつらい気がした



「とても退屈な気がした」については、小学5年生で所得段階が低いほど、「いつもそうだ」または「時々そうだ」という回答がやや多くなっています。

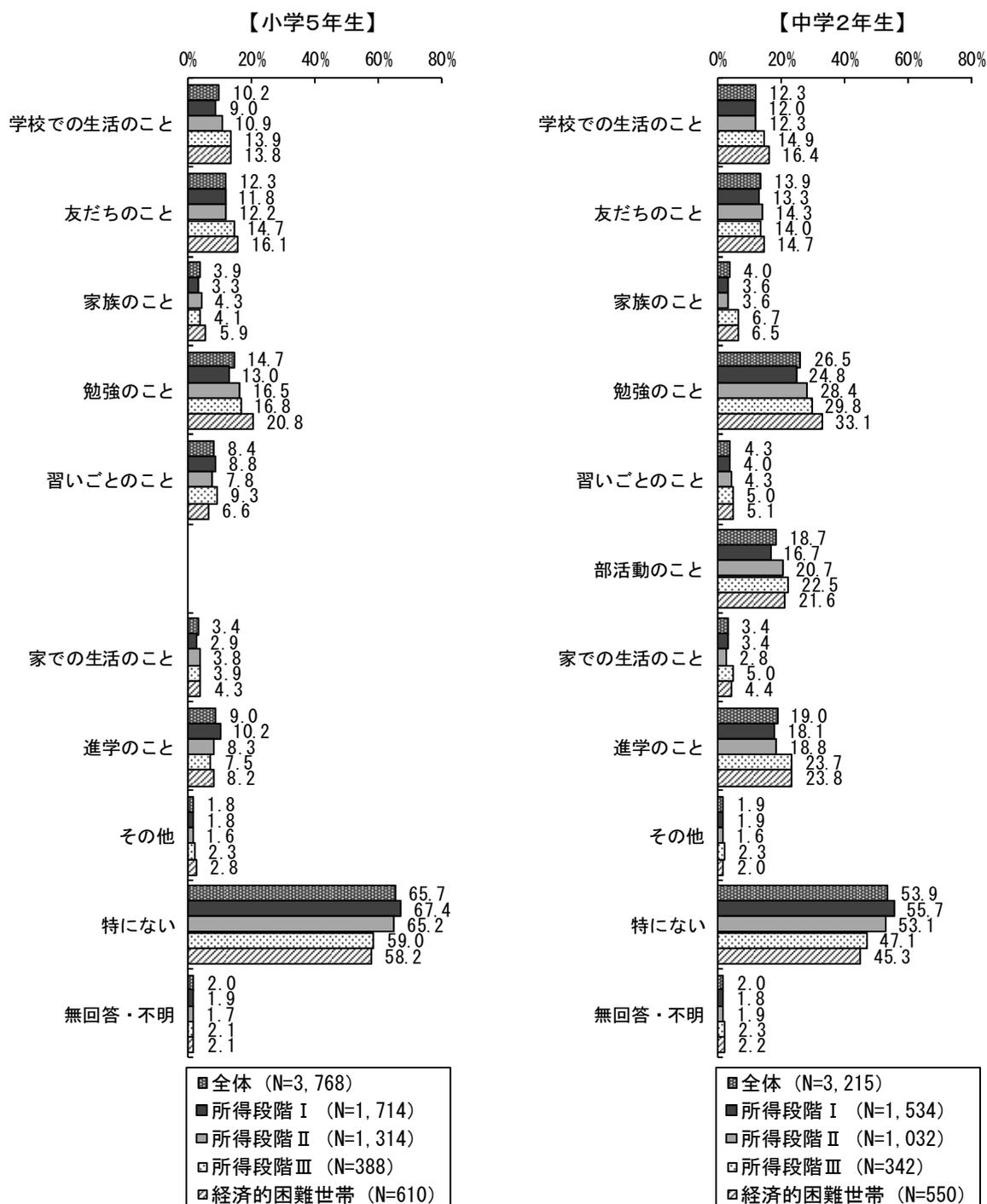
Q とても退屈な気がした



(4) 悩みごとや心配なこと

悩みごとや心配なことについては、所得段階Ⅲ、経済的困難世帯ではほとんどすべての項目で回答がやや多くなっており、「特にない」が少なくなっています。

問 39,38 あなたには、いま悩んでいることや心配なこと、困っていること、だれかに相談したいと思っていることがありますか。【複数回答】

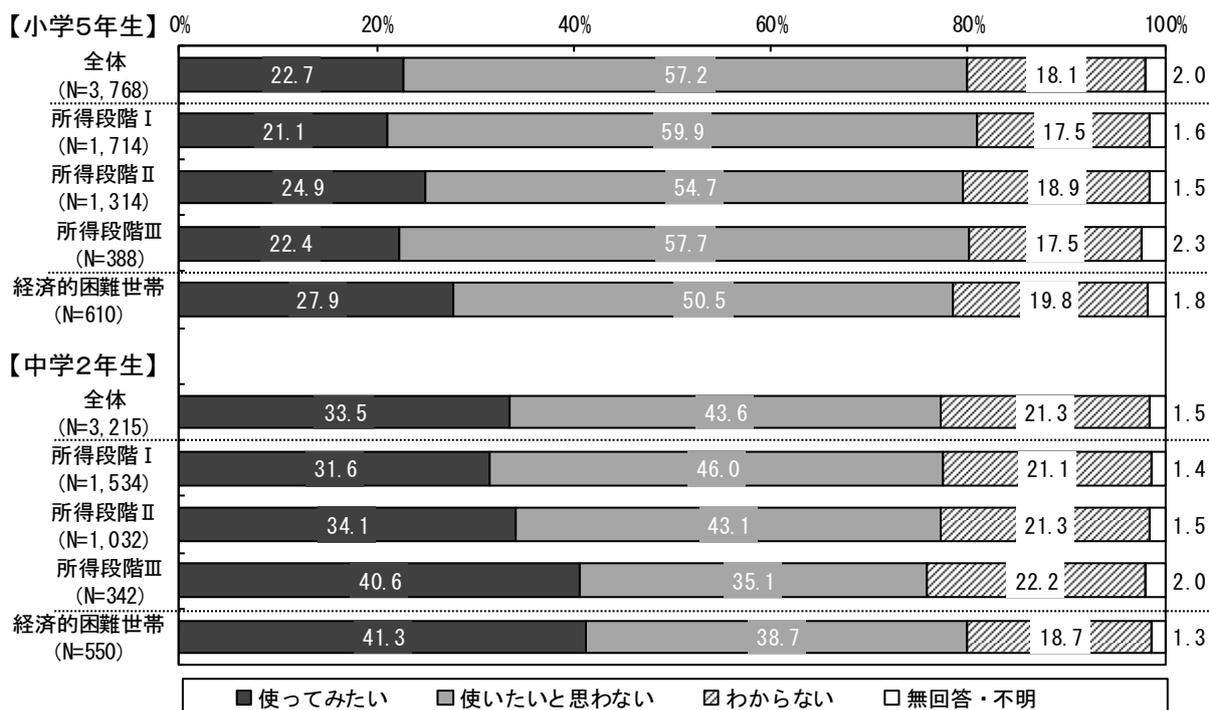


(5) 居場所の利用希望

「平日の放課後に夜までいることができる場所」の利用希望については、小学5年生の経済的困難世帯で「使ってみたい」がやや多く、中学2年生では、所得段階が低いほど「使ってみたい」がやや多くなっています。

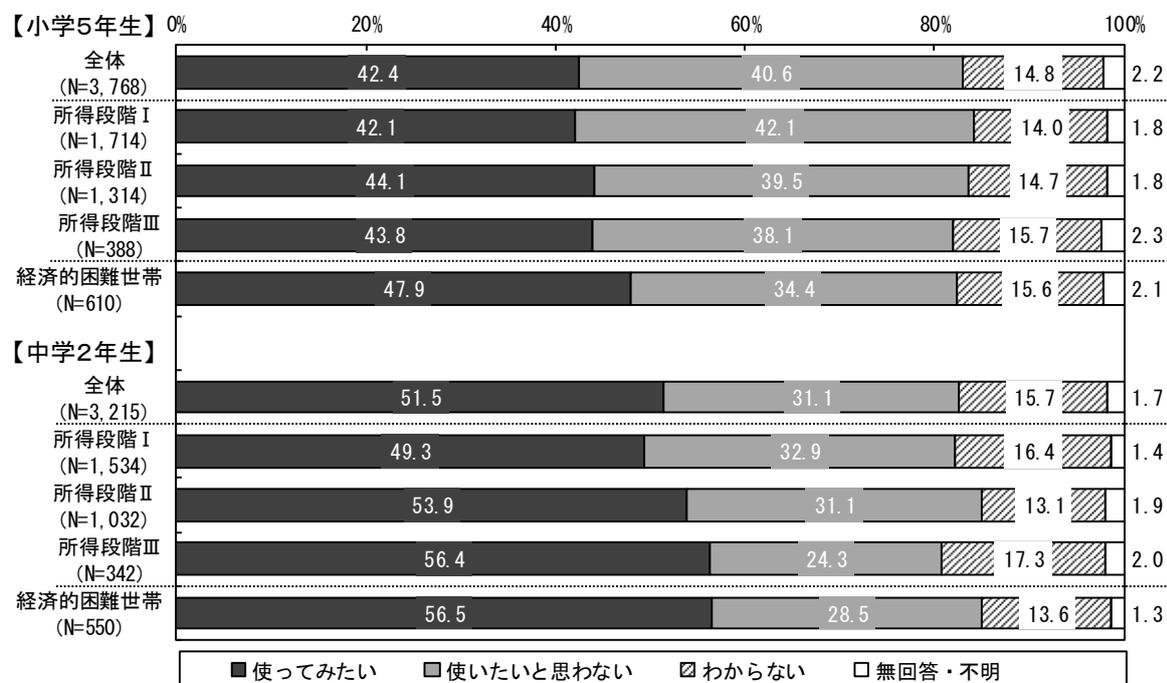
問 40, 39 あなたは、次のような場所があれば使ってみたいと思いますか。

A (家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所



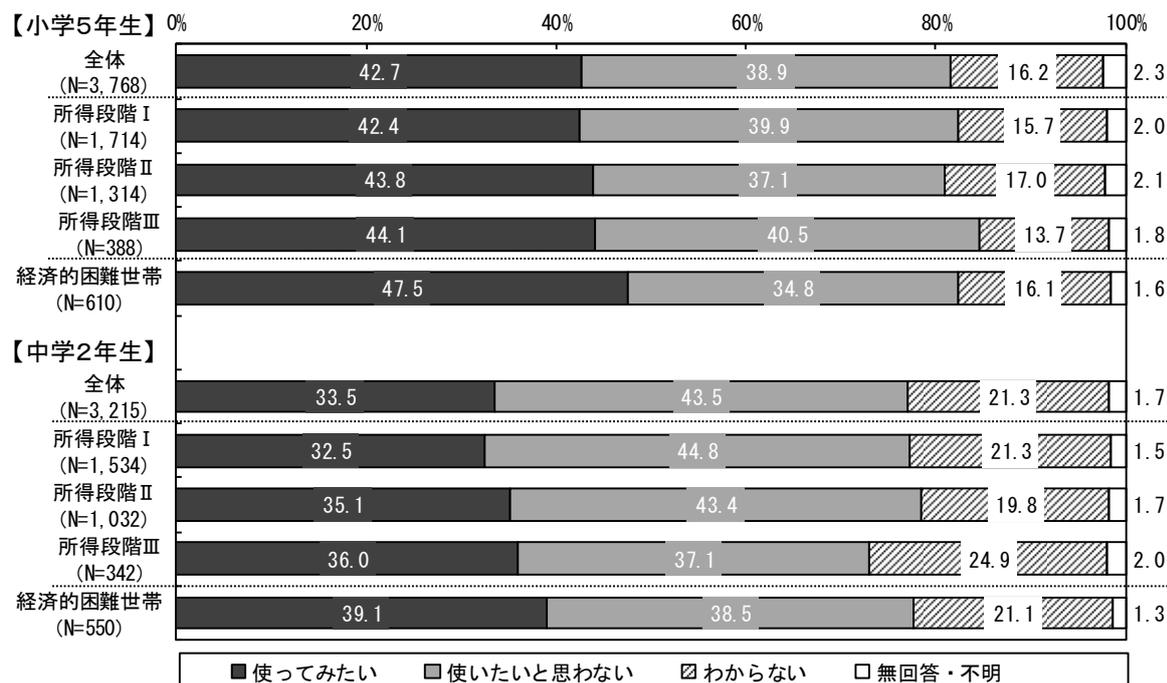
「休日にいることができる場所」の利用希望については、小学5年生の経済的困難世帯では「使ってみたい」がやや多く、中学2年生では所得段階が低いほど「使ってみたい」がやや多くなっています。

B (家以外で) 休日にいることができる場所



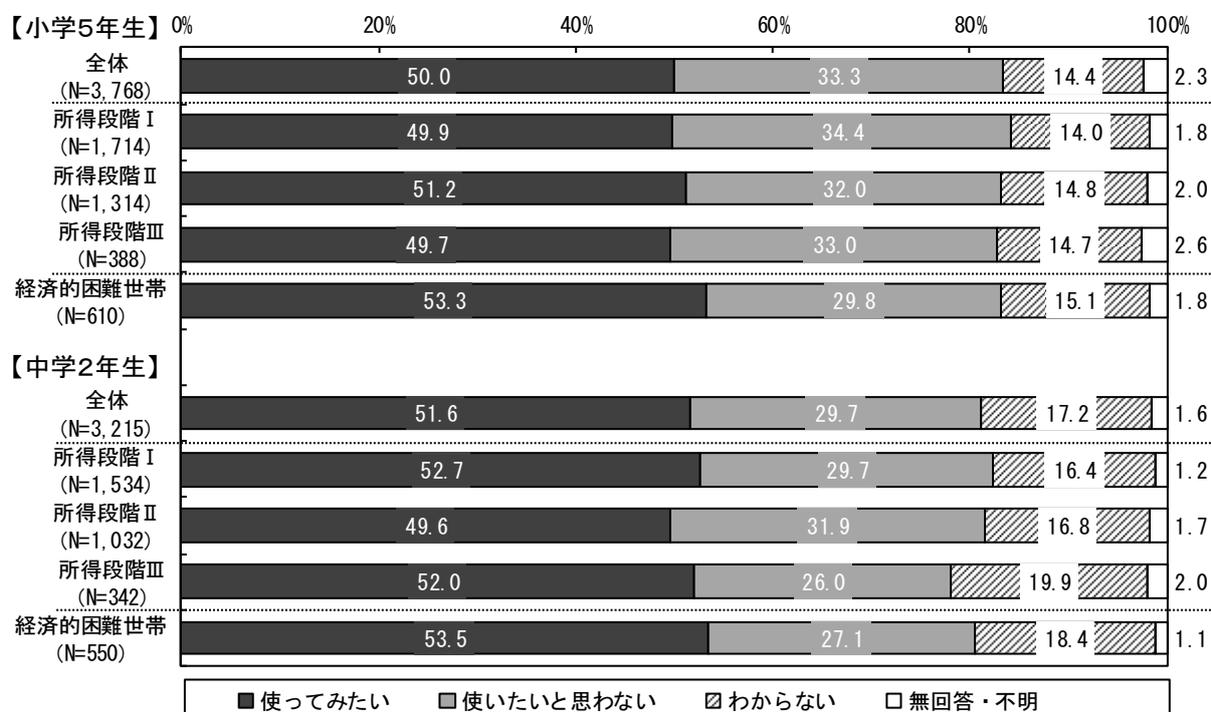
「家の人がないとき、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」については、いずれの学年も経済的困難世帯で「使ってみたい」がやや多く、中学2年生では差はわずかですが、所得段階が低いほど「使ってみたい」がやや多くなっています。

C 家の人がないとき、夕ごはんをみんなで食べることができる場所



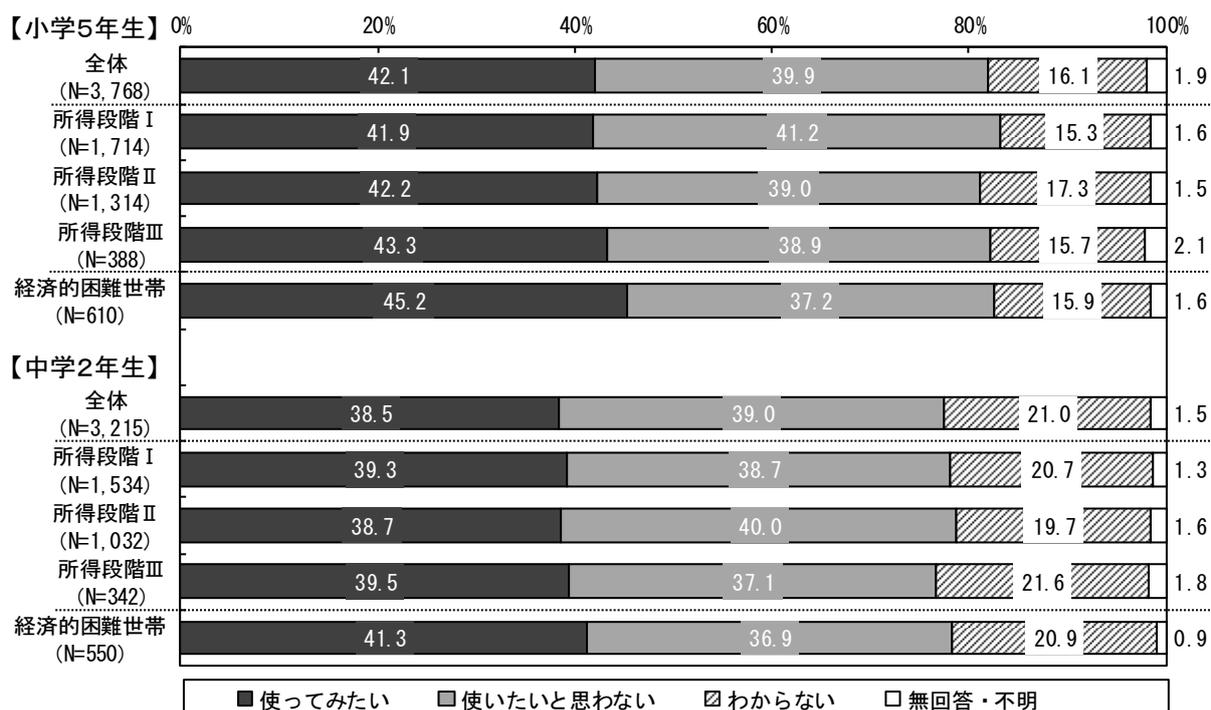
「家で勉強できないとき、勉強ができる場所」については、いずれの学年も5割前後が利用を希望しています。所得段階による差はあまりありません。

D 家で勉強できないとき、勉強ができる場所



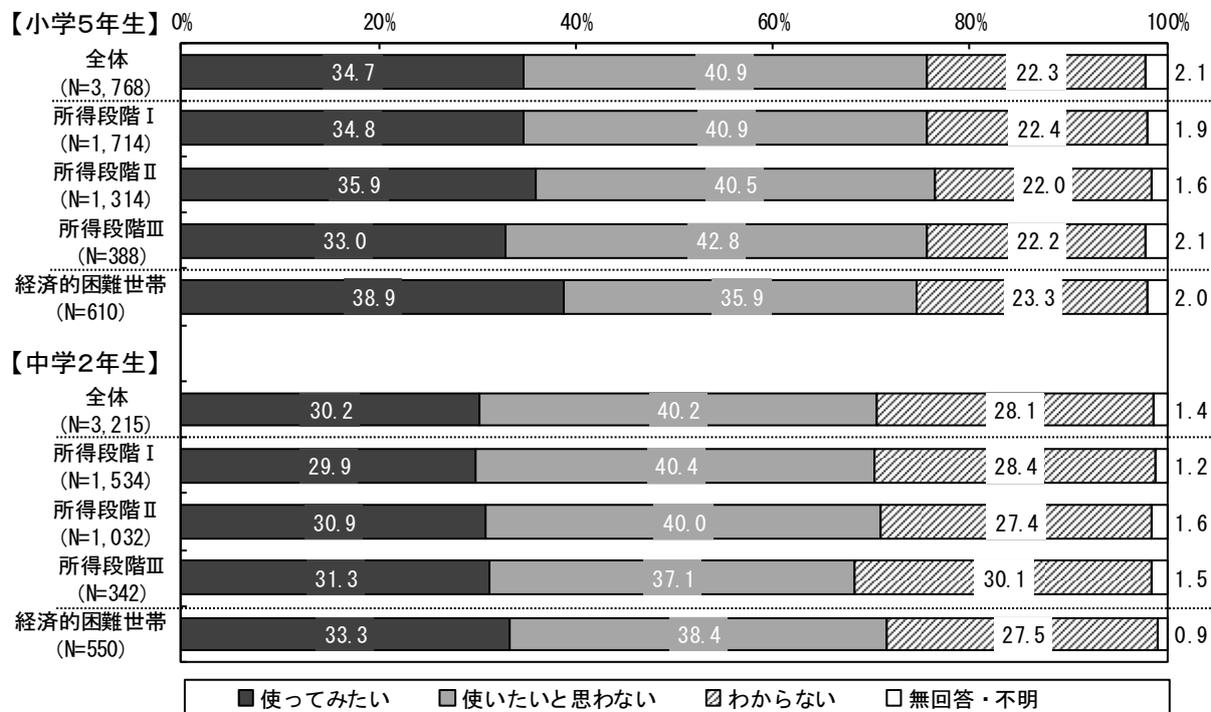
「大学生のお兄さんやお姉さん、地域の人などが、勉強を無料で教えてくれる場所」については、いずれの学年も4割前後が「使ってみよう」と回答しています。所得段階による差はあまりありません。

E 大学生のお兄さんやお姉さん、地域の人などが、勉強を無料で教えてくれる場所



「なんでも相談できる場所」については、いずれの学年も3割前後が「使ってみたい」と回答しています。所得段階による差はあまりありません。

F (学校以外で) なんでも相談できる場所



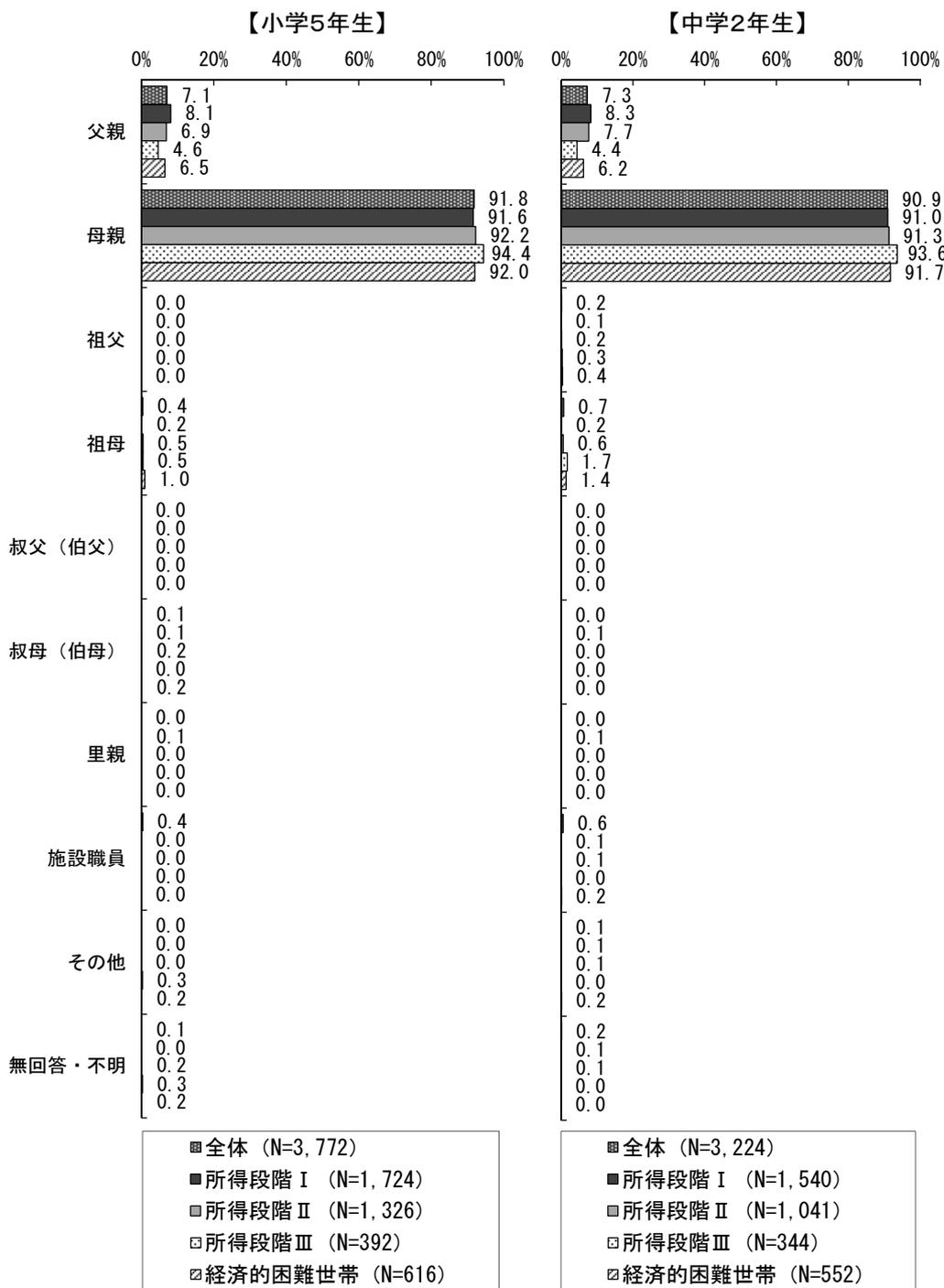
III 保護者調査の結果

1. 家族の状況について

(1) 回答者の子供からみた続柄と年齢

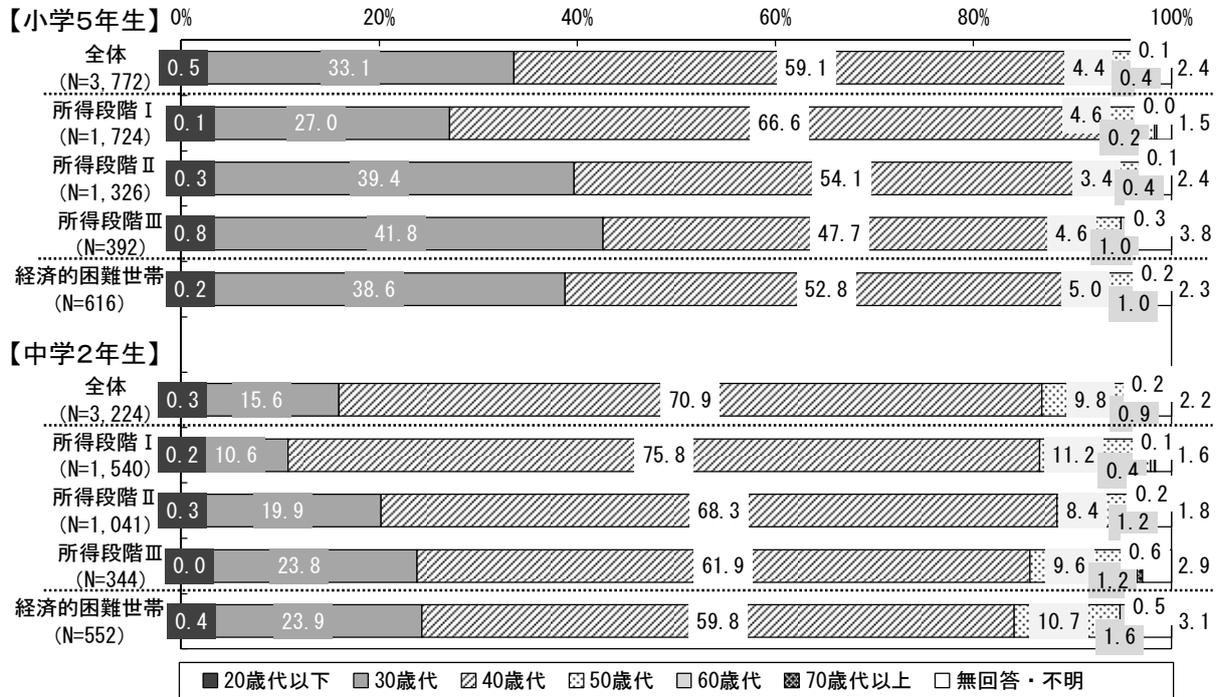
保護者調査票の回答者の、子供からみた続柄については、9割以上が母親となっています。

問2 この調査票を持ち帰ったお子さんとあなた(回答者)との関係は、次のどれになりますか。



回答者の年齢については、いずれの学年も40歳代が最も多く、次いで30歳代が多くなっています。所得段階が低いほど、回答者の年齢構成が若い傾向があります。

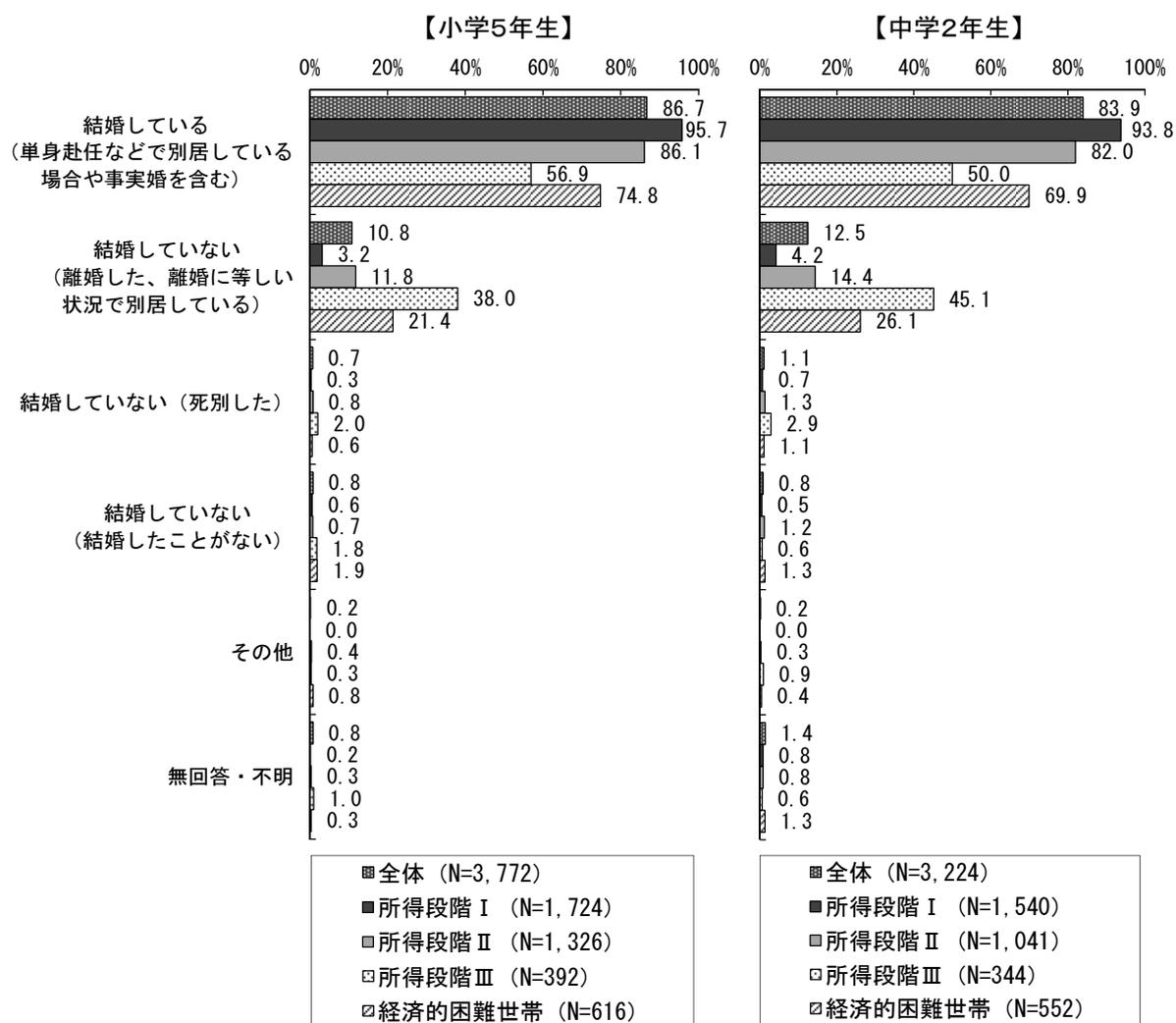
問3 あなたの年齢を教えてください。



(2) 両親の婚姻関係

両親の婚姻関係について、いずれの学年も所得段階Ⅰでは9割以上が「結婚している」と回答しているのに対し、所得段階Ⅱでは8割台、所得段階Ⅲでは5割台となっています。

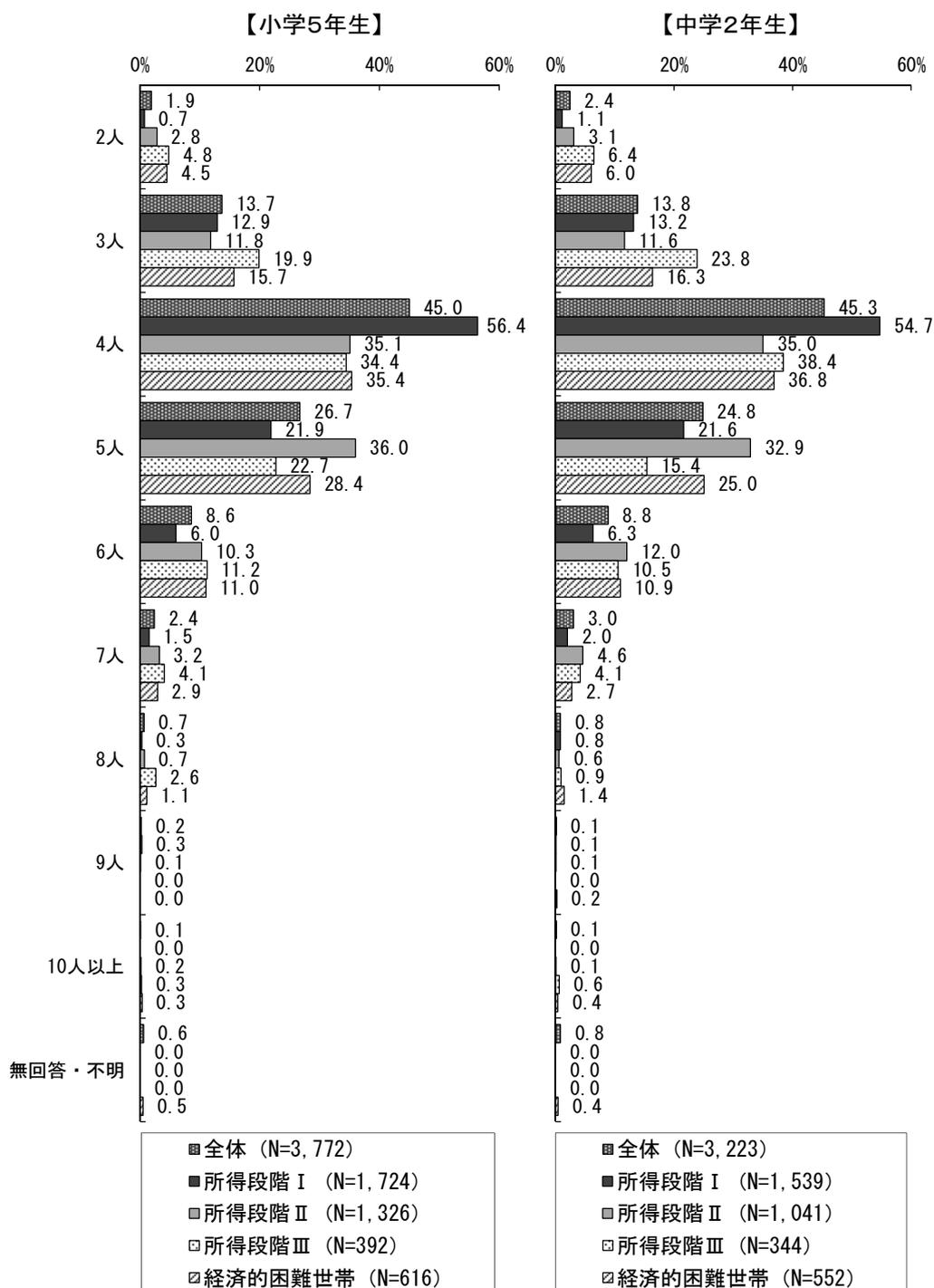
問4 お子さんの、現在のご両親の関係を教えてください。



(3) 家族の人数と構成員

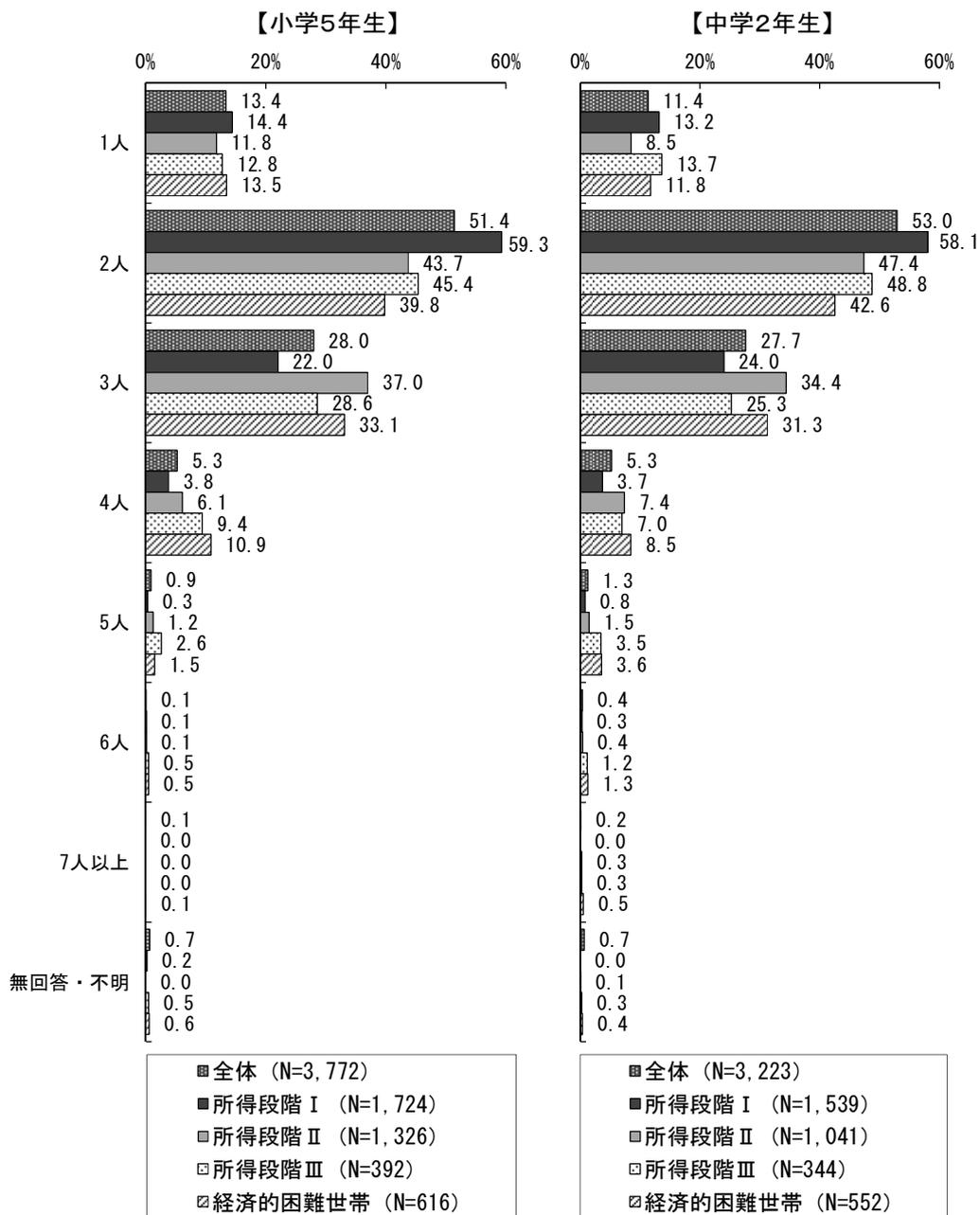
家族の人数については、所得段階Ⅲで「2人」「3人」が多くなっています。これは、ひとり親世帯が多いことも影響しています。

問5 あなたの家族は何人家族ですか。単身赴任や入院・入所の方、大学等で下宿して仕事を送りしている子供など家計を一緒にしている人はすべて含めて教えてください（就職・結婚などで家を出て独立している子供(家計を一緒にしていない子供)は含めません）。



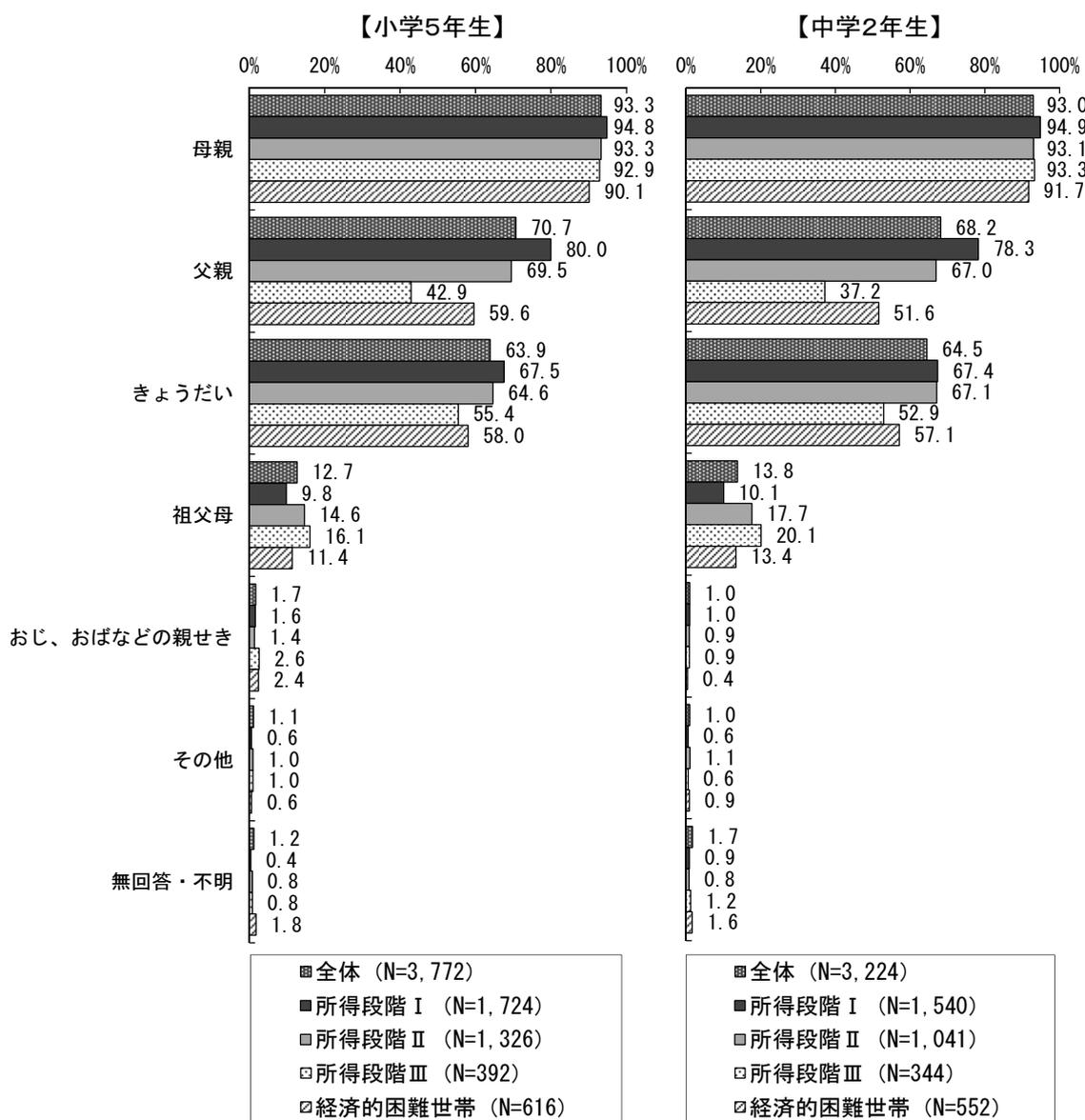
きょうだいの人数については、「2人」では所得段階Ⅰ、「3人」では所得段階Ⅱが多くなっています。

問6 お子さんは何人きょうだいですか。調査票を持ち帰ったお子さんも含めた人数をお答えください。



家族の構成員については、いずれの学年も所得段階が低いほど「父親」という回答が少なくなっています。「きょうだい」は所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で少なく、「祖父母」は所得段階が低いほどやや多くなっています。

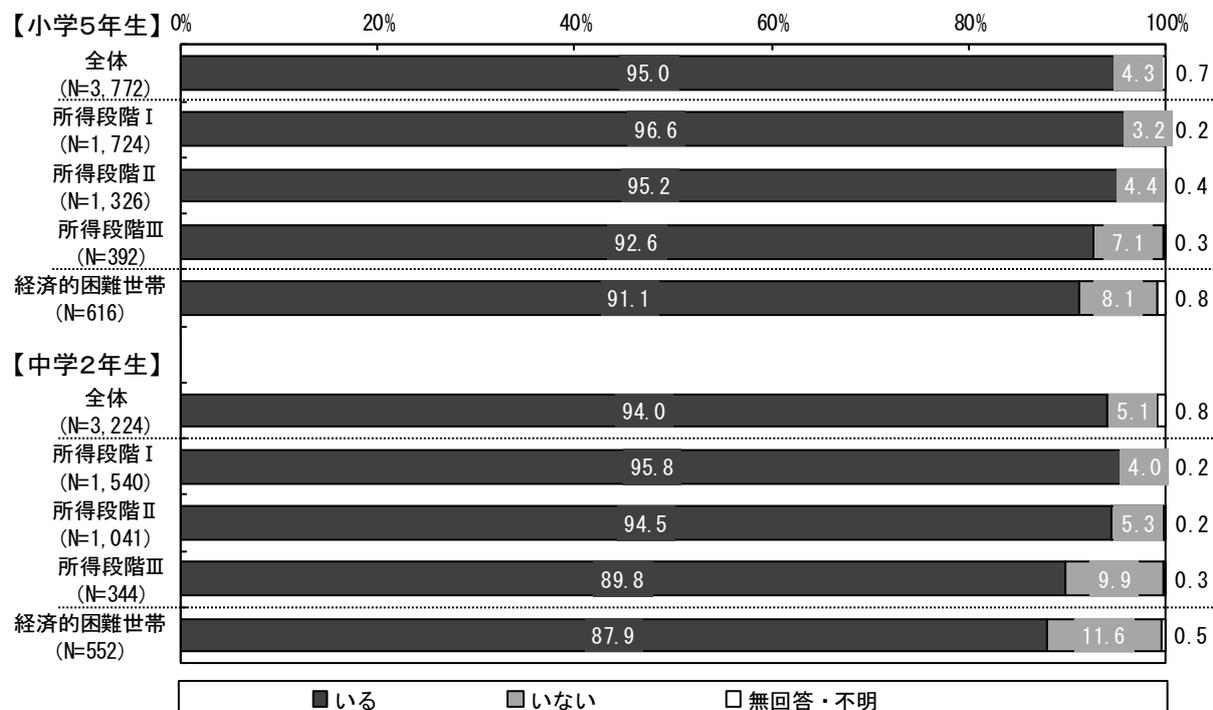
問7 あなたの家族に含まれるかた全員について、このアンケートを持ち帰ったお子さんからみた続柄を教えてください。【複数回答】



(4) 困りごとや悩みの相談相手

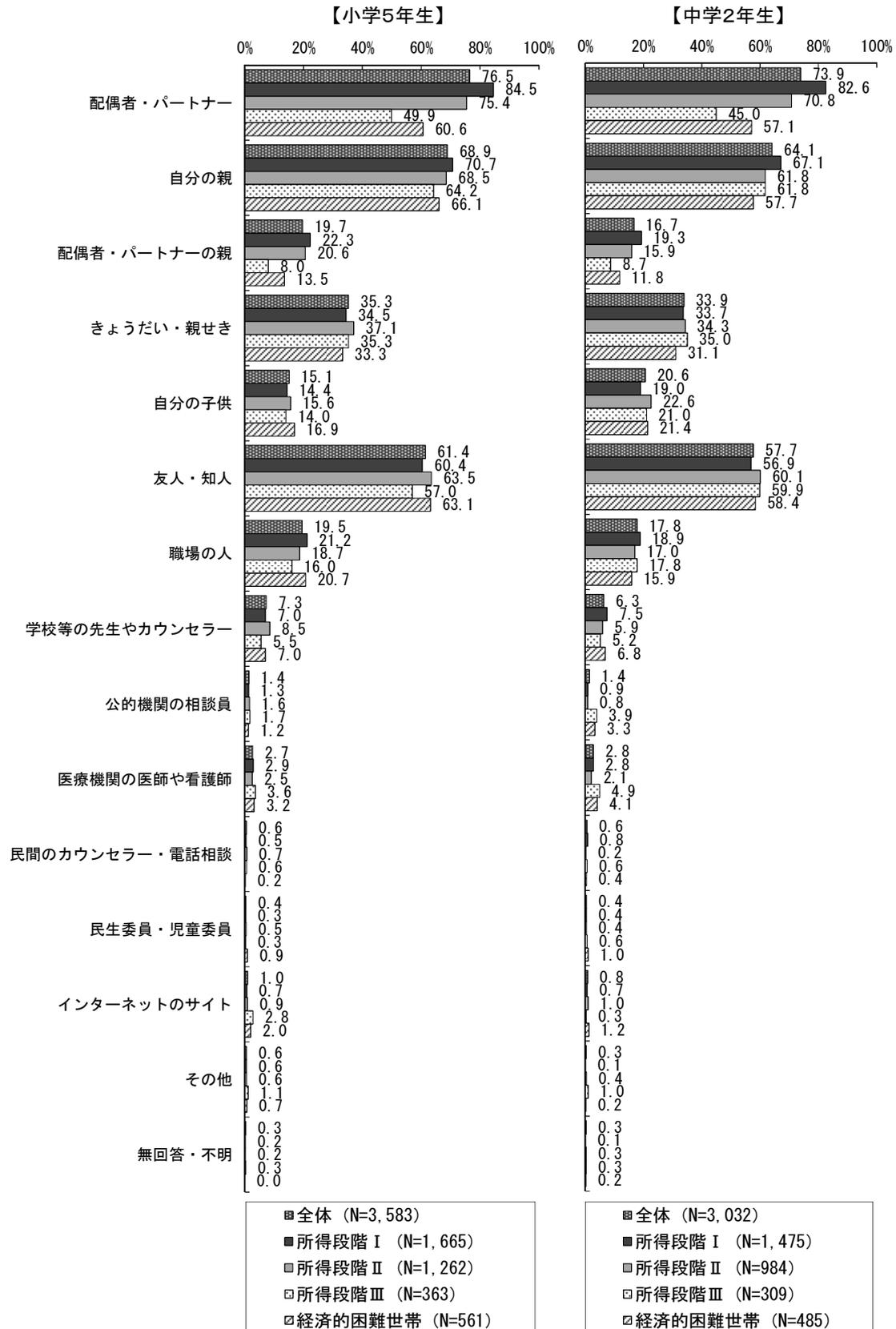
困った時や悩みがあるときの相談相手について、いずれの学年も所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で「いない」がやや多くなっています。

問8 あなたには、本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人がいますか。



相談できる相手について、「配偶者・パートナー」「配偶者・パートナーの親」は所得段階が低いほど少なくなっています。

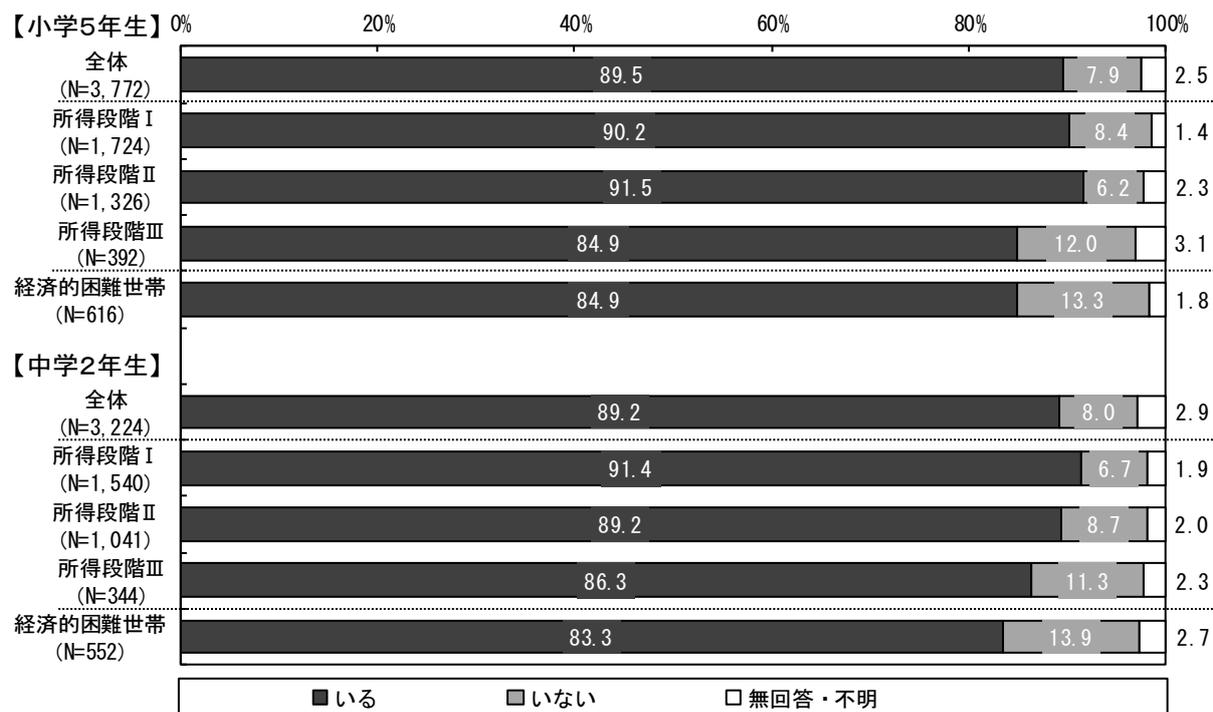
問 8-1 (相談相手が「いる」と回答した人のみ) 相談できる相手はどんな人ですか。【複数回答】



(5) 緊急時に助けてくれる人

緊急時に子供を預かったり、助けてくれたりする人については、いずれの学年も全体では約9割が「いる」と回答していますが、所得段階Ⅲ、経済的困難世帯では「いない」という回答が1割を超えて、やや多くなっています。

問9 あなたには、緊急時に子供を預かったり、助けてくれたりする人がいますか。



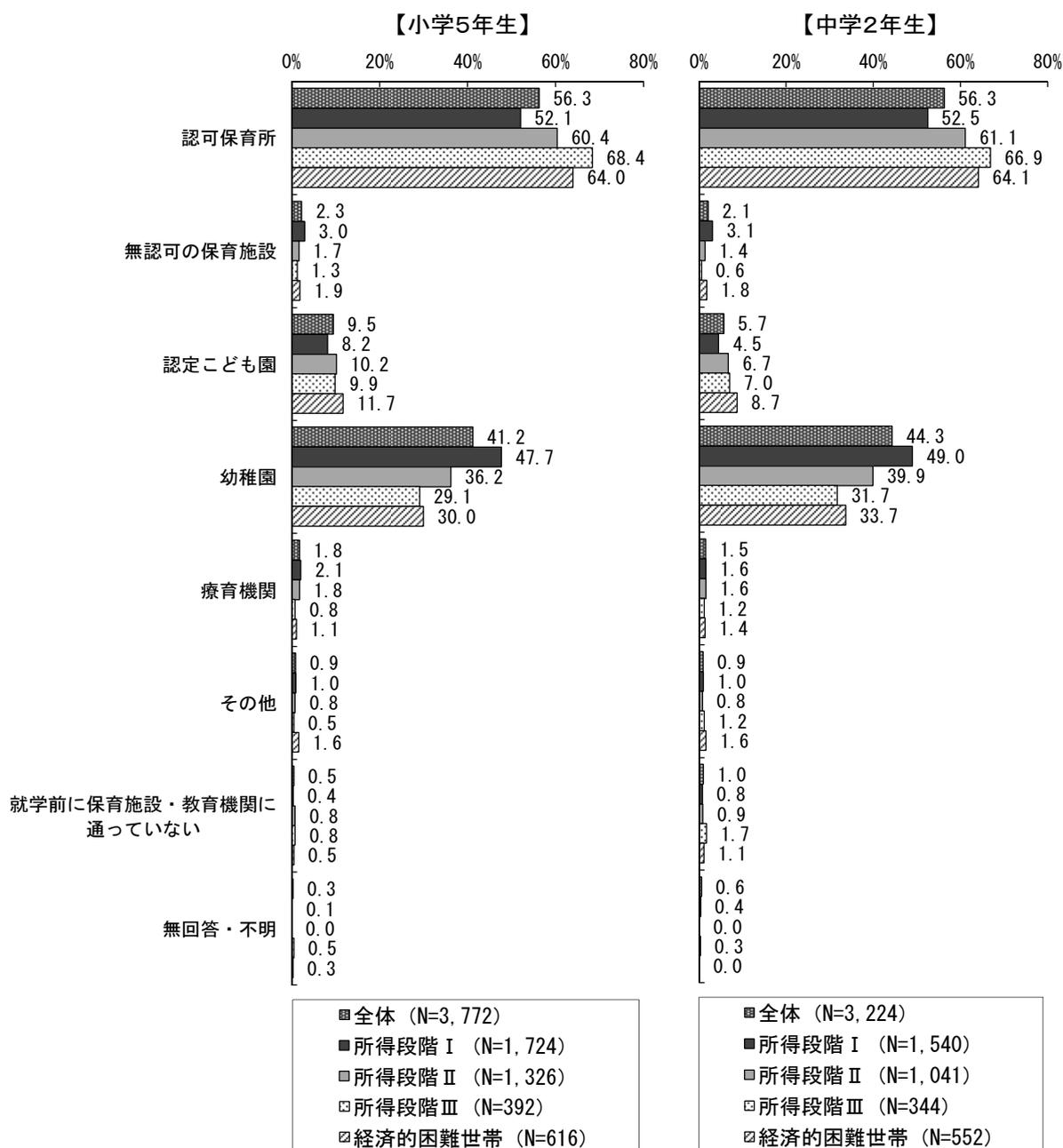
2. 子供の状況について

(1) 就学前に通った保育・教育施設

就学前に通った保育・教育施設については、所得段階が低いほど「認可保育所」が多く、「幼稚園」が少なくなっています。「無認可の保育施設」は数は少ないですが、所得段階が高い方がやや多くなっています。

問 10 お子さんが就学前に通ったことのある保育施設・教育機関をすべてお答えください。

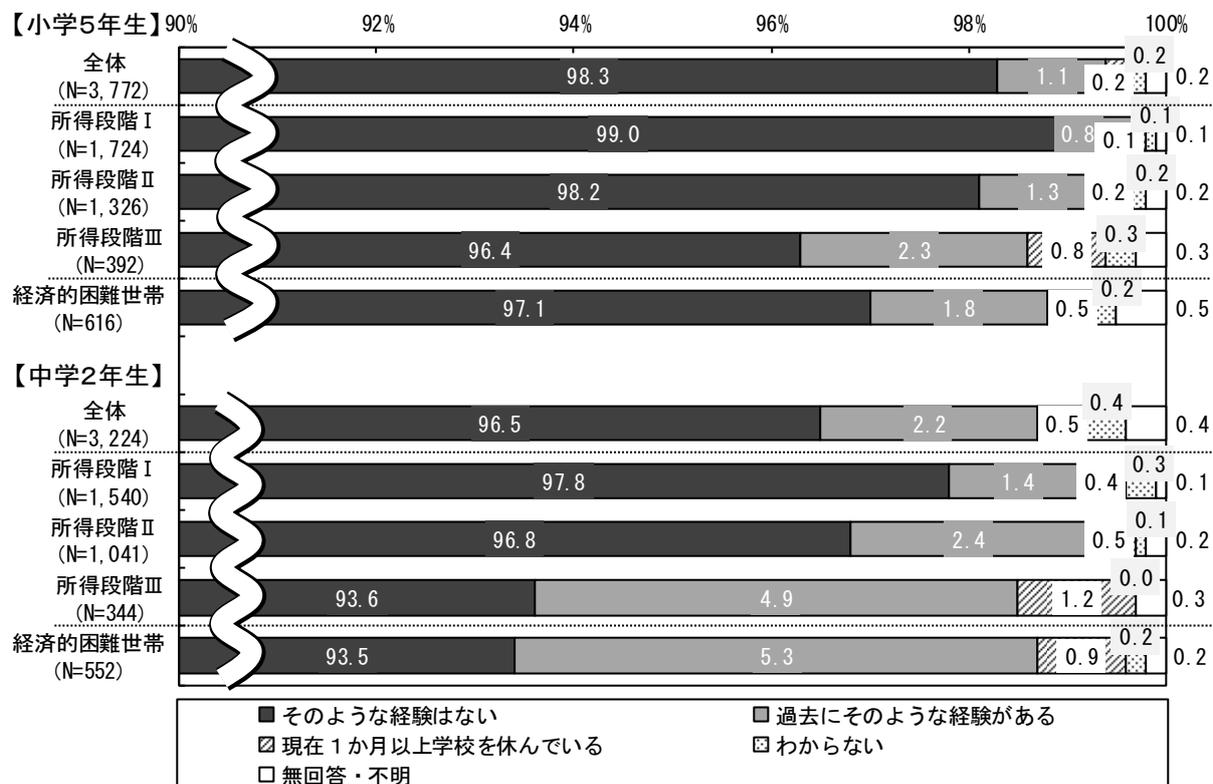
【複数回答】



(2) 子供の長期欠席

いずれの学年も「そのような経験はない」が9割以上を占めています。中学2年生の所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で「過去にそのような経験がある」がやや多くなっています。

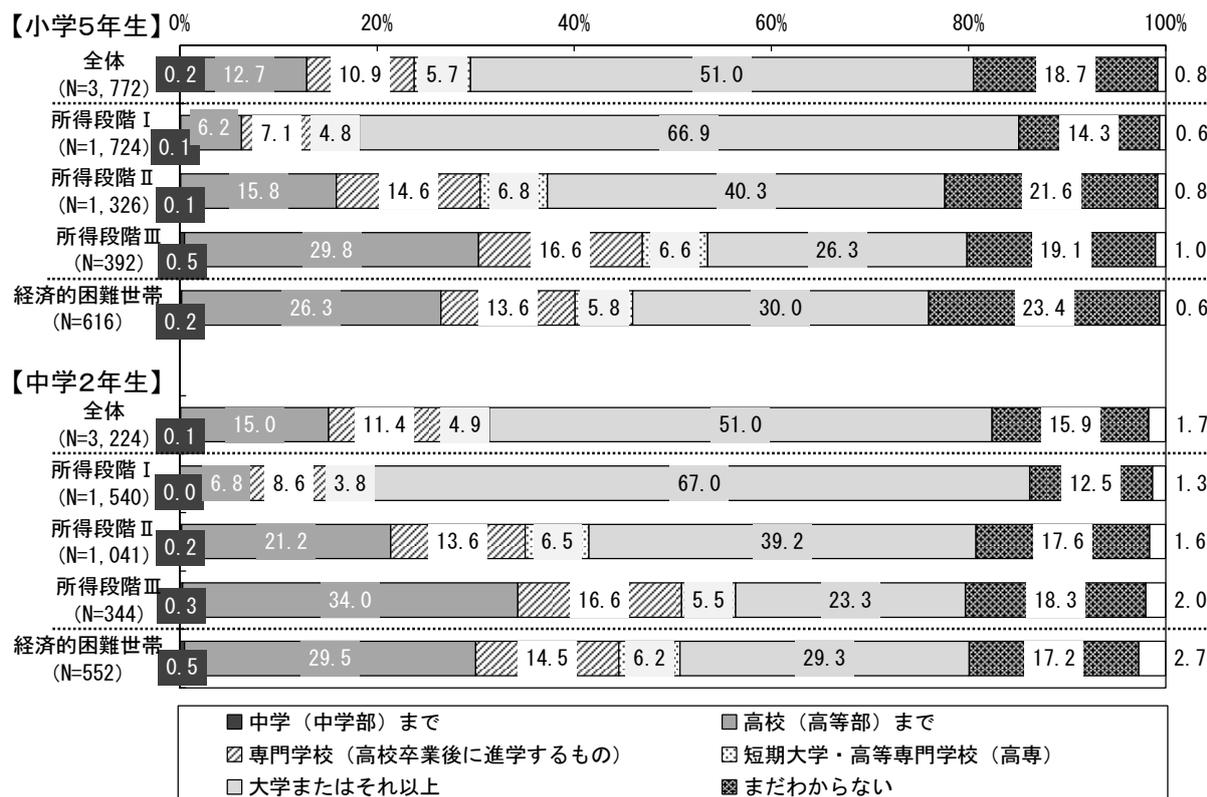
問11 お子さんは、1か月以上学校を休んだことがありますか(病気やけがのときを除きます)。



(3) 子供に望む最終学歴

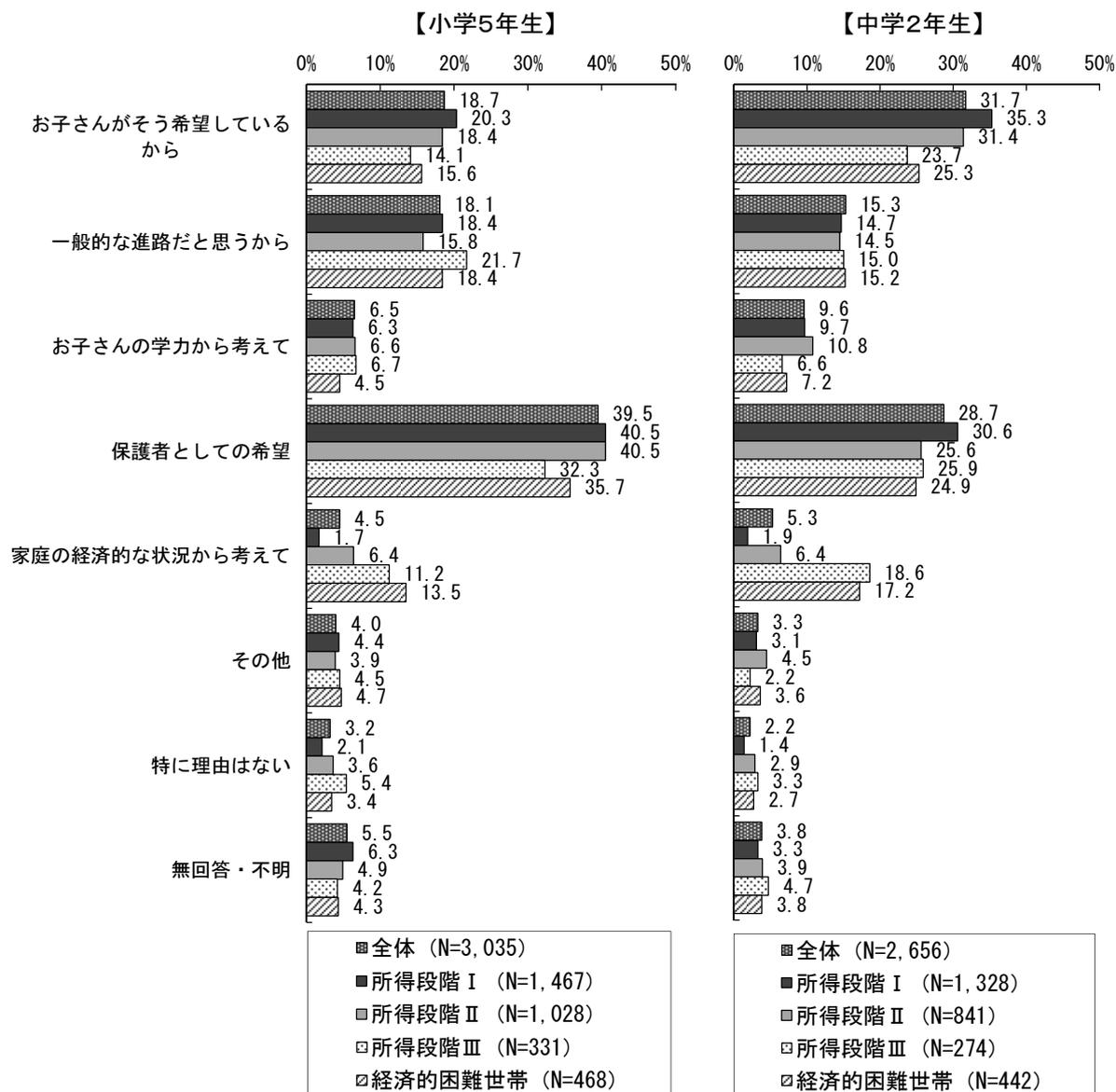
子供に望む最終学歴については、いずれの学年も所得段階が低いほど「大学またはそれ以上」が少なく、「高校（高等部）まで」または「専門学校（高校卒業後に進学するもの）」が多くなっています。子供のアンケートとは異なり、学年による差はあまりありません。

問12 お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか。あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。



子供に望む最終学歴の理由については、「お子さんがそう希望しているから」は所得段階が高い方が多く、「家庭の経済的な状況から考えて」は所得段階が低い方が多くなっています。

問 12-1 (進学希望について「わからない」以外を回答した人のみ) その理由は、何ですか。
理由として最も大きいものに○をつけてください。



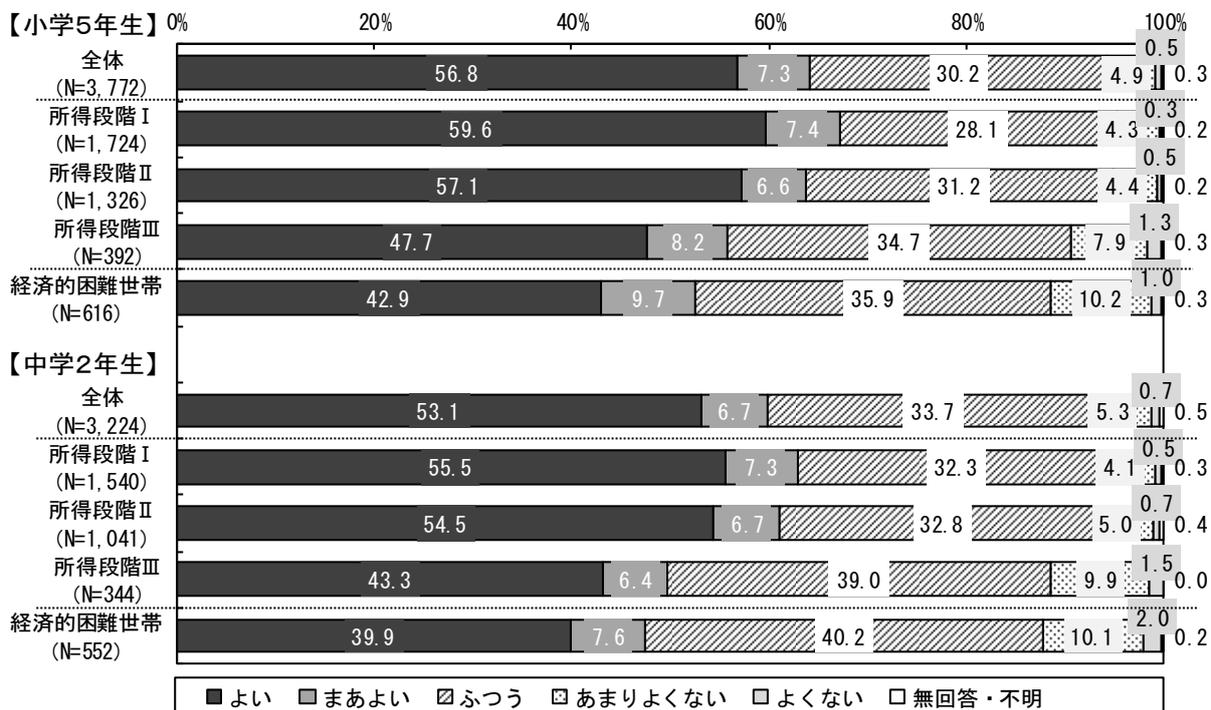
3. 保健・医療について

(1) 保護者と子供の健康状態

保護者の健康状態については、いずれの学年も、所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で「よい」が少なく、「あまりよくない」または「よくない」がやや多くなっています。

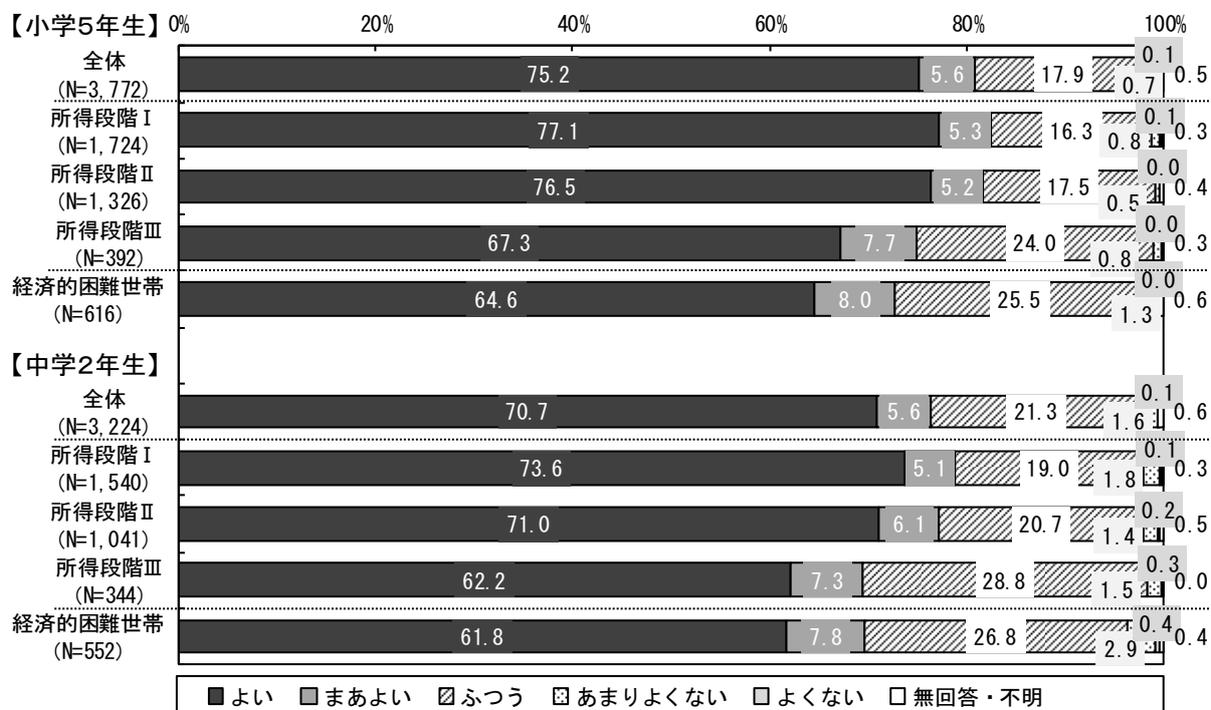
問 13 あなたとお子さんの健康状態についておうかがいします。それぞれ、最も近いものに○をつけてください。

問 13-1 保護者



子供の健康状態については、いずれの学年も、所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で「よい」が少なくなっています。

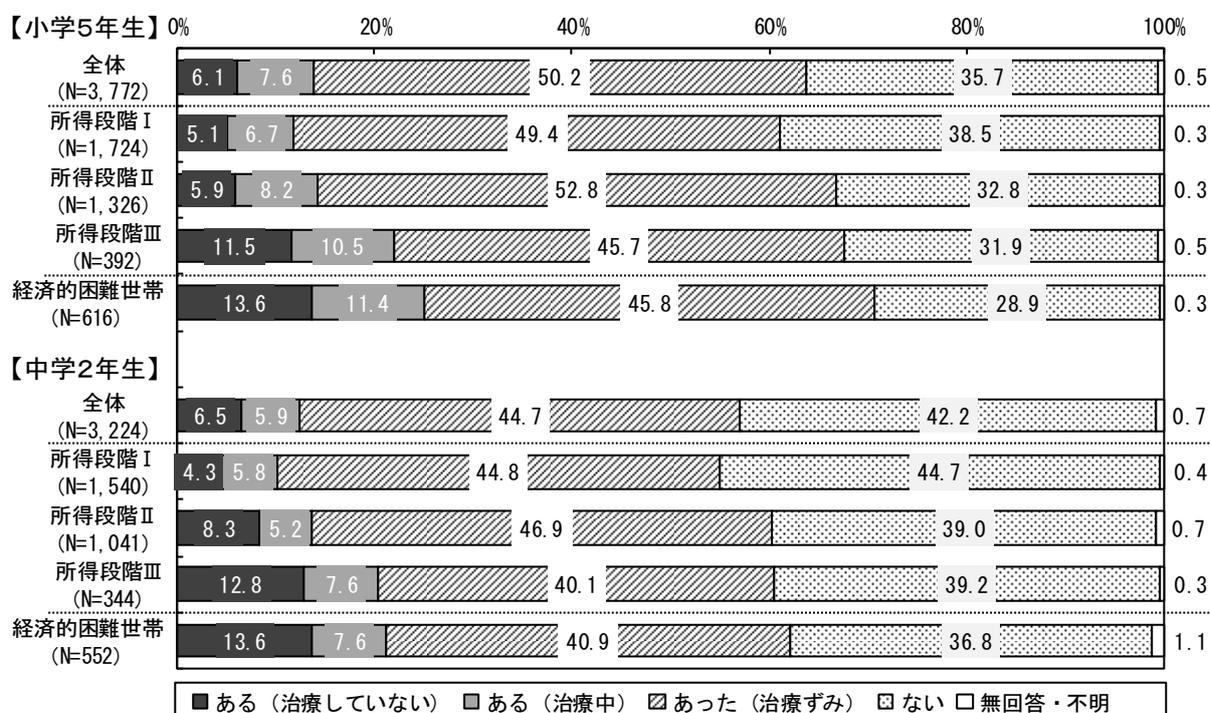
問 13-2 子供



(2) 子供の虫歯

子供の虫歯については、いずれの学年も所得段階が低いほど「ある（治療していない）」または「ある（治療中）」が多く、「あった（治療済み）」または「ない」が少なくなっています。

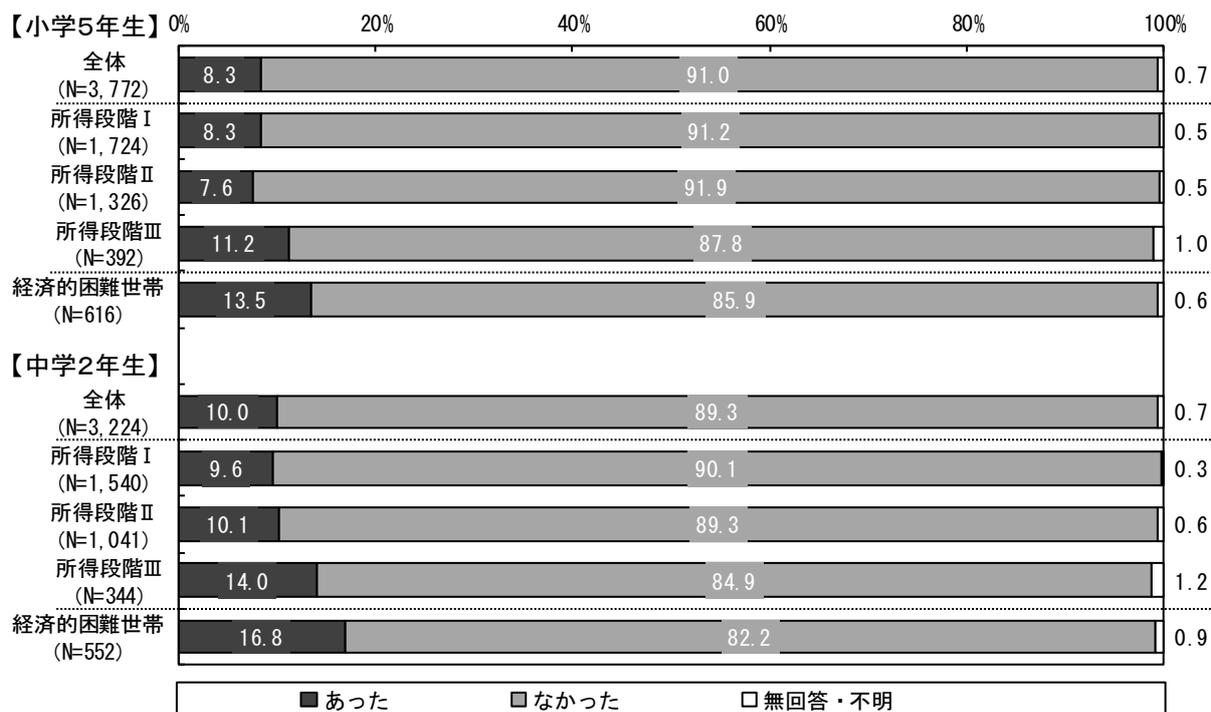
問 14 お子さんには虫歯がありますか。



(3) 医療機関を受診させなかった経験

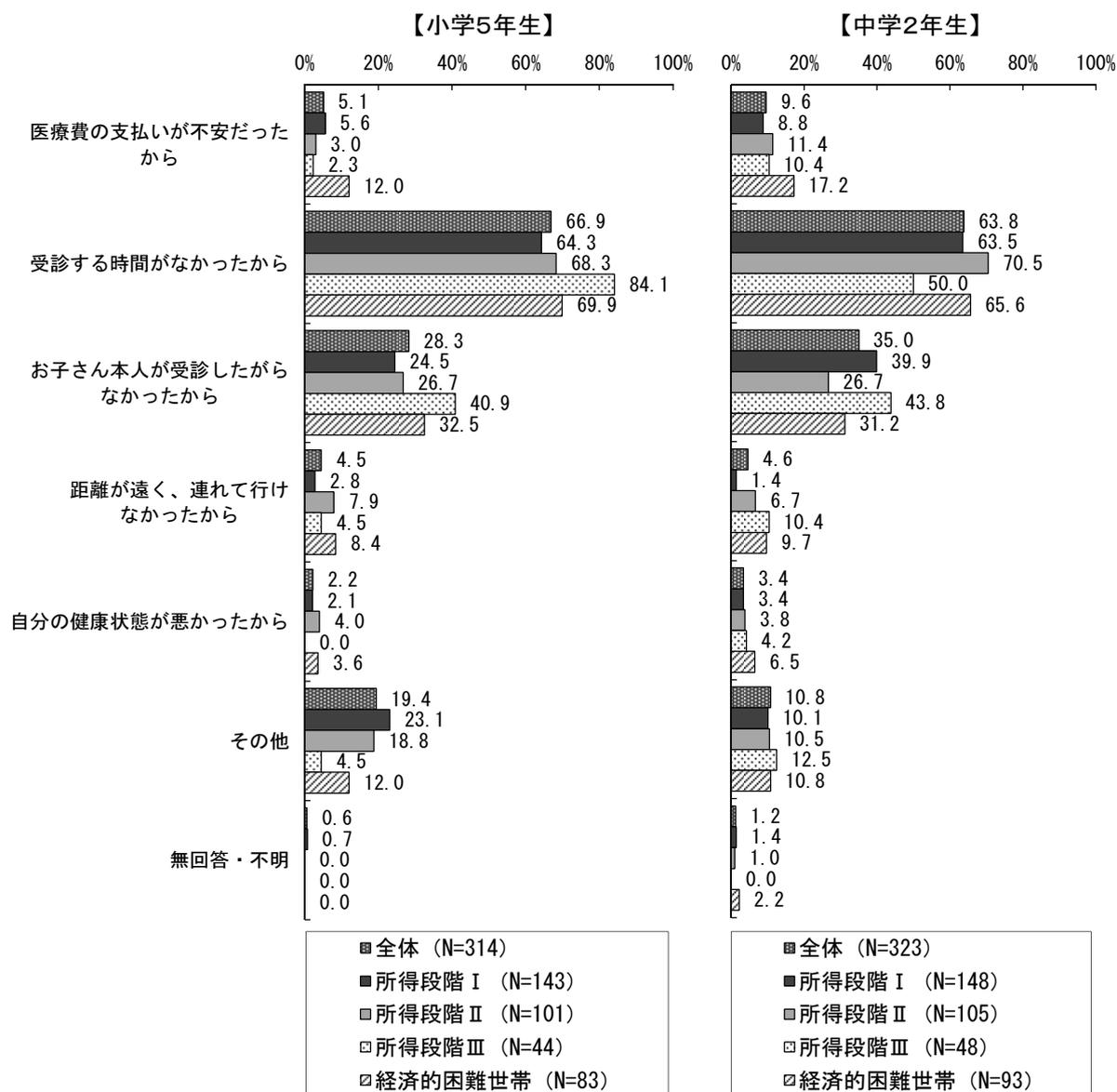
子供を医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことについては、いずれの学年も所得段階Ⅲ、経済的困難世帯でやや多くなっています。

問 15 過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。



子供に医療機関を受診させた方がよいと思ったのに受診させなかった理由については、いずれの学年も「受診する時間がなかったから」が最も多く、次いで「お子さん本人が受診しなかったから」が多くなっています。「医療費の支払いが不安だったから」は経済的困難世帯で多くなっています。

問 15-1 (受診させた方がよいと思ったのに受診させなかった経験がある人のみ) その理由は、何ですか。【複数回答】



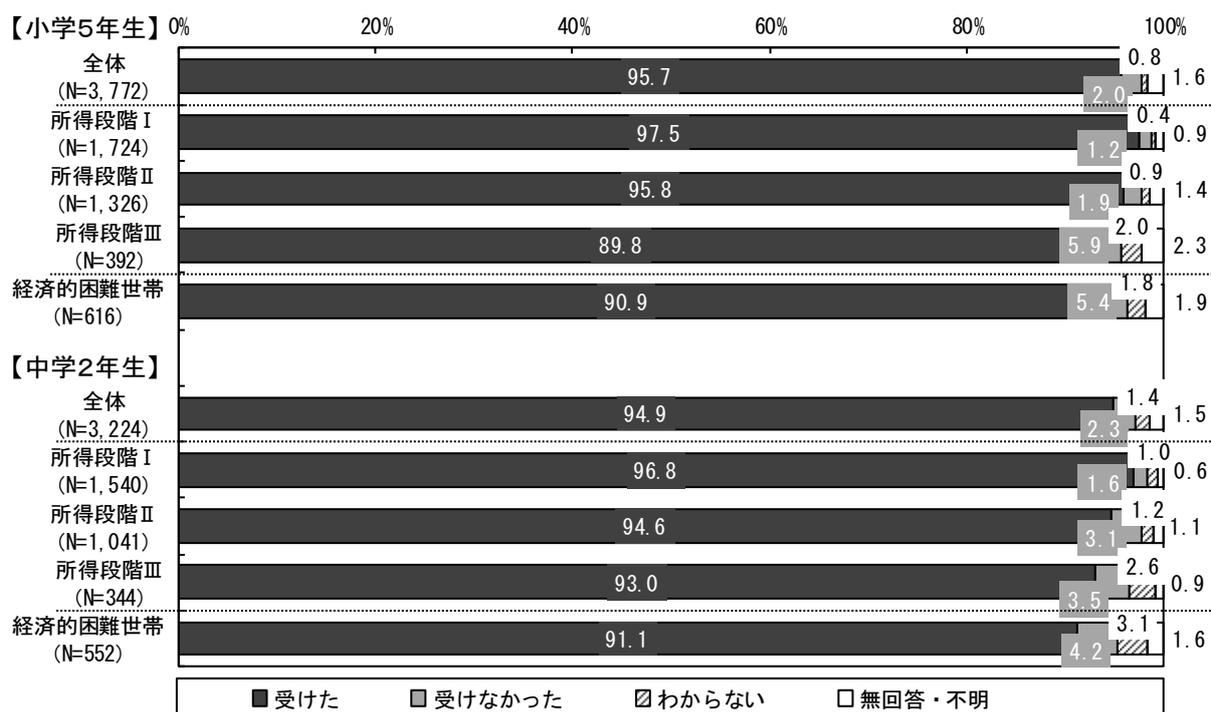
(4) 予防接種の受診状況

定期予防接種の受診状況については、小学5年生の所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で「受けなかった」がやや多くなっています。

問 16 お子さんの予防接種の受診状況について、最も近いものに○をつけてください。

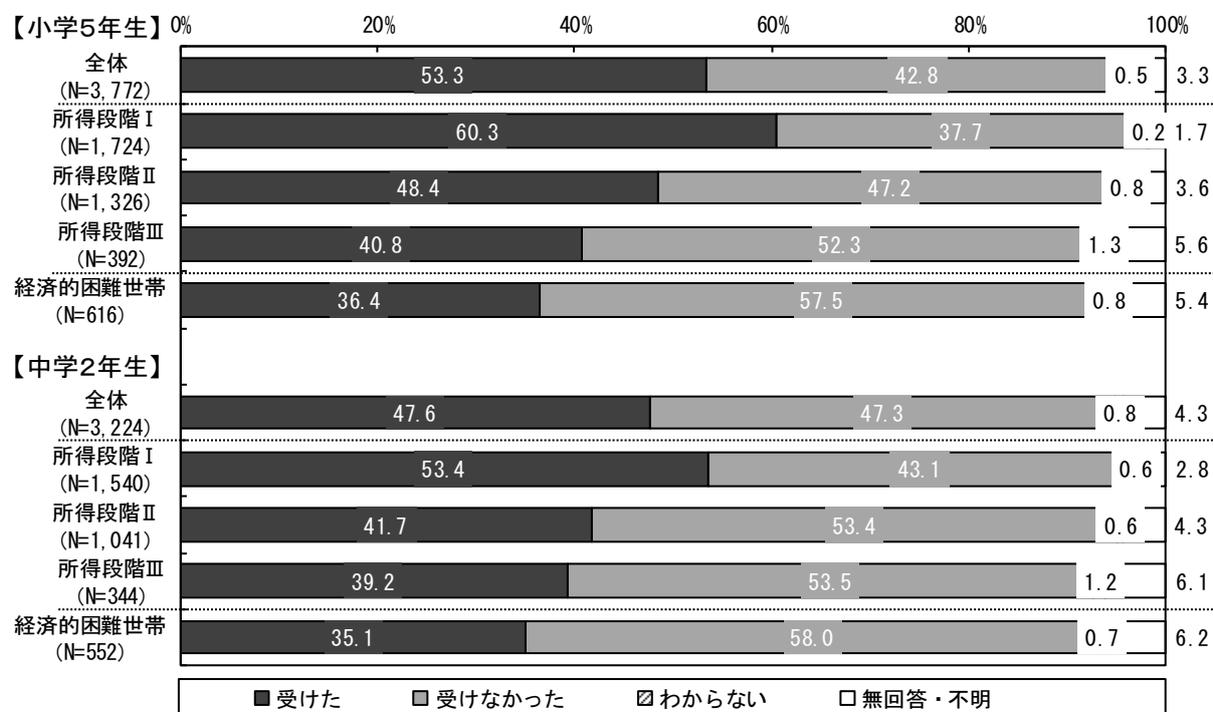
※定期予防接種（結核（BCG）、麻しん・風しん、ポリオ等）は、無料で受けられます。任意接種（インフルエンザ、おたふくかぜ等）は自己負担がかかります。

A 定期予防接種



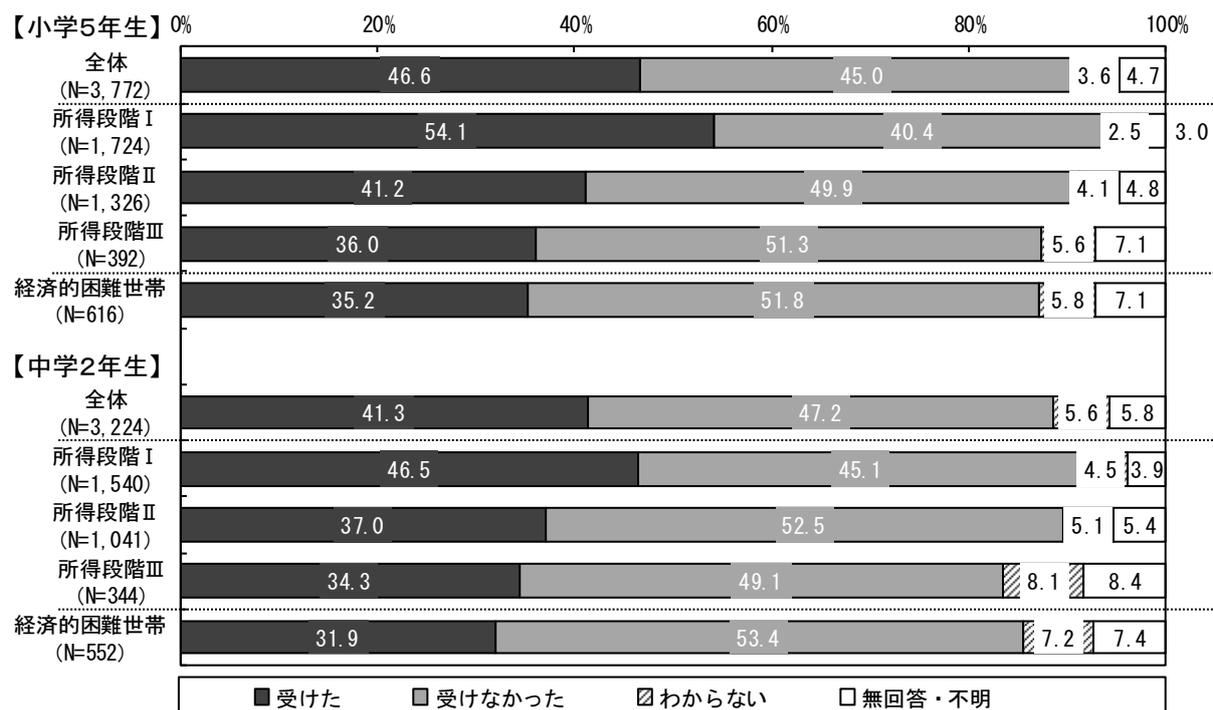
「任意接種（インフルエンザ）」については、いずれの学年も所得段階が低いほど「受けた」が少なくなっており、経済的困難世帯は所得段階Ⅲを下回っています。特に小学5年生で差が大きくなっています。

B 任意接種（インフルエンザ）※過去1年間



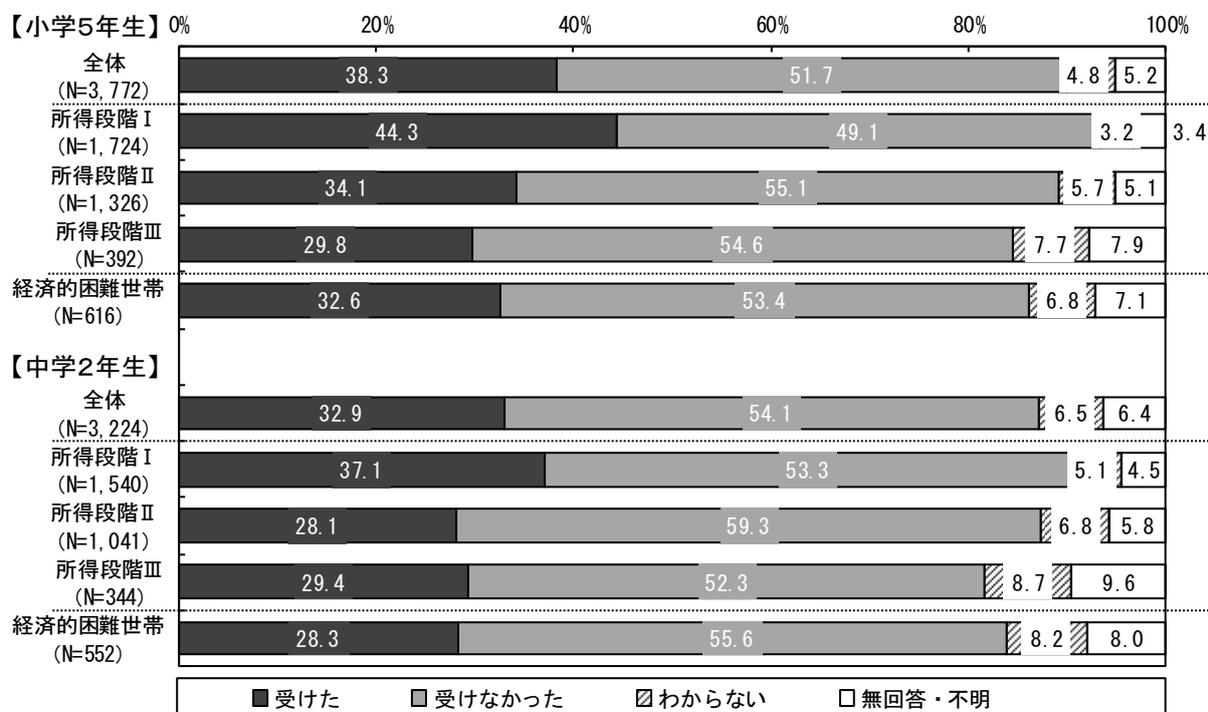
「任意接種（おたふくかぜ）」については、所得段階が低いほど「受けた」が少なくなっています。

C 任意接種（おたふくかぜ）



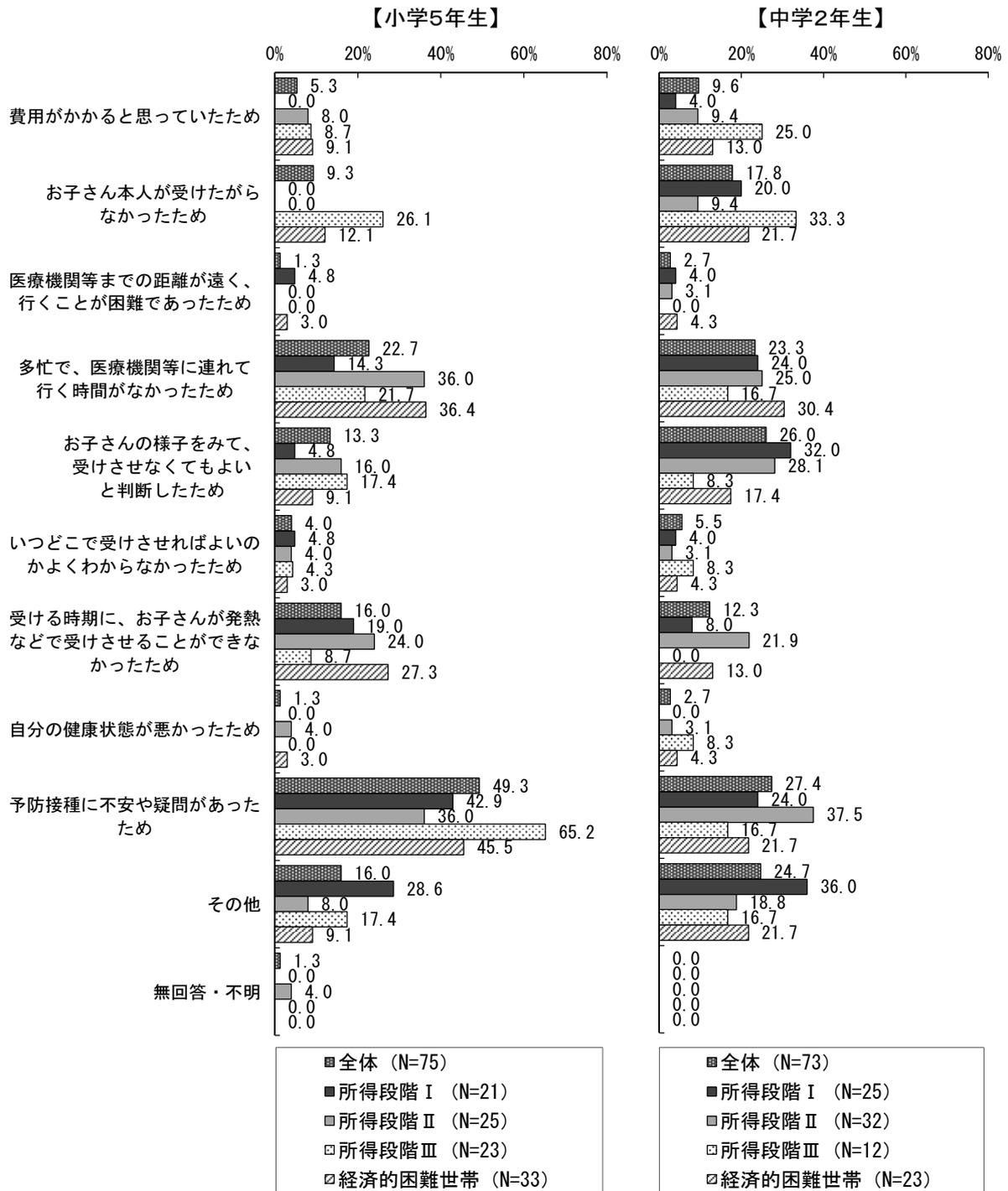
「任意接種（水ぼうそう）」については、小学5年生では所得段階が低いほど「受けた」が少なく、中学2年生では所得段階Ⅰに比べて所得段階Ⅱ、Ⅲ、経済的困難世帯で「受けた」が少なくなっています。

D 任意接種（水ぼうそう）（※平成26年10月からは定期予防接種となっています）



定期予防接種を受けなかった理由については、全体では「予防接種に不安や疑問があったため」「多忙で、医療機関等に連れて行く時間がなかったため」が多くなっています。

問 16-1 (定期予防接種を「受けなかった」と回答した人のみ) 定期予防接種を受けないことがあったのはなぜですか。【複数回答】

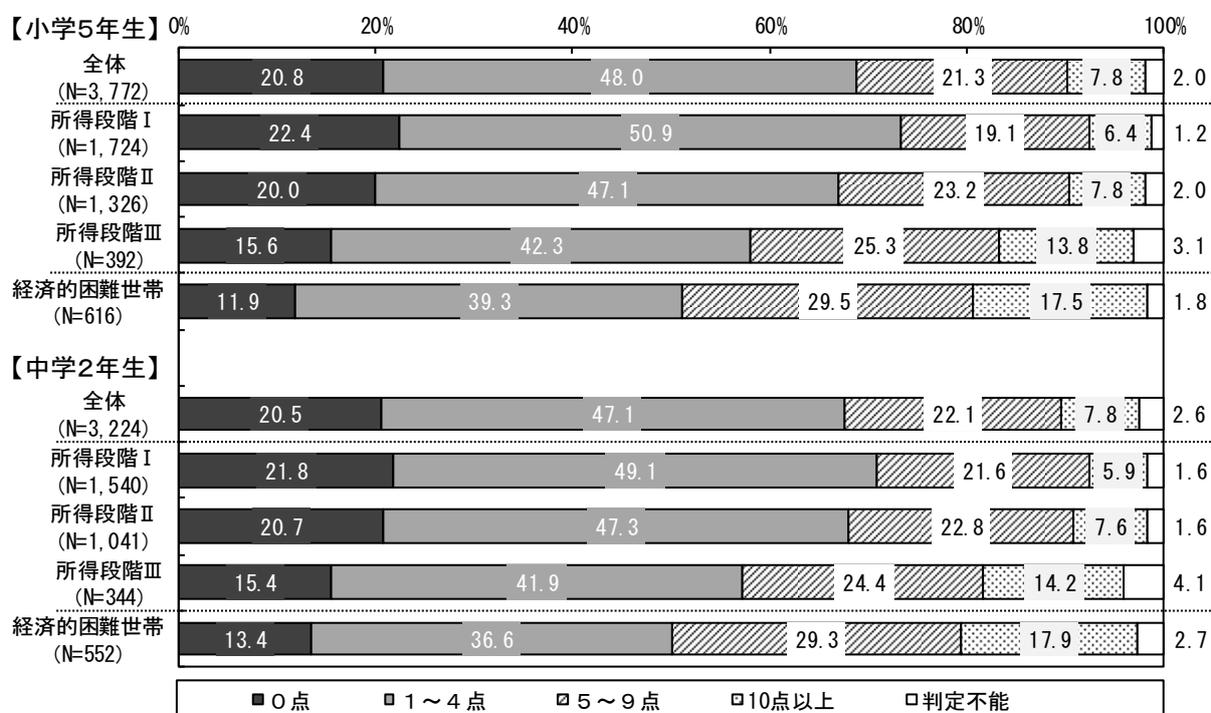


(5) 心の健康

問 17 「あなたは過去1か月の間に、次のようなことがどれくらいありましたか。」のA～Fの項目（ささいなことでも気になった／絶望的だと感じた／そわそわ、落ち着かなく感じた／気分が沈み込んで何が起ころうとも気が晴れないように感じた／何をするのも面倒だと感じた／自分は価値のない人間だと感じた）は、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、一般住民を対象とした調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されている、「K6得点」を算出するための質問となっています。各項目の5段階（「全くない」（0点）、「少しだけ」（1点）、「ときどき」（2点）、「たいてい」（3点）、「いつも」（4点））の回答を点数化し、合計点数が高いほど、精神的な問題がより重い可能性があるとされます。いずれの学年も所得段階が低いほど、K6得点が高く、高ストレスの傾向にあることがうかがえます。

問 17 あなたは過去1か月の間に、次のようなことがどれくらいありましたか。

K6得点



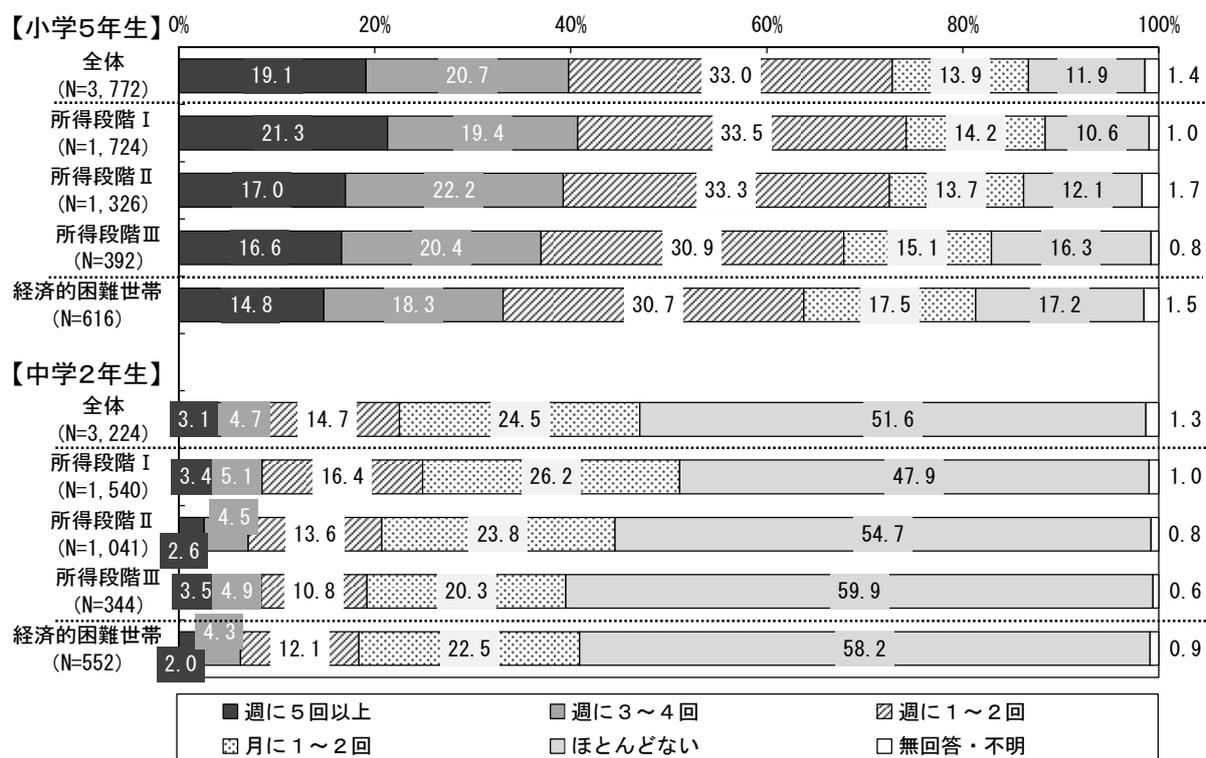
4. 子供との関わりについて

(1) 家庭における子供との関わり

家庭で子供の勉強をみることについては、小学5年生と中学2年生で、全体的な頻度は大きく異なりますが、いずれの学年も所得段階が低いほど頻度が少ない傾向となっています。

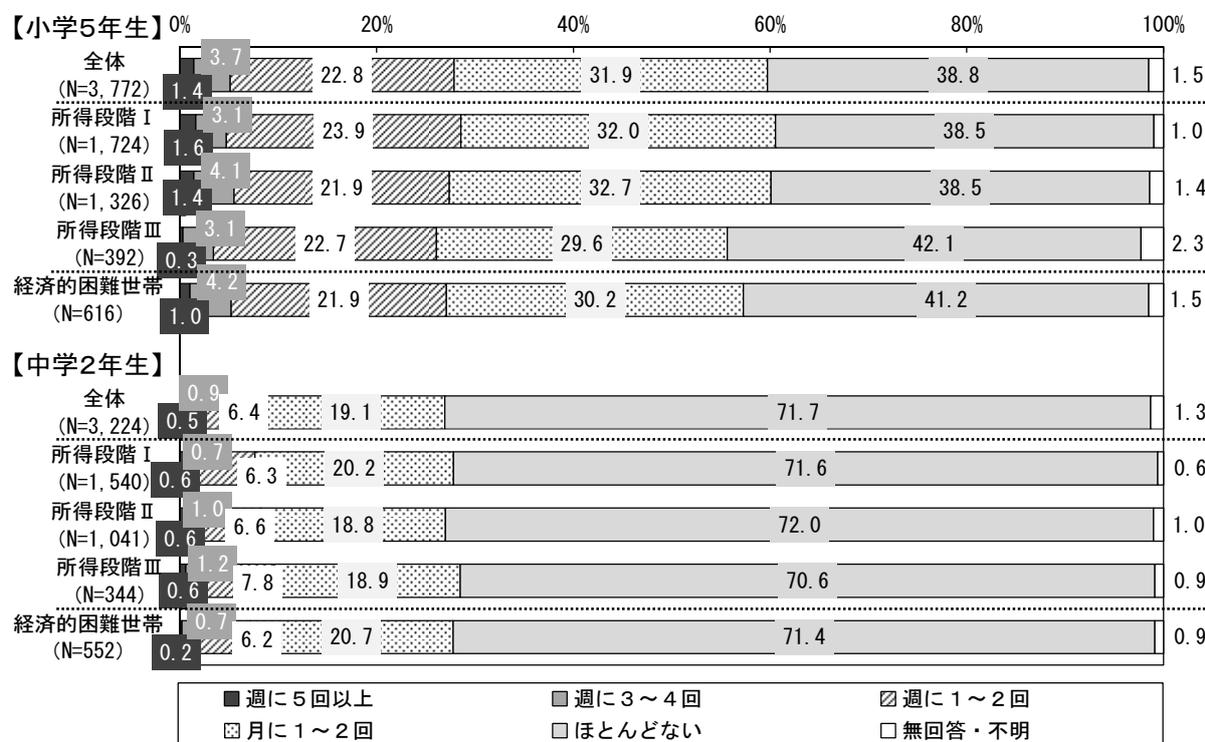
問 18 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることができますか。

A お子さんの勉強をみる



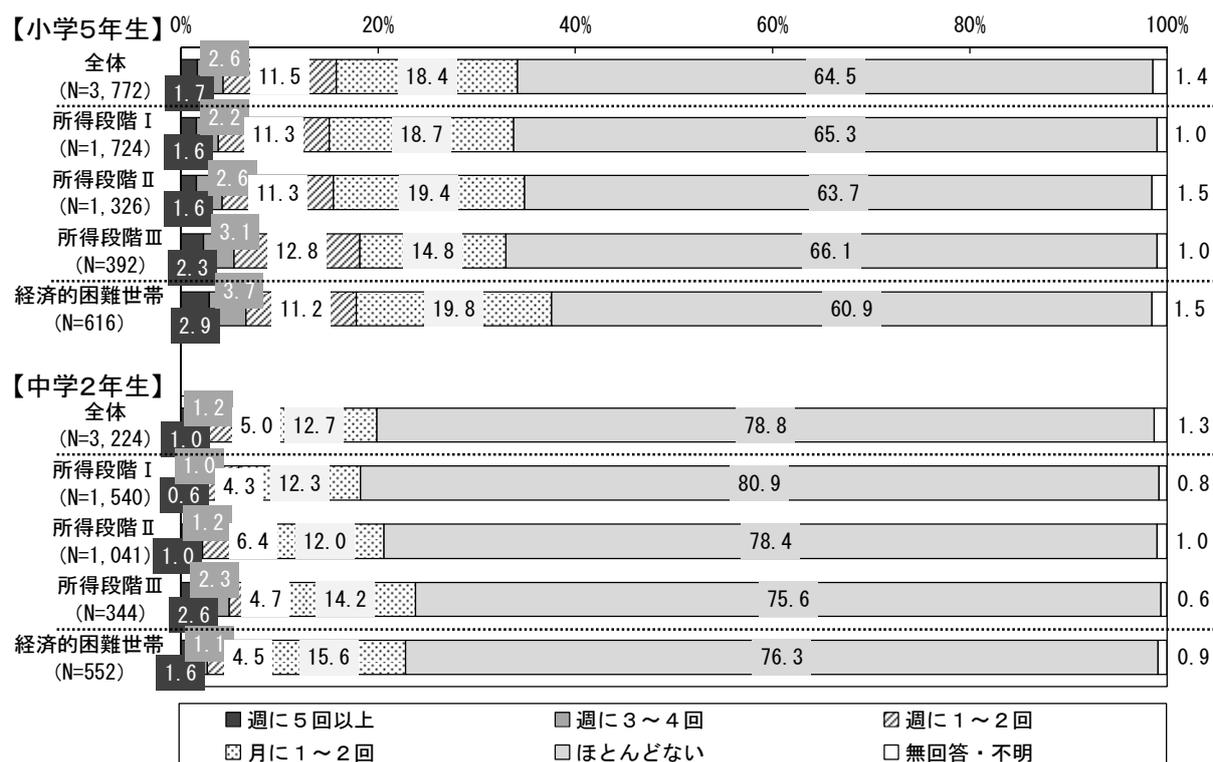
子供とからだを動かして遊ぶことについては、小学5年生で約4割、中学2年生で約7割が「ほとんどない」と回答しています。所得段階による差は見られません。

B お子さんとからだを動かして遊ぶ（キャッチボールなど）



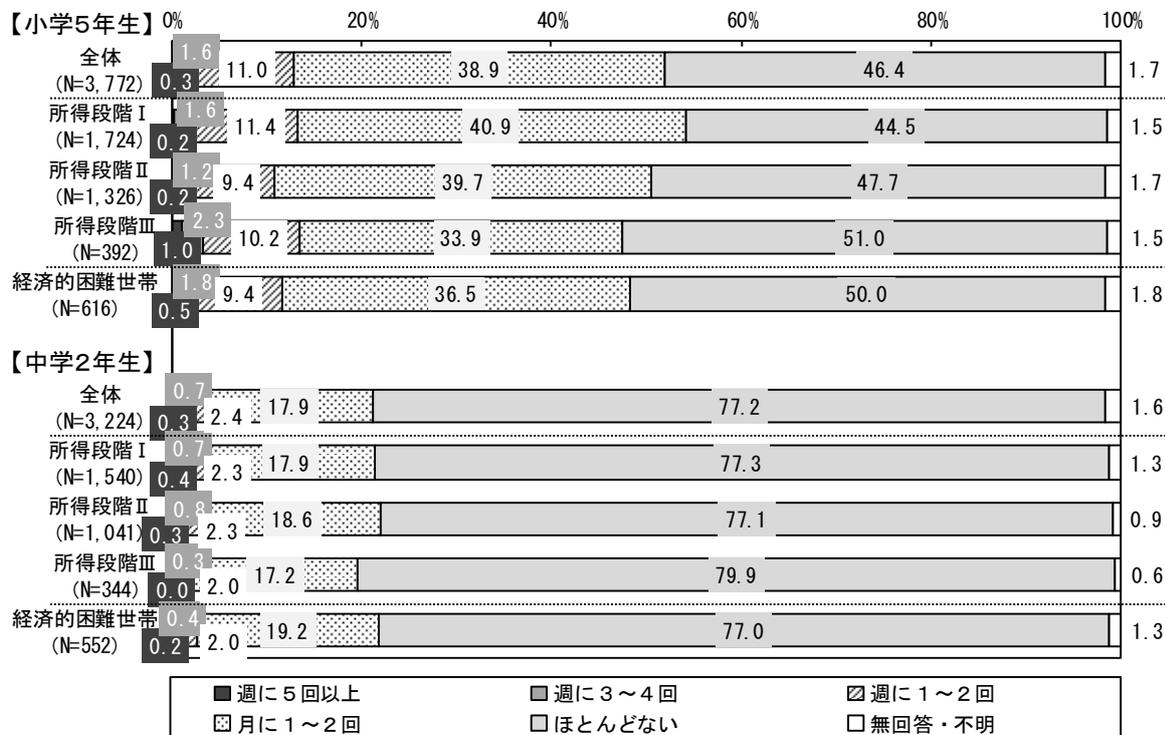
子供とコンピュータゲームで遊ぶことについては、小学5年生では所得段階による差は見られません。中学2年生では、所得段階が低いほど、「ほとんどない」がやや少なく、子供と遊んでいる回答がやや多くなっています。

C お子さんとコンピュータゲームで遊ぶ（テレビゲーム・パソコンゲーム・携帯ゲームなど）



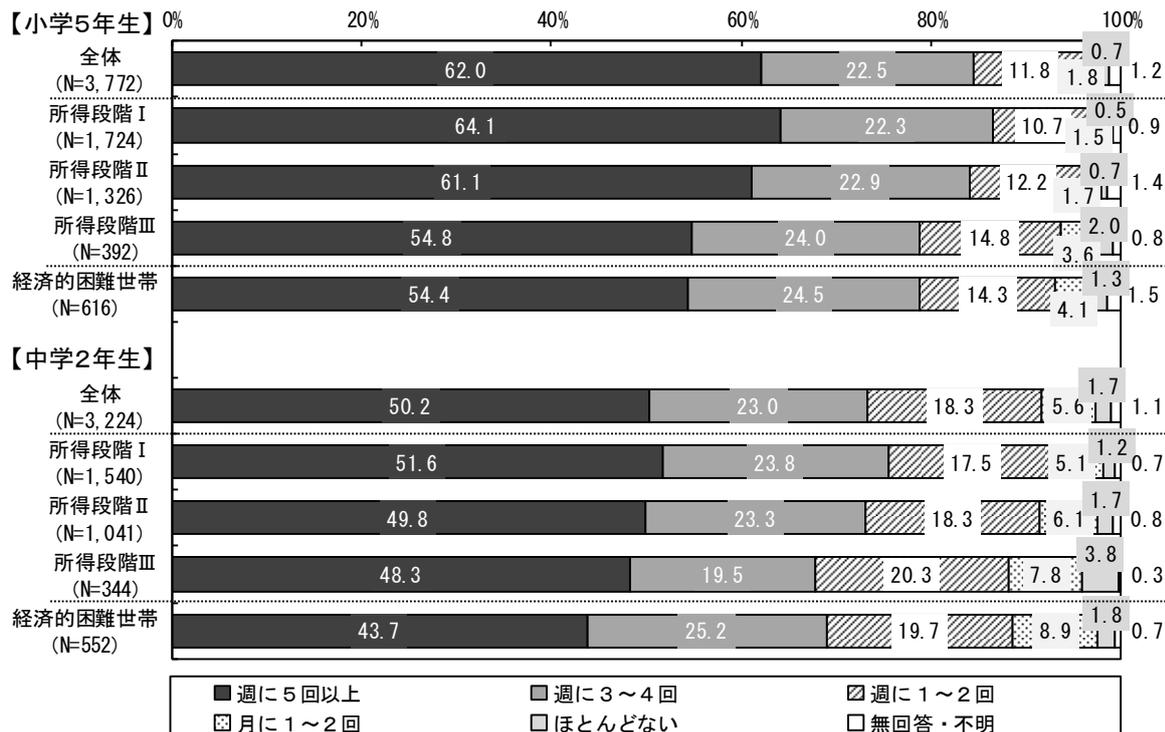
子供とカードゲームなどで遊ぶことについては、小学5年生では所得段階が低いほど、「ほとんどない」がやや多く、遊んでいる回答がやや少なくなっています。中学2年生では所得段階による差は見られません。

D お子さんとカードゲームなどで遊ぶ（トランプ・ボードゲーム・将棋など）



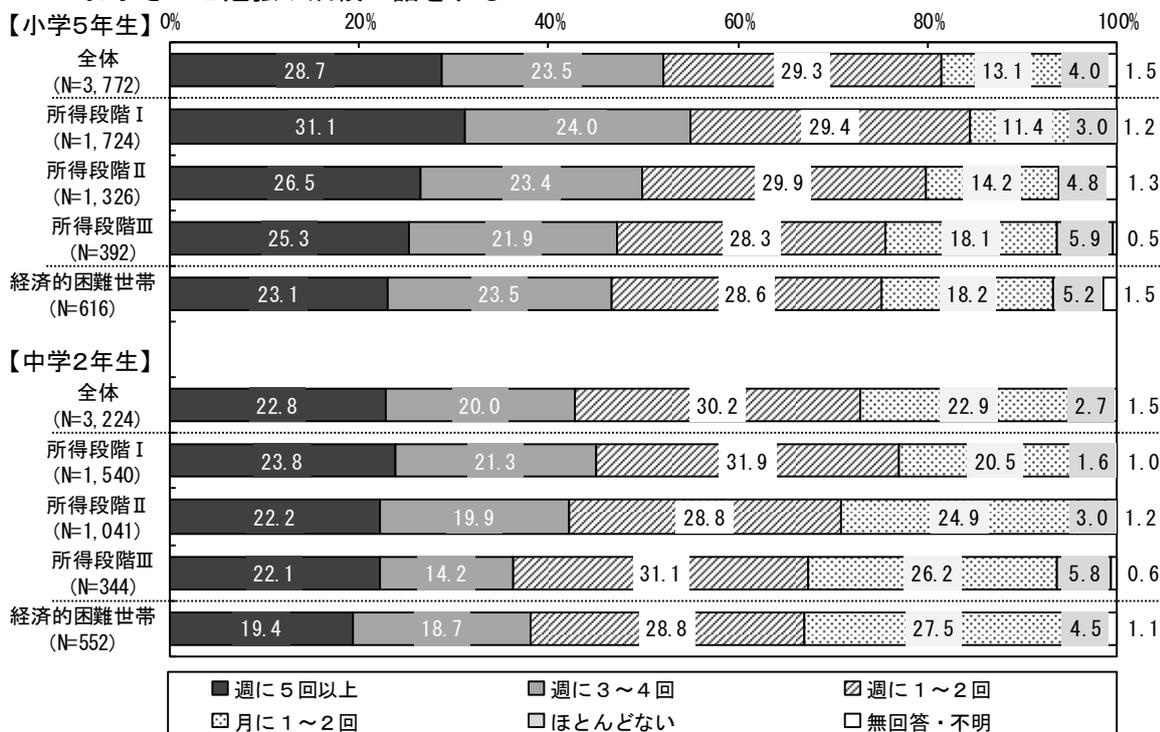
子供と学校生活の話をする事については、いずれの学年も所得段階が低いほど頻度がやや少ない傾向があります。

E お子さんと学校生活の話をする



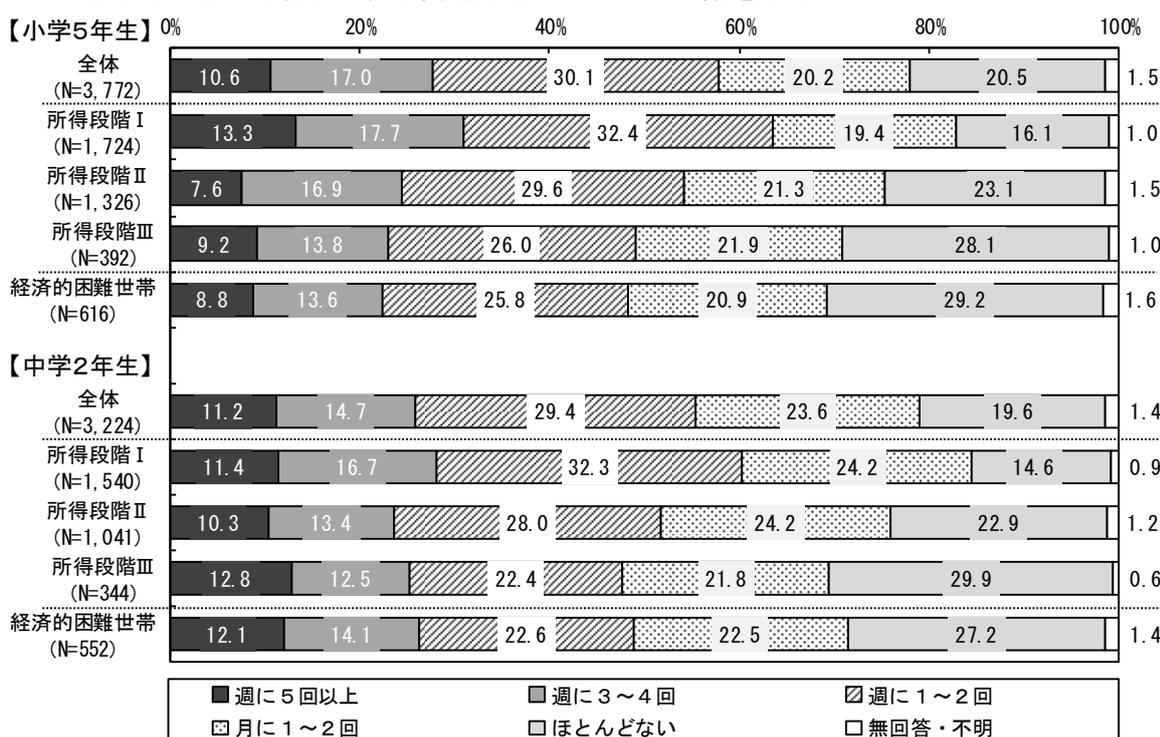
子供と勉強や成績の話をするについては、いずれの学年も所得段階が低いほど頻度がやや少ない傾向があります。

F お子さんと勉強や成績の話をする



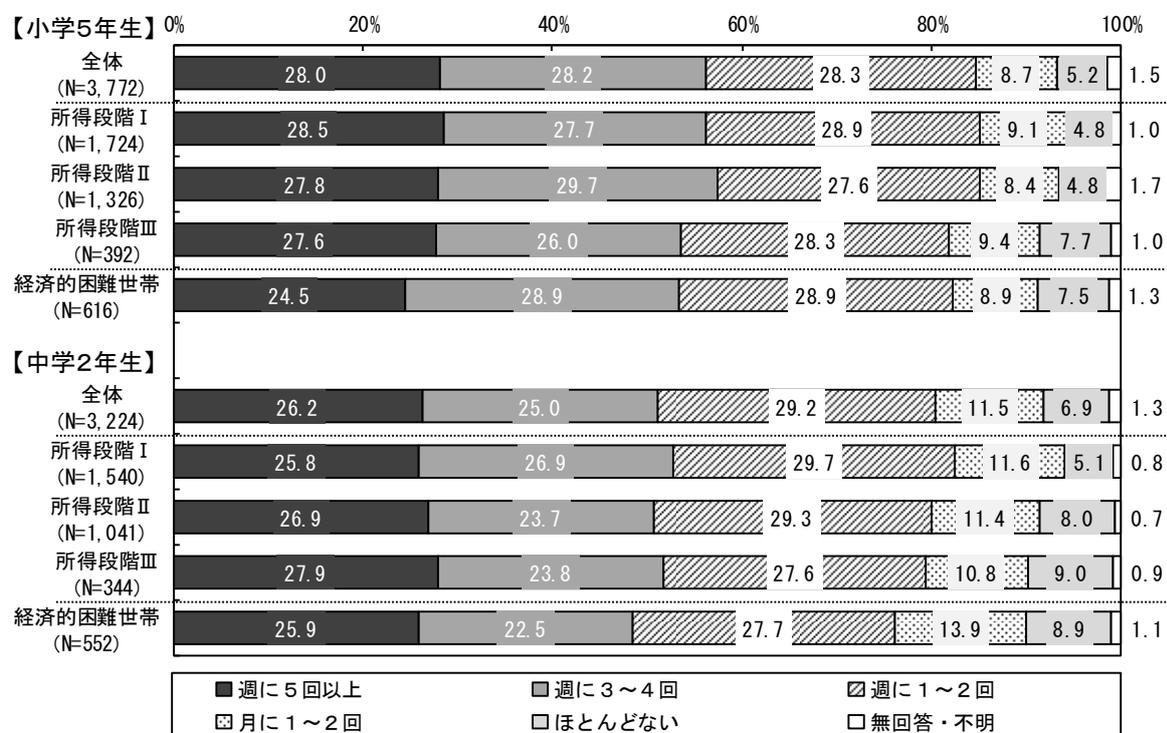
子供と政治経済・社会問題などのニュースの話をするについては、いずれの学年も所得段階が低いほど頻度がやや少ない傾向があります。中学2年生では、所得段階Ⅰと比べて、所得段階Ⅲでは「ほとんどない」が2倍以上と多くなっています。

G お子さんと政治経済・社会問題などのニュースの話をする



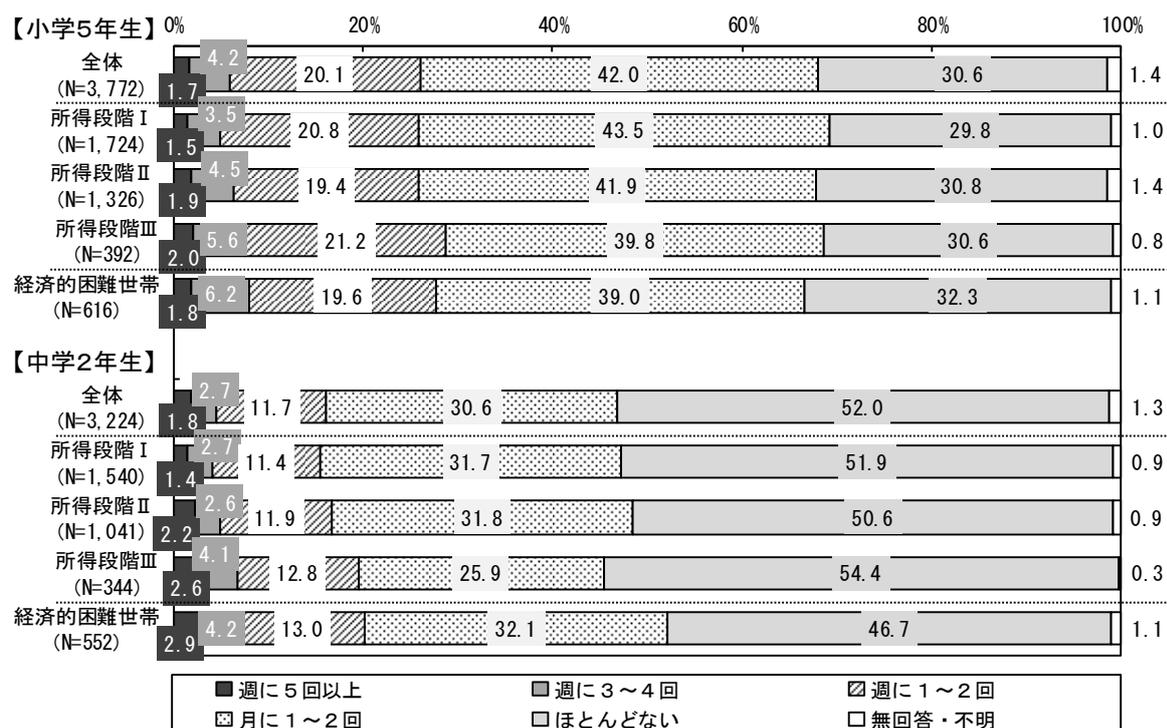
子供とテレビ番組（ニュースを除く）の話をするについては、いずれの学年も所得段階による差はあまりありません。

H お子さんとテレビ番組（ニュースを除く）の話をする



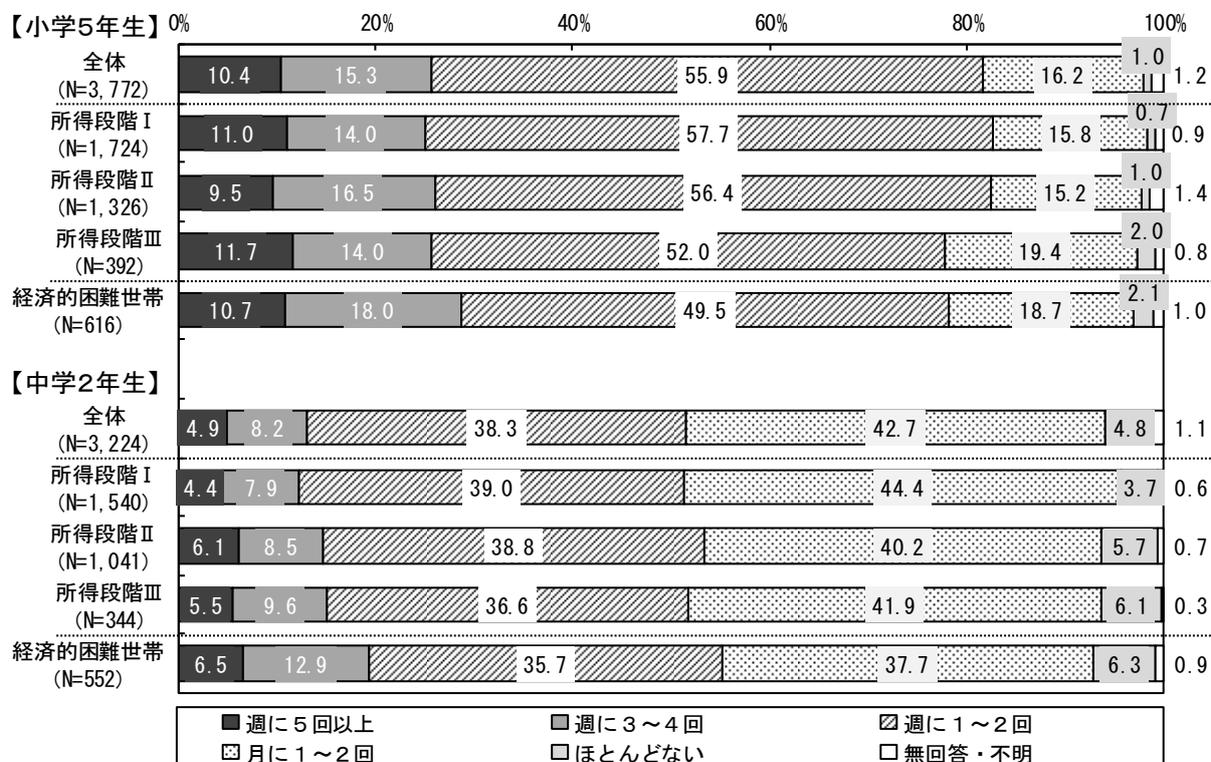
子供と一緒に料理をすることについては、いずれの学年も所得段階による差はあまりありません。

I お子さんと一緒に料理をする



子供と一緒に外出をすることについては、いずれの学年も所得段階による差はあまりありません。

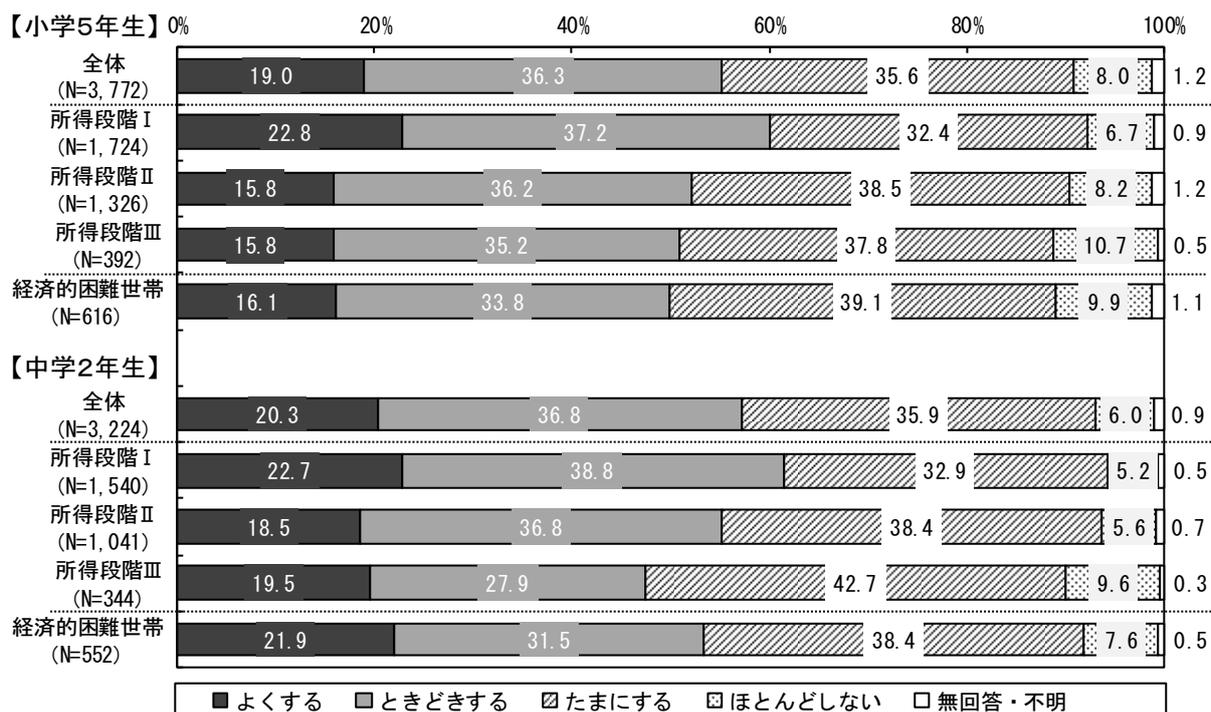
J お子さんと一緒に外出をする



(2) 子供と将来について話すこと

子供の将来（夢・進路・職業等）について子供と一緒に考えたり、話したりすることについては、小学5年生では所得段階Ⅰで「よくする」がやや多くなっています。中学2年生では、所得段階が低いほど「よくする」または「ときどきする」が少なくなっています。

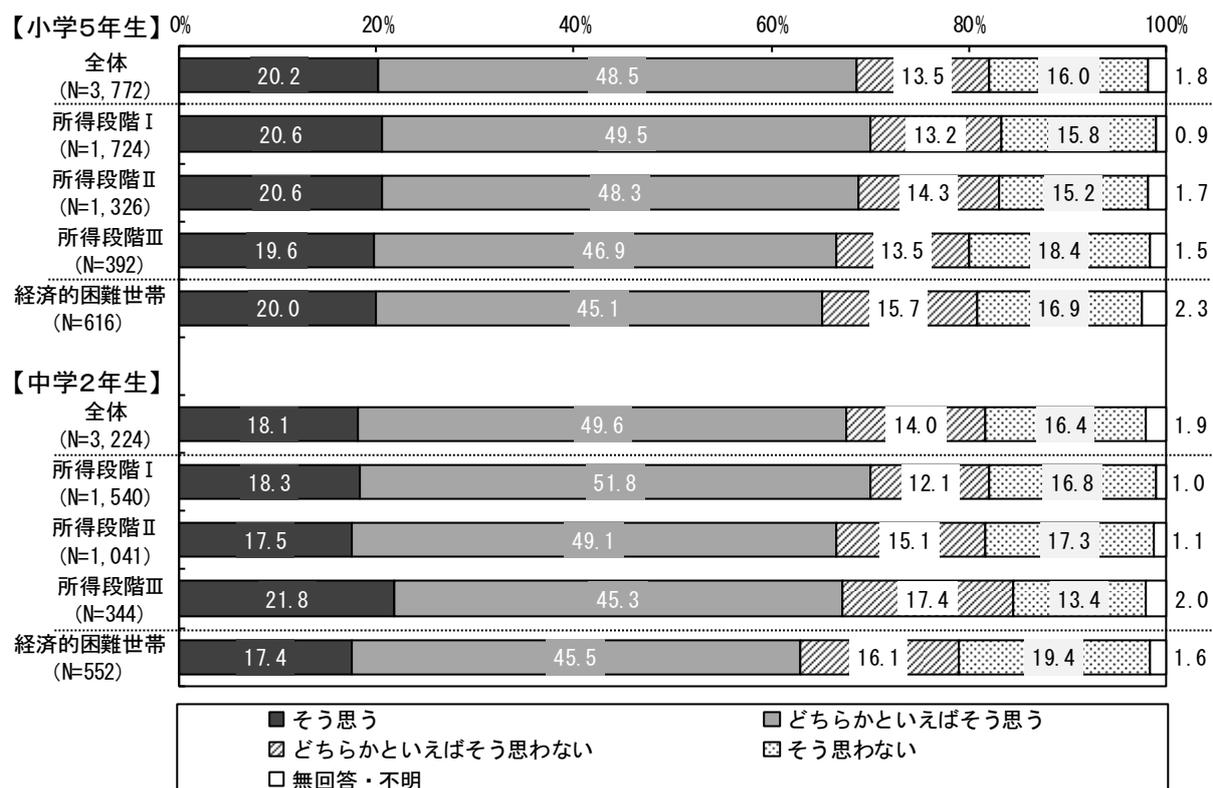
問 19 あなたは、お子さんの将来（夢・進路・職業等）について、お子さんと一緒に考えたり、話したりすることがありますか。



(3) 地元での居住について

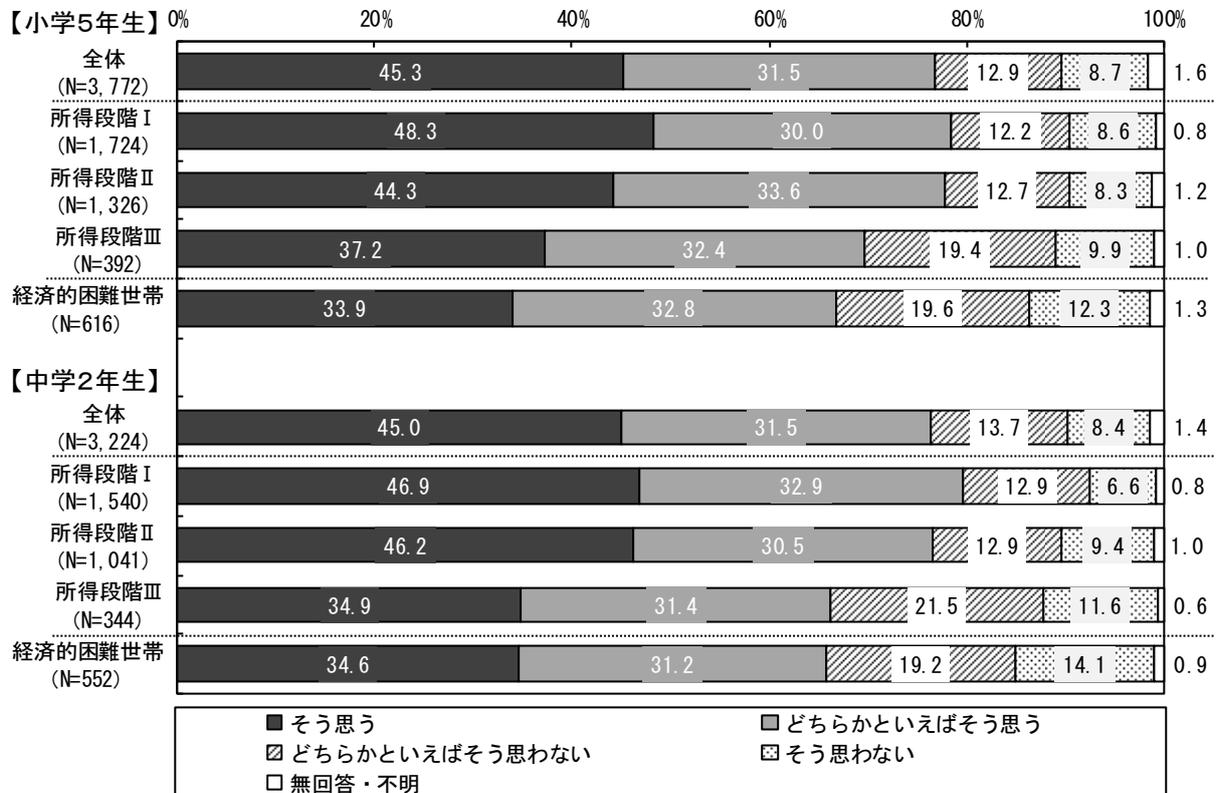
いずれの学年も肯定的な回答（「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」）は所得段階Ⅰで最も多く、経済的困難世帯で最も少なくなっています。

問 20 あなたは、お子さんが就職や結婚をした時に、今の住まいの近くで暮らしてほしいと思いますか。



これからも今の住まい（またはその近く）で暮らし続けたいと思うかどうかについては、所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で肯定的な回答が少なくなっています。

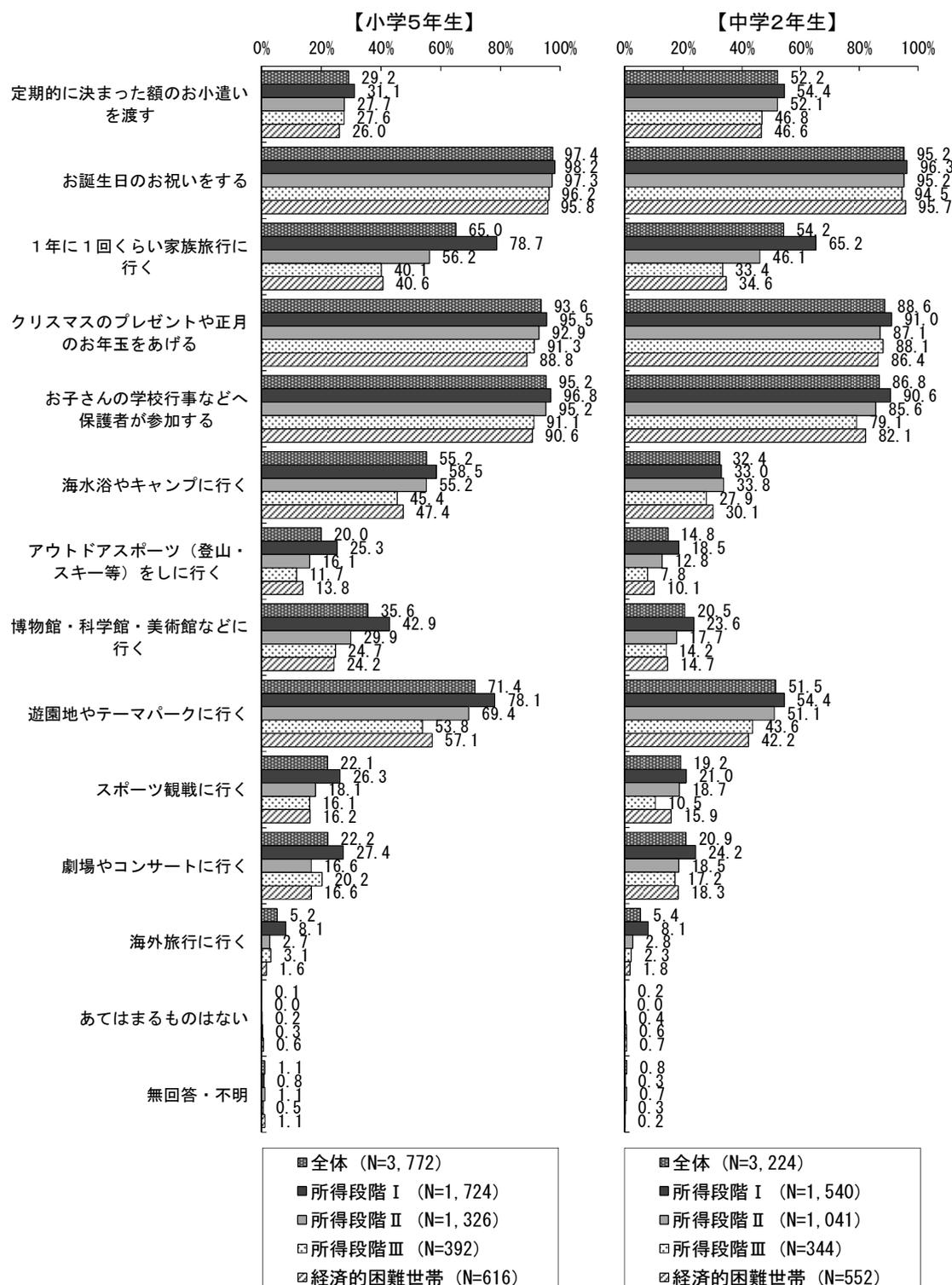
問 21 あなたは、これからも今の住まい（またはその近く）で暮らし続けたいと思いますか。



(4) 家庭における体験活動等

いずれの学年も、ほとんどの項目で所得段階が低いほど回答が少ない傾向が見られます。「お誕生日のお祝いをする」「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」については、全体的に回答率が高く、所得段階による差も小さくなっていますが、それ以外の項目では比較的差が大きく、特に「1年に1回くらい家族旅行に行く」については、差が大きくなっています。

問 22 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることができますか。【複数回答】

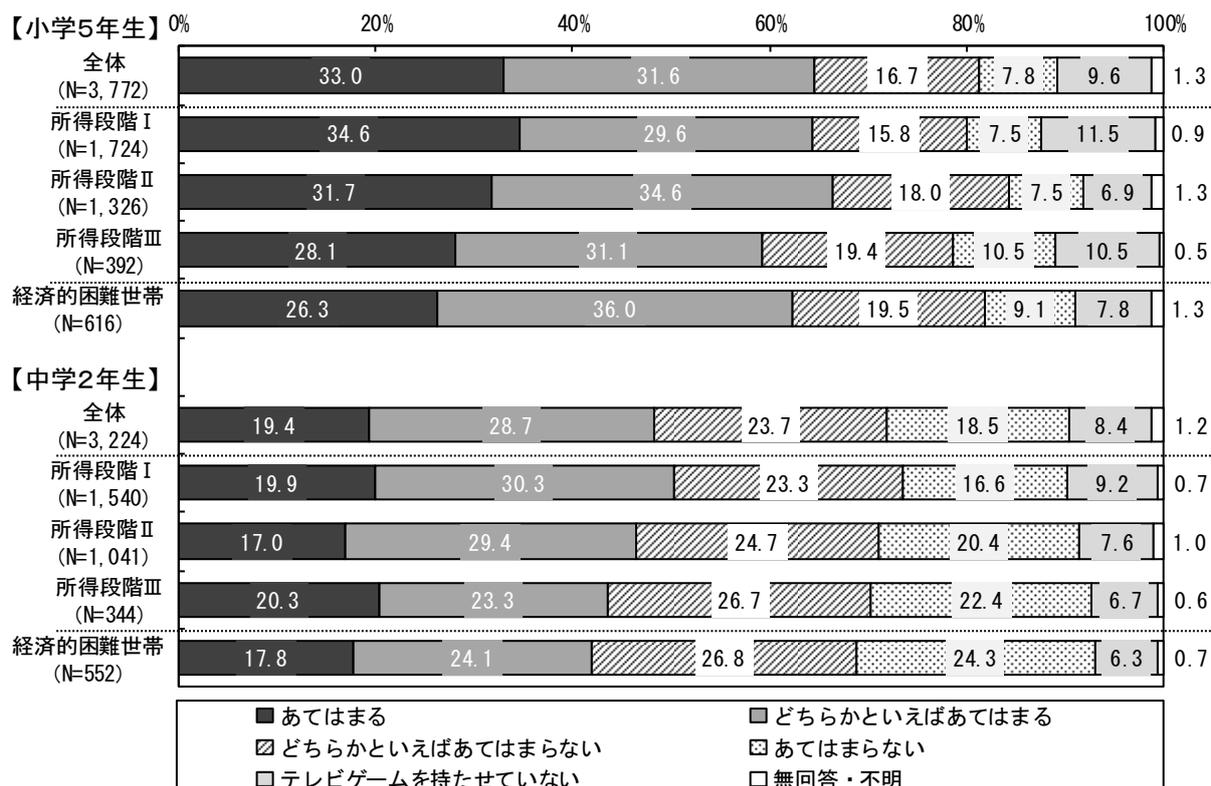


(5) 子供への教育的な働きかけ

子供に対して「テレビゲームで遊ぶ時間を限定している」については、小学5年生では所得段階が低いほど「あてはまる」がやや少なく、中学2年生でも所得段階が低いほど肯定的な回答（「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」）がやや少なくなっています。

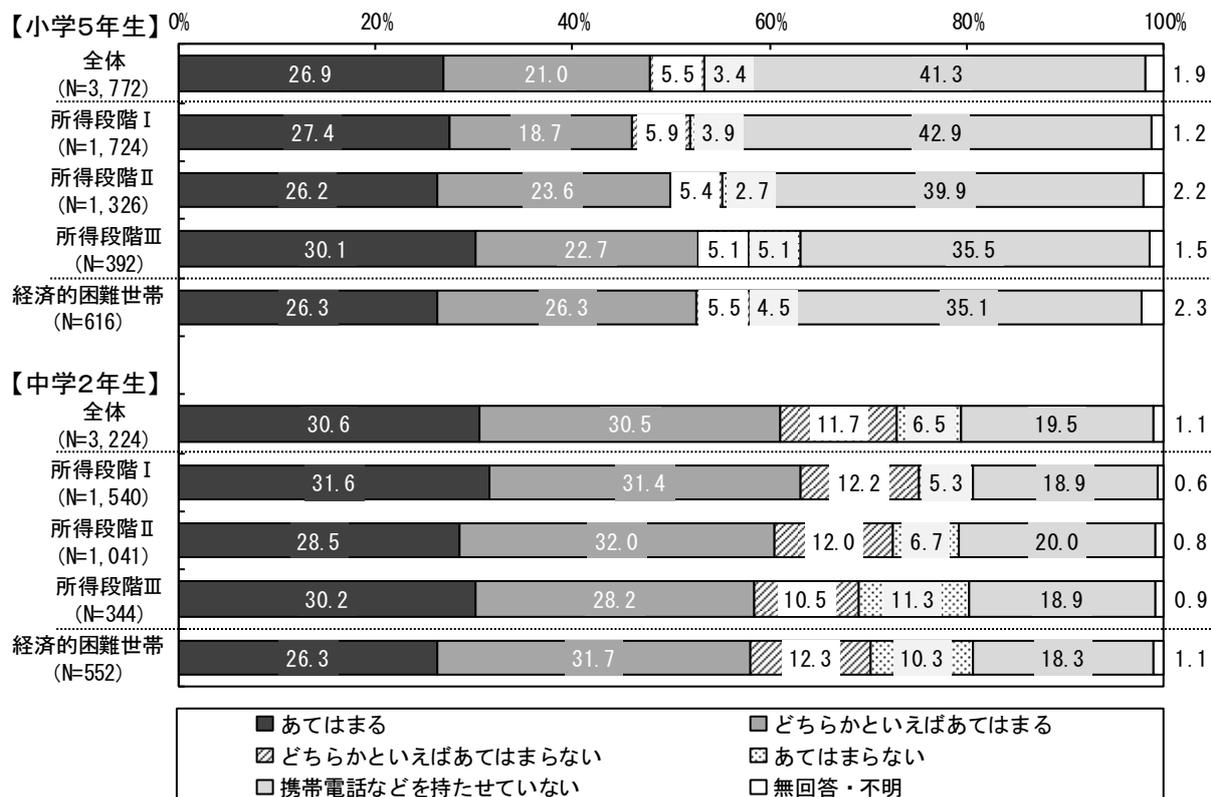
問 23 あなたのご家庭では、お子さんに対して、次のことをしていますか。

A テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含む）で遊ぶ時間を限定している



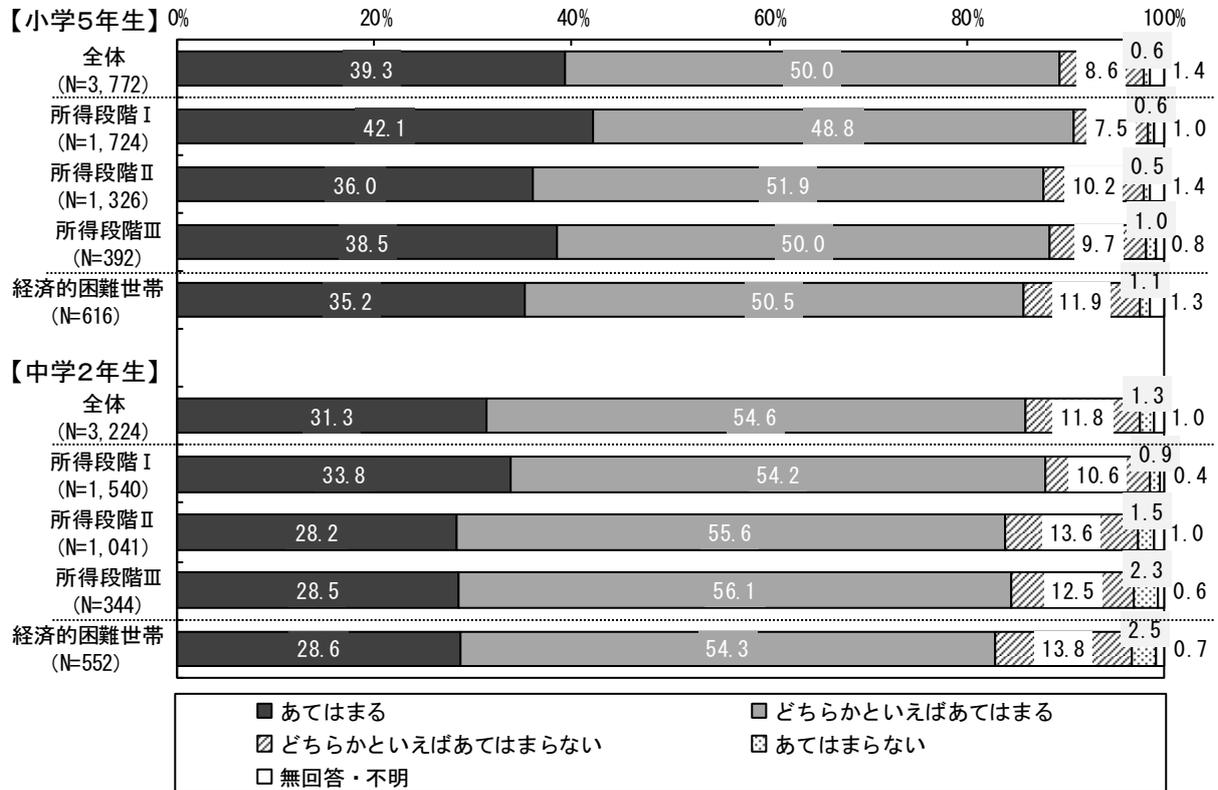
「携帯電話やスマートフォンの使い方についてルールや約束をつくっている」については、小学5年生では所得段階が低いほど「携帯電話などを持たせていない」がやや少なくなっていますが、それ以外は所得段階による差は見られません。中学2年生では、所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で「あてはまらない」がやや多くなっています。

B 携帯電話やスマートフォンの使い方についてルールや約束をつくっている



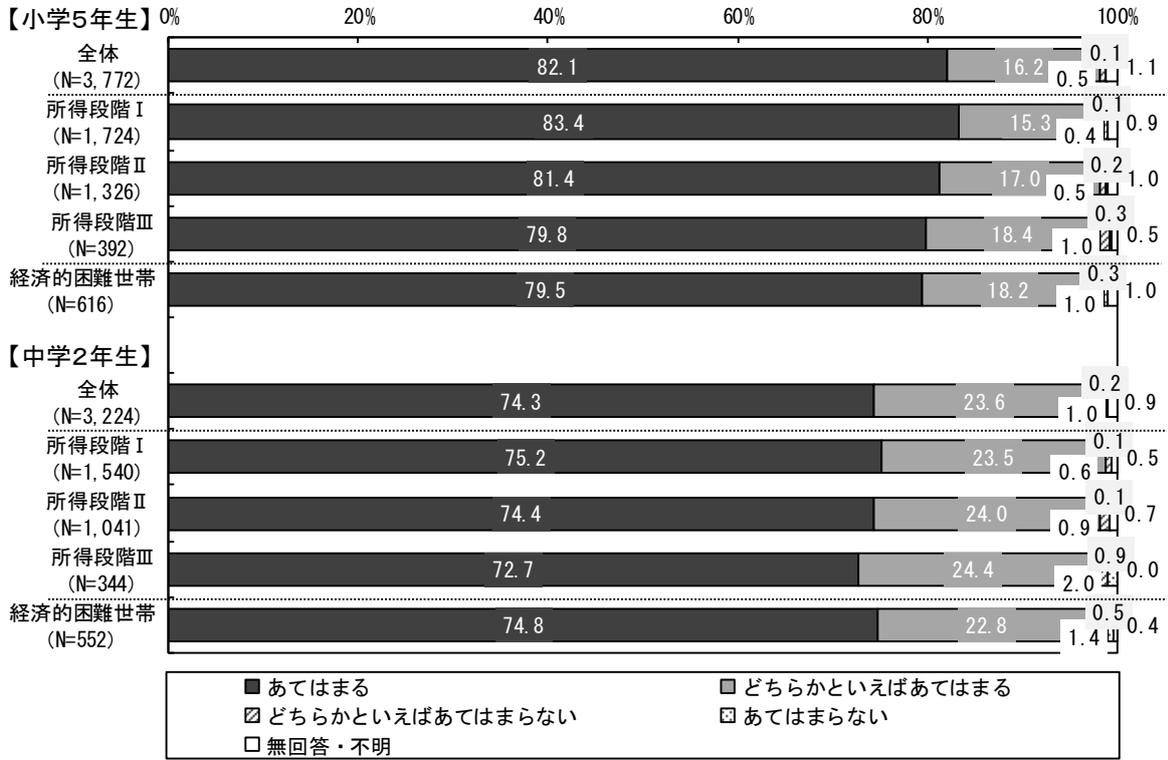
「子供の良いところをほめるなどして自信を持たせるようにしている」については、所得段階による差はあまりありませんが、いずれの学年も「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」は所得段階Ⅰで最も多くなっています。

C お子さんの良いところをほめるなどして自信を持たせるようにしている



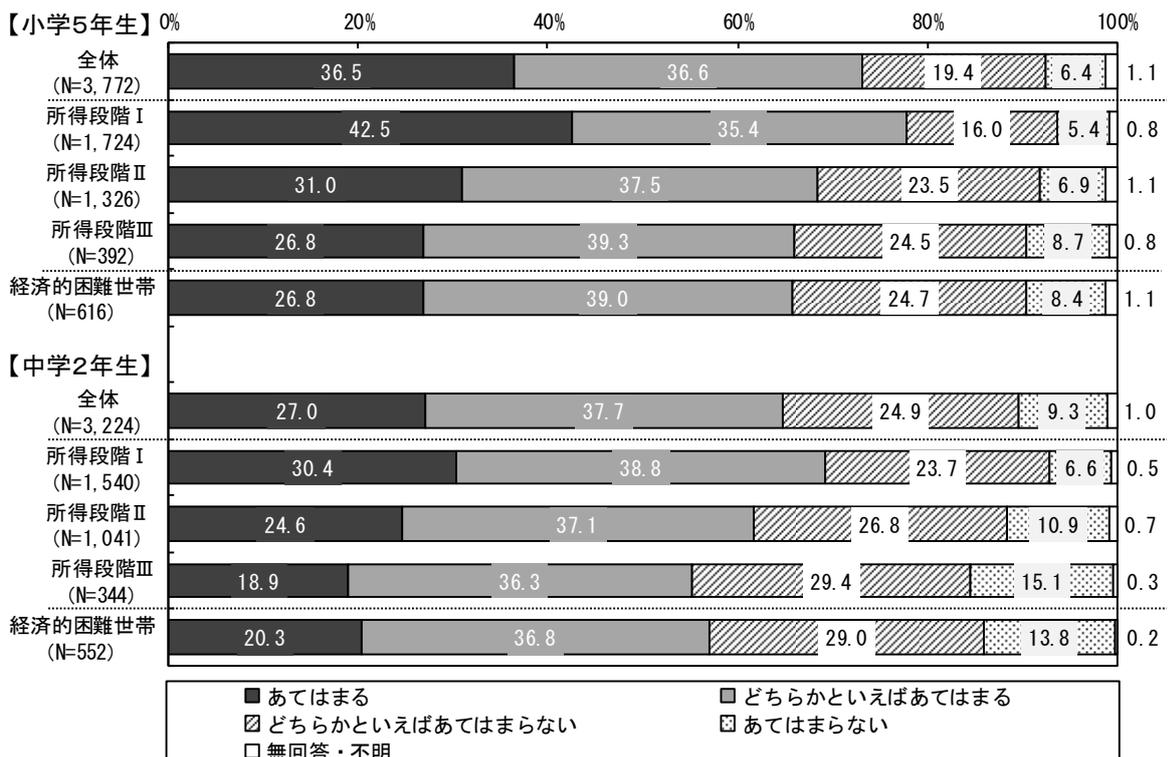
「子供が悪いことをしたらきちんとしかっている」については、小学5年生が8割前後、中学2年生が7割台が「あてはまる」と回答しています。所得段階による差はあまりありません。

D お子さんが悪いことをしたらきちんとしかっている



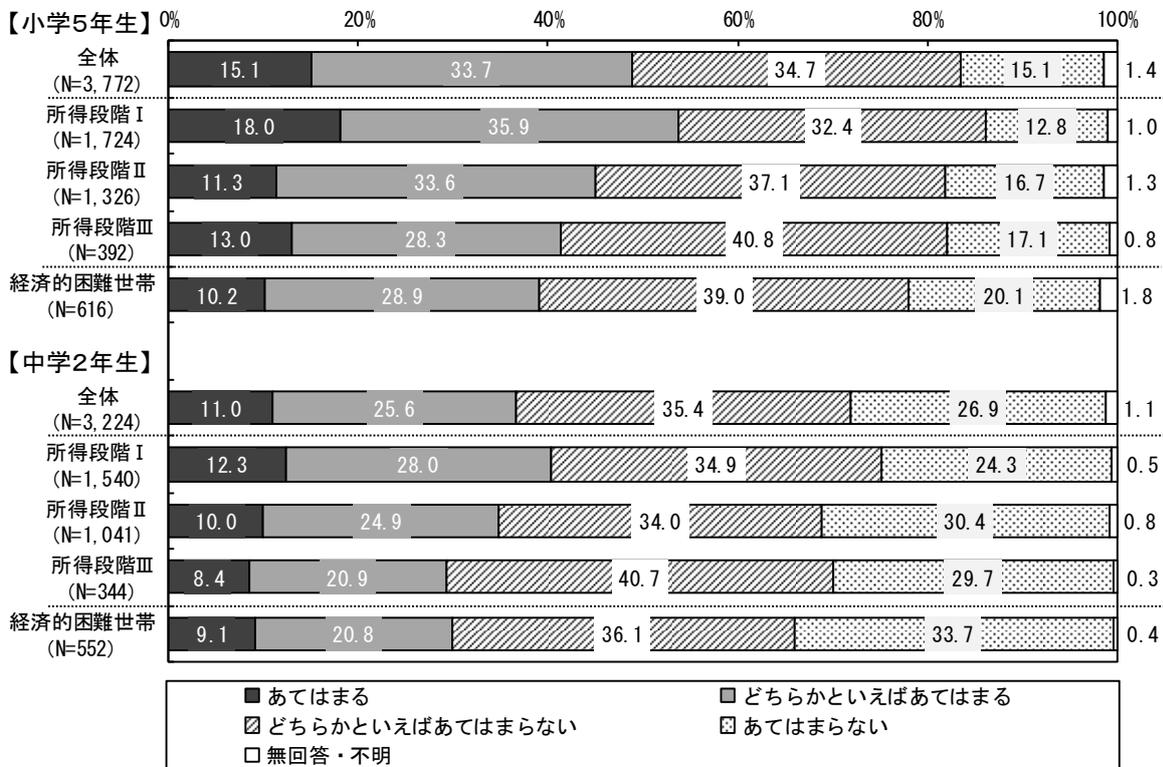
「子供に本や新聞を読むようにすすめている」については、所得段階が低いほど肯定的な回答（「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」）が少なくなっています。

E お子さんに本や新聞を読むようにすすめている



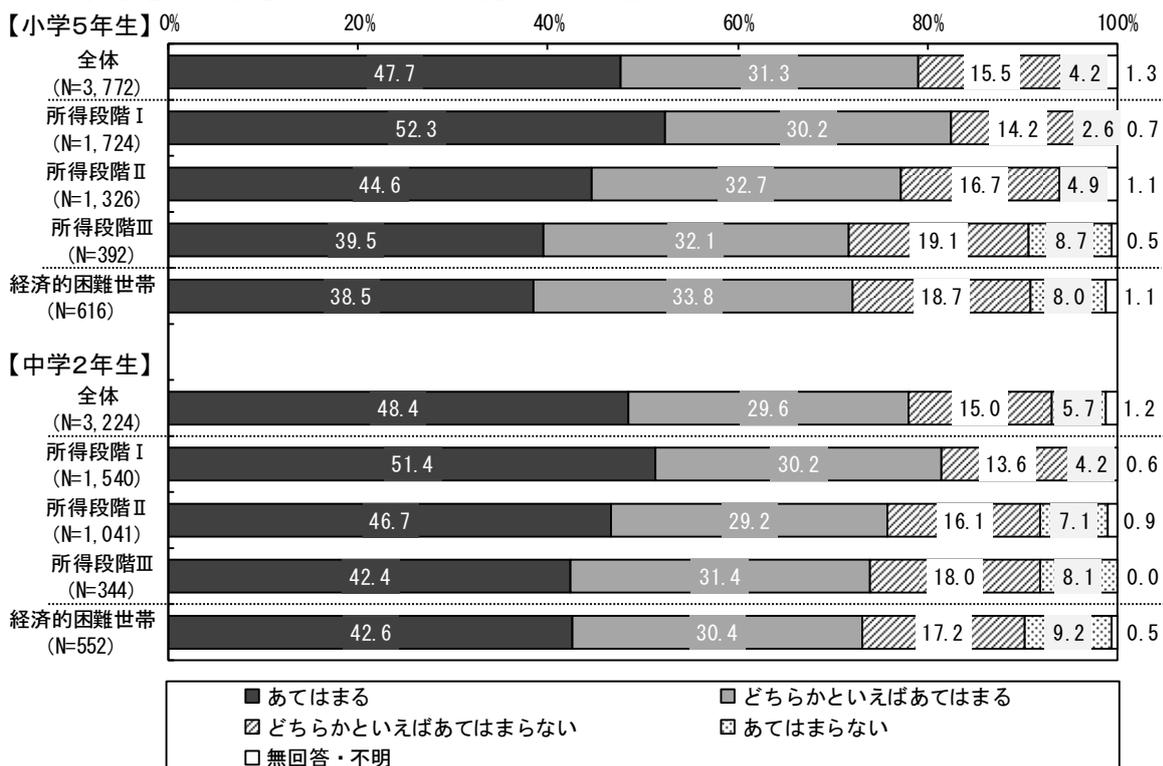
「子供と読んだ本の感想を話し合ったりしている」については、所得段階が低いほど肯定的な回答（「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」）が少なくなっています。

F お子さんと読んだ本の感想を話し合ったりしている



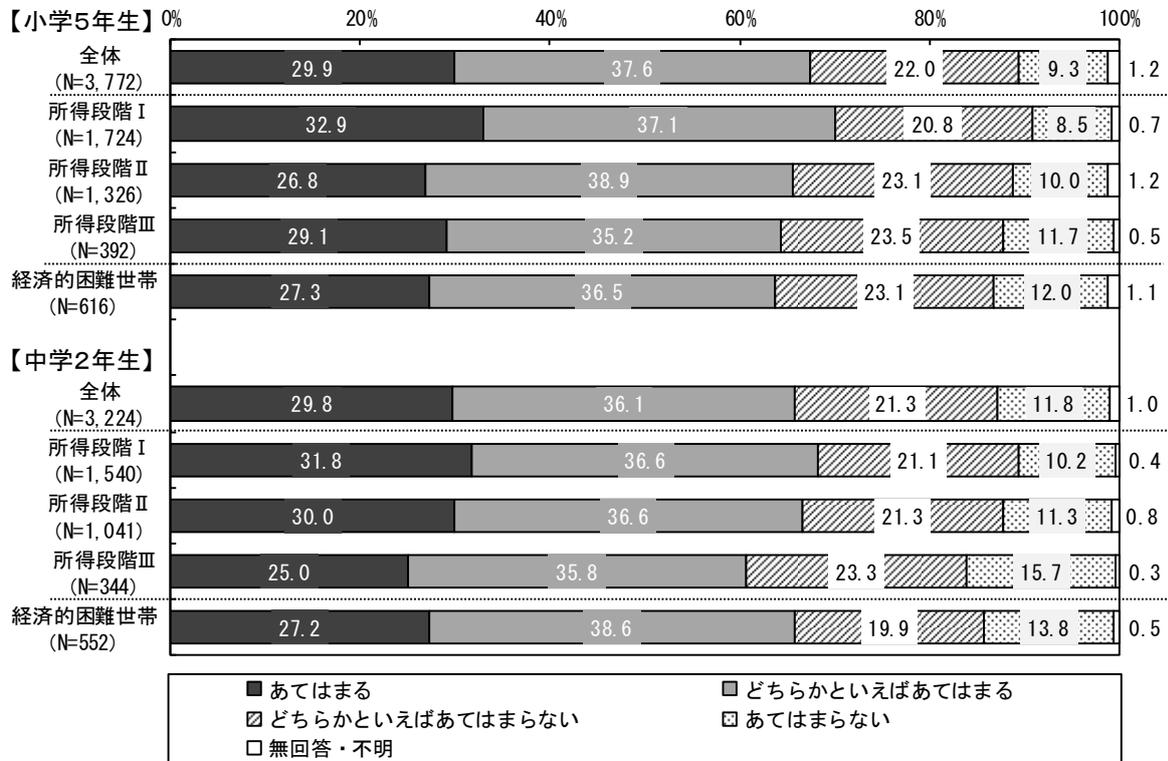
「子供が小さいころ、絵本の読み聞かせをした」については、所得段階が低いほど肯定的な回答（「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」）が少なくなっています。

G お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをした



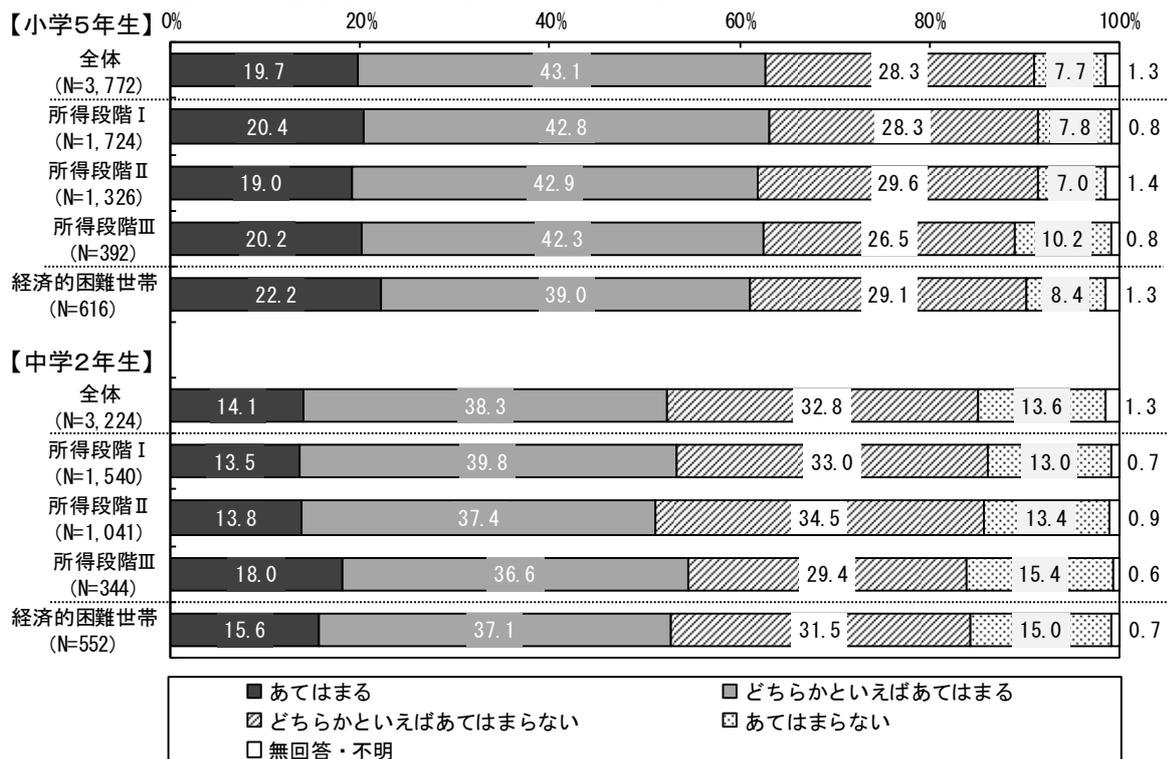
「子供に「勉強しなさい」とよく言っている」については、所得段階による差はあまりありません。

H お子さんに「勉強しなさい」とよく言っている



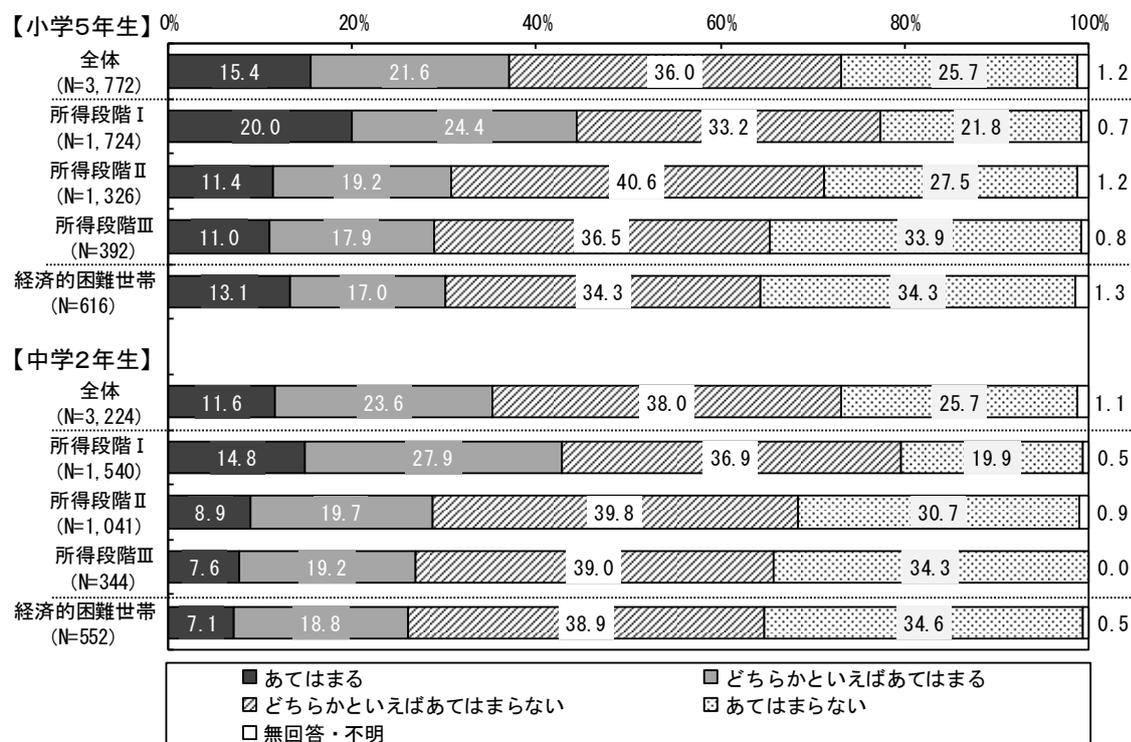
「やるべき事ができるまで何度も細かく指示する」については、所得段階による差はあまりありません。

I やるべき事ができるまで何度も細かく指示する



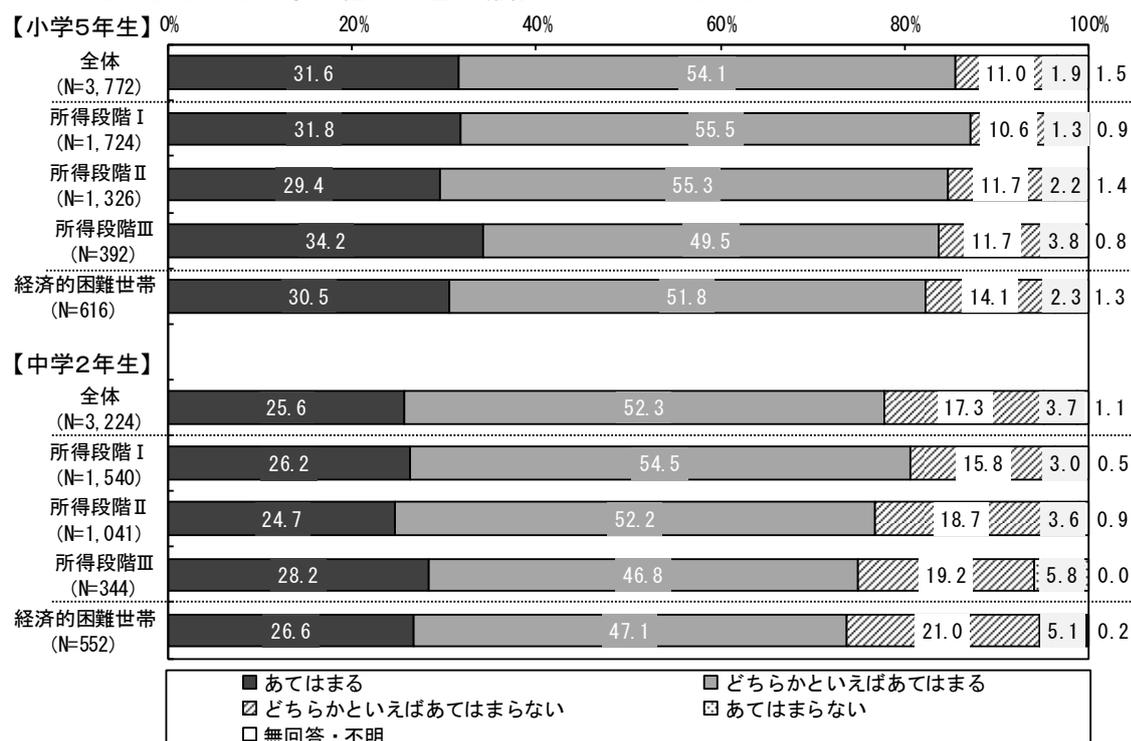
「子供が英語や外国の文化に触れるよう意識している」については、いずれの学年も所得段階 I で肯定的な回答が多くなっています。

J お子さんが英語や外国の文化に触れるよう意識している



「子供の心配事や悩みごとの相談によく乗っている」については、小学5年生では所得段階による差はあまりありませんが、中学2年生では、所得段階が低いほど肯定的な回答がやや少なくなっています。

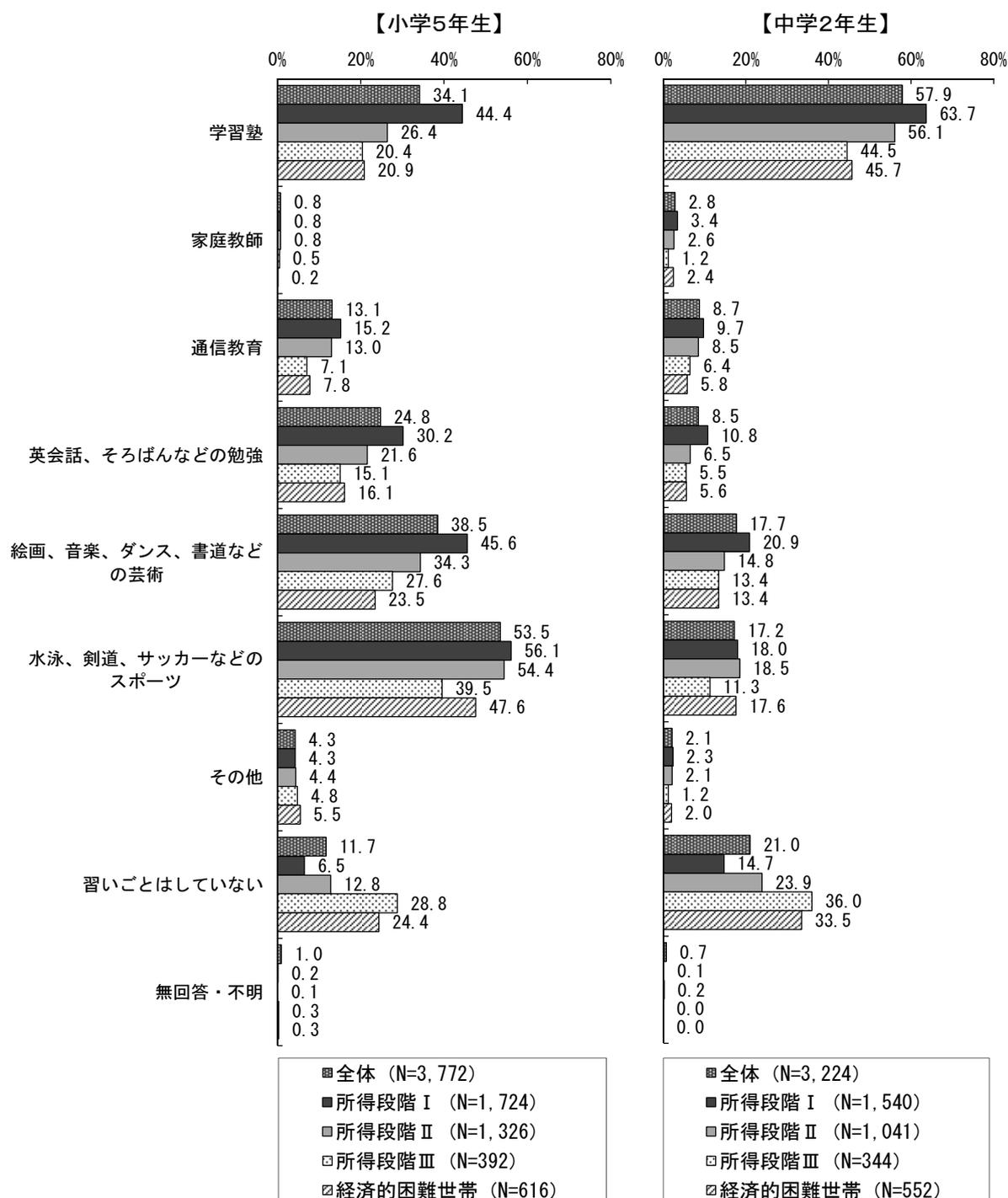
K お子さんの心配事や悩みごとの相談によく乗っている



(6) 子供の習いごと

子供の習いごとについては、いずれの学年もほとんどの項目で所得段階が低いほど回答が少なくなっています。小学5年生の全体で最も回答の多かった「水泳、剣道、サッカーなどのスポーツ」は、所得段階Ⅰ、Ⅱに差はほとんどありませんが、所得段階Ⅲの回答が少なくなっています。「習いごとはしていない」は所得段階が低いほど回答が多くなっています。

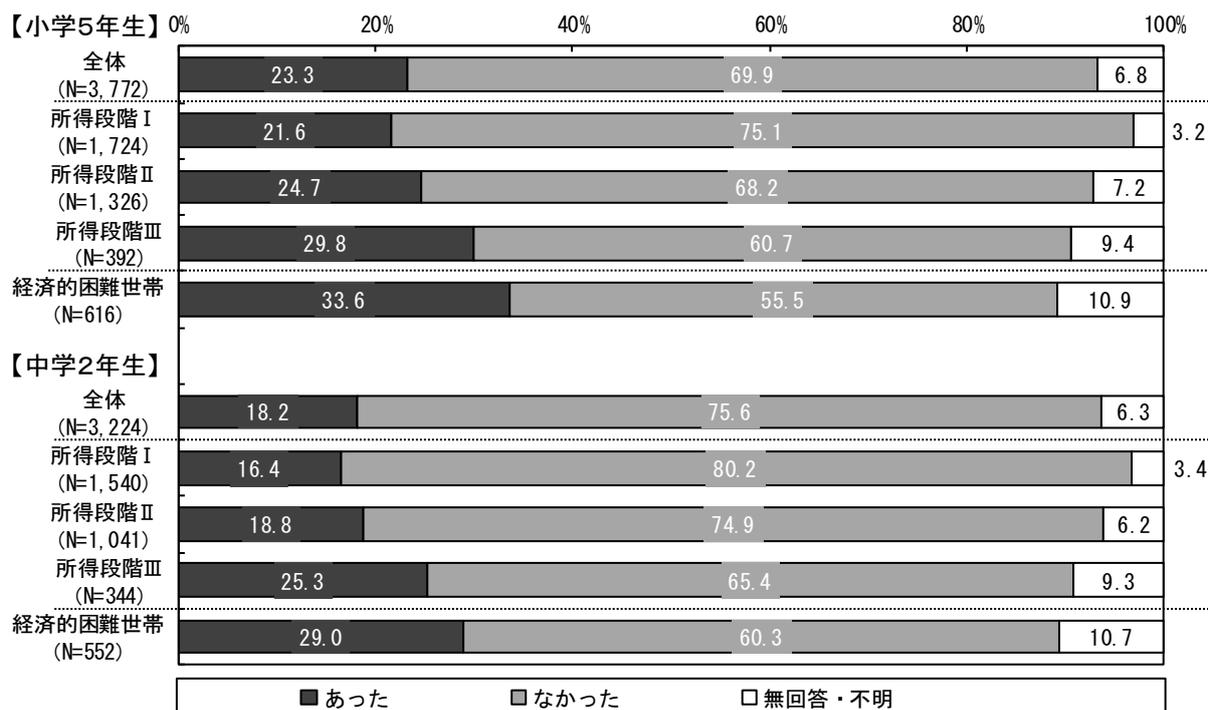
問 24 お子さんは現在、習いごとをしていますか（費用のかからないサークル活動などは除きます）。【複数回答】



子供に塾や習いごとをさせたかったけれど、通える範囲になくてできなかったことについては、所得段階が低いほど回答が「あった」が多くなっています。

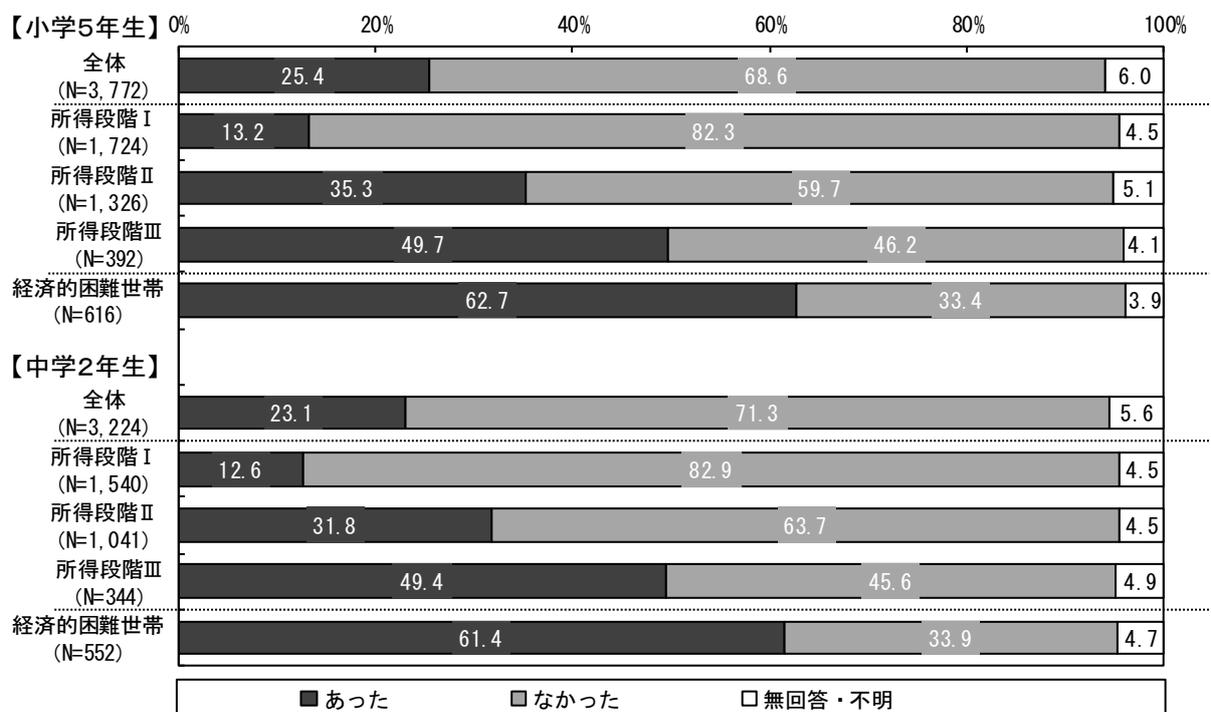
問25 あなたのご家庭では、子供に塾や習いごとをさせたかったけれど、通える範囲になくて、できなかったことや、通える範囲にあっても、経済的理由で、できなかったことがありますか。

A 通える範囲になくて、子供の塾や習いごとができなかったこと



子供に塾や習いごとをさせたかったけれど、経済的な理由で、できなかったことについては、所得段階が低いほど回答が「あった」が多くなっています。所得段階Ⅰではいずれの学年も「あった」が1割台であるのに対し、所得段階Ⅱでは3割台、所得段階Ⅲでは約5割と差が大きく、経済的困難世帯ではいずれの学年も6割台が「あった」と回答しています。

B 経済的な理由で、子供の塾や習いごとができなかったこと

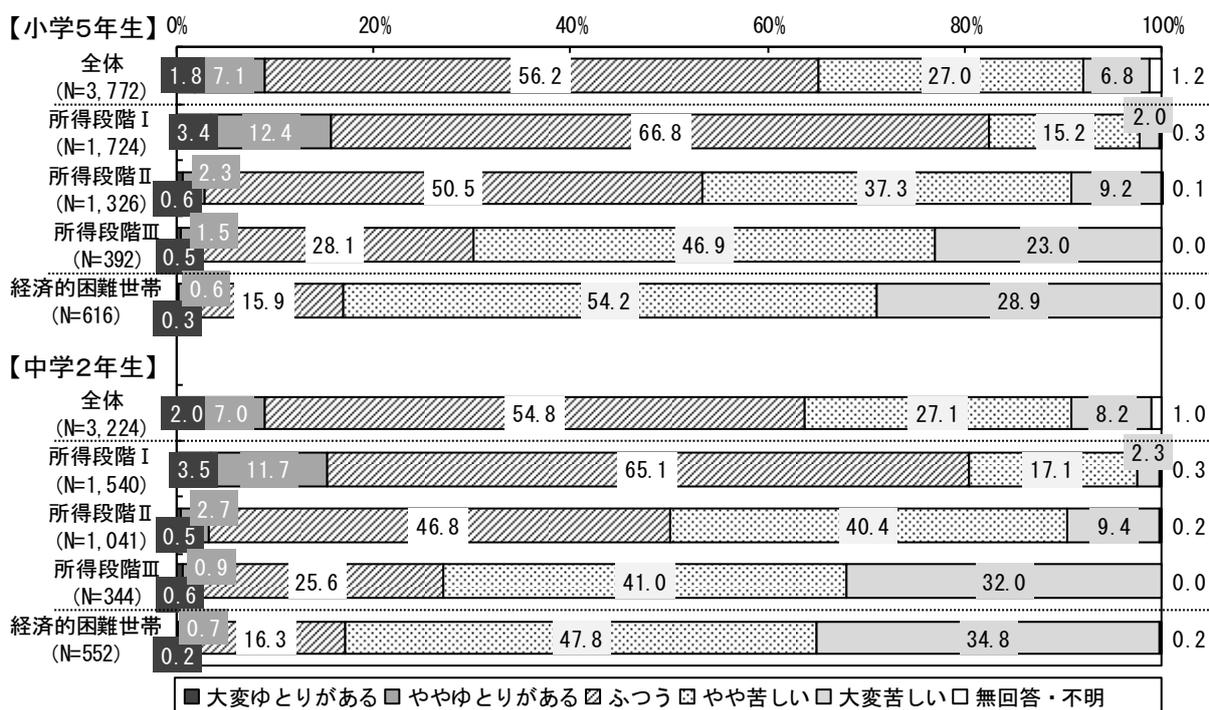


5. 暮らしの状況について

(1) 暮らしの状況についての自己評価

現在の暮らしの状況をどのように感じているかについては、所得段階が低いほど「やや苦しい」または「大変苦しい」という回答が多くなっています。また、所得段階Ⅲよりも経済的困難世帯の方が苦しいという回答が多くなっています。

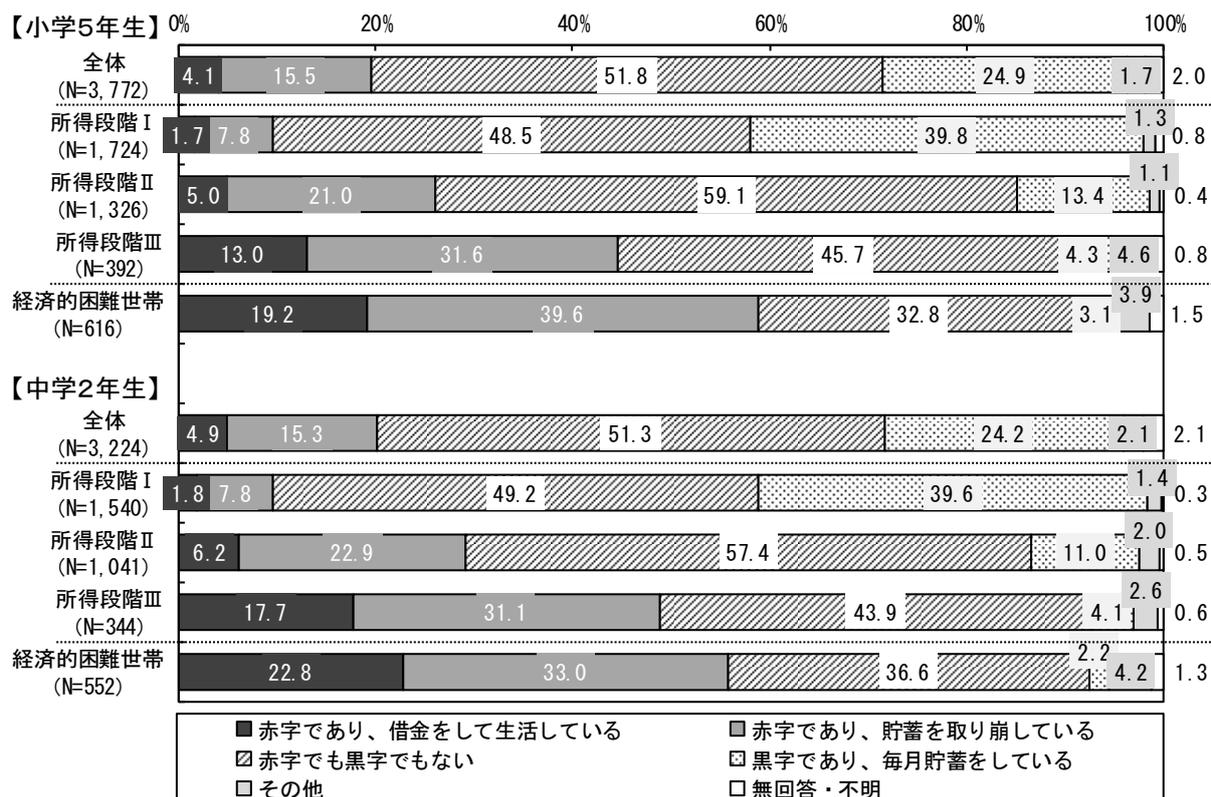
問 26 現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。



(2) 家計の状況

家計の状況については、所得段階が低いほど「赤字である」という回答が多くなっています。「黒字であり、毎月貯蓄をしている」という回答は、所得段階Ⅰでは約4割であるのに対し、所得段階Ⅱでは1割台、所得段階Ⅲでは4%程度となっています。所得段階Ⅲよりも経済的困難世帯の方が「赤字である」という回答が多くなっています。

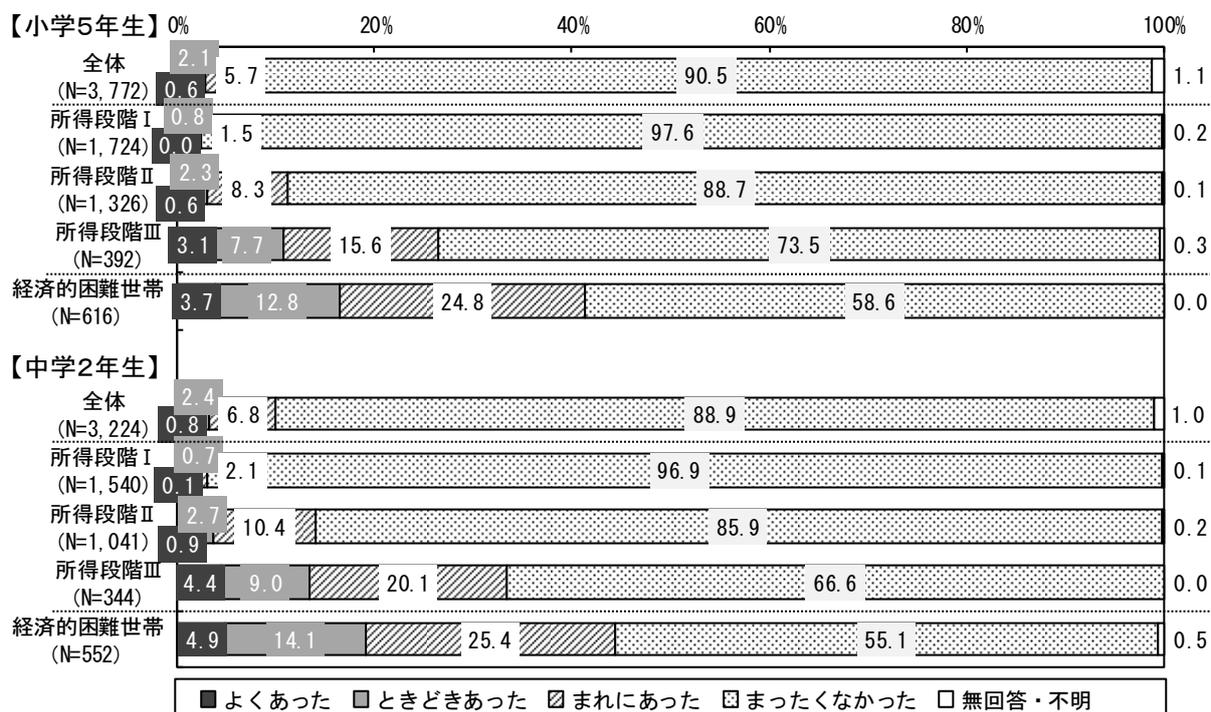
問 27 ご家庭の家計について、最も近いものをお答えください。



(3) お金がなくて食料を買えなかったこと

お金がなくて家族が必要とする食料を買えなかった経験については、所得段階が低いほどあったという経験が多くなっており、中学2年生の所得段階Ⅲでは、1割以上が「よくあった」または「ときどきあった」と回答しており、「まれにあった」を加えると3割を超えています。なお、問28から問32までは、経済的困難世帯の判定に用いた質問であり、経済的困難世帯であったという回答が多いのは当然であるため、経済的困難世帯と他の世帯との比較は意味がありません。

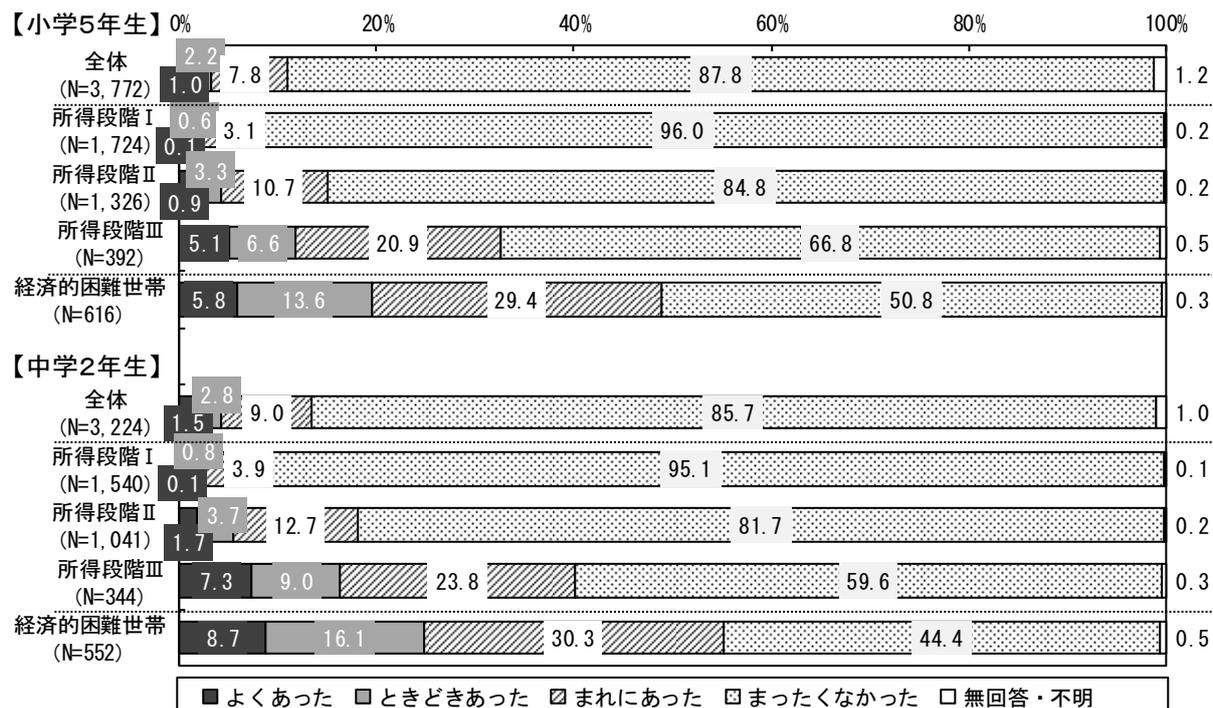
問28 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする**食料**を買えないことがありましたか。



(4) お金がなくて衣類を買えなかったこと

お金がなくて家族が必要とする衣類を買えなかった経験については、所得段階が低いほどあったという経験が多くなっており、中学2年生の所得段階Ⅲでは、1割以上が「よくあった」または「ときどきあった」と回答しており、「まれにあった」を加えると約4割となっています。

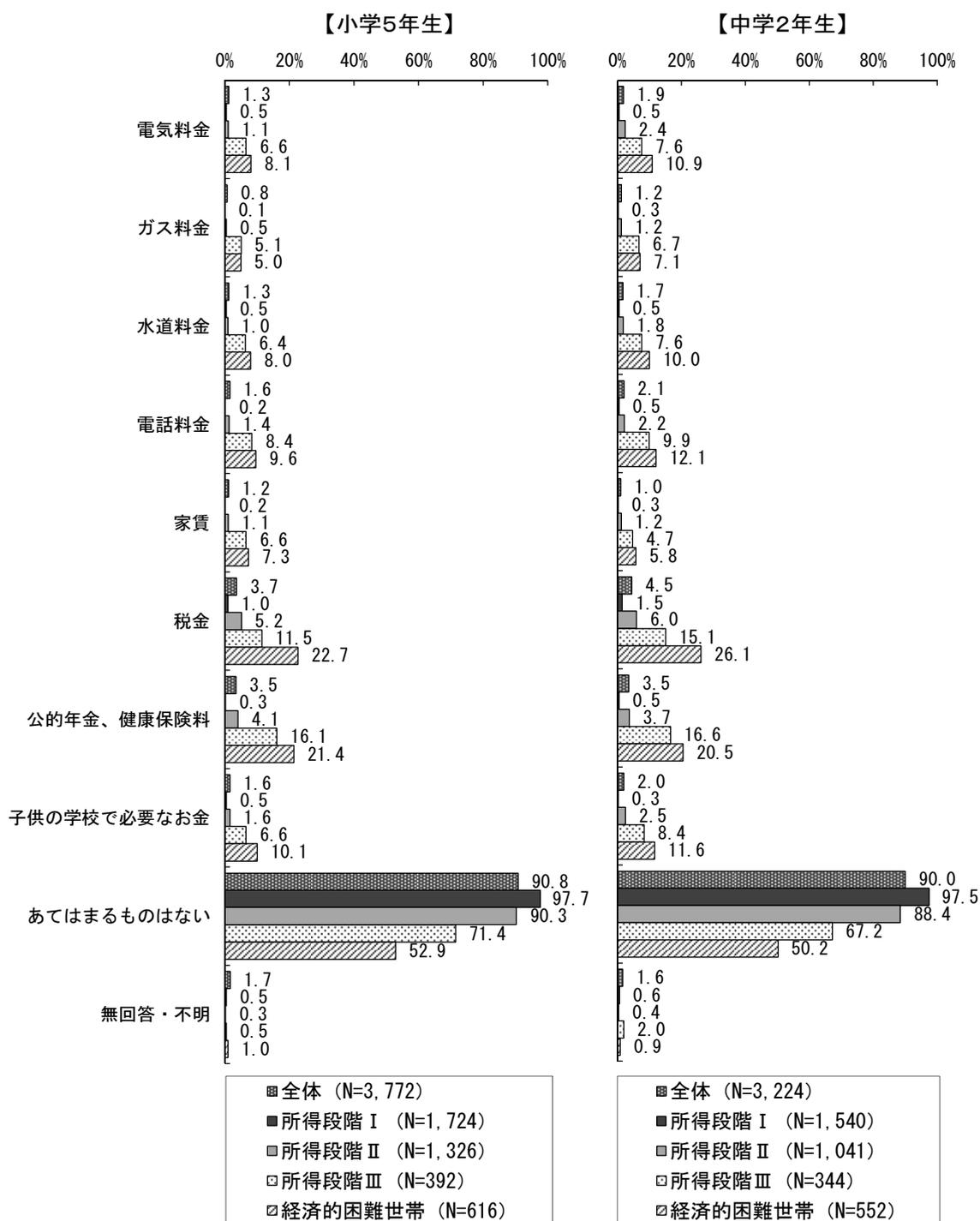
問 29 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類が買えないことがありましたか。



(5) 料金等の支払い困難

料金等の支払い困難については、全体で最も多いのは「税金」で、次いで「公的年金、健康保険料」となっています。いずれの項目も所得段階Ⅲの回答が多くなっています。「あてはまるものはない」は所得段階Ⅰでは100%近く、所得段階Ⅱでも約9割ですが、所得段階Ⅲでは約7割となっています。

問30 過去1年の間に、経済的な理由で、以下の料金について、支払えないことがありましたか。【複数回答】

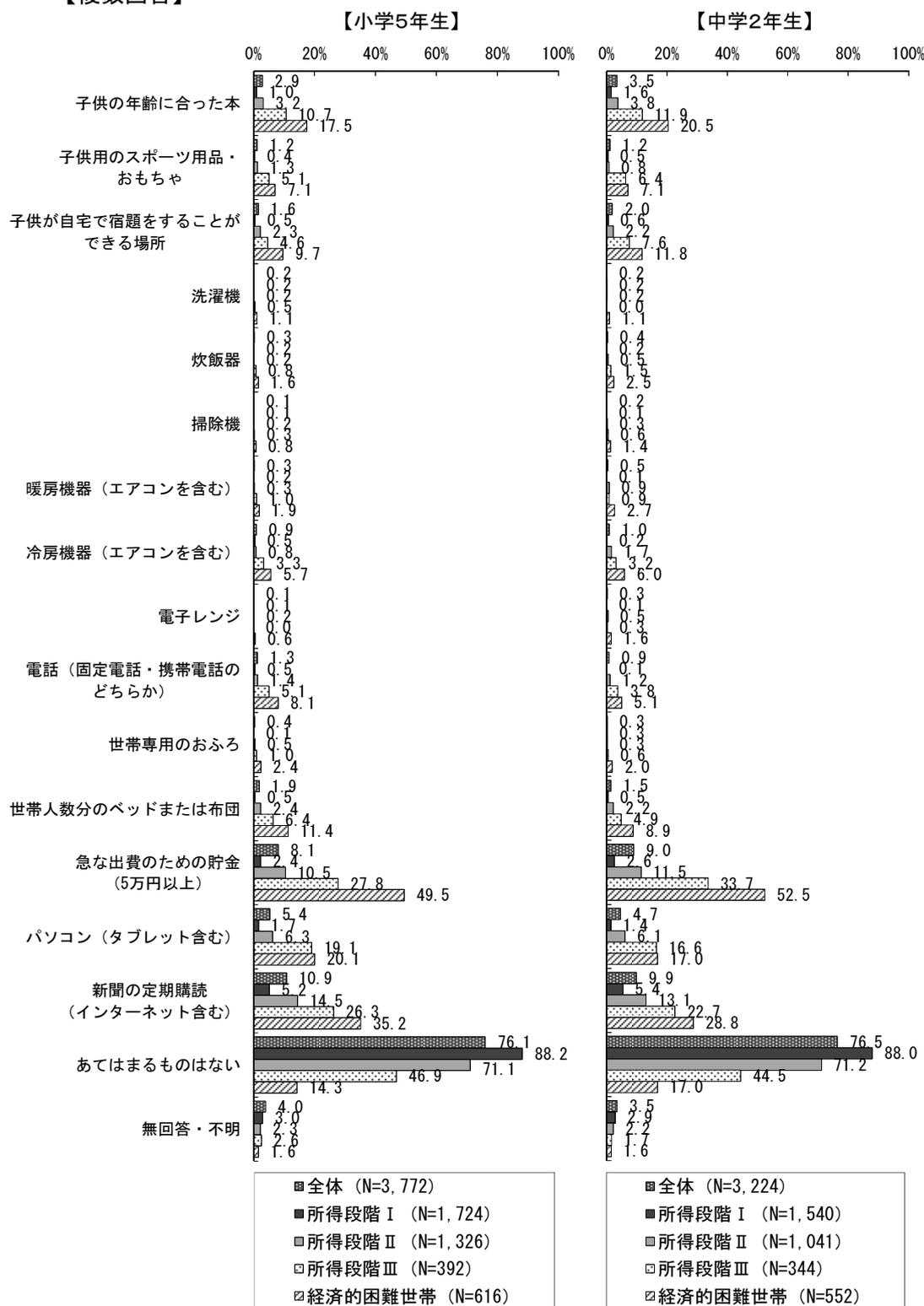


(6) 生活必需品の非所有

子育て世帯の生活に必要なと考えられるもののうち、所持していないものについてみると、いずれの項目も所得段階Ⅲの回答が多くなっています。特に「急な出費のための貯金（5万円以上）」については、所得段階Ⅲの約3割、所得段階Ⅱの約1割が所持していないと回答しています。

問 31 次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。

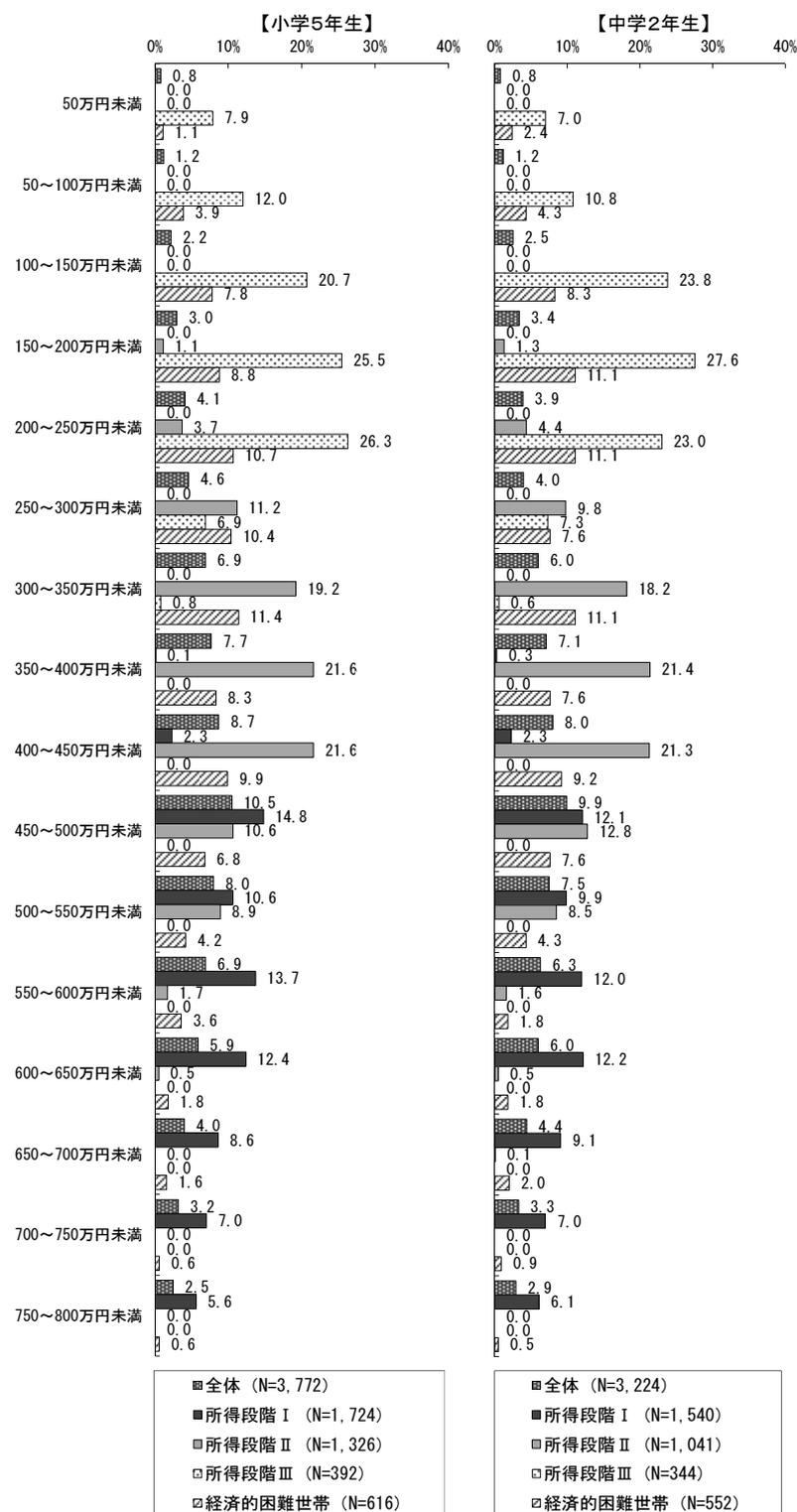
【複数回答】



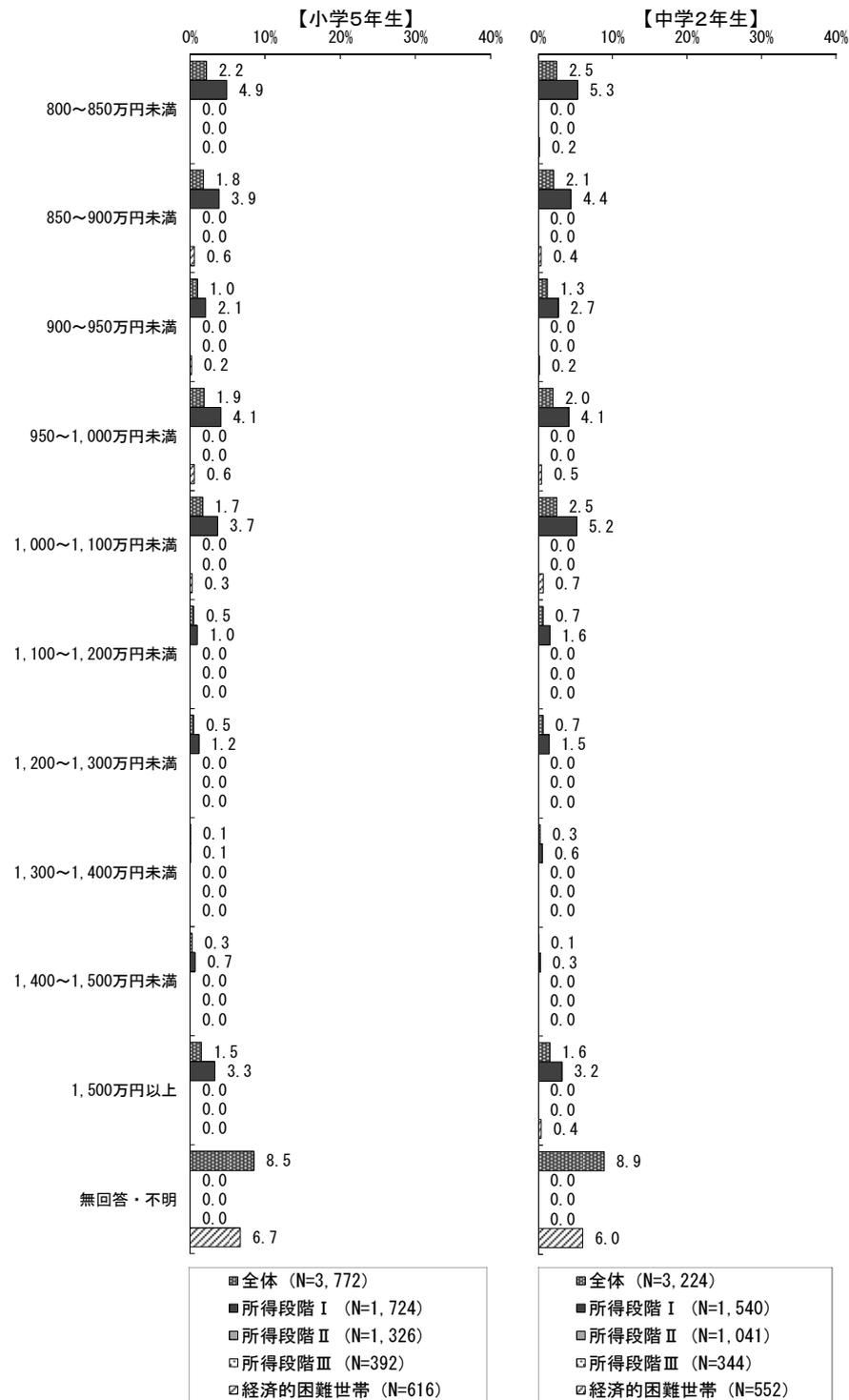
(7) 世帯収入

世帯収入の中央値は、全体ではいずれの学年も「450～500万円未満」、所得段階Ⅰでは小学5年生「600～650万円未満」、中学2年生「650～700万円未満」、所得段階Ⅱはいずれの学年も「350～400万円未満」、所得段階Ⅲはいずれの学年も「150～200万円未満」となっています。

問 32 前年（2017年）のあなたの世帯の家族全員の収入の合計額（いわゆる手取り収入）は、おおよそいくらでしたか。



問 32 前年（2017 年）のあなたの世帯の家族全員の収入の合計額（いわゆる手取り収入）は、
 およそいくらでしたか。（続き）

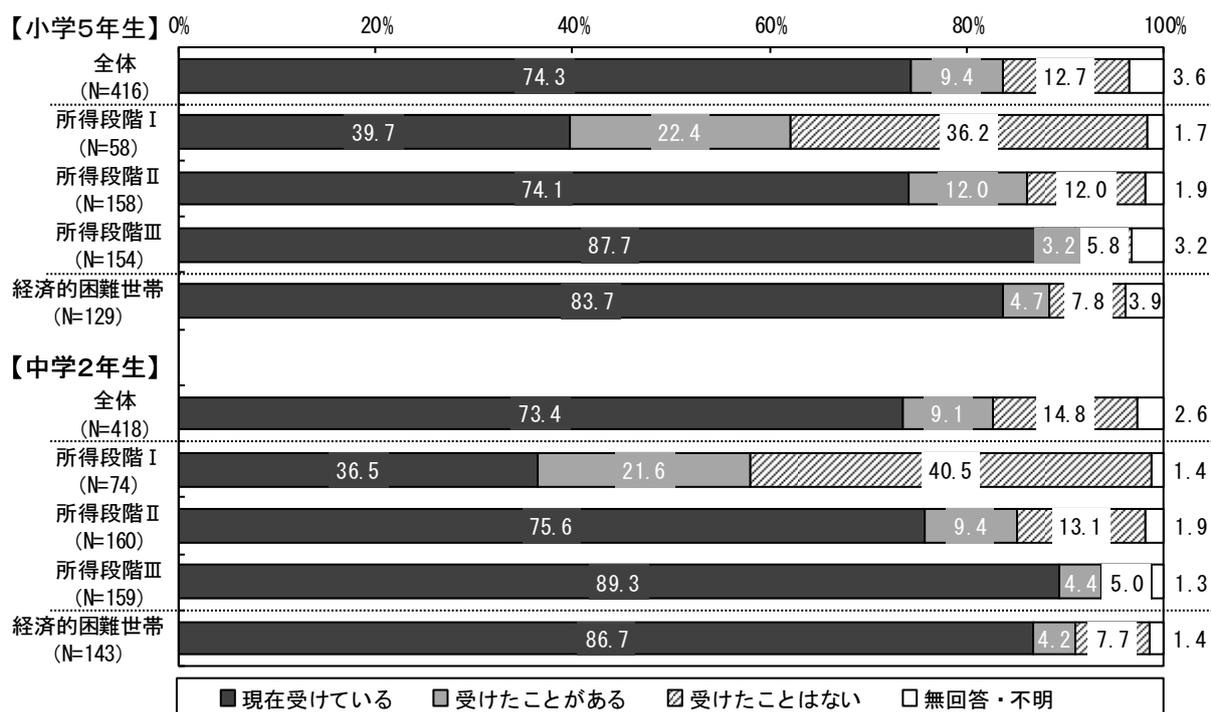


(8) 手当や援助等の受給状況

「児童扶養手当」の受給については、ひとり親世帯を対象とした手当であるため、ひとり親世帯のみで集計しています。「現在受けている」は、いずれの学年も、所得段階Ⅰで3割台、所得段階Ⅱで7割台、所得段階Ⅲと経済的困難世帯で8割台となっています。

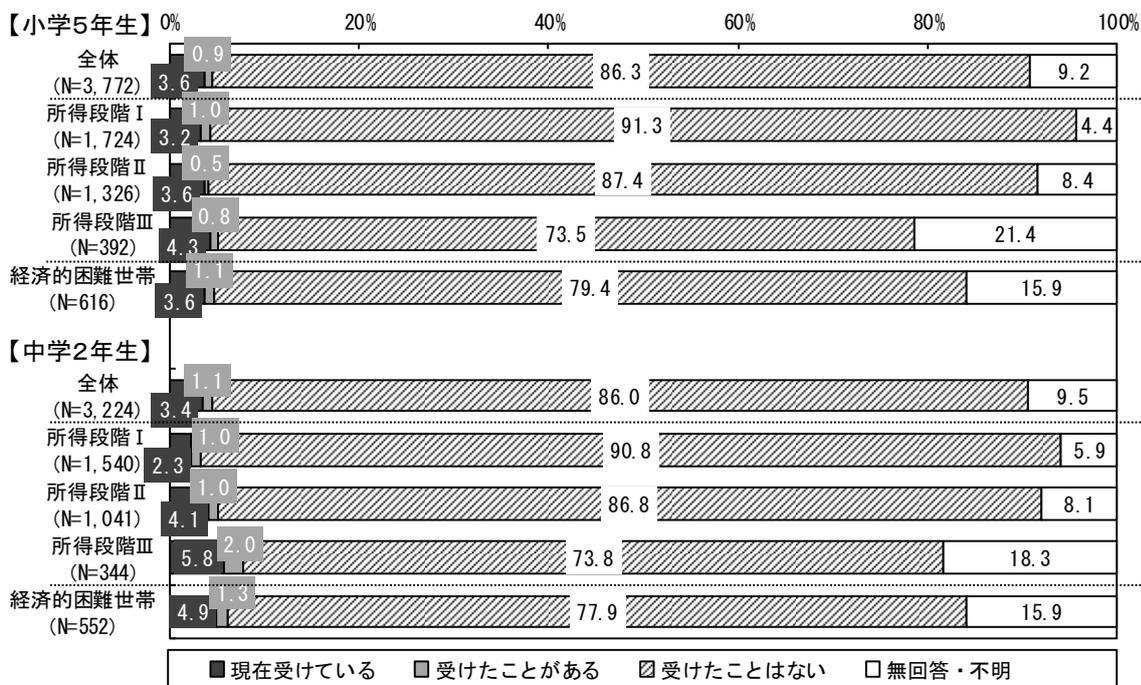
問 33 あなたの世帯では、以下の手当や援助等を受けていますか。

A 児童扶養手当（18歳未満の子供を養育するひとり親家庭等に支給される手当。すべての子育て世帯が対象の「児童手当」とは違います。）【ひとり親世帯のみの集計】



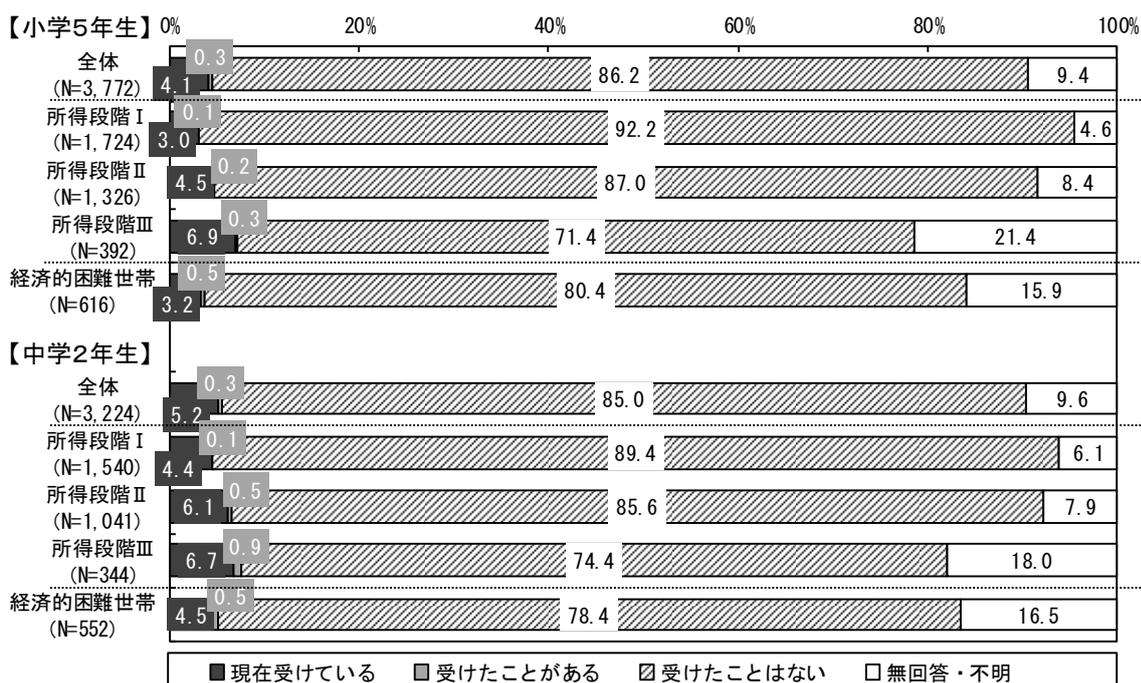
「障害や難病の手当」については、全体では受給経験のある人が5%未満となっています。所得段階による差はあまりありませんが、中学2年生の所得段階Ⅲで「現在受けている」がやや多くなっています。

B 障害や難病の手当



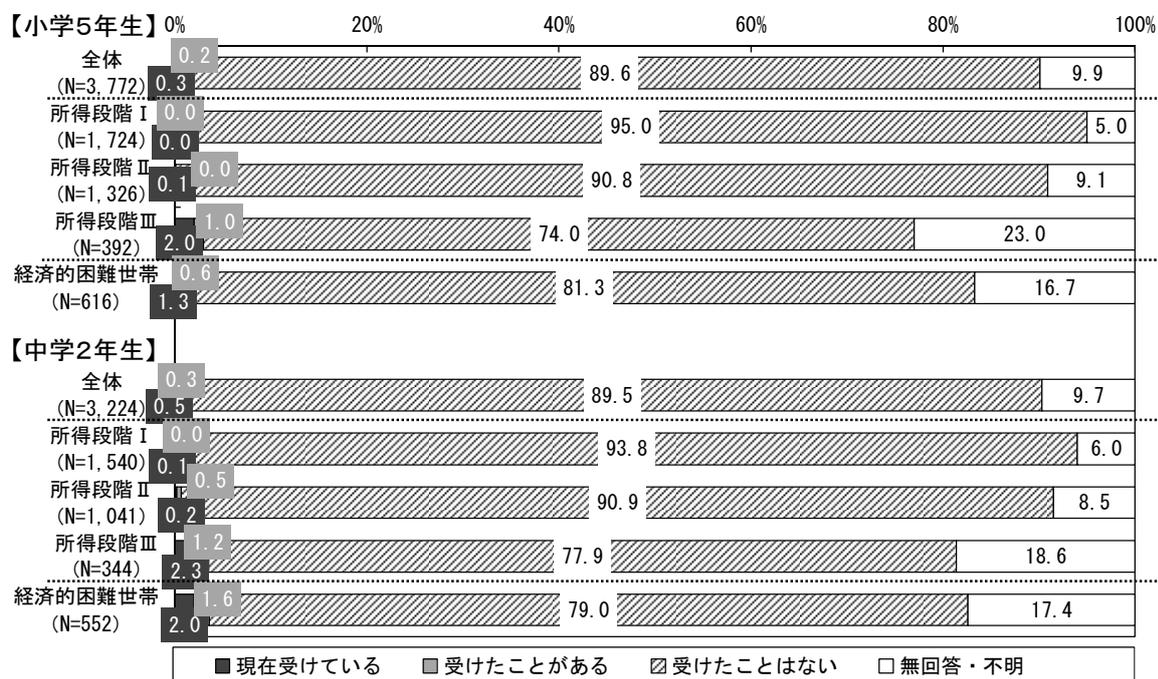
「年金」については、小学5年生の所得段階Ⅲと中学2年生の所得段階Ⅱ、所得段階Ⅲで、「現在受けている」がやや多くなっています。

C 年金（遺族年金、老齢年金など）



「生活保護」については、「現在受けている」が非常に少なく、所得段階Ⅲにおいても、約2%にとどまっています。

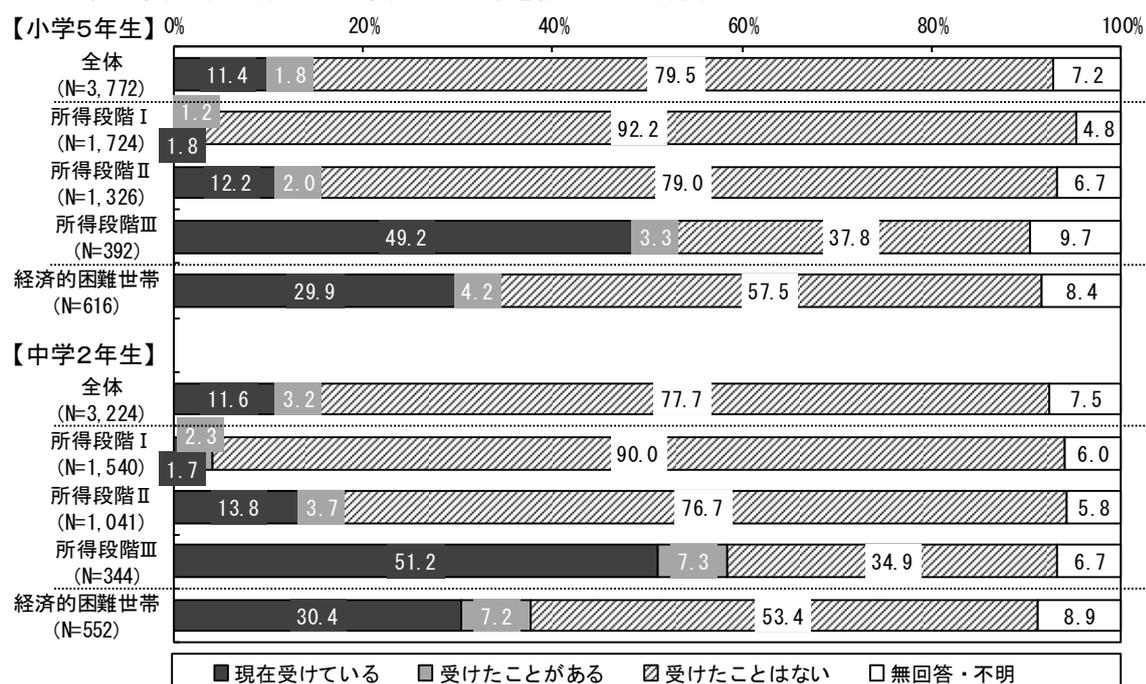
D 生活保護



「就学援助」については、全体では約1割が「現在受けている」と回答しています。所得段階別にみると、いずれの学年も所得段階Ⅰでは2%未満、所得段階Ⅱで1割台、所得段階Ⅲでは約5割と、差が大きくなっています。所得段階Ⅲについては、受給要件をほぼ満たしていると考えられますが、3割台が「受けたことはない」と回答しています。

E 就学援助

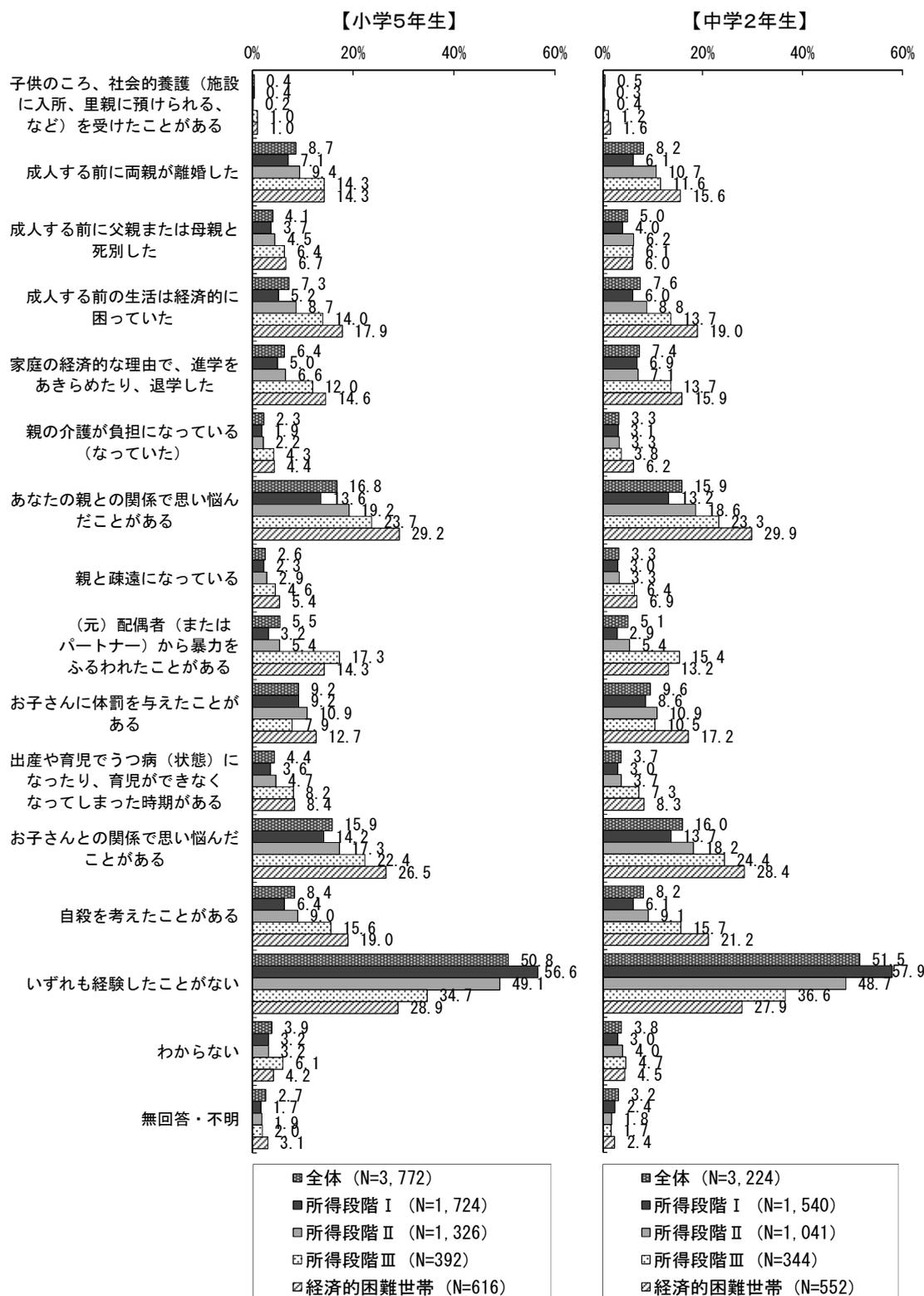
※給食費や学用品などの費用の一部を援助する制度



(9) 保護者が経験したこと

保護者自身の困難な経験については、ほとんどの項目で所得段階が低いほど回答が多くなっており、「いずれも経験したことがない」は所得段階Ⅰで5割を超えているのに対し、所得段階Ⅲでは3割台、経済的困難世帯では2割台となっています。

問34 あなたは、次のような経験をしたことがありますか。【複数回答】



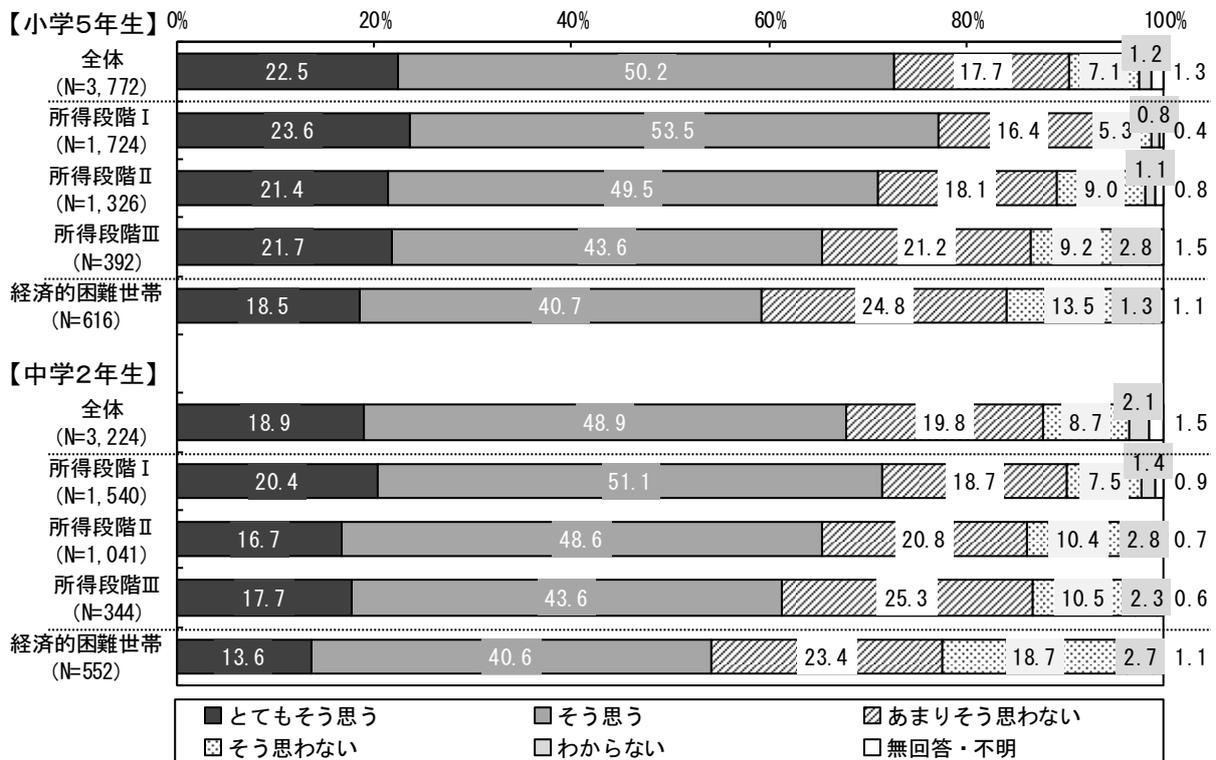
(10) 保護者自身の親との関わり

保護者自身の親とのかかわりについて「一緒に楽しい時間を過ごしてくれた」については、いずれの学年も所得段階が低いほど肯定的な回答（「とてもそう思う」または「そう思う」）が少なくなっています。また、経済的困難世帯では所得段階Ⅲよりも肯定的な回答が少なくなっています。

問 35 あなたの親は子供のころのあなたに対しどのように接していましたか。

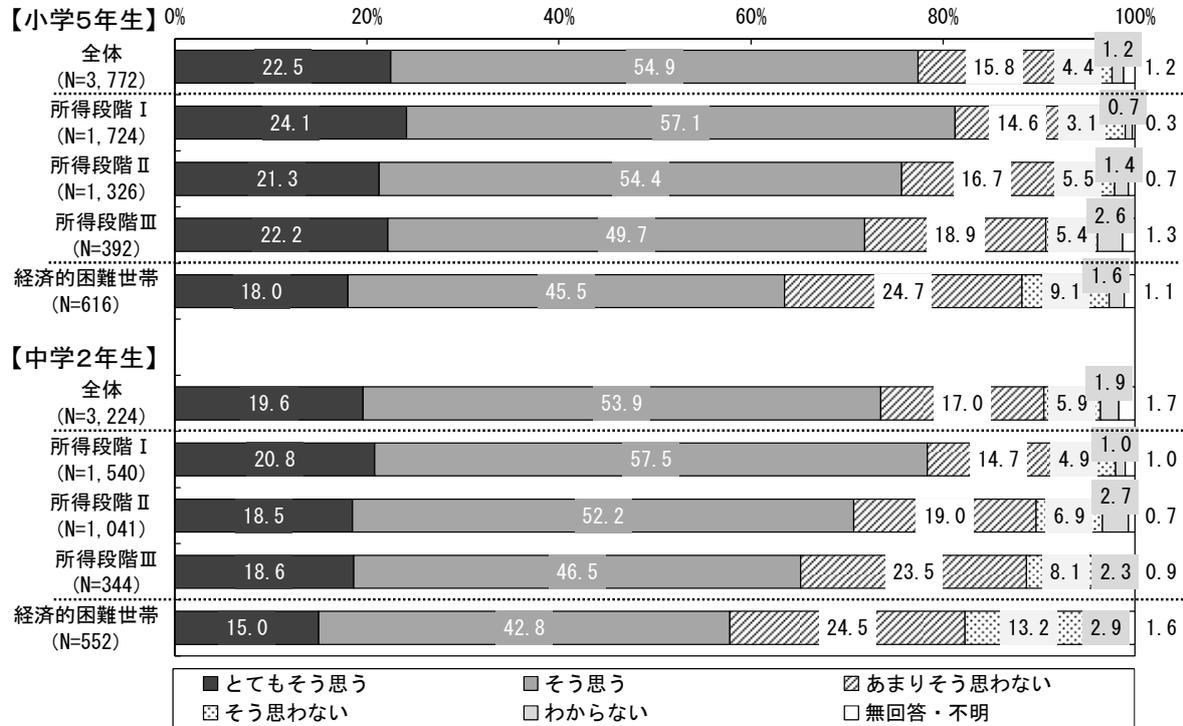
最も近いと思うものに○をつけてください

A 一緒に楽しい時間を過ごしてくれた



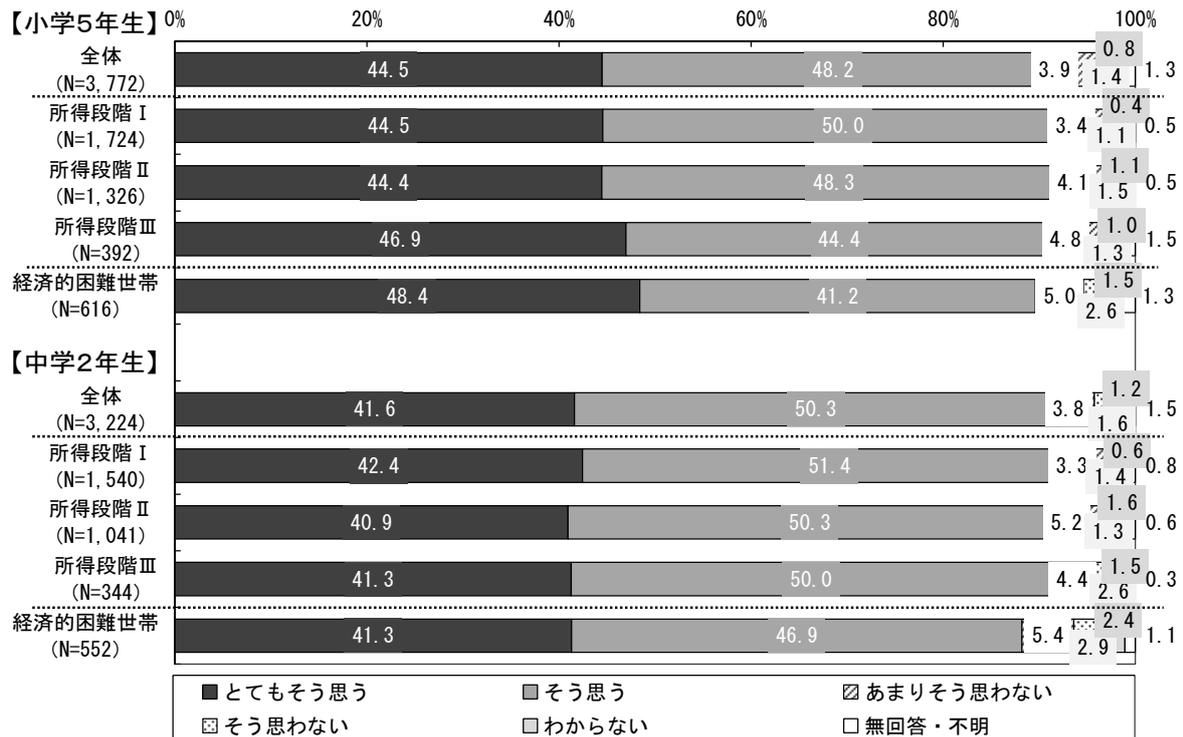
「自分が喜ぶことをしてくれた」については、いずれの学年も所得段階が低いほど肯定的な回答が少なくなっています。また、経済的困難世帯では所得段階Ⅲよりも肯定的な回答が少なくなっています。

B 自分が喜ぶことをしてくれた



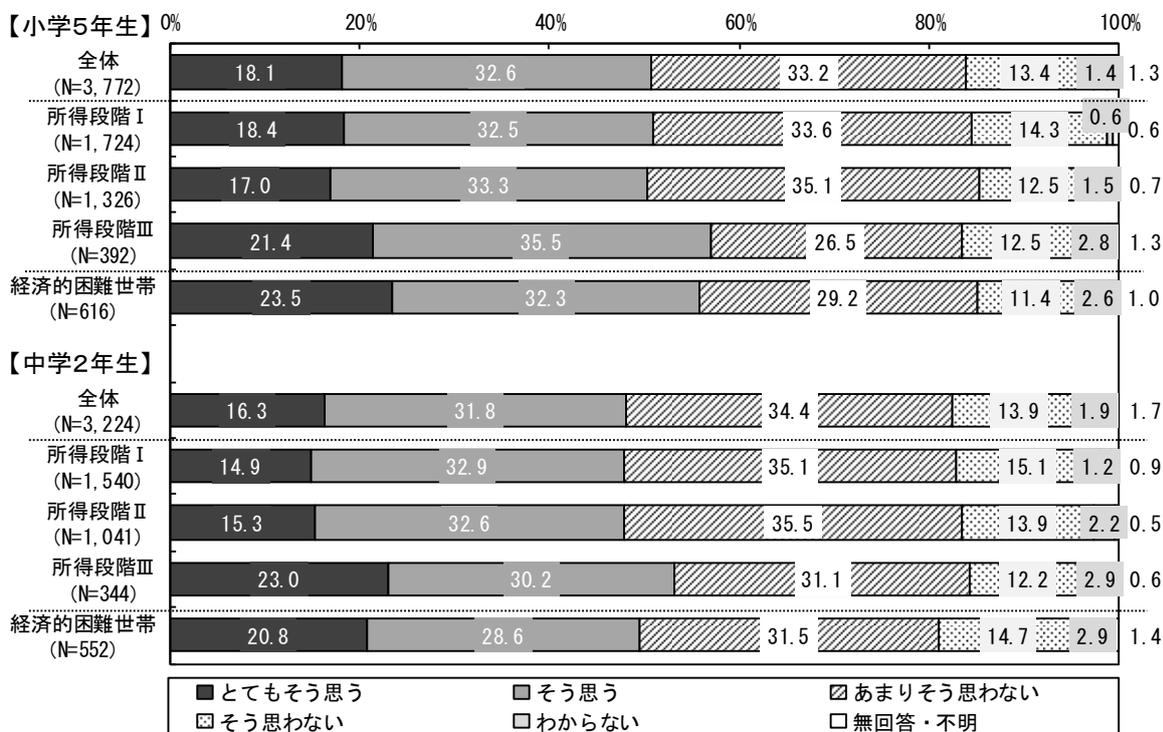
「悪いことをするとしかられた」については、約9割が肯定的な回答をしており、所得段階による差はあまりありません。

C 悪いことをするとしかられた



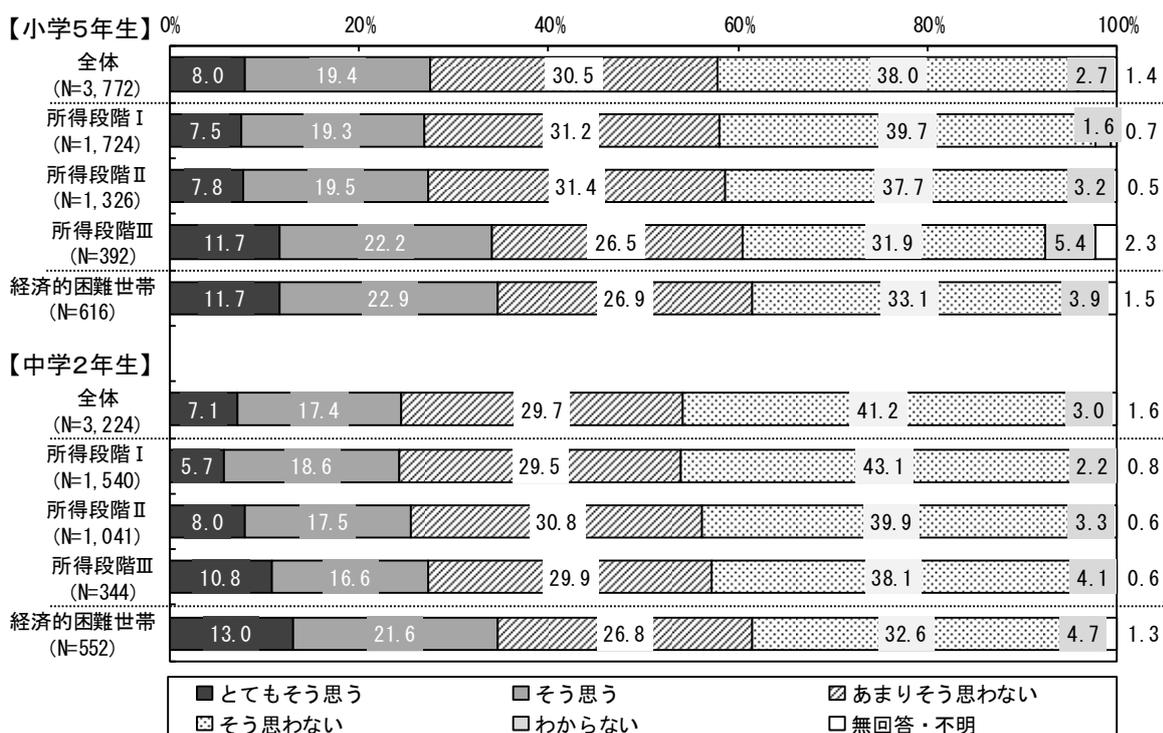
「やらなければいけないことを何度も言われた」については、いずれの学年も所得段階Ⅲで肯定的な回答がやや多くなっています。

D やらなければいけないことを何度も言われた



「不安や苛立ちを、ぶつけられた」については、小学5年生の所得段階Ⅲ、経済的困難世帯、中学2年生の経済的困難世帯で、肯定的な回答がやや多くなっています。

E 不安や苛立ちを、ぶつけられた

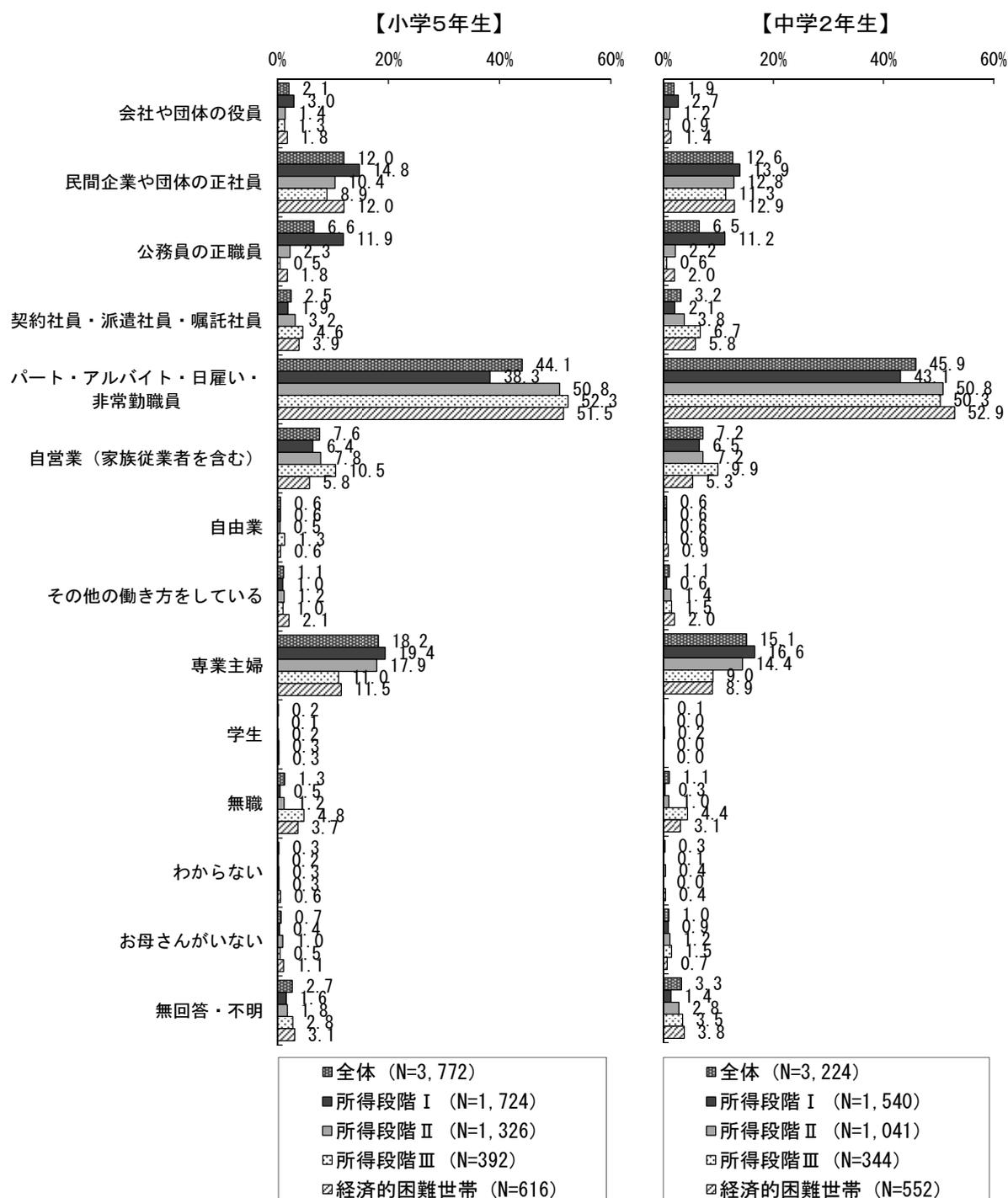


6. 保護者の仕事と学歴について

(1) 母親の就労状況

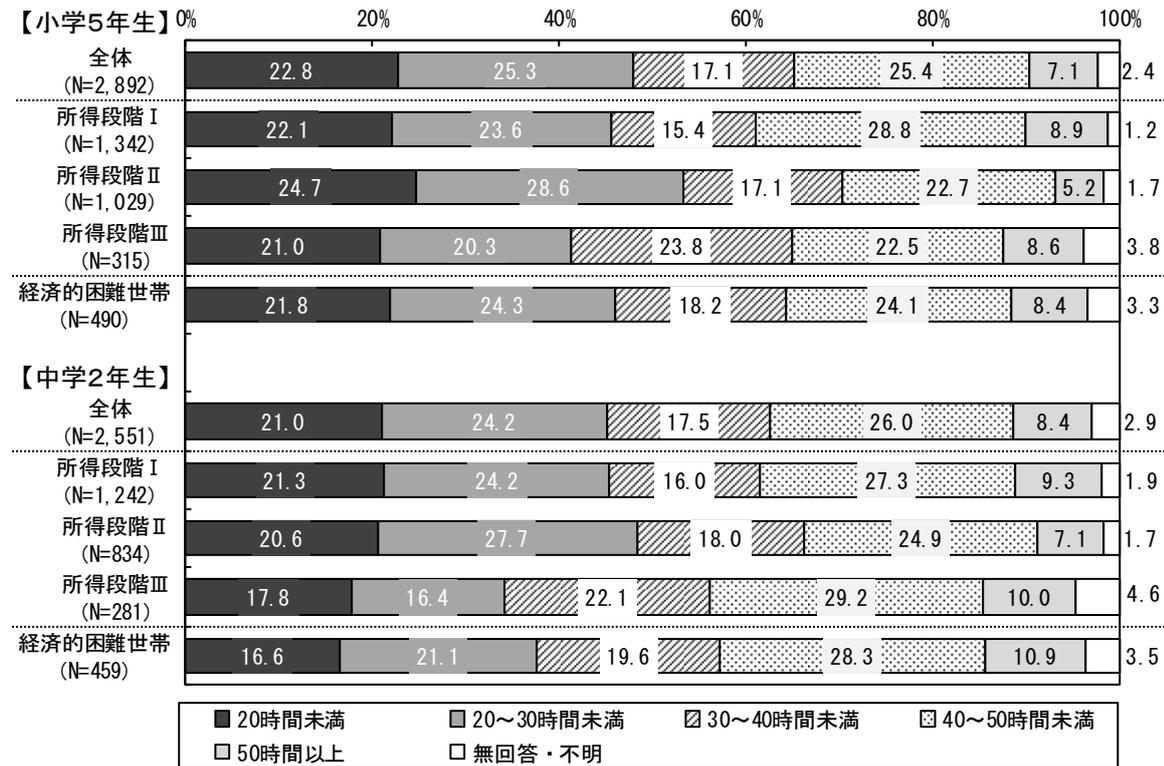
母親の働き方については、所得段階Ⅰでは正社員、正職員が比較的多いのに対し、所得段階Ⅲでは非正規や自営業が多くなっています。専業主婦については所得段階が低いほど少なくなっています。

問 36 お子さんのお母さんの現在のお仕事は、次のどれに最も近いですか。



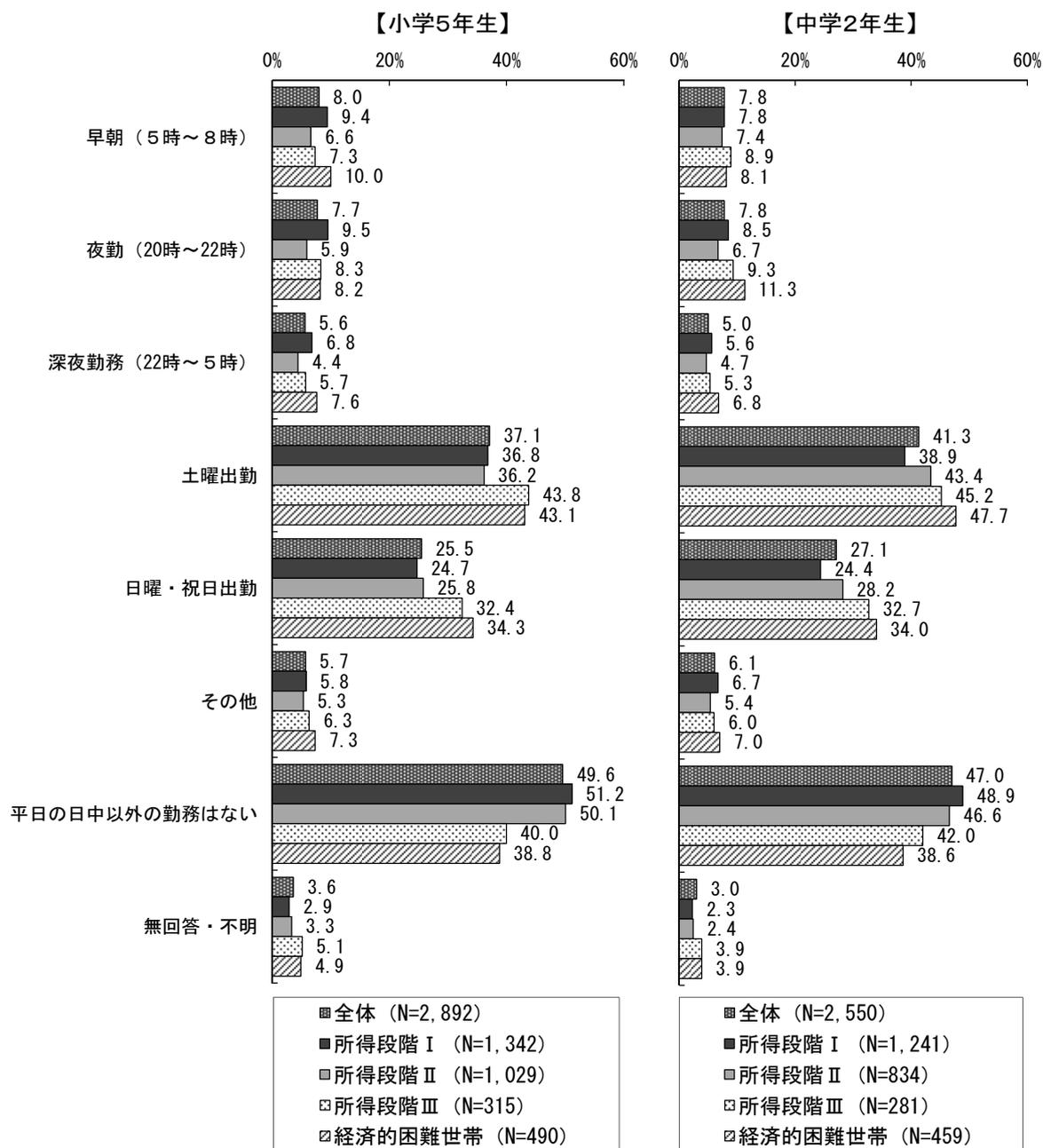
母親の1週間の平均就労時間をみると、いずれの学年も所得段階Ⅲで30時間以上の回答が多くなっています。40時間以上の回答は、小学5年生では所得段階Ⅰ、中学2年生では所得段階Ⅲと経済的困難世帯で多くなっています。

問 36-1 (母親が働いている人のみ) お子さんのお母さんは、1週間に平均何時間、お仕事をされていますか。(複数のお仕事に従事しておられる場合は合算してください。)



母親の、平日の日中以外の勤務については、所得段階が低いほど、土曜出勤、日曜・祝日出勤が多くなっています。

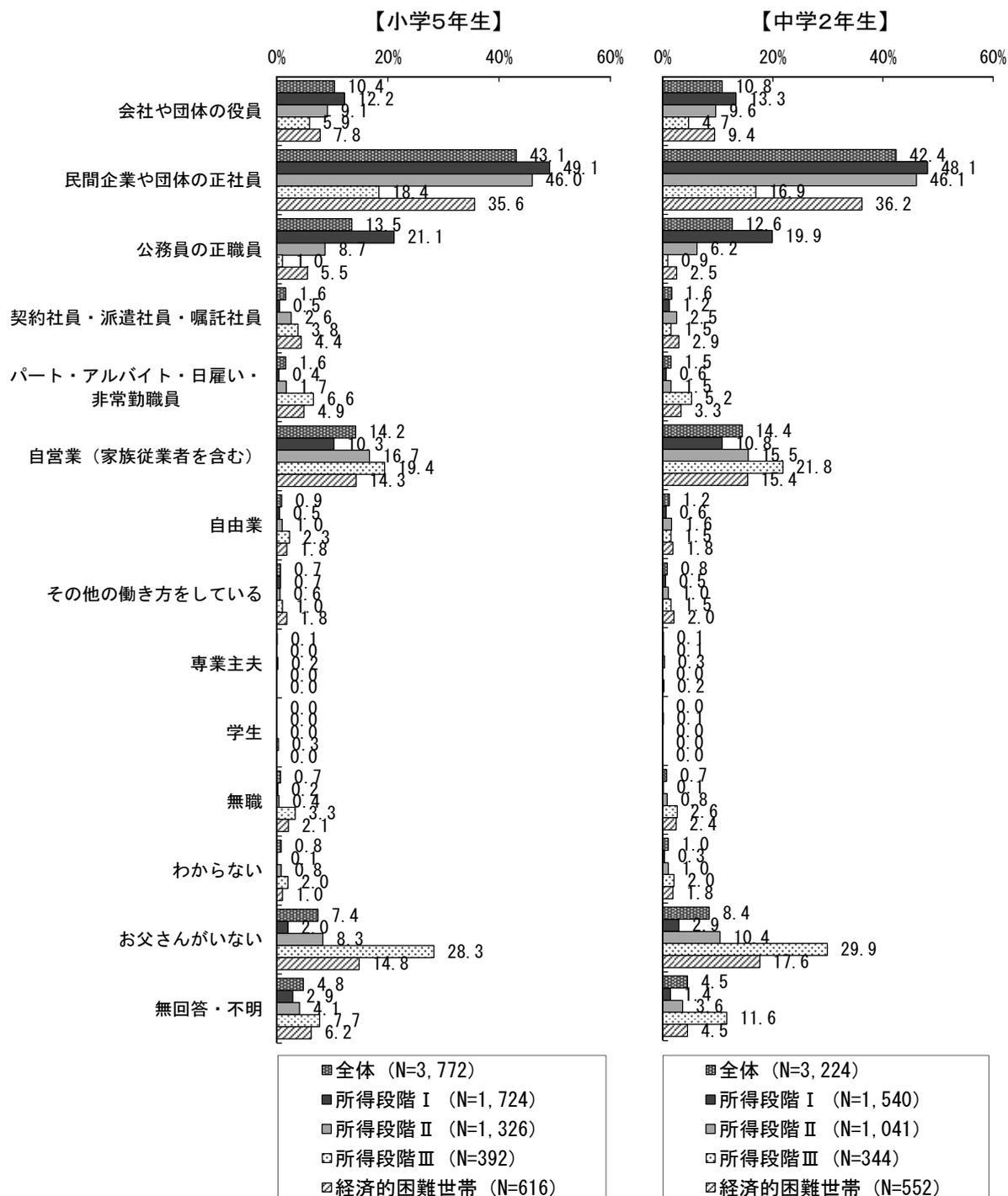
問 36-2 (母親が働いている人のみ) お母さんは、残業を含めて、平日の日中(8時~20時)以外の勤務がありますか。



(2) 父親の就労状況

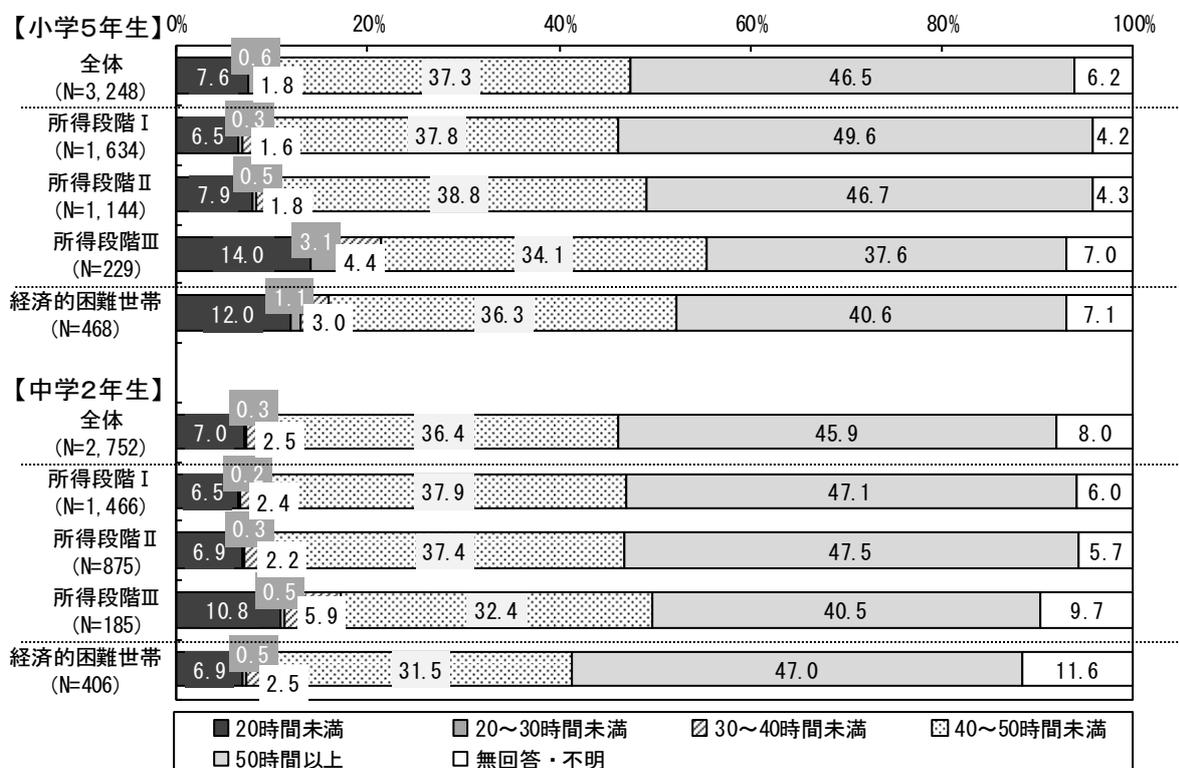
父親の就労状況については、所得段階Ⅲで「父親がいない」が多いことを勘案しても、所得段階が低いほど役員、正社員、正職員が少なく、非正規や自営業が多くなっています。

問 37 お子さんのお父さんの現在のお仕事は、次のどれに最も近いですか。



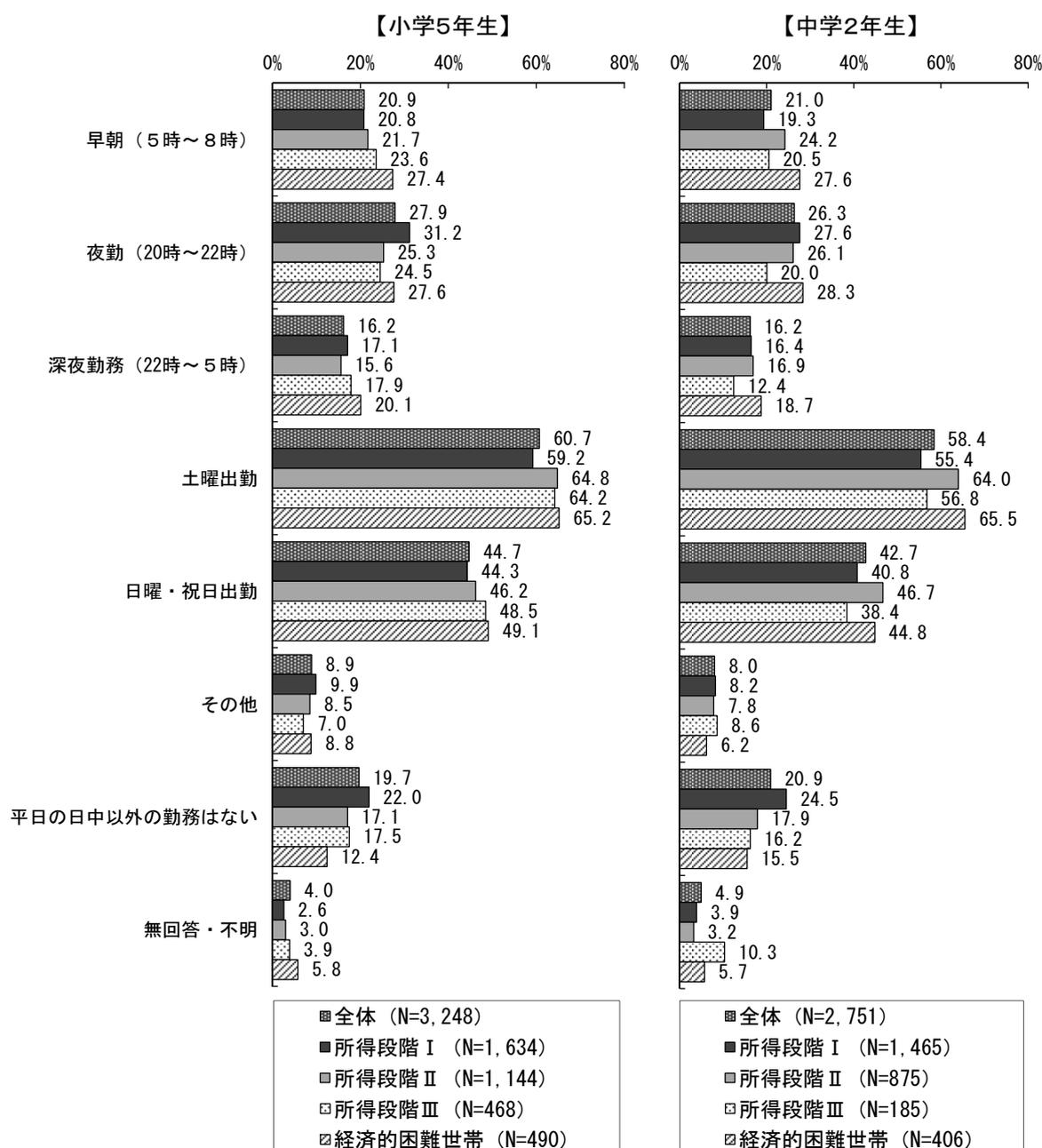
父親の1週間の平均就労時間をみると、いずれの学年も所得段階Ⅲで「20時間未満」がやや多く、40時間以上の回答がやや少なくなっています。

問 37-1 (父親が働いている人のみ) お子さんのお父さんは、1週間に平均何時間、お仕事をされていますか。(複数のお仕事に従事しておられる場合は合算してください。)



平日の日中以外の勤務については、全体では土曜出勤が約6割で最も多く、次いで日曜・祝日出勤が4割台となっています。所得段階による差はあまりありませんが、「平日の日中以外の勤務はない」はいずれの学年も所得段階Ⅰでやや多くなっています。

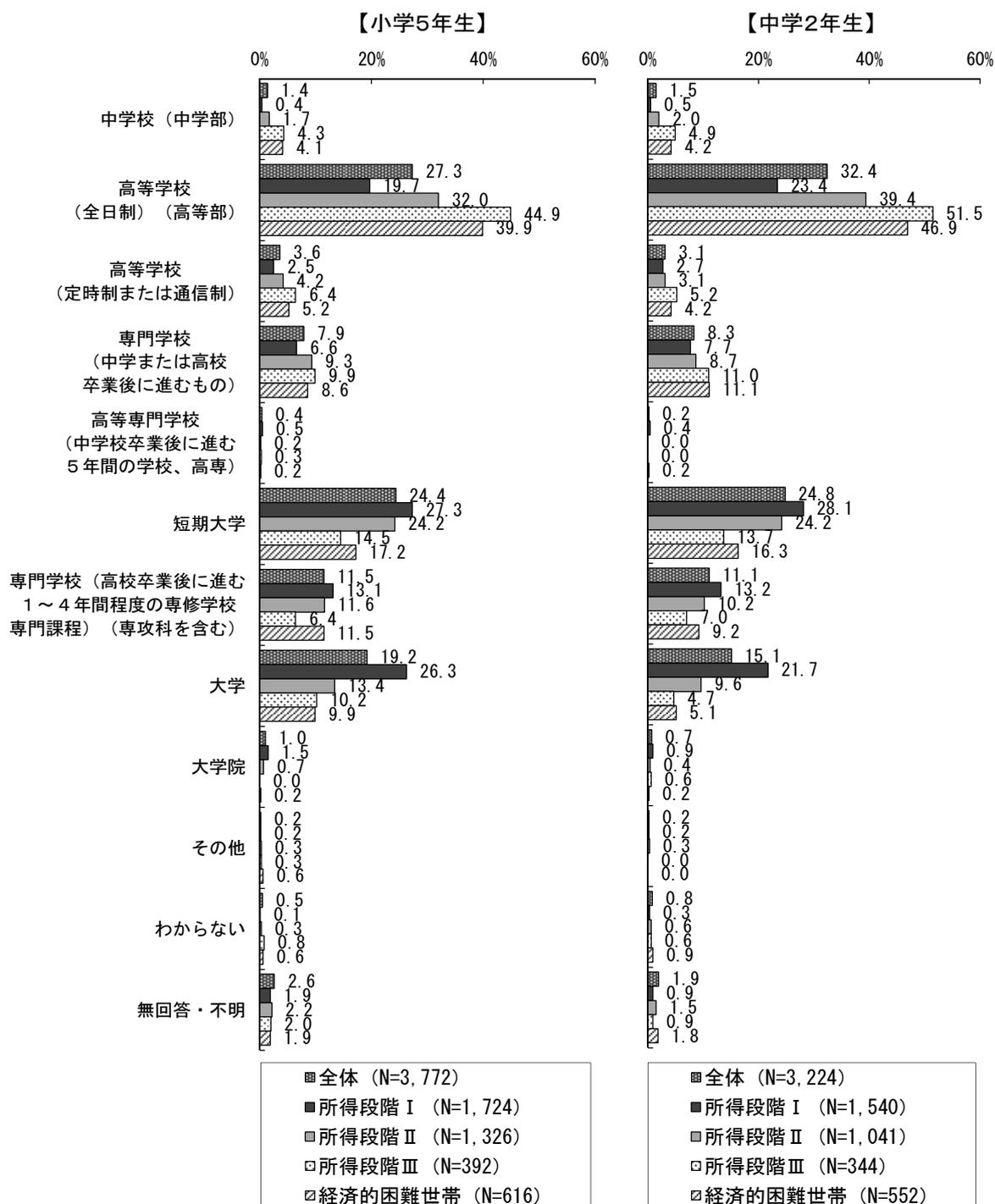
問 37-2 (父親が働いている人のみ) お父さんは、残業を含めて、平日の日中(8時~20時)以外の勤務がありますか。



(3) 母親の学歴

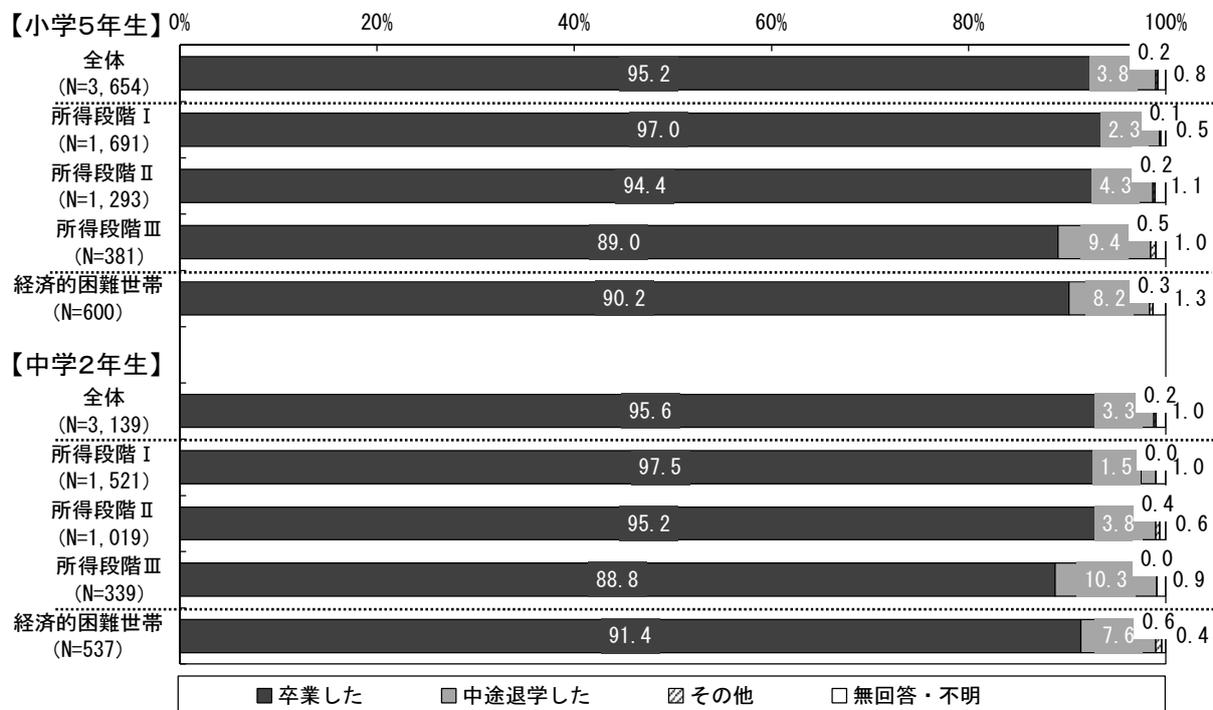
母親が最後に通った学校については、所得段階が低いほど「高等学校」が多く、「短期大学」「大学」が少なくなっています。

問 38 お子さんのお母さんが、最後に通われた学校は次のどれにあてはまりますか。



母親が最後に通った学校を卒業したかどうかについては、いずれの学年も所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で「中途退学した」がやや多くなっています。

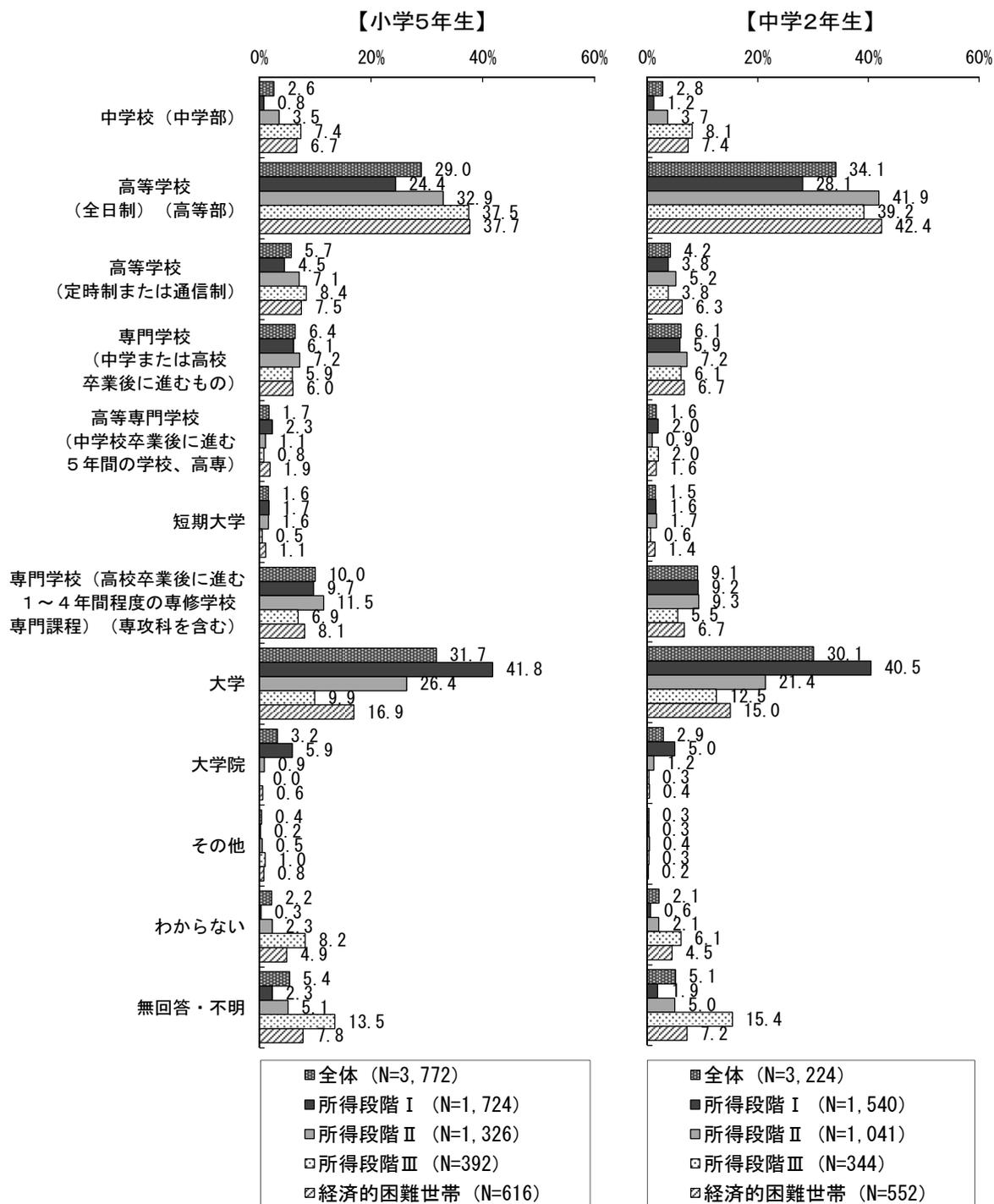
問 38-1 (母親が最後に通った学校について「わからない」以外を答えた人のみ) お子さんのお母さんは、前問で答えた学校を卒業されましたか。



(4) 父親の学歴

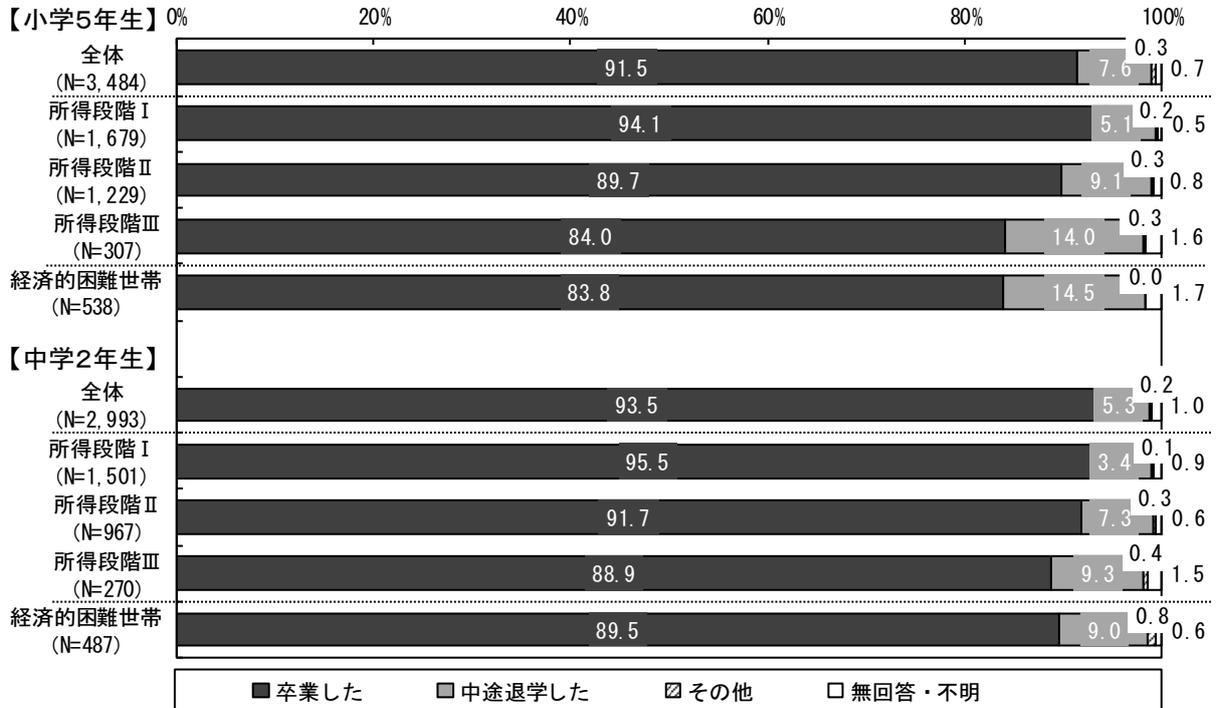
父親が最後に通った学校については、所得段階が低いほど「高等学校」が多く、「大学」が少なくなっています。

問 39 お子さんのお父さんが、最後に通われた学校は次のどれにあてはまりますか。



父親が最後に通った学校を卒業したかどうかについては、いずれの学年も所得段階が低いほど「中途退学した」がやや多くなっています。

問 39-1 (父親が最後に通った学校について「わからない」以外を答えた人のみ) お子さんのお父さんは、前問で答えた学校を卒業されましたか。



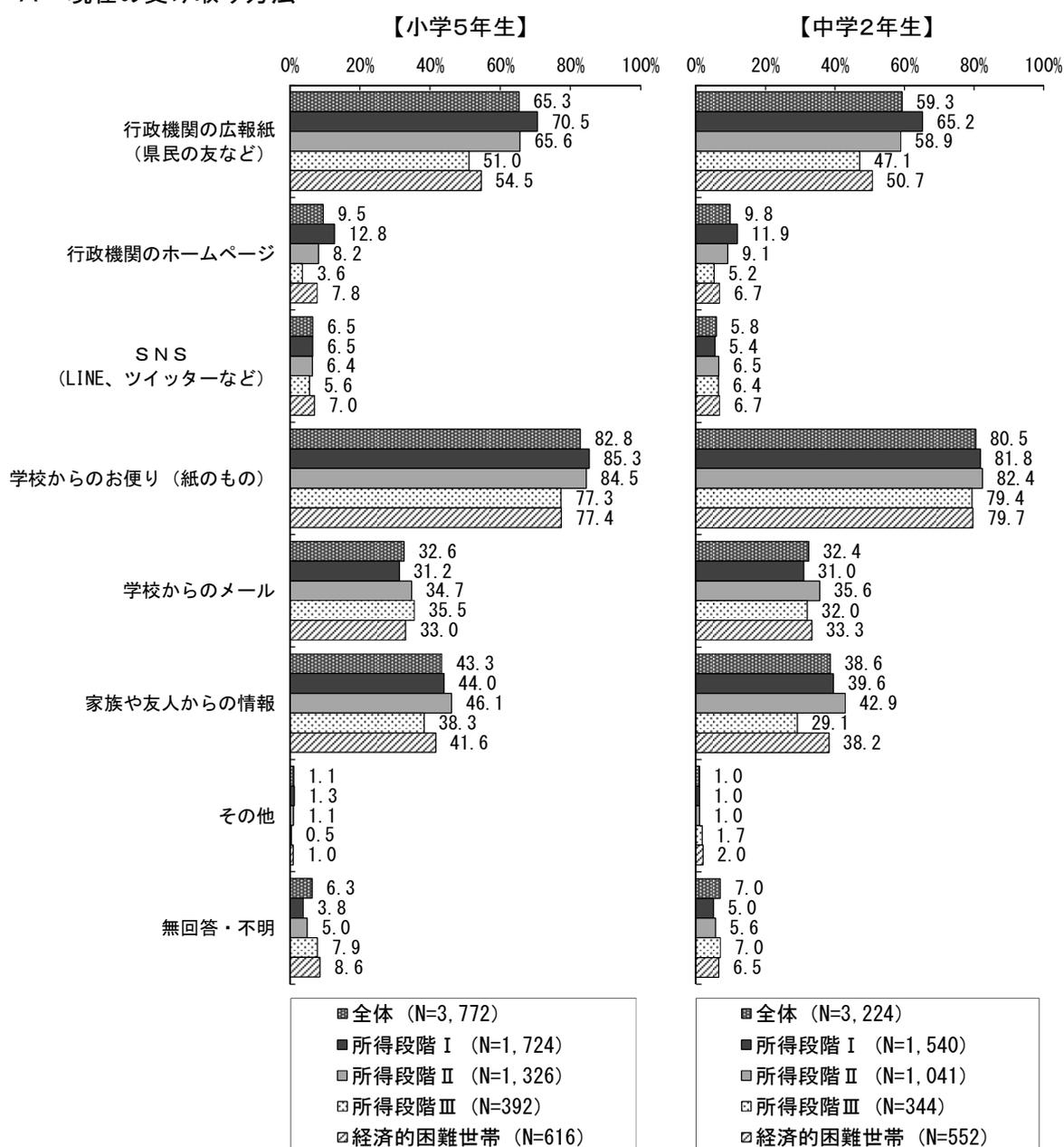
7. 子育て等の支援について

(1) 施策等の情報を受け取っている方法と今後受け取りたい方法

子育てに関する施策等の情報を現在受け取っている方法については、全体では「学校からのお便り」が最も多く、次いで「行政機関の広報紙」が多くなっています。「行政機関の広報誌」「行政機関のホームページ」については、所得段階が低いほど回答が少なく、「学校からのお便り」についても、小学5年生の所得段階Ⅲ、経済的困難世帯でやや回答が少なくなっています。「家族や友人からの情報」も所得段階Ⅲではやや少なくなっています。

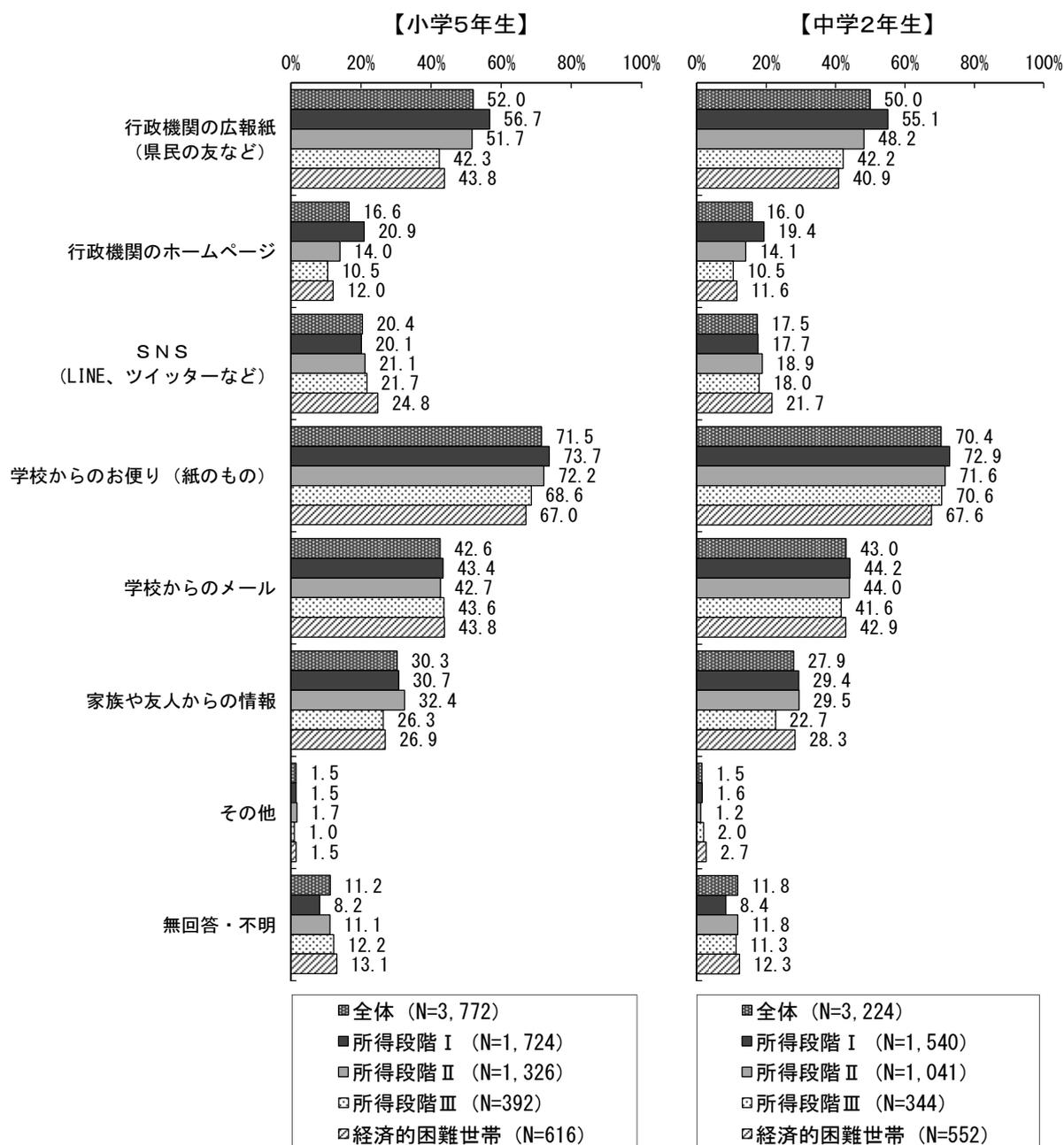
問40 あなたは、子供に関する施策等の情報をどのような方法で受け取っていますか。また、今後、どのような方法で受け取りたいですか。【複数回答】

A 現在の受け取り方法



今後受け取りたい方法については、現在受け取っている方法と大きな差はありません。「行政機関の広報誌」「行政機関のホームページ」は、所得段階が低いほど回答が少なくなっています。

B 今後、受け取りたい方法

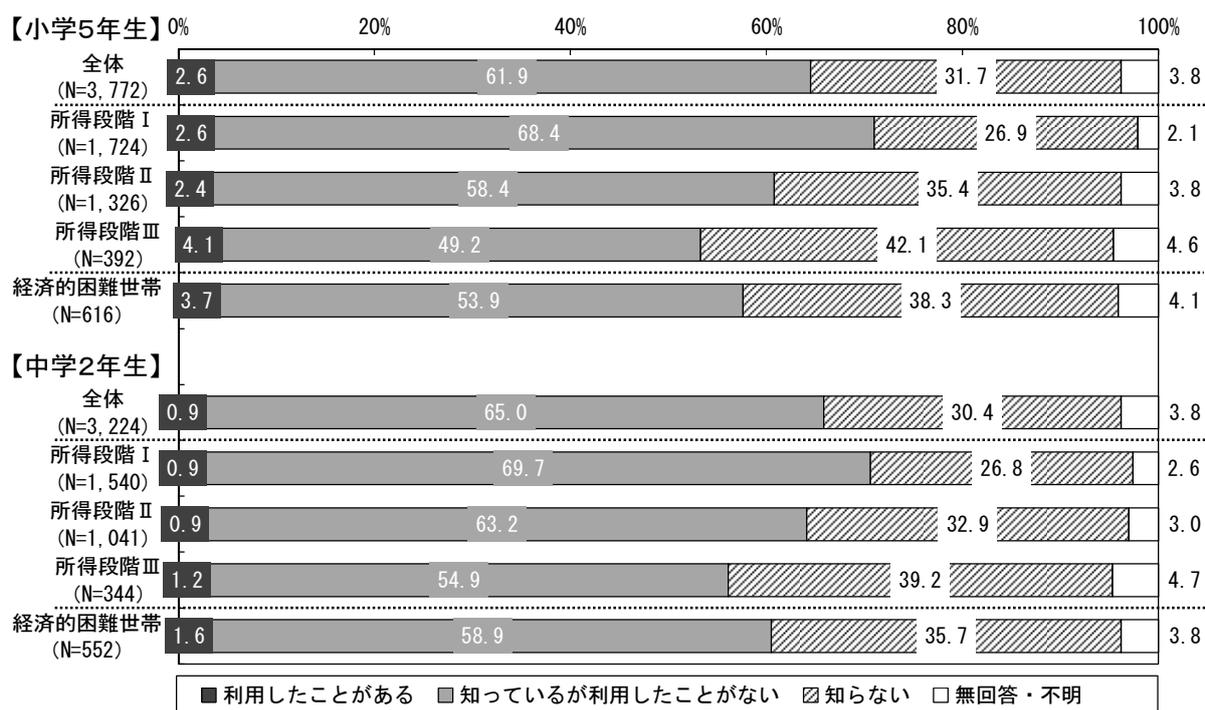


(2) 支援制度等の利用経験・認知度

「子供食堂」について、「利用したことがある」という回答は、全体的に少なくなっています。いずれの学年も所得段階が低いほど「知っているが利用したことがない」が少なく、「知らない」が多くなっています。

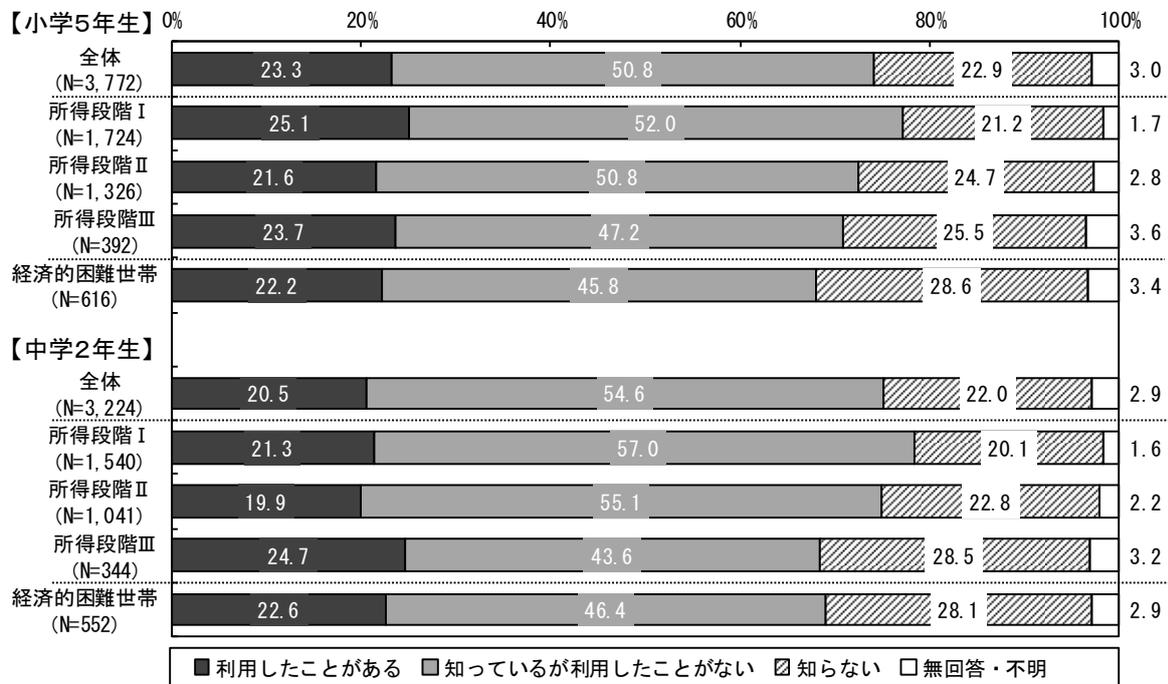
問 41 次の支援制度等をこれまでに利用したことがありますか。またはそれらの支援制度を知っていますか。

A 子供食堂



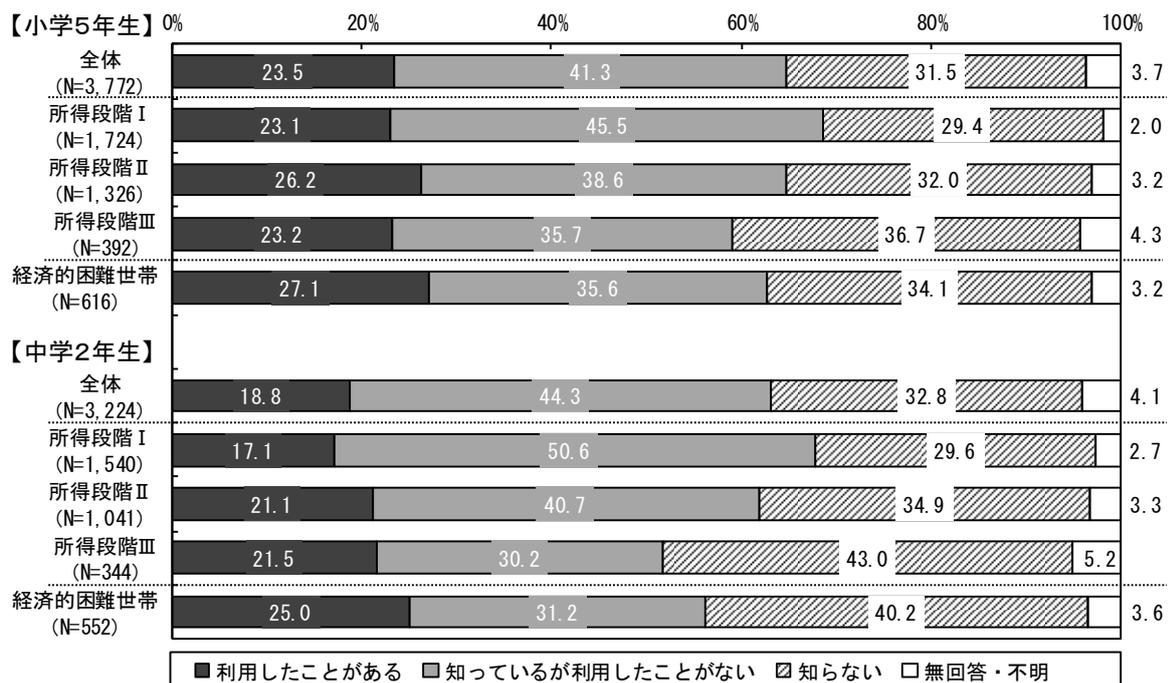
「放課後児童クラブ」について、「利用したことがある」という回答は所得段階による差があまりありません。いずれの学年も、所得段階が低いほど「知っているが利用したことがない」がやや少なく、「知らない」がやや多くなっています。

B 放課後児童クラブ



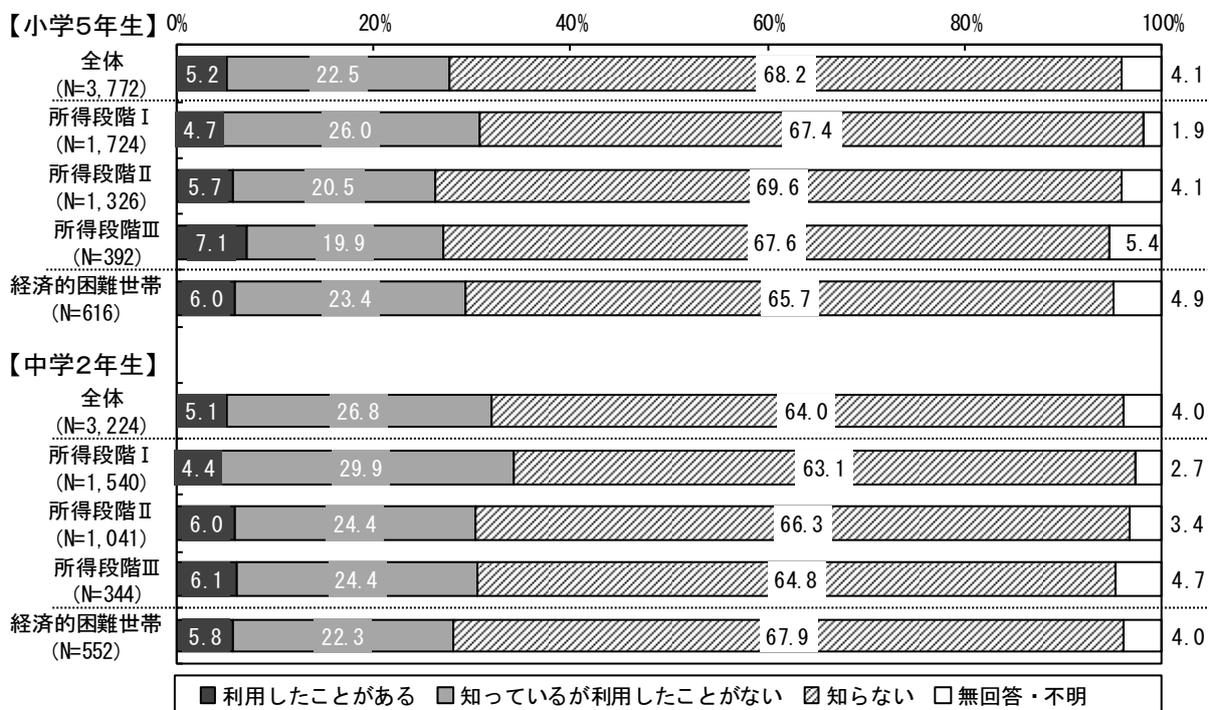
「学校実施の補充学習（学習支援）」については、「利用したことがある」はいずれの学年も所得段階Ⅰが最も少なくなっています。所得段階が低いほど「知っているが利用したことがない」が少なく、「知らない」が多くなっています。

C 学校実施の補充学習（学習支援）



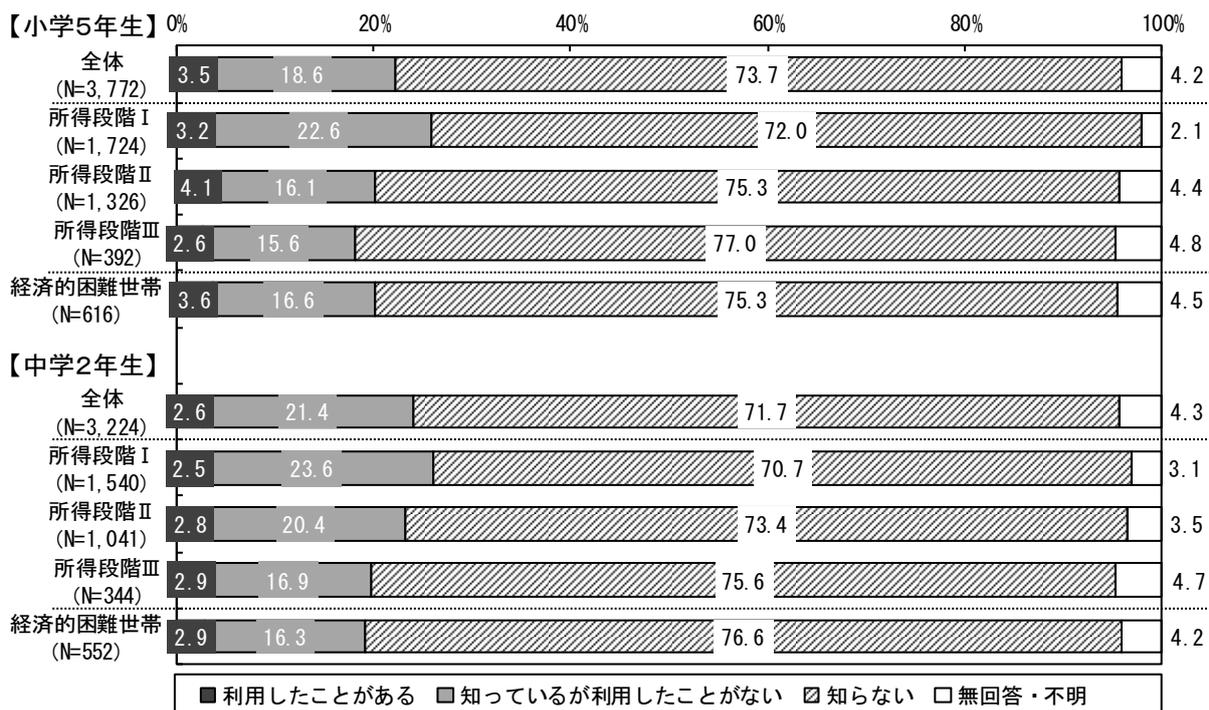
「子ども会での学習支援」については、「利用したことがある」は全体で約5%となっており、「知らない」が6割台となっています。「利用したことがある」「知っているが利用したことがない」「知っているが利用したことがない」のいずれも、所得段階による差はあまり見られません。

D 子ども会での学習支援



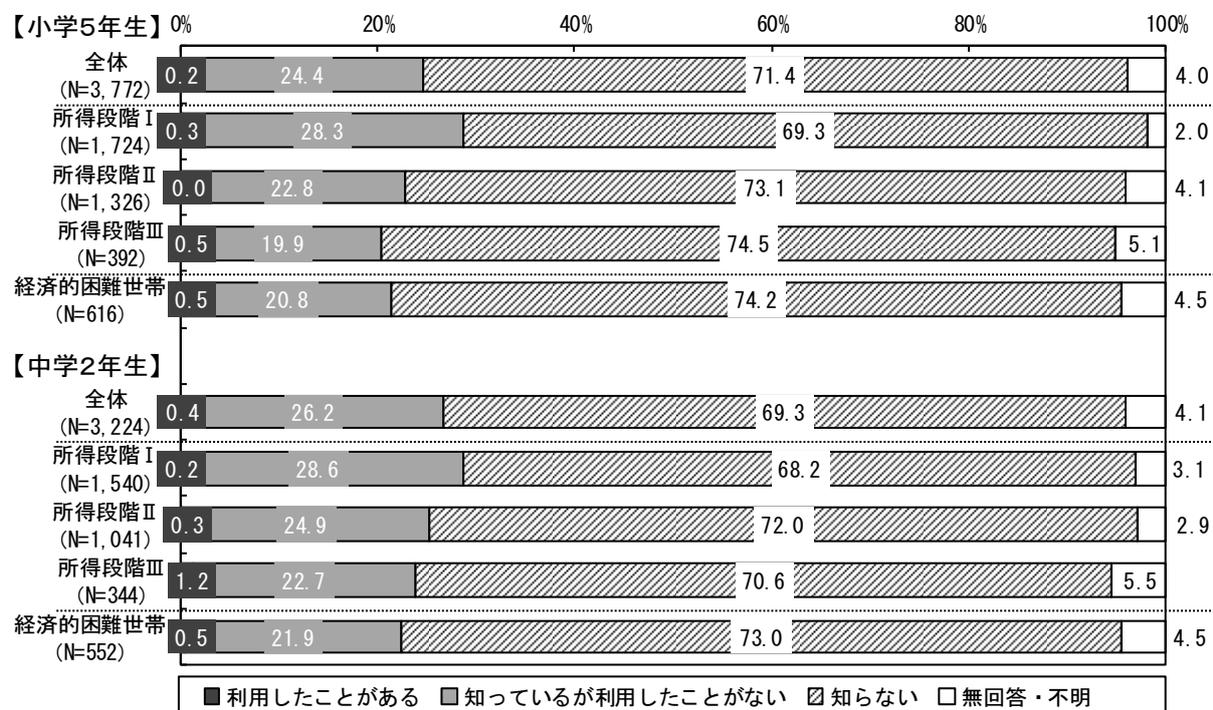
「その他の学習支援」についても、「利用したことがある」が少なく、所得段階による差はあまり見られません。

E C、D以外が実施する学習支援



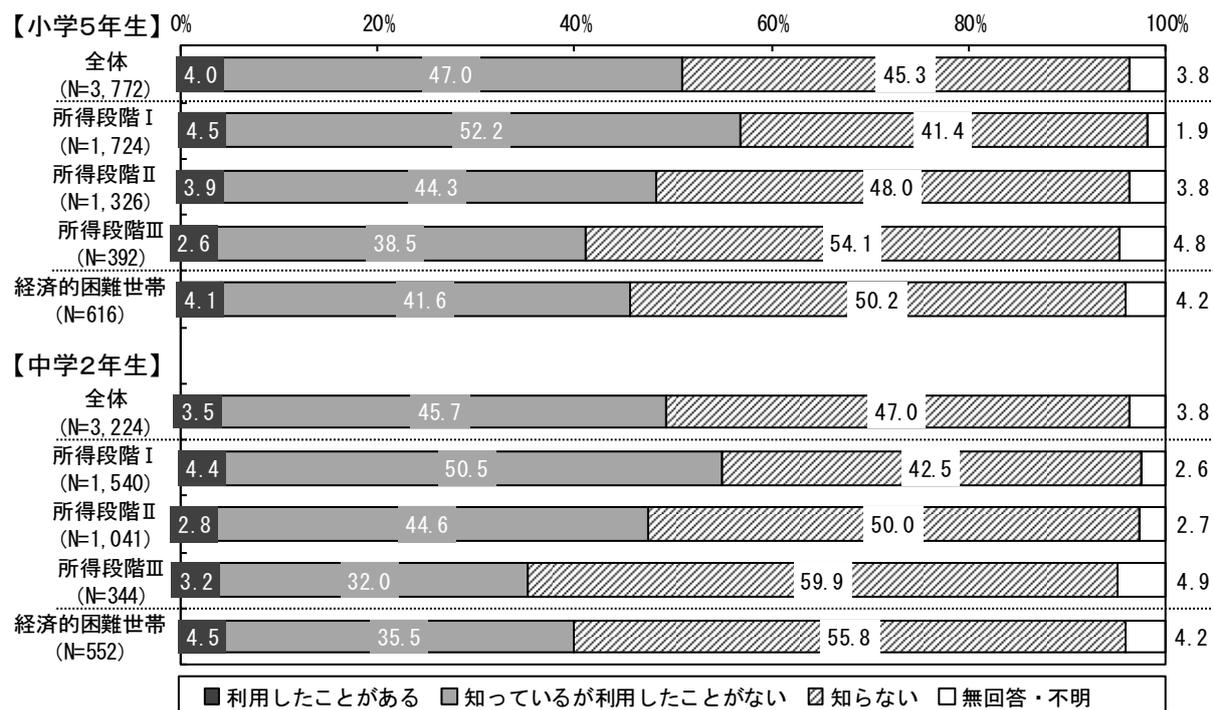
「子育て短期支援事業（ショートステイ）」については、利用したことがあるのは全体のごくわずかです。「知っているが利用したことがない」は所得段階が低いほど、やや少なくなっています。

F 子育て短期支援事業（ショートステイ）



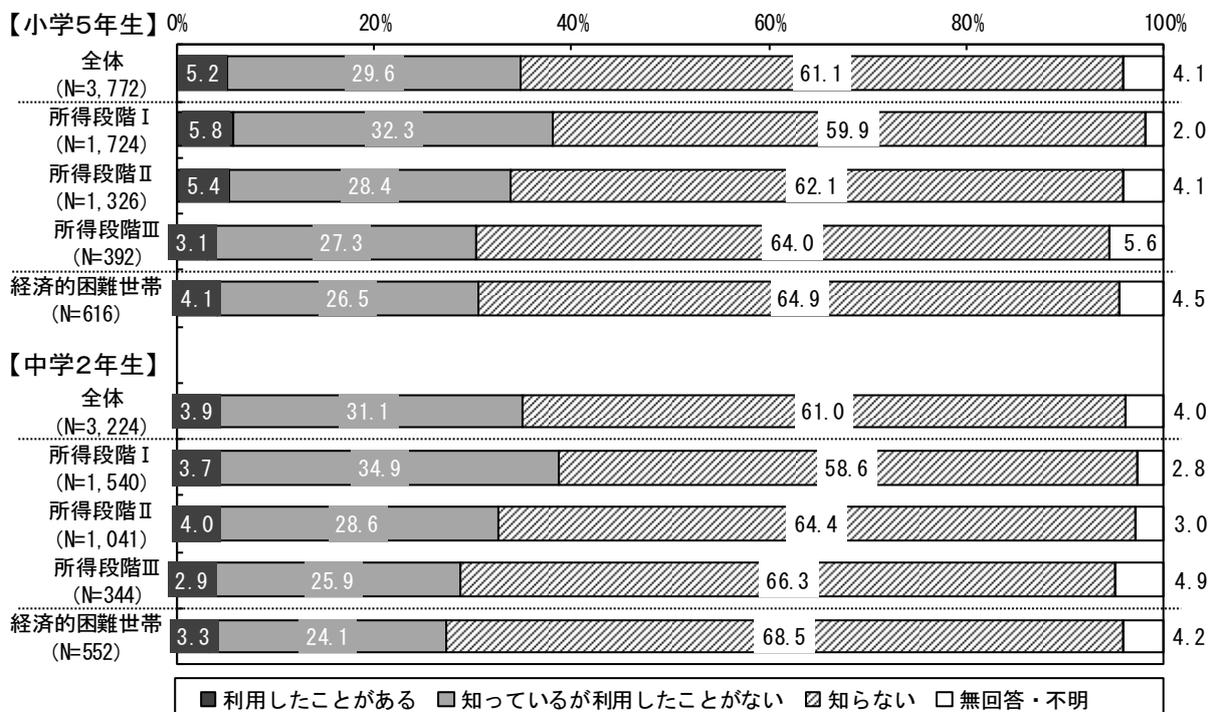
「ファミリー・サポート・センター」については、いずれの学年も所得段階Ⅰと経済的困難世帯で、「利用したことがある」がやや多くなっています。所得段階が低いほど「知っているが利用したことがない」が少なく、「知らない」が多くなっています。

G ファミリー・サポート・センター



「子育て世代包括支援センター」については、いずれの学年も所得段階Ⅲで、「利用したことがある」がやや少なくなっています。所得段階が低いほど「知っているが利用したことがない」がやや少なく、「知らない」がやや多くなっています。

I 子育て世代包括支援センター

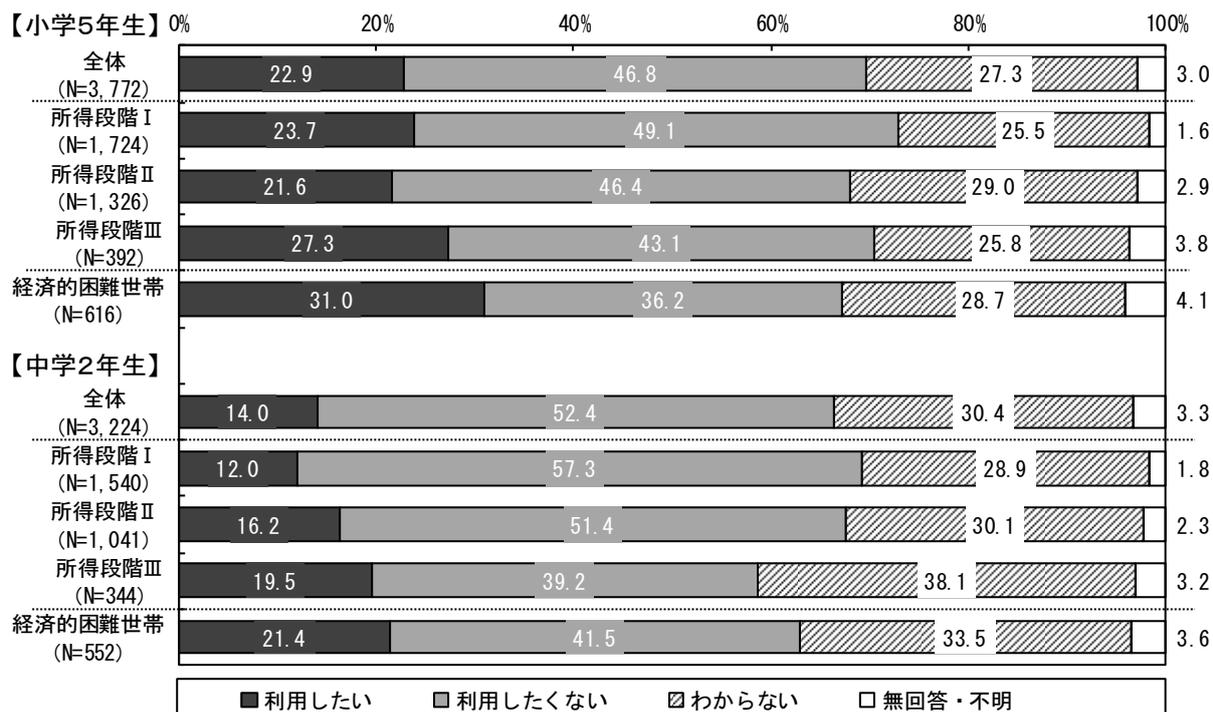


(3) 子供に対する支援の利用希望

子供に対する支援の利用希望について、「子供が（家以外で）平日の放課後に夜までいることができる場所」については、中学2年生で所得段階が低いほど「利用したい」がやや多くなっています。また、いずれの学年も経済的困難世帯で「利用したい」が最も多くなっています。

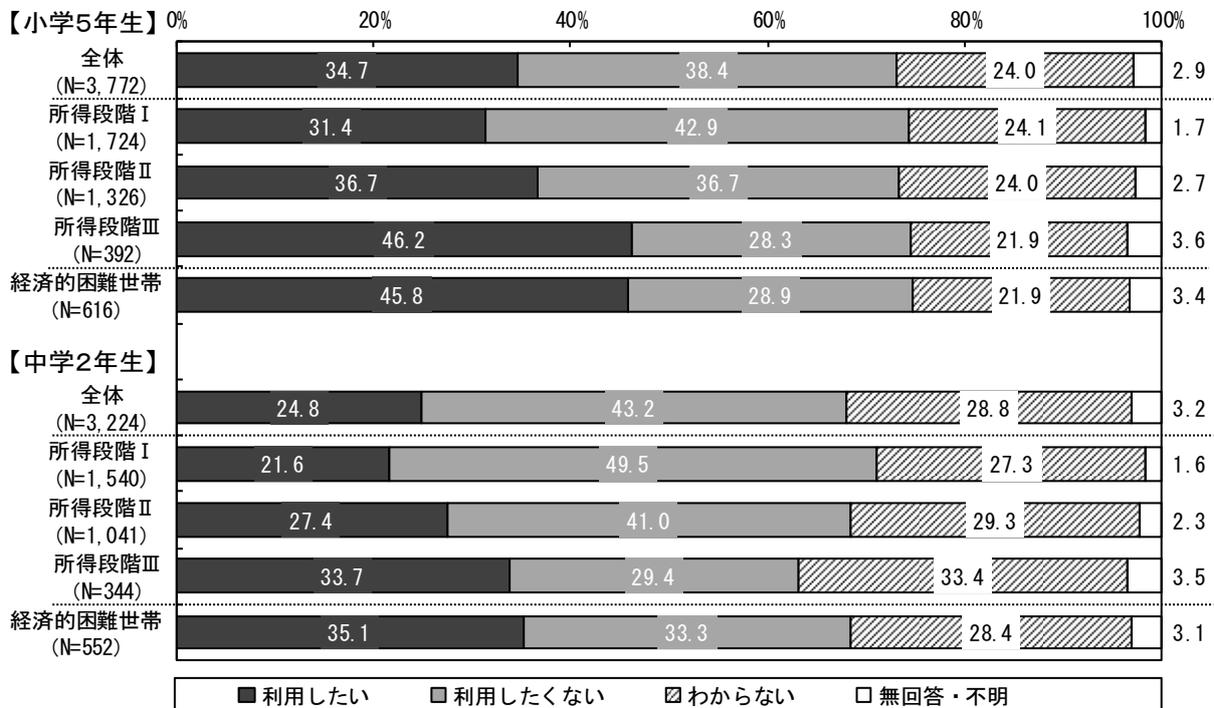
問 42 あなたは、次のような場所があれば利用したいと思いますか。

A お子さんが（家以外で）平日の放課後に夜までいることができる場所



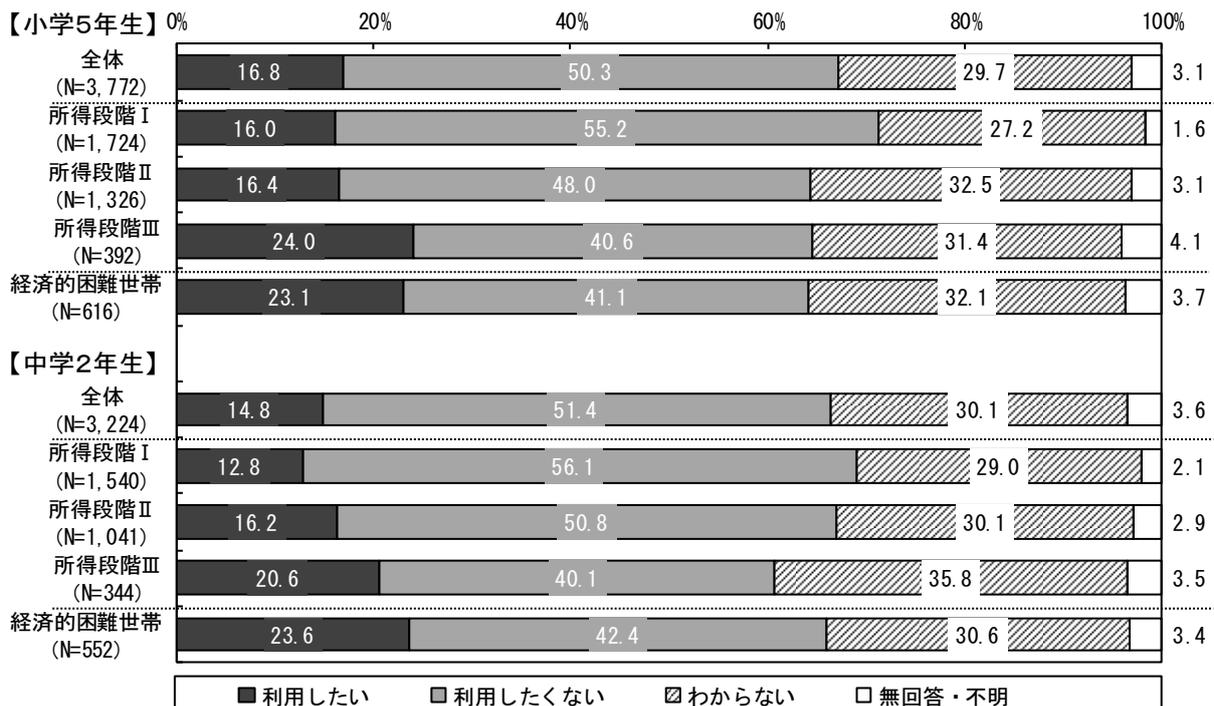
「子供が（家以外で）休日にいることができる場所」については、いずれの学年も所得段階が低いほど「利用したい」が多く、「利用したくない」が少なくなっています。

B お子さんが（家以外で）休日にいることができる場所



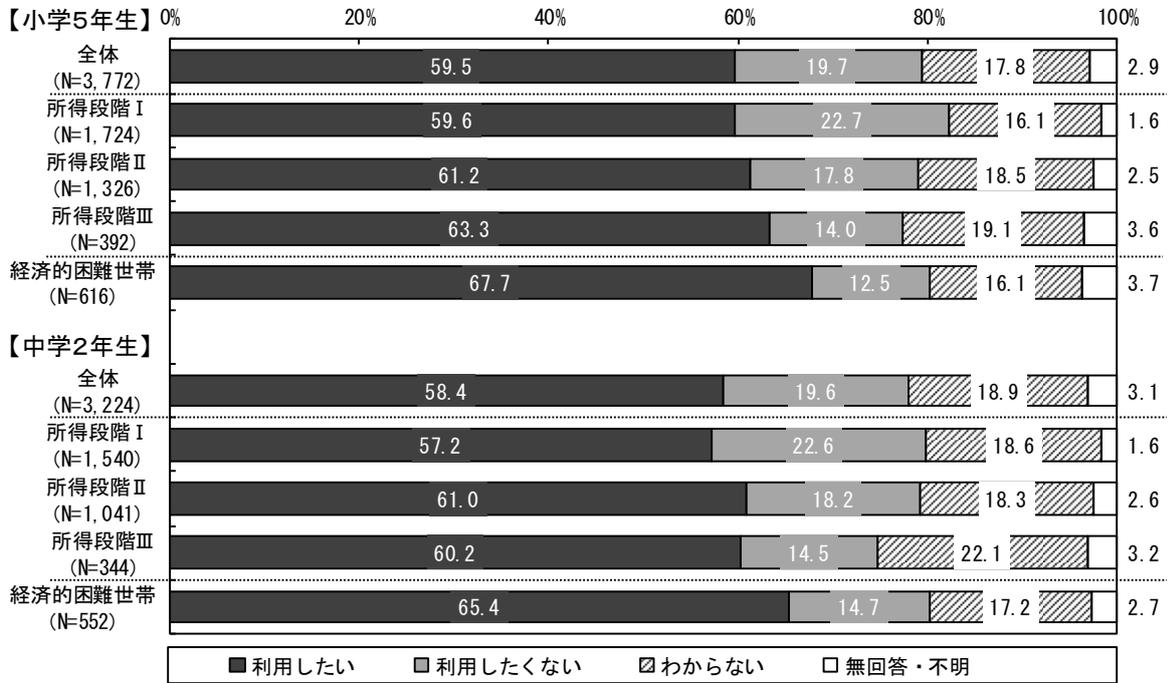
「子供が（家以外で）夕ごはんをみんなで食べることができる場所」については、所得段階が低いほど「利用したい」がやや多くなっています。

C お子さんが（家以外で）夕ごはんをみんなで食べることができる場所



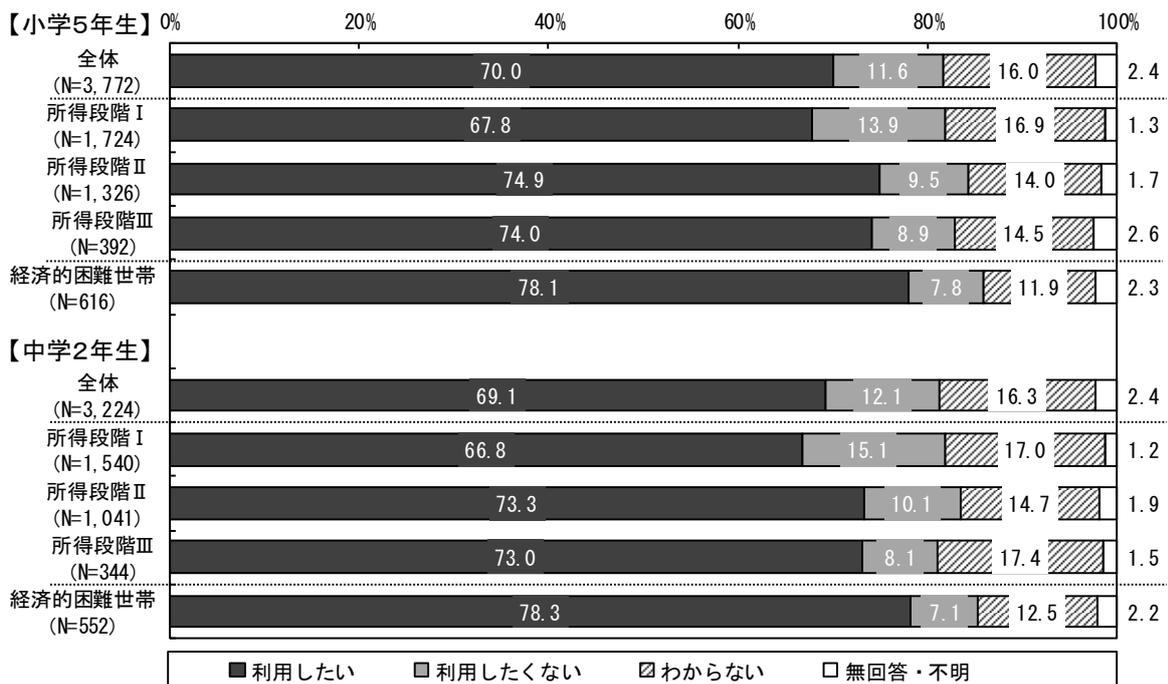
「子供が（家以外で）勉強ができる場所」については、小学5年生では所得段階が低いほど「利用したい」がやや多くなっています。いずれの学年も経済的困難世帯で「利用したい」が最も多くなっています。

D お子さんが（家以外で）勉強ができる場所



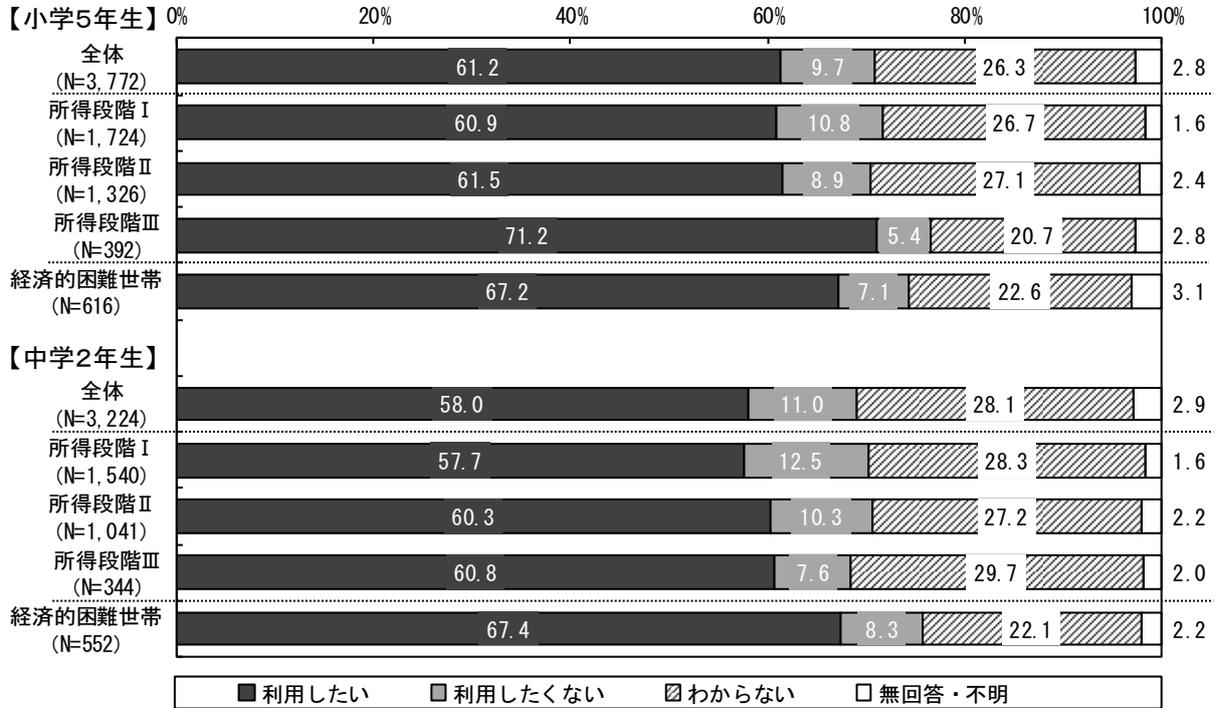
「子供に大学生、地域の人などが、勉強を無料で教えてくれる場所」については、いずれの学年も所得段階Ⅰで「利用したい」が最も少なく、経済的困難世帯で「利用したい」が最も多くなっています。

E お子さんに大学生、地域の人などが、勉強を無料で教えてくれる場所



「子供が（学校以外で）何でも相談できる場所」については、小学5年生の所得段階Ⅲ、経済的困難世帯、中学2年生の経済的困難世帯で、「利用したい」がやや多くなっています。

F お子さんが（学校以外で）何でも相談できる場所

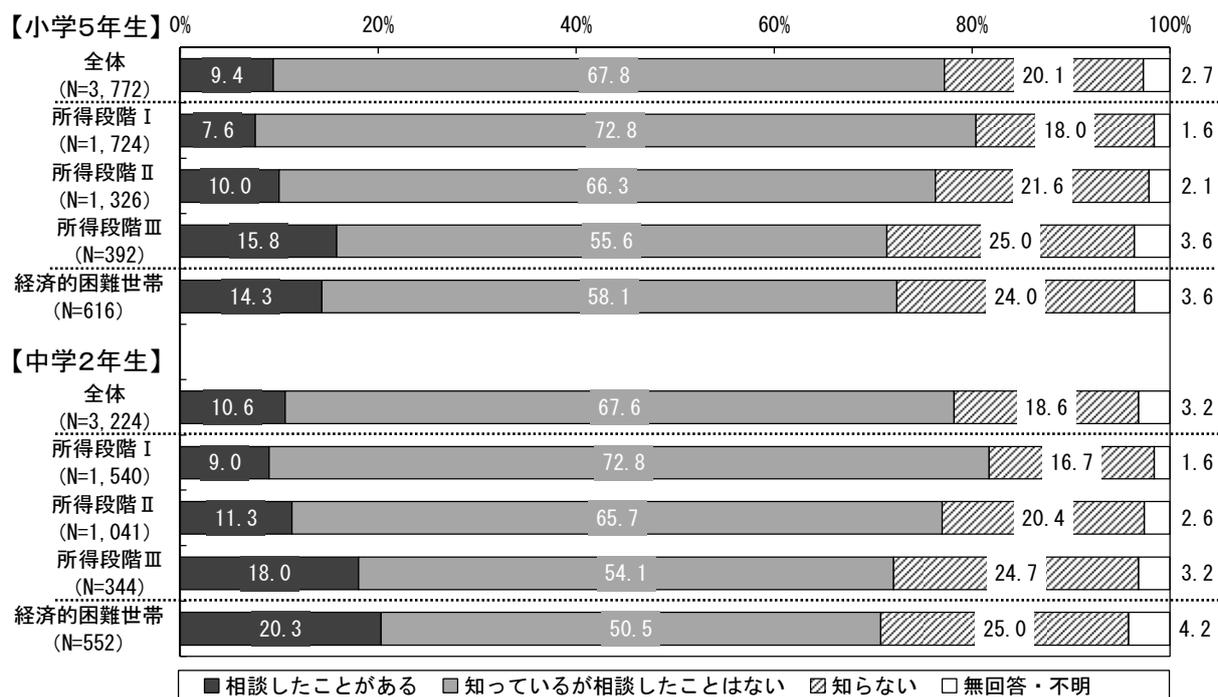


(4) 相談窓口等の利用経験・認知度

相談窓口について、「県・市町村の窓口」については、いずれの学年も所得段階が低いほど「相談したことがある」と「知らない」が多く、「知っているが相談したことはない」が少なくなっています。

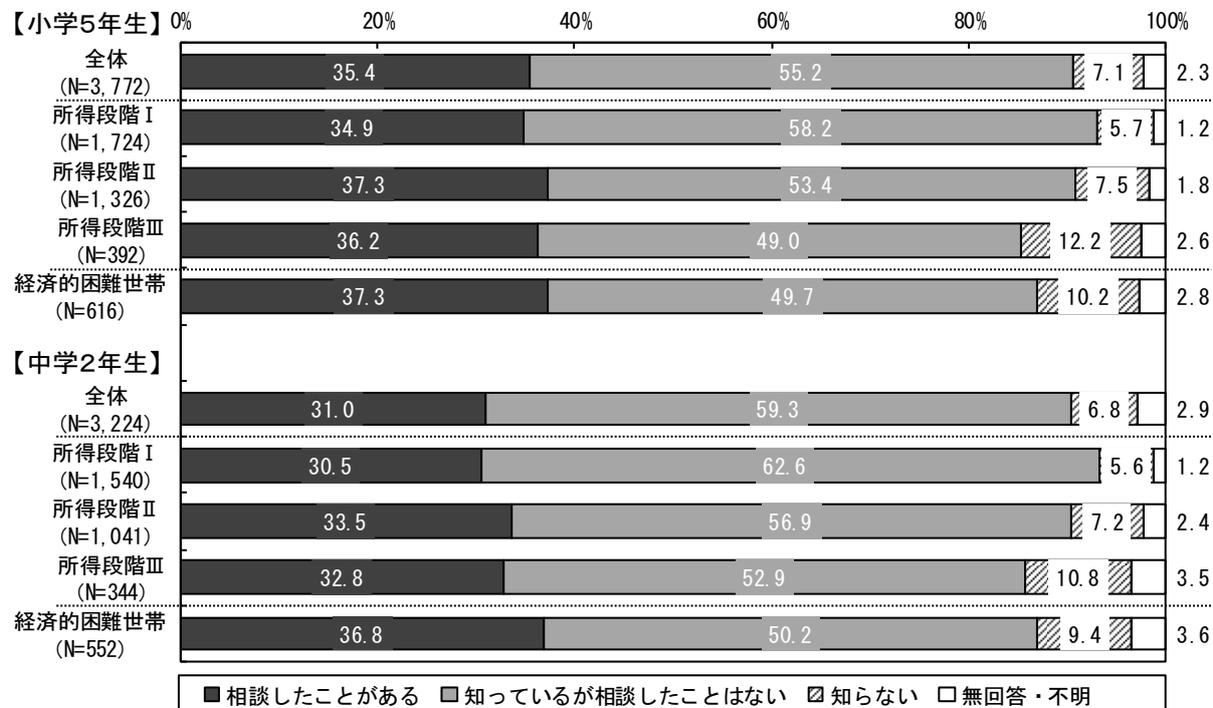
問 43 あなたは、これまでに困ったときに次のところに相談したことがありますか。またはそれらの相談窓口を知っていますか。

A 県・市町村の窓口



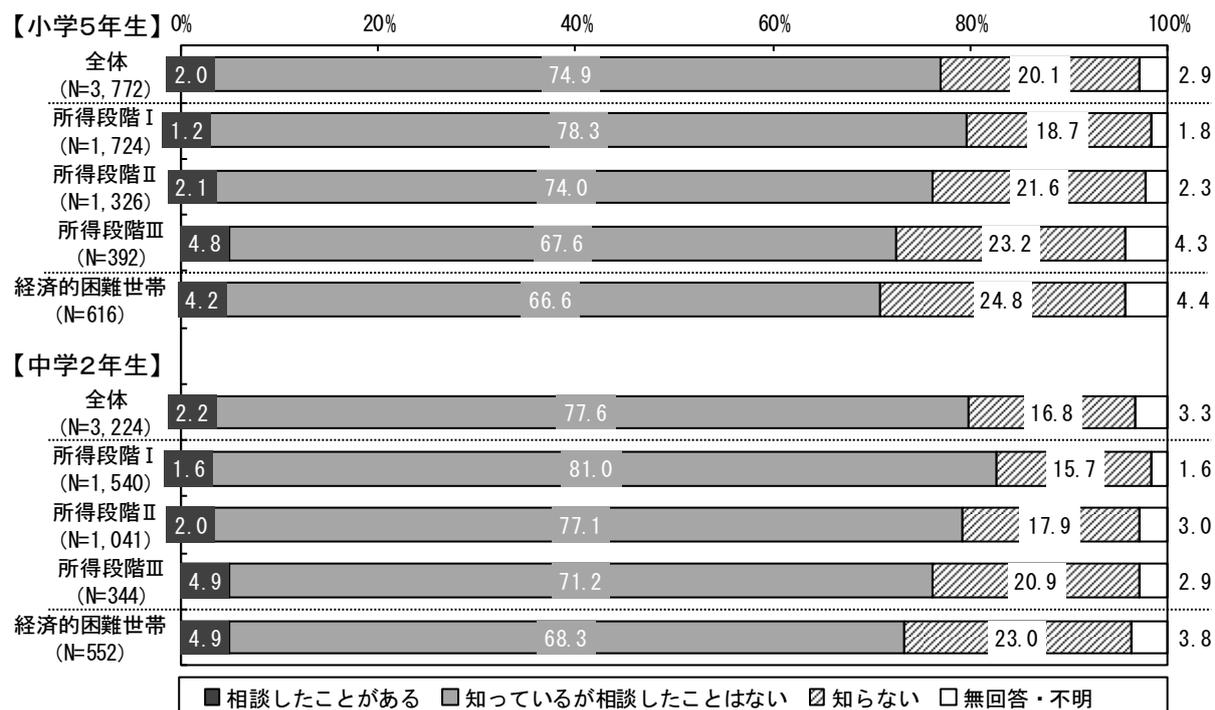
相談窓口について、「学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど」については、全体ではいずれの所得段階も3割台が「相談したことがある」と回答しています。また、いずれの学年も所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で「知らない」がやや多くなっています。

B 学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど



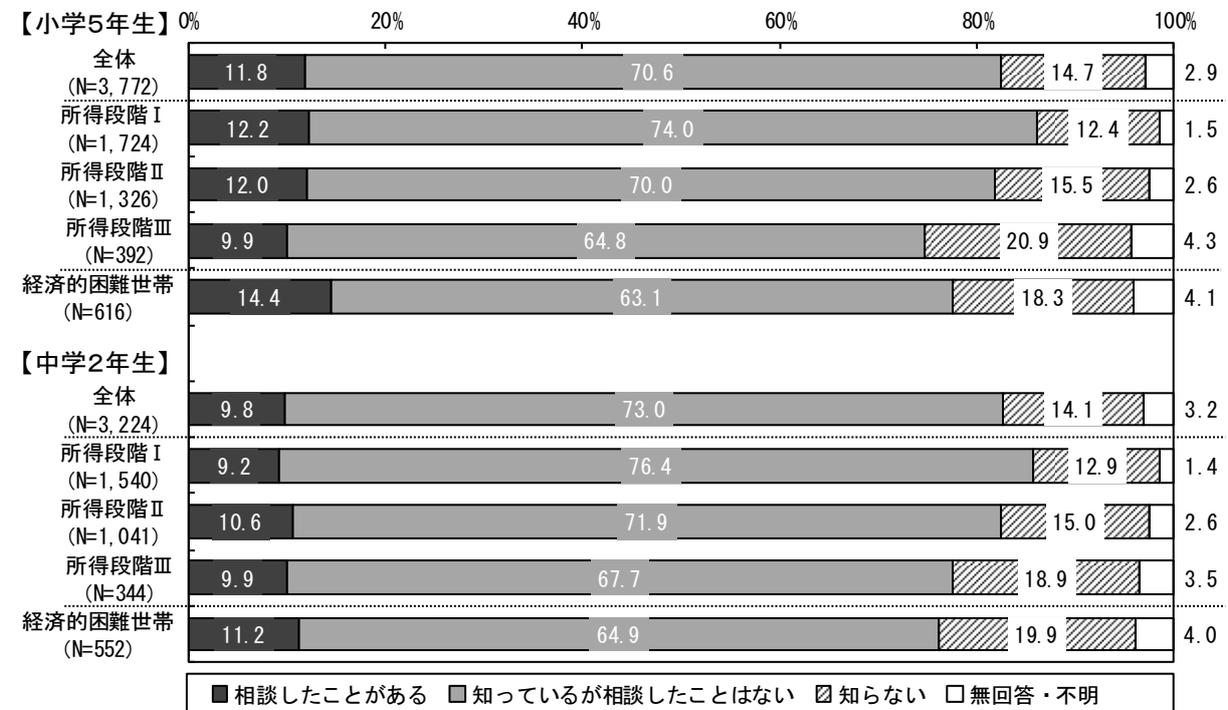
「民生委員・児童委員」への相談については、所得段階が低いほど、「相談したことがある」と「知らない」が多く、「知っているが相談したことはない」が少なくなっています。

C 民生委員・児童委員



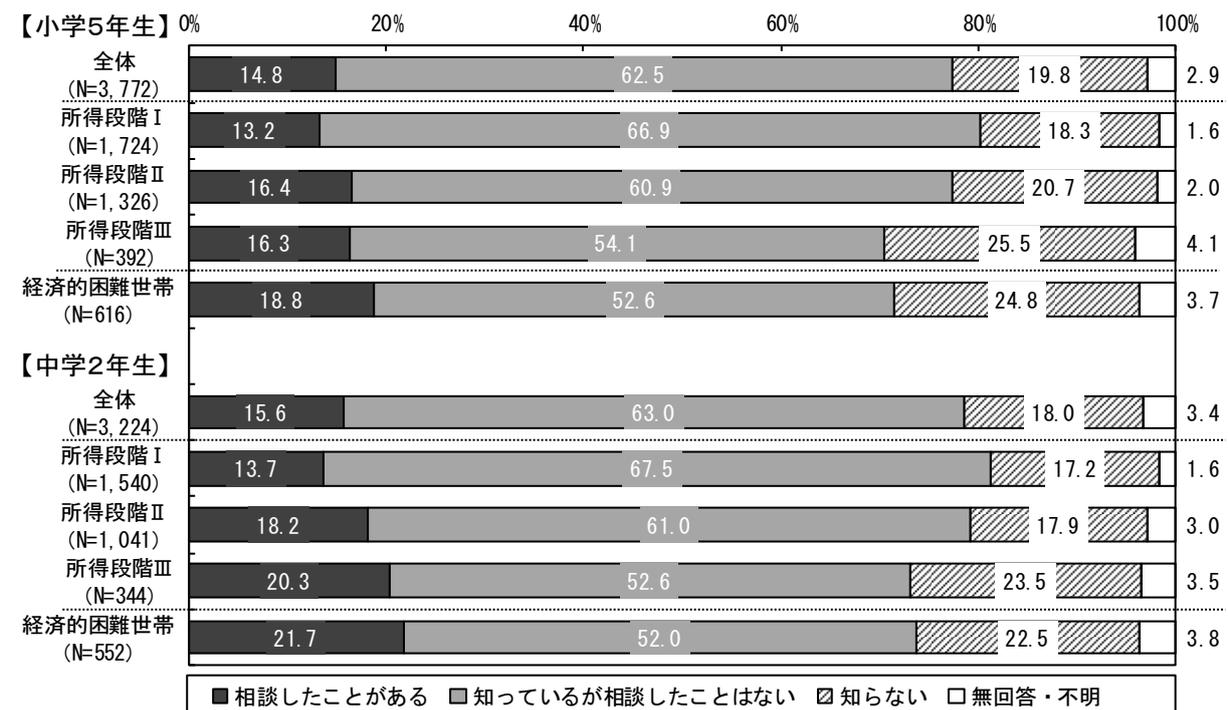
「保健所（保健センター）」への相談については、「相談したことがある」は所得段階による差があまりありません。所得段階が低いほど「知っているが相談したことはない」が少なく、「知らない」が多くなっています。

D 保健所（保健センター）



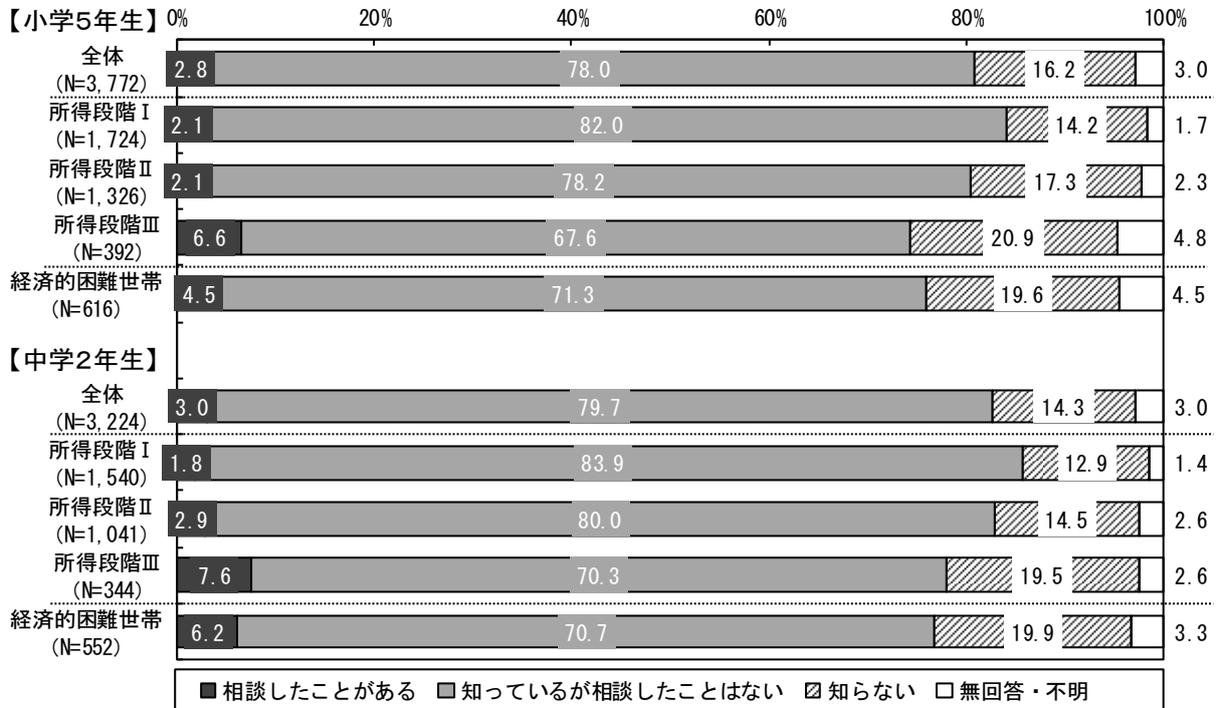
「ハローワーク」への相談については、所得段階が低いほど「相談したことがある」「知らない」がやや多く、「知っているが相談したことはない」が少なくなっています。

E ハローワーク



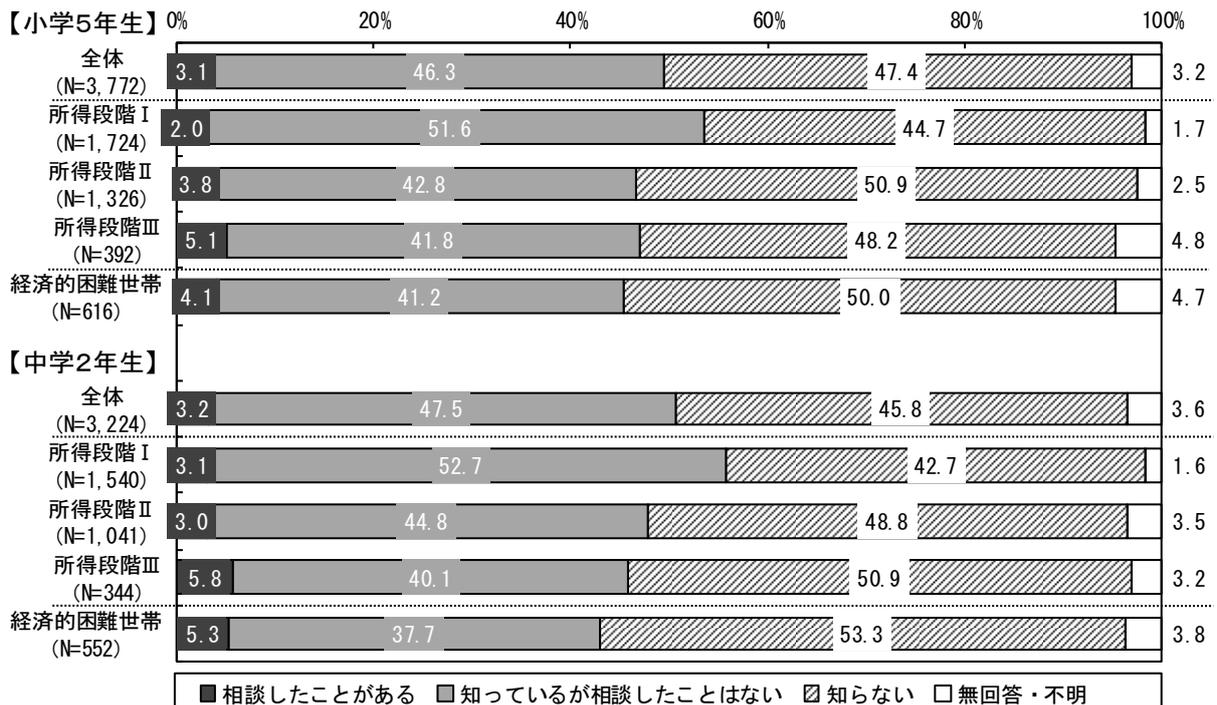
「児童相談所」への相談については、いずれの学年も所得段階Ⅲで「相談したことがある」がやや多くなっています。

F 児童相談所



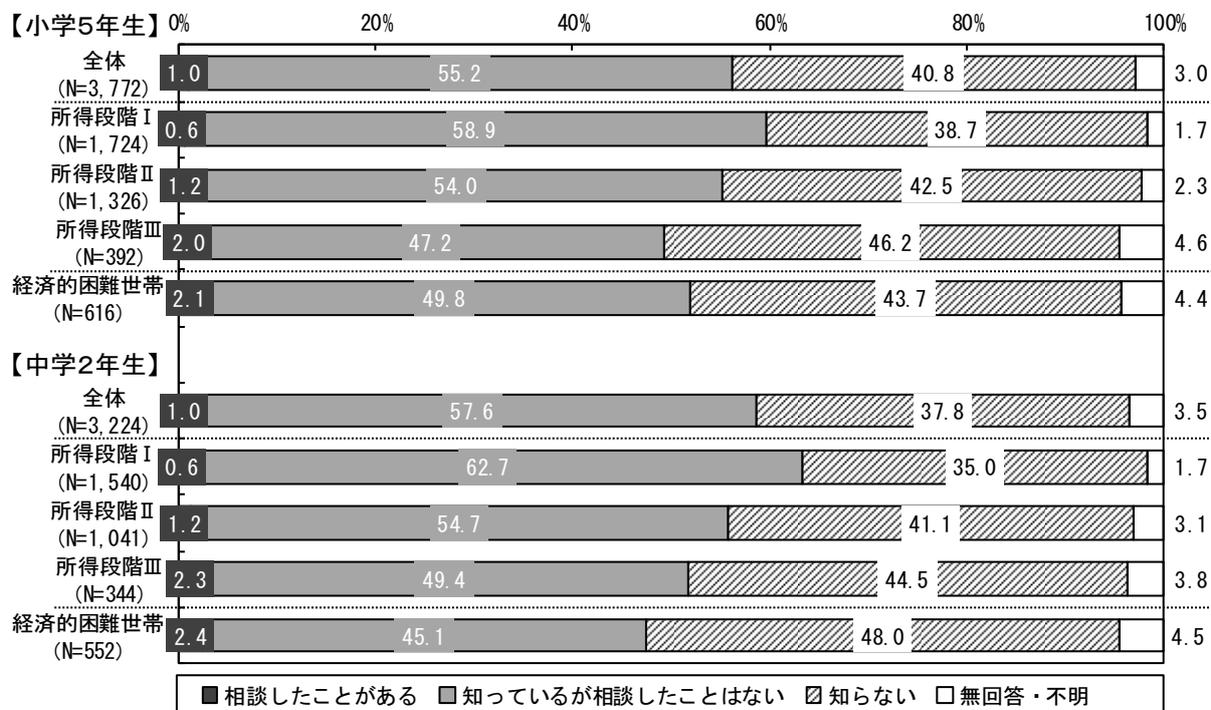
その他の公的機関についてはいずれの学年も所得段階Ⅲで「相談したことがある」がやや多くなっています。「知っているが相談したことはない」は所得段階Ⅰでやや多くなっています。

G A～F以外の公的機関



「社会福祉協議会」への相談については、相談したことがあるという回答はごくわずかです。所得段階が低いほど「知らない」がやや多く「知っているが相談したことはない」が少なくなっています。

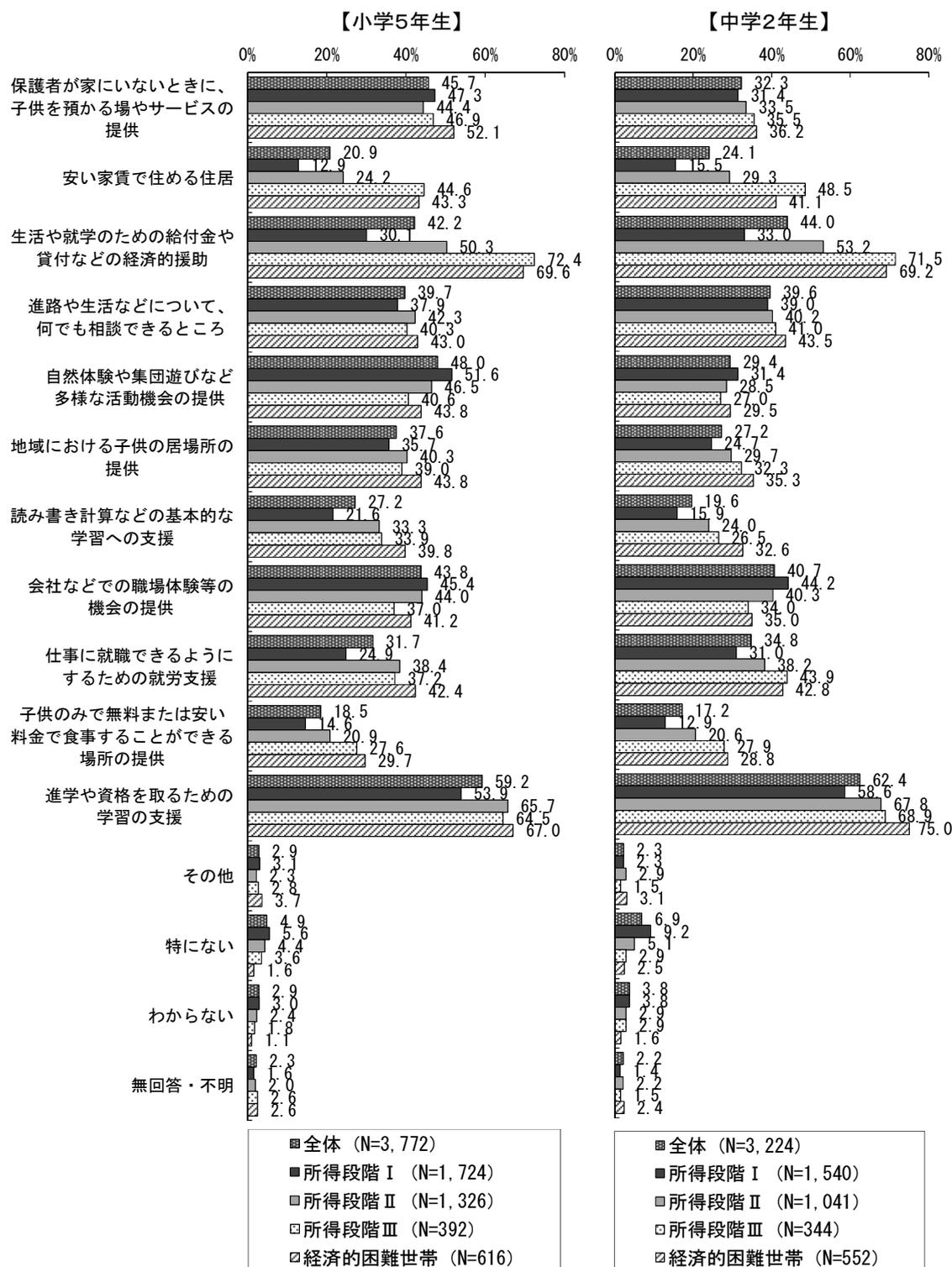
H 社会福祉協議会



(5) 子供にとってあるとよいと思う支援

子供にとってあるとよいと思う支援について、「安い家賃で住める住居」「生活や就学のための給付金や貸付などの経済的援助」「子供のみで無料または安い料金を食事することができる場所の提供」は所得段階が低いほど多くなっています。一方、「自然体験や集団遊びなど多様な活動機会の提供」「会社などでの職場体験等の機会の提供」は所得段階が低いほど少なくなっています。

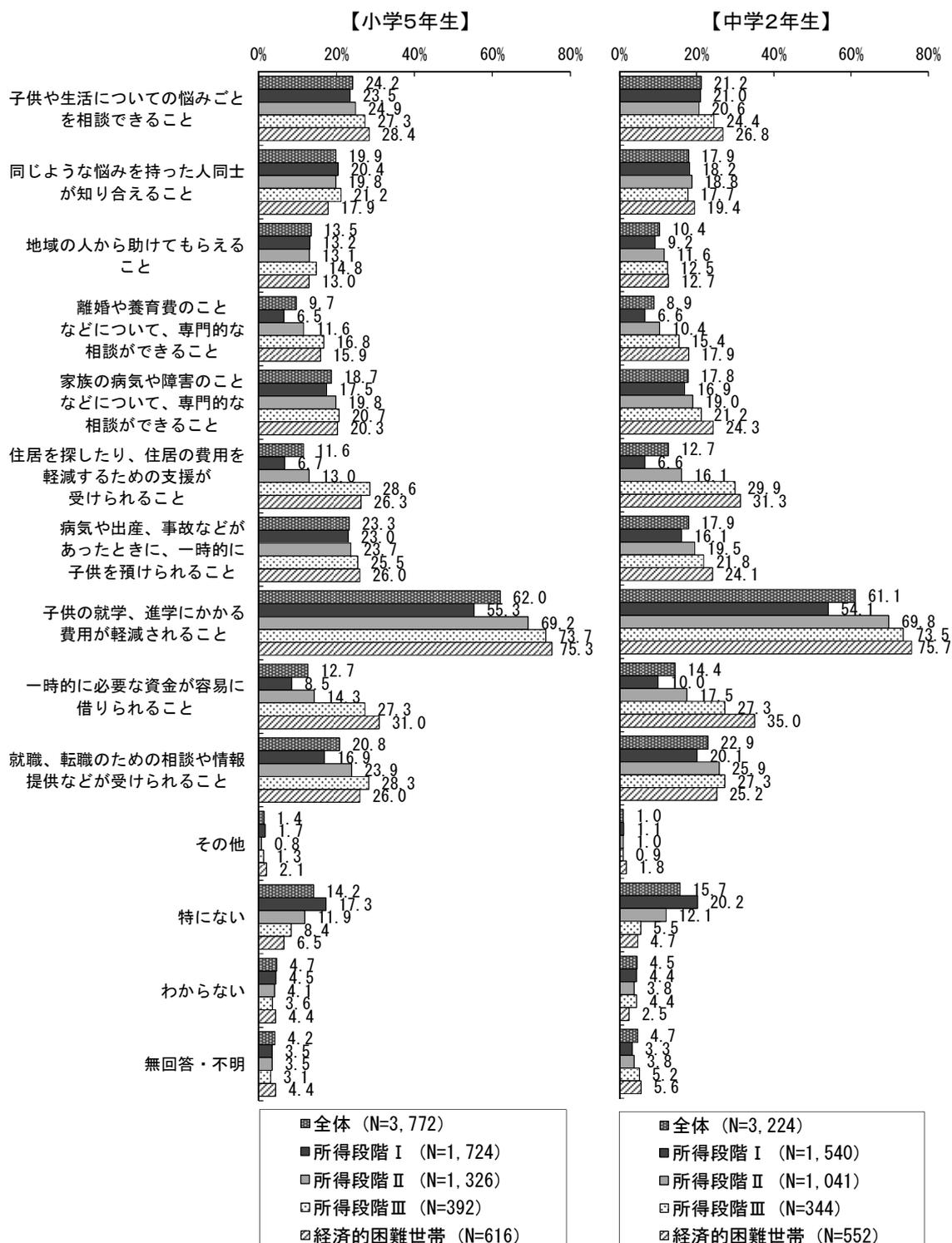
問 44 お子さんにとって、現在または将来に、どのような支援があるとよいと思いますか。



(6) 保護者が現在必要としている支援

保護者が現在必要としている支援については、全体では「子供の就学、進学にかかる費用の軽減」が特に多くなっています。他に、「離婚や養育費のことなどについての専門的な相談」「住居を探したり、住居の費用を軽減するための支援」「一時的に必要な資金が容易に借りられること」についても、所得段階が低いほど多く回答されています。

問 45 あなたが、現在必要としていること、重要だと思う支援はどのようなものですか。



8. 困っていることや悩みごとについて

問 46 あなたが今、困っていることや悩みごとがありましたら、ご自由にお書きください。

【自由記述回答】

全体では、小学5年生 505 件、中学2年生 403 件の回答がありました（「特にない」「悩みはない」といった回答を除く。）。

回答のあった分野と主な内容は以下の通りです。なお、一人の意見に複数の分野が含まれている場合があるため、各分野の合計は全体の意見件数とは一致しません。

①学校について（小学5年生 70 件、中学2年生 65 件）
教員の教育活動・生徒指導・言動等への意見／学校施設（エアコン・トイレ等）への要望／学力低下や学校の教育力への不安／子供間・保護者間のトラブルやいじめへの懸念／給食への要望 等
②子育て支援について（小学5年生 67 件、中学2年生 20 件）
子供が一人で自宅で過ごすことへの不安／学童保育の時間延長や待機児童の解消の要望／一時預かり等の支援の要望／病児保育の要望／子供の活動への送迎の問題／放課後の居場所づくりの要望 等
③地域について（小学5年生 66 件、中学2年生 32 件）
公園や子供の遊び場の不足／通学路等の安全・防犯対策／交通の不便さ／公共施設・医療機関・習いごとの機会等の不足／地域の間人間関係への不満／自治会等地域団体への不満 等
④子供の進学・進路について（小学5年生 54 件、中学2年生 66 件）
進学費用への不安・諦め／進学先の選択肢の少なさ／進学後の就職等への不安／進学に関する情報の不足 等
⑤支援制度について（小学5年生 51 件、中学2年生 40 件）
低所得者への支援の充実の希望／支援の対象要件としての所得制限への不公平感／住宅支援の要望／就労による援助額の減少への不満／家族関係の実態に応じた支援の要望 等
⑥子育て一般について（小学5年生 45 件、中学2年生 52 件）
子供との意思疎通や反抗期への対応の問題／子供のゲーム・スマホの規制や依存問題／子育ての余裕やかかわる時間の少なさ／子供の学習等への意欲への不安 等
⑦就労について（小学5年生 45 件、中学2年生 31 件）
長時間労働や休日の少なさ／県内の給与の低さ／子育てや介護と就労の両立困難／就労・収入の不安定さ／就職・転職の困難 等
⑧家族関係について（小学5年生 39 件、中学2年生 25 件）
配偶者の DV・ハラスメント／配偶者からサポートが得られないこと／配偶者やその家族との関係への不満／家族の介護・支援の困難／養育費が得られない 等

⑨子供の病気・障害について（小学5年生 36 件、中学2年生 25 件）
障害児、病児への支援・理解の不足／学校や教員の理解不足／相談支援の不足や相談先がわからないこと／進路の不安／通院の困難 等
⑩将来不安について（小学5年生 22 件、中学2年生 17 件）
親の介護への不安／子供の養育費への不安／教育資金の蓄えができない／家族が車に乗れなくなった時の生活／老後の生活への不安／自分が病気等になったときへの不安 等
⑪相談支援について（小学5年生 21 件、中学2年生 19 件）
相談先がない・わからない／プライバシー保護への不安／平日以外の相談窓口の要望 等
⑫学習支援について（小学5年生 20 件、中学2年生 26 件）
子供が学習できる場所の整備／学習支援・通塾支援の要望／学校での補習・学習支援 等
⑬経済的支援について（小学5年生 20 件、中学2年生 10 件）
子供の医療費の無償化の要望／多子世帯への経済支援／所得による減額等への不満 等
⑭国・県の政策について（小学5年生 16 件、中学2年生 10 件）
税額や年金・保険料額等への不満／年金受給への不安／大学・高校の増設 等
⑮生活困難について（小学5年生 15 件、中学2年生 19 件）
税金・保険料が払えない／借金がある／生活費が足りない／生活保護が受けられない 等
⑯自分の病気等について（小学5年生 9 件、中学2年生 10 件）
治療・通院と子育ての両立困難・限界／うつ病を患っている（いた）、周囲の理解不足 等
⑰災害について（小学5年生 9 件、中学2年生 2 件）
地震・津波への不安／災害時の避難への不安 等
⑱実態調査について（小学5年生 8 件、中学2年生 5 件）
質問が多すぎる／どう活用されるのか知りたい／生活が厳しい人は回答しないのでは 等
⑲習いごとについて（小学5年生 8 件、中学2年生 5 件）
通える範囲にない／子供だけで通えない／保護者の送迎が困難／経済的に厳しい 等
⑳住居について（小学5年生 5 件、中学2年生 5 件）
公営住宅に入れない・増やしてほしい／単親者への住居の支援の要望 等
㉑部活動について（小学5年生 0 件、中学2年生 19 件）
忙しい・休みがない／勉強と両立できない／子供の健康が不安／強制しないでほしい 等
㉒その他（小学5年生 12 件、中学2年生 8 件）
支援する側も人が少ない／どの情報を信じてよいかわからない／悩みが尽きない 等

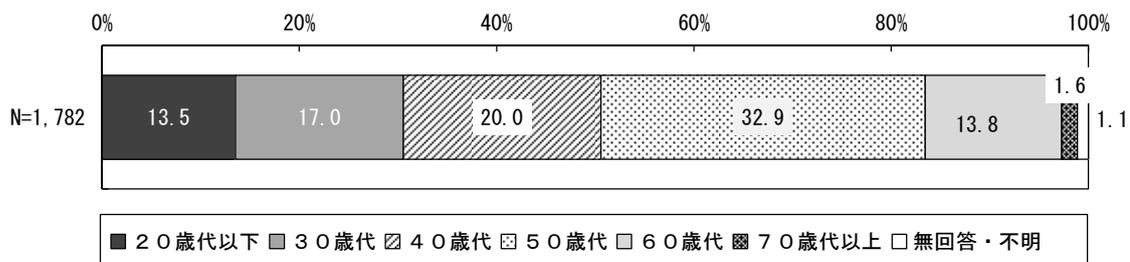
IV 支援機関調査の結果

1. 回答者について

(1) 年齢

回答者の年齢については、50歳代が32.9%で最も多くなっています。

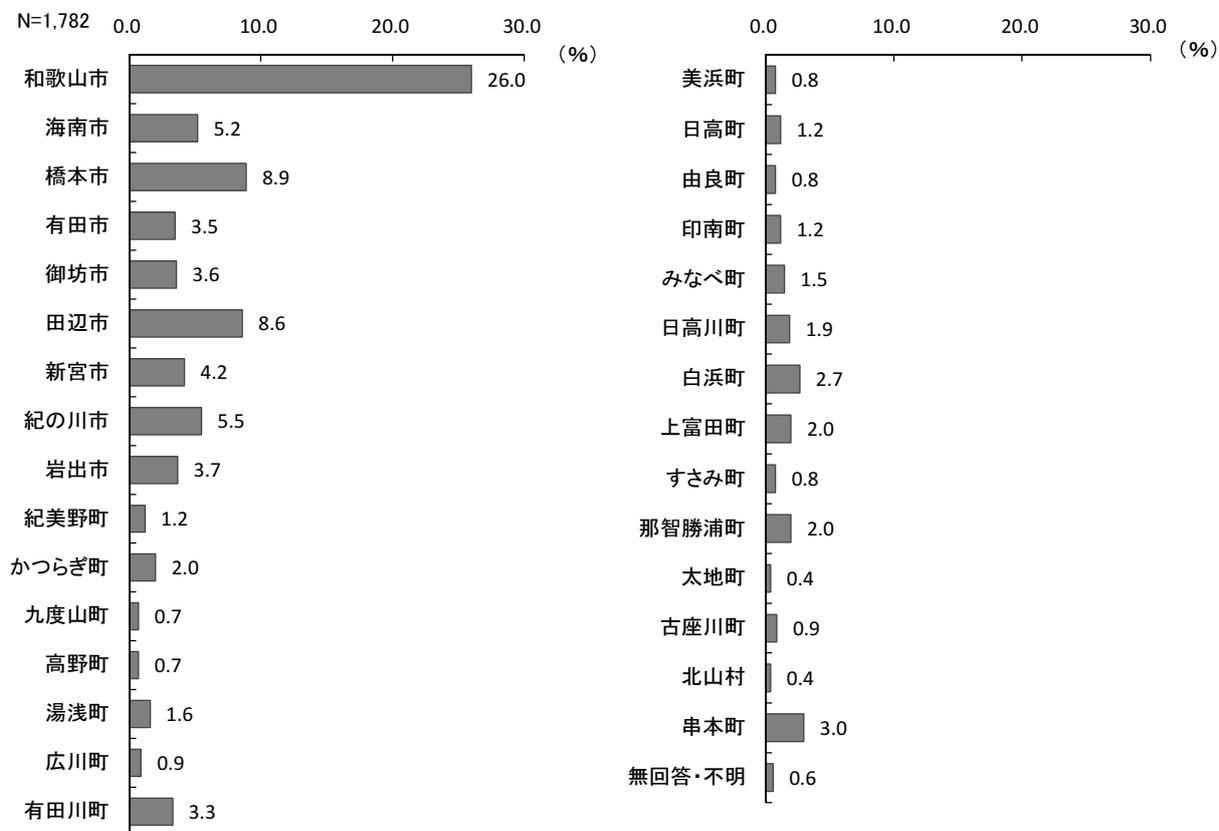
問1 あなたはおいくつですか。



(2) 勤務する市町村

勤務する市町村については、和歌山市が26.0%で最も多く、次いで橋本市8.9%、田辺市8.6%となっています。

問2 どの市町村で働いておられますか。

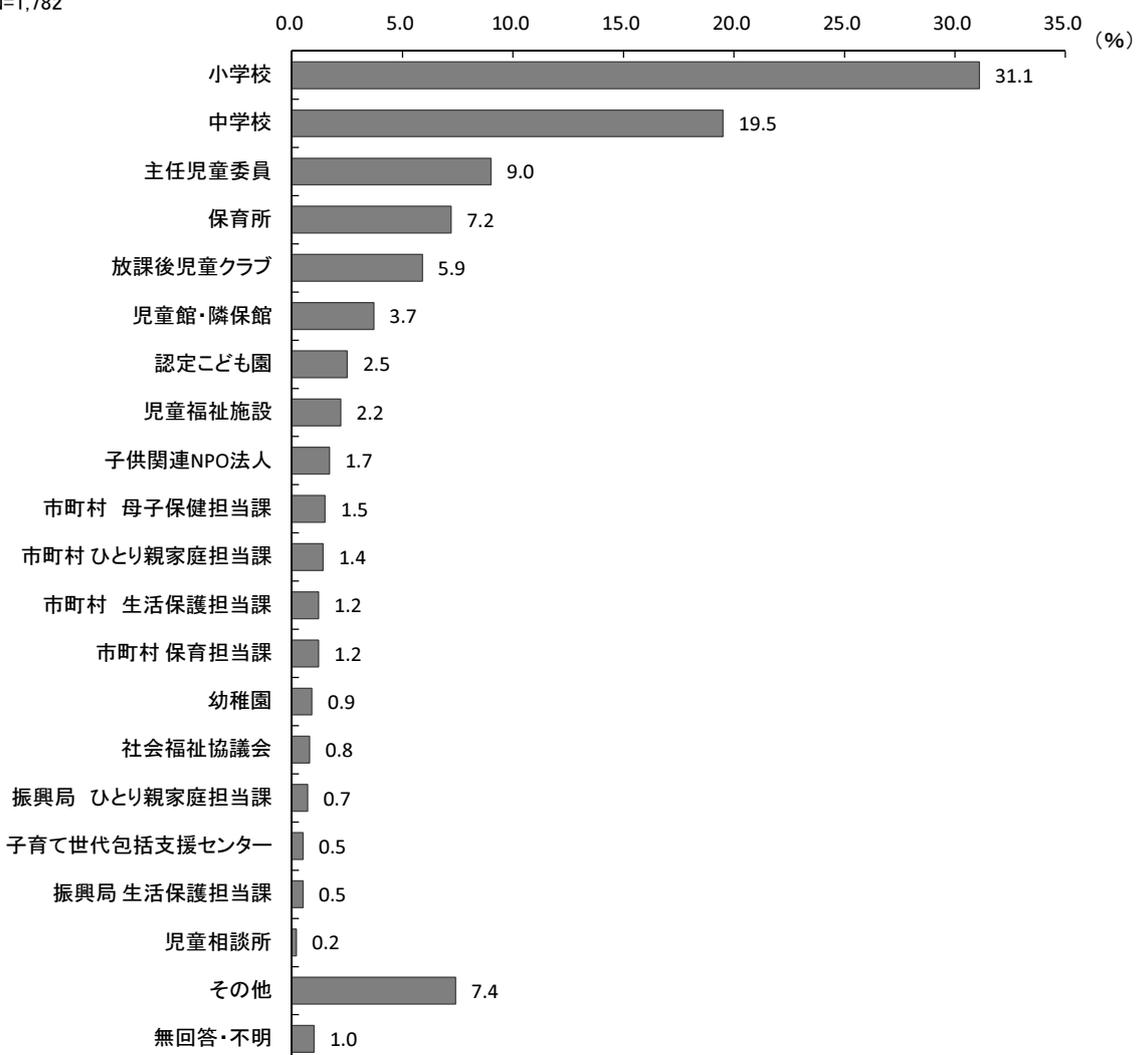


(3) 勤務する機関

勤務する機関については、小学校が31.1%で最も多く、次いで中学校が19.5%となっています。

問3 働いておられる機関はどれですか。

N=1,782

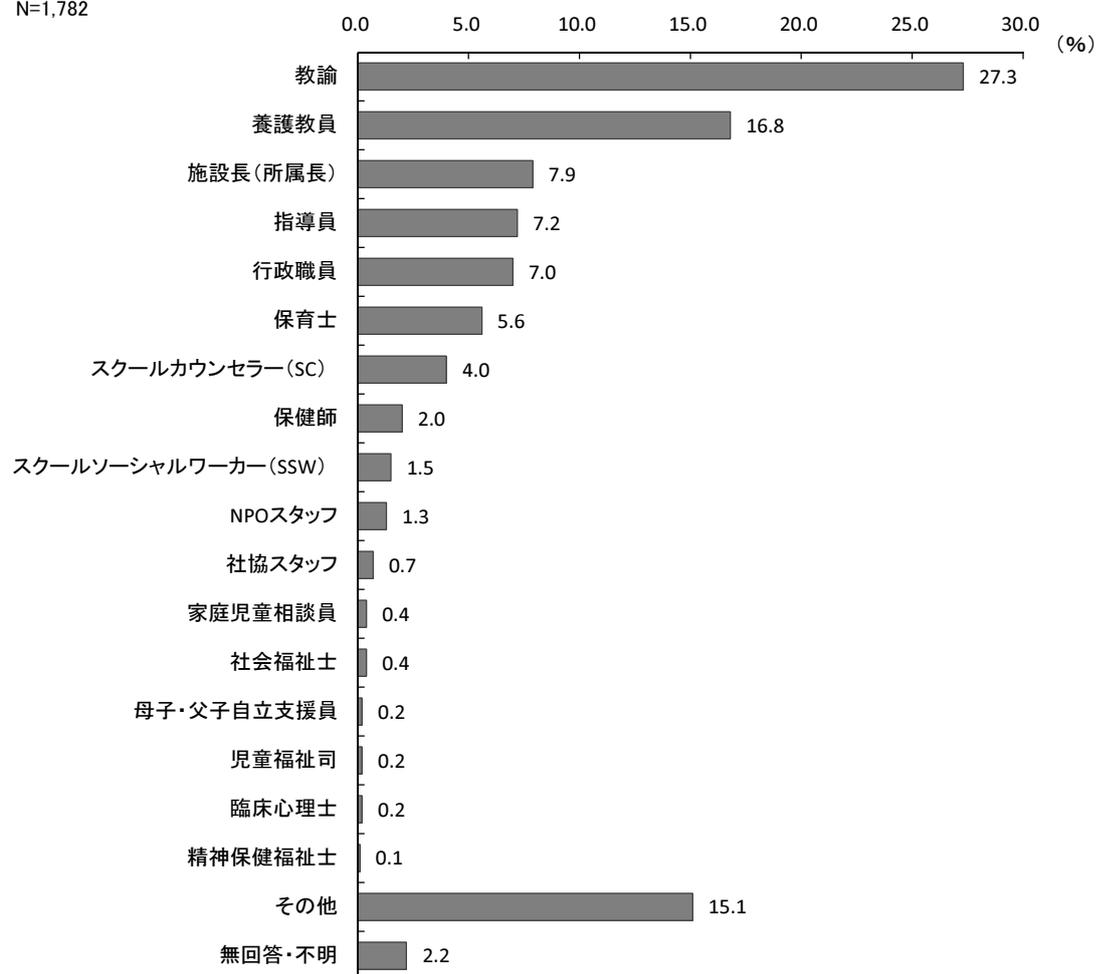


(4) 職業

回答者の職業は、「教諭」が27.3%で最も多く、次いで「養護教員」が16.8%となっています。

問4 どのような立場でお仕事をなさっていますか。

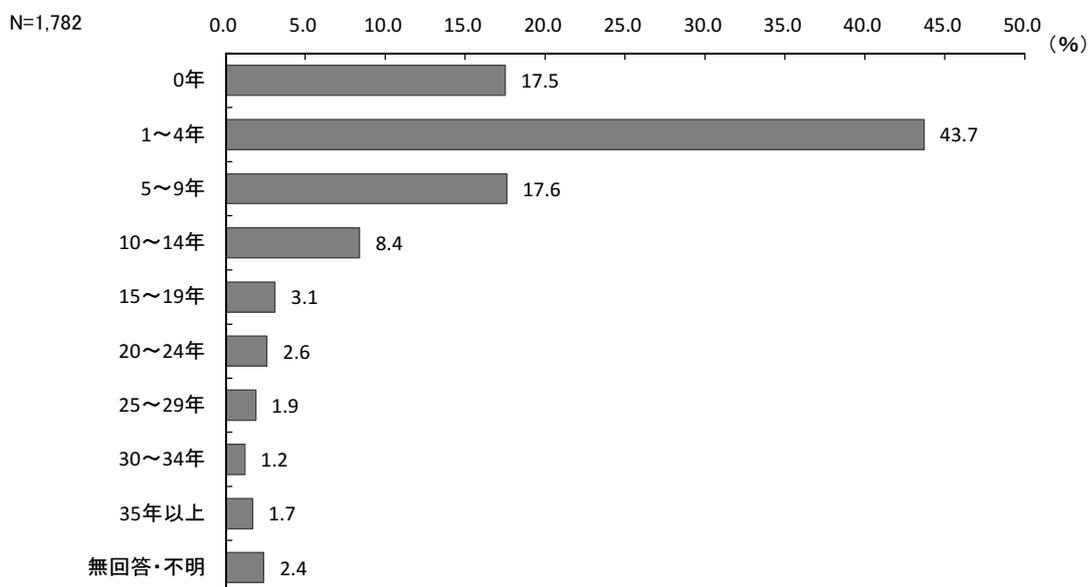
N=1,782



(5) 現在の職場の勤続年数

現在の職場での勤続年数は、「1～4年」が43.7%で最も多く、次いで「5～9年」17.6%、「0年」17.5%となっています。10年未満の回答が全体の約8割を占めています。

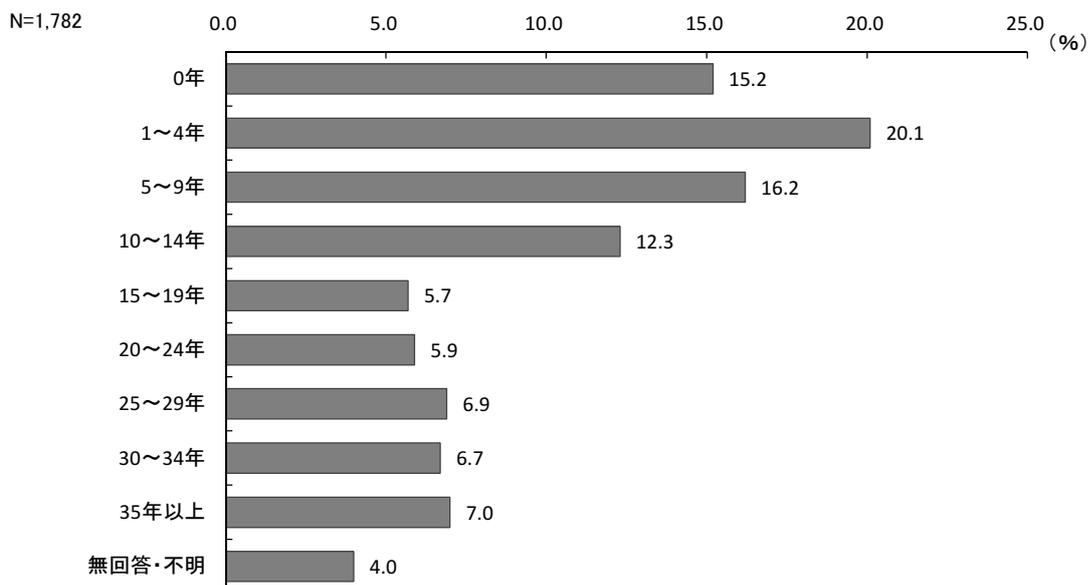
問5 今の職場で満何年働いておられますか。



(6) 現在の業務の経験年数

現在の業務の経験年数は、「1～4年」が20.1%で最も多く、次いで「5～9年」16.2%、「0年」15.2%となっています。10年未満が全体の約半数を占めています。

問6 現在従事している業務と同じような業務（前の職場での経験も含めて）を満何年行っていますか。

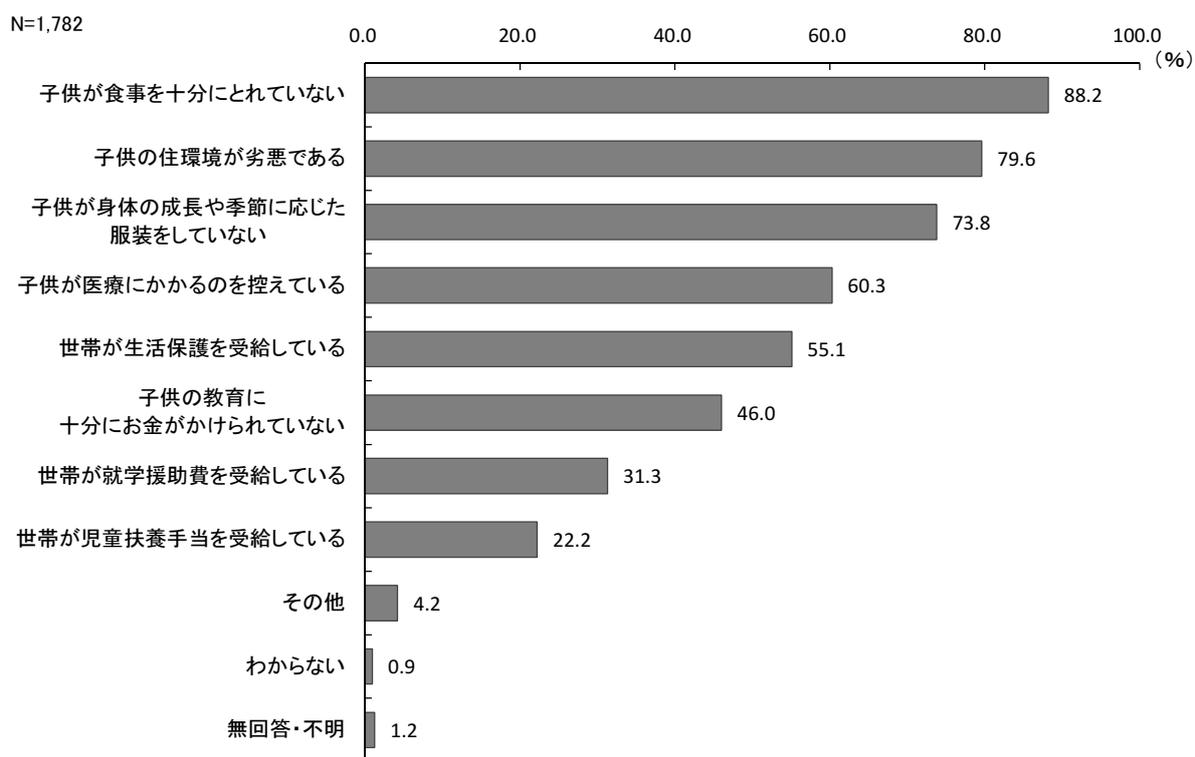


2. 「子供の貧困」に対する考えについて

(1) 貧困状況のとらえ方

どのような状況にある子供を「貧困状況にある」と考えるかについては、「子供が食事を十分にとれていない」が 88.2%で最も多く、次いで「子供の住環境が劣悪である」79.6%、「子供が身体の成長や季節に応じた服装をしていない」73.8%となっています。

問7 どのような状況にある子供を「貧困状況にある」と考えますか。

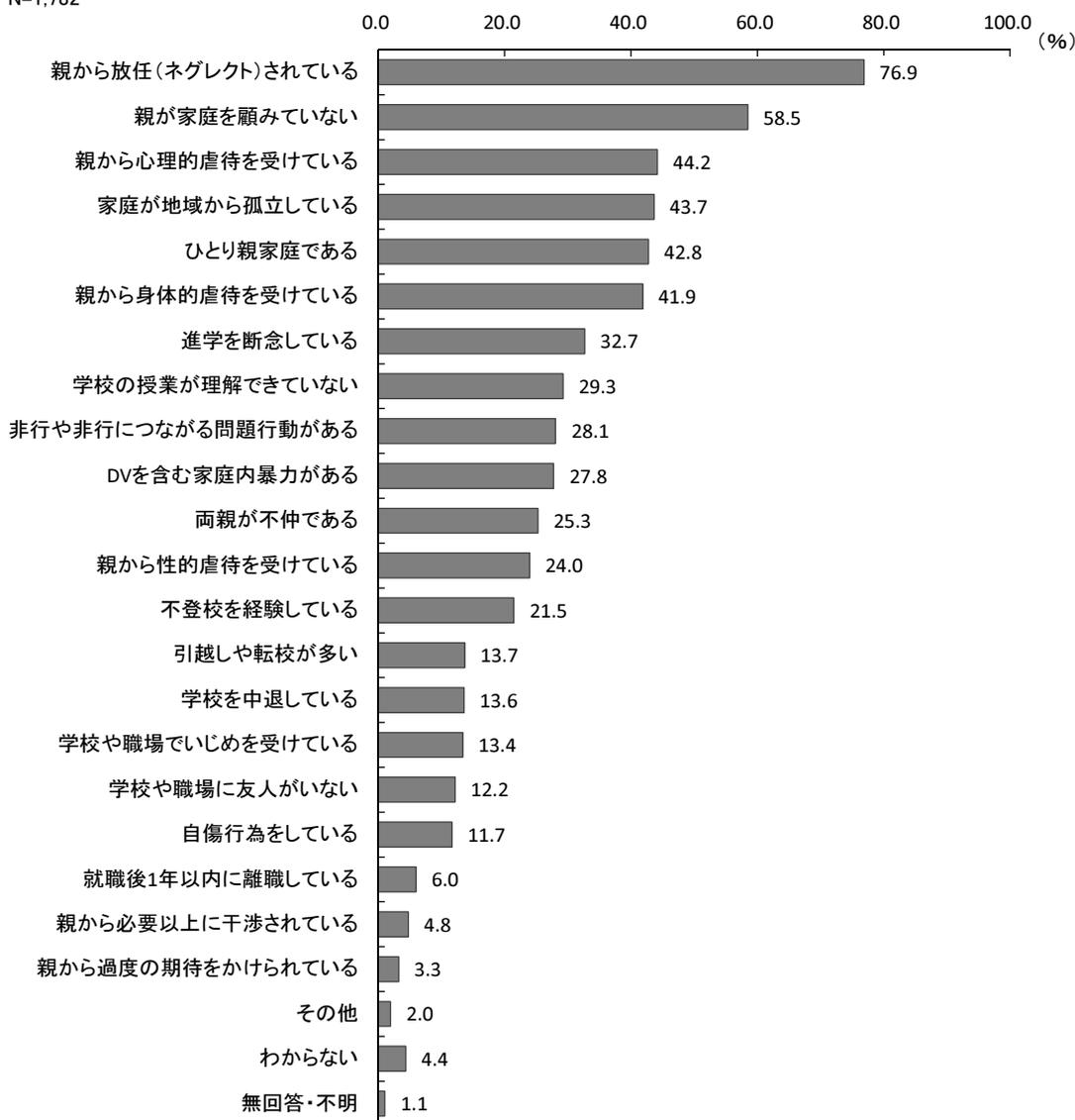


(2) 貧困状況にある子供の様子

貧困状況にある子供がどのような状況によくあるかについては、「親から放任（ネグレクト）されている」が76.9%で最も多く、次いで「親が家庭を顧みていない」が58.5%となっています。「親から心理的虐待を受けている」「家庭が地域から孤立している」「ひとり親家庭である」「親から身体的虐待を受けている」はそれぞれ4割台の回答があります。

問8 これまでの経験から、貧困状況にある子供は、どのような状況によくあると思いますか。

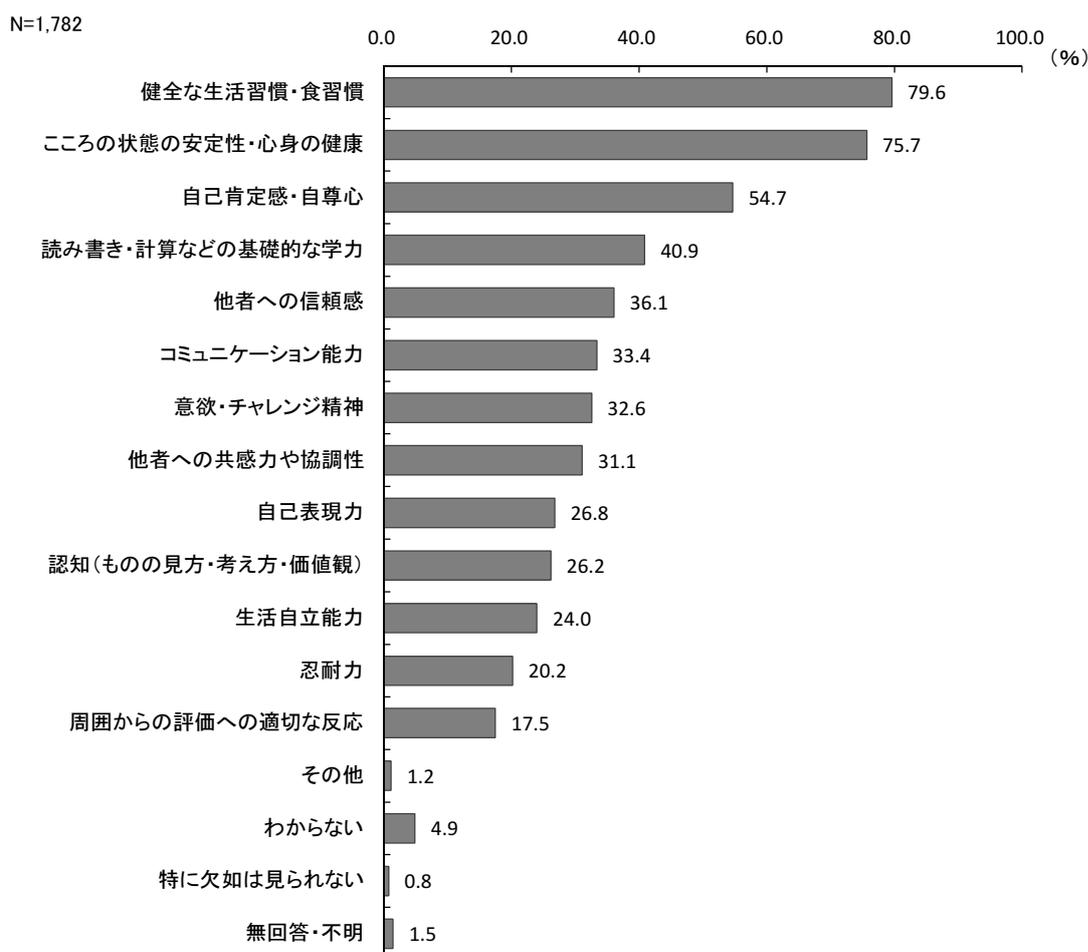
N=1,782



(3) 貧困状況にある子供に見られる問題

貧困状況にある子供に見られる欠如については、「健全な生活習慣・食習慣」が79.6%で最も多く、次いで「こころの状態の安定性・心身の健康」が75.7%、「自己肯定感・自尊心」が54.7%となっています。

問9 これまでのご経験から見て、貧困状況にある子供はどのような項目において欠如が見られると思いますか。



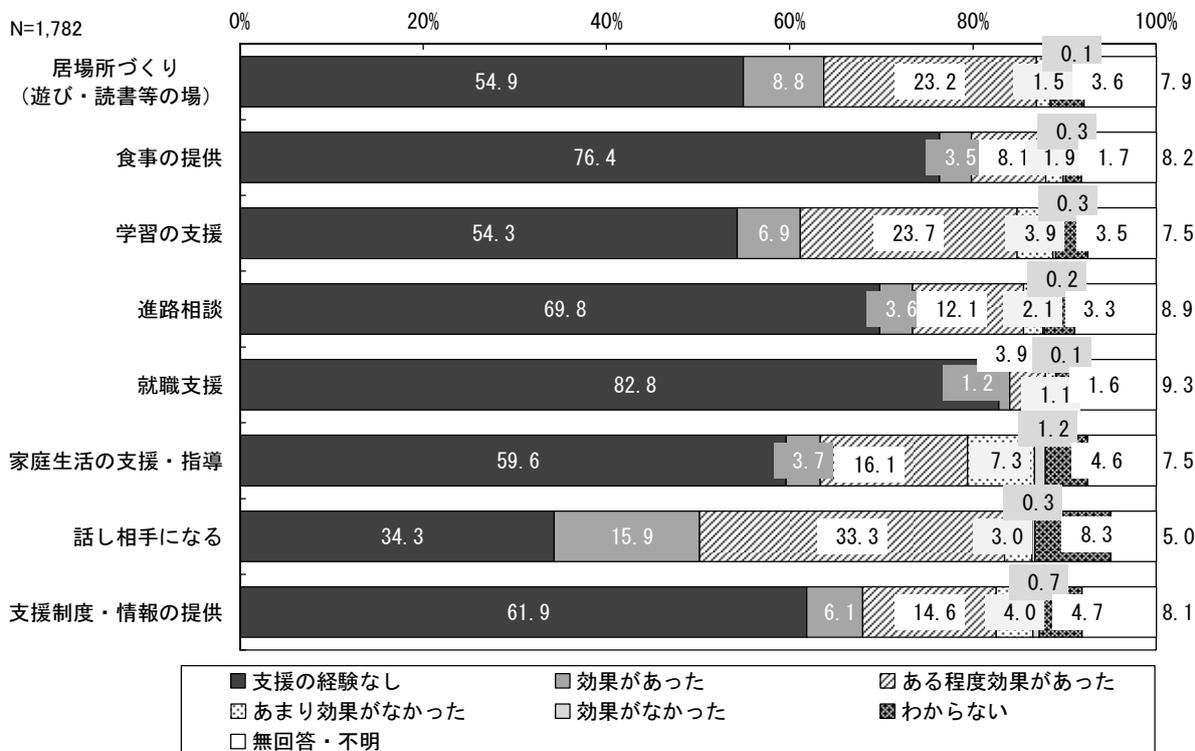
3. 支援の経験について

(1) 行ったことのある支援とその効果

これまでに行った経験のある（「効果があった」から「わからない」の合計）支援について、子供への支援では、「話し相手になる」を行った経験があるという回答が 60.8%で最も多く、次いで「学習の支援」38.3%、「居場所づくり」37.2%となっています。

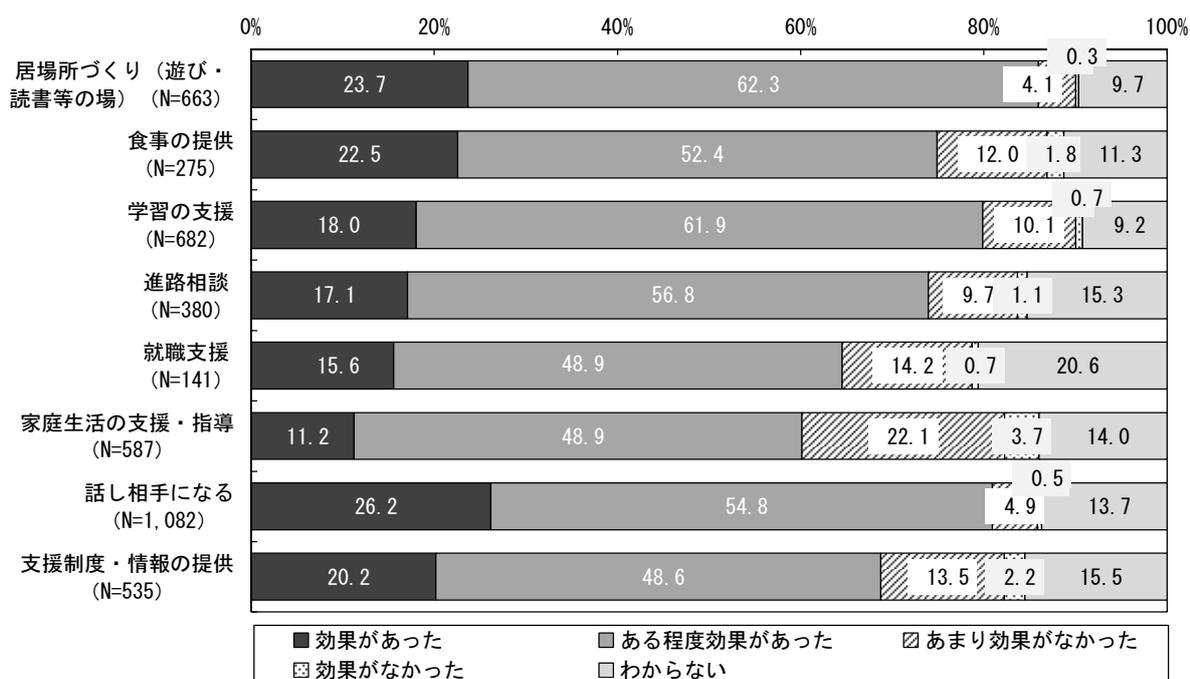
問 10 あなたは背景に貧困が伴うと考えられる子供や保護者に対し、これまでに次のような支援を行った経験がありますか。行ったことがある場合は、その支援には効果があったと考えますか。

子供への支援



子供への支援について、「支援の経験なし」を除き、支援した経験がある回答のみについてその効果の評価をみると、効果があったという回答（「効果があった」または「ある程度効果があった」）が最も多いのは「居場所づくり」で、「話し相手になる」「学習の支援」が続いています。「家庭生活の支援・指導」については、効果がなかったという回答（「あまり効果がなかった」または「効果がなかった」）が比較的多くなっています。

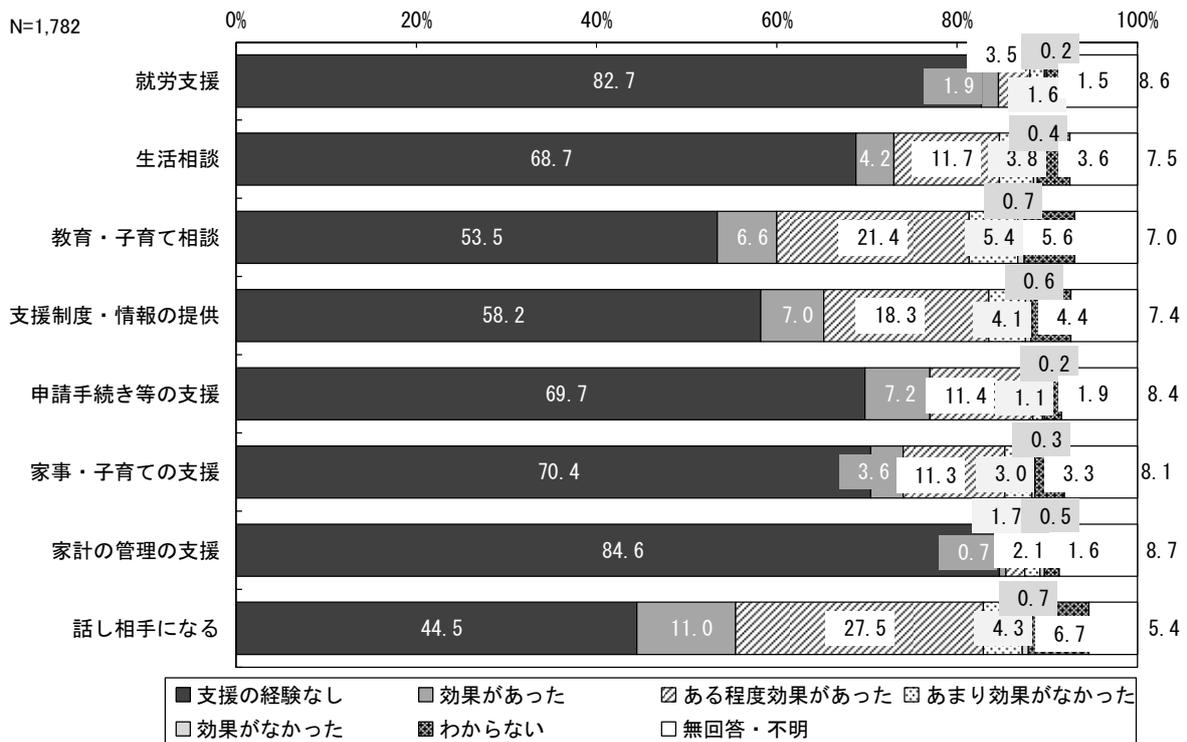
子供への支援【支援を行った経験のある人のみの集計】



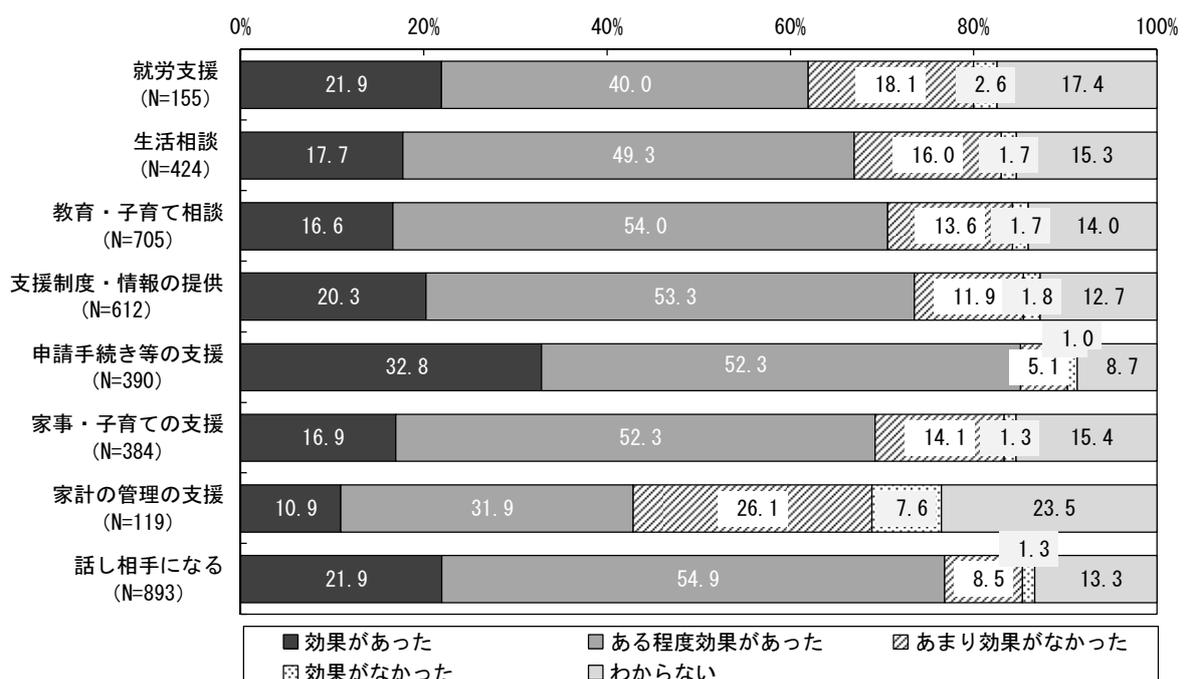
保護者への支援については、「話し相手になる」を行った経験がある（「効果があった」から「わからない」の合計）という回答が 50.2%で最も多く、次いで「教育・子育て支援」39.7%、「支援制度・情報の提供」34.4%となっています。

支援の効果について「支援の経験なし」を除いた集計では、効果があったという回答が最も多いのは「申請手続き等の支援」、次いで「話し相手になる」「支援制度・情報の提供」となっています。

保護者への支援



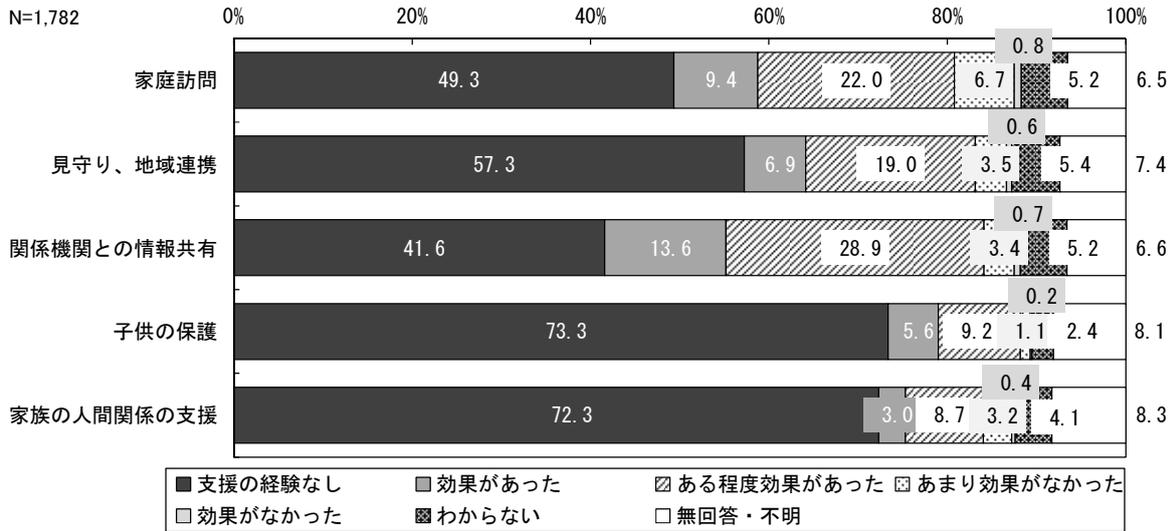
保護者への支援【支援を行った経験のある人のみの集計】



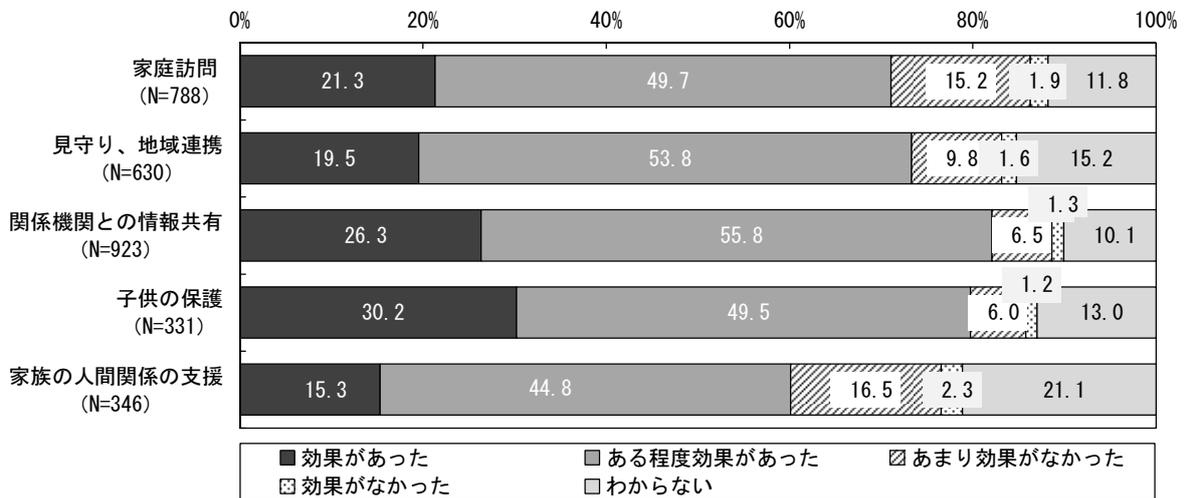
家庭への支援については、「関係機関との情報共有」を行った経験がある（「効果があった」から「わからない」の合計）という回答が51.8%で最も多く、次いで「家庭訪問」が44.1%となっています。

支援の効果について「支援の経験なし」を除いた集計では、効果があったという回答が最も多いのは「関係機関との情報共有」、次いで「子供の保護」となっています。

家庭への支援



家庭への支援【支援を行った経験のある人のみの集計】

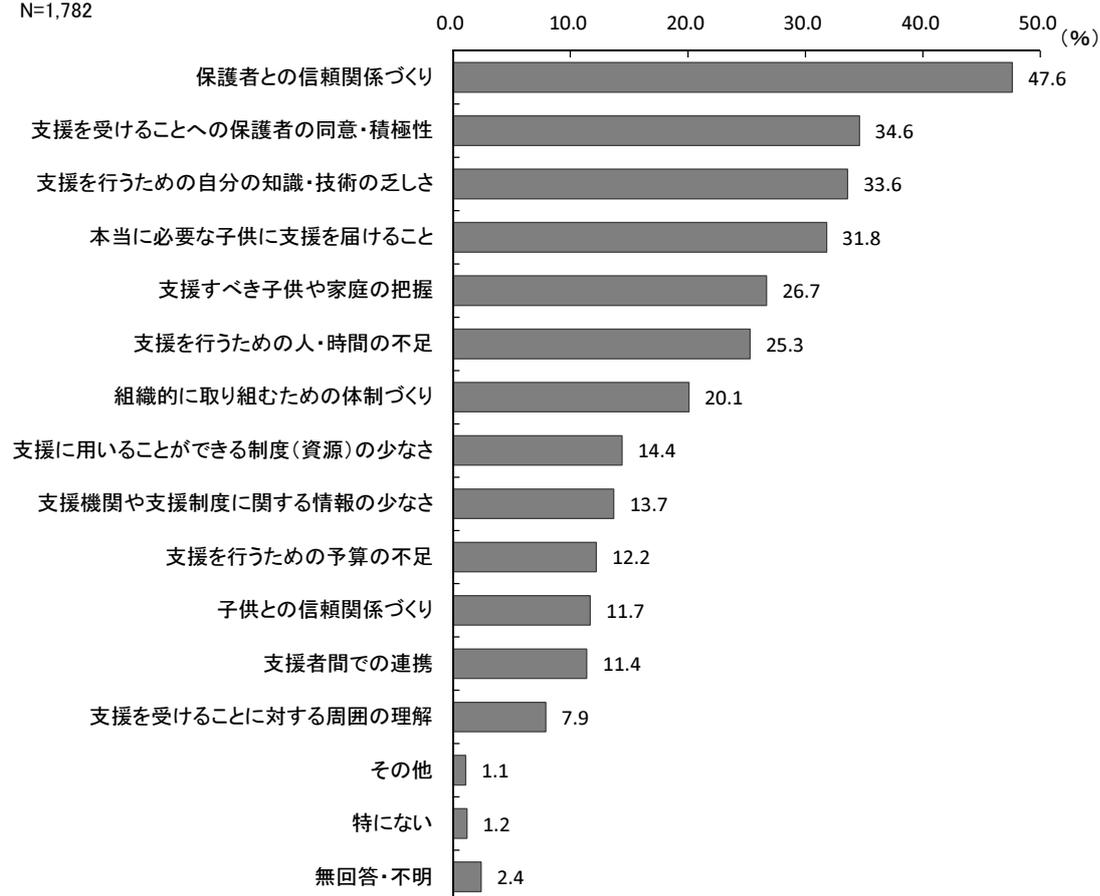


(2) 支援において困難を感じること

支援において困難を感じることについては、「保護者との信頼関係づくり」が 47.6%で最も多く、次いで「支援を受ける事への保護者の同意・積極性」34.6%、「支援を行うための自分の知識・技術の乏しさ」33.6%、「本当に必要な子供に支援を届けること」31.8%となっています。

問 11 貧困状況にある家庭への支援にあたって、どのような点が困難だと感じていますか。

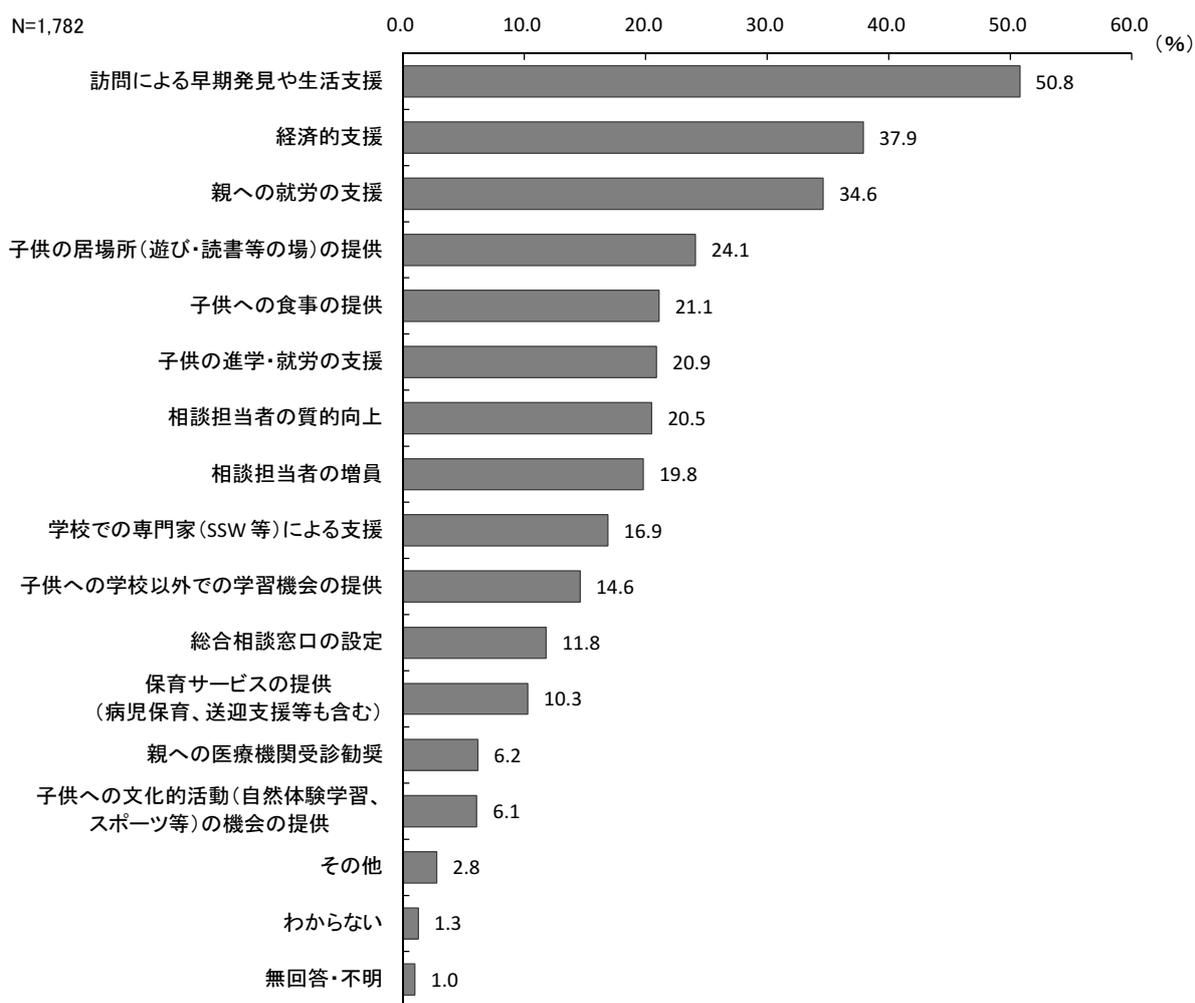
N=1,782



(3) 必要だと思う支援

貧困状況に置かれた子供や親に対し、もっと必要だと思う支援については、「訪問による早期発見や生活支援」が50.8%で最も多く、次いで「経済的支援」37.9%、「親への就労の支援」34.6%となっています。

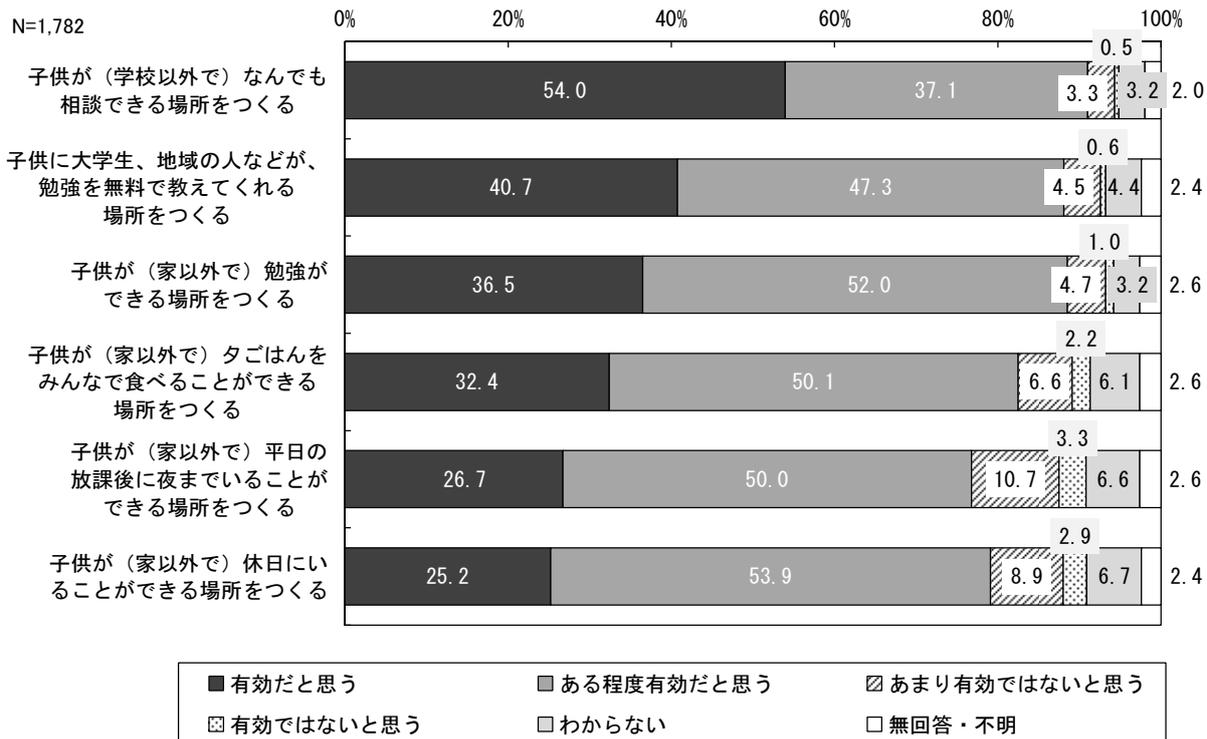
問12 一般的に、貧困状況に置かれた子供や親に対し、どのような支援がもっと必要だと思いますか。



(4) 子供の貧困対策に有効な取組

子供の貧困対策に有効だと思う場所づくりについては、「有効だと思う」が最も多かったのは「子供が（学校以外で）なんでも相談できる場所をつくる」の54.0%で、次いで「子供に大学生、地域の人などが勉強を無料で教えてくれる場所をつくる」が40.7%となっています。

問13 あなたは、次のうちどのような場所があれば、子供の貧困対策にとって有効だと思いますか。

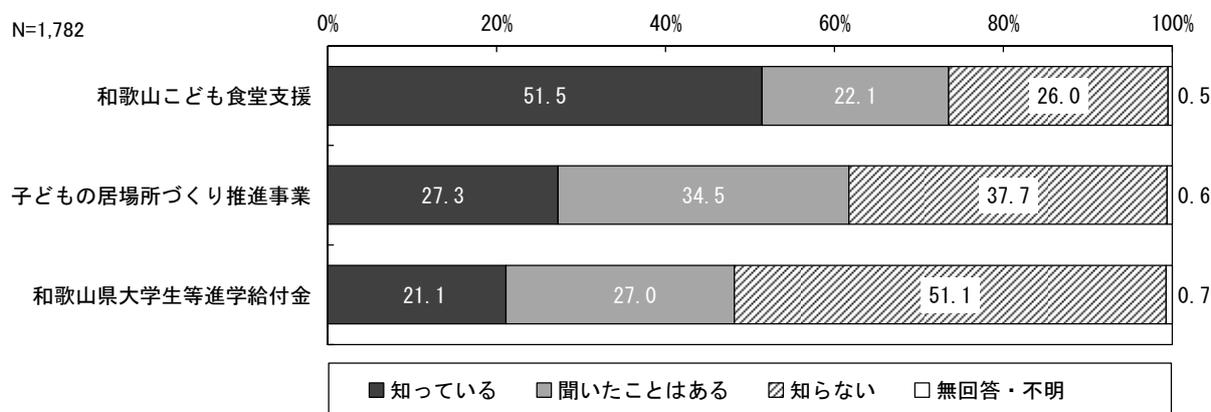


4. 県の事業について

(1) 和歌山県の子供の貧困対策の認知度

和歌山県が平成 28 年度に開始した 3 事業については、「和歌山こども食堂支援」は 51.5%が「知っている」と回答しているのに対し、「和歌山県大学生等進学給付金」は「知っている」が 21.1%、「知らない」が 5 割を超えています。ただし、今回の調査には給付金の対象となる高校生の支援者が少ないことも、認知度の低さの一つの原因だと考えられます。

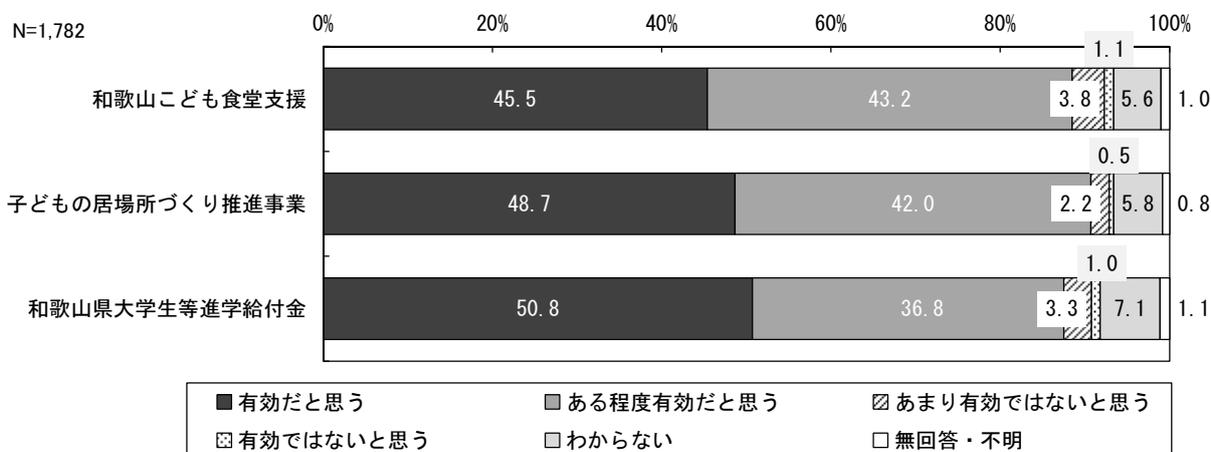
問 14 和歌山県では子供の貧困対策として次の 3 つの事業を平成 28 年度に開始しました。これらの 3 事業を、あなたは知っていますか。



(2) 和歌山県の子供の貧困対策の有効性

和歌山県の 3 事業については、いずれも 5 割前後が「有効だと思う」、4 割前後が「ある程度有効だと思う」と回答されています。

問 15 前問の 3 つの事業は、子供の貧困対策にとって有効だと思いますか。



5. 県の事業等への意見（自由記述）

問 16 和歌山県の事業について、または、和歌山県や県内市町村が取り組んでいる貧困状況にある家庭への支援に関して、特に改善が必要だと思うことや、今後力を入れて取り組むべきだと考えることについて、これまでの支援の経験を踏まえ、自由に記述してください。

和歌山県の事業や子供の貧困問題に関する支援の経験からの意見について、全体で 631 件の自由記述回答がありました。分野別件数との主な意見の内容は、以下のとおりです。なお、複数の分野の意見を含む場合は、それぞれの分野でカウントされているため、分野別意見の合計は、全体の回答数の合計とは一致しません。

①和歌山県の全般的な取組について・事業提案等（49 件）

子供の貧困問題について、和歌山県に対して取り組みを求める意見が多くなっています。関係機関の連携や、支援体制の強化について、複数の意見があります。

主な意見
○行政職員とボランティアの人の意気込みの違いを感じる。個人情報のこともあるので行政がリーダーシップをとり、その下で可能な限り支援を行っていきたい。子供の貧困情報は学校が一番集まりやすいので、もっと主任児童委員等にも情報共有が必要。市町村、県、民生児童委員のパイプをもっと太くしてほしい。（主任児童委員）
○和歌山県の経済格差は広がり、子供の学力も二極化している。その原因は経済面によるものが大きい。子供を育てる側からすれば、経済的な家庭環境に比例しているように思う。お金で解決できる問題ではなく、余裕や親の学歴、しつけ、習慣など様々な要因からと思うが、学校で学力差を無くそうとしても難しい。県としてそのような状況の子供を救える制度をもっと整えるべきであると思います。（小学校 教諭）
○市町村によって対応が異なることを防ぐよう、県が全体を把握し、市町村への助成を行う。（児童館・隣保館 行政職員）
○和歌山県は貧困対策（子供の貧困、生活困難自立支援）について学習面は教育委員会、生活支援は子ども未来課や福祉部門が担ってる。この状況では市町村に情報がおりてくる際も、別の部署におりてくるため、これらの事業を組み合わせで一貫した支援がしにくいと思われる。県としても、教育と福祉を一体化して、県のためを考えて事業に取りこんでいってもらえれば良いと思います。また、市町村内での実情もしっかり把握してもらえればと思います。（市町村母子保健担当課 行政職員）
○学校へ通うことが大事だと思いますが、夜遅くまで仕事をし、朝学校へ送り出せない。不登校になる。学力がつかないという家庭が見受けられます。広島の方で朝支援員が家をまわって子供に身支度をさせ送り出す制度がある。和歌山にも同様な制度があれば少しでも貧困→不登校→貧困の連鎖が切れるのではないかと思います。（市町村母子保健担当課 保健師）

②「和歌山県子供食堂支援」について（78件）

子供食堂については、必要な子供に届けるためには、場所・回数を増やしていくことが必要という指摘や、さらなる充実の必要性について多くの意見があります。回数が少なく事業としての必要性に疑問があるという意見や、本当に必要な子供に利用されているのか、といった指摘も多くなっています。

主な意見
○子供食堂は、開かれている回数が少なく、本当に必要な子供は家での用事があり、利用できていない。お弁当、食事券を届ける等でその時の様子を見て、相談を受ける等の支援ができないか。（小学校 スクールカウンセラー）
○子供食堂は、保護者と共に食事ができるように充実させていくことができなければ意味がないと思います。（小学校 その他）
○本当に必要な子供がどの程度利用しているか、また、必要でない人まで利用していないか。子供食堂の場合、食中毒が出た時の対応や責任問題が気になります。（小学校 養護教員）
○子供食堂に関しては、本当に必要がある子供にとっては良いが、システムをきちんとしていないと、そこに甘んじる親、大人がいることも現実。食べさせてくれるから作らなくて楽という考えの大人もいるようである。（保育所 施設長）
○支援が必要な地域に民間団体が活動していない所もあると思う。地域や民間に活用するのは有効であると思うが、公的機関も動くべきだと思う。（児童館・隣保館 行政職員）
○子供食堂に本当に行ってほしい家庭ほど周りの目が気になって行けないように思うので、一緒に行こうよと誘ってくれる人（ママ友）などがいれば行きやすいと思う。また、相談にのってつなぐだけでなく、家庭に入ってくれるアシスト事業がもっと広く知られて利用者が増えてほしいと思う。（市町村ひとり親家庭担当課 行政職員）
○月一回では回数も少ないし、参加されている家庭が貧困とは言えないと感じています。でも大切なコミュニティの場になってるのかな？と思います。長く続けていくことが必要だと思います。（放課後児童クラブ 指導員）

③「和歌山県子どもの居場所づくり推進事業」について（55件）

居場所づくりについては、子供の孤立を防ぐことや、学習支援、支援の必要な子供の早期発見等の成果についての意見があり、さらなる充実を求める指摘が多くなっています。

主な意見
○子供にとって、学力や学習意欲の向上は、自己肯定感の高揚と非常に密接に関連している。その意味においても、子どもの居場所づくり推進事業のさらなる発展と充実が望まれる。（スクールカウンセラー）
○子どもの居場所づくり事業を開始して、子供たちと地域の方々が関わる中で、貧困状態や虐待の恐れのある子供を早期に発見できることができ、支援員が訪問したり、SSW 支援を受けられたりと未然に防ぐことができたと感じる部分が多くありました。学校でもなく家庭でもない居場所があり、そこで見せる表情や地域の方々とのコミュニケーションは、とても必要なことだと日々感じています。経済的支援ももちろん必要だとは思いますが、子供が日々の中で少しでも安らげる時間を増やすことも必要だと思うので、今後も実施箇所を増やしていければいいなと思っています。（市町村ひとり親家庭担当課 行政職員）
○各市町村がそれぞれの特色ある内容で実施していると思う。昨年指導員として活動し、有効性は感

主な意見
<p>じている。ただし、人材、特に山間部などは若い人を活用できにくい現状がある。(中学校 その他)</p> <p>○貧困の連鎖を防ぐため、無料で勉強を教える場所は必要だと思う(小学校 スクールカウンセラー)</p> <p>○子供が一人で過ごすより、子供達の集まる居場所があることで、仲間同士の間関係作りができる。そこで学ぶことも多くあると思う。宿題を忘れないよう大人が見守りながら、学習習慣を身に付けさせる。子供自身が将来自立していくためにも、小さい時から大人が見守り、正しい生活リズムを付けることが必要。(主任児童委員)</p> <p>○貧困状況にある家庭への支援に関して、今後は地域の中で孤立しないように、居場所づくりに力を入れていく必要がある。地域の中で居場所を作ることによって貧困状況にある家庭が孤立することなく、適切な支援を受けることにつながります。また、地域で居場所があれば早い段階での支援や長期的な支援にもつながるのではないかと思います。(社会福祉協議会 社協スタッフ)</p>

④「和歌山県大学生等進学給付金」について(23件)

大学生等進学給付金については、意義のある取組であり積極的に実施すべきという意見の一方で、県内へのUターンを条件としていることについて疑問視する指摘もあります。

主な意見
<p>○貧困家庭の子供にとって、進学問題が大きな問題となってくる。進学を希望する子供たちが自分の将来に向けて支援をする体制が整っていれば今後次世代を引き継いでくれる優秀な若者がたくさん増えて、活気的な和歌山県になると思います。大学生等進学給付金の支給制度については大変共感し、今後も支給の枠を広げてもらえたら大変うれしいです(小学校 養護教員)</p> <p>○進学給付金には力を入れる必要があると思う。県外へ出るとお金がかかる。長期的に考えても和歌山に大卒で帰ってきて就職することによって少しでも貧困家庭は減るのではと思う。(小学校 養護教員)</p> <p>○意欲能力を併せ持つ学生に対して、進学給付金を供給することはとても意義深いことだと思う。給付金の存在を知らずに進学をあきらめた学生もいるので、周知していこうと思う。ただし、Uターン志望の学生に限ってしまうと、その能力を發揮できる環境があるかどうかという点で疑問。もっと世界で活躍した後にその経験や知識、技術を持ち帰ってもらうことが将来的に和歌山のためになるのではないか。(中学校 臨床心理士)</p> <p>○現在の制度では、学力が足りないために給付金が受けられず、進学できない子供がいるという。また、要件資格で保護者(親権者)の市町村住民税所得割が非課税であるとなっているが、要件にしては厳しい。地理的なことも考慮するような案件としてほしい。(児童館・隣保館 行政職員)</p> <p>○育った人材を県内にとどめておくことは、行政的に有効ではあるが、子供からすれば企業も少なく、給料も少ない地元で就業したところで貧困の連鎖になるだけだと思う。(児童館・隣保館 行政職員)</p>

⑤その他和歌山県の3事業について（62件）

和歌山県の3事業（②③④）については、いずれも必要だという意見の一方で、量的な不足や周知の不足についての指摘や、既存の事業との連携の必要性、根本的な対策の必要性等についても指摘があります。

主な意見
○3事業とも全て必要なことですし、続けてほしいです。どれも、当事者である子供や親に周知できるようにしてほしい。平日、毎日うけられる体制に整備されることがよいと思います。週1回や月1回では救われたいと思います。（主任児童委員）
○これらの事業が開始されたことを、多くの人に知ってもらうことが必要だと思う。どんな時に、どんな場所で使えるのか、どんな人が事業に参加できるのかなど、詳しい制度が知られていなければ活用できないのではないかとと思う。（小学校 養護教員）
○子供食堂支援などの事業を新たに開始するよりも、今ある事業（学童等）との連携・支援が必要。支援が複雑化すると、保護者の同意が得られにくい。（小学校 教諭）
○子供食堂・居場所づくりの取り組み自体は素晴らしいと思うが、子供の貧困対策にはならない。家計全体が苦しく貧困状態の子供や家庭はあるが、子供にかけられるお金が他で消えている家庭も多い。教師として踏み込みづらいところでもあり悩む。親の意識を変える必要があり、その施策も願います。（小学校 教諭）
○必要とする家庭に事業の情報が届いてないと思われる。親の理解を得て子供を連れだすが、支援者の関わり、連携も必要。親の基本的な生活習慣の欠如や精神疾患等は改善が難しい。家庭外で子供の支援の場、学校を通してつながる場が必要。（保健師）
○3事業ともいい事業であると思う。田舎の方ではまわりの目も気になり、なかなか子供食堂には行きづらいという声を聞くことがある。本当に支援が必要な家庭や子供に支援が行われているかと心配なところもある。（認定こども園 施設長）

⑥情報提供・情報発信について（48件）

支援の制度や事業について、それらを必要とする家庭や市民、支援する立場の人に対しても、周知が不足しているという意見が多くなっています。

主な意見
○貧困家庭の保護者が、受けられる支援を知っていないことがあると思います。利用できる支援制度を知らせていくべきだと思います。（小学校 教諭）
○周知が不足している制度が多いと感じられる。制度を増やしていくのではなく、現行の制度を把握してまとめる必要がある。（市町村ひとり親家庭担当課 行政職員）
○貧困状況にある家族への支援に関しては、子供や保護者、学校関係者などはどこに相談すればいいのか？相談するとどんな支援が受けられるのか？まだまだわかりにくい。わかりやすいリーフレットを作ってくださいなどお願いしたいです。（現在あるのかわかりませんが、SSWの担当者に渡していただき、研修の時にもみんなに配っていただくと大変ありがたいです）（中学校 スクールソーシャルワーカー）
○支援してくれる体制があるということを家庭に周知し理解してもらうことが必要。「何か手紙が入っていた」程度の認識しかしていない家庭があり、声掛けを行って、理解してもらうことの重要性を感じた。（児童館・隣保館 行政職員）

⑦支援体制について (61 件)

関係機関・団体の連携による支援の重要性について、多くの意見があります。支援体制の充実や専門性の向上、必要な支援を届けるためのアウトリーチの必要性等について指摘されています。

主な意見
○民生委員児童委員として、子供たちが置かれている貧困の実態やそのような子供たちが受けている各種の支援を把握し活動しています。現実として、個人情報保護が壁になり、ネットワークがあるにもかかわらず、各種団体との連携がとりづらく、支援に支障が出ている。市町村によって差はあると思うが、もっと考えるべきだと思います。(主任児童委員)
○本当に支援が必要な家庭に組織的に支援できる(担当者が変わってもきちんと引継ぎされる)体制が必要。担当者の資質も問われる。(小学校 教諭)
○子供の貧困は子供を取り巻く社会、環境など複雑な問題があると思われる。本当に支援を必要としている家庭が必要な事業に参加できるような体制を行政・関係機関・地域が連携して取り組み、支援に繋がれることが大切だと思います。また、保護者の考え方、育て方によって子供に与える影響が大きく違ってくると思います。子育てをする保護者への支援として地域で孤立しないように、近くにいつでも気軽に相談出来る人や場所、支援してもらえる情報の提供、子育てを助けてもらえる場所等があればと思います。(主任児童委員)
○学童保育へ入りたくても保育料等がネックになっている場合がある。そういう場合の経済的支援が必要ではないか。また、学童保育のさらなる充実が求められている。待機児童の解消や全小学校区での学童の設置が必要である。(放課後児童クラブ 指導員)
○児童相談所や市町村担当部門は、和歌山県内の貧困状況にある家庭が、今後どのようにより良く生活していくことが最善なのかという具体的なビジョンを持つことが必要だと思います。相談業務に携わる自分たちが、まず誰の為に何をしなければならないのか?そういった意識付けが大切かと。対策として色々な事業があることはわかるが、うまく事業を活用したり運用する力が必要だと感じた。貧困状態にある家庭は、地域から孤立していたり、自分から SOS を出しにくい様子が印象としてあるが、それらの点にいち早く気づいて、必要な支援を届けることが大切だと思う。アウトリーチを積極的に取り入れたり、身近で積極的に相談にのれるようなシステムが大切。(児童相談所 児童福祉司)
○組織的な体制づくりの必要性を強く感じています。リーダーシップを誰かとするのか?支援を行う人や時間の確保、支援を受ける人の周りの方への理解協力も不可欠であると感じます。(小学校 養護教員)

⑧就労支援について (27 件)

貧困問題の根本的な解決に向けた取組として、保護者の就労支援の必要性について指摘されています。個人の状況に応じた就労支援の必要性や、就業環境の改善、保育サービスの必要性等についての意見があります。

主な意見
○子供の貧困＝家庭の貧困であり、保護者の収入を増やすことが一番有効だと思う。家庭の貧困として、①保護者が就労に対して課題がある。②子供等が障害・病気によって十分な就労ができないこともある。特にひとり親で子供が幼いなど。保護者にも発達障害の傾向が見られることも多く、自身の特性を知る機会も必要。(市町村ひとり親家庭担当課 行政職員)
○時給制で仕事をして、月にもらえる金額には限りがある。とても一人分の給料では生活できないし、社会保障もない。正規雇用を増やし、正規雇用してもらえるような環境づくりが大切だと思う。

主な意見
<p>自立できる援助（労働条件の改善）が大切かと思う。とても難しいこととは思いますが。（小学校 養護教員）</p> <p>○支援も必要だとは思いますが、まずは就労してある程度自立して生活できるように保護者に労働意欲と仕事ができる環境を作っていくことが大切。本当に支援が必要なのかを見極めるのが難しいと思います。人に応じた支援プランの作成が必要ではないかと思います。（小学校 養護教員）</p>

⑨その他の保護者の支援について（90件）

保護者の支援について、保護者の孤立を防ぐ取組や、相談支援等、保護者自身の問題を支援する必要性について指摘されています。家庭を営む力の弱い保護者の支援や、保護者自身の育てられ方等に起因する価値観の問題等について、複数の意見があります。

主な意見
<p>○保護者への支援が弱いのではないかと感じます。保護者の方は学校関係者には、なかなか本音を話してくれない。特に担任が保護者より年下の場合はなおさらです。子供の話から、様々な状況がわかっているにもかかわらず、その先へ進めない。保護自身が地域の中で孤立している状況も多く、助けを求めにくい、また助けられないこともあります。保護者が長年抱えている課題も深く、学校関係者だけでは限界があります。行政や地域の中で保護者への支援、関わりが今以上にあればと思います。（小学校 養護教員）</p> <p>○ひとり親家庭は、特に大変だと感じます。中でも周りに頼れる人がいない家庭はもっと大変だと思います。そのような家庭を支援サポートできる取組を続けてほしいです。（小学校 教諭）</p> <p>○親への金銭教育、育児教育等が必要。お金の使い道が間違っている親がいた。貧困家庭ではないのに、子供のためにお金が使われていないケースが数件あった。給食費を払わない、衣服の洗濯しない、食事が手抜き過ぎるなど。（小学校 養護教員）</p> <p>○子供の貧困対策は、結果として「親の改善意識の定着」が重要であると考えます。（市町村保育担当課 行政職員）</p> <p>○親が長時間勤務のため、子供が家事を担うことで学習時間が圧迫されたり、親から「勉強なんかせんでいい」と言われて育つことで、そういう価値観になってしまったりしている。子供が一生懸命頑張っている姿を伝えることで、親にも学習を大切にしてもらおう。（小学校 教諭）</p> <p>○保護者との信頼関係を結んだ上でこまめに家庭に訪問し、生活状況など改善していくことが必要であり、行政が相談担当者の人員を増やすなどの取組が必要。（中学校 養護教員）</p> <p>○親の安定した収入により、気持ちも安定し、子供に対して安定した心で接することが出来るので、まずは親の相談相手になる人が必要になってくると思います。そのためには貧困家庭を把握して、本当に困っている人を助けてほしいと思います。（放課後児童クラブ 指導員）</p>

⑩子供の支援について（34件）

子供の自己肯定感を高める取組や周囲の大人との関係づくり等、家庭で十分に提供されないケアを補完するような取組の必要性について、多くの指摘があります。また、朝食を食べていない子供の支援についても複数の意見があります。

主な意見

- 貧困状況にある家庭は、閉鎖的で介入が難しいことが多い。またその子供は、自己肯定感がとても低く、勉強が苦手で、学校の荒れにつながっているケースが多いと感じている。子供の自己肯定感を育てるような取組はとても大切だと思う。子供の心の安定を図り、学力を向上させ、貧困から抜け出せる力をつけさせていくような取組は、今現在貧困状況にある家庭だけでなく、全ての子供、家庭にとって大切な取組だと思います。（中学校 養護教員）
- 子供には落ち着いて学ぶ機会を与えることが大切だと思います。子供が将来、いろんな選択肢を持つためには、教育が必要であり、考える力をつけることで今の現状を子供なりに理解し、前向きに次の人生に繋げていける手段の一つではと思います（小学校 教諭）
- 貧困の子供と緩くつながって、多くの体験や取組を実施すること。相談相手になる大人が身近にいることが大事。（子供関連 NPO 法人 施設長）
- 貧困家庭は、親が忙しく、子供を放置（ネグレクト的な感じ）しがち。子供自身の心を満たし、力をつけてあげることが大切です。親の行動を変えるのは大変ですが、小学校までの段階なら子供自身に力をつけてあげることが可能です。心が満たされれば、考え方や思考も落ち着き全てにおける力が向上すると思います。子供自身を向上させるには、信頼できる大人との関わりが大切です。小学校の担任が適任です。先生方も忙しいので、大学生やボランティアの退職職員などが放課後宿題を一緒にし、みてあげる等も良いと思います。（小学校 教諭）
- 生活のため家族が遅くまで帰ってこない家で、子供達だけで過ごしている家庭については、子供達を見守ってくれる大人が必要だと感じます。（小学校 その他）
- 朝ごはんを食べて来ていない子供が多い（特に貧困状況にある家庭環境にある子供）。朝ご飯を安い値段で提供できる場所をもっと増やしていただけると、子供の活力にもなり、学力も向上するのではないかと思います。それが、貧困の負のスパイラルから抜け出す糸口になればよいと考えます。（小学校 教諭）
- 朝食を食べられる場所の提供、もしくは朝食の宅配があっても良いと思う。（中学校 養護教員）

⑪支援に共通する課題について（41件）

子供の貧困問題一般の課題として、貧困の連鎖の問題や、将来をイメージできるような機会の提供、虐待等の家庭の問題など様々な指摘があります。

主な意見

- 貧困家庭で育った人が親となり、貧困家庭をつくり・・・という連鎖があるように感じる。子供の学習を支え、自立させることが、連鎖への断ち切りになるのではないかと。（小学校 教諭）
- 学力面に対する支援は必要。しかし生活環境や親の状況によっては、必ずしも学力による仕事選びが発想できないように思う。将来どのような生活をするかを学力と同じようにイメージできるような機会をつくることで、将来を選択できる能力が身に付くように思う。支援が不必要な生活を目指せるようにしてあげたい。（中学校 教諭）
- 貧困状況の中にはネグレクトや虐待などの状況も考えられると思います。命にかかわってくる事態だけは避けられるように取り組んでほしい。（児童福祉施設 保育士）
- 親の身勝手な部分で子供が普通の生活をおくれず、健やかな成長、発達ができていない。家庭が安定していなければ子供にもしわ寄せがくる。（中学校 教諭）
- 貧困家庭という言葉が前に出てくると誰も参加しないと思う。（主任児童委員）

⑫対象の把握について（41件）

支援が必要な対象者の把握や保護者との関係づくりが難しいという意見が多くなっています。保護者との信頼関係の構築や、関係機関の連携の必要性についても多くの意見があります。

主な意見
○デリケートな問題なので本当に支援を必要としている子供の把握が難しいように思います。貧困状況にあり、支援を必要としていると把握する手段や基準があれば…と思います。本人や家庭からSOSが無ければ、こちらから働きかけることが難しいようです。（小学校 養護教員）
○現状把握を早期に行えることが、一番の解決策になる。しかし、貧困を隠し他人から見えないようにすることが多く、学校だけでは対応できない。いろいろな機関と連携・対応することが最も大切なことだと思う。（小学校 教諭）
○家のことを他人に相談できるというのは、よほど信頼関係がある特定な人。特に今は、地域との人間関係が希薄になっている。どこまで支援の手が届くのかにつながっている。乳幼児期から支援を行い、学齢期から青年期まで貧困問題という視点だけでなく家族支援、地域連携など包括的な取り組みを継続していくことが重要である。その中で地域包括支援センターの充実をまず図ること。資金と人材の確保は必須。（児童福祉施設 施設長）
○スマホを持って、きれいな服を着ている、それでも家庭は貧困という場合が沢山あります。目に見える貧困は本当に少ない。目で見える貧困状態（体臭、身だしなみ）になるといじめにつながる危険を感じます。日々の生活に追われ、子供の世話が出来ない保護者も多い。そして、そんな保護者は一様に自ら何かしようというエネルギーが無い人が多いと感じます。支援の制度もややこしかったり面倒だったりして、本当に必要な人たちが、その制度を理解していないことも多くありました。難しいとは思いますが、1対1の対話でしか伝わらないこともあります。支援を行う人手不足を解消すること、支援機関の垣根を超えることが大切だと思います。（中学校 養護教員）

⑬本当に必要な対象に支援を届けることについて（36件）

貧困対策としての支援が、本来必要ではない家庭にも行われているのではないかという疑問や、保護者への支援では子供に届かないことがあるので、子供に直接届く支援が必要といったことについて、意見が多くあがっています。

主な意見
○貧困家庭で援助費等もらっているが、きちんと子供に使われていない。お金の使い方や優先順位が違うので、お金の援助サービスではなく、物的援助サービスの方がよい。居場所づくりは良いと思うが、親子の時間も大切だし、親が他でみてもらえるなら…と仕事するならまだよいが、遊び等そこを活用するのであれば意味がない。（小学校 養護教員）
○貧困がどうかというより、収入の使い方に問題がある親が多いと感じる。収入を増やしても、子供の食事が改善されるのだろうか？食事より煙草や携帯、ゲームにお金が使われている。子供が学習することの大切さを親子共に理解していない。理解できない場合もあり、新しい事業にお金を使うより、実績を上げている適応指導教室を充実させた方がよい。（主任児童委員）
○貧困家庭はどのぐらい貧困なのか？お金がないと言いながら、生活よりも自分たちの楽しみにお金を使ってる。割高になるコンビニを何度も利用したり、携帯、ゲーム、必要以上のものを買い、お出かけしたり。楽しみを持つことは良いことだが、計画性のない方も多いように思う。親の生活を見て、子供たちも親になった時、同じようになってしまう。自分でしっかり考え、お金を使えるよう、子供の頃からの教育、本当に生きた支援が必要になる。お金がもらえる、食事支援も大事なことです。その前に自分で考えて出来ることが大事だと思う。（放課後児童クラブ 指導員）

主な意見
<p>○貧困連鎖が生じ、今後さらなる深刻な状況になると思う。保護者に対する経済的な支援（手当等）よりも、児童（子供）に対して直接的な教育支援（無料塾等）を行った方が良いのではないかと（放課後児童クラブ 施設長）</p> <p>○ひとり親家庭で、しんどい家は増えていると思う。お金の支援は、心配のない家にもいく可能性がある。子供に直接届く支援が必要で、食堂支援や大学生ボランティアが学習指導するなど、貧困のスパイラルから抜け出せるような支援に力を入れるべき。（小学校 教諭）</p>

⑭学校の課題について（30件）

学校については、家庭の問題を把握していても十分な支援ができない、教職員が多忙化しておりこれ以上の支援が困難であるなど、体制面や人的支援の不足に関する意見が多くなっています。

主な意見
<p>○学校の担任から見ると、そもそも仕事が多く、貧困家庭の支援に使える時間がほとんど取れない。ケース会議をしようとしても時間、労力のわりに効果が上がってこない。校内にそういった対応を専門に行えるスタッフを配置してほしい。SSWはほとんど配置されていない、SCも月2回という体制では無理がある。せめて週2回ぐらい、校内に1人、3校に1人の常勤を配置してほしい。（小学校 教諭）</p> <p>○貧困状況にあると学校や地域が把握しても、介入を強く拒否され、介入できないことが多い。子供への直接的な支援以外は学校ではしたことがない。SSW、SC、地域の民生委員さんに介入していただき、事態の悪化を防いだことはありました。しかし改善までには至りません。学校職員が様々な機関と連携すること+αが必要で、それがどのようなものか知る機会を作ってほしい。（小学校 養護教員）</p> <p>○子供への直接的な支援が必要なのは間違いのないことだが、どんな親であれ、子供たちが最も関わってほしいと思っているのも親である。だからこそ、保護者への支援がもっと手厚くあればと感じる。貧困家庭の保護者は様々な「生きづらさ」を抱えていることが多く、お金の上手な使い方がわからなかったり、将来の見通しが持てていないなど、単に経済的な支援だけでは解決は難しい。学校は立場上、家の中までは踏み込めないため、子供の支援はできても、保護者への支援が困難である。できれば子供が就学する前、愛着や基本的な自己肯定感の形成に大切な幼児期に、貧困家庭に寄り添い、支援する仕組みが充実することを願う。（小学校 養護教員）</p> <p>○家庭のしんどさと子供のしんどさ（学力、対人関係）は相関関係にあるように感じる。学校（教員としての立場）から行える支援には、時間や人員面からみても限界があり、苦しい状況。行政の立場から、貧困家庭へのサポートに力を入れてもらいたいと思う。学力の向上のためには貧困家庭を減らすことが必要。（小学校 教諭）</p>

⑮地域での取り組みについて（18件）

地域での支援体制の構築や人のつながりの必要性について、いくつかの意見があげられています。

主な意見
<p>○学校だけでなく、地域で受け入れてもらえる場所や支援の制度がもっと充実出来ればよいと思います。特にひとり親家庭で頼るところのない母親が相談でき、子供をみてる場所があればよいと思います（子供食堂や勉強をみてる人などあればよいのでは。）。（小学校 養護教員）</p>

主な意見
○子供の貧困の原因を明確にしない限り、パッチワーク的に支援を当てはめても何も解決しないと思います。コミュニティが崩壊している現在、そのことを見直すことも含めて社会福祉協議会がもっと頑張ってもらいたいです。地域福祉を推進するという大きな役割が実践できれば子供の貧困も含め、不登校等いろいろな子供の課題が改善すると思います。（スクールソーシャルワーカー）
○最近では子ども会をやめる家庭も多いと聞く。突然の災害が起こった場合も含め、大人が子供達の家の様子を把握したり、子供がコミュニケーションを学ぶ場として、学校と地域の連携策として強化してはどうか。（幼稚園 施設長）
○親子が一緒にいられる居場所づくりも良いのではと思う。貧困状態でありながら、地域とも触れ合える環境等が無ければ特に子供がさみしい思いをするし、子供にとっても親と一緒にというのがうれしい居場所であると思う。（保育所 施設長）
○地域全体で支援していくための体制づくりが大切。（中学校 スクールカウンセラー）

⑩支援者について（27件）

支援する側の人材について、専門性の向上や研修の必要性についての意見が複数あります。

主な意見
○貧困対策を含めた子供等への支援の必要性の認識が足りない気がする。支援には人員・人材が必要で、小規模な市町村や地理的に不利な地域では、圧倒的に人材が不足している。専門員の人材がない上、人員も不足している地域がある。お金よりも人の育成・確保に力を入れ取り組むべき。（市町村保育担当課 行政職員）
○OSSW や SC、適応指導教室の職員の業務量と給料が見合っていない。ボランティアのような状況。貧困対策の最前に立つ人の扱いがこれでは問題解決など無理である。（児童館・隣保館 行政職員）
○子供の貧困については、教職員が現状を知り、その対応についても勉強する機会が必要だと思います。（中学校 養護教員）
○担当職員の質の向上が最大の課題と考えます。様々な子育て支援策がありますが、担当する職員によって、興味本位であったり、守秘義務が守れていなかったり、相談員の立場になって最適な支援をするのではなく、ただのお説教や自己満足的な上から目線の対応に終わり、結局何も解決されないという状況をよく見ます。そして、相手の親、家庭が悪いという結論に。担当する職員の質の向上が最大の課題だと感じています。（認定こども園 施設長）
○貧困家庭の子供の相談をするために、地域の方々（自治会役員、民生委員）に集まっていたきましたが、理解を得られなかったです。子供たちの貧困を知っていただけるよう、地域の方に向けた内容の研修会などをお願いします。保護者への支援について情報提供するためにもいろいろな情報をいただきたいです。（児童館・隣保館 行政職員）
○長期的な支援、深い支援をするために、関係者の専門性が必要。児相や保健所の異動期間をもう少し長いスパンでみてはどうか。担当が変わりまた一からなんてこともあります。（認定こども園 保育士）

⑪その他（33件）

その他の自由記述として、これまでに貧困問題にあまりかかわった経験がない、知識が浅いので勉強したい、といった意見がありました。

V 分析・考察

1. 追加的な分析のための指標の作成について

子供の生活実態調査の結果を、さらに様々な角度から分析するため、調査結果に基づいていくつかの指標を設定します。設定する指標とその算出方法は以下のとおりです。

(1) 子供の状況についての指標

① 自尊感情得点

子供が自分自身を良いところがあると自己評価できているかの指標として、自尊感情得点を設定しました。具体的には以下の質問と回答に基づいて指標を算出しています。

算出に用いる質問と回答	得点化の方法
質問:【子供調査】あなたの思いや気持ちについて、もっとも近いものに○をつけてください。 ①自分には、良いところがある ②将来の夢や目標をもっている ③がんばれば、いいことがある ④自分は家族に大事にされている ⑤自分の将来が楽しみだ ⑥自分のことが好きだ	①～⑥のそれぞれについて、回答を以下のように点数化します。 そう思う:3点 どちらかといえばそう思う:2点 どちらかといえばそう思わない:1点 そう思わない:0点 ①～⑥の点数を合算した合計得点が16点以上を自尊感情高、12～15点を中、11点以下を低とします。

② 友人関係得点

友人との関係をうまく結べていると感じているかどうかの指標として、友人関係得点を設定しました。具体的には以下の質問と回答に基づいて指標を算出しています。

算出に用いる質問と回答	得点化の方法
質問:【子供調査】あなたと友だちの関係について、どのように思いますか。もっとも近いものに○をつけてください。 ①友だちといっしょによく遊んでいる ②友だちと仲良くしている ③友だちに好かれている	①～③のそれぞれについて、回答を以下のように点数化します。 とてもそう思う:3点 そう思う:2点 あまりそう思わない:1点 そう思わない:0点 ①～③の点数を合算した合計得点が8点以上を友人関係高、6～7点を中、5点以下を低とします。

③精神的充実得点

子供が普段の生活において精神的に充実していると感じられているかどうかの指標として、精神的充実得点を設定しました。具体的には以下の質問と回答に基づいて指標を算出しています。

算出に用いる質問と回答	得点化の方法
<p>質問：【子供調査】わたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。この1週間はどんな1週間だったか、あてはまるところに○をつけてください。</p> <p>①楽しみにしていることがたくさんあった ②とても良く眠れた ③遊びに出かけた ④がんばろうという気持ちになった ⑤楽しく食事をとれた ⑥自分の気持ちを他の人に伝えられた ⑦やろうと思ったことがうまくできた ⑧楽しく家族と話をした ⑨落ち込んでいてもすぐに元気になれた ⑩泣きたいような気がした ⑪逃げ出したいような気がした ⑫おなかが痛くなることがあった ⑬生きていても仕方がないと思った ⑭こわい夢を見た ⑮独りぼっちの気がした ⑯とてもつらい気がした ⑰とても退屈な気がした</p>	<p>①～⑨のそれぞれについては、回答を以下のように点数化します。</p> <p>いつもそうだ：2点 時々そうだ：1点 そんなことはない：0点</p> <p>また、⑩～⑰のそれぞれについては、以下のように点数化します。</p> <p>いつもそうだ：0点 時々そうだ：1点 そんなことはない：2点</p> <p>①～⑰の点数を合算した、合計得点が29点以上を精神的充実高、23～28点を中、22点以下を低とします。</p>

④学業態度得点

子供が学校や勉強に対して前向きな姿勢を持っているかどうかの指標として、学業態度得点を設定しました。具体的には以下の質問と回答に基づいて指標を算出しています。

算出に用いる質問と回答	得点化の方法
<p>質問：【子供調査】あなたの学校生活についてお尋ねします。次の項目について「楽しみ」から「楽しみではない」の中からもっとも近いものに○をつけてください。</p> <p>①毎日学校に通うこと ②学校の授業 ③先生に会うこと</p> <p>④質問：【子供調査】あなたは、学校の宿題をしていますか ⑤質問：【子供調査】あなたはふだん、学校のきまりを守っていますか。</p>	<p>①～③のそれぞれについて、回答を以下のように点数化します。</p> <p>楽しみ：3点 やや楽しみ：2点 あまり楽しみではない：1点 楽しみではない：0点</p> <p>④～⑤のそれぞれについて、回答を以下のように点数化します（括弧内は⑤の質問の選択肢）。</p> <p>している（守っている）：3点 だいたいしている（だいたい守っている）：2点 あまりしていない（あまり守っていない）：1点 まったくしていない（まったく守っていない）：0点</p> <p>①～⑤の点数を合算した合計得点が13点以上を学業態度高、10～12点を中、9点以下を低とします。</p>

⑤生活習慣得点

基本的な日常生活習慣ができているかどうかの指標として生活習慣得点を設定しました。具体的には以下の質問と回答に基づいて指標を算出しています。

算出に用いる質問と回答	得点化の方法
質問①:【子供調査】あなたは、学校がある日はだいたい朝何時ごろに起きますか。	質問① 決まっていない:0点 上記以外:1点
質問②:【子供調査】あなたは、次の日に学校がある日は、だいたい何時ごろに寝ますか。	質問② 決まっていない:0点 上記以外:1点
質問③:【子供調査】あなたは、歯磨きや入浴(風呂、シャワー)をしますか。 A 歯磨き B 入浴	質問③ A 歯磨き 毎日2回以上する:2点 毎日1回する:1点 上記以外:0点 B 入浴 毎日2回以上する:2点 毎日1回する:2点 する日の方が多い:1点 上記以外:0点
質問④:あなたはふだん、朝ごはんを食べますか。	質問④ いつも食べる:2点 食べるほうが多い:1点 上記以外:0点 質問①～④の点数を合算した合計得点が8点を生活習慣高、7点を中、6点以下を低とします。

(2) 家庭・保護者の状況についての指標

①文化的活動得点

家庭において文化的な活動や体験をどの程度子供がしているかの指標として、文化活動得点を設定しました。具体的には以下の質問と回答に基づいて指標を算出しています。

算出に用いる質問と回答	得点化の方法
<p>質問:【子供調査】あなたの家では、下に書いてあるようなことをすること(したこと)がありますか。ふだんすること(したこと)があるものすべてに○をしてください。</p> <p>①小さいころに本や絵本を読んでもらう ②手作りのおやつをつくる ③図書館に行く ④動物園や水族館に行く ⑤博物館や美術館に行く ⑥音楽会やコンサートに行く ⑦映画や演劇を観に行く ⑧新聞やニュースについて話す ⑨パソコンやインターネットで調べものをする ⑩学校の行事に家族が来る ⑪地域の行事に参加する ⑫泊まりで家族旅行に行く ⑬祖父母や親せきの家に遊びに行く</p>	<p>①～⑬について、選択された数を得点とします。</p> <p>11 点以上を文化活動高、8～10 点を中、7 点以下を低とします。</p>

②教育姿勢得点

保護者が子供に対して教育的な働きかけや態度をとっているかどうかの指標として、教育姿勢得点を設定しました。具体的には以下の質問と回答に基づいて得点を算出しています。

算出に用いる質問と回答	得点化の方法
<p>質問:【保護者調査】あなたのご家庭では、お子さんに対して、次のことをしていますか。</p> <p>①お子さんの良いところをほめるなどして自信を持たせるようにしている ②お子さんが悪いことをしたらきちんとしかっている ③お子さんに本や新聞を読むようにすすめている ④お子さんと読んだ本の感想を話し合ったりしている ⑤お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをした ⑥お子さんに「勉強しなさい」とよく言っている ⑦やるべき事ができるまで何度も細かく指示する ⑧お子さんが英語や外国の文化に触れるよう意識している ⑨お子さんの心配事や悩みごとの相談によく乗っている</p>	<p>①～⑨のそれぞれについて、回答を以下のように点数化します。</p> <p>あてはまる:3点 どちらかといえばあてはまる:2点 どちらかといえばあてはまらない:1点 あてはまらない:0点</p> <p>①～⑥の点数を合算した合計得点が 20 点以上を教育姿勢高、16～19 点を中、15 点以下を低とします。</p>

③ K 6 得点（精神的健康得点）

保護者調査には、K 6 得点という、メンタルヘルスの状態を判定するために用いられる指標を算出するための質問が含まれています。そこで、保護者の精神的健康の状態を示す指標として、K 6 得点（精神的健康指標）を設定しました。具体的には以下の質問と回答に基づいて得点を算出しています。

算出に用いる質問と回答	得点化の方法
<p>質問：【保護者調査】あなたは過去1か月の間に、次のようなことがどれくらいありましたか。</p> <p>①ささいなことでも気になった ②絶望的だと感じた ③そわそわ、落ち着かなく感じた ④気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた ⑤何をするのも面倒だと感じた ⑥自分は価値のない人間だと感じた</p>	<p>①～⑥のそれぞれについて、回答を以下のように点数化します。</p> <p>いつも：4点 たいてい：3点 ときどき：2点 少しだけ：1点 全くない：0点</p> <p>①～⑥の点数を合算した合計得点について、K6得点では5点以上で高ストレス状態を示唆するとされています。そこで、1点以下を精神的健康高、2～4点を中、5点以上を低とします。</p>

④ 家族以外の大人との関わり

家庭・保護者の状況ではありませんが、子供が家族以外の大人との関わりをどの程度持っているかの指標として設定しました。具体的には以下の質問と回答に基づいて得点を算出しています。

算出に用いる質問と回答	得点化の方法
<p>質問：【子供調査】あなたはふだん、困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、他の人にどれくらい話しますか。</p> <p>①学校の先生 ②子ども会、その他施設の先生 ③その他の大人（近所の大人や塾・習いごとの先生など）</p>	<p>①～③のそれぞれについて、回答を以下のように点数化します。</p> <p>よく話す：1点 時々話す：1点 あまり話さない：0点 ぜんぜん話さない：0点</p>
<p>質問：【子供調査】勉強がわからないときは、だれに教えてもらいますか</p> <p>④学校の先生 ⑤子ども会、その他施設の先生 ⑥塾や習いごとの先生 ⑦その他の大人</p>	<p>④～⑦について、選択された数を得点とします。</p> <p>①～⑦の点数を合算した合計得点が2点以上を高、1点を中、0点を低とします。</p>

2. 家庭の状況別に見た子供の状況について

(1) 学校の授業について

①通塾の有無別に見た授業の状況

世帯区分別、通塾の有無別に授業の状況をみると、全体的に通塾をしている子供のほうが「いつもわかる」割合が高い傾向が見られます。

全体と経済的困難世帯の比較では、小学5年生、中学2年生共に全体・通塾なしより、経済的困難世帯・通塾ありの方が「いつもわかる」が多くなっており、小学5年生の方が中学2年生より差が大きくなっています。

また、所得段階ⅠとⅢの比較では、小学5年生では、所得段階Ⅰ・通塾なしより、所得段階Ⅲ・通塾ありの方が「いつもわかる」が多くなっていますが、中学2年生では、所得段階Ⅰ・通塾なしの方が「いつもわかる」がやや多くなっています。

中学2年生になると、通塾の有無より、家庭の経済状況の方が、授業の状況との関連が強くなっていることがうかがえます。

■世帯区分別・通塾の有無別にみた授業の状況

	世帯類型	通塾の有無	件数	あなたは、学校の授業がわかりますか													
				わ か る	い つ も	る い わ か	だ い た	え な い	と も い	ど ち ら	な い	わ か ら な い	あ ま り	ら な い	ど わ か	ほ と ん	・ 不 明
小学5年生	全体	全体	3,768	40.5	46.7	6.3	3.4	0.7	2.3								
		あり	1,519	51.8	39.0	4.6	2.2	0.4	2.0								
		なし	2,102	33.2	52.1	7.5	4.4	0.9	1.9								
	所得段階Ⅰ	全体	1,714	47.5	43.4	4.4	2.2	0.4	2.1								
		あり	836	57.2	35.0	3.5	1.6	0.2	2.5								
		なし	822	38.2	51.9	5.2	2.9	0.5	1.2								
	所得段階Ⅱ	全体	1,314	33.6	51.4	7.5	4.3	0.7	2.4								
		あり	449	43.2	45.9	5.8	3.6	0.2	1.3								
		なし	821	29.0	54.8	8.3	4.8	0.7	2.4								
	所得段階Ⅲ	全体	388	32.7	50.8	6.7	5.9	2.3	1.5								
		あり	102	43.1	45.1	6.9	2.0	2.0	1.0								
		なし	263	29.3	51.3	7.2	8.0	2.3	1.9								
経済的困難世帯	全体	610	31.0	49.8	7.9	7.0	1.6	2.6									
	あり	163	41.7	44.8	7.4	3.7	1.2	1.2									
	なし	415	28.2	50.6	8.4	8.7	1.4	2.7									
中学2年生	全体	全体	3,215	25.6	53.7	11.4	5.6	1.7	1.9								
		あり	1,940	28.0	55.5	9.0	4.5	1.3	1.6								
		なし	1,172	22.0	51.7	15.2	7.1	2.4	1.6								
	所得段階Ⅰ	全体	1,534	28.9	54.8	9.5	4.1	0.9	1.8								
		あり	1,008	30.2	56.2	7.8	3.9	0.6	1.4								
		なし	483	26.5	53.6	12.0	4.3	1.4	2.1								
	所得段階Ⅱ	全体	1,032	23.4	54.7	11.3	6.4	2.3	1.8								
		あり	598	25.9	57.4	8.4	4.0	2.0	2.3								
		なし	402	19.7	51.2	15.7	9.5	3.0	1.0								
	所得段階Ⅲ	全体	342	16.4	52.9	18.1	8.8	3.2	0.6								
		あり	163	22.7	52.8	12.3	7.4	4.3	0.6								
		なし	168	11.3	53.0	23.2	10.1	2.4	0.0								
経済的困難世帯	全体	550	17.5	51.3	15.6	9.8	4.2	1.6									
	あり	271	23.2	52.4	12.5	5.9	4.4	1.5									
	なし	264	12.1	49.6	19.3	13.6	4.2	1.1									

②保護者の教育姿勢別に見た授業の状況

保護者の教育姿勢についても、授業の状況との関連が見られます。経済的困難世帯であっても保護者の教育姿勢が高い場合は、学校の授業が「いつもわかる」と回答した子供の割合が小学5年生、中学2年生ともに全体の教育姿勢低の割合より高くなっており、良いところを褒める、悪いことをしたらきちんと叱るといった保護者の教育姿勢が強く関連していることがうかがえます。

■世帯区分別・教育姿勢得点別にみた授業の状況

	世帯類型	教育姿勢	件数	あなたは、学校の授業がわかりますか					
				わい つも わか る	るい だわ いか た	えと どち らい ら	なわ あま り	らど ほと かん	・無 不明 回答
小学5年生	全体	全体	3,768	40.5	46.7	6.3	3.4	0.7	2.3
		高	1,313	48.6	42.5	4.2	2.1	0.4	2.3
		中	1,406	39.0	49.2	5.4	3.8	0.6	1.9
		低	935	32.3	49.5	10.2	4.3	1.6	2.1
	所得段階Ⅰ	全体	1,714	47.5	43.4	4.4	2.2	0.4	2.1
		高	705	54.6	38.3	3.0	1.8	0.0	2.3
		中	631	45.3	46.9	4.3	1.6	0.3	1.6
		低	351	37.9	47.3	7.4	4.0	1.1	2.3
	所得段階Ⅱ	全体	1,314	33.6	51.4	7.5	4.3	0.7	2.4
		高	390	39.0	49.7	5.1	3.1	0.3	2.8
		中	516	33.5	52.3	7.0	4.8	0.4	1.9
		低	375	28.8	52.3	10.4	4.8	1.6	2.1
	所得段階Ⅲ	全体	388	32.7	50.8	6.7	5.9	2.3	1.5
		高	108	40.7	50.9	3.7	1.9	1.9	0.9
		中	135	31.9	53.3	3.7	8.9	1.5	0.7
		低	139	26.6	49.6	12.2	5.0	3.6	2.9
	経済的困難世帯	全体	610	31.0	49.8	7.9	7.0	1.6	2.6
		高	162	38.9	45.1	8.0	4.3	0.6	3.1
		中	218	28.0	53.7	6.0	9.6	0.9	1.8
		低	214	28.0	50.0	9.3	6.5	3.3	2.8
	中学2年生	全体	全体	3,215	25.6	53.7	11.4	5.6	1.7
高			794	30.4	53.0	8.9	4.7	1.5	1.5
中			1,188	26.5	55.5	10.0	5.0	1.3	1.8
低			1,159	21.5	53.1	14.4	6.8	2.2	2.0
所得段階Ⅰ		全体	1,534	28.9	54.8	9.5	4.1	0.9	1.8
		高	450	32.0	54.7	7.1	3.6	0.7	2.0
		中	590	29.2	54.2	10.0	4.1	1.0	1.5
		低	477	26.0	56.2	10.7	4.2	1.0	1.9
所得段階Ⅱ		全体	1,032	23.4	54.7	11.3	6.4	2.3	1.8
		高	224	29.9	50.0	9.8	6.3	2.7	1.3
		中	380	24.5	57.9	8.9	5.5	1.1	2.1
		低	411	18.5	54.7	14.1	7.5	3.2	1.9
所得段階Ⅲ		全体	342	16.4	52.9	18.1	8.8	3.2	0.6
		高	60	21.7	60.0	10.0	6.7	1.7	0.0
		中	108	17.6	56.5	14.8	8.3	2.8	0.0
		低	167	13.2	47.9	24.0	10.2	3.6	1.2
経済的困難世帯		全体	550	17.5	51.3	15.6	9.8	4.2	1.6
		高	94	25.5	50.0	11.7	6.4	4.3	2.1
		中	193	18.1	57.0	12.4	8.8	2.6	1.0
		低	252	13.5	47.6	20.2	11.9	4.8	2.0

教育姿勢得点①～⑨のうちどの項目が、学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合に影響を与えているかを把握するため、「当該項目にあてはまる場合」と「あてはまらない場合」における「学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合」の差が大きい項目を確認しました。

小学5年生では、全体及び経済的困難世帯ともに「悪いことをしたらきちんとしかっている」が最も差が大きい項目となっています。また、中学2年生では、全体では「良いところをほめる」が最も差が大きい項目であり、経済的困難世帯では「本や新聞を読むようにすすめている」が最も差が大きくなっています。

■教育姿勢得点の項目別の「授業がいつもわかる」と回答した子供の割合の差（％）

小学5年生		中学2年生	
全体		全体	
②お子さんが悪いことをしたらきちんとしかっている	20.8	①お子さんの良いところをほめるなどして自信を持たせるようにしている	9.3
③お子さんに本や新聞を読むようにすすめている	12.3	④お子さんと読んだ本の感想を話し合ったりしている	7.9
⑧お子さんが英語や外国の文化に触れるよう意識している	10.3	⑧お子さんが英語や外国の文化に触れるよう意識している	7.8
④お子さんと読んだ本の感想を話し合ったりしている	9.8	③お子さんに本や新聞を読むようにすすめている	7.6
⑤お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをした	8.9	⑤お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをした	6.1
①お子さんの良いところをほめるなどして自信を持たせるようにしている	7.4	②お子さんが悪いことをしたらきちんとしかっている	2.6
⑨お子さんの心配事や悩みごとの相談によく乗っている	3.7	⑨お子さんの心配事や悩みごとの相談によく乗っている	0.8
⑥お子さんに「勉強しなさい」とよく言っている	0.5	⑦やるべき事ができるまで何度も細かく指示する	-1.9
⑦やるべき事ができるまで何度も細かく指示する	-1.2	⑥お子さんに「勉強しなさい」とよく言っている	-6.0
うち経済的困難世帯		うち経済的困難世帯	
②お子さんが悪いことをしたらきちんとしかっている	16.9	③お子さんに本や新聞を読むようにすすめている	8.4
⑧お子さんが英語や外国の文化に触れるよう意識している	8.5	④お子さんと読んだ本の感想を話し合ったりしている	7.5
③お子さんに本や新聞を読むようにすすめている	8.2	①お子さんの良いところをほめるなどして自信を持たせるようにしている	6.2
⑨お子さんの心配事や悩みごとの相談によく乗っている	5.5	⑧お子さんが英語や外国の文化に触れるよう意識している	6.2
④お子さんと読んだ本の感想を話し合ったりしている	5.2	⑤お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをした	5.9
①お子さんの良いところをほめるなどして自信を持たせるようにしている	3.7	⑦やるべき事ができるまで何度も細かく指示する	0.4
⑤お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをした	2.5	⑥お子さんに「勉強しなさい」とよく言っている	-0.6
⑦やるべき事ができるまで何度も細かく指示する	2.2	②お子さんが悪いことをしたらきちんとしかっている	-0.7
⑥お子さんに「勉強しなさい」とよく言っている	-5.1	⑨お子さんの心配事や悩みごとの相談によく乗っている	-1.7

③子供の進学希望別に見た授業の状況

通塾の有無以上に授業の状況と関連が強いのが、子供の進学希望です。小学5年生だけでなく中学2年生の段階でも、全体での中等教育希望より、経済的困難世帯で高等教育希望の方が「いつもわかる」と回答した割合が高くなっています。これは、所得段階Ⅰと所得段階Ⅲとの比較でも同じ傾向であり、進路の意識が世帯の経済状況による差以上に、授業の状況に強く関連していることがうかがえます。

■世帯区分別・子供の進学希望別にみた授業の状況

	世帯類型	進学希望	件数	あなたは、学校の授業がわかりますか					
				いつもわかる	だいたいわかる	いえない	どちらともいえない	あまりわからない	ほとんどわからない
小学5年生	全体	全体	3,768	40.5	46.7	6.3	3.4	0.7	2.3
		高	1,407	55.1	38.6	2.7	1.8	0.1	1.8
		中	1,146	29.8	53.6	7.8	5.2	1.3	2.3
	所得段階Ⅰ	全体	1,714	47.5	43.4	4.4	2.2	0.4	2.1
		高	789	59.7	34.9	2.4	1.0	0.0	2.0
		中	428	34.6	53.7	5.8	3.7	0.7	1.4
	所得段階Ⅱ	全体	1,314	33.6	51.4	7.5	4.3	0.7	2.4
		高	406	47.0	46.3	3.0	3.0	0.0	0.7
		中	468	25.4	55.1	9.0	6.4	1.1	3.0
	所得段階Ⅲ	全体	388	32.7	50.8	6.7	5.9	2.3	1.5
		高	95	45.3	46.3	1.1	5.3	0.0	2.1
		中	145	28.3	53.8	7.6	5.5	3.4	1.4
経済的困難世帯	全体	610	31.0	49.8	7.9	7.0	1.6	2.6	
	高	142	47.9	43.7	2.8	4.2	0.0	1.4	
	中	240	27.1	51.3	8.3	8.8	2.5	2.1	
中学2年生	全体	全体	3,215	25.6	53.7	11.4	5.6	1.7	1.9
		高	1,531	36.1	52.1	6.3	3.4	0.8	1.3
		中	921	15.9	56.2	14.8	8.3	2.7	2.2
	所得段階Ⅰ	全体	1,534	28.9	54.8	9.5	4.1	0.9	1.8
		高	896	36.7	52.3	6.4	2.6	0.7	1.3
		中	311	19.0	58.8	12.5	5.5	1.3	2.9
	所得段階Ⅱ	全体	1,032	23.4	54.7	11.3	6.4	2.3	1.8
		高	420	35.0	53.1	4.5	5.2	0.5	1.7
		中	351	13.1	58.7	14.5	8.3	3.7	1.7
	所得段階Ⅲ	全体	342	16.4	52.9	18.1	8.8	3.2	0.6
		高	85	28.2	55.3	8.2	4.7	3.5	0.0
		中	164	15.2	51.8	17.7	11.6	3.0	0.6
経済的困難世帯	全体	550	17.5	51.3	15.6	9.8	4.2	1.6	
	高	168	31.5	54.8	4.8	7.1	1.8	0.0	
	中	233	13.3	47.6	19.7	11.6	5.6	2.1	

※進学希望「高」は高等教育段階（短大・高専・大学・大学院）までを希望、「中」は中等教育段階（中学・高校・高校卒業後の専門学校）までを希望。

④子供の学業態度別に見た授業の状況

子供の学業態度についても、授業の状況との関連が強くなっています。小学5年生、中学2年生共に所得段階Ⅲ、経済的困難世帯では、学業態度「低」の場合に、「あまりわからない」「ほとんどわからない」と回答した割合が高くなっています。

■世帯区分別・学業態度得点別にみた授業の状況

	世帯類型	学業態度	件数	あなたは、学校の授業がわかりますか					
				いつもわかる	か だいたいわ	いえない どちらとも	あまりわ らない	ほとん どわ からない	無 ・不明 回答
小学5年生	全体	全体	3,768	40.5	46.7	6.3	3.4	0.7	2.3
		高	1,601	54.2	40.5	3.2	1.8	0.2	0.2
		中	1,425	34.9	53.7	6.9	3.8	0.3	0.4
		低	560	22.3	52.5	13.8	8.0	3.0	0.4
	所得段階Ⅰ	全体	1,714	47.5	43.4	4.4	2.2	0.4	2.1
		高	785	59.0	37.1	2.5	1.1	0.1	0.1
		中	630	41.7	50.5	4.4	3.0	0.2	0.2
		低	219	32.0	51.1	11.0	4.1	1.8	0.0
	所得段階Ⅱ	全体	1,314	33.6	51.4	7.5	4.3	0.7	2.4
		高	528	48.7	45.1	3.8	1.9	0.2	0.4
		中	513	27.5	58.1	9.2	4.1	0.4	0.8
		低	215	13.5	58.1	13.5	12.1	2.3	0.5
	所得段階Ⅲ	全体	388	32.7	50.8	6.7	5.9	2.3	1.5
		高	150	48.0	41.3	4.7	5.3	0.7	0.0
		中	154	26.6	61.7	5.2	5.2	0.6	0.6
		低	66	15.2	47.0	16.7	10.6	9.1	1.5
	経済的困難世帯	全体	610	31.0	49.8	7.9	7.0	1.6	2.6
		高	217	47.9	40.1	6.0	5.5	0.0	0.5
中		251	24.7	59.4	9.2	5.6	0.4	0.8	
低		107	14.0	51.4	10.3	15.9	7.5	0.9	
中学2年生	全体	全体	3,215	25.6	53.7	11.4	5.6	1.7	1.9
		高	951	42.4	50.7	4.4	1.9	0.3	0.3
		中	1,264	22.5	61.6	10.9	4.4	0.6	0.0
		低	854	13.2	49.9	20.1	11.5	5.2	0.1
	所得段階Ⅰ	全体	1,534	28.9	54.8	9.5	4.1	0.9	1.8
		高	473	45.2	50.3	2.7	1.1	0.2	0.4
		中	607	25.0	61.8	9.4	3.5	0.3	0.0
		低	386	17.1	53.1	17.9	9.1	2.8	0.0
	所得段階Ⅱ	全体	1,032	23.4	54.7	11.3	6.4	2.3	1.8
		高	295	40.7	49.8	5.4	3.1	0.7	0.3
		中	417	19.9	64.0	10.1	5.3	0.7	0.0
		低	275	10.9	51.3	19.3	11.6	6.9	0.0
	所得段階Ⅲ	全体	342	16.4	52.9	18.1	8.8	3.2	0.6
		高	87	32.2	57.5	6.9	3.4	0.0	0.0
		中	131	15.3	61.8	18.3	3.8	0.8	0.0
		低	112	6.3	41.1	26.8	17.9	8.0	0.0
	経済的困難世帯	全体	550	17.5	51.3	15.6	9.8	4.2	1.6
		高	132	36.4	54.5	5.3	3.0	0.8	0.0
中		208	14.4	61.5	15.9	6.3	1.9	0.0	
低		191	8.9	40.3	23.6	17.8	9.4	0.0	

⑤文化的活動の状況別に見た授業の状況

文化的活動の状況についても、授業の状況との関連が見られます。特に小学5年生では、所得段階より文化的活動の状況の方が、授業の状況と関連が強いことがうかがえます。一方で中学2年生では、文化的活動の状況と授業の状況との関連は、小学5年生より弱くなっています。

■世帯区分別・文化的活動の状況別に見た授業の状況

	世帯類型	文化的活動	件数	あなたは、学校の授業がわかりますか						
				か る い つ も わ	わ か る だ い たい	な い と も い え	ど ち ら	な い わ か ら り	な い わ か ら ど	ほ と ん ど ・ 不 明 無 回 答
小学5年生	全体	全体	3,768	40.5	46.7	6.3	3.4	0.7	2.3	
		高	1,372	51.1	41.5	4.2	2.3	0.3	0.5	
		中	1,154	37.1	52.0	6.6	3.0	1.0	0.3	
		低	1,151	33.5	50.5	8.8	5.3	1.0	0.9	
	所得段階Ⅰ	全体	1,714	47.5	43.4	4.4	2.2	0.4	2.1	
		高	733	57.8	36.6	3.8	1.6	0.0	0.1	
		中 低	529 412	42.3 38.6	50.1 50.7	4.7 5.6	1.9 3.6	0.6 0.7	0.4 0.7	
	所得段階Ⅱ	全体	1,314	33.6	51.4	7.5	4.3	0.7	2.4	
		高	456	40.8	49.1	5.0	3.3	0.4	1.3	
		中 低	391 437	32.0 29.1	55.8 52.4	7.2 11.0	3.8 6.2	1.0 0.7	0.3 0.7	
	所得段階Ⅲ	全体	388	32.7	50.8	6.7	5.9	2.3	1.5	
		高	76	51.3	43.4	1.3	2.6	1.3	0.0	
		中 低	128 177	32.0 26.0	51.6 54.8	8.6 7.3	5.5 7.9	2.3 2.8	0.0 1.1	
	経済的困難世帯	全体	610	31.0	49.8	7.9	7.0	1.6	2.6	
		高	151	40.4	47.7	4.0	6.6	0.7	0.7	
		中 低	182 265	26.4 29.8	54.9 49.1	11.0 7.9	4.9 9.1	1.6 2.3	1.1 1.9	
	中学2年生	全体	全体	3,215	25.6	53.7	11.4	5.6	1.7	1.9
			高	1,205	30.8	51.8	11.0	5.0	1.5	0.0
中			891	24.8	57.1	11.3	4.7	1.9	0.1	
低			1,048	21.8	56.2	12.2	7.2	1.8	0.9	
所得段階Ⅰ		全体	1,534	28.9	54.8	9.5	4.1	0.9	1.8	
		高	662	32.2	53.0	10.7	3.0	1.1	0.0	
		中 低	411 430	28.0 26.0	59.1 56.7	7.8 9.3	4.4 5.8	0.5 1.2	0.2 0.9	
所得段階Ⅱ		全体	1,032	23.4	54.7	11.3	6.4	2.3	1.8	
		高	350	31.4	48.0	10.9	8.0	1.7	0.0	
		中 低	288 373	23.3 17.2	58.0 61.1	12.2 11.5	3.1 7.8	3.5 1.9	0.0 0.5	
所得段階Ⅲ		全体	342	16.4	52.9	18.1	8.8	3.2	0.6	
		高	86	16.3	60.5	10.5	9.3	3.5	0.0	
		中 低	103 147	15.5 17.0	52.4 51.0	19.4 21.1	8.7 8.2	3.9 2.7	0.0 0.0	
経済的困難世帯		全体	550	17.5	51.3	15.6	9.8	4.2	1.6	
		高	137	27.7	51.1	9.5	8.0	3.6	0.0	
		中 低	159 243	17.0 12.8	52.8 52.7	15.7 18.9	8.2 11.5	6.3 3.3	0.0 0.8	

文化的活動得点①～⑬のうちどの項目が、学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合に影響を与えているかを把握するため、「当該項目にあてはまる場合」と「あてはまらない場合」における「学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合」の差が大きい項目を確認しました。

小学5年生では「図書館に行く」、中学2年生では「新聞やニュースについて話す」が最も差が大きい項目となっています。

■文化的活動得点の項目別の「授業がいつもわかると回答した子供の割合」の差（％）

小学5年生		中学2年生	
全体		全体	
③図書館に行く	13.3	⑧新聞やニュースについて話す	8.5
⑤博物館や美術館に行く	11.4	⑫泊まりで家族旅行に行く	7.7
⑥音楽会やコンサートに行く	11.3	⑤博物館や美術館に行く	7.3
①小さいころに本や絵本を読んでもらう	11.0	⑪地域の行事に参加する	6.6
⑫泊まりで家族旅行に行く	10.9	③図書館に行く	5.6
⑨パソコンやインターネットで調べものをする	8.6	①小さいころに本や絵本を読んでもらう	5.5
⑧新聞やニュースについて話す	8.5	⑩学校の行事に家族が来る	5.5
④動物園や水族館に行く	8.2	⑬祖父母や親せきの家に遊びに行く	4.9
⑬祖父母や親せきの家に遊びに行く	8.1	④動物園や水族館に行く	4.2
⑪地域の行事に参加する	7.6	⑨パソコンやインターネットで調べものをする	3.8
⑦映画や演劇を観に行く	6.9	⑦映画や演劇を観に行く	2.9
⑩学校の行事に家族が来る	6.1	⑥音楽会やコンサートに行く	1.3
②手作りのおやつをつくる	4.7	②手作りのおやつをつくる	-1.4
うち経済的困難世帯		うち経済的困難世帯	
⑦映画や演劇を観に行く	11.8	⑤博物館や美術館に行く	12.9
③図書館に行く	8.6	⑪地域の行事に参加する	12.2
⑨パソコンやインターネットで調べものをする	8.4	③図書館に行く	10.5
⑪地域の行事に参加する	8.4	④動物園や水族館に行く	9.0
④動物園や水族館に行く	7.6	⑨パソコンやインターネットで調べものをする	8.6
⑥音楽会やコンサートに行く	6.8	⑧新聞やニュースについて話す	7.6
⑤博物館や美術館に行く	5.9	⑥音楽会やコンサートに行く	7.4
⑩学校の行事に家族が来る	3.8	⑦映画や演劇を観に行く	6.1
①小さいころに本や絵本を読んでもらう	3.6	⑬祖父母や親せきの家に遊びに行く	5.9
⑬祖父母や親せきの家に遊びに行く	2.9	①小さいころに本や絵本を読んでもらう	4.6
⑧新聞やニュースについて話す	2.0	⑫泊まりで家族旅行に行く	4.2
②手作りのおやつをつくる	1.4	⑩学校の行事に家族が来る	3.5
⑫泊まりで家族旅行に行く	-0.1	②手作りのおやつをつくる	2.9

⑥子供の自尊感情と授業の状況

子供の自尊感情と授業の状況の間にも、強い関連がみられます。いずれの世帯区分においても、自尊感情が高いほど「いつもわかる」が多く、「あまりわからない」または「ほとんどわからない」が少なくなっています。

■世帯区分別・子供の自尊感情別にみた授業の状況

	世帯類型	子供の自尊感情	件数	あなたは、学校の授業がわかりますか						
				いつもわかる	わかる	だいたい	わからない	どちらともいえない	わからない	あまりわからない
小学5年生	全体	全体	3,768	40.5	46.7	6.3	3.4	0.7	2.3	
		高	1,736	50.3	42.0	3.3	2.0	0.3	2.1	
		中	1,269	35.5	51.1	7.2	3.6	0.7	1.8	
		低	622	25.6	51.4	12.2	7.1	1.9	1.8	
	所得段階Ⅰ	全体	1,714	47.5	43.4	4.4	2.2	0.4	2.1	
		高	870	55.7	38.0	2.6	1.3	0.1	2.2	
		中	530	43.4	47.4	5.1	2.5	0.2	1.5	
	所得段階Ⅱ	全体	1,314	33.6	51.4	7.5	4.3	0.7	2.4	
		高	557	43.6	47.8	3.8	2.9	0.0	2.0	
		中	478	28.7	55.4	8.8	4.4	0.6	2.1	
	所得段階Ⅲ	全体	388	32.7	50.8	6.7	5.9	2.3	1.5	
		高	159	42.8	46.5	3.1	3.1	2.5	1.9	
		中	132	26.5	58.3	7.6	5.3	1.5	0.8	
	経済的困難世帯	全体	610	31.0	49.8	7.9	7.0	1.6	2.6	
		高	245	38.8	49.0	4.1	3.7	1.2	3.3	
		中	211	28.4	52.1	10.0	7.6	0.9	0.9	
	中学2年生	全体	全体	3,215	25.6	53.7	11.4	5.6	1.7	1.9
			高	1,005	40.5	49.1	5.9	2.4	0.7	1.5
			中	1,138	23.0	60.5	9.6	4.7	0.8	1.5
			低	961	13.7	52.3	18.7	9.7	4.0	1.6
		所得段階Ⅰ	全体	1,534	28.9	54.8	9.5	4.1	0.9	1.8
高			514	43.6	49.4	4.5	1.2	0.6	0.8	
中			551	25.6	61.3	8.2	3.3	0.0	1.6	
所得段階Ⅱ		全体	1,032	23.4	54.7	11.3	6.4	2.3	1.8	
		高	302	39.4	48.3	6.3	3.0	0.3	2.6	
		中	375	20.8	61.3	8.8	5.6	1.9	1.6	
所得段階Ⅲ		全体	342	11.2	54.7	18.3	9.9	5.0	0.9	
		高	90	16.4	52.9	18.1	8.8	3.2	0.6	
		中	118	26.7	56.7	10.0	4.4	2.2	0.0	
経済的困難世帯		全体	550	13.6	60.2	15.3	8.5	1.7	0.8	
		高	123	13.0	44.7	25.2	11.4	5.7	0.0	
		中	180	17.5	51.3	15.6	9.8	4.2	1.6	
経済的困難世帯		全体	550	17.5	51.3	15.6	9.8	4.2	1.6	
		高	152	33.6	48.7	8.6	3.9	2.6	2.6	
		中	180	15.6	58.9	15.6	6.7	2.2	1.1	
経済的困難世帯		全体	550	8.5	47.0	20.5	16.5	7.5	0.0	
		高	200	8.5	47.0	20.5	16.5	7.5	0.0	
	中	200	8.5	47.0	20.5	16.5	7.5	0.0		

⑦子供の生活習慣と授業の状況

子供の生活習慣と授業の状況の間にも、強い関連がみられます。ほとんどの世帯区分において、生活習慣得点が高いほど「いつもわかる」が多く、「あまりわからない」または「ほとんどわからない」が少なくなっています。

■世帯区分別・子供の生活習慣別にみた授業の状況

	世帯類型	子供の生活習慣	件数	あなたは、学校の授業がわかりますか						
				いつもわかる	わかる	だいたい	わからない	どちらともいえない	わからない	あまりわからない
小学5年生	全体	全体	3,768	40.5	46.7	6.3	3.4	0.7	2.3	
		高	2,388	46.4	44.3	4.8	2.1	0.5	2.1	
		中	689	31.5	52.7	8.3	5.4	0.9	1.3	
		低	470	27.9	48.1	11.5	7.4	2.1	3.0	
	所得段階Ⅰ	全体	1,714	47.5	43.4	4.4	2.2	0.4	2.1	
		高	1,162	51.5	41.6	3.2	1.5	0.3	1.9	
		中低	302	40.1	47.4	6.3	4.3	0.3	1.7	
	所得段階Ⅱ	全体	1,314	33.6	51.4	7.5	4.3	0.7	2.4	
		高	809	40.9	48.6	5.4	2.7	0.4	2.0	
		中	250	22.8	59.6	10.0	5.2	0.8	1.6	
		低	184	20.1	51.6	14.7	8.7	2.2	2.7	
	所得段階Ⅲ	全体	388	32.7	50.8	6.7	5.9	2.3	1.5	
		高	190	37.9	50.5	5.8	2.6	1.6	1.6	
		中低	85	24.7	55.3	8.2	9.4	2.4	0.0	
	経済的困難世帯	全体	610	31.0	49.8	7.9	7.0	1.6	2.6	
		高	289	35.3	50.5	7.3	3.8	0.7	2.4	
中低		143	26.6	53.1	9.1	9.8	1.4	0.0		
中学2年生	全体	全体	3,215	25.6	53.7	11.4	5.6	1.7	1.9	
		高	1,983	30.4	54.5	9.1	3.8	0.9	1.3	
		中	679	21.8	55.1	12.4	6.5	1.8	2.5	
		低	459	12.6	48.6	20.0	11.8	5.0	2.0	
	所得段階Ⅰ	全体	1,534	28.9	54.8	9.5	4.1	0.9	1.8	
		高	973	34.0	54.2	7.8	2.4	0.5	1.1	
		中低	322	23.3	58.1	11.2	4.7	0.6	2.2	
	所得段階Ⅱ	全体	1,032	23.4	54.7	11.3	6.4	2.3	1.8	
		高	629	27.8	56.0	8.4	4.9	1.4	1.4	
		中	233	20.6	53.6	13.3	7.3	2.1	3.0	
		低	150	10.7	49.3	21.3	10.0	6.7	2.0	
	所得段階Ⅲ	全体	342	16.4	52.9	18.1	8.8	3.2	0.6	
		高	178	19.1	55.6	13.5	9.0	1.7	1.1	
		中低	72	16.7	56.9	13.9	8.3	4.2	0.0	
	経済的困難世帯	全体	550	17.5	51.3	15.6	9.8	4.2	1.6	
		高	282	22.0	55.7	11.3	7.4	1.8	1.8	
中		123	17.9	48.0	17.1	9.8	4.9	2.4		
低		126	8.7	44.4	22.2	14.3	9.5	0.8		

生活習慣得点①～④の各項目と、学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合との相関を分析するために、各項目別に「学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合」の差を確認しました。

いずれの学年も歯磨きをしているかどうかが一番差が大きい項目となっています。

■生活習慣得点の項目別の「授業がいつもわかると回答した子供の割合」の差（％）

生活習慣得点の項目別の「授業がいつもわかると回答した子供の割合」の差（％）			
小学5年生		中学2年生	
全体		全体	
③A あなたは歯磨きをしますか。	18.8	③A あなたは歯磨きをしますか。	22.3
④あなたはふだん、朝ごはんを食べますか。	18.0	④あなたはふだん、朝ごはんを食べますか。	13.9
①あなたは学校がある日はだいたい朝何時ごろに起きますか。	5.4	①あなたは学校がある日はだいたい朝何時ごろに起きますか。	12.9
③B あなたは、入浴（風呂、シャワー）をしますか。	1.7	③B あなたは、入浴（風呂、シャワー）をしますか。	12.3
②あなたは次の日に学校がある日はだいたい何時ごろに寝ますか。	-0.4	②あなたは次の日に学校がある日はだいたい何時ごろに寝ますか。	9.8
うち経済的困難世帯		うち経済的困難世帯	
③B あなたは、入浴（風呂、シャワー）をしますか。	15.4	③A あなたは歯磨きをしますか。	20.5
③A あなたは歯磨きをしますか。	13.0	③B あなたは、入浴（風呂、シャワー）をしますか。	14.8
④あなたはふだん、朝ごはんを食べますか。	8.9	②あなたは次の日に学校がある日はだいたい何時ごろに寝ますか。	10.4
②あなたは次の日に学校がある日はだいたい何時ごろに寝ますか。	0.8	①あなたは学校がある日はだいたい朝何時ごろに起きますか。	9.8
①あなたは学校がある日はだいたい朝何時ごろに起きますか。	-1.5	④あなたはふだん、朝ごはんを食べますか。	9.3

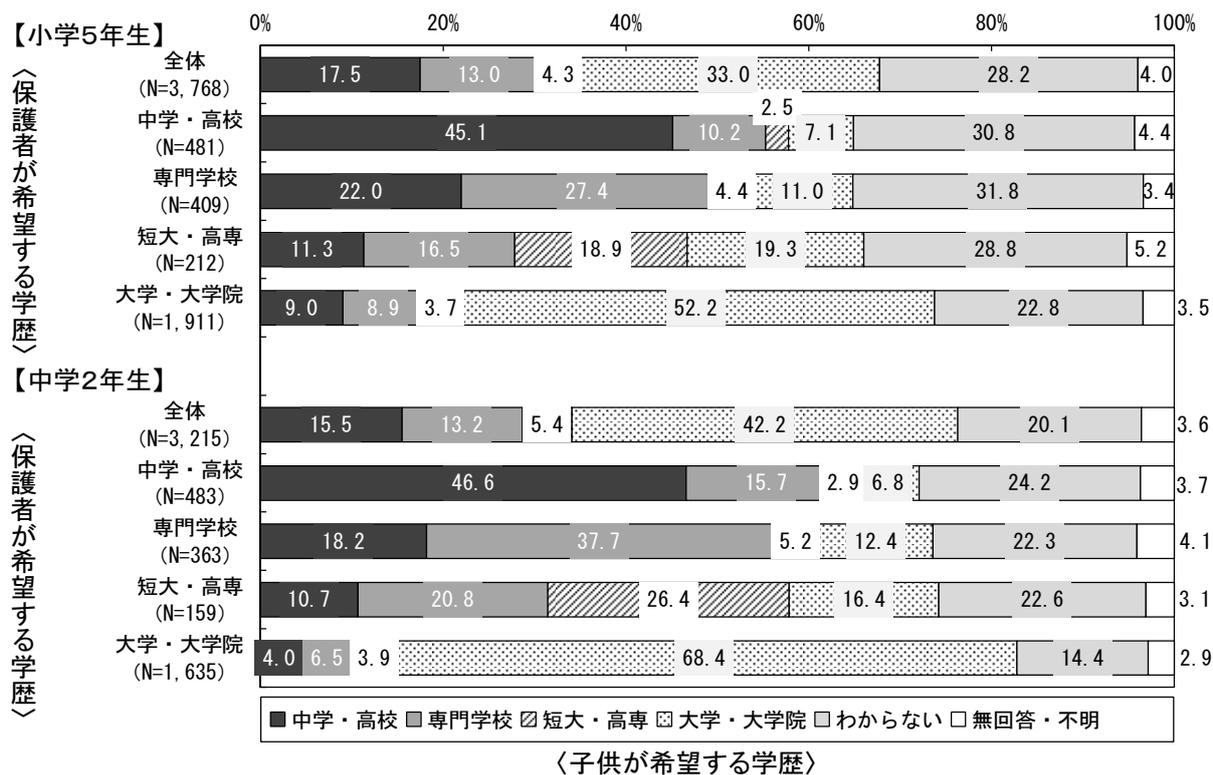
- ①起床時刻：「6時30分から7時に起床」と回答した子供と「決まっていない」と回答した子供の「学校の授業がいつもわかる」と回答した割合の差
- ②就寝時刻：
 - 小学5年生：「10時より前に就寝」と回答した子供と「決まっていない」と回答した子供の「学校の授業がいつもわかる」と回答した割合の差
 - 中学2年生：「10時台に就寝」と回答した子供と「決まっていない」と回答した子供の「学校の授業がいつもわかる」と回答した割合の差
- ③A 歯磨き：「毎日2回以上する」と回答した子供と「毎日1回未満」と回答した子供の「学校の授業がいつもわかる」と回答した割合の差
- ③B 入浴：「毎日1回する」と回答した子供と「毎日1回未満」と回答した子供の「学校の授業がいつもわかる」と回答した割合の差
- ④朝食：「いつも食べる」と回答した子供と「いつも食べる」以外の選択肢を回答した子供の「学校の授業がいつもわかる」と回答した割合の差

(2) 保護者の学歴と子供の進学希望について

①保護者が子供に望む最終学歴と子供の進学希望

保護者が子供に望む最終学歴と子供の進学希望との間には強い関連が見られます。特に、保護者が大学・大学院を希望している場合は、中学2年生では約7割が同様の進路を希望しており、それ以外の進路の希望は1割台となっています。

■保護者の進学希望別にみた子供の進学希望

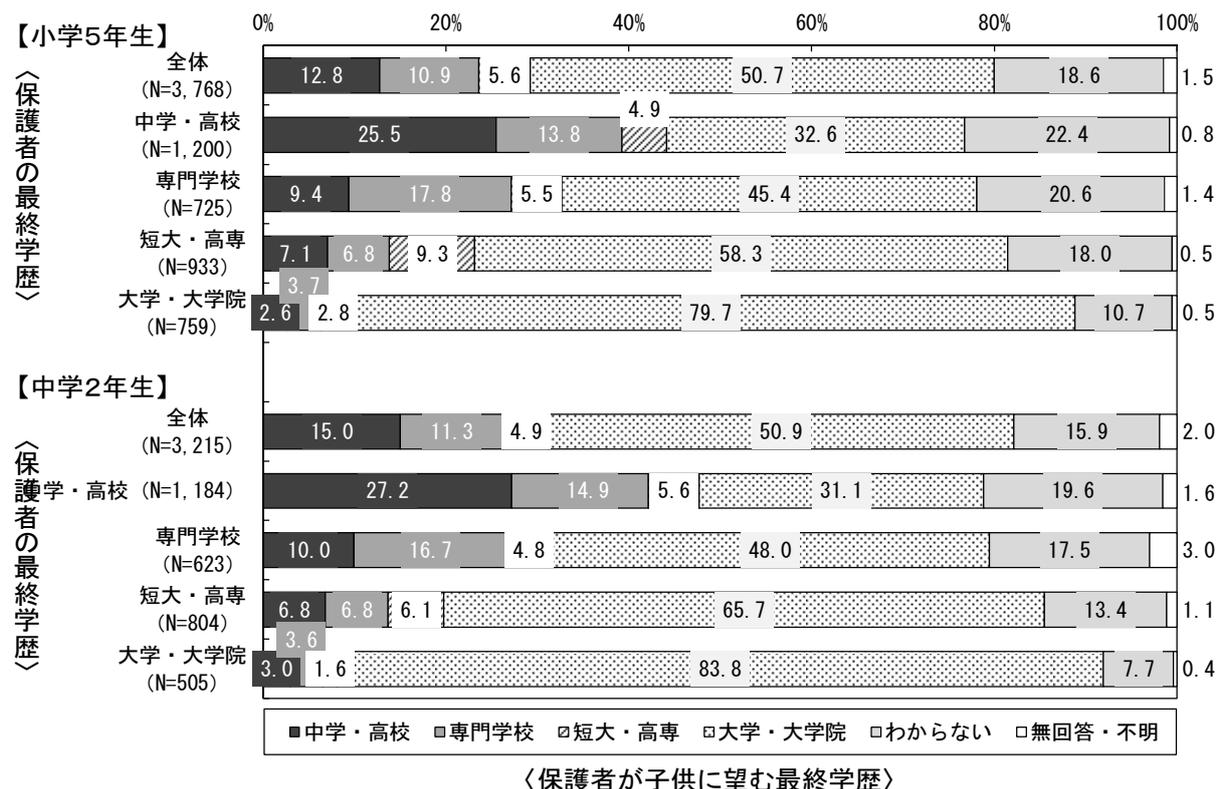


②保護者の学歴別にみた子供に望む最終学歴

子供に望む最終学歴を保護者（母親）の学歴別にみると、保護者が高学歴であるほど、子供にも高学歴を求める傾向があることが示されています。特に大学・大学院に進学した保護者については、約8割が子供の大学・大学院への進学を希望しています。

保護者の学歴は子供の進学希望に強く関連しており、結果として保護者の学歴が子供の進学に強く影響していることがうかがえます。

■保護者（母親）の学歴別にみた子供に望む最終学歴



(3) 子供の自尊感情・精神的充実

①文化的活動得点別に見た子供の自尊感情と精神的充実

子供の自尊感情や精神的充実の度合いは、所得段階が低いほどやや低くなる傾向がありますが、文化的な活動や体験を多くしている子供の場合は、いずれも高くなる傾向があります。所得段階Ⅲ、経済的困難世帯においては、文化的活動得点が「低」であった場合の自尊感情、精神的充実得点が、所得段階Ⅰ、Ⅱと比較して低くなる傾向となっており、経済的な困難と文化的な貧困が重なったときに、より子供へのマイナスの影響が大きくなることがうかがえます。

■世帯区分別・文化的活動の状況別にみた子供の自尊感情と精神的充実

	世帯類型	文化的活動	件数	自尊感情				精神的充実			
				高	中	低	判定不能	高	中	低	判定不能
小学5年生	全体	全体	3,768	46.1	33.7	16.5	3.7	29.5	39.6	21.9	8.9
		高	1,372	54.8	30.4	11.9	2.9	36.4	39.4	17.2	7.1
		中	1,154	45.6	35.4	15.5	3.6	29.2	43.2	19.1	8.6
		低	1,151	35.9	36.7	23.3	4.2	22.2	36.8	30.4	10.6
	所得段階Ⅰ	全体	1,714	50.8	30.9	14.8	3.5	33.5	40.4	18.8	7.3
		高	733	58.7	28.2	10.8	2.3	39.8	39.0	15.1	6.0
		中	529	49.5	31.0	15.3	4.2	31.9	43.5	16.6	7.9
		低	412	37.6	36.4	22.1	3.9	24.5	39.3	28.2	8.0
	所得段階Ⅱ	全体	1,314	42.4	36.4	17.8	3.4	27.7	39.5	23.6	9.2
		高	456	47.4	35.1	14.7	2.9	32.2	41.2	18.9	7.7
		中	391	42.5	38.6	15.9	3.1	28.9	42.5	21.2	7.4
		低	437	37.3	36.4	22.9	3.4	22.0	35.9	31.1	11.0
	所得段階Ⅲ	全体	388	41.0	34.0	20.9	4.1	21.6	41.2	26.5	10.6
		高	76	67.1	19.7	7.9	5.3	38.2	38.2	17.1	6.6
		中	128	42.2	40.6	15.6	1.6	21.1	48.4	19.5	10.9
		低	177	27.7	36.7	29.9	5.6	15.3	36.7	36.2	11.9
経済的困難世帯	全体	610	40.2	34.6	20.5	4.8	21.8	37.4	29.8	11.0	
	高	151	48.3	33.1	14.6	4.0	27.8	41.7	21.2	9.3	
	中	182	45.1	36.3	15.4	3.3	23.1	40.7	25.3	11.0	
	低	265	32.1	35.1	27.5	5.3	17.4	33.6	38.5	10.6	
中学2年生	全体	全体	3,215	31.3	35.4	29.9	3.5	25.3	39.6	29.4	5.7
		高	1,205	38.3	33.6	25.3	2.8	29.7	38.6	26.7	5.0
		中	891	29.5	37.3	30.8	2.5	25.1	41.0	29.9	4.0
		低	1,048	25.3	36.5	34.1	4.2	20.7	40.4	31.9	7.1
	所得段階Ⅰ	全体	1,534	33.5	35.9	27.2	3.3	26.7	40.2	27.9	5.1
		高	662	39.7	34.0	23.4	2.9	31.9	37.6	25.7	4.8
		中	411	30.7	40.4	27.0	1.9	23.1	46.0	27.3	3.6
		低	430	27.9	35.3	32.3	4.4	23.0	39.5	31.4	6.0
	所得段階Ⅱ	全体	1,032	29.3	36.3	31.2	3.2	24.6	39.6	30.2	5.5
		高	350	34.0	36.6	27.1	2.3	26.9	39.7	29.1	4.3
		中	288	27.1	34.4	36.1	2.4	27.8	36.5	31.9	3.8
		低	373	26.3	37.8	31.4	4.6	19.6	42.6	29.8	8.0
	所得段階Ⅲ	全体	342	26.3	34.5	36.0	3.2	21.1	38.6	33.6	6.7
		高	86	38.4	30.2	27.9	3.5	25.6	37.2	27.9	9.3
		中	103	32.0	33.0	31.1	3.9	24.3	35.9	34.0	5.8
		低	147	15.6	37.4	44.9	2.0	16.3	40.8	38.1	4.8
経済的困難世帯	全体	550	27.6	32.7	36.4	3.3	21.6	36.9	35.8	5.6	
	高	137	36.5	32.8	27.7	2.9	29.9	33.6	29.9	6.6	
	中	159	28.3	31.4	37.1	3.1	23.9	34.0	39.0	3.1	
	低	243	21.4	33.7	42.0	2.9	15.2	40.7	38.3	5.8	

②保護者の精神的健康状態別に見た子供の自尊感情と精神的充実

保護者の精神的健康状態は、子供の自尊感情や精神的充実と関連しており、特に所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で、保護者の精神的健康状態が低い場合は、子供の精神的充実も低くなりがちであり、家庭の状況が子供の負担になっていることがうかがえます。

■世帯区分別・保護者の精神的健康状態別に見た子供の自尊感情と精神的充実

	世帯類型	保護者の精神的健康	件数	自尊感情				精神的充実			
				高	中	低	判定不能	高	中	低	判定不能
小学5年生	全体	全体	3,768	46.1	33.7	16.5	3.7	29.5	39.6	21.9	8.9
		高	1,379	50.8	32.0	14.1	3.0	35.6	39.2	16.2	9.0
		中	1,200	46.4	35.3	14.6	3.8	30.8	40.2	20.1	8.9
		低	1,091	39.5	34.4	21.5	4.6	21.0	40.1	30.5	8.4
	所得段階Ⅰ	全体	1,714	50.8	30.9	14.8	3.5	33.5	40.4	18.8	7.3
		高	682	55.4	28.4	12.9	3.2	38.0	41.3	13.6	7.0
		中	575	51.3	32.9	12.5	3.3	33.7	40.2	18.8	7.3
		低	436	42.2	32.6	21.3	3.9	26.4	39.4	27.3	6.9
	所得段階Ⅱ	全体	1,314	42.4	36.4	17.8	3.4	27.7	39.5	23.6	9.2
		高	462	47.4	35.7	14.3	2.6	34.8	39.2	17.1	8.9
		中	420	39.8	39.0	17.6	3.6	29.3	38.3	22.9	9.5
		低	406	38.9	35.7	21.4	3.9	19.0	40.4	31.5	9.1
	所得段階Ⅲ	全体	388	41.0	34.0	20.9	4.1	21.6	41.2	26.5	10.6
		高	115	41.7	34.8	20.0	3.5	31.3	33.0	22.6	13.0
		中	109	48.6	32.1	14.7	4.6	23.9	45.9	18.3	11.9
		低	152	34.2	34.2	27.0	4.6	11.8	44.1	36.2	7.9
経済的困難世帯	全体	610	40.2	34.6	20.5	4.8	21.8	37.4	29.8	11.0	
	高	130	40.8	38.5	16.2	4.6	26.9	40.0	20.8	12.3	
	中	181	48.6	30.9	17.7	2.8	29.3	37.0	23.8	9.9	
	低	288	34.4	35.8	23.6	6.3	15.3	36.5	37.8	10.4	
中学2年生	全体	全体	3,215	31.3	35.4	29.9	3.5	25.3	39.6	29.4	5.7
		高	1,170	35.1	36.2	25.4	3.2	29.8	40.4	24.0	5.7
		中	994	30.7	36.1	30.4	2.8	24.7	41.0	30.3	3.9
		低	959	27.6	34.0	34.6	3.8	20.2	38.0	35.0	6.8
	所得段階Ⅰ	全体	1,534	33.5	35.9	27.2	3.3	26.7	40.2	27.9	5.1
		高	597	35.7	36.5	24.1	3.7	29.0	40.5	25.0	5.5
		中	489	32.3	37.2	27.4	3.1	26.0	42.5	28.4	3.1
		低	423	31.7	33.6	31.4	3.3	24.1	37.8	31.4	6.6
	所得段階Ⅱ	全体	1,032	29.3	36.3	31.2	3.2	24.6	39.6	30.2	5.5
		高	380	33.2	37.1	26.8	2.9	29.7	39.2	25.8	5.3
		中	322	32.3	36.0	29.2	2.5	24.5	42.9	27.6	5.0
		低	313	22.4	35.8	37.7	4.2	18.5	37.7	37.7	6.1
	所得段階Ⅲ	全体	342	26.3	34.5	36.0	3.2	21.1	38.6	33.6	6.7
		高	91	33.0	38.5	27.5	1.1	33.0	39.6	18.7	8.8
		中	104	20.2	33.7	42.3	3.8	20.2	35.6	40.4	3.8
		低	133	26.3	34.6	36.1	3.0	13.5	41.4	37.6	7.5
経済的困難世帯	全体	550	27.6	32.7	36.4	3.3	21.6	36.9	35.8	5.6	
	高	122	37.7	36.1	24.6	1.6	33.6	38.5	23.0	4.9	
	中	153	25.5	30.7	41.2	2.6	19.0	41.2	34.6	5.2	
	低	260	24.6	33.1	38.5	3.8	17.7	33.8	42.7	5.8	

③自尊感情と子供の人間関係

子供の友人関係や家族以外の大人との関係の状況は、本人の自尊感情との関連が見られます。自尊感情の低さと、人間関係からの孤立傾向が、相互に関連していることがうかがえます。所得段階Ⅲ、経済的困難世帯では、自尊感情が「低」の場合に、友人関係、家族以外の大人との関わりも「低」である割合が高くなっています。

■世帯区分別・子供の自尊感情別にみた友人関係と家族以外の大人との関わり

	世帯類型	自尊感情	件数	友人関係				家族以外の大人との関わり			
				高	中	低	判定不能	高	中	低	判定不能
小学5年生	全体	全体	3,768	62.4	24.0	9.7	4.0	43.3	27.2	20.8	8.7
		高	1,736	77.6	15.7	3.7	2.9	50.1	24.7	16.3	9.0
		中	1,269	55.6	31.3	9.2	3.9	41.8	29.0	21.5	7.6
		低	622	36.7	33.3	26.7	3.4	30.2	31.7	32.3	5.8
	所得段階Ⅰ	全体	1,714	63.7	23.1	8.9	4.3	44.9	26.4	20.0	8.7
		高	870	77.0	16.1	3.8	3.1	51.7	24.1	14.7	9.4
		中	530	57.7	28.9	8.7	4.7	40.9	28.7	23.4	7.0
		低	254	35.8	35.8	25.6	2.8	31.9	30.7	31.1	6.3
	所得段階Ⅱ	全体	1,314	62.6	24.3	9.4	3.7	43.3	28.8	20.1	7.8
		高	557	78.1	15.3	3.8	2.9	49.9	26.6	16.3	7.2
		中	478	56.3	33.1	7.9	2.7	43.7	29.9	19.0	7.3
		低	234	40.2	28.6	26.9	4.3	29.5	33.8	31.2	5.6
	所得段階Ⅲ	全体	388	54.9	28.1	14.2	2.8	40.2	25.0	27.8	7.0
		高	159	78.6	14.5	4.4	2.5	49.1	22.0	22.0	6.9
		中	132	44.7	36.4	15.2	3.8	37.1	26.5	28.0	8.3
		低	81	27.2	40.7	29.6	2.5	29.6	25.9	40.7	3.7
経済的困難世帯	全体	610	56.9	26.1	13.6	3.4	40.5	28.4	23.4	7.7	
	高	245	77.6	15.5	5.3	1.6	46.9	26.1	18.0	9.0	
	中	211	49.3	36.5	10.4	3.8	39.3	29.4	24.2	7.1	
	低	125	31.2	32.0	33.6	3.2	33.6	30.4	35.2	0.8	
中学2年生	全体	全体	3,215	59.3	25.9	11.8	3.0	48.2	31.3	14.0	6.5
		高	1,005	78.6	15.3	3.6	2.5	58.8	27.0	8.0	6.3
		中	1,138	62.8	27.3	7.9	1.9	50.4	30.1	14.1	5.4
		低	961	36.7	35.4	24.7	3.2	35.7	37.4	20.8	6.1
	所得段階Ⅰ	全体	1,534	60.6	25.4	10.8	3.2	49.9	31.1	13.1	5.9
		高	514	78.8	15.8	3.1	2.3	61.3	26.8	7.0	4.9
		中	551	62.1	27.4	8.0	2.5	50.3	30.7	14.0	5.1
		低	418	38.5	35.2	23.0	3.3	35.9	37.6	20.1	6.5
	所得段階Ⅱ	全体	1,032	59.1	26.3	12.3	2.3	47.9	32.2	13.2	6.8
		高	302	78.5	13.2	6.0	2.3	58.9	23.8	8.9	8.3
		中	375	65.6	25.1	8.3	1.1	51.2	29.9	13.3	5.6
		低	322	35.4	39.1	23.6	1.9	35.4	41.9	17.1	5.6
	所得段階Ⅲ	全体	342	55.6	27.2	14.9	2.3	45.9	28.4	19.6	6.1
		高	90	82.2	14.4	1.1	2.2	51.1	34.4	7.8	6.7
		中	118	53.4	35.6	8.5	2.5	50.0	26.3	17.8	5.9
		低	123	39.0	28.5	30.1	2.4	39.0	26.0	30.1	4.9
経済的困難世帯	全体	550	54.5	26.9	15.8	2.7	44.0	30.4	17.3	8.4	
	高	152	80.3	12.5	3.9	3.3	53.9	28.3	7.2	10.5	
	中	180	58.3	30.0	9.4	2.2	43.3	30.0	19.4	7.2	
	低	200	34.5	34.0	30.0	1.5	37.0	33.5	23.5	6.0	

④家族以外の大人との関わりと子供の自尊感情

いずれの学年・世帯類型においても、家族以外の大人との関わりが多い子供ほど、自尊感情が高い傾向がみられます。

■世帯区分別・家族以外の大人との関わり別にみた子供の自尊感情

	世帯類型	家族以外の大人との関わり	件数	自尊感情			
				高	中	低	判定不能
小学5年生	全体	全体	3,768	46.1	33.7	16.5	3.7
		高	1,631	53.3	32.6	11.5	2.6
		中	1,025	41.8	35.9	19.2	3.1
		低	783	36.1	34.9	25.7	3.3
	所得段階Ⅰ	全体	1,714	50.8	30.9	14.8	3.5
		高	769	58.5	28.2	10.5	2.7
		中	453	46.4	33.6	17.2	2.9
		低	343	37.3	36.2	23.0	3.5
	所得段階Ⅱ	全体	1,314	42.4	36.4	17.8	3.4
		高	569	48.9	36.7	12.1	2.3
		中	378	39.2	37.8	20.9	2.1
		低	264	34.5	34.5	27.7	3.4
	所得段階Ⅲ	全体	388	41.0	34.0	20.9	4.1
		高	156	50.0	31.4	15.4	3.2
		中	97	36.1	36.1	21.6	6.2
		低	108	32.4	34.3	30.6	2.8
経済的困難世帯	全体	610	40.2	34.6	20.5	4.8	
	高	247	46.6	33.6	17.0	2.8	
	中	173	37.0	35.8	22.0	5.2	
	低	143	30.8	35.7	30.8	2.8	
中学2年生	全体	全体	3,215	31.3	35.4	29.9	3.5
		高	1,549	38.2	37.0	22.1	2.7
		中	1,007	26.9	34.1	35.7	3.4
		低	451	17.7	35.5	44.3	2.4
	所得段階Ⅰ	全体	1,534	33.5	35.9	27.2	3.3
		高	766	41.1	36.2	19.6	3.1
		中	477	28.9	35.4	32.9	2.7
		低	201	17.9	38.3	41.8	2.0
	所得段階Ⅱ	全体	1,032	29.3	36.3	31.2	3.2
		高	494	36.0	38.9	23.1	2.0
		中	332	21.7	33.7	40.7	3.9
		低	136	19.9	36.8	40.4	2.9
	所得段階Ⅲ	全体	342	26.3	34.5	36.0	3.2
		高	157	29.3	37.6	30.6	2.5
		中	97	32.0	32.0	33.0	3.1
		低	67	10.4	31.3	55.2	3.0
経済的困難世帯	全体	550	27.6	32.7	36.4	3.3	
	高	242	33.9	32.2	30.6	3.3	
	中	167	25.7	32.3	40.1	1.8	
	低	95	11.6	36.8	49.5	2.1	

(4) 子供の学業態度と大人の関わり

①保護者の教育姿勢や家族以外の大人との関わり具合別に見た子供の学業態度

子供の学校や勉強への前向きな姿勢（学業態度）の形成と関連すると考えられる、保護者の教育姿勢については、ある程度の関連は見られるものの、教育姿勢の高低による学業態度の高低は小さくなく、強い関連は見られませんでした。一方、家族以外の大人との関わりと学業態度との関連については、保護者の教育姿勢を上回る関連が見られました。

■保護者の教育姿勢別に見た学業態度と周囲の大人との関わり具合別に見た学業態度

	世帯区分	教育姿勢	件数	学業態度				家族以外の大人との関わり	件数	学業態度				
				高	中	低	判定不能			高	中	低	判定不能	
小学5年生	全体	全体	3,768	42.5	37.8	14.9	4.8	全体	3,768	42.5	37.8	14.9	4.8	
		高	1,313	49.4	34.9	11.3	4.3	高	1,631	51.4	35.4	10.5	2.7	
		中	1,406	40.3	39.4	16.2	4.1	中	1,025	38.5	40.5	18.2	2.7	
		低	935	37.5	39.9	17.0	5.6	低	783	30.4	45.0	21.8	2.8	
	所得段階Ⅰ	全体	1,714	45.8	36.8	12.8	4.7	全体	1,714	45.8	36.8	12.8	4.7	
		高	705	51.9	32.6	10.8	4.7	高	769	54.9	33.2	9.6	2.3	
		中	631	43.1	40.1	13.3	3.5	中	453	41.5	39.7	15.9	2.9	
		低	351	39.3	39.3	15.1	6.3	低	343	31.8	47.8	17.2	3.2	
	所得段階Ⅱ	全体	1,314	40.2	39.0	16.4	4.4	全体	1,314	40.2	39.0	16.4	4.4	
		高	390	49.7	34.4	11.8	4.1	高	569	48.2	37.4	12.0	2.5	
		中	516	37.0	39.5	19.8	3.7	中	378	35.2	44.2	18.5	2.1	
		低	375	36.3	43.7	15.2	4.8	低	264	31.1	40.5	25.8	2.7	
	所得段階Ⅲ	全体	388	38.7	39.7	17.0	4.6	全体	388	38.7	39.7	17.0	4.6	
		高	108	40.7	43.5	13.9	1.9	高	156	47.4	37.8	10.9	3.8	
		中	135	40.0	40.0	15.6	4.4	中	97	42.3	35.1	17.5	5.2	
		低	139	37.4	34.5	21.6	6.5	低	108	25.9	47.2	25.0	1.9	
	経済的困難世帯	全体	610	35.6	41.1	17.5	5.7	全体	610	35.6	41.1	17.5	5.7	
		高	162	40.1	43.2	12.3	4.3	高	247	44.9	39.3	13.0	2.8	
		中	218	37.6	40.8	17.0	4.6	中	173	32.4	41.6	20.2	5.8	
		低	214	31.8	40.7	21.0	6.5	低	143	25.2	46.2	26.6	2.1	
	中学2年生	全体	全体	3,215	29.6	39.3	26.6	4.5	全体	3,215	29.6	39.3	26.6	4.5
			高	794	34.6	40.6	20.8	4.0	高	1,549	38.3	39.8	19.6	2.4
			中	1,188	30.6	38.7	26.4	4.2	中	1,007	23.8	41.6	31.7	2.9
			低	1,159	25.0	39.6	30.7	4.7	低	451	16.9	37.0	43.7	2.4
所得段階Ⅰ		全体	1,534	30.8	39.6	25.2	4.4	全体	1,534	30.8	39.6	25.2	4.4	
		高	450	35.1	39.3	21.6	4.0	高	766	39.8	39.3	18.0	2.9	
		中	590	31.4	38.8	25.6	4.2	中	477	23.5	41.7	32.5	2.3	
		低	477	26.4	40.9	28.1	4.6	低	201	19.9	38.8	39.3	2.0	
所得段階Ⅱ		全体	1,032	28.6	40.4	26.6	4.4	全体	1,032	28.6	40.4	26.6	4.4	
		高	224	31.3	42.4	21.9	4.5	高	494	36.8	40.5	21.5	1.2	
		中	380	29.5	41.1	25.0	4.5	中	332	23.8	43.1	29.8	3.3	
		低	411	26.3	39.7	30.2	3.9	低	136	14.7	39.0	42.6	3.7	
所得段階Ⅲ		全体	342	25.4	38.3	32.7	3.5	全体	342	25.4	38.3	32.7	3.5	
		高	60	41.7	36.7	18.3	3.3	高	157	32.5	40.8	22.9	3.8	
		中	108	25.0	39.8	31.5	3.7	中	97	21.6	39.2	36.1	3.1	
		低	167	18.6	38.9	38.9	3.6	低	67	10.4	34.3	53.7	1.5	
経済的困難世帯		全体	550	24.0	37.8	34.7	3.5	全体	550	24.0	37.8	34.7	3.5	
		高	94	36.2	38.3	22.3	3.2	高	242	32.6	37.6	28.1	1.7	
		中	193	26.4	35.8	34.7	3.1	中	167	19.8	39.5	40.1	0.6	
		低	252	17.9	39.3	38.9	4.0	低	95	12.6	37.9	47.4	2.1	

3. 地域別の状況について

ここでは、本県の人口の偏りや教育・福祉における行政サービスの資源量の分布等本県の地域特性に着眼し、県内市町村を紀北、紀中、紀南と中核市であり人口の4割が集中している和歌山市に区分し、地区別の経済状況による生活実態の問題点や、支援の地域間の偏りなどを分析しています。

地域別の状況

回答者の居住自治体を、紀北、紀中、紀南と和歌山市に分類し、所得段階と経済的困難の状況をみると、概ね和歌山市、紀北、紀中、紀南の順で所得段階Ⅰが多く、所得段階Ⅲが少なくなっており、全体的な所得水準に北高南低の傾向があることがうかがえます。所得段階Ⅲの割合は、和歌山市と紀南とでは約2倍の開きがあります。経済的困難世帯についても同様の傾向ですが、所得段階Ⅲ程の差はありません。

■地域別に見た所得段階と経済的困難（小学5年生）

	全体	所得段階Ⅰ		所得段階Ⅱ		所得段階Ⅲ		経済的困難世帯	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
和歌山市	1,268	688	54.3	377	29.7	100	7.9	188	14.8
紀北	1,187	525	44.2	448	37.7	104	8.8	192	16.2
紀中	604	247	40.9	225	37.3	78	12.9	93	15.4
紀南	678	251	37.0	262	38.6	105	15.5	135	19.9
合計	3,772	1,724	45.7	1,326	35.2	392	10.4	616	16.3

■地域別に見た所得段階と経済的困難（中学2年生）

	全体	所得段階Ⅰ		所得段階Ⅱ		所得段階Ⅲ		経済的困難世帯	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
和歌山市	1,023	573	56.0	282	27.6	76	7.4	154	15.1
紀北	1,002	477	47.6	330	32.9	98	9.8	170	17.0
紀中	605	253	41.8	215	35.5	85	14.0	104	17.2
紀南	559	217	38.8	203	36.3	83	14.8	121	21.6
合計	3,224	1,540	47.8	1,041	32.3	344	10.7	552	17.1

※紀北：海南市、橋本市、紀の川市、岩出市、紀美野町、かつらぎ町、九度山町、高野町
 紀中：有田市、御坊市、湯浅町、広川町、有田川町、美浜町、日高町、印南町、みなべ町、日高川町
 紀南：田辺市、新宮市、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町
 （以下同様）

市部郡部別の状況

回答者の居住自治体を市部（市）と郡部（町村）に分類し、所得段階と経済的困難の状況をみると、全体的に市部において所得水準が高く、郡部において所得水準が低いことが示されています。経済的困難世帯については、中学2年生ではやや郡部においてその割合が高くなっていますが、小学5年生ではほとんど差がありません。

■市部郡部別に見た所得段階と経済的困難（小学5年生）

	全体	所得段階Ⅰ		所得段階Ⅱ		所得段階Ⅲ		経済的困難世帯	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
市部	2,944	1,393	47.3	1,015	34.5	277	9.4	477	16.2
郡部	793	318	40.1	297	37.5	110	13.9	131	16.5
合計	3,772	1,724	45.7	1,326	35.2	392	10.4	616	16.3

※市部は市、郡部は町村（以下同様）。

■市部郡部別に見た所得段階と経済的困難（中学2年生）

	全体	所得段階Ⅰ		所得段階Ⅱ		所得段階Ⅲ		経済的困難世帯	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
市部	2,451	1,214	49.5	775	31.6	231	9.4	405	16.5
郡部	738	306	41.5	255	34.6	111	15.0	144	19.5
合計	3,224	1,540	47.8	1,041	32.3	344	10.7	552	17.1

(1) 地域別にみた学業の状況

「授業があまりわからない」「授業がほとんどわからない」と答えた子供の割合は、中学2年生の授業の所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で、和歌山市と紀北で高くなっています。通塾については、いずれの学年・所得段階でも紀南の通塾率が低く、中学生については紀北もやや低くなっています。

■世帯区分別・地域別にみた授業の状況と通塾の状況

	世帯類型	地域区分	件数	あなたは、学校の授業がわかりますか							通塾		
				いつもわかる	だいたいわかる	いえない	どちらとも	わからない	あまりわからない	ほとんどわからない	不明・無回答	有り	無し
小学5年生	全体	全体	3,768	40.5	46.7	6.3	3.4	0.7	2.3	40.3	55.8	3.9	
		和歌山市	1,281	43.3	44.0	6.2	3.3	0.5	2.7	46.3	49.6	4.1	
		紀北	1,188	40.7	46.2	6.2	3.9	1.1	1.9	39.8	55.8	4.4	
		紀中	606	35.3	53.8	5.9	2.1	0.7	2.1	38.9	57.3	3.8	
		紀南	682	40.2	46.3	6.6	4.1	0.6	2.2	31.1	66.1	2.8	
	所得段階Ⅰ	全体	1,714	47.5	43.4	4.4	2.2	0.4	2.1	48.8	48.0	3.3	
		和歌山市	688	50.4	40.1	4.7	2.5	0.1	2.2	54.7	41.6	3.8	
		紀北	525	48.6	41.1	5.3	2.5	0.8	1.7	47.4	49.9	2.7	
		紀中	247	40.1	53.4	3.2	0.8	0.0	2.4	44.9	50.6	4.5	
		紀南	251	45.0	47.4	3.2	2.4	0.4	1.6	39.0	59.0	2.0	
	所得段階Ⅱ	全体	1,314	33.6	51.4	7.5	4.3	0.7	2.4	34.2	62.5	3.3	
		和歌山市	377	34.2	48.8	8.8	4.8	0.3	3.2	35.8	59.9	4.2	
		紀北	448	33.7	53.1	5.6	4.5	1.3	1.8	35.5	60.5	4.0	
		紀中	225	32.0	55.6	6.2	4.0	0.4	1.8	36.0	63.1	0.9	
		紀南	262	34.0	48.9	9.9	3.8	0.4	3.1	28.2	68.7	3.1	
	所得段階Ⅲ	全体	388	32.7	50.8	6.7	5.9	2.3	1.5	26.3	67.8	5.9	
		和歌山市	100	29.0	54.0	5.0	6.0	5.0	1.0	26.0	67.0	7.0	
		紀北	104	29.8	51.0	8.7	5.8	1.9	2.9	26.9	65.4	7.7	
		紀中	78	30.8	59.0	9.0	0.0	0.0	1.3	28.2	66.7	5.1	
		紀南	105	41.0	41.9	3.8	10.5	1.9	1.0	24.8	71.4	3.8	
経済的困難世帯	全体	610	31.0	49.8	7.9	7.0	1.6	2.6	26.7	68.0	5.2		
	和歌山市	188	28.7	48.4	9.6	5.9	2.7	4.8	27.7	66.0	6.4		
	紀北	192	29.7	49.5	8.9	8.3	1.6	2.1	29.7	64.6	5.7		
	紀中	93	33.3	55.9	6.5	2.2	0.0	2.2	33.3	62.4	4.3		
	紀南	135	34.8	48.1	4.4	10.4	1.5	0.7	17.0	79.3	3.7		
中学2年生	全体	全体	3,215	25.6	53.7	11.4	5.6	1.7	1.9	60.3	36.5	3.2	
		和歌山市	1,026	25.1	51.6	12.4	6.4	1.9	2.6	63.8	33.5	2.6	
		紀北	1,003	26.0	53.4	12.4	5.3	1.9	1.0	58.4	38.4	3.2	
		紀中	607	25.9	57.5	9.1	4.8	1.2	1.6	64.9	32.3	2.8	
		紀南	562	25.6	54.4	10.5	5.5	1.6	2.3	53.7	41.8	4.4	
	所得段階Ⅰ	全体	1,534	28.9	54.8	9.5	4.1	0.9	1.8	65.7	31.5	2.8	
		和歌山市	573	27.2	55.0	10.3	4.2	0.7	2.6	69.1	28.8	2.1	
		紀北	477	32.1	53.5	8.8	3.8	1.0	0.8	63.9	33.1	2.9	
		紀中	253	29.2	57.3	7.1	4.0	0.8	1.6	69.2	28.5	2.4	
		紀南	217	26.3	55.3	10.6	5.1	0.9	1.8	59.4	35.9	4.6	
	所得段階Ⅱ	全体	1,032	23.4	54.7	11.3	6.4	2.3	1.8	57.9	39.0	3.1	
		和歌山市	282	24.1	50.0	12.1	7.8	3.5	2.5	59.6	37.6	2.8	
		紀北	330	20.3	58.2	13.0	5.8	1.5	1.2	54.5	42.4	3.0	
		紀中	215	23.3	56.3	10.7	6.0	1.9	1.9	65.6	30.7	3.7	
		紀南	203	27.1	54.2	8.4	5.9	2.5	2.0	53.7	43.3	3.0	
	所得段階Ⅲ	全体	342	16.4	52.9	18.1	8.8	3.2	0.6	47.7	49.1	3.2	
		和歌山市	76	10.5	48.7	23.7	13.2	3.9	0.0	51.3	47.4	1.3	
		紀北	98	17.3	44.9	22.4	9.2	6.1	0.0	45.9	50.0	4.1	
		紀中	85	20.0	63.5	8.2	5.9	1.2	1.2	54.1	43.5	2.4	
		紀南	83	16.9	55.4	18.1	7.2	1.2	1.2	39.8	55.4	4.8	
経済的困難世帯	全体	550	17.5	51.3	15.6	9.8	4.2	1.6	49.3	48.0	2.7		
	和歌山市	154	15.6	48.1	16.9	14.9	3.9	0.6	51.9	46.1	1.9		
	紀北	170	14.7	50.6	19.4	8.8	5.3	1.2	49.4	47.1	3.5		
	紀中	104	20.2	56.7	10.6	6.7	2.9	2.9	54.8	44.2	1.0		
	紀南	121	20.7	52.1	13.2	7.4	4.1	2.5	41.3	54.5	4.1		

(2) 地域別に見た通塾や習いごとができない理由

通塾や習いごとができなかった理由を地域別にみると、「通える範囲になくてできなかった」はいずれの学年も和歌山市で少なく、それ以外の地域で多くなっています。「経済的な理由でできなかった」は、小学5年生では紀北でやや多く。紀中で少なくなっています。

■世帯区分別・地域別にみた通塾や習いごとができない状況

	世帯類型	地域区分	件数	通える範囲になくてできなかった			経済的な理由でできなかった		
				あった	なかった	無回答・不明	あった	なかった	無回答・不明
小学5年生	全体	全体	3,772	23.3	69.9	6.8	25.4	68.6	6.0
		和歌山市	1,268	19.6	73.9	6.5	23.7	71.5	4.8
		紀北	1,187	23.0	69.6	7.4	28.3	65.3	6.4
		紀中	604	27.2	67.9	5.0	21.2	72.5	6.3
		紀南	678	27.3	65.0	7.7	27.3	65.0	7.7
	所得段階Ⅰ	全体	1,724	21.6	75.1	3.2	13.2	82.3	4.5
		和歌山市	688	20.1	77.0	2.9	12.5	84.4	3.1
		紀北	525	19.4	76.0	4.6	15.0	78.9	6.1
		紀中	247	27.9	70.4	1.6	9.3	85.4	5.3
		紀南	251	24.3	72.9	2.8	15.1	80.1	4.8
	所得段階Ⅱ	全体	1,326	24.7	68.2	7.2	35.3	59.7	5.1
		和歌山市	377	19.6	71.9	8.5	36.9	57.6	5.6
		紀北	448	26.6	66.1	7.4	40.0	56.0	4.0
		紀中	225	25.8	69.3	4.9	28.4	66.7	4.9
		紀南	262	27.9	66.8	5.3	31.3	62.6	6.1
	所得段階Ⅲ	全体	392	29.8	60.7	9.4	49.7	46.2	4.1
		和歌山市	100	22.0	68.0	10.0	53.0	45.0	2.0
		紀北	104	31.7	59.6	8.7	54.8	42.3	2.9
		紀中	78	32.1	64.1	3.8	38.5	56.4	5.1
		紀南	105	34.3	51.4	14.3	50.5	42.9	6.7
経済的困難世帯	全体	616	33.6	55.5	10.9	62.7	33.4	3.9	
	和歌山市	188	28.2	59.6	12.2	61.2	34.6	4.3	
	紀北	192	32.8	53.6	13.5	70.3	24.5	5.2	
	紀中	93	37.6	59.1	3.2	54.8	41.9	3.2	
	紀南	135	38.5	51.9	9.6	60.0	37.8	2.2	
中学2年生	全体	全体	3,224	18.2	75.6	6.3	23.1	71.3	5.6
		和歌山市	1,023	12.6	81.0	6.4	19.7	74.8	5.5
		紀北	1,002	19.2	75.1	5.7	25.3	70.2	4.5
		紀中	605	22.5	72.2	5.3	21.8	71.9	6.3
		紀南	559	21.8	70.5	7.7	26.1	66.9	7.0
	所得段階Ⅰ	全体	1,540	16.4	80.2	3.4	12.6	82.9	4.5
		和歌山市	573	11.2	84.6	4.2	9.1	86.4	4.5
		紀北	477	17.0	79.7	3.4	15.5	81.3	3.1
		紀中	253	23.3	73.5	3.2	14.2	80.2	5.5
		紀南	217	20.3	77.4	2.3	12.0	82.0	6.0
	所得段階Ⅱ	全体	1,041	18.8	74.9	6.2	31.8	63.7	4.5
		和歌山市	282	12.1	81.6	6.4	34.0	61.0	5.0
		紀北	330	21.8	72.7	5.5	33.9	62.7	3.3
		紀中	215	19.1	77.7	3.3	24.2	72.1	3.7
		紀南	203	22.7	67.5	9.9	33.5	60.1	6.4
	所得段階Ⅲ	全体	344	25.3	65.4	9.3	49.4	45.6	4.9
		和歌山市	76	26.5	66.3	7.1	57.9	40.8	1.3
		紀北	98	24.7	67.1	8.2	51.0	43.9	5.1
		紀中	85	27.7	61.4	10.8	43.5	49.4	7.1
		紀南	83	22.4	67.1	10.5	45.8	48.2	6.0
経済的困難世帯	全体	552	29.0	60.3	10.7	61.4	33.9	4.7	
	和歌山市	154	23.4	63.0	13.6	64.3	30.5	5.2	
	紀北	170	31.8	62.4	5.9	61.2	36.5	2.4	
	紀中	104	29.8	62.5	7.7	59.6	35.6	4.8	
	紀南	121	31.4	52.9	15.7	59.5	33.1	7.4	

(3) 地域別に見た進学希望

中学2年生の進学希望をみると、子供、保護者ともに、和歌山市、紀北、紀中、紀南の順で、短大・高専以上の高等教育を希望する割合が高くなっています。

■世帯区分別・地域別にみた子供の保護者の進学希望【中学2年生のみ】

	世帯類型	地域区分	件数	進学希望						
				中学	高校	専門 学校	短大・ 高専	大学 以上	わから ない	無回答・ 不明
子供の進学希望 (中学2年生)	全体	全体	3,215	0.3	15.1	13.2	5.4	42.2	20.1	3.6
		和歌山市	1,026	0.2	12.4	10.5	4.6	51.5	18.3	2.5
		紀北	1,003	0.3	14.4	15.0	6.4	41.0	19.1	3.9
		紀中	607	0.2	17.8	14.5	6.9	35.6	21.9	3.1
		紀南	562	0.9	19.2	13.5	3.9	33.5	23.7	5.3
	所得段階Ⅰ	全体	1,534	0.1	8.9	11.2	4.9	53.5	18.4	2.9
		和歌山市	573	0.0	6.8	10.3	4.0	60.7	15.7	2.4
		紀北	477	0.2	10.7	12.2	5.7	50.3	17.6	3.4
		紀中	253	0.0	7.9	13.4	5.5	48.6	21.7	2.8
		紀南	217	0.5	12.4	9.2	5.1	45.6	24.0	3.2
	所得段階Ⅱ	全体	1,032	0.2	19.5	14.3	6.2	34.5	21.5	3.8
		和歌山市	282	0.4	18.1	9.9	7.1	39.0	22.7	2.8
		紀北	330	0.0	17.0	16.7	6.1	36.7	20.0	3.6
		紀中	215	0.0	22.8	14.4	7.9	29.3	23.3	2.3
	所得段階Ⅲ	全体	342	0.6	28.7	18.7	4.4	20.5	23.4	3.8
		和歌山市	76	0.0	34.2	11.8	2.6	28.9	21.1	1.3
		紀北	98	1.0	20.4	22.4	7.1	21.4	23.5	4.1
		紀中	85	0.0	31.8	22.4	3.5	16.5	21.2	4.7
	経済的 困難世帯	全体	83	1.2	30.1	16.9	3.6	15.7	27.7	4.8
		和歌山市	188	1.1	23.9	14.9	4.3	20.7	30.3	4.8
紀北		192	1.0	24.5	12.5	4.2	19.8	34.9	3.1	
紀中		93	0.0	17.2	19.4	1.1	21.5	34.4	6.5	
保護者の進学希望 (中学2年生)	全体	全体	3,224	0.1	15.0	11.4	4.9	51.0	15.9	1.7
		和歌山市	1,023	0.2	12.9	9.5	2.9	60.7	13.7	0.1
		紀北	1,002	0.0	15.2	10.6	5.4	50.0	16.4	2.5
		紀中	605	0.0	16.2	13.6	7.3	44.8	16.4	1.8
		紀南	559	0.2	17.5	14.0	5.5	40.6	19.3	2.9
	所得段階Ⅰ	全体	1,540	0.0	6.8	8.6	3.8	67.0	12.5	1.3
		和歌山市	573	0.0	6.3	8.0	2.6	73.3	9.8	0.0
		紀北	477	0.0	6.9	8.0	4.8	64.2	13.2	2.9
		紀中	253	0.0	7.1	9.5	5.1	62.8	14.2	1.2
		紀南	217	0.0	7.8	11.5	3.7	59.0	16.6	1.4
	所得段階Ⅱ	全体	1,041	0.2	21.2	13.6	6.5	39.2	17.6	1.6
		和歌山市	282	0.4	20.6	10.6	4.6	45.7	18.1	0.0
		紀北	330	0.0	22.1	13.9	5.5	40.6	16.4	1.5
		紀中	215	0.0	20.5	15.8	10.7	32.6	17.2	3.3
	所得段階Ⅲ	全体	344	0.5	21.2	14.3	6.9	35.5	19.2	2.5
		和歌山市	76	0.3	34.0	16.6	5.5	23.3	18.3	2.0
		紀北	98	1.3	32.9	11.8	2.6	27.6	23.7	0.0
		紀中	85	0.0	35.7	14.3	6.1	27.6	13.3	3.1
	経済的 困難世帯	全体	83	0.0	32.9	21.2	4.7	22.4	17.6	1.2
		和歌山市	154	0.5	29.5	14.5	6.2	29.3	17.2	2.7
紀北		170	1.3	29.2	13.6	3.2	30.5	22.1	0.0	
紀中		104	0.0	31.2	12.4	6.5	30.6	15.9	3.5	
経済的 困難世帯	全体	121	0.0	27.9	16.3	11.5	26.0	14.4	3.8	
	和歌山市	121	0.8	29.8	16.5	5.0	28.9	14.9	4.1	

(4) 地域別に見た将来の住まい

子供に今の住まいの近くで暮らしてほしいかどうかについては、いずれの世帯区分も和歌山市、紀北より紀中、紀南の方が、否定的な回答が多くなっています。これからも今の住まいで暮らしたいかどうかについては地域別の差はあまり見られません。

■世帯区分別・地域別にみた保護者と子供の将来の住まいについて

	世帯類型	地域区分	件数	子供に将来今の住まいの近くで暮らしてほしい					これからも今の住まい(の近く)で暮らしたい				
				そう思う	ばそう思う	どちらかと言え	どちらかと言え	ばそう思わない	そう思わない	無回答・不明	そう思う	ばそう思う	どちらかと言え
小学5年生	全体	全体	3,772	20.2	48.5	13.5	16.0	1.8	45.3	31.5	12.9	8.7	1.6
		和歌山市	1,268	20.3	50.1	13.0	15.2	1.4	46.4	30.4	12.6	9.4	1.2
		紀北	1,187	23.3	49.4	12.7	13.1	1.6	44.3	34.3	11.6	8.5	1.3
		紀中	604	18.0	48.8	13.1	17.5	2.5	46.0	29.6	13.2	8.6	2.5
		紀南	678	16.4	44.1	16.2	20.9	2.4	44.4	30.4	15.2	8.0	2.1
	所得段階Ⅰ	全体	1,724	20.6	49.5	13.2	15.8	0.9	48.3	30.0	12.2	8.6	0.8
		和歌山市	688	19.8	50.6	11.6	17.4	0.6	46.4	30.1	13.2	9.9	0.4
		紀北	525	25.0	50.1	12.2	12.0	0.8	48.2	32.8	10.3	8.2	0.6
		紀中	247	16.6	50.2	14.2	17.4	1.6	51.4	27.1	10.1	9.3	2.0
		紀南	251	16.7	45.8	18.7	17.1	1.6	50.2	27.5	15.1	6.0	1.2
	所得段階Ⅱ	全体	1,326	20.6	48.3	14.3	15.2	1.7	44.3	33.6	12.7	8.3	1.2
		和歌山市	377	21.0	49.1	16.4	11.7	1.9	49.1	30.2	11.4	8.2	1.1
		紀北	448	22.5	48.2	13.8	14.5	0.9	40.8	37.3	12.5	8.7	0.7
		紀中	225	20.4	50.7	10.7	15.6	2.7	44.4	34.2	12.0	7.1	2.2
		紀南	262	17.2	44.7	15.3	21.0	1.9	43.1	31.3	15.3	8.8	1.5
	所得段階Ⅲ	全体	392	19.6	46.9	13.5	18.4	1.5	37.2	32.4	19.4	9.9	1.0
		和歌山市	100	22.0	51.0	11.0	16.0	0.0	37.0	32.0	18.0	13.0	0.0
		紀北	104	21.2	50.0	12.5	13.5	2.9	38.5	34.6	18.3	7.7	1.0
		紀中	78	19.2	41.0	16.7	19.2	3.8	35.9	24.4	24.4	11.5	3.8
		紀南	105	16.2	45.7	12.4	25.7	0.0	37.1	37.1	18.1	7.6	0.0
経済的困難世帯	全体	616	20.0	45.1	15.7	16.9	2.3	33.9	32.8	19.6	12.3	1.3	
	和歌山市	188	23.9	46.8	13.8	13.8	1.6	37.8	31.9	16.0	13.8	0.5	
	紀北	192	19.3	49.5	13.5	15.6	2.1	31.3	38.0	16.7	12.5	1.6	
	紀中	93	15.1	41.9	21.5	18.3	3.2	29.0	26.9	29.0	12.9	2.2	
	紀南	135	17.8	40.0	17.8	21.5	3.0	35.6	31.9	21.5	9.6	1.5	
中学2年生	全体	全体	3,224	18.1	49.6	14.0	16.4	1.9	45.0	31.5	13.7	8.4	1.4
		和歌山市	1,023	18.6	53.0	11.1	15.6	1.7	47.7	31.4	12.0	8.0	0.9
		紀北	1,002	18.9	49.4	12.2	17.2	2.4	43.8	32.0	12.9	9.7	1.6
		紀中	605	18.3	48.6	16.9	14.7	1.5	44.5	31.4	15.7	7.1	1.3
		紀南	559	15.7	44.7	19.5	18.4	1.6	43.1	30.6	15.9	8.4	2.0
	所得段階Ⅰ	全体	1,540	18.3	51.8	12.1	16.8	1.0	46.9	32.9	12.9	6.6	0.8
		和歌山市	573	18.3	55.3	9.9	15.5	0.9	46.4	33.2	13.1	6.8	0.5
		紀北	477	20.1	48.4	11.3	18.7	1.5	46.8	33.5	11.7	6.9	1.0
		紀中	253	16.6	52.6	15.4	14.2	1.2	45.8	33.2	14.2	5.5	1.2
		紀南	217	16.1	49.3	15.7	18.9	0.0	49.3	31.8	12.0	6.0	0.9
	所得段階Ⅱ	全体	1,041	17.5	49.1	15.1	17.3	1.1	46.2	30.5	12.9	9.4	1.0
		和歌山市	282	18.4	52.8	10.6	17.0	1.1	51.8	30.5	8.9	8.5	0.4
		紀北	330	17.3	50.3	13.3	18.2	0.9	45.2	29.7	11.2	12.7	1.2
		紀中	215	18.1	48.4	15.8	16.3	1.4	45.6	29.8	15.8	7.4	1.4
		紀南	203	15.3	42.4	23.6	17.7	1.0	42.4	30.5	18.2	7.9	1.0
	所得段階Ⅲ	全体	344	21.8	45.3	17.4	13.4	2.0	34.9	31.4	21.5	11.6	0.6
		和歌山市	76	21.1	46.1	21.1	10.5	1.3	36.8	26.3	19.7	17.1	0.0
		紀北	98	22.4	50.0	11.2	11.2	5.1	29.6	35.7	23.5	11.2	0.0
		紀中	85	21.2	44.7	18.8	14.1	1.2	35.3	36.5	21.2	5.9	1.2
		紀南	83	22.9	38.6	20.5	18.1	0.0	37.3	26.5	21.7	13.3	1.2
経済的困難世帯	全体	552	17.4	45.5	16.1	19.4	1.6	34.6	31.2	19.2	14.1	0.9	
	和歌山市	154	18.2	47.4	13.0	18.8	2.6	39.0	28.6	17.5	14.3	0.6	
	紀北	170	17.6	48.8	12.9	18.8	1.8	31.8	35.3	18.2	14.7	0.0	
	紀中	104	15.4	46.2	18.3	19.2	1.0	32.7	34.6	20.2	11.5	1.0	
	紀南	121	17.4	38.0	22.3	21.5	0.8	33.9	25.6	22.3	15.7	2.5	

(5) 地域別に見た保護者の孤立と精神的健康

保護者にとって、困りごとを相談できたり緊急時に助けてくれる人の有無をみると、全体的に「どちらかがいない」は和歌山市で多く、紀中、紀南で少なくなっています。また、保護者の精神的健康状態（K6得点）については、地域差はあまり見られません。

■世帯区分別・地域別にみた保護者の人間関係と精神的健康状態

	世帯類型	地域区分	件数	相談できる人または 緊急時に助けてくれる人の存在			保護者の精神的健康状態(K6得点)			
				どちらも いる	どちらかが いない	判定 不能	高	中	低	判定 不能
小学5年生	全体	全体	3,772	86.5	10.8	2.7	36.8	32.0	29.2	2.0
		和歌山市	1,268	84.8	13.1	2.1	38.0	33.5	26.8	1.7
		紀北	1,187	87.0	10.2	2.8	35.1	30.7	32.0	2.1
		紀中	604	88.2	8.4	3.3	34.8	34.8	29.0	1.5
		紀南	678	87.3	9.9	2.8	39.5	29.4	28.5	2.7
	所得 段階Ⅰ	全体	1,724	88.1	10.4	1.6	39.8	33.4	25.5	1.2
		和歌山市	688	85.5	13.5	1.0	41.1	34.9	23.4	0.6
		紀北	525	90.7	7.6	1.7	38.7	32.0	27.6	1.7
		紀中	247	88.3	9.7	2.0	34.4	37.2	26.7	1.6
		紀南	251	89.2	8.4	2.4	43.8	29.5	25.1	1.6
	所得 段階Ⅱ	全体	1,326	87.9	9.7	2.5	35.0	32.1	31.0	2.0
		和歌山市	377	87.0	10.9	2.1	35.8	34.7	27.9	1.6
		紀北	448	86.2	11.2	2.7	32.4	28.8	36.4	2.5
		紀中	225	91.6	5.8	2.7	36.9	35.6	26.7	0.9
		紀南	262	88.5	8.8	2.7	37.8	30.5	29.4	2.3
	所得 段階Ⅲ	全体	392	80.6	16.6	2.8	29.8	28.1	39.0	3.1
		和歌山市	100	74.0	23.0	3.0	28.0	28.0	41.0	3.0
		紀北	104	80.8	18.3	1.0	29.8	27.9	41.3	1.0
		紀中	78	83.3	10.3	6.4	29.5	25.6	42.3	2.6
		紀南	105	84.8	14.3	1.0	31.4	30.5	32.4	5.7
経済的 困難 世帯	全体	616	80.4	18.0	1.6	21.1	30.0	47.1	1.8	
	和歌山市	188	75.5	22.9	1.6	22.9	25.5	50.0	1.6	
	紀北	192	80.7	18.2	1.0	17.2	35.4	45.8	1.6	
	紀中	93	81.7	15.1	3.2	23.7	31.2	45.2	0.0	
	紀南	135	84.4	14.1	1.5	23.7	26.7	45.9	3.7	
中学2年生	全体	全体	3,224	85.9	11.1	2.9	36.4	31.1	29.9	2.6
		和歌山市	1,023	84.2	13.6	2.2	39.3	31.2	27.9	1.7
		紀北	1,002	87.6	9.5	2.9	35.1	30.0	31.7	3.1
		紀中	605	86.8	10.2	3.0	36.7	30.6	29.6	3.1
		紀南	559	85.2	10.7	4.1	34.0	32.2	31.1	2.7
	所得 段階Ⅰ	全体	1,540	88.5	9.4	2.1	38.9	31.9	27.5	1.6
		和歌山市	573	85.0	13.3	1.7	40.5	32.5	25.5	1.6
		紀北	477	89.7	8.0	2.3	39.0	29.6	29.8	1.7
		紀中	253	90.9	6.7	2.4	40.3	30.0	28.1	1.6
		紀南	217	92.6	5.5	1.8	33.6	36.4	28.1	1.8
	所得 段階Ⅱ	全体	1,041	86.3	11.5	2.2	36.6	31.4	30.4	1.6
		和歌山市	282	85.8	12.8	1.4	39.4	30.9	28.7	1.1
		紀北	330	87.6	10.0	2.4	34.5	30.6	32.1	2.7
		紀中	215	87.0	11.6	1.4	38.6	31.6	28.4	1.4
		紀南	203	83.7	12.3	3.9	35.5	31.5	32.0	1.0
	所得 段階Ⅲ	全体	344	80.5	17.2	2.3	26.7	30.5	38.7	4.1
		和歌山市	76	73.7	22.4	3.9	28.9	31.6	39.5	0.0
		紀北	98	82.7	15.3	2.0	24.5	33.7	35.7	6.1
		紀中	85	87.1	12.9	0.0	25.9	25.9	41.2	7.1
		紀南	83	77.1	19.3	3.6	27.7	30.1	39.8	2.4
経済的 困難 世帯	全体	552	77.2	20.1	2.7	22.1	27.9	47.3	2.7	
	和歌山市	154	76.6	20.8	2.6	26.0	24.0	49.4	0.6	
	紀北	170	82.4	15.9	1.8	22.9	30.0	42.9	4.1	
	紀中	104	78.8	21.2	0.0	18.3	30.8	48.1	2.9	
	紀南	121	68.6	24.8	6.6	19.8	26.4	50.4	3.3	

(6) 地域別にみた施策等の情報の入手方法

子供に関する施策等の情報を受け取る方法について地域別にみると、「現在の受け取り方法」の「行政機関の広報紙」では、和歌山市では所得段階による差がやや大きくなっています。また「学校からのメール」については、紀南で回答が少なくなっています。

	世帯 類型	地域	件数	行政機関の	行政機関の	SNS(LINE、	学校からの	学校からの	家族や友人から	無回答・不明
				広報紙	ホームページ	ツイッター)	メール	のメール	の情報	
現在の受け取り方法	全体	全体	6,996	62.5	9.6	6.2	81.7	32.5	41.1	6.6
		和歌山市	2,291	64.0	9.9	5.9	82.8	33.6	38.9	5.5
		紀北	2,189	63.5	11.1	6.9	83.1	35.5	42.9	6.2
		紀中	1,209	61.0	8.1	6.0	80.6	36.2	42.8	7.6
		紀南	1,237	60.5	7.8	5.6	78.4	21.6	40.7	8.7
	所得 段階Ⅰ	全体	3,264	68.0	12.4	6.0	83.6	31.1	41.9	4.4
		和歌山市	1,261	69.5	11.1	5.6	84.4	31.5	37.7	3.3
		紀北	1,002	68.7	14.0	7.0	84.6	33.1	45.0	4.8
		紀中	500	65.4	13.2	6.4	81.2	35.2	48.0	5.2
		紀南	468	66.7	10.7	4.7	81.8	22.0	41.0	5.8
	所得 段階Ⅱ	全体	2,367	62.7	8.6	6.5	83.6	35.1	44.7	5.2
		和歌山市	659	62.1	9.4	6.4	83.9	37.6	44.0	4.4
		紀北	778	63.5	10.5	7.1	84.7	39.2	46.4	5.0
		紀中	440	63.9	5.0	5.9	84.1	37.0	43.0	6.6
		紀南	465	61.9	7.7	6.0	80.9	22.8	44.3	5.4
	所得 段階Ⅲ	全体	736	49.2	4.3	6.0	78.3	33.8	34.0	7.5
		和歌山市	176	46.0	5.7	5.7	80.7	39.2	39.2	8.5
		紀北	202	49.5	5.0	5.9	78.7	38.1	27.2	5.9
		紀中	163	49.1	3.1	6.1	77.3	37.4	30.7	6.1
		紀南	188	51.6	3.7	6.4	75.5	21.3	38.3	9.6
経済的 困難 世帯	全体	1,168	52.7	7.3	6.8	78.5	33.1	40.0	7.6	
	和歌山市	342	49.4	9.4	7.6	77.5	37.7	38.6	7.6	
	紀北	362	55.8	7.7	6.1	79.6	34.3	41.4	6.9	
	紀中	197	53.8	5.1	8.6	80.7	41.6	39.1	7.6	
	紀南	256	52.0	5.5	5.5	76.6	19.1	39.8	8.6	
今後受け取りたい方法	全体	全体	6,996	51.1	16.4	19.1	71.0	42.8	29.2	11.4
		和歌山市	2,291	51.2	16.8	19.3	71.1	45.7	26.6	10.4
		紀北	2,189	52.0	18.6	20.1	71.0	47.1	30.7	11.4
		紀中	1,209	51.4	14.6	18.5	70.7	43.8	32.1	12.3
		紀南	1,237	49.4	12.7	17.1	71.1	29.2	28.9	12.8
	所得 段階Ⅰ	全体	3,264	55.9	20.2	19.0	73.3	43.8	30.1	8.3
		和歌山市	1,261	56.1	19.0	17.5	73.7	45.4	26.4	8.2
		紀北	1,002	56.4	22.5	20.8	72.3	47.5	31.8	8.5
		紀中	500	56.4	20.6	21.8	73.8	43.6	35.4	8.0
		紀南	468	54.9	17.1	16.0	73.7	32.1	31.0	8.8
	所得 段階Ⅱ	全体	2,367	50.2	14.1	20.2	71.9	43.3	31.1	11.4
		和歌山市	659	48.7	14.6	21.1	70.7	48.3	28.8	10.0
		紀北	778	52.8	17.6	21.2	73.3	47.8	34.1	10.5
		紀中	440	50.2	9.3	16.6	70.2	42.7	30.5	14.5
		紀南	465	48.0	11.2	19.6	73.1	29.5	30.5	11.8
	所得 段階Ⅲ	全体	736	42.3	10.5	20.0	69.6	42.7	24.6	11.8
		和歌山市	176	37.5	10.8	25.6	68.8	47.7	23.9	13.1
		紀北	202	40.6	12.4	19.8	66.8	49.0	21.3	13.4
		紀中	163	46.0	11.7	19.0	70.6	49.7	27.6	8.0
		紀南	188	44.7	7.4	16.5	71.3	26.1	25.5	12.8
経済的 困難 世帯	全体	1,168	42.5	11.8	23.4	67.3	43.4	27.6	12.8	
	和歌山市	342	40.1	12.6	26.3	63.2	37.7	24.3	14.3	
	紀北	362	43.9	14.1	22.4	69.9	34.3	27.6	11.0	
	紀中	197	43.7	10.2	24.9	68.5	41.6	31.5	11.7	
	紀南	256	42.2	8.2	19.5	68.0	19.1	28.5	14.1	

※小学5年生と中学2年生を合算した数値を示しています。

(7) 地域別にみた支援制度の利用・認知の状況

支援制度の利用状況や認知されているかどうかの状況について地域別にみると、「子供食堂」を「利用したことがある」は紀南でやや少なく、「放課後児童クラブ」を「利用したことがある」は和歌山市でやや少なくなっています。これは、和歌山市が「放課後児童クラブ」という名称を用いていないことも影響していると考えられます。「学校実施の補充学習」は紀北と紀中で「利用したことがある」が多くなっています。

世帯類型	地域	件数	子供食堂				放課後児童クラブ			
			利用したことがある	利用したことがない	知っているが知らない	明無回答・不	利用したことがある	利用したことがない	知っているが知らない	明無回答・不
全体	全体	6,996	1.8	63.3	31.1	3.8	22.0	52.6	22.5	2.9
	和歌山市	2,291	1.8	65.2	30.0	3.0	16.4	54.5	26.6	2.5
	紀北	2,189	1.8	63.5	30.7	4.0	25.2	50.7	21.0	3.2
	紀中	1,209	3.1	62.2	30.7	4.0	26.5	55.4	15.7	2.4
	紀南	1,237	0.5	60.8	34.1	4.6	22.1	50.2	24.0	3.7
所得段階Ⅰ	全体	3,264	1.8	69.0	26.8	2.4	23.3	54.4	20.7	1.6
	和歌山市	1,261	1.8	69.7	26.5	2.0	16.8	56.6	24.9	1.7
	紀北	1,002	1.0	68.5	27.7	2.8	28.3	51.2	18.7	1.8
	紀中	500	4.4	66.2	25.4	4.0	29.4	55.2	13.2	2.2
	紀南	468	0.4	71.2	27.6	0.9	23.3	54.5	21.8	0.4
所得段階Ⅱ	全体	2,367	1.7	60.5	34.3	3.5	20.9	52.7	23.9	2.5
	和歌山市	659	1.8	61.2	34.1	2.9	15.8	53.0	29.0	2.3
	紀北	778	2.4	62.9	31.4	3.3	23.0	51.3	22.9	2.8
	紀中	440	2.0	60.7	34.5	2.7	24.1	58.0	16.8	1.1
	紀南	465	0.2	56.3	38.7	4.7	21.3	50.5	24.9	3.2
所得段階Ⅲ	全体	736	2.7	51.9	40.8	4.6	24.2	45.5	26.9	3.4
	和歌山市	176	2.3	57.4	38.1	2.3	19.3	47.2	33.0	0.6
	紀北	202	3.0	48.0	43.6	5.4	24.8	43.6	27.7	4.0
	紀中	163	4.3	52.8	38.7	4.3	27.6	50.9	18.4	3.1
	紀南	188	1.6	48.9	43.1	6.4	25.0	42.0	27.1	5.9
経済的困難世帯	全体	1,168	2.7	56.3	37.1	3.9	22.4	46.1	28.3	3.2
	和歌山市	342	1.8	55.8	38.0	4.4	19.6	46.8	31.0	2.6
	紀北	362	3.6	60.5	32.6	3.3	23.8	47.8	25.1	3.3
	紀中	197	6.1	55.8	35.0	3.0	27.4	49.7	20.8	2.0
	紀南	256	0.4	51.2	43.8	4.7	20.3	40.6	34.8	4.3
			学校実施の補充学習(学習支援)				子ども会での学習支援			
全体	全体	6,996	21.3	42.7	32.1	3.9	5.2	24.5	66.3	4.0
	和歌山市	2,291	15.5	46.7	34.6	3.2	3.9	27.8	65.1	3.2
	紀北	2,189	29.6	40.3	26.0	4.1	4.9	22.7	68.4	4.1
	紀中	1,209	23.7	42.7	29.9	3.6	7.0	23.2	65.5	4.3
	紀南	1,237	15.0	39.5	40.6	5.0	6.1	22.9	66.0	5.1
所得段階Ⅰ	全体	3,264	20.3	47.9	29.5	2.4	4.6	27.8	65.3	2.3
	和歌山市	1,261	14.3	49.8	33.6	2.3	3.3	30.3	64.3	2.1
	紀北	1,002	28.9	45.1	23.6	2.4	4.5	25.0	68.2	2.4
	紀中	500	24.0	47.6	25.2	3.2	6.6	26.0	63.8	3.6
	紀南	468	14.1	48.1	36.1	1.7	6.2	27.8	65.0	1.1
所得段階Ⅱ	全体	2,367	24.0	39.5	33.2	3.3	5.8	22.2	68.1	3.8
	和歌山市	659	19.4	42.8	35.2	2.6	4.9	26.3	65.7	3.2
	紀北	778	31.6	38.0	27.0	3.3	5.4	22.0	69.2	3.5
	紀中	440	25.5	39.5	32.7	2.3	8.2	18.0	70.5	3.4
	紀南	465	15.5	37.6	42.2	4.7	5.2	21.7	68.0	5.2
所得段階Ⅲ	全体	736	22.4	33.2	39.7	4.8	6.7	22.0	66.3	5.0
	和歌山市	176	17.6	39.8	39.8	2.8	5.1	23.9	68.8	2.3
	紀北	202	28.2	32.7	33.7	5.4	4.5	21.8	68.3	5.4
	紀中	163	26.4	32.5	37.4	3.7	7.4	25.8	62.0	4.9
	紀南	188	18.1	28.7	46.3	6.9	10.1	17.6	64.9	7.4
経済的困難世帯	全体	1,168	26.1	33.5	37.0	3.4	5.9	22.9	66.8	4.5
	和歌山市	342	24.3	34.2	38.3	3.2	4.7	26.3	64.3	4.7
	紀北	362	30.1	35.6	30.7	3.6	5.2	21.5	69.6	3.6
	紀中	197	27.9	36.5	33.0	2.5	5.6	23.9	67.0	3.6
	紀南	256	20.7	28.1	46.9	4.3	8.2	19.9	66.0	5.9

※小学5年生と中学2年生を合算した数値を示しています。

「上記以外が実施する学習支援」を「利用したことがある」は紀北と紀南でやや少なく、「ファミリー・サポート・センター」は紀中で利用、認知共に少なくなっています。「子育て世代包括支援センター」を「利用したことがある」は和歌山市でやや少なくなっています。

世帯類型	地域	件数	上記以外が実施する学習支援				子育て短期支援事業(ショートステイ)			
			利用したことがある	知っているが利用したことがない	知らない	無回答・不明	利用したことがある	知っているが利用したことがない	知らない	無回答・不明
全体	全体	6,996	3.1	19.9	72.8	4.3	0.3	25.2	70.4	4.1
	和歌山市	2,291	3.8	21.0	71.9	3.4	0.4	27.1	69.1	3.3
	紀北	2,189	2.0	19.7	73.8	4.4	0.2	25.9	69.7	4.2
	紀中	1,209	3.8	18.0	73.9	4.2	0.1	20.0	75.9	4.0
	紀南	1,237	2.7	19.7	71.9	5.6	0.3	25.5	69.0	5.3
所得段階Ⅰ	全体	3,264	2.9	23.1	71.4	2.6	0.3	28.4	68.8	2.5
	和歌山市	1,261	3.4	22.9	71.3	2.4	0.2	29.1	68.3	2.4
	紀北	1,002	2.1	23.4	72.0	2.6	0.3	29.6	67.4	2.7
	紀中	500	4.0	20.6	71.4	4.0	0.0	22.8	73.6	3.6
	紀南	468	2.4	24.4	71.6	1.7	0.4	29.5	68.8	1.3
所得段階Ⅱ	全体	2,367	3.5	18.0	74.5	4.0	0.1	23.7	72.6	3.6
	和歌山市	659	4.1	19.9	73.0	3.0	0.3	26.4	70.3	3.0
	紀北	778	2.1	18.8	75.2	4.0	0.0	25.8	70.8	3.3
	紀中	440	3.9	13.9	79.1	3.2	0.0	15.9	81.1	3.0
	紀南	465	4.3	18.7	71.4	5.6	0.2	24.5	70.1	5.2
所得段階Ⅲ	全体	736	2.7	16.2	76.4	4.8	0.8	21.2	72.7	5.3
	和歌山市	176	5.1	15.3	76.7	2.8	2.3	22.2	72.7	2.8
	紀北	202	1.5	15.8	77.7	5.0	0.0	19.8	74.8	5.4
	紀中	163	4.3	19.0	73.6	3.1	0.6	19.6	74.8	4.9
	紀南	188	0.5	14.4	77.1	8.0	0.5	21.3	70.2	8.0
経済的困難世帯	全体	1,168	3.3	16.4	75.9	4.4	0.5	21.3	73.6	4.5
	和歌山市	342	4.7	18.1	73.4	3.8	1.2	23.4	71.1	4.4
	紀北	362	2.2	15.7	78.5	3.6	0.0	21.3	74.6	4.1
	紀中	197	3.6	17.8	75.6	3.0	0.5	20.3	75.6	3.6
	紀南	256	2.0	14.8	76.2	7.0	0.4	19.5	74.2	5.9
			ファミリー・サポート・センター				子育て世代包括支援センター			
全体	全体	6,996	3.7	46.4	46.1	3.8	4.6	30.3	61.0	4.0
	和歌山市	2,291	4.2	50.6	42.0	3.1	3.1	32.5	61.0	3.4
	紀北	2,189	3.9	48.7	43.4	3.9	5.6	31.5	58.9	4.0
	紀中	1,209	1.0	31.8	63.3	3.9	6.5	26.4	63.2	4.0
	紀南	1,237	5.0	48.9	41.3	4.8	3.7	28.3	62.9	5.1
所得段階Ⅰ	全体	3,264	4.4	51.4	41.9	2.2	4.8	33.5	59.3	2.4
	和歌山市	1,261	5.5	54.6	37.7	2.2	3.8	34.7	59.2	2.4
	紀北	1,002	4.7	53.6	39.5	2.2	6.1	34.4	57.1	2.4
	紀中	500	1.0	34.4	61.2	3.4	5.2	29.0	62.2	3.6
	紀南	468	4.3	56.2	38.5	1.1	4.1	33.1	61.8	1.1
所得段階Ⅱ	全体	2,367	3.4	44.4	48.8	3.3	4.8	28.5	63.1	3.6
	和歌山市	659	2.6	48.9	45.8	2.7	2.7	31.3	62.8	3.2
	紀北	778	3.6	47.3	45.8	3.3	5.4	30.6	60.8	3.2
	紀中	440	0.9	29.5	66.4	3.2	8.2	24.1	64.5	3.2
	紀南	465	6.7	48.2	40.9	4.3	3.4	26.5	65.2	4.9
所得段階Ⅲ	全体	736	2.9	35.5	56.8	4.9	3.0	26.6	65.1	5.3
	和歌山市	176	3.4	37.5	56.3	2.8	0.6	27.8	68.2	3.4
	紀北	202	3.0	38.6	53.5	5.0	4.0	29.7	60.9	5.4
	紀中	163	1.2	27.0	67.5	4.3	3.7	24.5	67.5	4.3
	紀南	188	3.7	37.2	51.6	7.4	3.7	23.4	64.9	8.0
経済的困難世帯	全体	1,168	4.3	38.7	52.8	4.2	3.7	25.3	66.6	4.4
	和歌山市	342	3.8	43.3	48.5	4.4	2.3	25.7	67.5	4.4
	紀北	362	5.0	40.3	50.8	3.9	4.4	28.2	63.5	3.9
	紀中	197	1.5	31.5	63.5	3.6	4.6	26.4	66.0	3.0
	紀南	256	5.9	36.3	52.7	5.1	3.5	20.7	69.5	6.3

※小学5年生と中学2年生を合算した数値を示しています。

(8) 地域別にみた相談窓口の利用・認知の状況

相談窓口の利用状況や認知されているかどうかの状況について地域別にみると、「県・市町村の窓口」で「相談したことがある」は紀北でやや多く、「知らない」は和歌山市でやや多くなっています。「民生委員・児童委員」に「相談したことがある」は和歌山市でやや少なく、「保健所」で「相談したことがある」は和歌山市でやや多くなっています。

世帯類型	地域	件数	県・市町村の窓口				学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど			
			相談したことがある	知っていないが相談したことがない	知らない	明無回答・不明	相談したことがある	知っていないが相談したことがない	知らない	明無回答・不明
全体	全体	6,996	9.9	67.7	19.5	2.9	33.4	57.1	6.9	2.6
	和歌山市	3,264	8.2	72.8	17.4	1.6	32.8	60.3	5.7	1.2
	紀北	2,367	10.6	66.0	21.0	2.3	35.6	54.9	7.4	2.1
	紀中	736	16.8	54.9	24.9	3.4	34.6	50.8	11.5	3.0
	紀南	629	8.3	62.3	17.8	11.6	26.4	56.3	6.4	11.0
所得段階Ⅰ	全体	3,264	8.2	72.8	17.4	1.6	32.8	60.3	5.7	1.2
	和歌山市	1,261	7.3	72.2	19.0	1.4	28.3	64.5	6.2	1.0
	紀北	1,002	8.3	72.3	17.9	1.6	37.5	56.6	4.8	1.1
	紀中	500	10.0	72.0	15.8	2.2	34.6	57.8	5.4	2.2
	紀南	468	8.5	76.1	14.1	1.3	32.7	59.8	6.6	0.9
所得段階Ⅱ	全体	2,367	10.6	66.0	21.0	2.3	35.6	54.9	7.4	2.1
	和歌山市	659	9.3	64.0	24.9	1.8	29.4	61.2	7.7	1.7
	紀北	778	12.5	65.2	19.2	3.2	41.4	50.4	5.9	2.3
	紀中	440	10.0	68.9	19.8	1.4	34.8	54.8	9.1	1.4
	紀南	465	10.1	67.7	19.6	2.6	34.8	54.8	7.5	2.8
所得段階Ⅲ	全体	736	16.8	54.9	24.9	3.4	34.6	50.8	11.5	3.0
	和歌山市	176	15.9	52.3	30.7	1.1	34.1	52.3	13.1	0.6
	紀北	202	24.3	52.0	20.3	3.5	34.2	54.0	8.4	3.5
	紀中	163	11.7	56.4	28.8	3.1	28.8	52.8	14.7	3.7
	紀南	188	14.4	58.5	21.3	5.9	41.0	43.6	11.2	4.3
経済的困難世帯	全体	1,168	17.1	54.5	24.5	3.9	37.1	49.9	9.8	3.2
	和歌山市	342	18.4	53.2	25.7	2.6	35.4	52.9	10.2	1.5
	紀北	362	18.5	52.5	24.3	4.7	38.1	49.2	8.3	4.4
	紀中	197	14.7	62.9	20.8	1.5	37.6	52.8	8.6	1.0
	紀南	256	15.2	52.3	26.2	6.3	37.1	44.5	12.9	5.5
全体	全体	6,996	2.1	76.2	18.6	3.1	10.8	71.7	14.4	3.0
	和歌山市	2,291	1.2	71.2	24.9	2.6	13.7	71.2	12.7	2.3
	紀北	2,189	2.8	78.5	15.4	3.3	8.6	73.0	15.0	3.4
	紀中	1,209	1.7	79.9	15.7	2.7	10.8	71.2	15.4	2.6
	紀南	1,237	2.6	77.9	15.3	4.2	9.3	71.2	15.4	4.1
所得段階Ⅰ	全体	3,264	1.4	79.6	17.3	1.7	10.8	75.1	12.7	1.4
	和歌山市	1,261	1.0	74.7	22.7	1.6	13.1	74.3	11.3	1.3
	紀北	1,002	1.8	82.7	13.5	2.0	8.7	77.2	12.7	1.4
	紀中	500	1.0	81.2	15.6	2.2	10.4	73.2	14.4	2.0
	紀南	468	1.7	84.8	12.4	1.1	8.8	76.1	13.9	1.3
所得段階Ⅱ	全体	2,367	2.1	75.4	19.9	2.6	11.4	70.8	15.3	2.6
	和歌山市	659	1.2	67.7	29.0	2.1	15.3	68.6	14.4	1.7
	紀北	778	3.2	78.0	15.7	3.1	8.7	72.0	15.8	3.5
	紀中	440	0.7	81.4	16.1	1.8	11.8	70.2	16.1	1.8
	紀南	465	2.4	76.8	17.6	3.2	9.7	72.7	14.4	3.2
所得段階Ⅲ	全体	736	4.9	69.3	22.1	3.7	9.9	66.2	20.0	3.9
	和歌山市	176	2.3	67.0	29.0	1.7	10.2	68.2	20.5	1.1
	紀北	202	6.4	67.8	22.3	3.5	7.4	66.8	21.3	4.5
	紀中	163	6.1	74.8	16.6	2.5	11.7	68.7	16.6	3.1
	紀南	188	4.8	67.6	20.7	6.9	11.2	60.6	21.3	6.9
経済的困難世帯	全体	1,168	4.5	67.4	24.0	4.1	12.9	64.0	19.1	4.0
	和歌山市	342	3.5	64.9	29.2	2.3	19.0	61.1	18.1	1.8
	紀北	362	6.4	66.3	22.4	5.0	9.1	65.7	19.9	5.2
	紀中	197	3.6	80.2	15.2	1.0	14.7	71.6	12.2	1.5
	紀南	256	3.9	62.5	25.8	7.8	9.4	58.6	24.6	7.4

※小学5年生と中学2年生を合算した数値を示しています。

「ハローワーク」に「相談したことがある」は紀中、紀南でやや少なく、「児童相談所」に「相談したことがある」は紀南でやや多くなっています。「社会福祉協議会」に「相談したことがある」は紀北、紀南でやや多く、「知らない」は和歌山市で多くなっています。

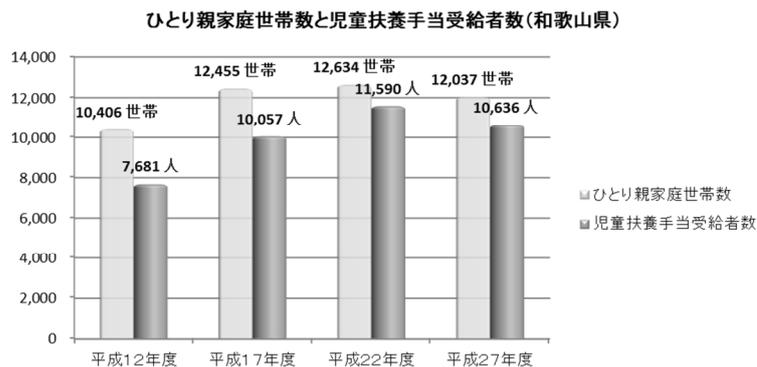
世帯類型	地域	件数	ハローワーク				児童相談所			
			相談したことがある	知っているが相談したことがない	知らない	無回答・不明	相談したことがある	知っているが相談したことがない	知らない	無回答・不明
全体	全体	6,996	15.2	62.7	19.0	3.1	5.3	71.0	19.8	3.9
	和歌山市	2,291	15.1	64.1	18.5	2.2	5.0	73.7	19.0	2.3
	紀北	2,189	17.5	61.1	18.0	3.5	4.4	71.5	19.1	5.0
	紀中	1,209	13.6	62.8	20.6	3.1	3.6	74.6	20.8	1.0
	紀南	1,237	12.8	63.5	19.6	4.1	8.6	62.9	21.5	7.0
所得段階Ⅰ	全体	3,264	13.4	67.2	17.8	1.6	2.0	82.9	13.6	1.5
	和歌山市	1,261	13.6	67.1	18.0	1.3	1.7	83.3	13.7	1.2
	紀北	1,002	16.1	65.2	17.1	1.7	1.3	83.2	13.6	1.9
	紀中	500	12.2	66.6	18.8	2.4	1.0	81.4	15.4	2.2
	紀南	468	9.0	73.3	16.7	1.1	4.5	82.9	11.5	1.1
所得段階Ⅱ	全体	2,367	17.2	61.0	19.4	2.5	2.5	79.0	16.1	2.5
	和歌山市	659	15.9	63.7	18.7	1.7	2.1	79.4	16.7	1.8
	紀北	778	19.5	59.8	17.5	3.2	2.1	80.1	14.5	3.3
	紀中	440	16.1	61.4	21.1	1.4	1.8	77.7	19.1	1.4
	紀南	465	15.3	59.4	22.2	3.2	4.1	78.1	14.8	3.0
所得段階Ⅲ	全体	736	18.2	53.4	24.6	3.8	7.1	68.9	20.2	3.8
	和歌山市	176	20.5	54.0	25.0	0.6	6.8	73.9	18.2	1.1
	紀北	202	20.3	51.0	23.8	5.0	5.4	68.8	21.3	4.5
	紀中	163	12.3	57.1	27.0	3.7	4.3	68.7	23.9	3.1
	紀南	188	19.7	51.1	23.4	5.9	11.7	63.8	18.1	6.4
経済的困難世帯	全体	1,168	20.2	52.3	23.7	3.8	5.3	71.0	19.8	3.9
	和歌山市	342	22.8	52.0	23.4	1.8	5.0	73.7	19.0	2.3
	紀北	362	21.3	51.1	22.4	5.2	4.4	71.5	19.1	5.0
	紀中	197	17.3	59.4	22.3	1.0	3.6	74.6	20.8	1.0
	紀南	256	17.6	48.4	27.3	6.6	8.6	62.9	21.5	7.0
全体			上記以外の公的機関				社会福祉協議会			
	全体	6,996	3.1	46.9	46.6	3.4	1.0	56.3	39.4	3.2
所得段階Ⅰ	全体	3,264	2.5	52.1	43.8	1.7	0.6	60.7	37.0	1.7
	和歌山市	1,261	2.8	47.8	48.0	1.4	0.2	50.8	47.4	1.5
	紀北	1,002	2.2	52.7	43.1	2.0	0.9	61.5	35.7	1.9
	紀中	500	2.0	57.0	39.0	2.0	0.6	72.4	24.6	2.4
	紀南	468	2.6	56.8	39.5	1.1	1.1	72.6	25.2	1.1
所得段階Ⅱ	全体	2,367	3.4	43.7	50.0	2.9	1.2	54.3	41.9	2.6
	和歌山市	659	4.1	40.5	53.3	2.1	0.8	42.6	54.6	2.0
	紀北	778	3.5	44.2	48.6	3.7	1.2	55.5	40.0	3.3
	紀中	440	2.7	47.5	48.2	1.6	1.1	63.4	33.9	1.6
	紀南	465	3.2	43.9	49.0	3.9	1.5	60.9	34.4	3.2
所得段階Ⅲ	全体	736	5.4	41.0	49.5	4.1	2.2	48.2	45.4	4.2
	和歌山市	176	6.3	38.1	54.5	1.1	0.6	38.1	59.7	1.7
	紀北	202	6.9	39.6	48.5	5.0	4.5	45.5	45.0	5.0
	紀中	163	2.5	44.2	49.7	3.7	0.6	56.4	39.9	3.1
	紀南	188	5.9	42.6	45.2	6.4	2.7	52.1	38.3	6.9
経済的困難世帯	全体	1,168	4.6	39.6	51.5	4.3	2.2	47.6	45.7	4.5
	和歌山市	342	5.6	35.1	56.4	2.9	0.9	39.8	56.4	2.9
	紀北	362	4.7	38.4	51.7	5.2	3.6	46.1	44.8	5.5
	紀中	197	2.5	50.3	46.2	1.0	1.5	58.9	38.6	1.0
	紀南	256	5.1	39.1	48.4	7.4	2.3	51.2	38.7	7.8

※小学5年生と中学2年生を合算した数値を示しています。

4. ひとり親世帯の状況について

ここでは、大綱で「支援の緊急度が高い」とされた生活保護世帯の子供、ひとり親世帯の子供、児童養護施設に入所している子供等のうち、大多数を占めるひとり親世帯に着目し、調査結果を分析しました。

5年毎に行われる国勢調査によると、和歌山県のひとり親家庭の世帯数は、平成22年度まで増加傾向にありました。また、ひとり親家庭世帯のうち一定所得以下の方に支給される児童扶養手当の受給者数も同様に増加傾向にあり、ひとり親家庭世帯数全体の伸びに比べ高い伸びをみせていました。



※県計画第2章4(1)和歌山県内におけるひとり親家庭世帯数の推移より

(1) 所得段階と経済的困難の状況

ひとり親世帯について、所得段階と経済的困難の状況をみると、母子世帯では約4割が所得段階Ⅲとなっており、所得の水準が特に低くなっています。父子世帯についても、所得段階Ⅲ、経済的困難世帯の割合が、両親世帯と比べると高くなっています。

なお、調査方法が異なるため、単純な比較はできませんが、平成28年国民生活基礎調査のひとり親世帯の相対的貧困率(実態調査の所得段階Ⅲの割合と同等)は、50.8%となっています。

■ひとり親世帯の所得段階と経済的困難(小学5年生)

	全体	所得段階Ⅰ		所得段階Ⅱ		所得段階Ⅲ		経済的困難世帯	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
ひとり親世帯計	416	58	13.9	158	38.0	154	37.0	129	31.0
母子世帯	387	47	12.1	146	37.7	151	39.0	122	31.5
父子世帯	29	11	37.9	12	41.4	3	10.3	7	24.1
両親世帯	3,274	1,653	50.5	1,143	34.9	223	6.8	462	14.1
合計	3,772	1,724	45.7	1,326	35.2	392	10.4	616	16.3

※所得段階Ⅰ～Ⅲのいずれかと経済的困難世帯の両方にカウントされている世帯があることや、全体の件数には無回答があるために世帯区分ができなかった世帯を含んでいるため、各世帯区分の合計は全体の件数と一致しません。

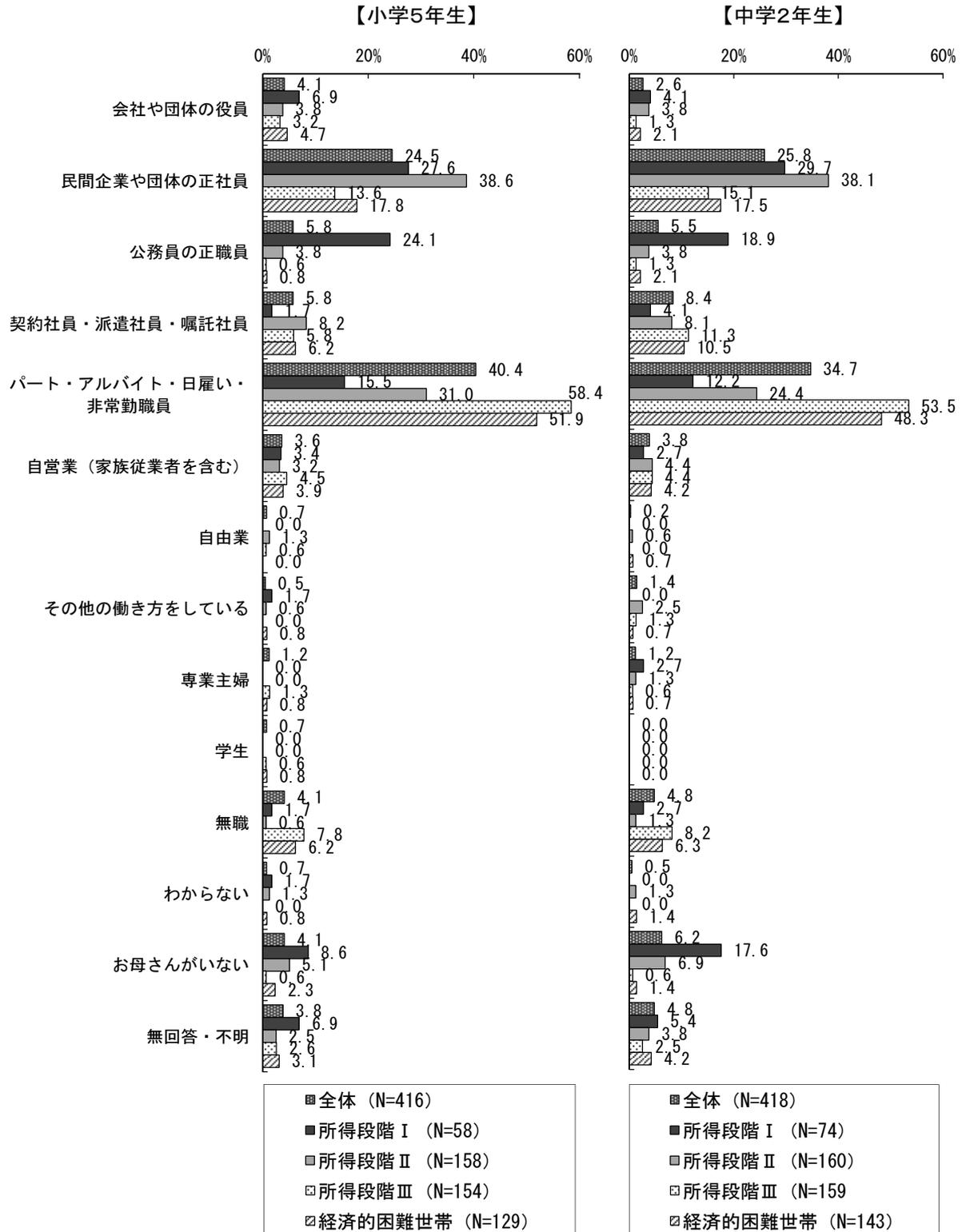
■ひとり親世帯の所得段階と経済的困難(中学2年生)

	全体	所得段階Ⅰ		所得段階Ⅱ		所得段階Ⅲ		経済的困難世帯	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
ひとり親世帯計	418	74	17.7	160	38.3	159	38.0	143	34.2
母子世帯	376	56	14.9	141	37.5	155	41.2	134	35.6
父子世帯	42	18	42.9	19	45.2	4	9.5	9	21.4
両親世帯	2,706	1,444	53.4	854	31.6	172	6.4	386	14.3
合計	3,224	1,540	47.8	1,041	32.3	344	10.7	552	17.1

(2) 就労状況 (母子世帯)

ひとり親世帯の母親の就労状況をみると、全体と比べて正社員、正職員の割合が多く、専業主婦が少なくなっています。また、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」については、所得段階が低いほど多くなるという関係が顕著に表れています。

問 36 お子さんのお母さんの現在のお仕事は、次のどれに最も近いですか。【ひとり親世帯のみ】



(3) 子供の学業の状況について

世帯区分別、ひとり親世帯かどうか別に子供の学業の状況をみると、「授業があまりわからない」「授業がほとんどわからない」と答えた子供の割合は、同じ世帯区分においてもひとり親世帯の子供の方が高い傾向があります。通塾率については、所得段階Ⅰではほとんど差がありませんが、中学2年生の所得段階Ⅲではややひとり親世帯で低くなっています。

■世帯区分別・地域別にみた授業と通塾の状況

	世帯類型	地域区分	件数	あなたは、学校の授業がわかりますか							通塾			
				わかる いつも	わかる だいたい	いえない どちらとも	わからない あまり	わからない ほとんど	不明	無回答	有り	無し	不明	無回答
小学5年生	全体	全体	3,768	40.5	46.7	6.3	3.4	0.7	2.3	40.3	55.8	3.9		
		ひとり親世帯	414	29.7	51.7	8.7	5.3	1.4	3.1	32.9	61.1	6.0		
		両親世帯	3,249	42.0	46.2	5.9	3.0	0.6	2.2	41.2	55.1	3.7		
	所得段階Ⅰ	全体	1,714	47.5	43.4	4.4	2.2	0.4	2.1	48.8	48.0	3.3		
		ひとり親世帯	58	41.4	41.4	8.6	5.2	1.7	1.7	50.0	44.8	5.2		
		両親世帯	1,644	47.8	43.4	4.3	2.1	0.3	2.1	48.8	48.0	3.2		
	所得段階Ⅱ	全体	1,314	33.6	51.4	7.5	4.3	0.7	2.4	34.2	62.5	3.3		
		ひとり親世帯	156	26.9	55.8	9.0	4.5	0.0	3.8	35.9	58.3	5.8		
		両親世帯	1,133	34.4	51.3	7.2	4.1	0.8	2.2	33.7	63.2	3.1		
	所得段階Ⅲ	全体	388	32.7	50.8	6.7	5.9	2.3	1.5	26.3	67.8	5.9		
		ひとり親世帯	154	26.6	53.9	7.1	7.1	2.6	2.6	23.4	71.4	5.2		
		両親世帯	219	37.9	47.5	6.4	5.0	2.3	0.9	27.4	65.8	6.8		
経済的 困難世帯	全体	610	31.0	49.8	7.9	7.0	1.6	2.6	26.7	68.0	5.2			
	ひとり親世帯	128	25.0	53.9	8.6	8.6	1.6	2.3	24.2	68.8	7.0			
	両親世帯	457	32.2	49.7	7.7	6.1	1.8	2.6	26.7	68.3	5.0			
中学2年生	全体	全体	3,215	25.6	53.7	11.4	5.6	1.7	1.9	60.3	36.5	3.2		
		ひとり親世帯	412	17.7	53.2	15.0	9.2	4.4	0.5	50.7	45.4	3.9		
		両親世帯	2,694	26.8	54.3	10.7	4.9	1.3	2.0	62.1	35.1	2.8		
	所得段階Ⅰ	全体	1,534	28.9	54.8	9.5	4.1	0.9	1.8	65.7	31.5	2.8		
		ひとり親世帯	73	19.2	50.7	15.1	8.2	6.8	0.0	63.0	30.1	6.8		
		両親世帯	1,439	29.4	55.0	9.3	3.8	0.6	1.9	65.9	31.5	2.6		
	所得段階Ⅱ	全体	1,032	23.4	54.7	11.3	6.4	2.3	1.8	57.9	39.0	3.1		
		ひとり親世帯	156	21.2	56.4	12.2	7.1	3.2	0.0	53.2	44.9	1.9		
		両親世帯	849	23.6	55.0	10.8	6.4	2.2	2.0	58.7	38.4	2.9		
	所得段階Ⅲ	全体	342	16.4	52.9	18.1	8.8	3.2	0.6	47.7	49.1	3.2		
		ひとり親世帯	158	14.6	52.5	17.7	11.4	3.8	0.0	43.7	51.9	4.4		
		両親世帯	171	18.7	54.4	16.4	7.0	2.3	1.2	51.5	46.8	1.8		
経済的 困難世帯	全体	550	17.5	51.3	15.6	9.8	4.2	1.6	49.3	48.0	2.7			
	ひとり親世帯	143	11.2	49.0	21.0	10.5	7.7	0.7	44.8	51.7	3.5			
	両親世帯	384	19.3	53.4	13.3	9.4	2.9	1.8	51.0	46.9	2.1			

(4) 保護者の教育姿勢と精神的健康状態

世帯区分別でひとり親世帯か両親世帯かの別に保護者の教育姿勢と精神的健康状態（K6得点）の状況を見ると、同じ世帯区分でもひとり親世帯の方が、いずれの指標もやや低い傾向があります。ひとり親世帯では、子供とのかかわりを持ちにくく、精神的にストレスの高い生活となっている保護者が多いことがうかがえます。

■世帯区分・保護者の数別にみた保護者の教育姿勢と精神的健康状態（K6得点）

	世帯 類型	地域 区分	件 数	教育姿勢				保護者の精神的健康状態(K6得点)			
				高	中	低	判定 不能	高	中	低	判定 不能
小学5年生	全体	全体	3,768	34.8	37.3	24.8	3.0	36.6	31.8	29.0	2.6
		ひとり親世帯	414	27.1	38.2	31.6	3.1	29.0	30.0	37.7	3.4
		両親世帯	3,249	36.3	37.5	24.0	2.2	37.8	32.3	28.1	1.8
	所得 段階Ⅰ	全体	1,724	41.2	36.7	20.5	1.6	39.8	33.4	25.5	1.2
		ひとり親世帯	58	39.7	37.9	20.7	1.7	41.4	31.0	25.9	1.7
		両親世帯	1,653	41.3	36.7	20.5	1.6	39.7	33.6	25.5	1.2
	所得 段階Ⅱ	全体	1,326	29.5	39.3	28.7	2.5	35.0	32.1	31.0	2.0
		ひとり親世帯	158	21.5	42.4	33.5	2.5	29.7	32.3	35.4	2.5
		両親世帯	1,143	30.7	39.1	27.6	2.5	35.7	32.2	30.2	1.9
	所得 段階Ⅲ	全体	392	27.8	34.9	35.7	1.5	29.8	28.1	39.0	3.1
		ひとり親世帯	154	24.0	37.7	35.1	3.2	22.7	28.6	44.2	4.5
		両親世帯	223	30.9	32.7	35.9	0.4	34.5	26.5	36.8	2.2
	経済的 困難 世帯	全体	616	26.5	35.6	35.4	2.6	21.1	30.0	47.1	1.8
		ひとり親世帯	129	24.0	35.7	38.8	1.6	19.4	28.7	50.4	1.6
両親世帯		462	26.6	35.7	34.6	3.0	21.6	30.3	46.1	1.9	
中学2年生	全体	全体	3,215	24.7	37.0	36.0	2.3	36.4	30.9	29.8	2.9
		ひとり親世帯	412	21.4	31.6	44.2	2.9	33.0	29.9	34.5	2.7
		両親世帯	2,694	25.6	38.3	34.5	1.6	37.3	31.6	29.0	2.2
	所得 段階Ⅰ	全体	1,540	29.4	38.5	31.0	1.2	38.9	31.9	27.5	1.6
		ひとり親世帯	74	29.7	39.2	29.7	1.4	41.9	28.4	27.0	2.7
		両親世帯	1,444	29.3	38.6	31.0	1.0	38.7	32.3	27.5	1.5
	所得 段階Ⅱ	全体	1,041	21.7	36.8	39.9	1.6	36.6	31.4	30.4	1.6
		ひとり親世帯	160	22.5	29.4	44.4	3.8	36.3	32.5	31.3	0.0
		両親世帯	854	21.5	38.8	38.4	1.3	37.0	31.3	29.9	1.9
	所得 段階Ⅲ	全体	344	17.4	31.7	48.8	2.0	26.7	30.5	38.7	4.1
		ひとり親世帯	159	17.0	29.6	52.2	1.3	25.8	30.2	40.9	3.1
		両親世帯	172	18.6	34.9	44.2	2.3	26.7	32.6	37.2	3.5
	経済的 困難 世帯	全体	552	17.2	35.1	45.7	2.0	22.1	27.9	47.3	2.7
		ひとり親世帯	143	18.9	28.7	49.7	2.8	21.0	30.8	46.2	2.1
両親世帯		386	16.6	38.3	43.5	1.6	22.8	26.7	47.9	2.6	

(5) 文化的な活動・体験と保護者以外の大人との関わり

世帯区分別でひとり親世帯か両親世帯かの別に文化的な活動・体験の状況をみると、ひとり親世帯では、両親世帯と比べて、特に所得段階の高い世帯で文化的活動指標が低くなっています。家族以外の大人との関わりについても、全体的にひとり親世帯では低い傾向があります。

■世帯区分・保護者の数別にみた文化的な活動・体験と家族以外の大人との関わり

	世帯 類型	地域 区分	件 数	文化的活動指標				家族以外の大人との関わり				
				高	中	低	判定 不能	高	中	低	判定 不能	
小学 5年生	全体	全体	3,768	36.4	30.6	30.5	2.4	43.3	27.2	20.8	8.7	
		ひとり親世帯	414	25.8	29.5	41.5	3.1	40.8	26.6	23.2	9.4	
		両親世帯	3,249	38.3	30.7	28.7	2.2	43.6	27.5	20.3	8.5	
	所得 段階Ⅰ	全体	1,714	42.8	30.9	24.0	2.3	44.9	26.4	20.0	8.7	
		ひとり親世帯	58	27.6	39.7	29.3	3.4	36.2	25.9	22.4	15.5	
		両親世帯	1,644	43.4	30.5	23.8	2.3	45.2	26.5	19.9	8.4	
	所得 段階Ⅱ	全体	1,314	34.7	29.8	33.3	2.3	43.3	28.8	20.1	7.8	
		ひとり親世帯	156	33.3	26.3	37.8	2.6	43.6	27.6	21.2	7.7	
		両親世帯	1,133	35.2	30.3	32.2	2.3	43.2	29.3	19.9	7.5	
	所得 段階Ⅲ	全体	388	19.6	33.0	45.6	1.8	40.2	25.0	27.8	7.0	
		ひとり親世帯	154	18.2	30.5	48.1	3.2	40.3	26.6	27.3	5.8	
		両親世帯	219	20.5	34.7	43.8	0.9	38.8	25.1	27.9	8.2	
	経済的 困難 世帯	全体	610	24.8	29.8	43.4	2.0	40.5	28.4	23.4	7.7	
		ひとり親世帯	128	19.5	27.3	50.0	3.1	43.8	28.1	24.2	3.9	
		両親世帯	457	25.6	30.6	42.0	1.8	39.6	29.5	22.5	8.3	
	中学 2年生	全体	全体	3,215	37.5	27.7	32.6	2.2	48.2	31.3	14.0	6.5
			ひとり親世帯	412	28.4	29.4	41.3	1.0	43.0	30.6	20.9	5.6
			両親世帯	2,694	39.3	27.7	30.8	2.2	48.9	31.5	13.2	6.4
所得 段階Ⅰ		全体	1,534	43.2	26.8	28.0	2.0	49.9	31.1	13.1	5.9	
		ひとり親世帯	73	31.5	35.6	32.9	0.0	46.6	26.0	21.9	5.5	
		両親世帯	1,439	43.6	26.5	27.7	2.2	50.0	31.4	12.8	5.8	
所得 段階Ⅱ		全体	1,032	33.9	27.9	36.1	2.0	47.9	32.2	13.2	6.8	
		ひとり親世帯	156	30.8	28.2	41.0	0.0	41.7	35.9	17.3	5.1	
		両親世帯	849	34.9	28.0	34.9	2.2	49.1	31.3	12.7	6.8	
所得 段階Ⅲ		全体	342	25.1	30.1	43.0	1.8	45.9	28.4	19.6	6.1	
		ひとり親世帯	158	27.2	27.8	43.7	1.3	43.0	27.8	23.4	5.7	
		両親世帯	171	24.6	31.6	42.1	1.8	48.5	29.2	16.4	5.8	
経済的 困難 世帯	全体	550	24.9	28.9	44.2	2.0	44.0	30.4	17.3	8.4		
	ひとり親世帯	143	25.2	28.7	44.8	1.4	38.5	25.9	26.6	9.1		
	両親世帯	384	25.5	29.4	43.5	1.6	46.4	31.5	14.3	7.8		

VI 子供の貧困対策有識者による寄稿

「和歌山県子供の生活実態調査」の結果を概観して

和歌山大学教育学部 越野章史

日本社会において、雇用の不安定化を背景とした格差の拡大、貧困の再問題化が指摘されるようになって、すでに20年近く（あるいはそれ以上）の時間が経ちました。社会全体として見れば豊かなはずの日本で、貧困が再び問題化しているのは、豊かさの分配がうまくいっていないからに他なりません。「子どもの貧困」が特に問題であるのは、経済的に困難な家庭に生まれてしまうことはどのような意味でも子ども自身の責任とは言えないこと、また、子ども期に貧困を経験することはその時だけの問題ではなく、後々まで残る負の影響を成長の過程に深く与えてしまいかねないことによると考えます。

こうした問題を解消するため、2014年に「子どもの貧困対策推進法」が施行されました。法律名に「貧困対策」を冠した初めての法律であり、その意義は小さくありませんが、これはあくまで貧困対策の理念を示した法律であり、具体的な状況把握や対策はその後の施策に委ねられています。そのため、各都道府県による実態の把握と、それに基づいた対策の立案が急がれているのです。この流れの中で、今回、和歌山県でも「子供の生活実態調査」として大規模な質問紙調査が行われました。

以下、調査結果を概観した上で、いくつかの指摘や実態把握に資するための考察を行いたいと思います。

和歌山県の子どもの「相対的貧困率」について -数値を独り歩きさせないこと-

今回の調査結果では、和歌山県の子どもの「相対的貧困率」は「11.6%」という数値が出されています（報告書 pp. 12-14）。厚生労働省の「国民生活基礎調査」による最新の全国の数値（子どもの相対的貧困率）は13.9%（2017年発表の、2015年の数値）です。したがってこの数値だけを見ると、和歌山県は全国よりも子どもの貧困率が低かった、という結論になりかねません。そのように結論できるならよいことなのですが、残念ながら今回の調査ではそうはっきりとは言えないという点をおさえておくことが必要だと考えます。

第一に、厚生労働省の調査は18歳未満の全ての子どもについて推計値を出しているのですが、今回調査は小学5年と中学2年という2学年だけを対象としたものです。したがって、単純に比較することには慎重であるべきです。一般に、世帯形成期から子どもが幼い時期の方が世帯の所得は低い傾向がありますから、0歳～10歳の子どもがいる家庭を対象としていない今回調査は、全国の調査と比較すべきではないでしょう。

第二に、質問票での所得の聞き方が、ある程度幅を持った所得層の選択肢から選んでいただく形式だったため、貧困線（今回調査では一人あたりの年間所得119万円。国の調査では122万円）前後の対象者は年間「100～150万円未満」という幅をもった方々であり、この幅の範囲内でより細かく、所得がいくらの方が何人いるのかまでは調査できていません。つまり、今回調査での和歌山県の「子どもの貧困率」は、（厚労省調査と比べても）かなり粗い推計値であり、相当の誤差があり得ると考えるべきです。

第三に、全体の回収率が約45%（p. 8）と、残念ながら高くはないことにも注意が必要です。調査にご

協力いただけなかった 55%の方々に共通する特徴があるかどうかは何とも言えませんが、仮に経済的に厳しいご家庭ほど協力いただけなかったというようなことがあるとすれば、実際の貧困率は今回の調査結果よりも高い、ということもあり得るわけです。

以上の理由から、11.6%という数字を「全国より低い」と評価することは適切とは言えません。誤差を含みますが、少なくとも全国と同程度の水準で、本県にも子どもの貧困の問題が存在していることが分かったと捉え、対策を行っていくことが喫緊の課題であると考えます。

分析の軸となった概念について

本報告書の分析では、対象者を「所得段階Ⅰ」～「Ⅲ」に区分し、それとは別個に「経済的困難世帯」（p. 18: 過去1年の間に「生活必需品の購入困難」「料金等の支払い困難」「生活必需品の非所有」のいずれかの経験がある世帯）を抽出して、両者を分析の主たる軸としています。p. 18の表によれば、最も所得の高い「所得段階Ⅰ」でも5.7%が「経済的困難世帯」に該当しており、逆に最も所得の低い「所得段階Ⅲ」の世帯でも47%は「経済的困難世帯」ではありません。この結果を不審に思われる方も多いのではないかと思います、なぜこうしたことになるのか、考え得ることを記しておきたいと思います。

「所得段階」による区分の根拠になっているのは、対象者に答えていただいた昨年度の所得です。しかし、所得がある程度あったとしても、負債が大きければそれだけ生活は苦しくなります。例えば「所得段階Ⅰ」に区分されたケースでも、負債の返済（奨学金やローンの返済など）が重ければ「経済的困難」に該当するような経験をされていることがあり得ます。他方で、特に大きな負債もなく所得も高いけれども、医療費支出など特殊事情により支出が大きいというケース、計画的支出のできないケース（浪費癖、ギャンブルやアルコール依存）も存在するかも知れません。逆に、所得の少ない世帯でも、人的・物的な側面で親戚や近隣との互助的な関係が密であれば、「経済的困難」に該当するような経験はされていない、というケースが考えられます。おそらくはこうしたことから、「所得段階」による区分と「経済的困難」とは完全には一致しない（もちろん、相互に強く相関してはいますが）ものと推測します。

「所得段階」と「経済的困難」経験のどちらがより適切な指標なのかということは明らかではありません。ですから、これらを用いた分析はいずれも、やや異なった観点から複眼的に現代の貧困問題をとらえるための複数の指標であると理解していただくのがよいと考えます。

分析内容について

より綿密な分析には別の機会をいただきたいと思います。概観した段階で特に気になった点を挙げます。

1. 保護者の状況について

まず、貧困率などの数字以上に、苦しい生活の実態に注目すべきということを目指したいと思います。保護者調査の「暮らしの状況について」の項目では、全体の3割が「(やや、大変) 苦しい」と答えています (p. 155)。毎月貯金ができていない家庭は全体の4分の1に過ぎません (p. 156)。特に経済的に苦しい層では、「過去一年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えない」という経験を全体の8.4%、10% (小5、中2の順。以下同じ) がしています。必要な衣類が買えなかった経験は11%、13.3%です (pp. 157-158)。最も必要な衣食において困難を経験するほど、貧困が深刻化し

ていると言えます。

そして、経済的困難をかかえる親御さんたちは、決して怠けているわけではありません。父親の就労状況 (p. 173) を見ると、「所得段階Ⅲ」および「経済的困難層」に父親の非正規雇用、自営業が多いことが分かります (父親の労働時間 (p. 174) が経済的困難層でやや短いのは、雇用形態の影響と見るべきでしょう)。同時に、母子世帯が経済的困難に見舞われていることも一目瞭然です。母親の就労状況は、圧倒的に非正規雇用 (特にパート・アルバイト・日雇い・非常勤職員) に偏っています (p. 170)。その結果、多くの母子世帯を含む経済的困難層では、他の層に比べて母親の就労時間が長く (p. 171)、土日・休日にも仕事がある方が多い (p. 172) ということになっています。雇用形態によって賃金単価が安いこと、生活を維持するには長時間働かざるを得ないという現実が、経済的困難層を襲っていることが伺えます。

このことは、経済的困難を重ねて、言わば「時間の貧困」とも言うべき事態を引き起こしているのではないのでしょうか。そしてそれが子どもに与える負の影響も無視できないものになっていると思われるかもしれません。例えば「お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがあった」とする回答は経済的困難世帯で高くなっています (p. 128)。その理由は、「医療費の支払いが不安だったから」以上に「受診する時間がなかったから」が多く、特に小 5 世帯の「所得段階Ⅲ」でこの回答が多くなっています (p. 129)。子どもに治療していない虫歯が「ある」とする回答も、経済的困難世帯で多くなっています (p. 127)。家庭での親子のコミュニケーションについても、pp. 137-139, p. 141 などの結果を全体として見れば、経済的に苦しい家庭ほどゆっくりと親子の会話をもてていないのではないかと、思われます。また、「子供への教育的な働きかけ」(pp. 145-151) についても、いくつかの項目で経済的困難度に応じた差が見られます (同時に、「悪いことをしたらきちんとしかっている」などいくつかの項目ではほぼ差が見られないことから、経済的に困難な家庭の親御さんが、決して子育てに無関心などではないことも窺えます)。

経済的な困難が直接に子どもの教育に影響を与えていることが明瞭なのは、私的な教育費支出に関する項目です。「子供の習いごと」についての回答 (p. 152) では学習塾、それ以外の習いごとともに、はっきりと経済格差が反映しています。経済的に苦しい世帯ほど通塾率が低いのですが、それが経済的な理由によることも明示されています (p. 154)。旅行やアウトドアスポーツ、博物館・科学館・美術館を訪れるなどの、家庭による子どもの体験の充実にも、経済的困難が影を落としています (p. 144)。これはおそらく、経済的事情によるものと、上述した「時間の貧困」によるものと、両方の理由があるでしょう。

こうした現実が子どもたちに与えている影響については次項で考察します。保護者の状況について最後にもう一つ触れておきたいのは、見てきたような困難な状況が、保護者の皆さんの身体的・精神的健康に害を及ぼすレベルにまでなっている可能性についてです。保護者自身の健康状態についての回答 (p. 125) では、健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えた方が「所得段階Ⅲ」と「経済的困難世帯」で明らかに多く、「所得段階Ⅰ」と比べると倍以上いらっしゃいます。また、「心の健康」についての回答 (p. 134) でも、ストレス、抑うつ症状、倦怠感、自己否定感情などを、経済的に苦しい保護者の方ほど頻繁に味わっていることがはっきりと表れています。つまり、保護者の貧困 (経済的・時間的) が子どもの成長に暗い影を落としているにしても、それを保護者の方のさらなる「がんばり」で解消することは、もはや無理な段階にきていると言えます。子どもの貧困問題にたいする公的な施策・取り組みが緊急に求められていることが、見えているのではないのでしょうか。

2. 子どもの状況について

まず気かけないといけないのが、経済的困難が子どもの身心の健康を脅かしつつある、という点ではないでしょうか。歯科を含む医療機関の受診に所得・経済的困難経験の有無が影響を与えていることはすでに触れました (pp. 127-129) が、子どもの健康状態が「よい」とする回答も明らかに「所得段階Ⅲ」「経済的困難世帯」では低くなっています (p. 126)。子ども自身による回答でも、自分の健康状態について「よい」と答えた子はそれらのグループでは明らかに少なく、他方「どちらかといえはよくない」と答えた子が多くなっています (p. 76)。また、情緒的な健康についても、「(3) 最近の一週間のこと」についての回答で、「泣きたいような気がした」(p. 97)、「逃げ出したいような気がした」(p. 98)、「生きていても仕方がないと思った」(p. 101)、「独りぼっちな気がした」(p. 103)、「とてもつらい気がした」(p. 104)などの項目に「(いつも、時々) そうだ」と答えた子どもが相対的に多く、経済的な困難を抱える世帯で育つ子どもたちのなかに、そうでない世帯の子どもたちよりも高い割合で、抑うつ感情に苛まれている子どもが含まれていることが危惧されます。こうした傾向が、子どもたちの自己肯定的な感情の育ちを脅かしているのではないかと (p. 90, 93)、また、例えば「学校に行きたくないと思った」経験の有無 (p. 58) にも影響を与えているのではないかと懸念されます。

次に、いわゆる「学力」についてです。「学校の授業がわかりますか」という質問への子どもたちの回答 (p. 82) を見ると、「いつもわかる」と答えた子は「所得段階Ⅰ」で最も多く、「所得段階Ⅲ」および「経済的困難世帯」ではそれに比べて明らかに少なくなっています。「(あまり、ほとんど) わからない」と答えた子はその逆です。その背景として考えられるのは、さしあたり、一つには通塾率の差 (p. 40, 86)、もう一つは家庭学習時間の差 (p. 85) です。

家庭学習時間が短いと言うと、「結局子どもたち自身が努力していないからではないか」と思われる方もいらっしゃるかも知れませんが、それならばなぜ、経済的困難と家庭学習時間が相関するのでしょうか。私はむしろ、経済的困難をかかえる世帯では、子どもたちが家庭学習に取り組む環境が保障されていないことが問題なのではないかと考えます。子ども部屋の有無 (p. 24)、「自宅で宿題をすることができる場所」の有無 (p. 25: どのグループでも9割ほどは「ある」と答えていますが、「ない(ほしい)」と答えている子の割合は、中学2年の「所得段階Ⅲ」では「所得段階Ⅰ」の6倍以上にのぼっています)、「自分専用の勉強机」(p. 25)、自宅学習用の教材 (p. 87) など物理的な学習環境の問題、保護者の「時間の貧困」から類推される、家庭学習を促してくれる大人の不在、そして、これも大人の不在が背景にあるであろう、家事や兄弟姉妹の世話 (pp. 54-55)。経済的困難をかかえる世帯の一部の子どもたちには、こうした悪条件が重なっているのではないのでしょうか。

こうした子どもの状況と、保護者の経済的困難とが重なり合って、子どもの進路希望にも影響がはっきりと表れています (p. 95)。小学校5年生の段階ですでに、自分の最終学歴を「高校まで」と考える子どもの割合が「所得段階Ⅲ」「経済的困難世帯」では4~5分の1いて、これは「所得段階Ⅰ」の倍近い割合です。中学校2年生になると、この割合は3~4分の1に増え、「所得段階Ⅰ」との差は3倍近くに拡大しています。この結果は、保護者調査での、保護者としての子どもの進学希望 (p. 123) とほぼ同じです。もちろん、より高い学歴を得ることだけがよい人生ではないと思いますが、他方で学歴と生涯所得とが強い相関をもっていることも事実です。生まれた家庭に経済的困難があったために、子どもが成長した後にも困難から抜け出せないという「貧困の世代間連鎖」が強く危惧されます。

他にも、分析・考察を加えるべきデータは多く残っていますが、概観しただけでも以上のような問

題が、今回の調査結果からはいかがえます。繰り返しますが、和歌山県においても子どもの貧困問題は深刻な現状にあり、経済的困難を抱える子育て世帯に対して、公的な支援策を早急に強化する必要があります。

根本的には、非正規雇用に対する規制を強化し、労働時間を短縮するとともに給与水準を上げて安定化させることが最も必要な対策と思われます。国の政策として最低賃金の引き上げや労働基準監督署の拡充強化などが求められますが、県政で独自にできることはないでしょうか。

雇用条件の改善を待つ間、直接の経済的支援を要する世帯はどうすればよいでしょうか。就学援助制度については、「所得段階Ⅲ」の4割近くが「受けたことがない」としています（p.165）。就学援助制度を受けていると認識していない世帯が一定数含まれている可能性は否定できませんが、所得段階Ⅲ、経済的困難世帯の所得水準では、制度を利用できるにも関わらず現に利用していない世帯が多くいることを表しています。まずはこうした既存の支援制度について情報提供と申請援助を含めた利用促進を行っていくこと（要件を満たす世帯がきちんと利用できるようにすること）が必要と思われます。

子どもの学力保障をめぐることは、通塾率の差が注目されるかも知れませんが、例えば塾通いのための助成金制度をつくるといった施策よりは、学校ですべての子どもに学力をつけられるような条件を整えることの方が本来的な対策ではないかと思えます。学校の先生方がもっと一人ひとりの子どもに寄り添って、家庭環境の違いなども理解しながら丁寧に学習を支援できるよう、教師の増員（加配）、学級規模の縮小、スクールソーシャルワーカーの大幅増員などの努力がますます求められます。家庭学習支援や子どもの悩みの相談相手になるために、若者や地域の大人等を、希望するご家庭に派遣するといった施策も検討できないかと思えます。

子どもが自ら将来への希望を切り詰めていってしまわないように、保護者はもちろん、教師や上述のボランティアなど、様々な大人が子どもに寄り添い励ますことのできる仕組みがあれば、「貧困の連鎖」を減らすことは可能です。

VII まとめ

ここでは、まとめとして前項までに掲載した調査結果を子供の教育環境、子供の社会性、子供の生活習慣、保護者の経済状況に分類し、分類毎に結果を示し、今後の県施策の取組の方向性について記載しています。

主な結果で、分類した結果を列挙し、結果の詳細では、世帯全体、所得段階Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及び経済的困難世帯の各区分における集計結果の違いに着目し、それらの違いが世帯の経済状況に起因するものであるか、子供を取り巻く環境のうち世帯の経済状況以外の要素に起因するものであるか、あるいは両方に起因する場合においても、影響の度合いがどの程度あるのかを、子供の支援施策の検討にあたり課題を抽出する観点からまとめています。子供票、保護者票の集計結果だけでなく、子供の支援機関従事者の調査結果を補足データとして活用し、結果を掲載しています。

なお、以降の分析の中で、所得段階Ⅱ、Ⅲの比較において所得段階Ⅰとの比較ほどの差が見られないのは、所得段階ⅡとⅢの可処分所得の金額差がⅠと、ⅡあるいはⅢの金額差ほどにないことも関連していると考えられ、前提としてこのことに留意する必要があります。

1. 子供の教育環境

学力は、将来の所得を決める大きな要素であり、教育環境を整えることにより、学力を高めることが重要です。調査結果から、経済的に厳しい世帯ほど、子供の学力が低いことが読み取れる(子 29, 28^{*}) が、子供の学力に関連する世帯の所得以外の項目に着目し、調査結果をまとめました。

※()内に調査票の種類と問番号を略記。

例:子供票(小学生票問 29、中学生票問 28 で同一の問題)を「子 29・28」、保護者票を「保」、支援者票を「支」、P233～クロス集計によるものを「クロス」と記載。

<主な結果>

- 経済的に厳しい世帯ほど、学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合が低い。(子 29・28)
- 経済的に厳しい世帯の子供ほど、塾に通ったり家庭教師に来てもらったりしている割合が低い。(子 32・31)
- 経済的に厳しい世帯ほど、経済的な理由で子供の塾や習いごとができなかったことがあると回答した保護者の割合が高い。(保 25)
- 通塾の有無別に授業がいつもわかると回答する子供の割合をみると、小学5年生では通塾の有無による差が大きいですが、中学2年生では所得段階による差の方が大きくなっている。(クロス)
- 経済的に厳しい世帯においては、学校に行きたくないと思ったことや長期欠席の経験のある子供が多い。また、学校に通うことや授業、クラブ活動等において、楽しみと思う子供が少ない。(子 19・18、子 28・27)
- 経済的に厳しい世帯ほど、宿題をしているという回答や、学校の決まりを守っているという回答が少ない。(子 34・33、子 35・34)
- 経済的に厳しい世帯ほど家庭学習の時間が短い。(子 31・30)
- 高等教育段階への進学を希望している子供の方が、中等教育段階への進学を希望している子供より学校の授業がいつもわかると回答した割合が高い。(クロス)

- 子供自身の進学希望、保護者が子供に望む最終学歴は所得段階による差が大きい。経済的に厳しい世帯の子供ほど高校までの希望が多く、大学進学への希望が少ない。(子 37・36、保 12)
- 経済的に厳しい世帯では、保護者が子供に望む最終学歴の理由が、子供自身の希望という回答が少なく、家庭の経済状況から考えてという回答が多い。(保 12-1)
- 経済的に厳しい世帯ほど、子供の良いところを褒める、悪いことをしたら叱る、本や新聞を読むようにすすめる、英語や外国の文化に触れるよう意識している等の保護者の教育姿勢が低い。保護者の教育姿勢が高いほど、学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合が高い。(保 23、クロス)
- 経済的に厳しい世帯の子供ほど、朝ご飯を食べる、歯磨きをする等の生活習慣が備わっていない割合が高い。生活習慣が備わっている子供ほど、学校の授業がいつもわかると回答した割合が高い。(子 21・20、クロス)
- 経済的に厳しい世帯の子供ほど、図書館や博物館に行く、新聞やニュース等について話す等の文化的な活動や体験の機会が少ない。文化的な活動を多く経験している子供ほど、学校の授業がいつもわかると回答した割合が高い。(子 27・26、クロス)
- 経済的に厳しい世帯の子供ほど、自分には良いところがある、家族に大事にされている、将来が楽しみだと思ふ等の自尊感情が低い。自尊感情が高い場合は、経済的に厳しい世帯でも学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合が高い。(子 36・35)

<結果の詳細>

【学校の授業以外の学習と学校の授業がわかること】

①塾や習いごとをしている子供は、学校の授業がわかる割合が高い。

子供の学力と通塾の有無は相関があることが容易に想像でき、調査結果は通塾している効果が表れている。小学5年生では、所得段階Ⅲで通塾有の場合と所得段階Ⅰで通塾なしの場合を比較すると、前者の方が学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合が高くなっており、通塾の効果が顕著に見られるが、中学2年生では、所得段階Ⅲで通塾有の場合と所得段階Ⅰで通塾なしの場合を比較すると、後者の方が学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合が高くなっており、所得段階による影響が大きくなっている。

通塾有無別にみた学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合

	通塾の有無	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	あり	51.8%	57.2%	43.2%	43.1%	41.7%
	なし	33.2%	38.2%	29.0%	29.3%	28.2%
中学2年生	あり	28.0%	30.2%	25.9%	22.7%	23.2%
	なし	22.0%	26.5%	19.7%	11.3%	12.1%

②経済的に厳しい世帯の子供ほど、塾や習いごとをしている割合が低い。

ここでは、①と併せて通塾の有無と所得の関係について掲載している。経済的に厳しい世帯ほど通塾している割合が低く、またそれが経済的な理由が一因となっていることがわかる。

塾に通っていないと回答した子供の割合(子 32.31)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	55.8%	48.0%	62.5%	67.8%	68.0%
中学2年生	36.5%	31.5%	39.0%	49.1%	48.0%

経済的な理由で、子供の塾や習いごとをさせられなかったと回答した保護者の割合(保 24.25)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	25.4%	13.2%	35.3%	49.7%	62.7%
中学2年生	23.1%	12.6%	31.8%	49.4%	61.4%

③経済的に厳しい世帯の子供ほど、宿題の履行率が低い。

平日学校の授業以外の勉強時間 30 分は、宿題をこなすのに最低限かかる時間と考えられ、ここから学習習慣が備わっているかどうかについて確認することとした。所得段階が高いほど、通塾している子供の割合が高いため、学校の授業以外の勉強時間が長くなる傾向にある(子 31, 30)ものの、小学 5 年生の過半数は通塾していないが 8 割以上の子供が平日 30 分以上勉強している結果となっている。

学校の宿題をしていると回答した子供の割合(子 34,33)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	89.9%	91.5%	89.3%	85.1%	85.1%
中学2年生	73.8%	75.4%	73.9%	67.8%	66.9%

平日学校の授業以外の勉強時間が30分未満であると回答した子供の割合(子 31,30)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	15.6%	11.8%	18.5%	19.6%	23.3%
中学2年生	17.7%	13.6%	20.7%	25.2%	28.5%

【進学希望と学校の授業がわかること】

④高等教育段階への進学を希望している子供の方が、中等教育段階への進学を希望している子供より、学校の授業がいつもわかると回答した割合が高い。

将来的にどの段階まで進学したいかと、学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合には相関関係があり、例えば、小学 5 年生における所得段階Ⅰかつ中等教育の割合より、所得段階Ⅲかつ高等教育の割合の方が高くなっている。

※高等教育:短大・高専・大学・大学院
中等教育:中学・高校・高校卒業後の専門学校

進学希望別にみた学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合

	進学希望	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高等教育	55.1%	59.7%	47.0%	45.3%	47.9%
	中等教育	29.8%	34.6%	25.4%	28.3%	27.1%
中学2年生	高等教育	36.1%	36.7%	35.0%	28.2%	31.5%
	中等教育	15.9%	19.0%	13.1%	15.2%	13.3%

⑤経済的に厳しい世帯の子供ほど、世帯の経済状況により進学をあきらめたり、進学のイメージを持つことができていない。

子供が望む最終学歴と、保護者が子供に望む最終学歴は所得段階に応じて相関関係があり、例えば所得段階Ⅲで「将来、大学(またはそれ以上)まで進学したいと回答した子供の割合」が小学 5 年生、中学 2 年生ともに約 20%であり、「将来、自分の子供に大学(またはそれ以上)まで進学させたいと回答した保護者の割合」も 20%台となっている。

また、「保護者が子供に望む進学希望の理由」で「家庭の経済的な状況から考えて」と回答した保護者の割合は、経済的に厳しい世帯ほど高くなっている。所得段階Ⅲあるいは経済的困難世帯で約 70%が自身の子供に大学進学を望んでいない。

将来、大学(またはそれ以上)まで進学したいと回答した子供の割合(子 37,36)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	33.0%	42.3%	26.3%	19.6%	19.7%
中学2年生	42.2%	53.5%	34.5%	20.5%	26.4%

将来、自分の子供に大学(またはそれ以上)まで進学させたいと回答した保護者の割合(保 12)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	51.0%	66.9%	40.3%	26.3%	30.0%
中学2年生	51.0%	67.0%	39.2%	23.3%	29.3%

「保護者が子供に望む進学希望の理由」で「家庭の状況から考えて」と回答した保護者の割合(保 12-1)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	4.5%	1.7%	6.4%	11.2%	13.5%
中学2年生	5.3%	1.9%	6.4%	18.6%	17.2%

【保護者の教育姿勢と学校の授業がわかること】

⑥経済的に厳しい世帯ほど、保護者の教育姿勢が低い。

小学5年生では、所得段階Ⅰかつ教育姿勢高の割合が40%超と高く、一方で所得段階Ⅲ、経済的困難世帯かつ教育姿勢低の割合が35%超と高くなっている。

なお、中学2年生でも、保護者の教育姿勢と所得段階との相関関係には、小学5年生と同様の傾向が見られるが、保護者から自立する年齢であることから小学5年生と比較して保護者との関わりが少なくなっていることがわかる。

子供に対する教育姿勢の高低別にみた保護者の割合

	教育姿勢	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	34.8%	41.1%	29.7%	27.8%	26.6%
	低	24.8%	20.5%	28.5%	35.8%	35.1%
中学2年生	高	24.7%	29.3%	21.7%	17.5%	17.1%
	低	36.0%	31.1%	39.8%	48.8%	45.8%

⑦保護者の教育姿勢が高いほど、学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合が高い。

小学5年生では教育姿勢による差が大きく、例えば経済的困難世帯の教育姿勢高と、全体の教育姿勢低を比較した場合、前者の方が学校の授業がいつもわかると回答した割合が高い。中学校2年生でも、概ね同様の傾向にあるが小学5年生ほど差が大きくはない。経済的に困難な世帯でも、保護者の教育姿勢が高ければ子供の学力に良い影響を及ぼしていることがうかがえる。

保護者の教育姿勢と学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合

	教育姿勢	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	48.6%	54.6%	39.0%	40.7%	38.9%
	低	32.3%	37.9%	28.8%	26.6%	28.0%
中学2年生	高	30.4%	32.0%	29.9%	21.7%	25.5%
	低	21.5%	26.0%	18.5%	13.2%	13.5%

教育姿勢得点①～⑨のうちどの項目が、学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合に影響を与えているかを把握するため、「当該項目にあてはまる場合」と「あてはまらない場合」における「学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合」の差が大きい項目を確認したところ、小学5年生では、全体及び経済的困難世帯ともに「悪いことをしたらきちんとしかっている」が最も差が大きい項目である。また、中学2年生では、全体では「良いところをほめる」が最も差が大きい項目であり、経済的困難世帯では、「本や新聞を読むようにすすめている」が最も差が大きい。(詳細はV分析・考察参照)

【生活習慣と学校の授業がわかること】

⑧経済的に厳しい世帯の子供ほど、生活習慣が備わっていない割合が高い。

(3. 子供の生活習慣に後述)

生活習慣の高低別にみた子供の割合

	生活習慣	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	63.4%	67.8%	61.6%	49.0%	47.4%
	低	12.5%	9.2%	14.0%	21.9%	22.8%
中学2年生	高	61.7%	63.4%	60.9%	52.0%	51.3%
	低	14.3%	12.9%	14.5%	21.9%	22.9%

⑨生活習慣得点が高い子供の場合、学校の授業がいつもわかると回答した割合が高い。

小学5年生、中学2年生ともに子供に生活習慣が備わっている場合、学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合が高くなっている。

いずれの学年も、所得段階Ⅰかつ生活習慣得点低と所得段階Ⅲ、経済的困難世帯かつ生活習慣高を比較した場合、後者の方が授業がいつもわかると回答した割合が高い。ただし、小学5年生で生活習慣得点低の所得段階ⅡとⅢを比較した場合、所得段階Ⅲの方が学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合が高く、また中学2年生でも生活習慣低の場合、所得段階ⅡとⅢでほとんど差がない結果となっている。

生活習慣別にみた学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合

	生活習慣	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	46.4%	51.5%	40.9%	37.9%	35.3%
	低	27.9%	34.4%	20.1%	29.4%	26.6%
中学2年生	高	30.4%	34.0%	27.8%	19.1%	22.0%
	低	12.6%	15.2%	10.7%	9.3%	8.7%

生活習慣得点①～④の各項目と学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合との相関を分析するために、各項目別に「学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合」の差を確認した。質問の仕方や、選択肢に設定のばらつきがあるため単純な比較はできないが、全体では歯磨き、朝ご飯において差があることを確認した。(詳細はV分析・考察参照)

【文化的な活動と学校の授業がわかること】

⑩経済的に厳しい世帯の子供ほど、文化的な活動や体験の機会が少ない。

文化的な活動の高低別にみた子供の割合

	文化的活動	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	36.4%	42.8%	34.7%	19.6%	24.8%
	低	30.5%	24.0%	33.3%	45.6%	43.4%
中学2年生	高	37.5%	43.2%	33.9%	25.1%	24.9%
	低	32.6%	28.0%	36.1%	43.0%	44.2%

⑪文化的な活動を多く経験している子供ほど、学校の授業がいつもわかると回答した割合が高い。

小学5年生では文化的活動の影響が大きく、所得が低くても文化的活動を行っている場合は学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合が高い。小学5年生で、所得段階Ⅲ、経済的困難世帯かつ文化的活動高の場合は、文化的活動低のどの所得段階より学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合が高くなっている。このことから、経済的に厳しい世帯でも、文化的活動を多く経験している場合、学力に良い影響を与えることがうかがえる。中学2年生では、同様の傾向が見られるものの所得段階Ⅲでは文化的な活動の高低で差のない結果となっている。

文化的な活動別にみた学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合

	文化的活動	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	51.1%	57.8%	40.8%	51.3%	40.4%
	低	33.5%	38.6%	29.1%	26.0%	29.8%
中学2年生	高	30.8%	32.2%	31.4%	16.3%	27.7%
	低	21.8%	26.0%	17.2%	17.0%	12.8%

文化的活動得点①～⑬のうちどの項目が、学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合に影響を与えているかを把握するため、「当該項目にあてはまる場合」と「あてはまらない場合」における「学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合」の差が大きい項目を確認したところ、全体では、小学5年生では「図書館に行く」が最も差があり、中学2年生では「新聞やニュースについて話す」が最も差があった。(詳細はV分析・考察参照)

【自尊心と学校の授業がわかること】

⑫経済的に厳しい世帯の子供ほど、自尊心が低い。（2. 子供の社会性に後述）

自尊心の高低別にみた子供の割合

	自尊心	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	46.1%	50.8%	42.4%	41.0%	40.2%
	低	16.5%	14.8%	17.8%	20.9%	20.5%
中学2年生	高	31.3%	33.5%	29.3%	26.3%	27.6%
	低	29.9%	27.2%	31.2%	36.0%	36.4%

⑬自尊心が高い場合、学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合が高い。

いずれの学年も所得段階に関わらず自尊心の高低が、学校の授業がいつもわかるかどうか大きく影響を与えている。所得段階Ⅲ、経済的困難世帯かつ自尊心高の場合は、自尊心低のどの所得段階より学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合が高くなっている。このことから、経済的に厳しい世帯でも自尊心が高い子供の場合、学力に良い影響を与えていることがうかがえる。

自尊心別にみた学校の授業がいつもわかると回答した子供の割合

	自尊心	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	50.3%	55.7%	43.6%	42.8%	38.8%
	低	25.6%	31.5%	20.1%	22.2%	22.4%
中学2年生	高	40.5%	43.6%	39.4%	26.7%	33.6%
	低	13.7%	15.8%	11.2%	13.0%	8.5%

<考察>

- 経済的に厳しい世帯の子供ほど、学校や学業への前向きな姿勢が乏しく、授業がいつもわかると回答する割合が低い。通塾や進学については、家庭の経済状況による差が大きくなっており、そのことが子供の学業にも影響していると考えられる。
- 通塾の有無については、小学5年生では授業がわかるかどうかとの関連が強い一方で、中学2年生では家庭の経済状況による差の方が大きくなっており、子供の学業成績への通塾の影響は、年齢段階によって差があることが考えられる。よって、通塾の効果が高いと考えられる、より低学年の段階から学習支援を実施するのが有効であると考ええる。
- 大学や大学院への進学は、保護者の学歴や収入と強く関連しており、結果として格差の固定化や貧困の連鎖に繋がっていることがうかがえる。
- 経済的に厳しい世帯においては、保護者による教育的な働きかけが乏しい傾向があり、家庭における文化的な活動や体験活動については、図書館に行くこと、新聞やニュース等について話すこと、本の読み聞かせをすること等経済的な負担を必ずしも伴わない事についても差が出ている。保護者の価値観や時間的・心理的な余裕のなさが影響していると考えられる。習いごとの差も含め、経済的に厳しい世帯の子供ほど、学校以外の教育的な働きかけや多様な経験・体験の機会を持っていないことがうかがえる。一方で、こうした経験を豊富に持つことが学力に良い影響を及ぼしていると考えられる。

<今後の方向性>

- 学校での補充学習を充実させることで、基礎学力の定着と学習習慣の確立を図る。
- 子どもの居場所づくり(無料の学習塾)の箇所数の増加を図り、地域における学習支援を強化する。
- 就学援助制度や奨学金、貸付金等による経済的支援によって学習機会の確保・充実を図るとともに、子供に対し将来への希望を持つことができるよう啓発する。
- 保護者の教育姿勢を高めるために、保護者を対象にした学習会や訪問型家庭教育支援の充実を図る。
- 放課後子供教室(無料の体験教室)の拡充を図るとともに、学校と文化的活動を提供できる施設が連携し、子供たちが主体的に取り組む体験学習の充実を図る。

2. 子供の社会性

経済的に厳しい世帯ほど、自尊感情が低い傾向にあります。「自分には良いところがある」、「がんばればいいことがある」等の自尊感情は、前項において学力を高めるために良い影響を与えていることがわかりました。また、自尊感情は意欲ややり抜く力等積極的に社会で生きる原動力であり、重要な要素であると考え、自尊感情を高めるために自尊感情と相関関係のある項目について調査結果をまとめました。

<主な結果>

- 経済的に厳しい世帯の子供ほど、家族以外の大人と積極的に関わっている割合が低い。(クロス)
- 家族以外の大人と積極的に関わっている子供ほど自尊感情が高い。(クロス)
- 文化的活動を多く経験している子供は自尊感情が高い。(クロス)
- 経済的に厳しい世帯の子供ほど、最近の心の状態として、楽しいことがたくさんあった、よく眠れた、楽しく食事をとれた、自分の気持ちを他の人に伝えられた、楽しく家族と話をしたといった回答が少なく、生きていても仕方がない、独りぼっちな気がした、とてもつらい気がしたといった回答が多い傾向にある。(子 38・37)
- 保護者の精神的な健康状態について、経済的に厳しい世帯ほど、高ストレス状態が示唆される保護者の割合が高い。(保 17)
- 保護者の精神状態が良好である場合は子供の自尊感情が高い。(クロス)
- 経済的に厳しい世帯ほど、困った時や悩みがある時の相談相手や、緊急時に子供を預かったり、助けてくれたりする人について、いないと回答する保護者が多い。(保8、9)
- 経済的に厳しい世帯では、支援制度や相談窓口の認知度が低い。(保 41)
- 経済的に厳しい世帯の子供ほど、家族と一緒に楽しい時間を過ごしたり、自分が喜ぶことをしてくれるといった回答が少ない。一方で、悪いことをしたら叱られる、やらなければならないことを何度も言われるといった、子供に対して厳しい接し方については、経済的に厳しい世帯の方が多。(子4)
- 保護者自身が子供の頃、自身の親との関わりについて、一緒に楽しい時間を過ごしてくれた、喜ぶことをしてくれたといった回答が少なく、やらなければいけないことを何度も言われた、不安やいらだちをぶつけられたという回答が多い傾向。(保 35)
- 経済的に厳しい世帯の子供ほど、父母が相談相手になっていることが少ない。友人が相談相手になっているかどうかについては、所得段階間で顕著な差がみられない。(子 20・19)
- 経済的に厳しい世帯ほど、夜間や土日祝日に勤務のある保護者が多い。(保 36、37)
- 支援機関調査では、貧困状態にある子供にみられる欠如として、健全な生活習慣・食習慣や心の状態の安定性・心身の健康、自己肯定感・自尊心という回答が多い。(支9)
- 支援機関調査では、支援において困難を感じることで、「保護者との信頼関係づくり」「支援を受けることへの保護者の同意・積極性」が多く挙げられている。(支 11)

<結果の詳細>

【家族以外の大人とのつながり】

①経済的に厳しい世帯の子供ほど、家族以外の大人と積極的に関わっている割合が低い。

大人とのかかわりが低い子供の割合は、小学5年生、中学2年生ともに所得段階Ⅲと経済的困難世帯で割合が高くなっている。

家族以外の大人との関わりの高低別にみた子供の割合

	大人との関わり	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	43.3%	44.9%	43.3%	40.2%	40.5%
	低	20.8%	20.0%	20.1%	27.8%	23.4%
中学2年生	高	48.2%	49.9%	47.9%	45.9%	44.0%
	低	14.0%	13.1%	13.2%	19.6%	17.3%

②家族以外の大人と積極的に関わっている子供ほど自尊感情が高い。

所得段階においてあまり差は見られない。例えば、小学5年生では大人との関わり高の場合、所得段階Ⅲの方が所得段階Ⅱより自尊感情得点高の割合が高くなっており、中学2年生では大人との関わり低の場合、所得段階Ⅱの方が所得段階Ⅰより自尊感情得点高の割合が高くなっている。

また、中学2年生において、所得段階Ⅲと経済的困難世帯で大人との関わり低の場合、自尊感情が高い子供の割合が約10%となっており、経済的困難と関係性の欠如が重なった場合に、子供への負の影響が大きくなることがうかがえる。

家族以外の大人との関わり別にみた自尊感情が高い子供の割合

	大人との関わり	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	53.3%	58.5%	48.9%	50.0%	46.6%
	低	36.1%	37.3%	34.5%	32.4%	30.8%
中学2年生	高	38.2%	41.1%	36.0%	29.3%	33.9%
	低	17.7%	17.9%	19.9%	10.4%	11.6%

【文化的活動】

③文化的活動を多く経験している子供は自尊感情が高い。

文化的活動が高い場合における自尊感情が高い子供の割合は、所得段階Ⅲや経済的困難世帯であっても、他の所得段階との差が見られない。このことから、経済的に厳しい世帯であっても、子供が文化的活動を体験することで、自尊感情が高くなることがうかがえる。

一方で、文化的活動が低い場合において、自尊感情が高い割合は、所得段階Ⅲ及び経済的困難世帯において低くなっており、経済的困難と文化的活動の欠如が重なった時に、子供の自尊感情に対する負の影響が大きくなることがうかがえる。

文化的活動の状況別にみた自尊感情が高い子供の割合

	文化的活動	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	54.8%	58.7%	47.4%	67.1%	48.3%
	低	35.9%	37.6%	37.3%	27.7%	32.1%
中学2年生	高	38.3%	39.7%	34.0%	38.4%	36.5%
	低	25.3%	27.9%	26.3%	15.6%	21.4%

【保護者の精神的な健康状態】

④経済的に厳しい世帯の保護者ほど、精神的健康状態が良くない。

所得段階Ⅲと経済的困難世帯で精神的健康状態高の割合が低く、また精神的健康状態低の割合が高くなっている。これは、生活に経済的、時間的な余裕がないことや不安定な雇用形態で就労していること等に起因していると予想される。

精神的健康状態別にみた保護者の割合

	精神的健康状態	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	36.6%	39.8%	35.2%	29.6%	21.3%
	低	29.0%	25.4%	30.9%	39.2%	47.2%
中学2年生	高	36.4%	38.9%	36.8%	26.6%	22.2%
	低	29.8%	27.6%	30.3%	38.9%	47.3%

⑤保護者の精神状態が良好である場合は、子供の自尊感情が高い割合が高い。

小学5年生では所得段階が低いほど、自尊感情が低い傾向があるが、中学2年生では所得との顕著な相関が見られない結果となっている。どの所得段階においても、保護者の精神的健康状態が高ければ、子供の自尊感情得点高の割合が高い傾向がある。

保護者の精神的な健康状態別にみた自尊感情が高い子供の割合

	精神的健康状態	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	高	50.8%	55.4%	47.4%	41.7%	40.8%
	低	39.5%	42.2%	38.9%	34.2%	34.4%
中学2年生	高	35.1%	35.7%	33.2%	33.0%	37.7%
	低	27.6%	31.7%	22.4%	26.3%	24.6%

⑥経済的に厳しい世帯の保護者ほど、困ったときや悩みがあるときの相談相手や、緊急時に子供を預けたり助けてくれる人がいない。

ここでは、保護者の精神的な健康状態と関連している項目として、保護者の人間関係と世帯の経済状況との相関に注目した。所得段階Ⅲと経済的困難世帯では、相談相手や頼れる人など世帯の繋がりや欠如があることがうかがえる結果となっている。

困ったときや悩みがあるときの相談相手がいないと回答した割合(保8)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	4.3%	3.2%	4.4%	7.1%	8.1%
中学2年生	5.1%	4.0%	5.3%	9.9%	11.6%

緊急時に子供を預かったり、助けてくれる人がいないと回答した割合(保9)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	7.9%	8.4%	6.2%	12.0%	13.3%
中学2年生	8.0%	6.7%	8.7%	11.3%	13.9%

【家族との過ごし方】

⑦経済的に厳しい世帯の子供ほど、家族と一緒に楽しい時間を過ごしているという回答が少ない。

子供自身が家族に大切にされていると認識することが子供の自己肯定、自尊感情に繋がるため、ここでは世帯の経済状況と家族との過ごし方の相関に注目した。学年に関わらず、経済的に厳しい世帯ほど家族と一緒に楽しい時間を過ごしていると回答した割合が低い結果となっている。

家族と一緒に楽しい時間を過ごしていると回答した子供の割合(子4)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	61.9%	64.4%	59.7%	58.5%	57.0%
中学2年生	59.1%	61.5%	58.3%	53.5%	55.3%

⑧経済的に厳しい世帯ほど、保護者が子供の頃、保護者自身の親と一緒に楽しい時間を過ごした経験が少ない。

学年に関わらず、経済的に厳しい世帯ほど、保護者自身も子供の頃、家族と一緒に楽しい時間を過ごした割合が低い結果となっている。保護者が子供の頃家族と楽しい時間を過ごしている場合は、自身の体験や経験から、その子供にも楽しい時間を提供していることが結果から予想される。経済的に厳しい世帯では、それら保護者自身の体験・経験が不足していることがうかがえる。

保護者が子供の頃、「保護者自身の親と一緒に楽しい時間を過ごした」と回答した割合(保 35)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	72.7%	77.1%	70.9%	65.3%	59.2%
中学2年生	67.8%	71.5%	65.3%	61.3%	54.2%

⑨経済的に厳しい世帯ほど、保護者が子供の相談相手になっていることが少ない。友人が子供の相談相手になっているかどうかについては、所得段階間で顕著な差が見られない。

学年に関わらず、経済的に厳しい世帯ほど、保護者が子供の相談相手になっていることが少ないが、子供の友人関係については、世帯の経済状況と相関が見られない。保護者の子供の頃の経験に起因していることに加え、就労形態等の理由で子供と会話する時間が取れていないことが予想される。

普段困っていることや悩みを「親」に、「よく話す」と回答した子供の割合(子 20,19A)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	55.7%	58.7%	53.5%	51.3%	53.0%
中学2年生	46.7%	48.2%	45.9%	42.4%	43.1%

普段困っていることや悩みを「友だち」に、「よく話す」と回答した子供の割合(子 20,19F)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	41.5%	42.6%	39.6%	41.2%	41.6%
中学2年生	48.8%	47.8%	51.1%	48.0%	47.1%

⑩経済的に厳しい世帯ほど、夜間や土日祝日に勤務のある保護者が多い。

子供と共に過ごす時間が取れていない背景に、保護者の就労形態が関係していると考え、ここでは、子供が家庭で過ごす時間帯の勤務状況と世帯の経済状況の相関に注目した。経済的に厳しい世帯ほど母親、父親共に平日日中以外の勤務があることがわかる。(その他の就労状況については、後述4. 保護者の状況参照)

母親の勤務形態のうち、平日日中以外の勤務がないと回答した割合(保 36-2)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	49.6%	51.2%	50.1%	40.0%	38.8%
中学2年生	47.0%	48.9%	46.6%	42.0%	38.6%

父親の勤務形態のうち、平日日中以外の勤務がないと回答した割合(保 37-2)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	19.7%	22.0%	17.1%	17.5%	12.4%
中学2年生	20.9%	24.5%	17.9%	16.2%	15.5%

【子供の支援機関従事者の視点】

ここでは、経済的に厳しい世帯の子供ほど自尊心が低いことへの裏付けとして、子供の支援機関従事者の意見を確認した。

⑪貧困状態の子供に欠如しているものとして「自己肯定感・自尊心」を挙げた支援者が多い。

貧困状態にある子供はどのような項目において欠如が見られるかという質問に対する支援者の回答(あてはまる選択肢全てに○)(支9)は、13項目のうち、健全な生活習慣・食習慣(79.6%)、心身の健康(75.7%)、自己肯定感・自尊心(54.7%)の順に割合が高い結果となっている。

⑫貧困世帯の支援において、支援者が困難を感じることで、「保護者との信頼関係づくり」「支援を受ける事を保護者が同意すること」が困難であるとの回答が多い。

貧困世帯の支援において、支援者が困難を感じることで（あてはまる選択肢3つに○）（支11）は、保護者との信頼関係づくり（47.6%）、支援を受けることへの保護者の同意・積極性（34.6%）、支援を行うための自分の知識・技術の乏しさ（33.6%）の順に回答の割合が高い結果となっている。

<考察>

- 家庭の経済状況がよくないことは、保護者の精神的な安定、子供の自尊感情や精神的充実、友人関係にマイナスの影響を与えていることがうかがえる。
- 何らかの悩みを持つ子供は経済的に厳しい世帯の方が多くなっていると同時に、保護者が相談相手になっていることが少ない傾向が見られる。
- 経済的に厳しい世帯の子供ほど自尊感情が低いが、家族以外の大人との繋がりを持つことが自尊感情を高めることに良い影響がみられる。多様な大人との関わりを持つことは、家庭や友人関係における考え方や価値観を相対化し、進学、就職のモデルを見つけることにも繋がると考える。
- 家庭において多様な文化的な経験や体験をしていることが自尊感情や精神的充実と関連している。家庭において十分に提供できないこうした機会を、地域や社会教育等において提供していくことも有効な支援に繋がると考える。
- 経済的に厳しい世帯の家族関係は、子供にとって楽しい側面より厳しい側面が強く、保護者自身の親との関係についても同様の傾向がある。保護者が生まれ育ってきた家庭での経験が、現在の家族関係に反映されていると考えられる。
- 経済的に厳しい世帯ほど、放課後や休日に保護者が家庭にいる時間が短く、子供と関わる時間が十分に確保しづらい状況にある。特に、ひとり親世帯ではその傾向が強い。
- 経済的に厳しい世帯ほど、支援を受けるための近隣住民や友人とのつながり等の人間関係が不足している保護者が多い。

<今後の方向性>

- 子どもの居場所づくり、放課後子供教室、放課後児童クラブ等、家庭以外での子供の過ごす場を更に充実させ、多様な大人と関わる場の提供を図る。
- 相談支援体制を充実し、保護者に寄り添ったサポートや各種公的支援に結び付けることにより、保護者の負担軽減を図り、保護者の子供への関わりを深めさせるよう取り組む。
- 保護者が子供と関わる時間を確保できるよう、企業や地域社会等の理解・協力を得ながら、子育て支援等の取組を進めていく。
- 保育、教育、保健、子育て支援等の関係機関が連携し、支援が必要な世帯に気づき、支援につなげ、見守る体制づくりに努める。

3. 子供の生活習慣

生活習慣を備えていることは、前項において学力に良い影響を与えていることがわかりました。また、生活習慣は、健康を維持し社会性を備えるために重要であると考え、ここでは生活習慣に着目して分析をしています。

<主な結果>

- 経済的に厳しい世帯の子供ほど、起床・就寝時間が決まっていなかったり、就寝時間が遅い傾向がある。また、夜遅くまで子供だけで過ごす割合も高い。(子7～10、子19・18)
- 保護者と子供の健康状態について、経済的に厳しい世帯ほど「よい」という回答する割合が低い。(保13)
- 経済的に厳しい世帯ほど、普段朝食を食べないことがある子供の割合が高い。また、給食以外の食事の内容として、野菜、果物、肉や魚を摂る頻度が低く、カップ麺・インスタント食品やジュースなどの清涼飲料水を摂る頻度が高くなっている。(子22・21、25・24)
- 経済的に厳しい世帯では、医療機関で受診させた方がよいと思ったのに実際には受診させなかった経験のある割合が高く、受診を控えた理由として、受診する時間がなかった、子供本人が受診しなかったという回答が多くなっているが、医療費の支払いが不安だったと回答した世帯が一定数存在している。(保15)
- 経済的に厳しい世帯ほど、歯磨きを1日2回以上する子供の割合が低い。また、治療を終えていない虫歯のある子供の割合も高い。(子21・20、保14)
- 子供の所持品として、自分だけの本、子供部屋、自分専用の勉強机、インターネットにつながるパソコン、スポーツ用品、友達と同じような服、2足以上のサイズのあった靴については、経済的に厳しい世帯ほど所持率が低い。一方で、ゲーム機、自転車、携帯電話、スマートフォンの所持率は、家庭の経済状況による差が見られない。(子3)
- ゲーム機の使用やテレビ・DVD等の視聴、メール・インターネットの利用については、経済的に厳しい世帯の子供ほど長時間になっている。なお、小学5年生では、経済的に厳しい世帯ほど、テレビゲーム等の時間の制限をしている割合が低い。一方、中学2年生では所得段階との相関は見られない。(子13、保23)
- 放課後や休日等の過ごし方について、経済的に厳しい世帯においては、スポーツクラブや商店街・ショッピングモールで過ごすことがやや少なく、友達の家や公園・広場がやや多くなっている。(子11・12)
- 子供が平日の放課後に夜までいられる場所や休日にいることができる場所、夕ご飯を食べることができる場所等の居場所に関する支援の取組については、経済的に厳しい世帯ほど利用希望が高い。子供も同様の傾向にある。(保42、子40・39)
- 支援機関調査では、貧困状態にある子供の状態として、十分に食事をとれていない、住環境が劣悪である、成長や季節に応じた服装をしていないという回答割合が高い。(支7)

<結果の詳細>

【健康状態】

①経済的に厳しい世帯ほど、子供、保護者共に「健康状態がよい」と回答する割合が低い。

学年に関わらず、子供と保護者自身の健康状態いずれも、所得段階Ⅲ、経済的困難世帯では他の所得区分より10%程度「健康状態がよい」と回答した割合が低く、健康格差が生じていることがうかがえる。

子供の健康状態について、「よい」と回答した保護者の割合(保 13-2)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	75.2%	77.1%	76.5%	67.3%	64.6%
中学2年生	70.7%	73.6%	71.0%	62.2%	61.8%

保護者自身の健康状態について、「よい」と回答した保護者の割合(保 13-1)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	56.8%	59.6%	57.1%	47.7%	42.9%
中学2年生	53.1%	55.5%	54.5%	43.3%	39.9%

②経済的に厳しい世帯ほど、普段朝食を食べないことがある子供の割合が高い。

学年に関わらず、所得段階Ⅰと所得段階Ⅲで朝ごはんをいつも食べると回答した子供の割合は、所得段階Ⅰの方が10%程度高くなっている。

朝ごはんをいつも食べると回答した子供の割合(子 22,21)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	90.0%	93.5%	87.4%	82.2%	81.8%
中学2年生	87.0%	88.4%	87.2%	78.4%	79.1%

③経済的に厳しい世帯ほど、給食以外の食事の内容として、野菜を摂る頻度が低く、インスタント食品を摂る頻度が高い。

学年に関わらず、野菜を毎日食べると回答した子供の割合は所得段階Ⅲ、経済的困難世帯で低い(その他、果物、肉や魚の摂取頻度も同様の傾向がある。)。また、カップめん・インスタント食品の摂取頻度は経済的に厳しい世帯ほど高い(その他、ジュースなどの清涼飲料水も同様の傾向がある。)

給食を除いた場合の野菜の摂取頻度において、毎日食べると回答した子供の割合(子 25A,24A)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	68.2%	72.2%	65.4%	58.0%	57.0%
中学2年生	71.5%	73.9%	71.9%	61.7%	62.2%

カップめん・インスタント食品を週2~3回以上食べると回答した子供の割合(子 25D,24D)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	19.2%	16.4%	21.3%	26.5%	27.6%
中学2年生	23.0%	21.1%	23.2%	31.3%	30.7%

④経済的に厳しい世帯ほど、医療機関で受診させた方がよいと思ったのに実際には受診させなかった経験のある割合が高い。

所得段階Ⅲ及び経済的困難世帯で、上記回答の割合が高くなっている。所得段階ⅠとⅡではほとんど差がない。

また、受診を控えた理由が経済的な理由であると回答した保護者の割合は、経済的困難世帯で高くなっている。所得段階Ⅲでは他の所得区分とそれほど差がなく、受診する時間がないとの回答が最も多い結果となっている。

過去1年間に子供を医療機関で受診させた方がよいと思ったが、受診を控えた経験がある割合(保 15)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	8.3%	8.3%	7.6%	11.2%	13.5%
中学2年生	10.0%	9.6%	10.1%	14.0%	16.8%

受診を控えたのが経済的な理由であると回答した割合(保 15-1)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	5.1%	5.6%	3.0%	2.3%	12.0%
中学2年生	9.6%	8.8%	11.4%	10.4%	17.2%

【規則正しい生活】

⑤経済的に厳しい世帯ほど、歯磨きを1日2回以上する子供の割合が低い。

学年に関わらず、経済的に厳しい世帯ほど歯磨きを1日2回以上すると回答した子供の割合が低く、また子供に未治療の虫歯があると回答した割合が高い。

歯磨きを1日2回以上すると回答した子供の割合(子 21-A、20-A)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	76.9%	80.9%	74.5%	65.5%	63.4%
中学2年生	76.4%	78.7%	74.6%	67.8%	68.2%

子供に未治療の虫歯があると回答した保護者の割合(保 14)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	6.1%	5.1%	5.9%	11.5%	13.6%
中学2年生	6.5%	4.3%	8.3%	12.8%	13.6%

⑥携帯電話、スマートフォンの所持率は、世帯の経済状況による差が見られない。

世帯の経済状況に関わらず、小学5年生で約4割、中学2年生で約7割の子供が携帯電話、スマートフォンを所持している。

自分が使うことができるもので、携帯電話、スマートフォンを「ある」と回答した子供の割合(子 3)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	40.6%	41.4%	39.4%	41.8%	42.3%
中学2年生	68.5%	69.5%	69.1%	64.3%	70.2%

⑦経済的に厳しい世帯の子供ほど、ゲーム機の使用、電話やメール・インターネットの利用が長時間になっている。

学年に関わらず、ゲーム機で遊ぶ時間は所得段階ⅠとⅢでは10%を超える差が出ている。また、電話、メール、インターネットに費やす時間は中学2年生で全体の32%が2時間以上となっている。

平日1日の下記の活動時間における子供の割合(子 13)

ゲーム機(コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含む)で遊ぶ時間が2時間以上

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	20.7%	17.2%	23.8%	29.1%	28.7%
中学2年生	28.4%	25.1%	30.0%	38.9%	35.8%

電話やメール、インターネットをする(携帯電話やスマートフォン、パソコンなど)時間が2時間以上

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	9.9%	8.7%	10.1%	16.3%	13.3%
中学2年生	32.0%	28.8%	33.6%	42.7%	43.8%

⑧小学5年生では、経済的に厳しい世帯ほど、テレビゲーム等の時間の制限をしている割合が低い。一方、中学2年生では所得段階との相関が見られない。

ここでは、経済的に厳しい世帯ほどゲーム機の利用が長時間になっていることを受けて、保護者が子供に対してテレビゲームで遊ぶ時間を制限しているかに注目した。小学5年生では経済的に厳しい世帯ほど制限している割合が低いが、中学2年生では所得段階Ⅲで20.3%と他のどの所得段階より制限している割合が高く、相関が見られない。

テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含む)で遊ぶ時間を限定していると回答した保護者の割合(保23-A)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	33.0%	34.6%	31.7%	28.1%	26.3%
中学2年生	19.4%	19.9%	17.0%	20.3%	17.8%

【子供の支援機関従事者の視点】

⑨貧困状態のとらえ方として、十分食事をとれていない、住環境が劣悪、成長や季節に応じた服装をしていないという回答の割合が高い。

どのような状況にある子供を「貧困状態にある」と考えるかという質問に対する支援者の回答の割合(あてはまる選択肢全てに○)(支7)は、8項目のうち、十分に食事をとれていない(88.2%)、住環境が劣悪である(79.6%)、成長や季節に応じた服装をしていない(73.8%)の順に回答の割合が高い。

<考察>

- 経済的に厳しい世帯においては、日常生活習慣に課題のある子供が多くなっており、家庭において十分な教育ができていないことが考えられる。また、食生活についても課題のある家庭が多いことがうかがえる。
- 自転車、ゲーム機、携帯電話・スマートフォンについては、経済状況による所持率の差がなく、経済的に厳しい世帯においても保護者が優先的に子供に買い与えていることが考えられる。ひとり親世帯などで、保護者が家庭にいる時間が少ないこと等が背景になっている可能性もある。
- ゲームの利用やテレビ視聴時間が長くなっていることについては、習いごと等をしていないため、それらに向かいやすいという面と、家庭において適切な管理がなされていないという可能性が考えられる。

<今後の方向性>

- 学校、家庭、地域で「早ね・早おき・朝ごはん」運動を推進し、子供の生活習慣、食生活の確立に努める。
- 保護者の教育姿勢を高めるために、保護者を対象にした学習会や訪問型家庭教育支援の充実を図る。(再掲)
- 保育、教育、保健、子育て支援等の関係機関が連携し、支援が必要な世帯に気づき、支援につなげ、見守る体制づくりに努める。(再掲)
- 子どもの居場所づくり、放課後子供教室、放課後児童クラブ等、家庭以外での子供の過ごす場を更に充実させ、多様な大人と関わる場の提供を図る。(再掲)

4. 保護者の状況

ここでは、貧困の世代間連鎖に着目し、保護者の経済状況や生活環境、価値観が子供にどのように伝達されているかについてまとめました。

<主な結果>

- 経済的に厳しい世帯ほど、子供に大学・大学院への進学を望む割合が低い。(保 12)
- 経済的に厳しい世帯ほど、大学・大学院を卒業している保護者の割合が低く、一方で高校・大学の中退を経験している保護者の割合が高い。(保 38、39)
- 保護者の最終学歴は、保護者が子供に望む最終学歴に強く関連している。最終学歴が大学・大学院である保護者の約8割が、子供にも大学・大学院への進学を希望している。(クロス)
- 経済的に厳しい世帯ほど、就労形態が非正規雇用であることが多く、収入が乏しかったり不安定となっている。(保 36)
- ひとり親世帯、特に母子世帯では経済的に厳しい世帯の割合が高くなっている。(クロス)
- 経済的に厳しい世帯では、保護者自身が成人する前の経済的な困窮を経験していたり、家族関係のトラブルを経験していることが多い。育ってきた環境の厳しさが現在の経済状況に繋がっている側面が見受けられる。(保 34)
- 経済的に厳しい世帯ほど、子供食堂や学校実施の補充学習、ファミリー・サポート・センター、子育て世代包括支援センターといった子育て支援策に関する認知度が低い。(保 41)
- 県・市町村や民生委員等による相談窓口については、経済的に厳しい世帯ほど利用経験が高い一方で、知らないという回答も多くなっている。(保 43)
- 経済的に厳しい世帯では、行政の広報誌やホームページから情報を得ているという回答が少なく、学校からのお便りや、家族・友人からの情報についてもやや少ない。(保 40)
- 支援機関調査で、子供への支援として効果があったという回答が多かった取組として、「居場所づくり」「話し相手になる」があり、効果があったという回答が少なかった取組として「家庭生活の支援・指導」が挙げられる。保護者への支援として効果があったという回答が最も多かったのは「申請手続き等の支援」で、次いで「話し相手になる」「支援制度・情報の提供」となっている。(支 10)

<結果の詳細>

【保護者の最終学歴】

- ①経済的に厳しい世帯ほど、大学・大学院に進学した保護者の割合が低い。

母親、父親共に、所得段階Ⅰにおいて大学・大学院に進学した割合が、他の所得段階と比較して高くなっており、顕著な差が見られる。

母親：最後に通った学校が大学・大学院の割合(保 38)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	20.2%	27.8%	14.1%	10.2%	10.1%
中学2年生	15.8%	22.6%	10.0%	5.3%	5.3%

父親：最後に通った学校が大学・大学院の割合(保 39)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	34.9%	47.7%	27.3%	9.9%	17.5%
中学2年生	33.0%	45.5%	22.6%	12.8%	15.4%

②保護者の最終学歴は、保護者が子供に望む最終学歴に強く関連している。

大学・大学院に進学した保護者は、約8割が子供にも大学・大学院への進学を希望している。

保護者の学歴別にみた子供に望む最終学歴が大学・大学院の割合

	全体	中学・高校	専門学校	短大・高専	大学・大学院
小学5年生	50.7%	32.6%	45.4%	58.3%	79.7%
中学2年生	50.9%	31.1%	48.0%	65.7%	83.8%

【保護者の就労状況】

③母親の就労状況について、所得段階Ⅰでは正規雇用が比較的多いが、所得段階Ⅲでは非正規雇用が多い。専業主婦は所得段階が低いほど少ない。

就労形態は、収入源として世帯の経済状況の基本となっていると同時に、子供と過ごす時間に差が生じる原因にもなっていると考えられるため、着目することとした。正規雇用と非正規雇用の違いは収入の差に繋がっており、また専業主婦の割合の差は子供と過ごす時間に影響を与えていると思われる。

母親の就労状況(保 36)

小学5年生					
	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
正規雇用	20.7%	29.7%	14.1%	10.8%	15.6%
非正規雇用	46.6%	40.2%	54.0%	56.9%	55.4%
専業主婦	18.2%	19.4%	17.9%	11.0%	11.5%
中学2年生					
	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
正規雇用	21.0%	27.8%	16.2%	12.8%	16.3%
非正規雇用	49.1%	45.2%	54.6%	57.0%	58.7%
専業主婦	15.1%	16.6%	14.4%	9.0%	8.9%

④母親の就労状況を、ひとり親世帯に限定してみると、母親全体と比較して正規雇用の割合が多くなっているが、経済的に厳しい世帯ほど非正規雇用が多くなっている。

ここでは、経済的に厳しいと一般的に言われている母子家庭の就労状況に着目している。所得段階ⅠとⅢを比較すると、正規雇用と非正規雇用の割合に顕著な差が見られる。

ひとり親(母親)の就労状況(保 36)

小学5年生					
	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
正規雇用	34.4%	58.6%	46.2%	17.4%	23.3%
非正規雇用	46.2%	17.2%	39.2%	64.2%	58.1%
中学2年生					
	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
正規雇用	33.9%	52.7%	45.7%	17.7%	21.7%
非正規雇用	43.1%	16.3%	32.5%	64.8%	58.8%

⑤父親の就労状況について、経済的に厳しい世帯ほど正規雇用が少ない。

所得段階ⅠとⅢを比較すると、正規雇用と非正規雇用の割合に顕著な差が見られる。

父親の就労状況(保 37)

小学5年生					
	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
正規雇用	67.0%	82.4%	63.8%	25.3%	48.9%
非正規雇用	3.2%	0.9%	4.3%	10.4%	9.3%
中学2年生					
	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
正規雇用	65.8%	81.3%	61.9%	22.5%	48.1%
非正規雇用	3.1%	1.8%	4.0%	6.7%	6.2%

【支援制度とのつながり】

⑥経済的に厳しい世帯ほど、子供食堂等の支援策や県・市町村の相談窓口に係る認知度が低い。

ここでは、経済的に厳しい世帯ほど子供の支援制度を利用する状況に置かれていることから、各支援制度の情報収集ができていないかどうかについて着目した。支援制度を利用する割合が多いと思われる所得段階Ⅲ、経済的困難世帯ほど、かえってそれら支援制度を知らないという結果になっている。

子供食堂を「知らない」と回答した保護者の割合(保 41A)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	31.7%	26.9%	35.4%	42.1%	38.3%
中学2年生	30.4%	26.8%	32.9%	39.2%	35.7%

県・市町村の相談窓口を「知らない」と回答した保護者の割合(保 43A)

	全体	所得段階Ⅰ	所得段階Ⅱ	所得段階Ⅲ	経済的困難
小学5年生	20.1%	18.0%	21.6%	25.0%	24.0%
中学2年生	18.6%	16.7%	20.4%	24.7%	25.0%

<考察>

- 経済的に厳しい世帯ほど、就労形態が非正規雇用であることが多く、収入が乏しかったり不安定となっている。
- 経済的に厳しい世帯では、大学・大学院を修了した保護者の割合が低く、また、高校・大学の中退を経験している保護者が比較的多くっており、十分な教育を受けられなかったことが現在の就労状況に繋がっていることも推測される。
- 経済的に厳しい世帯では、保護者自身が成人する前の経済的困窮を経験していたり、家族関係のトラブルを経験していることが多くっており、育ってきた環境の厳しさが現在の経済状況に繋がっている側面が見受けられる。
- 経済的に厳しい世帯では、支援を受けられる人間関係が不足している保護者が比較的多くっており(保 8,9)、人間関係の構築に課題を有する保護者がいることもうかがえる。また、保護者自身の生育環境を背景として、現在の生活状況への課題意識が低いことや、家庭生活や子育ての知識を十分に持っていない状況があることが推測され、そのことが支援の困難さに繋がっていると考えられる。
- 経済的に厳しい世帯においては、情報の入手方法が限られており、各種支援制度や相談窓口の認知度が低くなっている。情報面で孤立しがちであり、支援の情報が届きにくい状況にある世帯が多くなっていると考えられる。支援機関調査で、保護者への支援として効果があったという回答が多かったものとして、「申請手続き等の支援」「申請制度・情報の提供」が挙げられており、支援の情報が十分に届いていなかったり、情報があっても申請手続きを保護者自身が確実に行うことが難しい状況が背景にあると考えられる。

<今後の方向性>

- ひとり親家庭に対し就職に有利な資格取得支援の充実を図る。
- 生活困窮者自立支援事業相談員、母子・父子自立支援員等の資質向上を図る等きめ細やかな相談体制を整備する。
- 各種手当や給付金、貸付金等の現行制度の利用促進など経済的支援の充実、強化を図る。
- 既存の支援制度の周知徹底と、相談支援の前段階として、相談窓口や支援制度に保護者をつなぐための方策を検討する。

5. 今後の取組

実態調査により、「子供の貧困」が単なる経済的困窮にとどまらず、子供が当たり前に持っているはずの「物」「人とのつながり」「教育・経験の機会」等が奪われているという一般的な説が裏付けられ、子供の学力や自尊感情、健康など様々なものにマイナスの影響を与えている状況が明らかになった。

「子供の貧困」は決して子供だけの問題ではなく、「世帯の貧困」でもある。子供の貧困の改善のためにはまず保護者が自立し、安定した生活を営むことが重要である。

保護者の就労は、一定の労働収入によって生活の安定を図ることはもちろん、保護者が子供にゆとりを持って接することや、働く保護者の姿を見て子供が労働の価値や意味を学ぶ等、貧困の世代間連鎖を防止する上で大きな意義があると考えられる。

経済的支援にあわせて、就労に向けた資格取得や求職活動への支援等、就労支援について更なる充実を図る必要がある。また、保護者に寄り添った相談支援やニーズに即した子育て支援等の生活支援を充実させることも必要である。

貧困の世代間連鎖を断ち切るためには、将来の所得を決める大きな要素である「子供の学力」を高めることも重要である。

そのため、経済状況にかかわらず、学ぶ意欲と能力のある全ての子供が質の高い教育を受けることができるよう、学校を子供の貧困対策のプラットフォームと位置づけ、学力を保証するとともに、「子どもの居場所づくり」等地域における学習支援の拡充を進めていく必要がある。

また、調査結果から、保護者の教育姿勢を高めること、子供の自尊感情を高めること、規則正しい生活習慣を身につけること、文化的活動を豊富に経験することが、子供の学力向上に良い影響を与えていることが明らかになった。よって、これらの要素を高めるため、家庭教育の推進、文化的活動や体験機会の確保、家族以外の大人と関わる場の確保等により一層取り組んでいく必要がある。

なお、経済的に厳しい世帯の保護者の中には、金銭的な理由以外に、就労上や健康上等の理由によりやむを得ず子供と関わる時間の確保が難しい場合があることが推測される。また、保護者自身が課題のある生育環境を経験してきたことにより、現在の状況に対する保護者の課題意識が低い可能性も示唆されている。家庭における教育的な働きかけの重要性について周知啓発することに加え、社会全体で子育てを支える支援のあり方も検討する必要がある。

経済的に厳しい世帯において、支援制度に関する認知度が低位であったため、本来支援の対象とされるべき世帯が支援から漏れている可能性が危惧される。こうした現状を踏まえ、既存の支援制度の周知を改めて行うとともに、支援制度を利用したいと思っても、保護者自身が様々な困難を抱え、実際に必要な手続きや申請が行えない状況も想定されるため、保育、教育、保健、子育て支援等の関係機関が連携し、支援が必要な世帯に気づき、支援につなげ、見守る体制づくりを構築する必要がある。

実態調査結果については、庁内9部局23課室で構成される子供の貧困対策庁内検討会で情報共有し、必要に応じ新政策の検討や、県計画に基づき実施している既存72事業の見直しをすすめる等、引き

続き全庁体制で取り組んでいく。

また、市町村においても追加分析や課題把握等に活用することを前提に、全30市町村に対し各市町村ごとの調査データを提供することとする。今後も市町村と連携しながら、県内各地域の実情に応じたきめ細やかな子供の支援施策を推進していく。

VIII 參考資料

小学5年生調査票

届出統計調査
総務大臣届出済



わかやまけんこども せいかつじつないちよろさ しょうがくせいひょう 和歌山県子供の生活実態調査（小学生票）

お願い

■この調査は、県内の小学校に通っている子供の生活状況、夢や抱きなどについてたずねるものです。和歌山県は、この調査結果を参考に、みなさんのために何が出来るかを考えていきますので、ご協力をお願いします。

■この調査には、自分の思う答えを自分で書いてください。答えが思い浮かばない場合や答えたくない質問には答えずに、次に進んでください。

■〇のつけかたは、次の例のようになかたちで書いてください。

例1 本を読むことは好きですか。(あてはまる番号1つに○)

- ① 大変好き ② まあまあ好き ③ あまり好きではない ④ 好きではない

例2 次のうち、あなたが持っている空箱を数えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- ① イス ② ネット ③ ウサギ ④ 扇
⑤ 靴 ⑥ ハムスター ⑦ その他(カメ) ⑧ 空箱は持っていません

■名前、書かないでください。(個人が特定されることはありません。)

お問い合わせについて

この調査は、和歌山県が実施しています。

この調査でわからないことがありましたら、学校ではなく、次のところにお問い合わせてください。

お問い合わせ先

電話番号: 075-316-3508 (9:00~21:00 土日・祝日をふくむ)
(株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 和歌山県子供の生活実態調査担当)

※和歌山県より本調査の集計・分析を委託された会社です

あなたのことについておたずねします

問1 あなたの性別を数えてください。(あてはまる番号1つに○)

- 1 男子 2 女子 3 答えたくない

問2 あなたが住んでいる市町村を数えてください。(あてはまる番号1つに○)

1 和歌山市	8 紀の川市	15 広川町	22 白高川町	29 北山村
2 海南市	9 岩田市	16 有田川町	23 白旗町	30 津太町
3 藤本町	10 紀美野町	17 美志町	24 上高田町	31 和歌山県外
4 有田市	11 かつらぎ町	18 白高町	25 すさみ町	
5 御坊市	12 九度山町	19 由良町	26 那智勝浦町	
6 田辺市	13 高野町	20 印南町	27 大田町	
7 新宮市	14 湯浅町	21 みなべ町	28 吉成川町	

あなたのもっているものについておたずねします

問3 あなたには、次のものの中に自分が使うことができるものがありますか。ある場合は「1」あるいは「2」をつけてください。いない場合は、それがほしいものであれば「2」ほしい、いらぬと思えば「3」ほしくないに○をつけてください。(A~Kのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

		ない	
		ある	ほしくない
A	自分だけの本(学校の教科書、雑誌やマンガはのぞく)	→ 1	2 3
B	子供部屋(兄弟姉妹といっしょに使っている場合もふくむ)	→ 1	2 3
C	(自宅)インターネットにつながるパソコンやタブレット	→ 1	2 3
D	自宅で宿題をすることができる場所	→ 1	2 3
E	自分専用の勉強机	→ 1	2 3
F	スポーツ用品(野球のグローブやサッカーボールなど)	→ 1	2 3
G	ゲーム機	→ 1	2 3
H	自転車	→ 1	2 3
I	友だちと同じような服	→ 1	2 3
J	2以上のサイズのあった靴	→ 1	2 3
K	けいたい電話、スマートフォン	→ 1	2 3

あなたの家族や友だちのことについておたずねします

問4 あなたの家族はあなたに対していつもどのような態度をしていますか、もっとも近いと思うものに○をつけてください。

(A～Dのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	とても そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	そう 思わない
A いっしょに楽しい時間を過ごしている	→ 1	2	3	4
B 自分が喜ぶことをしてくる	→ 1	2	3	4
C 悪いことをするとしかられる	→ 1	2	3	4
D やらなげられ、いじめられる	→ 1	2	3	4

問5 あなたにはどんな友だちがいますか、あてはまるものすべてに○をつけてください。(あてはまる番号すべてに○)

1 学校の同じクラスの友だち	5 親の友だち
2 学校の同じクラス以外の友だち	6 習いごとの友だち
3 学校はいっしょにはいられないけれども、遊所に住んでいる友だち	7 その他の友だち()
4 スポーツチームやクラブの友だち	8 とくに仲が良い友だちはいない

問6 あなたと友だちとの関係について、どのように思っていますか、もっとも近いものに○をつけてください。

(A～Cのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	とても そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
A 友だちといっしょによく遊んでいる	→ 1	2	3
B 友だちと仲良くしている	→ 1	2	3
C 友だちに好かれている	→ 1	2	3

あなたの自分の生活についておたずねします

問7 あなたは、学校がある日は、だいたい朝何時ごろに起きますか。(あてはまる番号1つに○)

1 午前6時より前	4 午前7時～7時29分	7 午前8時30分以降
2 午前6時～6時29分	5 午前7時30分～7時59分	8 決まっていない
3 午前6時30分～6時59分	6 午前8時～8時29分	

問8 あなたは、夏の日(学校がある日)は、だいたい何時ごろに寝ますか。(あてはまる番号1つに○)

1 午後9時より前	5 午後10時30分～10時59分	9 午前0時30分～0時59分
2 午後9時～9時29分	6 午後11時～11時29分	10 午前1時以降
3 午後9時30分～9時59分	7 午後11時30分～11時59分	11 決まっていない
4 午後10時～10時29分	8 午前0時～0時29分	

問9 あなたは、平日や夏休みなど学校がない日は、だいたい朝何時ごろに起きますか。(あてはまる番号1つに○)

1 午前6時より前	4 午前7時～7時29分	7 午前8時30分以降
2 午前6時～6時29分	5 午前7時30分～7時59分	8 決まっていない
3 午前6時30分～6時59分	6 午前8時～8時29分	

問10 あなたは、平日や夏休みなどで、次の日に学校がない日は、だいたい何時ごろに寝ますか。(あてはまる番号1つに○)

1 午後9時より前	5 午後10時30分～10時59分	9 午前0時30分～0時59分
2 午後9時～9時29分	6 午後11時～11時29分	10 午前1時以降
3 午後9時30分～9時59分	7 午後11時30分～11時59分	11 決まっていない
4 午後10時～10時29分	8 午前0時～0時29分	

問11 あなたは、平日(学校に行く日)の放課後(夕方6時くらいまで)どこで過ごしますか、1週間のうち、1週間のうち、そこで過ごすおおよその日数に○をつけてください。(A～Kのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	毎日	週に 3～4日	週に 1～2日	そこでは 過ごさない
A 自分の家	→ 1	2	3	4
B 友だちの家	→ 1	2	3	4
C 習いごとをする場所	→ 1	2	3	4
D 児童館・公民館・その他の施設 <small>(児童館、公民館、児童館、児童館、児童館)</small>	→ 1	2	3	4
E 学校(放課後児童クラブをふくむ)	→ 1	2	3	4
F スポーツクラブの活動の場(野球場、サッカー場など)	→ 1	2	3	4
G 公園や広場	→ 1	2	3	4
H 図書館	→ 1	2	3	4
I 商店街やショッピングモール	→ 1	2	3	4
J ゲームセンター	→ 1	2	3	4
K その他(具体的に)	→ 1	2	3	4

※「放課後児童クラブ」は、放課後や学校が休みの日に、小学校の教室や児童館などで、保育の先生が見守る中、宿題をしたり、自由に遊んだりするところです。○○学習、○○習字、○○習字など、地域によって言い方がちがいます。
※子ども会とは、地域で集まり、レクリエーションやスポーツをしたり、学習をしたりするほか、公園の掃除などのボランティア活動を行うところです。○○子どもクラブ、○○子ども会など、地域によって言い方がちがいます。

簡12 あなたは、平日(学校がお休みの日)の昼前(夜が明る時間帯)は、どこで過ごしますか、月に1回以上過ごすところすべてに○をつけてください。(A～Cのそれぞれ、あてはまる番号すべてに○)

1 自分の家	7 公園や広場
2 友だちの家	8 図書館
3 塾や習いごとをする場所	9 補習館やオンラインゲーム
4 児童館・公民館・その他施設 (放課後児童クラブ、子ども会をふくむ)	10 ゲームセンター
5 学校(放課後児童クラブをふくむ) (具体的に)	11 その他 (具体的に)
6 スポーツクラブの活動の場(習字、サッカー場など)	

簡13 あなたはふだん(月曜日から金曜日)、夜の活動を、1日あたりどれくらいの時間しますか。(A～Cのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	4時間以上	3～4時間	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	まったくない
A ゲーム機(コンピュータゲーム、けいたい式のゲームをふくむ)で遊ぶ	→ 1	2	3	4	5	6	7
B テレビやビデオ・DVDを見る(勉強のために見る時間やゲームの時間はのぞきます)	→ 1	2	3	4	5	6	7
C 電話やメール、インターネットをする(けいたい電話やスマートフォン、パソコンなど)	→ 1	2	3	4	5	6	7

簡14 あなたは、平日や夏休みなど学校がない日には、夜の活動を、1日あたりどれくらいの時間しますか。(A～Cのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	4時間以上	3～4時間	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	まったくない
A ゲーム機(コンピュータゲーム、けいたい式のゲームをふくむ)で遊ぶ	→ 1	2	3	4	5	6	7
B テレビやビデオ・DVDを見る(勉強のために見る時間やゲームの時間はのぞきます)	→ 1	2	3	4	5	6	7
C 電話やメール、インターネットをする(けいたい電話やスマートフォン、パソコンなど)	→ 1	2	3	4	5	6	7

簡15 あなたはふだん、夜の活動をどれくらいしますか。(A～Cのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	ほとんど毎日	1通前に4～5日	1通前に2～3日	1通前に1日	1通前に1日より少ない	ほとんどしない
A 30分以上から動かす遊びや習いごと ※例：ボール遊び、自転車、サッカー、野球、空手、剣道、体操、バレー、水泳など。	→ 1	2	3	4	5	6
B 家事 (洗濯、掃除、料理、片付けなど)	→ 1	2	3	4	5	6
C 兄弟姉妹の世話や家族の介護	→ 1	2	3	4	5	6

簡16 あなたは、放課後児童クラブに参加していますか。(あてはまる番号1つに○)

1 参加している	2 参加していない
----------	-----------

簡17 あなたは、地域の子ども会に参加していますか。(あてはまる番号1つに○)

1 参加している	2 参加していない
----------	-----------

簡18 あなたは、この1か月の間に本を何冊くらい読みましたか。

※ 自宅以外で読んだ本も数えてください。
※ パソコンやタブレット、スマートフォンなどで読める本(電子書籍)も数えてください。
※ 雑誌やマンガは、内容に関らず、数にふくめないでください。(あてはまる番号1つに○)

1 読まなかった	3 2～3冊	5 10～19冊
2 1冊	4 4～9冊	6 20冊以上

簡19 あなたは、これまでに次のようなことがありましたか。(A～Cのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	よくあった	時々あった	あまりなかった	なかった	わからない
A 学校に行きたくないと思った 1か月以上学校を休んだ (病気やけがのときをのぞく)	→ 1	2	3	4	5
B 夜更かまで子供だけで過ごした	→ 1	2	3	4	5

問20 あなたはふだん、困っていることや悩んでいること、楽しいことや嬉しいことを、他の人に話しかけたいと思いますか。「1 よく話しかけたい」「4 ぜんぜん話さない」のうち、もっとも近いものに○をつけてください。電話、メール、LINEなどもふくめて考えてください。

	よく話す	時々話す	あまり話さない	ぜんぜん話さない
A 家族(お母さん・お父さん)	→ 1	2	3	4
B 家族(きょうだい)	→ 1	2	3	4
C その他の家族(おじいちゃん・おばあちゃんなど)	→ 1	2	3	4
D 学校の先生	→ 1	2	3	4
E 放課後児童クラブ、子ども会、その他施設の先生	→ 1	2	3	4
F 友だち	→ 1	2	3	4
G その他の大人(近所の主人や塾・習いごとの先生など)	→ 1	2	3	4
H インターネットでの知り合い	→ 1	2	3	4

あなたの生活のことについておたずねします

問21 あなたは、歯磨きや入浴(風呂、シャワー)をしますか。(A・Bのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	毎日2回以上する	毎日1回する	する日のほうが多い	しない日のほうが多い	ほとんどしない
A 歯磨き	1	2	3	4	5
B 入浴	1	2	3	4	5

問22 あなたはふだん、朝ごはんを食べますか。(あてはまる番号1つに○)

1 いつも食べる(週に5日)	3 食べないほうが多い(週に1, 2日)
2 食べるほうが多い(週に3, 4日)	4 いつも食べない

問22-1 あなたがふだん、朝ごはんを食べないことがあるとしたら、食べない理由は何ですか。いちばん多くあてはまる理由を1つ答えてください。(あてはまる番号1つに○)

1 おなかが減っていないから	3 朝ごはんをつくってくれないから
2 朝早くに起きられないから	4 理由は他にない
	5 朝ごはんを食べないことがない

問23 あなたはふだん、朝ごはんをたれど食べますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 家族(お母さん・お父さん)	4 家族以外の人
2 家族(きょうだい)	5 一人で食べる
3 その他の家族(おじいちゃん・おばあちゃんなど)	6 朝ごはんは食べない

問24 あなたはふだん、夕ごはんをたれど食べますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 家族(お母さん・お父さん)	4 家族以外の人
2 家族(きょうだい)	5 一人で食べる
3 その他の家族(おじいちゃん・おばあちゃんなど)	6 夕ごはんは食べない

問25 あなたは、結婚をのぞいて次の食物や飲物をふだんどれくらい食べますか。

	毎日食べる(飲む)	1週間に4~5日	1週間に2~3日	1週間に1日以下	ほとんど食べない(飲まない)
A 野菜	→ 1	2	3	4	5
B くだもの	→ 1	2	3	4	5
C 肉や魚	→ 1	2	3	4	5
D カップめん・インスタント食品	→ 1	2	3	4	5
E コンビニなどのおにぎり・お弁当	→ 1	2	3	4	5
F お菓子	→ 1	2	3	4	5
G ジュースなどの清涼飲料水	→ 1	2	3	4	5

問26 あなたは、自分の健康状態についてどう感じていますか。(あてはまる番号1つに○)

1 よい	2 どちらかといえばよい	3 ふつう	4 どちらかといえばよくない	5 よくない
------	--------------	-------	----------------	--------

問27 あなたの家で、下に書いてあるようなことをすること(したこと)がありますか。ふだんすること(したこと)があるものすべてに○をしてください。よくなければ「1」に○をしてください。(あてはまる番号すべてに○)

1 小さいころに菜や湯を飲んでもらう	8 新聞やニュースについて話す
2 手づくりのおやつをつくる	9 パソコンやインターネットで調べものをする
3 図書館に行く	10 学校の行事に家族が来る
4 動物園や水族館に行く	11 地域の行事に参加する
5 博物館や美術館に行く	12 泊まりで家族旅行に行く
6 音楽会やコンサートに行く	13 祖父母や親せきの家に遊びに行く
	14 映画や演劇を観に行く

学校のことや勉強のことについておたずねします

問28 あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、1～5のいずれかから1つだけ選んでください。(A～Gのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	楽しみ	あまり楽しみではない	4
A 毎日学校に通うこと	→ 1	2	3
B 学校の授業	→ 1	2	3
C 先生に会うこと	→ 1	2	3
D 学校の友だちに会うこと	→ 1	2	3
E 学校のクラブ活動	→ 1	2	3
F 学校の休み時間	→ 1	2	3
G 学校の給食(お弁当など)	→ 1	2	3

問29 あなたは、学校の授業がわかりますか。(あてはまる番号1つに○)

1 いつもわかる	4 あまりわかりません
2 だいたいわかる	5 ほとんどわかりません
3 どちらともいえない	

問29-1 学校の授業が1～4、あまりわかりませんまたは5、ほとんどわかりませんと答えた人におたずねします。いつごろから、授業がわからなくなりましたか。(あてはまる番号1つに○)

1 小学1年生のころ	3 小学3年生のころ	5 小学5年生のころ
2 小学2年生のころ	4 小学4年生のころ	6 わかりません

問30 勉強がわからないときは、だれに教えてもらいますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 親(お母さん・お父さん)	5 塾や習いごとの先生
2 親以外の家族(きょうだいや、おじいちゃん・おばあちゃんなど)	6 その他の人
3 学校の先生	7 友だち
4 放課後児童クラブ、子ども会、その他施設(児童館など)	8 教えてくれる人がいない

問31 あなたはふだん(月曜日から金曜日)、学校の授業以外にどれくらいの時間、勉強をしますか。1日あたりの勉強時間を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1 まったくしない	4 1時間以上、2時間より少ない
2 30分より少ない	5 2時間以上、3時間より少ない
3 30分以上、1時間より少ない	6 3時間以上

問32 あなたは、学習塾に通ったり、家庭教師に来てもらったりしていますか。通っている(来てもらっている)場合、1週間何日通って(来てもらって)いますか。(あてはまる番号1つに○)

1 通って(来てもらって)いない	4 週に3日	7 週に6日
2 週に1日	5 週に4日	8 毎日
3 週に2日	6 週に5日	

問33 あなたは、自宅で次の教材を使っていますか。(あてはまる番号すべてに○)

1 学校で配られるドリルなど	3 塾の教材	5 1～4以外の教材
2 米倉で売っているドリルや参考書	4 通信教育の教材	6 使っていない

問34 あなたは、学校の宿題をしていますか。(あてはまる番号1つに○)

1 している	2 だいたいしている	3 あまりしていない	4 まったくしていない
--------	------------	------------	-------------

問35 あなたはふだん、学校のきまりを守っていますか。(あてはまる番号1つに○)

1 守っている	2 だいたい守っている	3 あまり守っていない	4 まったく守っていない
---------	-------------	-------------	--------------

あなたが考えていることについておたずねします

問36 あなたの思いや気持ちについて、もっとも近いものに○をつけてください。(A～Gのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	そら思	どちらかといえばそら思	どちらかといえばそら思わない
A 自分には、良いところがある	→ 1	2	3
B 将来の夢や目標をもっている	→ 1	2	3
C がんばれば、いいことがある	→ 1	2	3
D 自分は家族に大事にされている	→ 1	2	3
E 自分は友だちに好かれている	→ 1	2	3
F 自分の将来が楽しみだ	→ 1	2	3
G 自分のことが好きだ	→ 1	2	3

問37 あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。あなたの考えにもっとも近いものに○をつけてください。

	1	2	3	4	5	6
1	中学(中学部)まで			4 短期大学・高等専門学校(高専)		
2	高校(高等部)まで			5 大学またはそれ以上		
3	専門学校(高校卒業後に進学するもの)			6 まだわからない		

(あてはまる番号1つに○)

問38 わたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちよつとさみしい日も、楽しくない日もあります。この1週間ほんどんな1週間だったか、あてはまるところに○をつけてください。良い落え、悪い落えはありませぬ。悪い落えはありませぬ。悪い落えはありませぬ。悪い落えはありませぬ。

(A~Qのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	いつもぞうだ	時々ぞうだ	そんなことはない
A	楽しみにしていることがたくさんあった	→ 1	2 3
B	とても長く眠れた	→ 1	2 3
C	泣きたいような気がした	→ 1	2 3
D	遊びに出かけた	→ 1	2 3
E	逃げ出したような気がした	→ 1	2 3
F	おなかが痛くなることがあった	→ 1	2 3
G	がんばろうという気持ちになった	→ 1	2 3
H	楽しく食事をした	→ 1	2 3
I	自分の気持ちを他の人に伝えられた	→ 1	2 3
J	生きていても仕方がないと思った	→ 1	2 3
K	やろうと思ったことがうまくできた	→ 1	2 3
L	楽しく家族と話をした	→ 1	2 3
M	こわい夢を見た	→ 1	2 3
N	強いほちの気がした	→ 1	2 3
O	落ち込んでいてもすぐに元気がなれた	→ 1	2 3
P	とてもつらい気がした	→ 1	2 3
Q	とても道順な気がした	→ 1	2 3



問39 あなたには、いま悩んでいることや心配なこと、困っていること、だれかに相談したいと思っていることがありますか。下のの中からあてはまるものがあればすべてに○をしてください。とくにないに○をしないでください。(あてはまる番号すべてに○)

1	学校での生活のこと	6	家での生活のこと
2	友だちのこと	7	進学のこと
3	家族のこと	8	その他()
4	勉強のこと	9	とくにない
5	宿いことのこと		

問40 あなたは、次のような場所があれば使ってみたいと思いませんか。(A~Fのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	使ってみたい	使いたくない	わからない
A (家以外で)平日の放課後に寝ることができる場所	→ 1	2	3
B (家以外で)休日にいることができる場所	→ 1	2	3
C 家の人がいないとき、夕ごはんをみんなで食べることができる場所	→ 1	2	3
D 家で勉強できないとき、勉強ができる場所	→ 1	2	3
E 大学生のお兄さんやお姉さん、地域の人が、勉強を無料で教えてくれる場所	→ 1	2	3
F (学校以外で)なんでも相談できる場所	→ 1	2	3

問41 このアンケートの感想や大人の人に言いたいことなどがあれば、下のらんに書いてください。

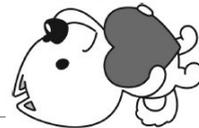
.....

.....

.....

.....

.....



質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

中学2年生調査票



和歌山県

和歌山県子供の生活実態調査（中学生票）

わかやまけんこどもせいがかじつじたいちようさ ちゅうがくせいひよう

県立研究調査 総務大臣届出済

お願い

■この調査は、県内の中学校に通っている子供の生活状況、夢や悩みなどについてたずねるものです。和歌山県は、この調査結果を参考にして、みなさんのために何が出来るかを考えていきますので、ご協力をお願いします。

■この調査には、自分の思う答えを自分で書いてください。答えが正しいかどうかわからない場合や答えたくない質問には答えずに、次に進んでください。

■〇のつけかたは、次の例のようなかたちで答えてください。

例1 米を焼くことは好きですか。(あてはまる番号1つに○)
 (1) 大変好き 2. まあまあ好き 3. あまり好きではない 4. 好きではない

例2 次のうち、あなたが働いている立場を答えてください。(あてはまる番号すべてに○)
 (1) イス 2. ネコ 3. ウサギ 4. 鳥
 (5) 魚 6. ハムスター 7. その他(カ、メ) 8. 立場は決っていない

■名前は、書かないでください。(個人が特定されることはありません)

あなたのことについておたずねします

例1 あなたの性別を答えてください。(あてはまる番号1つに○)
 1 男子 2 女子 3 答えたくない

例2 あなたが住んでいる市町村を答えてください。(あてはまる番号1つに○)
 1 和歌山市 8 糸川市 15 広川町 22 白高川町 29 北山村
 2 和歌南市 9 岩田市 16 有田川町 23 白旗町 30 串本町
 3 橋本町 10 紀美野町 17 築志町 24 上富田町 31 和歌山県外
 4 有田市 11 かつらぎ町 18 白高町 25 すさみ町
 5 御坊市 12 九度山町 19 由良町 26 那智勝浦町
 6 田辺市 13 高野町 20 白旗町 27 大塚町
 7 新宮市 14 湯浅町 21 みなべ町 28 吉野川町

あなたのもっているものについておたずねします

例3 あなたには、次のものの中に自分が使っているものがありますか。ある場合は「1」あるに○をつけてください。ない場合は、それがほしいものであれば「2」ほしい、いらぬと思うものであれば「3」ほしくないに○をつけてください。(A-Kのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)
 (A-Kのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	ある	ない	
		ほしい	ほしくない
A 自分だけの米(学校の教科書、雑誌やマンガはのぞく)	→ 1	2	3
B 子供部屋(兄弟姉妹といっしょに使っている場合もふくむ)	→ 1	2	3
C (自宅で)インターネットにつながるパソコンやタブレット	→ 1	2	3
D 自宅で宿題をすることが出来る場所	→ 1	2	3
E 自分専用の勉強机	→ 1	2	3
F スポーツ用品(野球のグローブやサッカーボールなど)	→ 1	2	3
G ゲーム機	→ 1	2	3
H 自転車	→ 1	2	3
I 発ちど同じような服	→ 1	2	3
J 2足以上のサイズのあった靴	→ 1	2	3
K けいたい電話、スマートフォン	→ 1	2	3

お問い合わせについて

この調査は、和歌山県が実施しています。

この調査でわからないことがありましたら、学校ではなく、次のところにお問い合わせください。

お問い合わせ先

和歌山県 総務大臣 届出済
電話番号: 075-316-3508 (9:00~21:00 土日・祝日をふくむ)
 (株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 和歌山県子供の生活実態調査担当)

※和歌山県より本調査の集計・分析を委託された会社です

あなたの家族や友だちのことについておたずねします

問4 あなたの家族はあなたに対していつもどのようになっていますか、もっとも近いと思われるものに○をつけてください。

	とても そう思う	あまりそう 思わない	そう 思う	あまりそう 思わない	そう 思う	あまりそう 思わない
A いっしょに楽しい時間を過ごしている	→ 1	2	3	4		
B 自分が喜ぶことをしてくれる	→ 1	2	3	4		
C 悪いことをするとしかられる	→ 1	2	3	4		
D やらなければいけないことを何度も 言われる	→ 1	2	3	4		

(A～Dのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

問5 あなたにはどんな友だちがいますか、あてはまるものすべてに○をつけてください。(あてはまる番号すべてに○)

1 学校の同じクラスの友だち	5 スポーツチームやクラブの友だち
2 学校の同じ話話の友だち	6 塾の友だち
3 学校の同じビュラスや話話以外の友だち	7 習いごとの友だち
4 学校はいっしょではないけれども、近所に住んで いる友だち	8 その他の友だち()
	9 とくに仲がよい友だちははいらない

問6 あなたと友だちの関係について、どのようになっていますか、もっとも近いものに○をつけてください。

	とても そう思う	あまりそう 思わない	そう 思う	あまりそう 思わない
A 友だちといっしょによく遊んでいる	→ 1	2	3	4
B 友だちと仲良くしている	→ 1	2	3	4
C 友だちに好かれている	→ 1	2	3	4

(A～Cのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

あなたのびだんの生活についておたずねします

問7 あなたは、学校がある日はだいたい朝何時ごろに起きますか。(あてはまる番号1つに○)

1 午前6時より前	4 午前7時～7時29分	7 午前8時30分以降
2 午前6時～6時29分	5 午前7時30分～7時59分	8 決まっていない
3 午前6時30分～6時59分	6 午前8時～8時29分	

問8 あなたは、次の日に学校がある日は、だいたい何時ごろに寝ますか。(あてはまる番号1つに○)

1 午後9時より前	5 午後10時30分～10時59分	9 午前0時30分～0時59分
2 午後9時～9時29分	6 午後11時～11時29分	10 午前1時以降
3 午後9時30分～9時59分	7 午後11時30分～11時59分	11 決まっていない
4 午後10時～10時29分	8 午前0時～0時29分	

問9 あなたは、休日や夏休みなど学校がない日はだいたい朝何時ごろに起きますか。(あてはまる番号1つに○)

1 午前6時より前	4 午前7時～7時29分	7 午前8時30分以降
2 午前6時～6時29分	5 午前7時30分～7時59分	8 決まっていない
3 午前6時30分～6時59分	6 午前8時～8時29分	

問10 あなたは、休日や夏休みなどで、次の日に学校がない日は、だいたい何時ごろに寝ますか。(あてはまる番号1つに○)

1 午後9時より前	5 午後10時30分～10時59分	9 午前0時30分～0時59分
2 午後9時～9時29分	6 午後11時～11時29分	10 午前1時以降
3 午後9時30分～9時59分	7 午後11時30分～11時59分	11 決まっていない
4 午後10時～10時29分	8 午前0時～0時29分	

問11 あなたは、平日(学校に行く日)の放課後(夕方6時くらいまで)どこで過ごしますか、1週間のうち、そこで過ごすおおよその日数に○をつけてください。(A～Lのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	毎日	週に 3～4日	週に 1～2日	そこでは 過ごさない
A 自分家	→ 1	2	3	4
B 友だちの家	→ 1	2	3	4
C 塾や習いごとをする場所	→ 1	2	3	4
D 児童館・公民館・その他の施設(子ども会をふくむ)	→ 1	2	3	4
E 学校の話話	→ 1	2	3	4
F 話話以外の学校	→ 1	2	3	4
G スポーツクラブの活動の場(野球場、サッカー場など)	→ 1	2	3	4
H 公園や広場	→ 1	2	3	4
I 図書館	→ 1	2	3	4
J 商店街やショッピングモール	→ 1	2	3	4
K ゲームセンター	→ 1	2	3	4
L その他(具体的に)	→ 1	2	3	4

※子ども会とは、地域で集まり、レクリエーションやスポーツをしたり、学習をしたりするほか、公園の掃除などのボランティア活動を行うことです。○○子どもクラブ、○○子ども会など、地域によって置かれる方がいます。

簡12 あなたは、平日(学校がお休みの日)の昼間(夜が明る時間)は、どこで過ごしますか。月に1回以上過ごすところすべてに○をつけてください。(A～Cのそれぞれ、あてはまる番号すべてに○)

1 自分の家	7 スポーツクラブの活動の場(剣道、サッカー場など)
2 友だちの家	8 公園や広場
3 塾や習いごとをする場所	9 図書館
4 児童館・公民館・その他施設(子ども会をふくむ)	10 商店街やショッピングモール
5 学校の活動	11 ゲームセンター
6 部活動以外の学校	12 その他(具体的に)

簡13 あなたはふだん(月曜日から金曜日)、次の活動を、1日あたりどれくらいの時間しますか。(A～Cのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	4時間以上	3～4時間	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分より少ない	まったくしない
A ゲーム機(コンピュータゲーム、けいたい式のゲームをふくむ)で遊ぶ	→ 1	2	3	4	5	6	7
B テレビやビデオ・DVD を見る(勉強のために見る時間やゲームの時間とはできません)	→ 1	2	3	4	5	6	7
C 電話やメール、インターネットをする(けいたい電話やスマートフォン、パソコンなど)	→ 1	2	3	4	5	6	7

簡14 あなたは、平日や夏休みなど学校がない日には、次の活動を、1日あたりどれくらいの時間しますか。(A～Cのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	4時間以上	3～4時間	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分より少ない	まったくしない
A ゲーム機(コンピュータゲーム、けいたい式のゲームをふくむ)で遊ぶ	→ 1	2	3	4	5	6	7
B テレビやビデオ・DVD を見る(勉強のために見る時間やゲームの時間とはできません)	→ 1	2	3	4	5	6	7
C 電話やメール、インターネットをする(けいたい電話やスマートフォン、パソコンなど)	→ 1	2	3	4	5	6	7

簡15 あなたはふだん、次の活動をどれくらいしますか。(A～Cのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	ほとんど毎日	1週間に4～5日	1週間に2～3日	1週間に1日	1週間に1日より少ない	ほとんどしない
A 30分以上から動かす遊びや習いごと(※例: ボール遊び、自転車、サッカー、野球、空手、剣道、体操、バレエ、水泳など。部活動をふくむ。)	→ 1	2	3	4	5	6
B 家事(洗濯、掃除、料理、片付けなど)	→ 1	2	3	4	5	6
C 兄弟姉妹の世話や家族の介護	→ 1	2	3	4	5	6

簡16 あなたは、地域の子ども会に参加していますか。(あてはまる番号1つに○)

1 参加している	2 参加していない
----------	-----------

簡17 あなたは、この1か月の間に茶を何冊くらい読みましたか。

※自宅以外で読んだ本も数えてください。
※パソコンやタブレット、スマートフォンなどで読める本(電子書籍)も数えてください。
※雑誌やマンガは、内容に問わず、数にふくめなくてください。(あてはまる番号1つに○)

	1冊	2～3冊	4	5	10～19冊	20冊以上
1 読まなかった	→ 3	2～3冊	4	4～9冊	5	10～19冊
2 1冊	→ 3	2～3冊	4	4～9冊	5	10～19冊

簡18 あなたは、これまでに次のようなことがありましたか。(A～Cのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	よくあった	ややあった	あまりなかった	なかった	わからない
A 学校に行きたくないと感じた	→ 1	2	3	4	5
B 1か月以上学校を休んだ(病気やけがのときを除く)	→ 1	2	3	4	5
C 夜遅くまで子供だけで過ごした	→ 1	2	3	4	5

問19 あなたはふだん、困っていることや悩んでいること、楽しいことや嬉しいことを、他の人に話しかけたいと思いますか。「1 よく話すから」「4 ぜんぜん話さないのうら、もっとも近いものに○をつけてください。電話、メール、LINEなどもよく考えてください。」

(A~H)のそれぞれ、あてはまる番号1つに○				
	よく話す	時々話す	あまり話さない	ぜんぜん話さない
A. 家族(お母さん・お父さん)	→ 1	2	3	4
B. 家族(きょうだい)	→ 1	2	3	4
C. その他の家族(おじいちゃん・おばあちゃんなど)	→ 1	2	3	4
D. 学校の先生	→ 1	2	3	4
E. 子ども会、その他施設 <small>(先生、ボランティアなど)</small> の先生	→ 1	2	3	4
F. 友だち	→ 1	2	3	4
G. その他の大人 <small>(住所の主人や塾・習いごとの先生など)</small>	→ 1	2	3	4
H. インターネットでの知り合い	→ 1	2	3	4

あなたの生活のことについておたずねします

問20 あなたは、歯磨きや入浴(風呂、シャワー)をしますか。(A・Bのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	毎日2回以上する	する日のほうが多い	しない日のほうが多い	ほとんどしない
A. 歯磨き	1	2	3	4
B. 入浴	1	2	3	4

問21 あなたはふだん、朝ごはんを食べますか。(あてはまる番号1つに○)

1	いつも食べる(週に5日)	3	食べないほうが多い(週に1, 2日)
2	食べるほうが多い(週に3, 4日)	4	いつも食べない

問21-1 あなたがふだん、朝ごはんを食べないことがあるとしたら、食べない理由は何ですか。いちばん多くあてはまる理由を1つ答えてください。(あてはまる番号1つに○)

1	おなかが減っていないから	3	朝ごはんをつくってくれないから
2	朝早くに起されないので	4	理由は何もない
		5	朝ごはんを食べないことがない

問22 あなたはふだん、朝ごはんを誰と食べますか。(あてはまる番号すべてに○)

1	家族(お母さん・お父さん)	4	家族以外の人
2	家族(きょうだい)	5	一人で食べる
3	その他の家族(おじいちゃん・おばあちゃんなど)	6	朝ごはんは食べない

問23 あなたはふだん、夕ごはんを誰と食べますか。(あてはまる番号すべてに○)

1	家族(お母さん・お父さん)	4	家族以外の人
2	家族(きょうだい)	5	一人で食べる
3	その他の家族(おじいちゃん・おばあちゃんなど)	6	夕ごはんは食べない

問24 あなたは、給食をのぞいて次の食物や飲料をふだんどれくらい食べますか。(A~Gのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	毎日食べる(飲む)	1週間に4~5日	1週間に2~3日	1週間に1日以下	ほとんど食べない(飲まない)
A. 野菜	→ 1	2	3	4	5
B. くだもの	→ 1	2	3	4	5
C. 肉や魚	→ 1	2	3	4	5
D. カップめん・インスタント食品	→ 1	2	3	4	5
E. コンビニなどのおにぎり・お弁当	→ 1	2	3	4	5
F. お菓子	→ 1	2	3	4	5
G. ジュースなどの清涼飲料水	→ 1	2	3	4	5

問25 あなたは、自分の健康状態についてどの様に感じていますか。(あてはまる番号1つに○)

1	よい	2	どちらかといえばよい	3	ふつう	4	どちらかといえばよくない	5	よくない
---	----	---	------------	---	-----	---	--------------	---	------

問28 あなたの家で、下に書いてあるおこなをすること(したこと)がありますか。ふだんすること(したこと)があるものすべてに○をしてください。特になければ「1」に○をしてください。(あてはまる番号すべてに○)

1	小さいころに菜や絵本を讀んでもらう	8	新聞やニュースについて話す
2	手づくりのおやつをつくる	9	パソコンやインターネットで調べものをする
3	図書館に行く	10	学校の行事に家族が来る
4	動物園や水族館に行く	11	地域の行事に参加する
5	博物館や美術館に行く	12	泊まりで家族旅行に行く
6	音楽会やコンサートに行く	13	祖父母や親せきの家に遊びに行く
7	映画や演劇を観に行く	14	どれもふだんすること(したこと)がない

学校のことや勉強のことについておたずねします

問27 あなたの学校生活についておたずねします。次の項目について、1 楽しみから4 楽しみではなりのなか
らもっとも近いものに○をつけてください。(A～Gのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	楽しみ	あまり楽しみ ではない	やや楽しみ	楽しみ	あまり楽しみ ではない
A 毎日学校に通うこと	→ 1	2	3	4	
B 学校の授業	→ 1	2	3	4	
C 先生に会うこと	→ 1	2	3	4	
D 学校の友だちに会うこと	→ 1	2	3	4	
E 学校のクラブ活動	→ 1	2	3	4	
F 学校の休み時間	→ 1	2	3	4	
G 学校の給食(お弁当など)	→ 1	2	3	4	

問28 あなたは、学校の授業がわかりますか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 いつもわかる
- 2 だいたいわかる
- 3 どちらともいえない
- 4 あまりわからない
- 5 ほとんどわからない

問29-1 学校の授業が「4 あまりわからない」または「5 ほとんどわからない」と答えた人におたずねします。
いつごろから、授業がわからなくなりましたか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 小学1・2年生のころ
- 2 小学3・4年生のころ
- 3 小学5・6年生のころ
- 4 中学生になってから
- 5 わからない

問29 勉強がわからなときは、誰に教えてもらいますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 親(お母さん・お父さん)
- 2 親以外の家族(おじいちゃん、おばあちゃんなど)
- 3 学校の先生
- 4 子ども会、その他施設の先生
- 5 塾や習いごとの先生
- 6 その他の大人
- 7 友だち
- 8 教えてくれる人がいない

問30 あなたはふだん(月曜日から金曜日)、学校の授業以外にどれくらいの時間、勉強をしますか。1日あたりの勉強
時間を教えてください。
※学習塾などで勉強する時間もふくみます。(あてはまる番号1つに○)

- 1 まったくしない
- 2 30分より少ない
- 3 30分以上、1時間より少ない
- 4 1時間以上、2時間より少ない
- 5 2時間以上、3時間より少ない
- 6 3時間以上

問31 あなたは、学習塾に通ったり、家庭教師に来てもらったりしていませんか。通っている(来てもらっている)場合、1週間に
何日通って(来てもらって)いますか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 通って(来てもらって)いない
- 2 週に1日
- 3 週に2日
- 4 週に3日
- 5 週に4日
- 6 週に5日
- 7 週に6日
- 8 毎日

問32 あなたは、自宅で次の教材を使っていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 辞書で配られるドリルなど
- 2 米倉で売っているドリルや参考書
- 3 塾の教材
- 4 通信教育の教材
- 5 1～4以外の教材
- 6 使っていない

問33 あなたは、学校の宿題をしていますか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 している
- 2 だいたいしている
- 3 あまりしていない
- 4 まったくしていない

問34 あなたはふだん、学校のきまりを守っていますか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 守っている
- 2 だいたい守っている
- 3 あまり守っていない
- 4 まったく守っていない

あなたがだんが考えていることについておたずねします

問35 あなたの思いや気持ちについて、もっとも近いものに○をつけてください。(A～Gのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
A 自分には、良いところがある	→ 1	2	3	4
B 将来の夢や目標をもっている	→ 1	2	3	4
C がんばれば、いいことがある	→ 1	2	3	4
D 自分は家族に大事にされている	→ 1	2	3	4
E 自分は友だちに好かれている	→ 1	2	3	4
F 自分の将来が楽しみだ	→ 1	2	3	4
G 自分のことが好きだ	→ 1	2	3	4

問36 あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。あなたの考えにもっとも近いものに○をつけてください。

		(あてはまる番号1つに○)	
1	中学(中学部)まで	4	短期大学・高等専門学校(高等)
2	高校(高等部)まで	5	大学またはそれ以上
3	専門学校(高校卒業後に進学するもの)	6	まだわからない

問37 わたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちよつとさみしい日も、楽しくない日もあります。この1週間ほんたんに1週間だったか、あてはまるところに○をつけてください。良い落え、悪い落えはありますか。思ったとおりに落えてください。

(A~Qのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	いつもそうだ	時々そうだ	そんなことはない	
A	楽しみにしていることがたくさんあった	1	2	3
B	とても良く眠れた	1	2	3
C	泣きたいような気がした	1	2	3
D	道びに出かけた	1	2	3
E	逃げ出したような気がした	1	2	3
F	おなかが痛くなることがあった	1	2	3
G	がんばらないうような気持ちになった	1	2	3
H	楽しく仕事をされた	1	2	3
I	自分の気持ちを他の人に伝えられた	1	2	3
J	生きていても仕方がないと思った	1	2	3
K	やろうと思ったことがうまくできた	1	2	3
L	楽しく家族と話をした	1	2	3
M	こわい夢を見た	1	2	3
N	独りぼっちの気がした	1	2	3
O	落ち込んでいてもすぐに元気になることができた	1	2	3
P	とてもつらい気がした	1	2	3
Q	とても運動が楽しかった	1	2	3



問38 あなたには、いま悩んでいることや心配なこと、困っていること、誰かに相談したいと思っていることがありませんか。下の中からあてはまるものがあればすべてに○をしてください。特になければ10枠にないに○をしてください。

		(あてはまる番号すべてに○)	
1	学校での生活のこと	6	話活動のこと
2	友だちのこと	7	家での生活のこと
3	家族のこと	8	進学のこと
4	勉強のこと	9	その他()
5	習いごとのこと	10	枠にない

問39 あなたは、次のような場所があれば使ってみたいと思いませんか。(A~Fのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

		使ってみたい	使いたくない	わからない	
A	(家以外で)平日の放課後に使われていることができる場所	→	1	2	3
B	(家以外で)休日(日)に利用できる場所	→	1	2	3
C	家の人がいなくても、夕ごはんをみんなで作ることができる場所	→	1	2	3
D	家で勉強できないとき、勉強ができる場所	→	1	2	3
E	大学生のお兄さんやお姉さん、地域の人が、勉強を無料で教えてくれる場所	→	1	2	3
F	(学校以外で)なんでも相談できる場所	→	1	2	3

問40 このアンケートの感想や友人の人に言いたいことなどがあれば、下のらんに書いてください。

.....

.....

.....

.....

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

保護者調査票 (小学5年生・中学2年生共通)

届出統計調査
総務大臣届出済



和歌山県子供の生活実態調査 (保護者票)

調査の目的・概要など

調査の目的・概要

■ この調査は、小学校(小学部) 5年生・中学校(中学部) 2年生の児童生徒の保護者の方に、自頃のお子さんとのかわわりや保護者ご自身のことなど家庭の状況をお聞きし、和歌山県の子供たちの支障に役立てるために実施するものです。皆様からのご回答を今後の支援策の策定や改善につなげていきたいと考えておりますので、ご協力をお願いします。

データの取扱い

- このアンケートは、無記名で実施します。
- 結果の集計は統計的に処理しますので、個人や家庭が特定されることはありません。
- アンケートの回答内容や調査に協力していただいたかどうかを学校が知ることはありません。
- また、回答の内容について、和歌山県や委託業者などから問い合わせることは一切ありません。

ご記入・ご提出にあたってのご注意

- このアンケートは、調査票を持ち帰ったお子さんの保護者の方にお返しくください。
- 調査票を持ち帰ったお子さんは、それぞれ小学生・中学生・中学生を前向きとして自分で記入しますが、お子さんが自筆できない場合等、必要に応じて保護者の方のサポートをお願いします。
- 設問の中で「お子さん」とは、調査票を持ち帰ったお子さんを指します。
- お子さんがごきょうだいで小学5年生と中学2年生両方にいる場合も、お手数ですがそれぞれのお子さんについて回答してください。

お問い合わせについて

この調査は、和歌山県が実施しています。
調査に関するお問い合わせは、学校ではなく、下記担当までお願いします。

お問い合わせ先

電話番号: 075-316-3508 (9:00~21:00 土日・祝日をふくむ)
和歌山県総合研究所 和歌山県子供の生活実態調査担当
(株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所)

※和歌山県より本調査の集計・分析を委託された会社です

※このアンケートの平の「お子さん」とは、調査票を持ち帰ったお子さんを指します。

あなたのこと、あなたの世帯のことについておうかがいします

問1 お住まいの市町村はどこになりましたか。お答えください。(あてはまる番号1つに○)

1 和歌山市	8 紀の川市	15 広川町	22 日高川町	29 北山村
2 海南市	9 岩出市	16 有田川町	23 白浜町	30 串本町
3 橋本町	10 紀美野町	17 美原町	24 上富田町	31 和歌山県外
4 有田市	11 かつらぎ町	18 日高町	25 すさみ町	
5 御坊市	12 九度山町	19 由良町	26 船着橋浦町	
6 田辺市	13 高野町	20 日南町	27 太地町	
7 新宮市	14 湯浅町	21 みなべ町	28 吉座川町	

問2 この調査票を持ち帰ったお子さんとあなた(回答者)との関係は、次のどれになりましたか。お答えください。(あてはまる番号1つに○)

1 父親	4 祖母	7 祖叔
2 母親	5 叔父(伯父)	8 施設職員
3 祖父	6 叔母(伯母)	9 その他(具体的に)

※祖叔や施設職員の方は以後の設問に対して、回答できる範囲で回答してください。

問3 あなたが年齢を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1 20歳以下	2 30歳代	3 40歳代	4 50歳代	5 60歳代	6 70歳代以上
---------	--------	--------	--------	--------	----------

問4 お子さんの、現在のご両親の関係を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1 結婚している(単身赴任などで別居している場合や事実婚を含む)
2 結婚していない(離婚した、離婚に等しい状況で別居している)
3 結婚していない(死別した)
4 結婚していない(結婚したことがない)
5 その他(具体的に)

問5 あなたの家族は何人家族ですか。単身赴任や入院・入所の方、実等で下宿して住み替えている子供など家族を一緒にしている又はすべて含めて教えてください(離婚・結婚などで家を出て独立している子供(家計を一緒にしていない子供)は含めません)。(カッコの中に数字で回答してください)

() 人

問6 お子さんは何人きょうだいですか。調査票を持ち帰ったお子さんも含めた人数をお答えください。(カッコの中に数字で回答してください)

() 人

問7 あなたの家族に含まれるかた室員について、このアンケートを打ち帰ったお子さんからみた設備を答えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|------|--------|---------------|
| 1 祖親 | 3 きよごだ | 5 おじ、おばなどの親せき |
| 2 父親 | 4 祖父母 | 6 その他() |

問8 あなたには、未だに困ったときや悩みがあるとき、相談できる人がいますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|------|-------|
| 1 いる | 2 いない |
|------|-------|

問9 問8で「1 いる」を選んだ方におうかがいします。相談できる相手はどんな人ですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|---------------|-----------------|-------------------|
| 1 配偶者・パートナー | 6 友人・知人 | 11 民間のカウンセラー・電話相談 |
| 2 自分の親 | 7 職場の人 | 12 良生委員・児童委員 |
| 3 配偶者・パートナーの親 | 8 学校等の先生やカウンセラー | 13 インターネットのサイト |
| 4 きよごだ、親せき | 9 公的機関の相談員 | 14 その他() |
| 5 自分の子供 | 10 医療機関の医師や看護師 | |

問10 あなたには、緊急時に子供を預けたり、助けてくれたりする人がいますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|------|-------|
| 1 いる | 2 いない |
|------|-------|

お子さんのことについておうかがいします

問11 お子さんが就学前に通ったことのある保育施設・教育機関をすべてお答えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|------------|-------------|-----------------|
| 1 認可保育所 | 4 幼稚園 | 7 就学前に保育施設・教育機関 |
| 2 無認可の保育施設 | 5 療着機関 | に通っていない |
| 3 認定こども園 | 6 その他(具体的に) | |

問12 お子さんは、1か月以上学校を休んだことがありますか(病気やけがのときを除きます)。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1 そのような経験はない | 3 現在1か月以上学校を休んでいる |
| 2 過去にそのような経験がある | 4 わからない |

問13 お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと答えていますか。あなたのお考えに最も近いもの(○をのけてください)。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|----------------------|--------------------|---------|
| 1 中学(中学部)まで | 4 短大・大学・高等専門学校(高専) | 一問12-1へ |
| 2 高校(高等部)まで | 5 大学またはそれ以上 | |
| 3 専門学校(高校卒業後に進学するもの) | 6 まだわからない | 一問13へ |

問12-1 問12で「1」～「5」を選んだ方におうかがいします。その理由は、何ですか。理由として最も大きいものに○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 お子さんがそう希望しているから | 5 家庭の経済的な状況から考えて |
| 2 一般的な進路だとと思うから | 6 その他(具体的に) |
| 3 お子さんの学力から考えて | 7 特に理由はない |
| 4 保護者としての希望 | |

あなたとお子さんの健康状態についておうかがいします

問13 あなたとお子さんの健康状態についておうかがいします。それぞれ、最も近いものに○をつけてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | |
|----------------|-------|-----------|--------|
| 問13-1 あなた(回答者) | 3 ふつう | 4 あまりよくない | 5 よくない |
| 1 よい | | | |
| 2 まあよい | | | |

- | | | | |
|------------|-------|-----------|--------|
| 問13-2 お子さん | 3 ふつう | 4 あまりよくない | 5 よくない |
| 1 よい | | | |
| 2 まあよい | | | |

問14 お子さんには虫歯がありますか。(あてはまる番号1つに○)

1 ある(治療していない)	3 あった(治療済み)
2 ある(治療中)	4 ない

問15 過去1年前に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 あった 一問15-1へ | 2 なかった 一問16へ |
|---------------|--------------|

問15-1 問15で「1」を選んだ方におうかがいします。その理由は、何ですか。次の中から、あてはまるものすべてに○をつけてください。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1 医療費の支払いが不安だったから | 5 自分の健康状態が悪かったから |
| 2 受診する時間になかったから | 6 その他(具体的に) |
| 3 お子さん本人が受診したからなかったから | |
| 4 距離が悪く、連れて行けなかったから | |

問16 お子さんの予防接種の受診状況について、最も近いものに○をつけてください。
 ※定期予防接種(経皮BCG) 麻しん、風しん、ポリオ等は、無料です。任意接種(インフルエンザ、おたふくかぜ等)は自己負担がかかります。
 (A～Dのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	受けた	受けなかった	わからない
A 定期予防接種	→ 1	2	3
B 任意接種(インフルエンザ)※過去1年間	→ 1	2	3
C 任意接種(おたふくかぜ)	→ 1	2	3
D 任意接種(水ぼうそう) ※平成26年10月からは定期予防接種となっています。	→ 1	2	3

問16-1 問16A、定期予防接種について2、受けなかったと回答した方におかがいします。
 定期予防接種を受けなかったのはなぜですか。(あてはまる番号すべてに○)

- 費用がかかると思ったため
- お子さん本人が受けなかったため
- 医療機関等までの距離が遠く、行くことが困難であったため
- 多忙で、医療機関等に通って行く時間がなかったため
- お子さんの様子を見て、受けさせなくてもよいと判断したため
- いつどこで受けさせればよいかわからなかったため
- 受ける時期に、お子さんが発熱などで受けさせることができなかったため
- 自分の健康状態が悪かったため
- 予防接種に不安や疑問があったため
- その他(具体的に)

あなたの最近の気持ちについておかがいします

問17 あなたは過去1か月の間に、次のようなことがどれくらいありましたか。

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	全くない
A ささいなことでも気になった	→ 1	2	3	4	5
B 絶望的だと感じた	→ 1	2	3	4	5
C そわそわ、落ち痛かなく感じた	→ 1	2	3	4	5
D 気分がむしゃらんで、荷が重くても 気が晴れないように感じた	→ 1	2	3	4	5
E 荷をすけるのも面倒だと感じた	→ 1	2	3	4	5
F 自分は血の循環のない人間だと感じた	→ 1	2	3	4	5

お子さんとのかかわりについておかがいします

問18 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。
 (A～Jのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)

	週に5回以上	週に3回以上	週に1回以上	月に1回以上	ほとんどない
A お子さんの動画を見る	→ 1	2	3	4	5
B お子さんとかからたを動かして遊ぶ(キヤッチボールなど)	→ 1	2	3	4	5
C お子さんとコンピュータゲームで遊ぶ (テレビゲーム、パソコンゲーム、携帯ゲームなど)	→ 1	2	3	4	5
D お子さんとかからたボードゲームなどで遊ぶ (トランプ、ボードゲーム、将棋など)	→ 1	2	3	4	5
E お子さんとかからた学校生活の話を聞く	→ 1	2	3	4	5
F お子さんとかからた勉強や成績の話を聞く	→ 1	2	3	4	5
G お子さんとかからた政治経済・社会問題などのニュースの話を聞く	→ 1	2	3	4	5
H お子さんとかからたテレビ番組(ニュースを除く)の話を聞く	→ 1	2	3	4	5
I お子さんとかからた料理の話を聞く	→ 1	2	3	4	5
J お子さんとかからた一緒に外出をする	→ 1	2	3	4	5

問19 あなたは、お子さんの将来(夢・進路・職業等)について、お子さんと一緒に考えたり、話したりすることがありますか。
 (あてはまる番号1つに○)

- よくする
- ときどきする
- たまにする
- ほとんどしない

問20 あなたは、お子さんが就職や結婚をした時に、今の住まいの近くで暮らしてほしいと思いますか。
 (あてはまる番号1つに○)

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

問21 あなたは、これから今の住まい(またはその近く)で暮らし続けたいと思いますか。
 (あてはまる番号1つに○)

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

問22 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。どれもありはまはらない場合は、**あてはまる番号すべてに○**。
 [13 あてはまるものはないに○をつけてください。]

1 定期的に決まった額のお小遣いを渡す	8 博物館・科学館・美術館などに行く
2 お誕生日のお祝いをする	9 遊園地やテーマパークに行く
3 1年に1回くらい家族旅行に行く	10 スポーツ観戦に行く
4 クリスマスのプレゼントやお正月のお年玉をあげる	11 劇場やコンサートに行く
5 お子さんの学校行事などへ保護者が参加する	12 海外旅行に行く
6 海水浴やキャンプに行く	13 あてはまるものはない
7 アウトドアスポーツ(登山・スキー等)をしに行く	

問23 あなたのご家庭では、お子さんに対して、次のことをしていますか。

		(A~Kのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)			
	あてはまる	あてはまる	あてはまる	あてはまる	あてはまる
A テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯型のゲームを含む)で遊ぶ時間を限定している	→ 1	2	3	4	5 テレビゲームを持たせていない
B 携帯電話やスマートフォンを使い方についてルールや約束をつくっている	→ 1	2	3	4	5 携帯電話などを持たせていない
C お子さんの長いところをほめるなどして自信を持たせるようにしている	→ 1	2	3	4	
D お子さんが悪いことをしたらきちんとしからせている	→ 1	2	3	4	
E お子さんに茶や清酒を飲ませようとしている	→ 1	2	3	4	
F お子さんと読んだ本の感想を話し合ったりしている	→ 1	2	3	4	
G お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをした	→ 1	2	3	4	
H お子さんに「勉強しなさい」とよく言っている	→ 1	2	3	4	
I やるべき事ができるまで何度も細かい指示をする	→ 1	2	3	4	
J お子さんが英語や外国の文化に触れるよう意識している	→ 1	2	3	4	
K お子さんの読書や遊びなどの相談によく乗っている	→ 1	2	3	4	

問24 お子さんは現在、習いごとをしていますか。(費用のかからないサークル活動などは除きます)。何もしない場合は、[8 習いごとはしていないに○をつけてください。]

1 学習塾	5 絵画、音楽、ダンス、書道などの芸術
2 家庭教師	6 水泳、剣道、サッカーなどのスポーツ
3 通信教育	7 その他()
4 英会話、そろばんなどの勉強	8 習いごとはしていない

問25 あなたのご家庭では、子供に塾や習いごとをさせたかかったけれど、通える範囲になくて、できなかったことや、通える範囲にあっても、経済的理由で、できなかったことがありますか。

		(A・Bのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)	
	あった	なかった	
A 通える範囲になくて、子供の塾や習いごとができなかったこと	→ 1	2	
B 経済的な理由で、子供の塾や習いごとができなかったこと	→ 1	2	

あなたのご家庭での生活についてお聞きします

問26 現在の暮らしの状態をどのように感じていますか。

1 大変ゆとりがある	3 ふつう	4 やや苦しい
2 ややゆとりがある		5 大変苦しい

問27 ご家庭の家事について、最も忙しいものをお答えください。

1 赤字であり、借金をして生活している	4 赤字であり、毎月貯蓄をしている
2 赤字であり、貯蓄を崩している	5 その他(具体的に)
3 赤字でも赤字でもない	

問28 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お盆が足りなくて、家族が必要とする食糧を揃えないことがありましたか。

1 よくあった	2 とまどきあった	3 まれにあった	4 まったくなかった
---------	-----------	----------	------------

問29 あなたのご家庭では、過去1年の間に、お盆が足りなくて、家族が必要とする食糧が揃えないことがありましたか。

1 よくあった	2 とまどきあった	3 まれにあった	4 まったくなかった
---------	-----------	----------	------------

問30 過去1年の間に、経済的な理由で、以下の料金について、支払えないことがありましたか。どれもあてはまらない場合は、19 あてはまるものはないに○をつけてください。（あてはまる番号すべてに○）

1 電気料金	4 電話料金	7 公的料金（健康保険料）
2 ガス料金	5 家賃	8 子供の学校で必要なお金
3 水道料金	6 税金	9 あてはまるものはない

問31 沢のものうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。どれもあてはまらない場合は、116 あてはまるものはないに○をつけてください。（あてはまる番号すべてに○）

1 子供の年齢に合った本	9 電子レンジ
2 子供の用のスポーツ用品・おもちゃ	10 電話（固定電話・携帯電話のどちらか）
3 子供が自分で宿題をすることができる場所	11 世帯専用のおふろ
4 洗濯機	12 世帯人数分のベッドまたは布団
5 炊飯器	13 急な出費のための貯金（5万円以上）
6 掃除機	14 パソコン（タブレット含む）
7 視覚機器（エアコンを含む）	15 新聞の定期購読（インターネット含む）
8 音声機器（エアコンを含む）	16 あてはまるものはない

問32 前年（2017年）のあなたの世帯の家族全員の収入の合計額（いわゆる手取り収入）は、およそいくらでしたか。

※収入は、税金や社会保険料を払ったあとの額でお答えください。働いて得た給料だけでなく、株式配当や副収入を含めて合計してください。

※また、公的な援助・手当や養育費・仕送りを含んだ額でお答えください。

		（あてはまる番号1つに○）	
1 50万円未満	10 450～500万円未満	19 900～950万円未満	
2 50～100万円未満	11 500～550万円未満	20 950～1,000万円未満	
3 100～150万円未満	12 550～600万円未満	21 1,000～1,100万円未満	
4 150～200万円未満	13 600～650万円未満	22 1,100～1,200万円未満	
5 200～250万円未満	14 650～700万円未満	23 1,200～1,300万円未満	
6 250～300万円未満	15 700～750万円未満	24 1,300～1,400万円未満	
7 300～350万円未満	16 750～800万円未満	25 1,400～1,500万円未満	
8 350～400万円未満	17 800～850万円未満	26 1,500万円以上	
9 400～450万円未満	18 850～900万円未満		

問33 あなたの世帯では、以下の手当や補助金を受けていますか。（A～Eのそれぞれ、あてはまる番号1つに○）

	現在受けている	受けたことがある	受けたことはない
A 児童扶養手当 ※18歳未満の子供を養育するひとり親家庭等に支給される手当。すべての子育て世帯が対象の「児童手当」とは異なります。	1	2	3
B 障害や難病の手当	1	2	3
C 年金（遺族年金、老齢年金など）	1	2	3
D 生活保護	1	2	3
E 就学援助 ※高等学校や専門学校などの費用の一部を補助する制度	1	2	3

あなた自身のことについてお答えください

※里親や施設職員の方はお父さんのお母さん、お父さんについて、回答できる範囲で回答してください。

問34 あなたは、次のような経験をしたことありますか。どれもあてはまらない場合は、「14 いずれも経験したことがない」に○をつけてください。（あてはまる番号すべてに○）

1 子供のころ、社会福祉施設（施設）に入所し、里親に預けられる、などを受けたことがある
2 成人する前に同級生が離婚した
3 成人する前に父親または母親と死別した
4 成人する前の生活は経済的に困っていた
5 家庭の経済的な理由で、進学をあきらめたり、退学した
6 親の介護が負担となっている（なっていた）
7 あなたの親との関係で思い悩んだことがある
8 親と疎遠になっている
9 (元)配偶者またはパートナーから暴力をふるわれたことがある
10 お子さんに体調を悪くさせたことがある
11 出産や育児でうつ病(状態)になったり、育児ができなくなってしまった時期がある
12 お子さんとの関係で思い悩んだことがある
13 自殺を考えたことがある
14 いずれも経験したことがない
15 わからない

問35 あなたの親は子供のころのあなたのあなたに好まれているように感じていますか。
最も近いと思うものに○をつけてください。

	(A～Eのそれぞれ、あてはまる番号1つに○)				
	とても その通り	その通り	まあその 通り	その 通りではない	わからない
A 一緒に楽しい時間を過ごしてくれた	→ 1	2	3	4	5
B 自分が喜ぶことをしてくれた	→ 1	2	3	4	5
C 悪いことをするとしかられた	→ 1	2	3	4	5
D やらなければいけないことを何度も言われた	→ 1	2	3	4	5
E 不安や自立を、ぶつけられた	→ 1	2	3	4	5

お子さんのお母さんとお父さんについてお答えください

※重親や施設職員の方は、お子さんのお母さん、お父さんについて回答できる範囲で回答してください。

問36 お子さんのお母さんのお仕事は、次のどれに最も近いですか。(あてはまる番号1つに○)

1 会社や団体の役員	5 ハート・フルタイム、日雇い・非常勤職員	9 専業主婦
2 民間企業や団体の正社員	6 自営業(家族従業員を含む)	10 学生
3 公務員の正職員	7 自営業	11 無職
4 契約社員・派遣社員・嘱託社員	8 その他の働き方をしている	12 わからない
		13 お父さんがわからない

→ 問37へ

問36-1 問36で「1」～「8」を選んだ方にお答えください。
お子さんのお母さんは、1週間前(平均)に平均何時間、お仕事をされていますか。
(枠内に数字で回答してください)
※複数のお仕事に従事している場合は合計してください。

週に平均 時間程度

問36-2 問36で「1」～「8」を選んだ方にお答えください。
お母さんは、残業を含めて、平日の日中(8時～20時)以外の勤務がありますか。(あてはまる番号1つに○)

1 早朝(5時～8時)	4 土曜出勤	7 平日の日中以外の勤務はない
2 夜勤(20時～22時)	5 日曜・祝日出勤	
3 深夜勤務(22時～5時)	6 その他(具体的に)	

問37 お子さんのお父さんの現在のお仕事は、次のどれに最も近いですか。(あてはまる番号1つに○)

1 会社や団体の役員	5 ハート・フルタイム、日雇い・非常勤職員	9 専業主婦
2 民間企業や団体の正社員	6 自営業(家族従業員を含む)	10 学生
3 公務員の正職員	7 自営業	11 無職
4 契約社員・派遣社員・嘱託社員	8 その他の働き方をしている	12 わからない
		13 お父さんがわからない

→ 問38へ

問37-1 問37で「1」～「8」を選んだ方にお答えください。
お子さんのお父さんは、1週間前(平均)に平均何時間、お仕事をされていますか。
(枠内に数字で回答してください)
※複数のお仕事に従事している場合は合計してください。

週に平均 時間程度

問37-2 問37で「1」～「8」を選んだ方にお答えください。
お父さんは、残業を含めて、平日の日中(8時～20時)以外の勤務がありますか。(あてはまる番号1つに○)

1 早朝(5時～8時)	4 土曜出勤	7 平日の日中以外の勤務はない
2 夜勤(20時～22時)	5 日曜・祝日出勤	
3 深夜勤務(22時～5時)	6 その他(具体的に)	

問38 お子さんのお母さんが、最後に通われた学校は次のどれに最も近いですか。(あてはまる番号1つに○)

1 中学校(中学部)	5 高等学校(定時制または通信制)	9 大学院
2 高等学校(全日制)(高等部)	6 専門学校(中学校卒業後に進むもの)	10 その他(具体的に)
3 高等学校(定時制または通信制)	7 専門学校(中学校卒業後に進む5年間の学校、高専)	11 わからない
4 専門学校(中学校卒業後に進むもの)	8 短冊大学	
5 高等学校(中学校卒業後に進む5年間の学校、高専)	9 大学院	
6 短冊大学	10 その他(具体的に)	
7 専門学校(高校卒業後に進む1～4年間程度の専門学校(専攻科を含む))	11 わからない	

→ 問38-1へ

問38-1 問38で「1」～「10」を選んだ方にお答えください。
お子さんのお母さんは、問38で選んだ学校を卒業されましたか。(あてはまる番号1つに○)

1 卒業した	2 中途退学した	3 その他(具体的に)
--------	----------	-------------

和歌山県子供の生活実態調査（支援者票）

ご記入にあたって

- 部署・機関を代表しての身替ではなく、支援者個人としての経験やご意見を率直にご回答ください。
- 「その他」に○印をつけられた場合には、() 内に具体的な内容をご記入ください。
- ご記入は、黒や青のボールペンまたは鉛筆で、はっきりとわかりやすくお願いします。
- 回答は無記名でお願いします。いただいた回答は統計的に処理され、回答者個人が特定されることはありません。
- ご記入後は返信用封筒に入れ、**8月3日（金）**までにポストに投函してください。

お問い合わせについて

この調査は、和歌山県が実施しています。
調査に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

お問い合わせ先

電話番号：075-316-3508（9:00～21:00 土日・祝日を含む）
（株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所*和歌山県子供の生活実態調査担当）

※和歌山県より本調査の集計・分析を委託された会社です

あなたのことについてお尋ねします

問1 あなたはおいくつですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 20歳代以下 2 30歳代 3 40歳代 4 50歳代 5 60歳代 6 70歳代以上

問2 どの市町村で働いておられますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

なお、市町村が複数にまたがる場合は、最も長い時間働いているもの1つだけ○をつけてください。

- | | | | | |
|--------|----------|---------|----------|--------|
| 1 和歌山市 | 8 紀の川市 | 15 広川町 | 22 日高川町 | 29 北山村 |
| 2 海南市 | 9 岩出市 | 16 有田川町 | 23 白浜町 | 30 串本町 |
| 3 橋本市 | 10 紀美野町 | 17 美浜町 | 24 上富田町 | |
| 4 有田市 | 11 かつらぎ町 | 18 日高町 | 25 すさみ町 | |
| 5 御坊市 | 12 九度山町 | 19 由良町 | 26 那智勝浦町 | |
| 6 田辺市 | 13 高野町 | 20 印南町 | 27 大地町 | |
| 7 新宮市 | 14 湯浅町 | 21 みなべ町 | 28 古座川町 | |

支援機関調査票

問3 働いておられる機関はどれですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。
なお、複数ある場合は、主なもの1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|---------------|------------------|------------------|
| 1 保育所 | 8 市町村 ひとり親家庭担当課 | 15 振興局 生活保護担当課 |
| 2 認定こども園 | 9 市町村 保育担当課 | 16 振興局 ひとり親家庭担当課 |
| 3 幼稚園 | 10 児童館・隣保館 | 17 児童相談所 |
| 4 小学校 | 11 子育て世代包括支援センター | 18 児童福祉施設 |
| 5 中学校 | 12 放課後児童クラブ | 19 子供関連NPO法人 |
| 6 市町村 母子保健担当課 | 13 社会福祉協議会 | 20 その他 |
| 7 市町村 生活保護担当課 | 14 主任児童委員 | () |

問4 どのような立場でお仕事をなさっていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

なお、複数ある場合は、主なもの1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|--------------|-------------|-----------------------|
| 1 行政職員 | 8 教諭 | 15 精神保健福祉士 |
| 2 保健師 | 9 養護教員 | 16 スクールソーシャルワーカー(SSW) |
| 3 家庭児童相談員 | 10 施設長(所属長) | 17 スクールカウンセラー(SC) |
| 4 母子・父子自立支援員 | 11 指導員 | 18 その他 |
| 5 児童福祉司 | 12 NPOスタッフ | () |
| 6 臨床心理士 | 13 社協スタッフ | |
| 7 保育士 | 14 社会福祉士 | |

問5 今の職場で満何年働いておられますか。(1年未満の場合は「0年」とご記入ください。

また、SSW やSC の方は、現在、受け持っている学校のうち最も長い期間をご記入ください。)

年

問6 現在従事している業務と同じような業務(前の職場での経験も含めて)を満何年行っていますか。

(1年未満の場合は「0年」とご記入ください。)

年

「子供の貧困」に陥る、あなた自身のご経験についてうかがいます

問7 どのような状況にある子供を「貧困状況にある」と考えますか、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|----|---------------------------------|
| 1 | 子供のいる世帯(以下、「世帯」という)が生活保護を受給している |
| 2 | 世帯が児童扶養手当(ひとり親家庭)に対する手当を受給している |
| 3 | 世帯が就学奨励券(子供の学用品費等に対する援助)を受給している |
| 4 | 子供が食事を十分にとれていない |
| 5 | 子供の教育に十分にお金がかけていない |
| 6 | 子供が身体の成長や季節に応じた服装をしていない |
| 7 | 子供が医家にかかるのを控えている |
| 8 | 子供の住環境が劣悪である |
| 9 | その他(あれば具体的に: |
| 10 | わからない |

問8 これまでの経験から、貧困状況にある子供は、どのような状況にあるかと思えますか、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|----|-------------------|
| 1 | 両親が不仲である |
| 2 | ひとり親家庭である |
| 3 | 家庭が地域から孤立している |
| 4 | 親から必要以上に干渉されている |
| 5 | 親から過度の期待をかけられている |
| 6 | 親から放任(ネグレクト)されている |
| 7 | 親から身体的虐待を受けている |
| 8 | 親から心理的虐待を受けている |
| 9 | 親から性的虐待を受けている |
| 10 | 親が家庭を顧みていない |
| 11 | 引越しや転校が多い |
| 12 | 学校の授業が理解できていない |
| 13 | 学校や職場に友人がいらない |
| 14 | 学校や職場でいじめを受けている |
| 15 | 不登校を経験している |
| 16 | 学校を中退している |
| 17 | 進学を断念している |
| 18 | 就職後1年以内に離職している |
| 19 | 自傷行為をしている |
| 20 | DVを含む家庭内暴力がある |
| 21 | 非行や非行につながる問題行動がある |
| 22 | その他(具体的に: |
| 23 | わからない |

問9 これまでのご経験から見、貧困状況にある子供はどのような項目において欠如が見られるかと思えますか、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|----|-------------------|
| 1 | 読み書き・計算などの基礎的な学力 |
| 2 | こころの状態の安定性・心身の健康 |
| 3 | 健全な生活習慣・食習慣 |
| 4 | コミュニケーション能力 |
| 5 | 他者への共感力や協働性 |
| 6 | 他者への信頼感 |
| 7 | 自己表現力 |
| 8 | 自己肯定感・自尊心 |
| 9 | 周囲からの評価への適切な反応 |
| 10 | 認知(もの)の見方・考え方・価値観 |
| 11 | 生活自立能力 |
| 12 | 意欲・チャレンジ精神 |
| 13 | 忍耐力 |
| 14 | その他(具体的に: |
| 15 | わからない |
| 16 | 特に欠如は見られない |

問10 あなたは背景に貧困が伴うと考えられる子供や保護者に対し、これまでどのような支援を行った経験がありますか。行ったことがある場合は、その支援には効果があったと考えますか。A～Uのいずれについて、あてはまる番号すべてに○をつけてください。その他、取り組んだ支援がある場合は、V～Xの括弧内に支援内容を記載し、あてはまる番号1つに○をしてください。

	支援の経験なし	支援の経験あり				
		効果があつた	ある程度効果があつた	あまり効果があつた	効果がわかない	
A 居場所づくり(遊び・読書等の場)	1	2	3	4	5	6
B 食事の提供	1	2	3	4	5	6
C 学習の支援	1	2	3	4	5	6
D 進路相談	1	2	3	4	5	6
E 就職支援	1	2	3	4	5	6
F 家庭生活の支援・指導	1	2	3	4	5	6
G 話し相手になる	1	2	3	4	5	6
H 支援制度・情報の提供	1	2	3	4	5	6
I 就労支援	1	2	3	4	5	6
J 生活相談	1	2	3	4	5	6
K 教育・子育て相談	1	2	3	4	5	6
L 支援制度・情報の提供	1	2	3	4	5	6
M 申請手続き等の支援	1	2	3	4	5	6
N 家事・子育ての支援	1	2	3	4	5	6
O 家計の管理の支援	1	2	3	4	5	6
P 話し相手になる	1	2	3	4	5	6
Q 家庭訪問	1	2	3	4	5	6
R 見守り、地域連携	1	2	3	4	5	6
S 関係機関との情報共有	1	2	3	4	5	6
T 子供の保護	1	2	3	4	5	6
U 家族の人間関係の支援	1	2	3	4	5	6
V その他1()		2	3	4	5	6
W その他2()		2	3	4	5	6
X その他3()		2	3	4	5	6

問11 貧困状況にある家庭への支援への支援にあたって、どのような点が困難だと感じていますか。
 弊に困難を感じる番号3つに、○をつけてください。

- | | | | |
|---|------------------------|----|-------------------|
| 1 | 保護者との信頼関係づくり | 9 | 支援を受けることに対する周囲の理解 |
| 2 | 子供との信頼関係づくり | 10 | 支援を行うための人・時間の不足 |
| 3 | 支援に用いることができる制度(資源)の少なさ | 11 | 支援を行うための予算の不足 |
| 4 | 支援者間での連携 | 12 | 組織的に取り組むための体制づくり |
| 5 | 支援を行うための自分の知識・技術の乏しさ | 13 | 本当に必要な子供に支援を届けること |
| 6 | 支援機関や支援制度に関する情報の少なさ | 14 | その他(具体的に:) |
| 7 | 支援すべき子供や家庭の把握 | 15 | 他にない |
| 8 | 支援を受けることへの保護者の同意・積極性 | | |

問12 (自分が所属する機関で実際に取り組まれている支援いかにかわからず)一般的に、貧困状況に置かれた子供や親に対し、どのような支援がもつと必要だと思いますか。
 弊に必要なと思う番号3つに、○をつけてください。

- | | |
|----|-------------------------------|
| 1 | 経済的支援 |
| 2 | 相談担当者の質的向上 |
| 3 | 相談担当者の増員 |
| 4 | 総合相談窓口の設定 |
| 5 | 訪問による早期発見や生活支援 |
| 6 | 保育サービス提供(病児保育、送迎支援等を含む) |
| 7 | 子供の居場所(遊び・読書等の場)の提供 |
| 8 | 学校での専門家(SSW等)による支援 |
| 9 | 子供への学校以外での学習機会の提供 |
| 10 | 子供への文化的活動(自然体験学習、スポーツ等)の機会の提供 |
| 11 | 子供への食事の提供 |
| 12 | 親への就労の支援 |
| 13 | 親への医療機関受診勧奨 |
| 14 | 子供の進学・就労の支援 |
| 15 | その他(あれば具体的に:) |
| 16 | わからない |

問13 あなたは、次のうちどのような場所があれば、子供の貧困対策にとって有効だと思いますか。A～Fのそれぞれ、
 あてはまる番号1つに○をつけてください。

	有効だと思 う	ある程度 有効だと思 う	あまり 有効では ないと思 う	有効では ないと思 う	わから ない
A 子供が(家以外で)平日の放課後に夜までい ることができる場所をつくる	1	2	3	4	5
B 子供が(家以外で)休日にいることができる場 所をつくる	1	2	3	4	5
C 子供が(家以外で)夕ごはんをみんなで食 べることができる場所をつくる	1	2	3	4	5
D 子供が(家以外で)勉強ができる場所をつくる	1	2	3	4	5
E 子供に大学生、地域の人などが、勉強を無料 で教えてくれる場所をつくる	1	2	3	4	5
F 子供が(学校以外で)なんでも相談できる場 所をつくる	1	2	3	4	5

問14 和歌山県では子供の貧困対策として次の3つの事業を平成28年度に開始しました。これらの3事業を、あみだ
 は知っているですか。A～Cのそれぞれ、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	知っている	聞いたことは ある	知らない
A 和歌山子ども食堂支援	1	2	3
B 子どもの居場所づくり推進事業	1	2	3
C 和歌山県大学生等進学給付金	1	2	3

※和歌山子ども食堂支援: 帰宅しても一人で過ごさざるを得ない子供に、みんなで食卓を囲み楽しく食事をする等家族の温かさを感
 じられる場所を提供する民間団体の取組を支援。

※子どもの居場所づくり推進事業: 放課後等一人で過ごさざるを得ない子供等の居場所を、学校の空き教室や公民館等に駆け
 地域の方の参画を得て、学習意欲の向上や学習習慣の確立、自己肯定感の高揚等をめざす取組を推進。

※和歌山県大学生等進学給付金: 進学意欲と学力が高いために、経済的な理由により修学を断念することなく安心して学べ
 るよう、また、将来の地域社会及び地域産業の担い手となるよう支援するため、低所得世帯のUターン希望の学
 生に対して大学生等進学給付金を支給。

問15 問14でお示した3つの事業は、子供の貧困対策にとって有効だと思いますか、A～Cのどれを、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	有効だと思 う	ある程度 有効だと思 う	あまり 有効では ないと思 う	有効では ないと思 う	わから ない
A 和歌山こども食堂支援	1	2	3	4	5
B 子どもの居場所づくり推進事業	1	2	3	4	5
C 和歌山県大学生等進学給付金	1	2	3	4	5

問16 問14で取り上げた3事業について、または、和歌山県や県内市町村が取り組んでいる貧困状況にある家庭への支援に関して、特に改善が必要だと思うことや、今後力を入れて取り組むべきだと考えることについて、これまでの支援の取組を踏まえ、自由に記述してください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
8月3日（金）までに、同封の返送用封筒に入れ、ポストに投函してください。



きいちゃん
「和歌山県PRキャラクター」

和歌山県子供の生活実態調査結果報告書

平成 31 年 3 月

和歌山県 福祉保健部 福祉保健政策局 子ども未来課

〒640-8585 和歌山市小松原通一丁目 1 番地

TEL：073-441-2493 FAX：073-441-2491

メール：e0402001@pref.wakayama.lg.jp